

市政に関する世論調査
結果報告書

— 第56回 令和5年度 —

宇都宮市

目次

I	調査の概要	- 1 -
1.	調査の目的	- 1 -
2.	調査の項目	- 1 -
3.	調査の設計	- 3 -
4.	回収結果	- 4 -
5.	標本誤差	- 5 -
6.	調査報告書の見方	- 5 -
II	調査回答者の属性	- 6 -
III	調査結果のあらまし	- 9 -
1.	宇都宮市に対する感じ方について	- 9 -
2.	広報媒体の活用状況について	- 9 -
3.	良好な生活環境の確保に係る市民満足度について	- 10 -
4.	生物多様性について	- 10 -
5.	宇都宮市の景観について	- 10 -
6.	宇都宮産の農産物について	- 11 -
7.	カーボンニュートラル（脱炭素）について	- 11 -
8.	水災害（洪水など）への備えについて	- 12 -
9.	まちづくり活動への意識について	- 12 -
10.	スポーツに関することについて	- 12 -
11.	治水・雨水対策について	- 13 -
12.	中心市街地の活性化について	- 13 -
13.	プラスチック製品の資源化について	- 13 -
14.	宇都宮市のみどりについて	- 14 -
15.	住宅用火災警報器の設置及び維持管理状況について	- 14 -
16.	「大谷石文化」の日本遺産認定について	- 14 -
17.	雨水貯留・浸透施設の補助金制度について	- 15 -
18.	焼却ごみ削減の取組について	- 15 -
19.	シェアリングモビリティの認知度等について	- 15 -
20.	結婚・出産・子育てに関する意識について	- 16 -
21.	「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」について	- 16 -
22.	生涯学習について	- 17 -
23.	健康づくりについて	- 17 -
24.	議会の広報・広聴に対する市民の認知度について	- 17 -
25.	選挙の投票率向上に向けた取組について	- 18 -
26.	「もったいない運動」について	- 18 -
27.	男女共同参画について	- 18 -
28.	防犯・交通安全に関する意識・状況について	- 19 -

IV 第 56 回市政に関する世論調査の結果.....	- 20 -
1. 宇都宮市に対する感じ方について.....	- 20 -
2. 広報媒体の活用状況について.....	- 29 -
3. 良好な生活環境の確保に係る市民満足度について.....	- 69 -
4. 生物多様性について.....	- 71 -
5. 宇都宮市の景観について.....	- 75 -
6. 宇都宮産の農産物について.....	- 86 -
7. カーボンニュートラル（脱炭素）について.....	- 92 -
8. 水災害（洪水など）への備えについて.....	- 114 -
9. まちづくり活動への意識について.....	- 119 -
10. スポーツに関することについて.....	- 123 -
11. 治水・雨水対策について.....	- 129 -
12. 中心市街地の活性化について.....	- 137 -
13. プラスチック製品の資源化について.....	- 144 -
14. 宇都宮市のみどりについて.....	- 150 -
15. 住宅用火災警報器の設置及び維持管理状況について.....	- 158 -
16. 「大谷石文化」の日本遺産認定について.....	- 161 -
17. 雨水貯留・浸透施設の補助金制度について.....	- 163 -
18. 焼却ごみ削減の取組について.....	- 175 -
19. シェアリングモビリティの認知度等について.....	- 179 -
20. 結婚・出産・子育てに関する意識について.....	- 189 -
21. 「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」について.....	- 193 -
22. 生涯学習について.....	- 203 -
23. 健康づくりについて.....	- 205 -
24. 議会の広報・広聴に対する市民の認知度について.....	- 211 -
25. 選挙の投票率向上に向けた取組について.....	- 219 -
26. 「もったいない運動」について.....	- 227 -
27. 男女共同参画について.....	- 233 -
28. 防犯・交通安全に関する意識・状況について.....	- 252 -
V 調査結果の考察.....	- 258 -
VI 宇都宮市の取組についての意識調査の結果.....	- 273 -
1. あなたのことについて.....	- 273 -
1. 現在の宇都宮市について.....	- 283 -
2. 各施策についての重要度.....	- 287 -
3. 各施策についての満足度.....	- 293 -

I 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、市民が市政についてどのように考え、また何を望んでいるのかを統計的に把握するとともに、施策の評価や市政への関心・意識の程度を調査し、市政運営上の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査の項目

調査項目は以下のとおりである。

調査事項	調査項目
回答者属性	性別，年齢，職業，家族構成，居住年数，居住地域，居住地区
宇都宮市に対する感じ方	宇都宮市の好き・嫌い，好きな理由，嫌いな理由
広報媒体の活用状況	市政情報の各広報媒体の視聴状況，「広報うつのみや」の入手方法，「広報うつのみや」を入手していない理由，「広報うつのみや」で読んでいる主な記事，「広報うつのみや」に関する感想，取り上げてほしい話題・情報，市のホームページを見るための主な手段，ホームページで知りたい情報はどこから探すか，ホームページを利用して知りたい情報は探しやすいか，ホームページに関する感想，充実してほしい機能や情報，市政情報をどんな手段で知りたいか
良好な生活環境の確保に係る市民満足度	環境負荷の低減が図られた良好な生活環境の確保に向けた施策に満足しているか
生物多様性	「生物多様性」の認知度，外来種が及ぼす影響の認知度
宇都宮市の景観	宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるか，「宇都宮らしい景観」とは何か，良好な都市景観の形成に必要なこと，ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象，ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象を持った点
宇都宮産の農産物	宇都宮産の農産物の購入意欲，宇都宮の農業を大切にしたいと思うか，環境に配慮して生産された農産物の購入意欲
カーボンニュートラル(脱炭素)	カーボンニュートラルの認知度，カーボンニュートラルの実現に向けた取組は必要だと思うか，カーボンニュートラルにつながる行動について，ライトラインが再生可能エネルギー100%で走行していることの認知度
水災害(洪水など)への備え	ハザードマップの存在の認知度，住んでいる建物(住宅)は，洪水浸水想定区域内，または洪水浸水想定区域外か，水災害への備えに取り組んでいるか
まちづくり活動への意識	参加中または興味があるまちづくり活動，まちづくり活動に参加していない理由
スポーツに関すること	スポーツに関する指導を行ってみたいか，スポーツ競技会場でスポーツ観戦をしたことがあるか，アーバンスポーツに関心があるか
治水・雨水対策	総合治水・雨水対策の認知度，総合治水・雨水対策をどこで知ったり聞いたか，総合治水・雨水対策の効果的な周知・啓発手法，今後取り組んでいきたいと思っているもの

中心市街地の活性化	中心市街地に出かける頻度, 中心市街地へ出かける目的, 中心市街地により訪れたいようになるための機能や施設
プラスチック製品の資源化	プランチックごみを減らすための取組, 「プラスチック製容器包装」と「プラスチック製品」の排出方法の違いの認知度, プラスチック製品も資源物として収集する場合, 分別に協力しやすい手法
宇都宮市のみどり	みどりの量についての感じ方, 「みどり」に関することで取り組みたいこと, 「みどり」を増やすために必要な取組
住宅用火災警報器の設置及び維持管理状況	「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」の設置状況, 設置している住宅用火災警報器の経過年数, 住宅用火災警報器などの「点検」の有無
「大谷石文化」の日本遺産認定	「大谷石文化」が日本遺産に認定されていることの認知度, 「大谷石文化」を誇りに感じるか
雨水貯留・浸透施設の補助金制度	「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」の認知度, 貯留タンクや浸透ますなどの設置に対する補助金制度の認知度, 貯留タンクや浸透ますなどの設置効果についての認知度, 貯留タンクや浸透ますなどを設置したいと思うか, 設置希望・既設置の理由, 設置したくない理由
焼却ごみ削減の取組	ごみ削減のため実施した取組, 焼却ごみ削減の取組のために参考にしたもの
シェアリングモビリティの認知度等	市役所や宇都宮駅周辺でシェアリングサービスを実施していることの認知度, シェアリングサービスを利用してみたいか, シェアリングサービスを利用してみたい理由, シェアリングサービスを利用したくない理由, 普段の公共交通（電車やバス）の利用頻度
結婚・出産・子育てに関する意識	結婚しているか, 結婚するつもりがあるか, 結婚している場合, 全部で何人のお子さんを持ちたいか, 結婚を予定している場合, 子どもは何人ほしいか
SDGs (エス・ディー・ジーズ)	SDGsについての認知度, SDGsにつながる行動の中で, 日頃から取り組んでいるもの, SDGsのゴールの中で, 積極的に取り組みたい分野
生涯学習	現在, 生涯学習として学習, 文化・スポーツ活動等をしているか
健康づくり	「(保存版(冊子))健康づくりのしおり」をどのように利用しているか, がん検診を受診する間隔, 直近のがん検診の受診先
議会の広報・広聴に対する市民の認知度	市議会の情報をどのような方法で得ているか, 市議会について知りたいこと, 「サクサク! うつのみや市議会」や「なるほど! うつのみや市議会」の認知度・視聴経験, 市議会に取り組んでほしいこと
選挙の投票率向上に向けた取組	最近の選挙について, 投票に行っているか, 投票に行ったことがない方の4月23日宇都宮市議会議員選挙の認知度, 宇都宮市議会議員選挙の低投票率の理由, 投票環境の充実を図るために必要な取組
「もったいない運動」	「もったいない運動」を知った経緯, 日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」
男女共同参画	家事・育児・介護それぞれに費やした時間, 社会的な活動の実施状況, 配偶者からの暴力を受けた経験, LGBTQ(エルジービーティーキュー)の認知度
防犯・交通安全に関する意識・状況	安心して暮らすことができているか, 自転車乗車中のヘルメットの所持および着用状況, 自転車保険の加入状況

3. 調査の設計

- 調査地域 宇都宮市全域
- 調査対象者 満 18 歳以上の日本国籍を有する市民 5,400 人
- 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- 調査方法 郵送法（回収にあたってはインターネットを併用）
- 調査期間 令和 5 年 11 月 6 日～12 月 11 日

4. 回収結果

調査対象数	有効回答数	有効回答率
5,400	2,431	45.0%

<性別・年齢別の回収状況>

年代	性別	調査対象数	郵送		インターネット		合計	
			回収数	回収率	回収数	回収率	回収数	回収率
10 歳代	男性	76	1	1.3%	10	13.2%	11	14.5%
	女性	62	0	0.0%	6	9.7%	6	9.7%
	その他	—	0	—	1	—	1	—
	計	138	1	0.7%	17	12.3%	18	13.0%
20 歳代	男性	278	13	4.7%	35	12.6%	48	17.3%
	女性	228	17	7.5%	42	18.4%	59	25.9%
	その他	—	1	—	1	—	2	—
	計	506	31	6.1%	78	15.4%	109	21.5%
30 歳代	男性	351	24	6.8%	66	18.8%	90	25.6%
	女性	324	47	14.5%	84	25.9%	131	40.4%
	その他	—	0	—	0	—	0	—
	計	675	71	10.5%	150	22.2%	221	32.7%
40 歳代	男性	499	36	7.2%	127	25.5%	163	32.7%
	女性	460	87	18.9%	130	28.3%	217	47.2%
	その他	—	0	—	2	—	2	—
	計	959	123	12.8%	259	27.0%	382	39.8%
50 歳代	男性	468	77	16.5%	104	22.2%	181	38.7%
	女性	373	103	27.6%	93	24.9%	196	52.5%
	その他	—	0	—	0	—	0	—
	計	841	180	21.4%	197	23.4%	377	44.8%
60 歳代	男性	374	120	32.1%	80	21.4%	200	53.5%
	女性	412	199	48.3%	61	14.8%	260	63.1%
	その他	—	0	—	0	—	0	—
	計	786	319	40.6%	141	17.9%	460	58.5%
70 歳以上	男性	546	271	49.6%	42	7.7%	313	57.3%
	女性	949	475	50.1%	31	3.3%	506	53.3%
	その他	—	0	—	0	—	0	—
	不明	—	6	—	0	—	6	—
計	1,495	752	50.3%	73	4.9%	825	55.2%	
年代不明	男性	—	0	—	0	—	0	—
	女性	—	1	—	0	—	1	—
	その他	—	0	—	0	—	0	—
	不明	—	38	—	0	—	38	—
計	—	39	—	0	—	39	—	
全体	男性	2,592	542	20.9%	464	17.9%	1,006	38.8%
	女性	2,808	929	33.1%	447	15.9%	1,376	49.0%
	その他	—	1	—	4	—	5	—
	不明	—	44	—	0	—	44	—
合計	5,400	1,516	28.1%	915	16.9%	2,431	45.0%	

5. 標本誤差

アンケート調査を行う場合、全母集団を対象とすることが望ましいが、実際には適切な数の標本を抽出して調査を行うことになる。そのため、アンケートの回答結果が、どの程度の精度を持った回答結果であるのかを検討することが必要となる。その精度は以下の式で表わされる標本誤差を算出することで把握できる。

通常のアンケートでは、信頼度として95%がとられるケースが多い。信頼度95%とは、100回に5回がその標本誤差の範囲におさまらないという意味である。

次の表は、本調査における信頼度95%の場合の標本早見表である。

回答の比率 (P) 回答数 (n)	90%または 10%前後	80%または 20%前後	70%または 30%前後	60%または 40%前後	50%前後
2,431	±1.19%	±1.59%	±1.82%	±1.94%	±1.98%
2,000	±1.31%	±1.75%	±2.00%	±2.14%	±2.19%
1,600	±1.47%	±1.96%	±2.24%	±2.40%	±2.45%
1,200	±1.69%	±2.26%	±2.59%	±2.77%	±2.82%
800	±2.08%	±2.77%	±3.17%	±3.39%	±3.46%
400	±2.94%	±3.92%	±4.49%	±4.80%	±4.90%

<標本誤差の算出方法>

$$b = 1.96 \sqrt{\frac{(N-n)}{(N-1)} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

b : 標本誤差

N : 母集団数 (宇都宮市の満18歳以上の人口)

n : 比率算出の基礎 (回答者数)

P : 回答の比率 (%)

1.96 : 信頼度95%の場合 (信頼度99%の場合は2.58を使用)

<表の見方>

この表の見方としては、例えば、回答者数が2,431で宇都宮市が「好き」との答えが47.7%であった場合、「その回答比率の範囲は最高でも47.7%±1.98%以内(45.72%~49.68%)である」とみることができる。

6. 調査報告書の見方

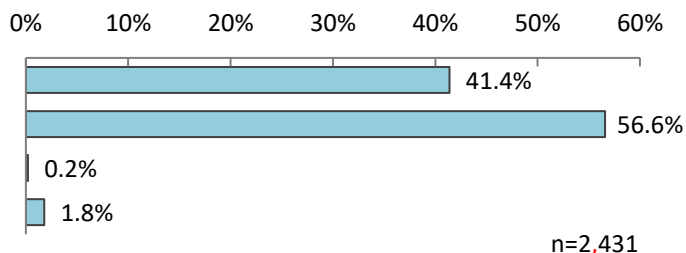
- 集計値は、小数点第2位を四捨五入とする。したがって、数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- 回答比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- n値が少ない属性は記述に含まれない場合がある。
- 世論調査のクロス集計結果については、年齢や家族構成等の属性によって、回答者数にばらつきがあることから、参考として記載する。

Ⅱ 調査回答者の属性

II 調査回答者の属性

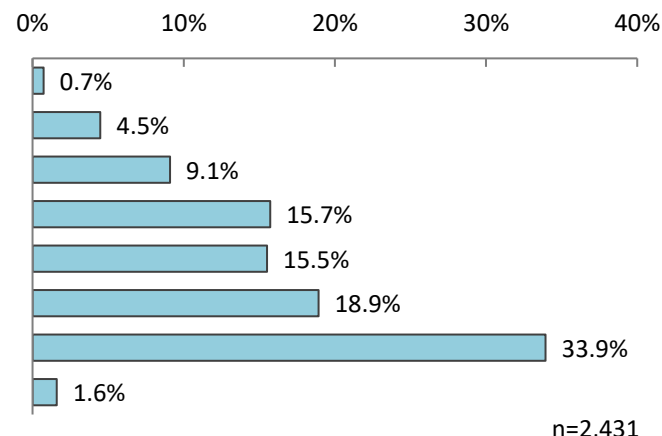
F 1 【性別】 あなたの性別をお答えください。

	基 数	構成比
1 男	1,006	41.4%
2 女	1,376	56.6%
3 その他 (無回答)	5 44	0.2% 1.8%
合 計	2,431	100.0%



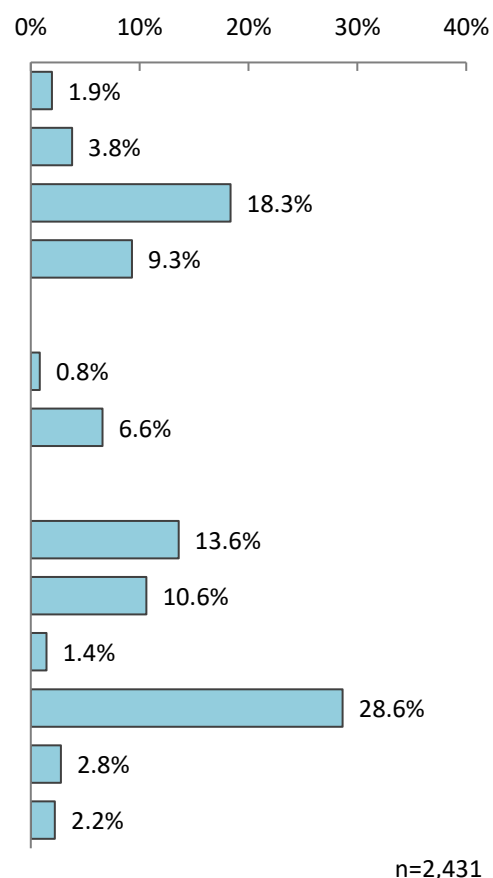
F 2 【年齢】 あなたの年齢はおいくつですか。

	基 数	構成比
1 10歳代	18	0.7%
2 20歳代	109	4.5%
3 30歳代	221	9.1%
4 40歳代	382	15.7%
5 50歳代	377	15.5%
6 60歳代	460	18.9%
7 70歳以上	825	33.9%
(無回答)	39	1.6%
合 計	2,431	100.0%



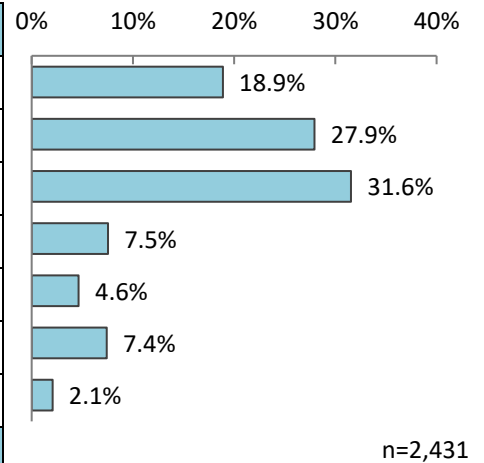
F 3 【職業】 あなたの職業は、次の分類ではどれになりますか。

	基 数	構成比
1 専門職 (医師, 弁護士, 大学教授, 僧侶など)	47	1.9%
2 管理職 (官公庁や事業所の重役, 部課長など)	92	3.8%
3 事務・技術職 (一般事務員, 公務員, 技師, 保育士, 看護師など)	446	18.3%
4 販売・生産・労務職 (店員, 工員, 職人, 運転手, 作業員など)	226	9.3%
勤め人 (計)	811	33.4%
5 農林水産業従事者	20	0.8%
6 自営業・サービス業従事者	160	6.6%
自営業 (計)	180	7.4%
7 家事に専念している主婦	330	13.6%
8 パート従事者	258	10.6%
9 学生	35	1.4%
10 無職	696	28.6%
11 その他	67	2.8%
(無回答)	54	2.2%
合 計	2,431	100.0%



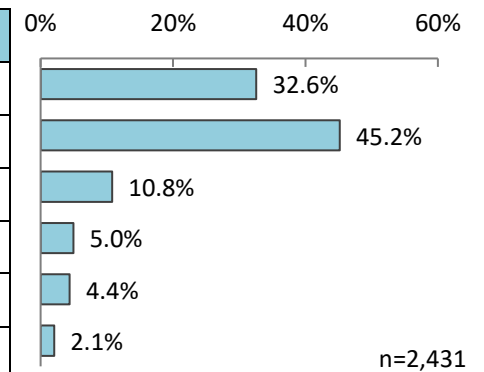
F 4 【家族構成】 あなたの家族構成はどれに該当しますか。

	基 数	構成比
1 単身世帯 (ひとり暮らし)	459	18.9%
2 一世代世帯 (夫婦のみ)	679	27.9%
3 核家族 (親と未婚の子ども)	767	31.6%
4 二世帯世帯 (親と子ども夫婦)	183	7.5%
5 三世帯世帯 (親と子ども夫婦と孫)	113	4.6%
6 その他	180	7.4%
(無回答)	50	2.1%
合 計	2,431	100.0%



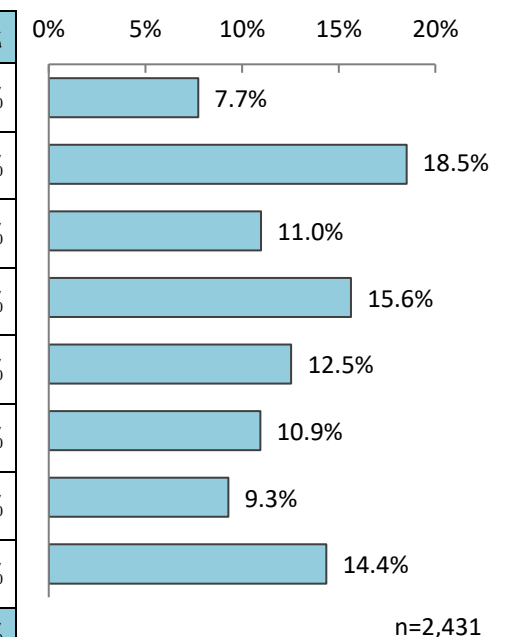
F 5 【居住年数】 あなたは、宇都宮市にお住まいになってどのくらいになりますか。

	基 数	構成比
1 出生時から	792	32.6%
2 20年以上	1,098	45.2%
3 10年以上～20年未満	263	10.8%
4 5年以上～10年未満	121	5.0%
5 5年未満	107	4.4%
(無回答)	50	2.1%
合 計	2,431	100.0%



F 6 【居住地域】 あなたがお住まいの町はどちらですか。

	地域の説明	基 数	構成比
1 本庁 (都心)	都心※1	188	7.7%
2 本庁 (周辺)	周辺※2	450	18.5%
3 東部地域	平石地区, 清原地区, 瑞穂野地区	267	11.0%
4 西部地域	城山地区, 姿川地区	380	15.6%
5 南部地域	横川地区, 雀宮地区	305	12.5%
6 北部地域	豊郷地区, 国本地区, 富屋地区, 篠井地区	266	10.9%
7 上河内・河内地域	上河内地区, 河内地区	226	9.3%
(無回答)		349	14.4%
合 計		2,431	100%

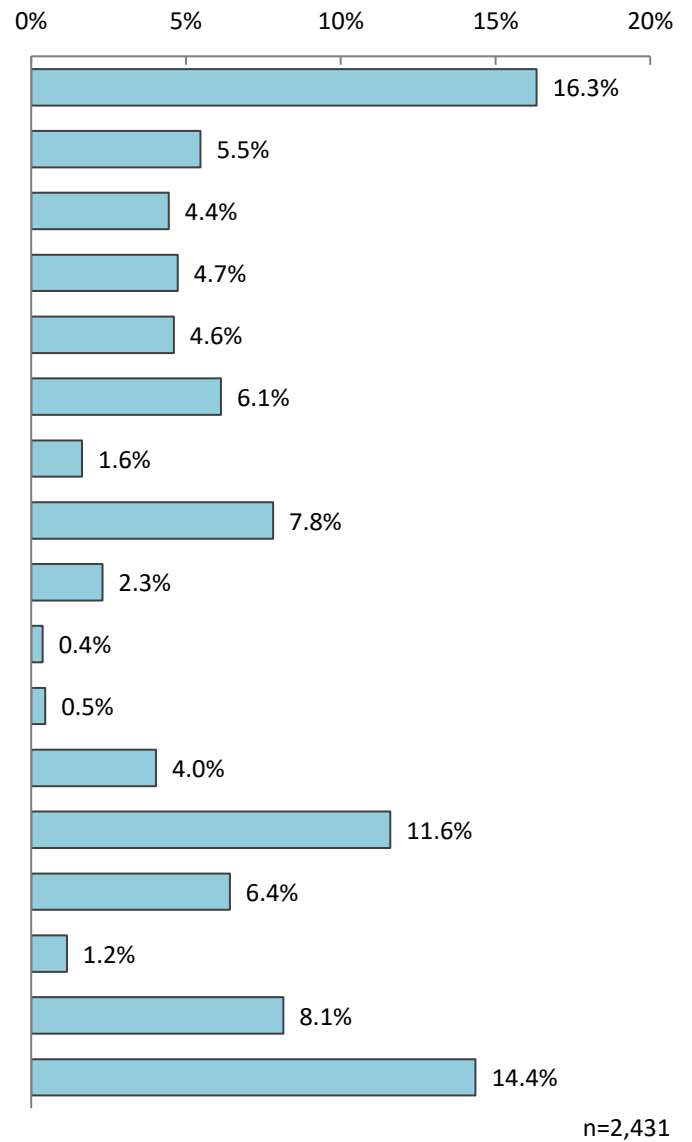


※1 本庁管内で、【東】国道4号バイパス・【西】桜通り・【南】平成通り・【北】競輪場通りで囲まれた地域

※2 本庁管内で、【東】国道4号バイパス・【西】桜通り・【南】平成通り・【北】競輪場通りより外側の地域

F 6 【居住地区】

	基 数	構 成 比
1 本庁	397	16.3%
2 宝木	133	5.5%
3 陽南	108	4.4%
4 平石	115	4.7%
5 清原	112	4.6%
6 横川	149	6.1%
7 瑞穂野	40	1.6%
8 豊郷	190	7.8%
9 国本	56	2.3%
10 富屋	9	0.4%
11 篠井	11	0.5%
12 城山	98	4.0%
13 姿川	282	11.6%
14 雀宮	156	6.4%
15 上河内	28	1.2%
16 河内	198	8.1%
(無回答)	349	14.4%
合 計	2,431	100.0%



Ⅲ 調査結果のあらまし

III 調査結果のあらまし

第56回市政に関する世論調査の結果

1. 宇都宮市に対する感じ方について

(1) 宇都宮市の好き・嫌い

「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた【好き(計)】は9割強であった。一方、「どちらかといえば嫌い」と「嫌い」を合わせた【嫌い(計)】は1割に満たなかった。

(2) 好きな理由

宇都宮市で好きだと思うところについては、「自然災害の少なさ」が4割半ばで最も高く、次いで「買い物など日常生活の便利さ」、「自然環境の豊かさ」、「慣れ親しんだところ」と続いている。

(3) 嫌いな理由

宇都宮市の嫌いだと思うところについては、「交通マナーの悪さ」が約3割で最も高く、次いで「交通渋滞の多さ」、「街に活気がないところ」、「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」と続いている。

2. 広報媒体の活用状況について

(1) 市政情報の各広報媒体の視聴状況

市政情報の各広報媒体の視聴状況については、「よく見る(聞く)」と「ときどき見る(聞く)」を合わせた【見る(聞く)ことがある(計)】は「広報うつのみや」が約8割で最も高く、次いで「インターネット(宇都宮市ホームページ)」、「暮らしの便利帳」と続いている。

(2) 「広報うつのみや」の入手方法

「広報うつのみや」の入手方法については、「新聞折込で自宅に届いている」が6割弱で最も高かった。一方、「手に入れていない」が約2割であった。

(3) 「広報うつのみや」を入手していない理由

「広報うつのみや」を入手していない理由は、「特に必要でないため」が約5割で最も高く、次いで、「入手方法を知らないため」が約4割であった。

(4) 「広報うつのみや」で読んでいる主な記事

「広報うつのみや」で主に読んでいる記事については、「市政情報」が5割半ばで最も高く、次いで「各施設の催し」、「政策特集(広報うつのみやプラス)」、「情報カレンダー」、「特集」、「教室・講座・催し」と続いている。

(5) 広報うつのみやに関する感想、取り上げてほしい話題・情報

地域活動の情報、イベント情報の更なる充実を求める声が多かった。

(6) 市のホームページを見るための主な手段

市のホームページを見るための主な手段は、「スマートフォン」が約4割で最も高かった。

(7) ホームページで知りたい情報はどこから探すか

ホームページで知りたい情報はどこから探すかについては、「大分類(暮らし、産業・ビジネス、市政情報、よくある質問、宇都宮ブランド)」が5割強で最も高かった。

(8) ホームページを利用して知りたい情報は探しやすいか

ホームページで知りたい情報は探しやすいかについては、「探しやすい」と「どちらかといえば探しやすい」を合わせた【探しやすい(計)】が6割強であった。一方、「どちらかといえば探しにくい」と「探しにくい」を合わせた【探しにくい(計)】は3割強であった。

(9) ホームページに関する感想、充実してほしい機能や情報

市政に関する情報、地域のイベント情報、災害時や緊急時等の情報の充実やカテゴリー分けなどによる情報検索のしやすさを求める声が多かった。

(10) 市政情報をどんな手段で知りたいか

市政情報をどんな手段で知りたいかについては、「広報うつのみや」が5割半ばであった。

3. 良好な生活環境の確保に係る市民満足度について

(1) 環境負荷の低減が図られた良好な生活環境の確保に向けた施策に満足しているか

環境負荷の低減が図られた良好な生活環境の確保に向けた施策に満足しているかについては、「満足」と「やや満足」を合わせた【満足(計)】が5割強であった。一方、「不満」と「やや不満」を合わせた【不満(計)】は約1割であった。

4. 生物多様性について

(1) 「生物多様性」の認知度

「生物多様性」の認知度については、「聞いたことはあるが、意味は知らなかった」が約4割で最も高く、次いで「言葉も意味も知っていた」が3割半ばであった。

(2) 外来種が及ぼす影響の認知度

外来種が及ぼす影響の認知度については、「知っていた」が9割弱で最も高く、次いで「外来種という言葉知っていたが、その影響までは知らなかった」が約1割であった。

5. 宇都宮市の景観について

(1) 宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるか

宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるかについては、「非常に良くなった」と「どちらかといえば良くなった」を合わせた【良くなった(計)】が6割強であった。一方、「変わらない」は2割半ばであった。

(2) 「宇都宮らしい景観」とは何か

「宇都宮らしい景観」とは何かについては、「歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観や城下町の名残ある中心市街地の街並み」が3割半ばで最も高く、次いで「新たな都市拠点としてまちびらきしたJR宇都宮駅東口」が3割強と続いている。

(3) 良好な都市景観の形成に必要なこと

良好な都市景観の形成に必要なことについては、「道路上の電柱・電線類の地中化」が5割弱で最も高く、次いで「周辺景観に調和していない屋外広告物(看板)の撤去や規制」が2割強、「沿道や都心部の緑化の推進」が約2割と続いている。

(4) ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象

ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象については、「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせた【良い（計）】が6割強であった。一方、「悪い」と「どちらかといえば悪い」を合わせた【悪い（計）】は約2割であった。

(5) ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象を持った点

ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象を持った点については、「目立つ・目にとまる」が4割半ばで最も高く、次いで「賑わいを感じる」が2割半であった。

6. 宇都宮産の農産物について

(1) 宇都宮産の農産物の購入意欲

宇都宮産の農産物の購入意欲については、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う（計）】が8割半ばであった。一方、「まったく思わない」と「あまりそう思わない」を合わせた【そう思わない（計）】は1割強であった。

(2) 宇都宮の農業を大切にしたいと思うか

宇都宮の農業を大切にしたいと思うかについては、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う（計）】が約9割であった。一方、「まったく思わない」と「あまりそう思わない」を合わせた【そう思わない（計）】は1割に満たなかった。

(3) 環境に配慮して生産された農産物の購入意欲

環境に配慮して生産された農産物の購入意欲については、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う（計）】が9割弱であった。一方、「まったく思わない」と「あまりそう思わない」を合わせた【そう思わない（計）】は約1割であった。

7. カーボンニュートラル（脱炭素）について

(1) カーボンニュートラルの認知度

カーボンニュートラルの認知度については、「言葉の意味も含めて知っている」が5割半ばで最も高く、次いで「言葉は知っているが、意味はよく分からない」が4割弱であった。

(2) カーボンニュートラルの実現に向けた取組は必要だと思うか

カーボンニュートラルの実現に向けた取組は必要だと思うかについては、「必要だと思う」と「どちらかといえば必要だと思う」を合わせた【必要だと思う（計）】が約9割であった。一方、「必要だと思わない」と「どちらかといえば必要だと思わない」を合わせた【必要だと思わない（計）】は1割に満たなかった。

(3) カーボンニュートラルにつながる行動について

カーボンニュートラルにつながる行動については、「実践している」は『ごみの減量と分別』が8割半ばで最も高く、次いで『レジ袋や使い捨てプラスチックの使用量削減』が7割半ば、『LED照明の使用』が約7割と続いている。「検討もしていない」は『小売り電気事業者の再エネメニューに切り替え』と『自動車をEV（電気自動車）に乗り換え』が約6割で最も高く、次いで『太陽光発電などの再生可能エネルギー設備を設置』が6割弱であった。

(4) ライトラインが再生可能エネルギー100%で走行していることの認知度

ライトラインが再生可能エネルギー100%で走行していることの認知度については、「知らない（今回の調査で初めて認識）」が6割半ばであった。一方、「知っている」は3割強であった。

8. 水災害（洪水など）への備えについて

(1) ハザードマップの存在の認知度

ハザードマップの存在の認知度については、「知っており、内容を確認している」が5割弱、次いで「知っているが、内容を確認したことはない」が4割半ばであった。

(2) 住んでいる建物（住宅）は、洪水浸水想定区域内、または洪水浸水想定区域外か

住んでいる建物（住宅）は、洪水浸水想定区域内、または洪水浸水想定区域外かについては、「洪水浸水想定区域外に立地している」が7割弱であった。

(3) 水災害への備えに取り組んでいるか

水災害（洪水など）に対し、あらかじめ備えに取り組んでいるかについては、「災害時の避難場所の確認」が5割半ばで最も高く、次いで「備蓄品・非常用持出品の準備（飲料水・食料品、生活用品、衣類など）」が約4割であった。

9. まちづくり活動への意識について

(1) 参加中または興味があるまちづくり活動

参加中または興味があるまちづくり活動については、「スポーツ・文化・芸術の普及啓発などに関する活動」、「高齢者・障がい者などを対象とした社会福祉に関する活動」、「地域の安全・安心を守るための活動」が2割強であった。また、「地域の環境や自然などを守るための活動」は約2割であった。

(2) まちづくり活動に参加していない理由

まちづくり活動に参加していない理由については、「参加するチャンス・きっかけがない」が4割半ばで最も高く、次いで「どのように参加すればいいかわからない」が2割半ばであった。

10. スポーツに関することについて

(1) スポーツに関する指導を行ってみたいか

スポーツに関する指導を行ってみたいかについては、「行いたくない」が約5割で最も高く、次いで「どちらともいえない」が約3割であった。

(2) スポーツ競技会場でスポーツ観戦をしたことがあるか

スポーツ競技会場でスポーツ観戦をしたことがあるかについては、「観戦したことはあるが、今後の予定はない」が約4割であった。

(3) アーバンスポーツに関心があるか

アーバンスポーツに関心があるかについては、「観戦することに関心がある」が4割半ばで最も高く、次いで「まったく関心がない」が4割強、「自ら行うこと、観戦することどちらも関心がある」が1割弱と続いている。

1 1. 治水・雨水対策について

(1) 総合治水・雨水対策の認知度

総合治水・雨水対策の認知度については、「知らない」が5割半ばであった。また、「ある程度知っている」は約4割であった。

(2) 総合治水・雨水対策をどこで知ったり聞いたりしたか

総合治水・雨水対策をどこで知ったり聞いたりしたかについては、「市のホームページや広報紙」5割強であった。

(3) 総合治水・雨水対策の効果的な周知・啓発手法

総合治水・雨水対策の効果的な周知・啓発手法については、「新聞・テレビ・ラジオ」が約3割、次いで「市のホームページや広報紙」が約2割であった。

(4) 今後取り組んでいきたいと思っているもの

実際に取り組んでいるもの、または、今後取り組んでいきたいと思っているものについては、「ハザードマップを活用し避難場所などの確認」が4割半ば、次いで「非常用持出品の準備」が4割強であった。

1 2. 中心市街地の活性化について

(1) 中心市街地に出かける頻度

中心市街地に出かける頻度については、「年に数回程度」が3割強、次いで「月1～2回程度」が3割弱であった。

(2) 中心市街地へ出かける目的

中心市街地へ出かける目的については、「買い物」が5割強、次いで「飲食」が約3割であった。

(3) 中心市街地により訪れたいくなるための機能や施設

より訪れたいくなるための機能や施設については、「大規模商業（百貨店、デパートなど）」が4割半ばで最も高く、次いで「文化・芸術（図書館、博物館、美術館、劇場、ホール、映画館など）」が約4割であった。

1 3. プラスチック製品の資源化について

(1) プラスチックごみを減らすための取組

プラスチックごみを減らすための取組については、「マイバックを使用する（レジ袋を購入しない、もらわない）」が8割強で最も高かった。

(2) 「プラスチック製容器包装」と「プラスチック製品」の排出方法の違いの認知度

「プラスチック製容器包装」と「プラスチック製品」の排出方法の違いの認知度については、「知っている」が5割強であった。一方、「知らない」は4割半ばであった。

(3) プラスチック製品も資源物として収集する場合、分別に協力しやすい手法

プラスチック製品も資源物として収集する場合、分別に協力しやすい手法については、「どのプラスチック製品が分別対象なのか分かりやすく明確であること（排出物のわかりやすさ）」が約4割で最も高く、次いで「プラスチック製容器包装と一緒にゴミ袋に入れられるなど排出方法が簡単であること（排出方法のわかりやすさ）」が3割半ばであった。

14. 宇都宮市のみどりについて

(1) みどりの量についての感じ方

みどりの量についての感じ方については、「a 郊外部のみどりの量」は『ちょうどよい』が6割半ば、「b 都市部のみどりの量」は『ちょうどよい』が5割強、「c 自宅周辺のみどりの量」は『ちょうどよい』が約6割でいずれも『ちょうどよい』が最も高かった。また、みどりの量が少ないと感じたのは都市部で4割半ばであった。

(2) 「みどり」に関することで取り組みたいこと

今後、「みどり」に関することで取り組みたいことについては、「自分の家の庭やベランダ、壁や屋上などで草花や樹木などを育てる」が5割半ばで最も高かった。

(3) 「みどり」を増やすために必要な取組

「みどり」を増やすために必要な取組については、「人が歩くところや溜まるところに木陰をつくるなど、街路樹の適正な配置や樹種の選定、適切な維持管理」が約7割で最も高く、次いで「民間の事務所や店舗、共同住宅などの道路に面した部分やオープンスペースを利用した、樹木や草花による緑の配置」が約3割であった。

15. 住宅用火災警報器の設置及び維持管理状況について

(1) 「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」の設置状況

現在、自宅に「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」が設置されているかについては、「住宅用火災警報器を設置している（戸建て住宅など）」が6割強であった。

(2) 設置している住宅用火災警報器の経過年数

設置している住宅用火災警報器の経過年数については、「10年経過した」が4割強であった。

(3) 住宅用火災警報器などの「点検」の有無

住宅用火災警報器などの「点検」の有無については、「今まで点検を行ったことがない」が5割弱で最も高く、次いで「定期的（半年に一度程度、業者による点検も含む）」が3割強であった。

16. 「大谷石文化」の日本遺産認定について

(1) 「大谷石文化」が日本遺産に認定されていることの認知度

「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことに関する認知度については、「知らない」が約5割であった。一方、「知っている」も約5割であった。

(2) 「大谷石文化」を誇りに感じるか

「大谷石文化」を誇りに感じるかについては、「感じる」と「やや感じる」を合わせた【感じる（計）】が7割弱であった。一方、「思わない」と「あまり感じない」を合わせた【思わない・感じない（計）】は2割半ばであった。

17. 雨水貯留・浸透施設の補助金制度について

(1) 「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」の認知度

「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」の認知度については、「知っている」が約4割で最も高く、次いで「名前は聞いたことがある」が3割半ばであった。

(2) 貯留タンクや浸透ますなどの設置に対する補助金制度の認知度

貯留タンクや浸透ますなどの設置に対する補助金制度の認知度については、「知らない」が7割弱であった。一方、「知っている」は3割強であった。

(3) 貯留タンクや浸透ますなどの設置効果についての認知度

貯留タンクや浸透ますなどの設置効果についての認知度については、「知らない」が5割強であった。一方、「知っている」は5割弱であった。

(4) 貯留タンクや浸透ますなどを設置したいと思うか

貯留タンクや浸透ますなどを設置したいと思うかについては、「わからない」が約6割で最も高く、次いで「設置したい」が2割弱、「設置したくない」が1割強であった。

(5) 設置希望・既設置の理由

設置希望・既設置の理由については、「雨水を庭木の水やりに利用するため」と「水の節約になるため」が約5割で高く、次いで「浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につながるため」が約4割と続いている。

(6) 設置したくない理由

設置したくない理由については、「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」が5割強で最も高く、次いで「敷地に設置できる場所がないため」が5割弱であった。

18. 焼却ごみ削減の取組について

(1) ごみ削減のため実施した取組

ごみ削減のため実施した取組については、「プラスチック製容器包装（お弁当の容器など）の分別を徹底した」が7割強で最も高く、次いで「資源化できる紙（お菓子の箱など）の分別を徹底した」が約6割、「食品ロスが発生しないよう、食品の使い切り・食べ切りに務めた」が5割半ばと続いている。

(2) 焼却ごみ削減の取組のために参考にしたもの

焼却ごみ削減の取組のために参考にしたものについては、「資源とごみの分け方・出し方（ごみ分別冊子）」が約7割で最も高く、次いで「広報紙」が3割半ばであった。

19. シェアリングモビリティの認知度等について

(1) 市役所や宇都宮駅周辺でシェアリングサービスを実施していることの認知度

市役所や宇都宮駅周辺でシェアリングサービスを実施していることの認知度については、「知っているが利用したことはない」が6割弱で最も高く、次いで「知らない」が約4割であった。

(2) シェアリングサービスを利用してみたいか

シェアリングサービスを利用してみたいかについては、「思わない」が7割強であった。一方、「思う」は2割強であった。

(3) シェアリングサービスを利用してみたい理由

シェアリングサービスを利用してみたい理由については、「街なかの移動手段として利用したい」が5割弱で最も高く、次いで「面白そうなので乗ってみたい」が約3割であった。

(4) シェアリングサービスを利用したくない理由

シェアリングサービスを利用したくない理由については、「車での移動が多く利用の機会がない」が4割半ばで最も高かった。

(5) 普段の公共交通（電車やバス）の利用頻度

普段の公共交通（電車やバス）の利用頻度については、「ほとんど利用しない」が約7割であった。

20. 結婚・出産・子育てに関する意識について

(1) 結婚しているか

結婚しているかについては、「結婚している」が7割弱で最も高く、次いで「結婚したことがあるが現在はしていない（離死別含む）」が約2割であった。

(2) 結婚するつもりがあるか

結婚するつもりがあるかについては、「結婚するつもりはない」が約6割であった。一方、「いずれ結婚するつもり」は約3割であった。

(3) 結婚している場合、全部で何人のお子さんを持ちたいか

結婚している場合、全部で何人のお子さんを持ちたいかについては、「2人」が5割半ばで最も高く、次いで「3人」が2割強であった。

(4) 結婚を予定している場合、子どもは何人ほしいか

結婚を予定している場合、子どもは何人ほしいかについては、「2人」が約5割で最も高く、次いで「子どもはほしくない」が2割強であった。

21. 「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」について

(1) SDGsについての認知度

SDGsについての認知度については、「SDGsについて内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」が3割弱で最も高く、次いで「SDGsについて内容をある程度知っており、達成に向けた取組を実践している」が2割半ばであった。

(2) SDGsにつながる行動の中で、日頃から取り組んでいるもの

SDGsにつながる行動の中で、日頃から取り組んでいるものについては、「水をだしっぱなしにしないようにしている」が7割半ばで最も高く、次いで「買い物をするときはマイバッグを使っている」が7割強であった。

(3) SDGsのゴールの中で、積極的に取り組みたい分野

SDGsのゴールの中で、積極的に取り組みたい分野については、「すべての人に健康と福祉を」が4割半ばで最も高く、次いで「住み続けられるまちづくりを」が約4割であった。

2.2. 生涯学習について

(1) 現在、生涯学習として学習、文化・スポーツ活動等をしているか

現在、生涯学習として学習、文化・スポーツ活動等をしているかについては、「していない」が約6割であった。一方、「している」は約4割であった。

2.3. 健康づくりについて

(1) 「(保存版(冊子))健康づくりのしおり」をどのように利用しているか

「(保存版(冊子))健康づくりのしおり」をどのように利用しているかについては、「健診に関する情報を得たいとき」が3割強で最も高く、次いで「高齢者サービスに関する情報を得たいとき」が2割半ばであった。

(2) がん検診を受診する間隔

がん検診を受診する間隔については、「毎年受診している」、「受診していない」がともに3割半ばであった。

(3) 直近のがん検診の受診先

直近のがん検診の受診先については、「市の受診券を利用して受ける個別検診(医療機関で実施している検診)」が3割半ばで最も多く、次いで「職場の検診」、「市の受診券を利用して受ける集団検診(保健センターや地区市民センターで実施している検診)」がともに約2割であった。

2.4. 議会の広報・広聴に対する市民の認知度について

(1) 市議会の情報をどのような方法で得ているか

市議会の情報をどのような方法で得ているかについては、「議会広報紙「あなたと市議会」」が4割弱で最も高く、次いで「新聞」が3割強であった。

(2) 市議会について知りたいこと

市議会について知りたいことについては、「一般質問(定例会での議員の質問)の内容と市の答弁(回答)」が4割弱で最も高く、次いで「市民からの意見」が3割強であった。

(3) 「サクサク! うつのみや市議会」や「なるほど! うつのみや市議会」の認知度・視聴経験

「サクサク! うつのみや市議会」や「なるほど! うつのみや市議会」の認知度・視聴経験については、「知らない」が7割強で最も高く、次いで「知っているが、視聴したことはない」が2割弱であった。

(4) 市議会に取り組んでほしいこと

市議会に取り組んでほしいことについては、「市民と議員の意見交換」が約4割で最も多く、次いで「学校での特別授業(小学校~高等学校)」が約2割、「市民発案の政策提案募集」が2割弱と続いている。

25. 選挙の投票率向上に向けた取組について

(1) 最近の選挙について、投票に行っているか

最近の選挙について、投票に行っているかについては、「毎回行っている」が4割半ばで最も高く、次いで「ほとんど行っている」が2割強であった。

(2) 投票に行ったことがない方の4月23日宇都宮市議会議員選挙の認知度

投票に行ったことがない方の4月23日宇都宮市議会議員選挙の認知度については、「知っていた」が約5割であった。一方、「知らなかった」は5割弱であった。

(3) 宇都宮市議会議員選挙の低投票率の理由

宇都宮市議会議員選挙の低投票率の理由については、「皆が選挙に行っても何も変わらないと感じているから」が5割半ばであった。

(4) 投票環境の充実を図るために必要な取組

投票環境の充実を図るために必要な取組については、「候補者や政党の情報を増やす」が3割半ばであった。

26. 「もったいない運動」について

(1) 「もったいない運動」を知った経緯

「もったいない運動」の認知度については、「今回の調査で初めて知った」が約5割で最も高く、次いで「広報紙」が2割強であった。

(2) 日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」

日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」については、「節電・省エネルギー行動（電気をこまめに消す、冷暖房の温度設定、省エネ家電等の使用など）」が約7割で最も高く、次いで「ごみの減量に向けた行動（マイバッグ、マイボトル、マイ箸の使用など）」が6割半ば、「食品ロスの削減に向けた行動（食材の10割食べきり、使い切り、賞味・消費期限をこまめにチェックするなど）」が5割半ばと続いている。

27. 男女共同参画について

(1) 家事・育児・介護それぞれに費やした時間

家事・育児・介護それぞれに費やした時間については、家事は、「21時間以上35時間未満」が5割弱で最も高く、次いで「0時間以上7時間未満」が2割強であった。育児は、「対象者なし」を除く「7時間以上21時間未満」が約2割で、介護は「対象者なし」を除く「7時間以上21時間未満」が2割半ばであった。

(2) 社会的な活動の実施状況

社会的な活動の実施状況については、「特になし」が6割弱で最も高く、次いで「自治会やまちづくりなどの地域活動」が2割強であった。

(3) 配偶者からの暴力を受けた経験

過去1年間に配偶者から暴力を受けたことがあるかについて、「身体的な暴力」、「経済的な暴力」、「精神的な暴力」、「性的な暴力」、「社会的暴力」、「子どもを巻き込んだ暴力」それぞれの「まったくない」は7割弱から7割強であった。「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせた【経験あり（計）】は「精神的な暴力」が1割弱であった。

(4) LGBTQ (エルジービーティーキュー) の認知度

LGBTQ (エルジービーティーキュー) の認知度については、「言葉も内容も知っている」が5割半ばで最も高く、次いで「言葉だけは聞いたことがある」が3割半ば、「全く知らない」は1割に満たなかった。

28. 防犯・交通安全に関する意識・状況について

(1) 安心して暮らすことができているか

安心して暮らすことができているかについては、「どちらかといえばそう思う」が約6割で最も高く、次いで「そう思う」が約3割であった。

(2) 自転車乗車用のヘルメットの所持および着用状況

自転車乗車用のヘルメットの所持および着用状況については、「普段自転車を利用しておらず保有もしていない」が7割弱で最も高く、次いで「普段自転車に乗るが保有していない」が約2割であった。

(3) 自転車保険の加入状況

自転車保険の加入状況については、「普段自転車を利用しておらず保険には加入していない」が5割半ばで最も高く、次いで「自動車保険や火災保険の特約（個人賠償保険）など複合型の保険に加入している」が2割半ばであった。

IV 第 56 回市政に関する世論調査の結果

IV 第 56 回市政に関する世論調査の結果

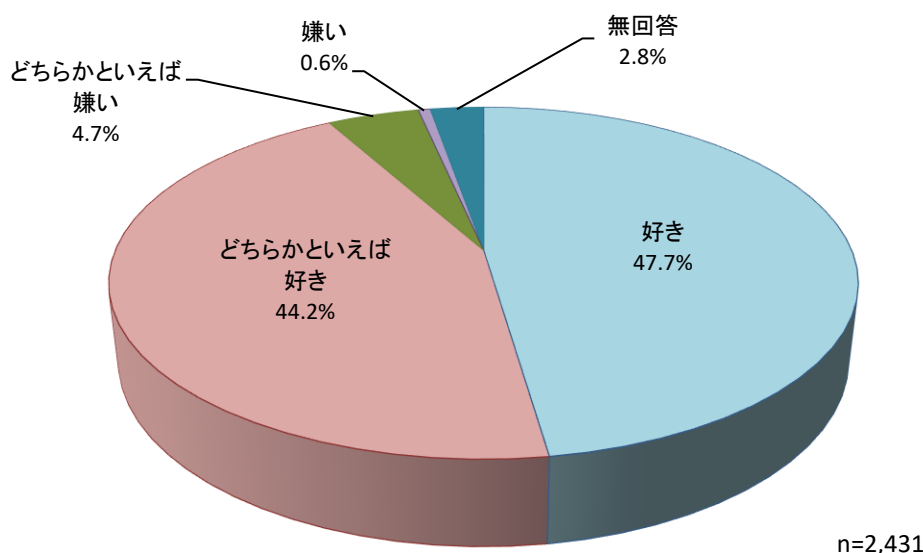
1. 宇都宮市に対する感じ方について

(1) 宇都宮市の好き・嫌い

◇ 「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた【好き（計）】が9割強

問 1	宇都宮市を好きですか、それとも嫌いですか。	(○は1つ)
		n=2,431
1	好き	47.7%
2	どちらかといえば好き	44.2%
3	どちらかといえば嫌い	4.7%
4	嫌い	0.6%
	(無回答)	2.8%

<図IV-1-1>全体



宇都宮市を好きか、嫌いか聞いたところ、「好き」が47.7%、「どちらかといえば好き」が44.2%で、これらを合わせた【好き（計）】が91.9%であった。一方、「どちらかといえば嫌い」が4.7%、「嫌い」が0.6%で、これらを合わせた【嫌い（計）】は5.3%と1割に満たない。(図IV-1-1)

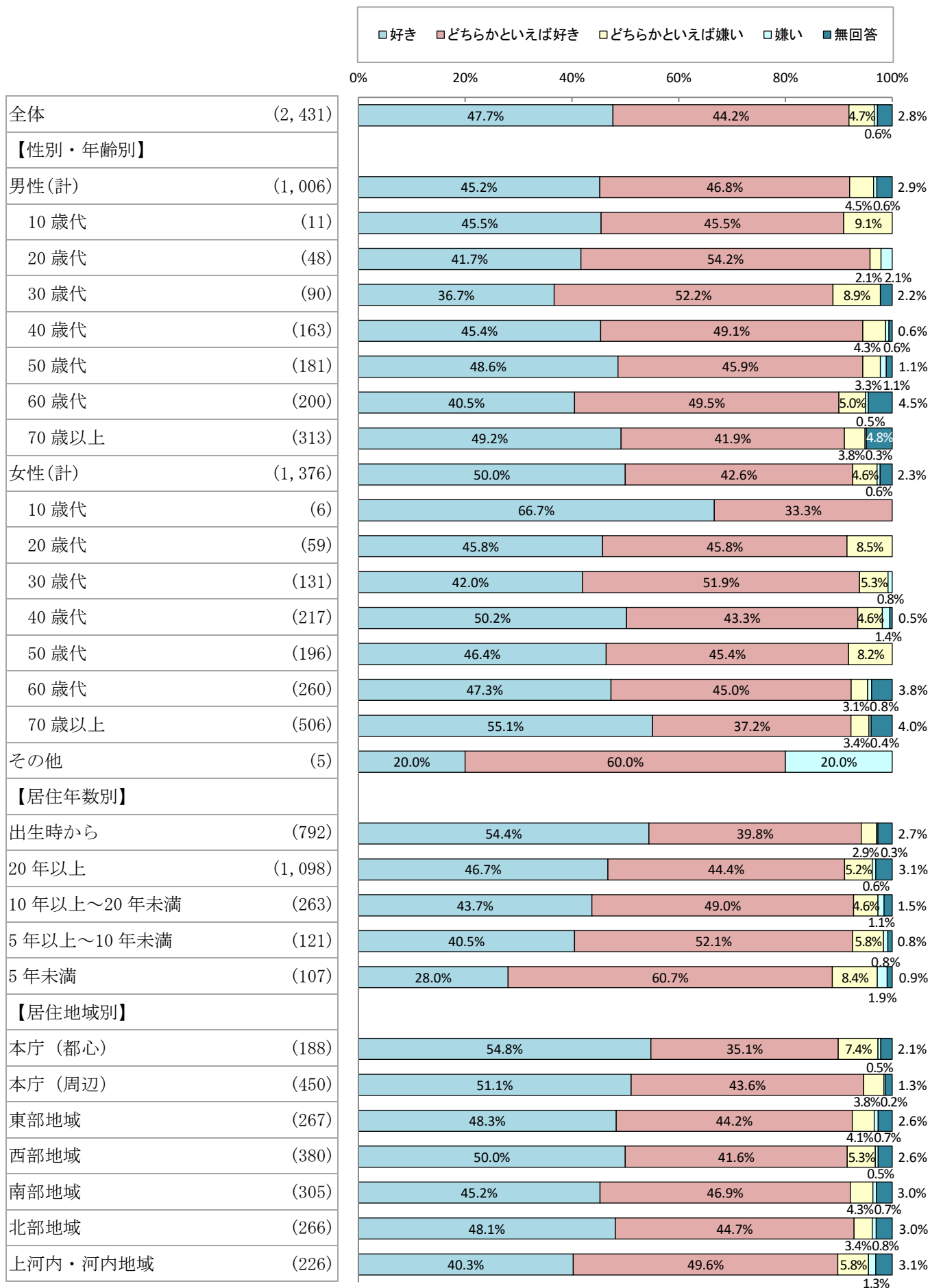
<参考>

性別・年齢別で見ると、【好き（計）】は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が95.9%であった。【好き（計）】は、性別・年齢別に関係なく約8割を超えている。一方、【嫌い（計）】は<その他>を除くと<男性/10歳代>が9.1%で最も高く、次いで<男性/30歳代>が8.9%、<女性/20歳代>が8.5%と続いている。(図IV-1-2)

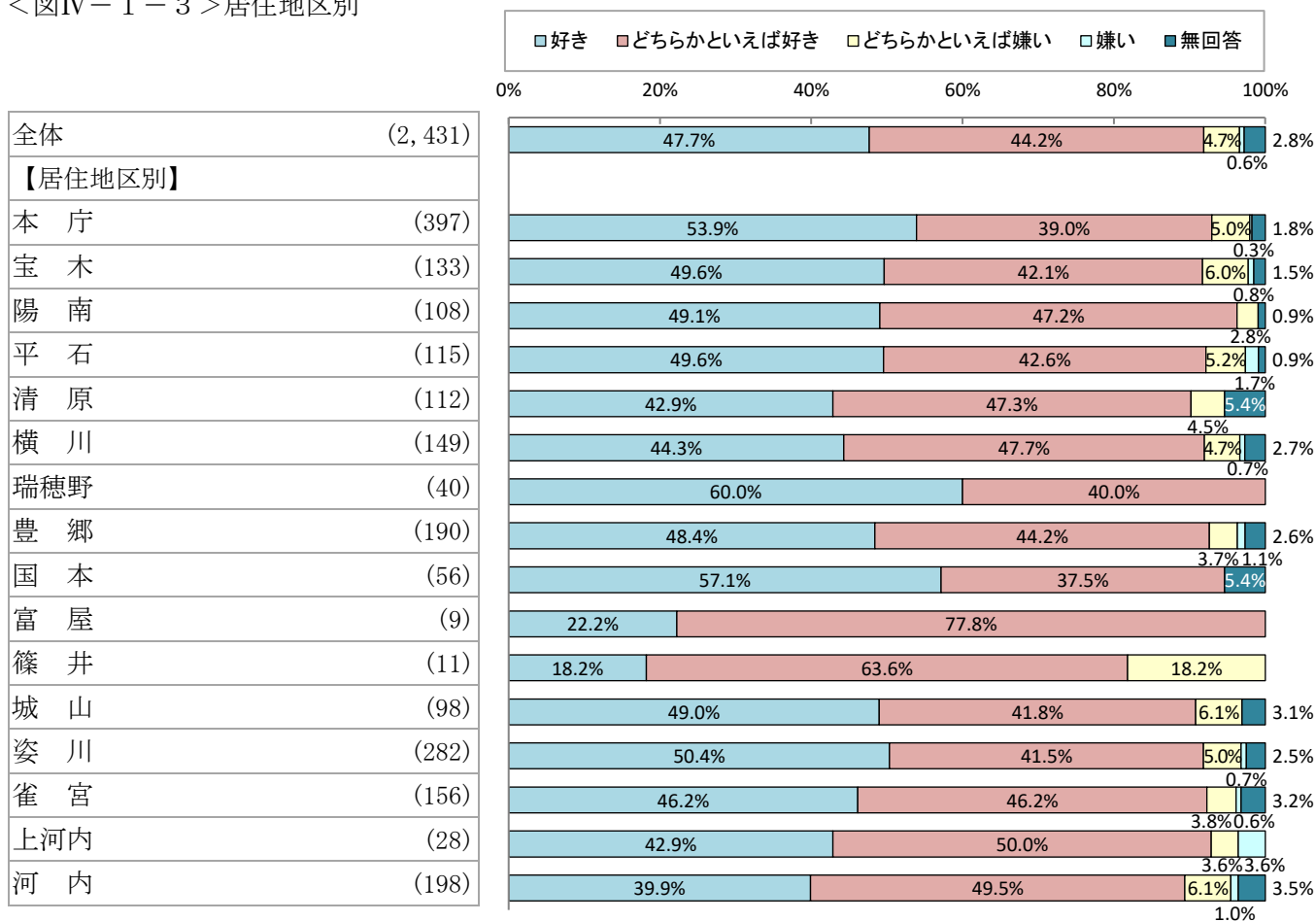
居住年数別で見ると、【好き（計）】は<出生時から>が94.2%で最も高く、次いで<10年以上～20年未満>が92.7%、<5年以上～10年未満>が92.6%と続いている。一方、【嫌い（計）】は<5年未満>が10.3%で最も高く、次いで<20年以上>が5.8%であった。(図IV-1-2)

居住地域別で見ると、【好き（計）】は<本庁(周辺)>が94.7%で最も高く、次いで<北部地域>が92.8%であった。一方、【嫌い（計）】は<本庁(都心)>が7.9%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が7.1%であった。(図IV-1-2)

<図IV-1-2>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別



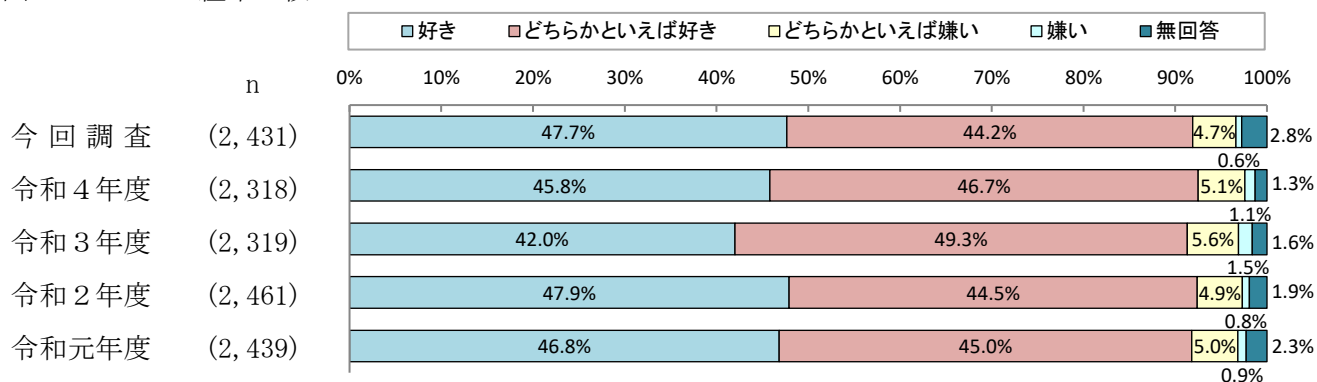
<図IV-1-3>居住地区別



【経年比較】

選択項目	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い	無回答
令和5年度	47.7%	44.2%	4.7%	0.6%	2.8%
令和4年度	45.8%	46.7%	5.1%	1.1%	1.3%
令和3年度	42.0%	49.3%	5.6%	1.5%	1.6%
令和2年度	47.9%	44.5%	4.9%	0.8%	1.9%
令和元年度	46.8%	45.0%	5.0%	0.9%	2.3%

<図IV-1-4>経年比較



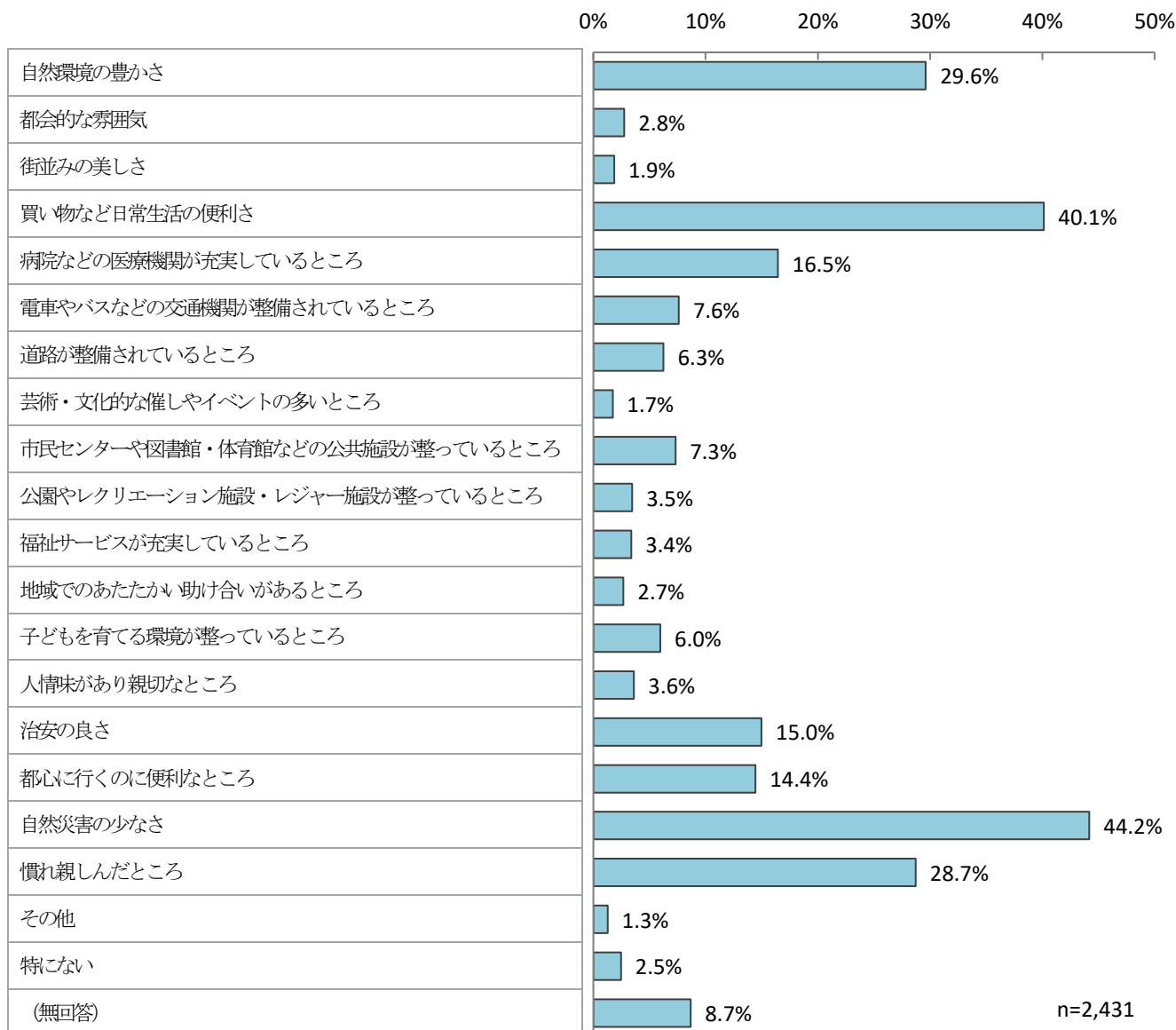
【好き（計）】及び【嫌い（計）】については、過去4年間と比較しても、特に大きな違いは見られない。
(図IV-1-4)

(2) 好きな理由

◇ 「自然災害の少なさ」が4割半ば

問2	宇都宮市の好きだと思ふところをあげてください。	(○は3つまで)
		n=2,431
1	自然環境の豊かさ	29.6%
2	都会的な雰囲気	2.8%
3	街並みの美しさ	1.9%
4	買い物など日常生活の便利さ	40.1%
5	病院などの医療機関が充実しているところ	16.5%
6	電車やバスなどの交通機関が整備されているところ	7.6%
7	道路が整備されているところ	6.3%
8	芸術・文化的な催しやイベントの多いところ	1.7%
9	市民センターや図書館・体育館などの公共施設が整っているところ	7.3%
10	公園やレクリエーション施設・レジャー施設が整っているところ	3.5%
11	福祉サービスが充実しているところ	3.4%
12	地域でのあたたかい助け合いがあるところ	2.7%
13	子どもを育てる環境が整っているところ	6.0%
14	人情味があり親切なところ	3.6%
15	治安の良さ	15.0%
16	都心に行くのに便利なところ	14.4%
17	自然災害の少なさ	44.2%
18	慣れ親しんだところ	28.7%
19	その他	1.3%
20	特にない	2.5%
	(無回答)	8.7%

<図IV-1-5>全体



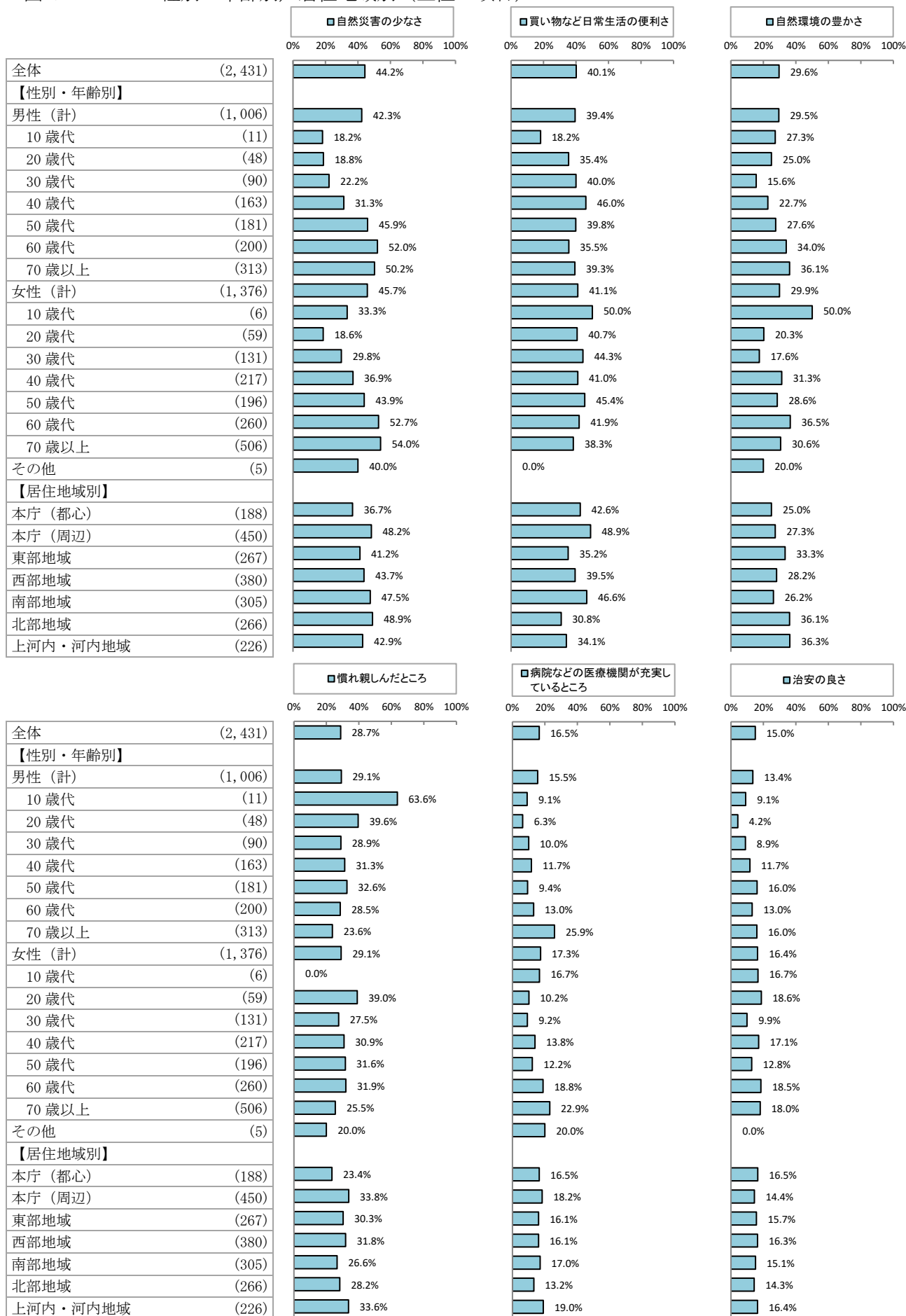
宇都宮市で好きだと思うところについて、1位が「自然災害の少なさ」で44.2%、2位「買い物など日常生活の便利さ」で40.1%、3位「自然環境の豊かさ」で29.6%、4位「慣れ親しんだところ」で28.7%、5位「病院などの医療機関が充実しているところ」で16.5%、6位「治安の良さ」で15.0%という順であった。(図IV-1-5)

<参考>

上位6項目について性別・年齢別でみると、「自然災害の少なさ」は<女性/70歳以上>が54.0%で最も高く、次いで<女性/60歳>が52.7%、<男性/60歳代>が52.0%と続いている。「買い物など日常生活の便利さ」は<女性/10歳代>が50.0%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が46.0%であった。「自然環境の豊かさ」は<女性/10歳代>が50.0%で最も高く、「慣れ親しんだところ」は<男性/10歳代>が63.6%、「病院などの医療機関が充実しているところ」は<男性/70歳以上>が25.9%、「治安の良さ」は<女性/20歳代>が18.6%で最も高かった。(図IV-1-6)

居住地域別でみると、「自然災害の少なさ」は、各地域で4割弱から約5割となっている。「買い物など日常生活の便利さ」は<本庁(周辺)>が48.9%、「自然環境の豊かさ」は<上河内・河内地域>が36.3%、「慣れ親しんだところ」は<本庁(周辺)>が33.8%、「病院などの医療機関が充実しているところ」は<上河内・河内地域>が19.0%、「治安の良さ」は<本庁(都心)>が16.5%で最も高かった。(図IV-1-6)

<図IV-1-6>性別・年齢別／居住地域別（上位6項目）

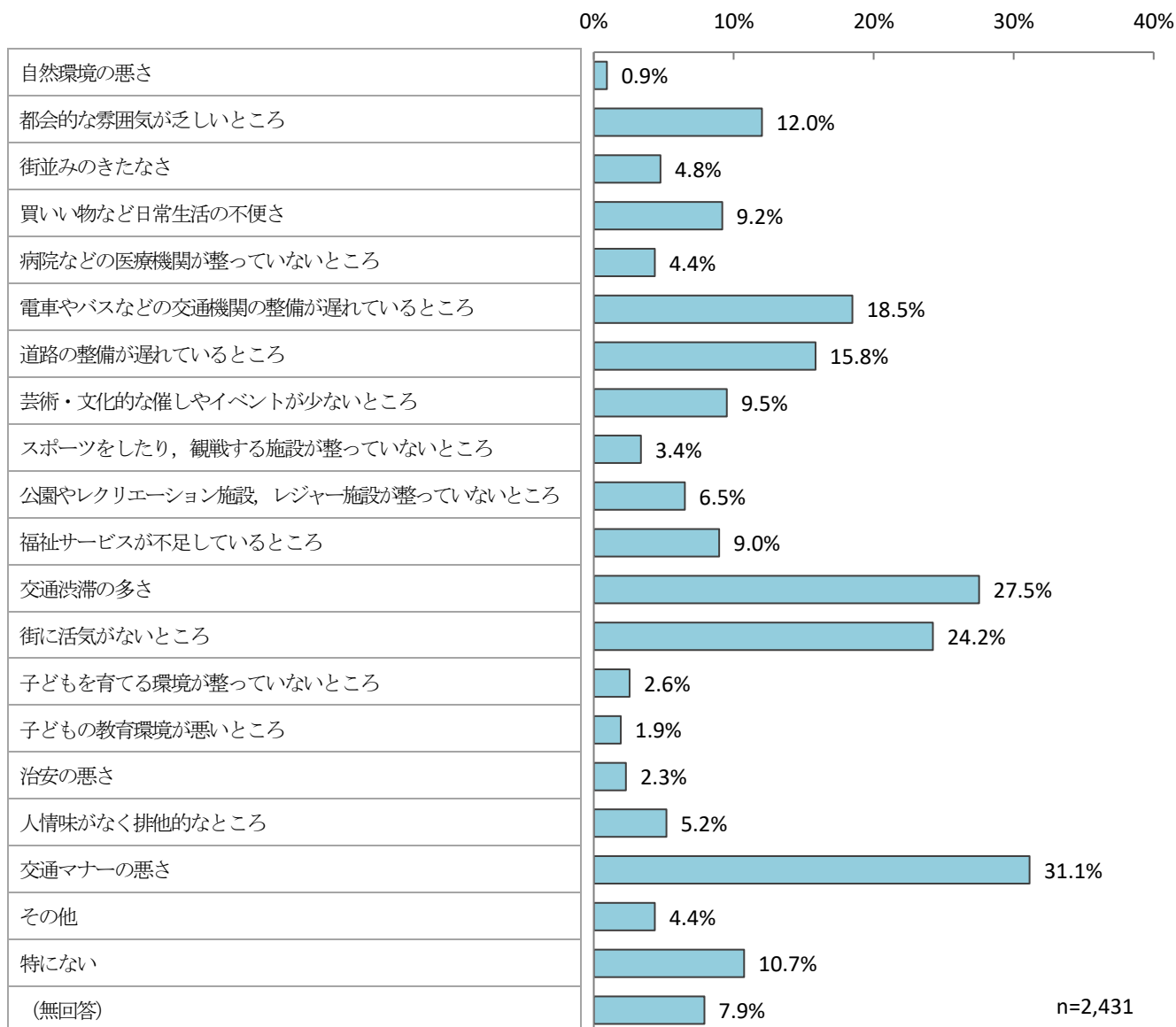


(3) 嫌いな理由

◇ 「交通マナーの悪さ」が約3割

問3	宇都宮市の嫌いだと思うところをあげてください。	(○は3つまで)
		n=2,431
1	自然環境の悪さ	0.9%
2	都会的な雰囲気が乏しいところ	12.0%
3	街並みのきたなさ	4.8%
4	買い物など日常生活の不便さ	9.2%
5	病院などの医療機関が整っていないところ	4.4%
6	電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ	18.5%
7	道路の整備が遅れているところ	15.8%
8	芸術的・文化的な催しやイベントが少ないところ	9.5%
9	スポーツをしたり、観戦する施設が整っていないところ	3.4%
10	公園やレクリエーション施設、レジャー施設が整っていないところ	6.5%
11	福祉サービスが不足しているところ	9.0%
12	交通渋滞の多さ	27.5%
13	街に活気がないところ	24.2%
14	子どもを育てる環境が整っていないところ	2.6%
15	子どもの教育環境が悪いところ	1.9%
16	治安の悪さ	2.3%
17	人情味がなく排他的なところ	5.2%
18	交通マナーの悪さ	31.1%
19	その他	4.4%
20	特にない	10.7%
	(無回答)	7.9%

<図IV-1-7>全体



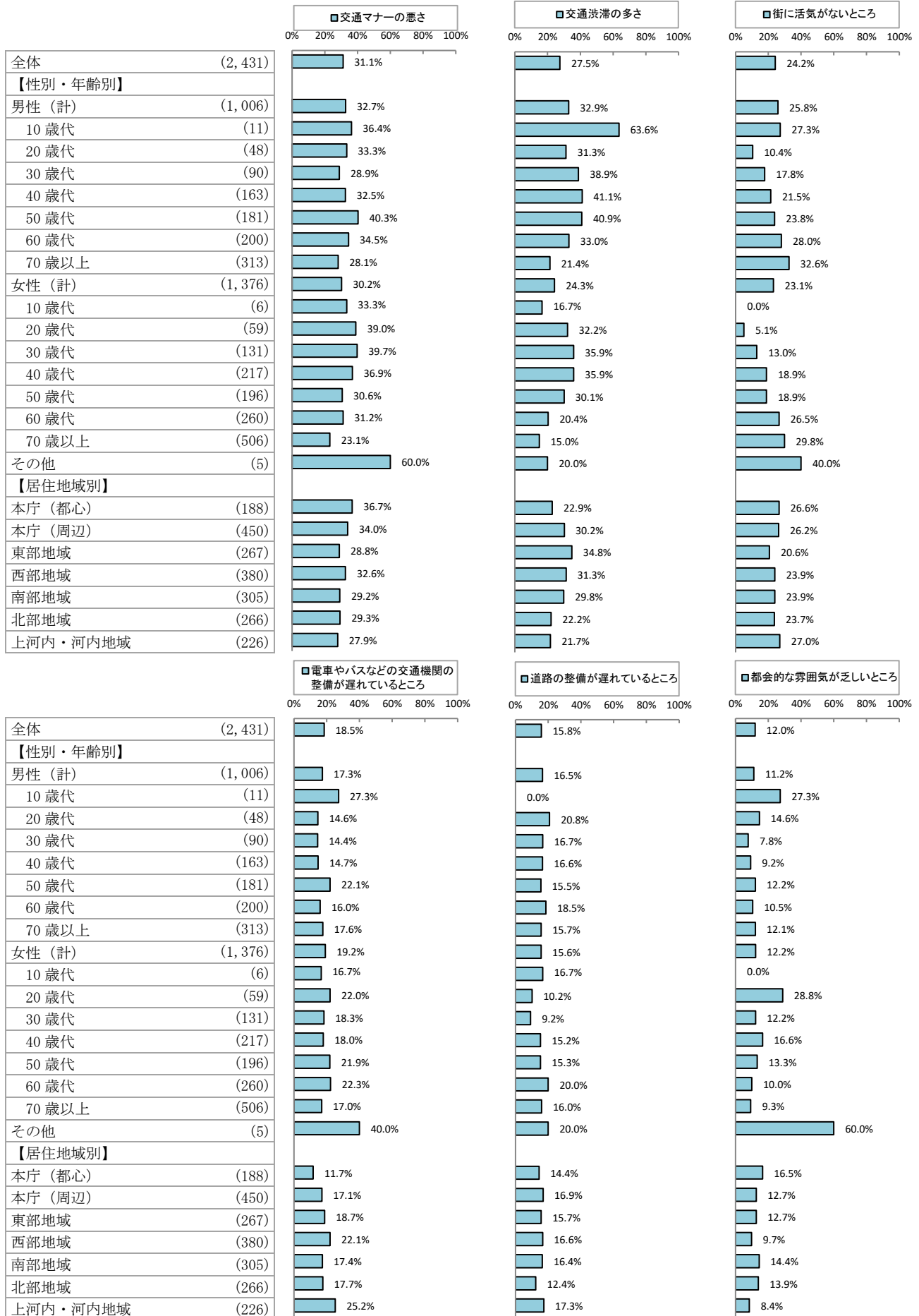
宇都宮市の嫌いだと思うところについては、1位が「交通マナーの悪さ」で31.1%、2位「交通渋滞の多さ」で27.5%、3位「街に活気がないところ」で24.2%、4位「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」で18.5%、5位「道路の整備が遅れているところ」で15.8%、6位「都会的な雰囲気が乏しいところ」で12.0%という順であった。(図IV-1-7)

<参考>

上位6項目について<その他>を除く性別・年齢別でみると、「交通マナーの悪さ」は<男性/50歳代>が40.3%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が39.7%であった。「交通渋滞の多さ」は<男性/10歳代>が63.6%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が41.1%であった。「街に活気がないところ」は<男性/70歳以上>が32.6%で最も高かった。「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」は<男性/10歳代>が27.3%で最も高かった。「道路の整備が遅れているところ」は<男性/20歳代>が20.8%で最も高かった。「都会的な雰囲気が乏しいところ」は<女性/20歳代>が28.8%で最も高く、次いで<男性/10歳代>が27.3%であった。(図IV-1-8)

居住地域別でみると、「交通マナーの悪さ」は<本庁(都心)>が36.7%で最も高かった。「交通渋滞の多さ」は<東部地域>が34.8%で最も高く、「街に活気がないところ」は<上河内・河内地域>が27.0%で最も高かった。「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」は<上河内・河内地域>が25.2%で最も高かった。「道路の整備が遅れているところ」は<上河内・河内地域>が17.3%で最も高かった。「都会的な雰囲気が乏しいところ」は<本庁(都心)>が16.5%で最も高かった。(図IV-1-8)

<図IV-1-8>性別・年齢別／居住地域別



2. 広報媒体の活用状況について

(1) 市政情報の各広報媒体の視聴状況

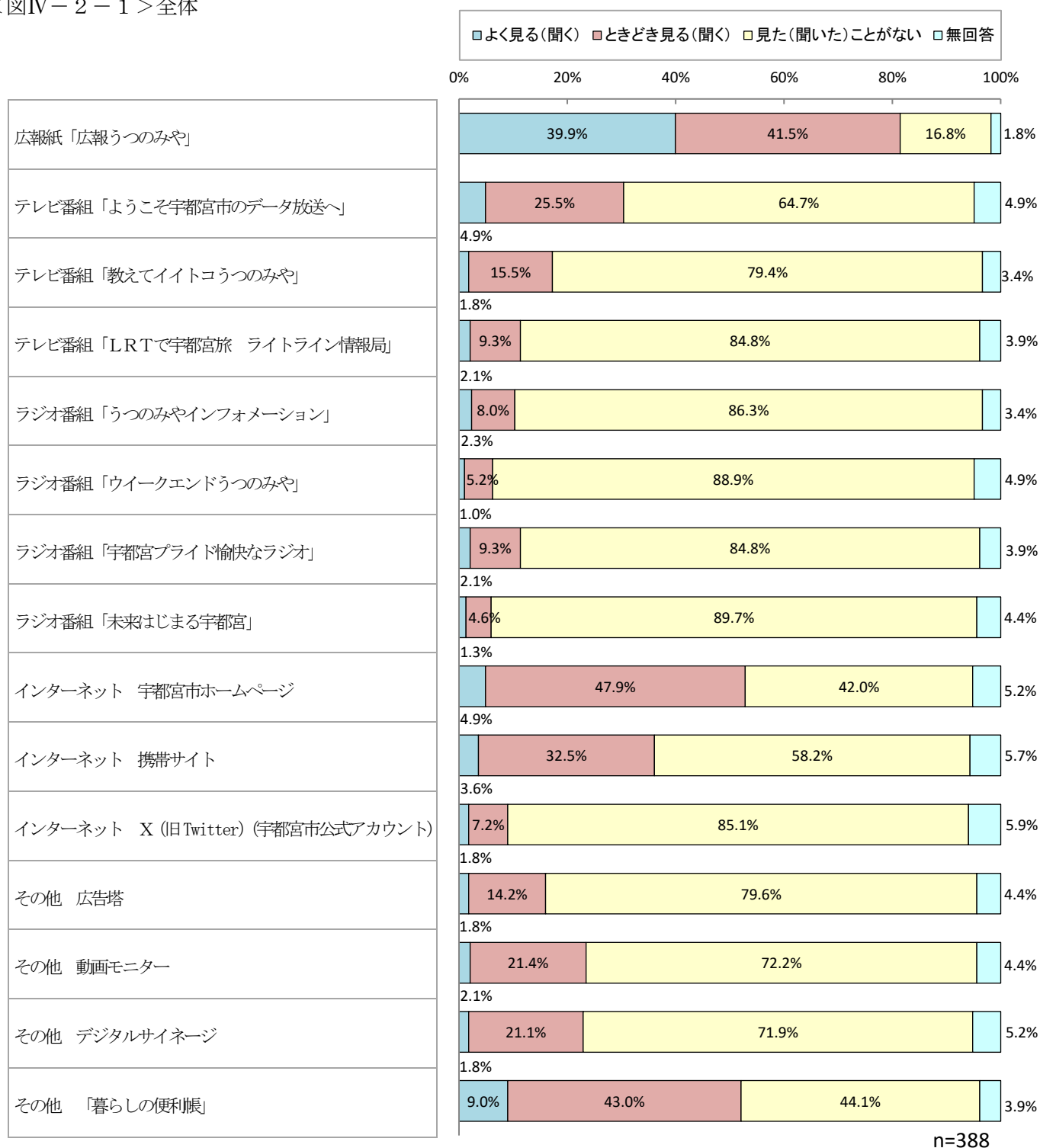
◇ 「よく見る（聞く）」と「ときどき見る（聞く）」を合わせた【見る（聞く）ことがある（計）】は「広報うつのみや」が約8割

問4 宇都宮市では、次のような手段を使って、市政情報を市民の皆様に提供しています。次の各広報媒体について、それぞれの視聴状況にあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

n=388

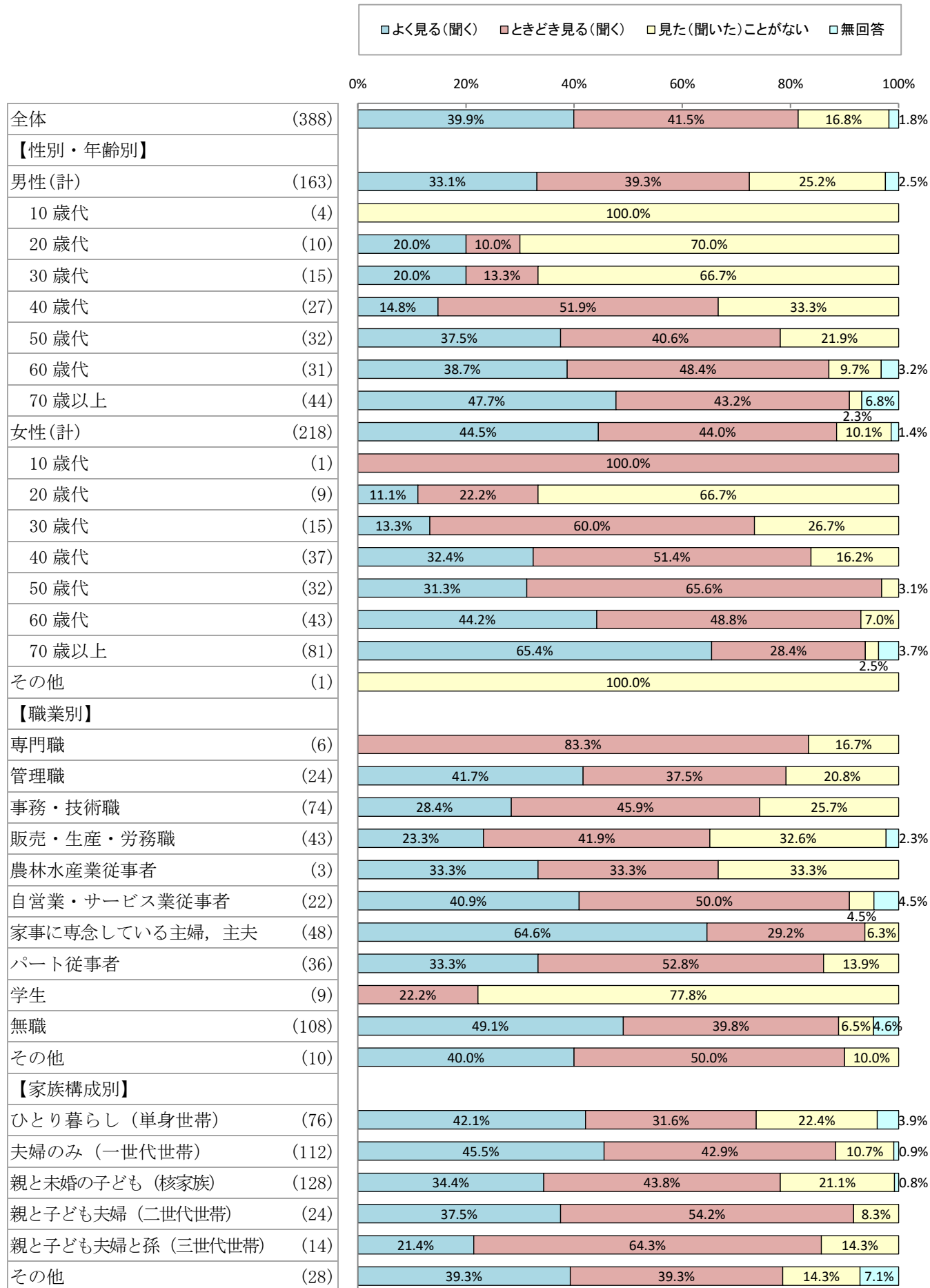
広報媒体		よく見る (聞く)	ときどき 見る(聞く)	見た (聞いた) ことがある	(無回答)	合計
広報紙	1 「広報うつのみや」 毎月1回、新聞折込での配布や電子書籍等	39.9%	41.5%	16.8%	1.8%	100.0%
テレビ 番組	2 「ようこそ宇都宮市のデータ放送へ」 とちぎテレビ(データ放送):テレビ放映中は常時提供	4.9%	25.5%	64.7%	4.9%	100.0%
	3 「教えてイトコうつのみや」 (とちぎテレビ:毎月第4金曜日午後7時～)	1.8%	15.5%	79.4%	3.4%	100.0%
	4 「LRTで宇都宮旅 ライトライン情報局」 (宇都宮ケーブルテレビ:毎月第4月曜日から7日間,1日7回)	2.1%	9.3%	84.8%	3.9%	100.0%
ラジオ 番組	5 「うつのみやインフォメーション」 (栃木放送:本放送 第1・3月曜日 午前10時15分～) (再放送 第1・3火曜日 午後5時20分～)	2.3%	8.0%	86.3%	3.4%	100.0%
	6 「ウイークエンドうつのみや」 (栃木放送:毎週金曜日 午後5時20分～)	1.0%	5.2%	88.9%	4.9%	100.0%
	7 「宇都宮プライド愉快的なラジオ」 (エフエム栃木:毎週金曜日 正午～)	2.1%	9.3%	84.8%	3.9%	100.0%
	8 「未来はじまる宇都宮」 (コミュニティFM「ミヤラジ」:毎週水曜日 午前11時～)	1.3%	4.6%	89.7%	4.4%	100.0%
インター ネット	9 宇都宮市ホームページ	4.9%	47.9%	42.0%	5.2%	100.0%
	10 携帯サイト	3.6%	32.5%	58.2%	5.7%	100.0%
	11 X(旧Twitter)(宇都宮市公式アカウント)	1.8%	7.2%	85.1%	5.9%	100.0%
その他	12 広告塔 JR宇都宮駅西口に設置	1.8%	14.2%	79.6%	4.4%	100.0%
	13 動画モニター 市民課や地区市民センターの窓口・主要道路沿い・ 大通りバス停などに設置	2.1%	21.4%	72.2%	4.4%	100.0%
	14 デジタルサイネージ 幹線道路などに設置されている大型モニター	1.8%	21.1%	71.9%	5.2%	100.0%
	15 「暮らしの便利帳」 2年に1度発行し、行政情報や地域情報などを掲載	9.0%	43.0%	44.1%	3.9%	100.0%

<図IV-2-1>全体

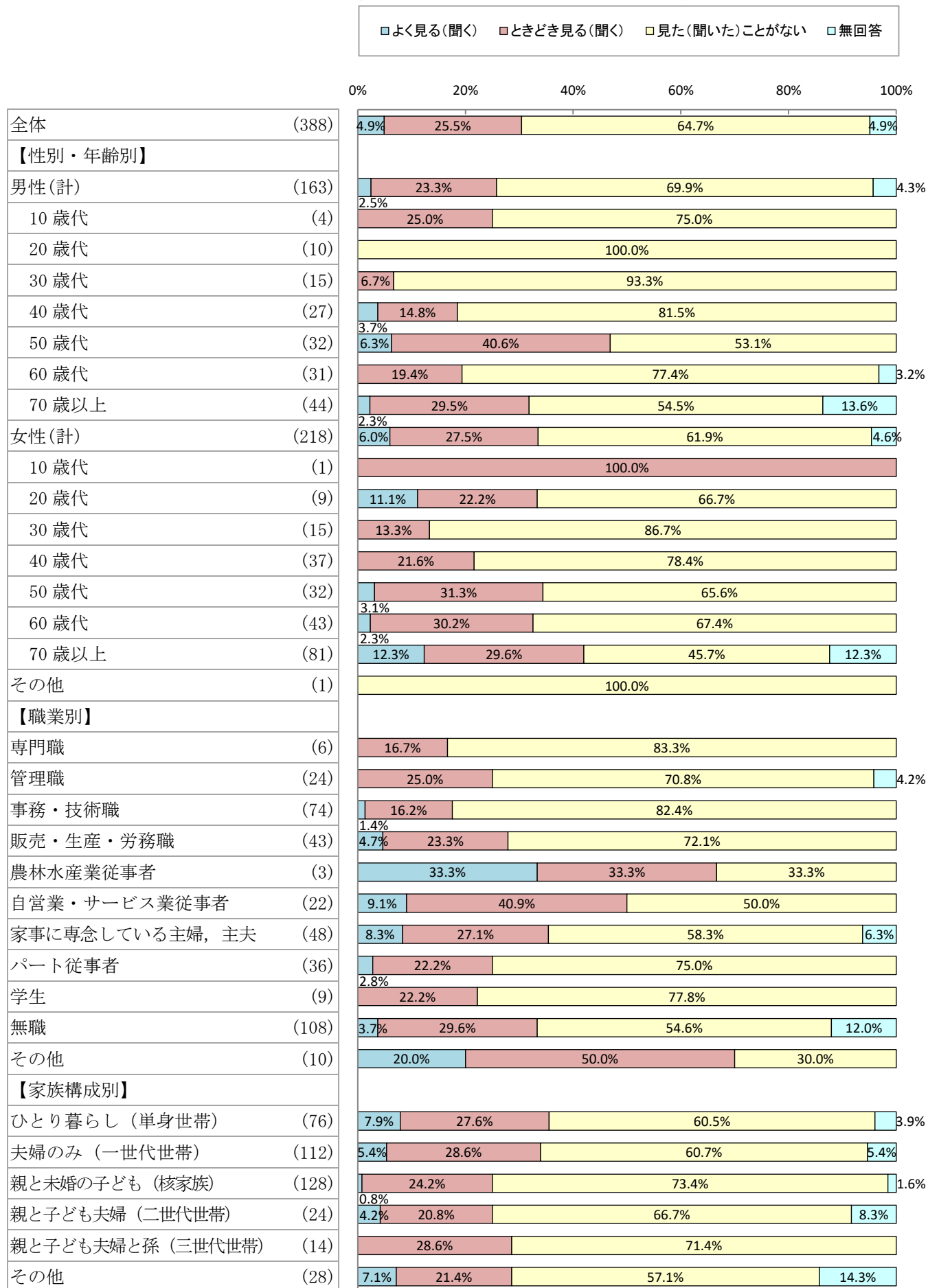


15種類の広報媒体について、それぞれの視聴状況については、「よく見る(聞く)」と「ときどき見る(聞く)」の2つを合わせた【見る(聞く)ことがある(計)】は、広報紙「広報うつのみや」が81.4%で最も高く、次いで「インターネット 宇都宮市ホームページ」が52.8%、「暮らしの便利帳」が52.0%と続いている。(図IV-2-1)

<図IV-2-2>性別・年齢別／職業別／家族構成別「広報誌「広報うつのみや」

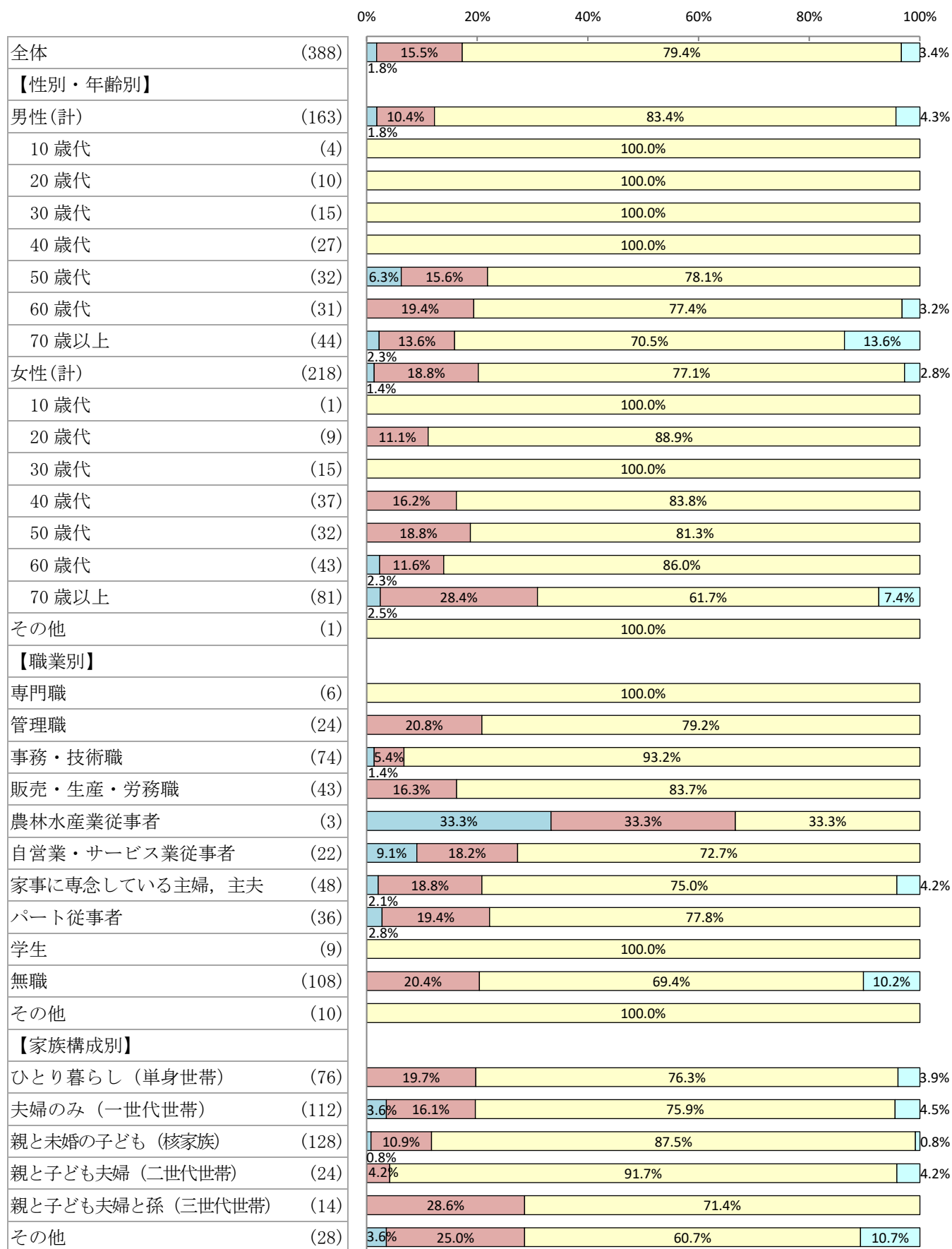


<図IV-2-3>性別・年齢別／職業別／家族構成別「テレビ番組「ようこそ宇都宮市のデータ放送へ」



<図IV-2-4>性別・年齢別／職業別／家族構成別「テレビ番組「教えてイイトコうつのみや」

□よく見る(聞く) □ときどき見る(聞く) □見た(聞いた)ことがない □無回答



<図IV-2-5>性別・年齢別／職業別／家族構成別「テレビ番組「LRTで宇都宮旅 ライトライン情報局」

□よく見る(聞く) □ときどき見る(聞く) □見た(聞いた)ことがない □無回答



<図IV-2-6>性別・年齢別／職業別／家族構成別「ラジオ番組「うつのみやインフォメーション」」

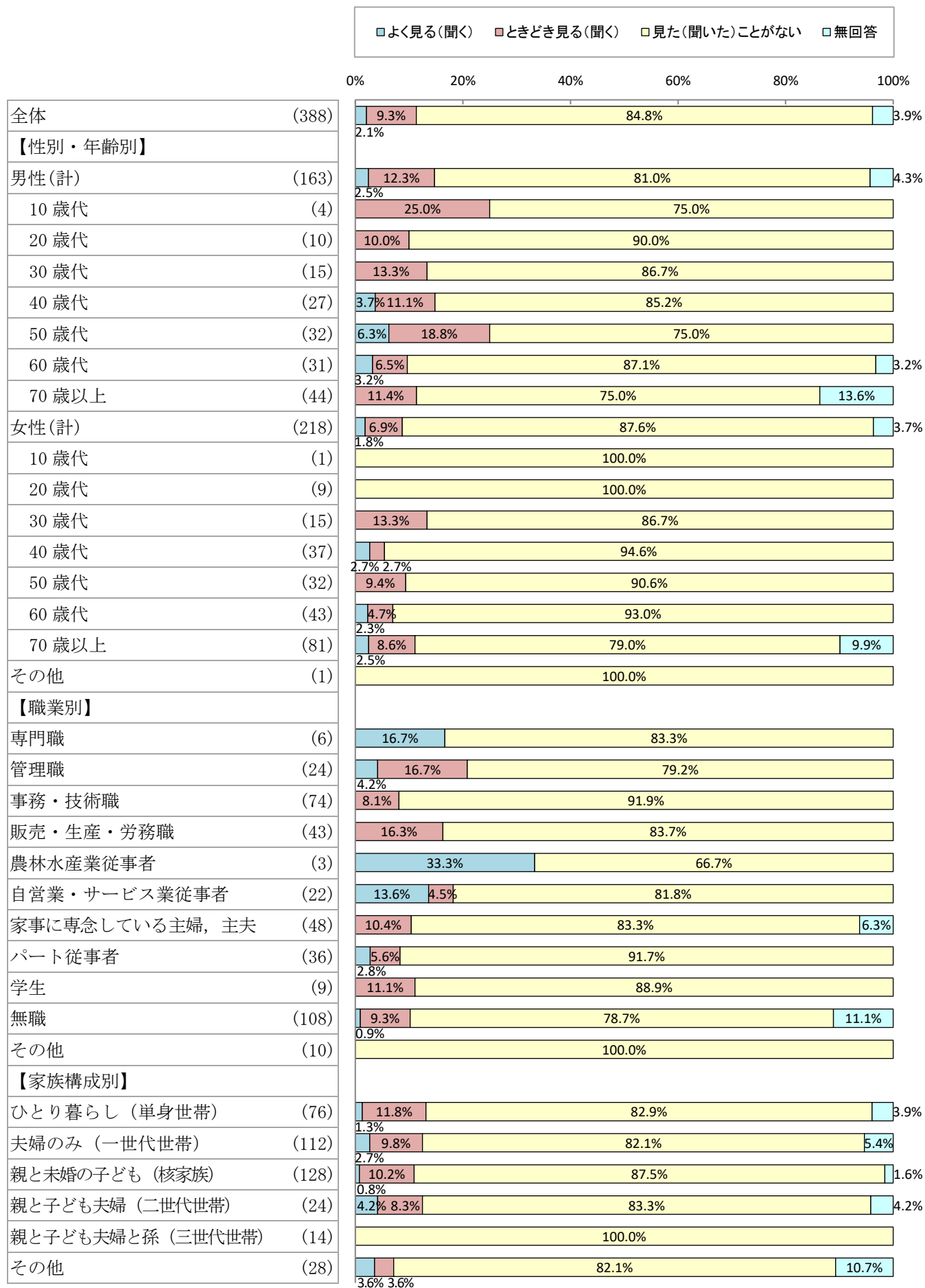
□よく見る(聞く) □ときどき見る(聞く) □見た(聞いた)ことがない □無回答



<図IV-2-7>性別・年齢別／職業別／家族構成別「ラジオ番組「ウイークエンドうつのみや」



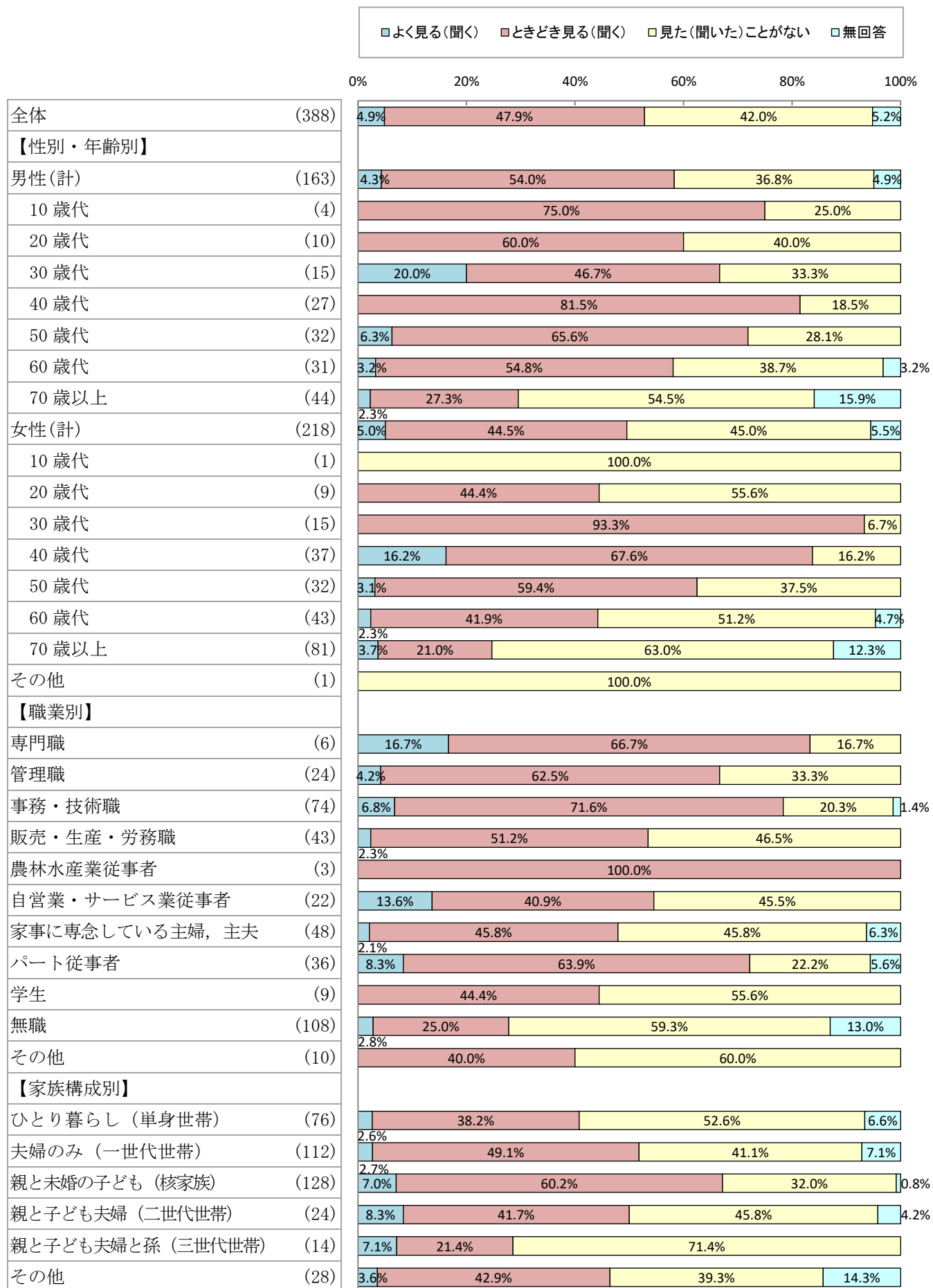
<図IV-2-8>性別・年齢別／職業別／家族構成別「ラジオ番組「宇都宮プライド愉快的ラジオ」



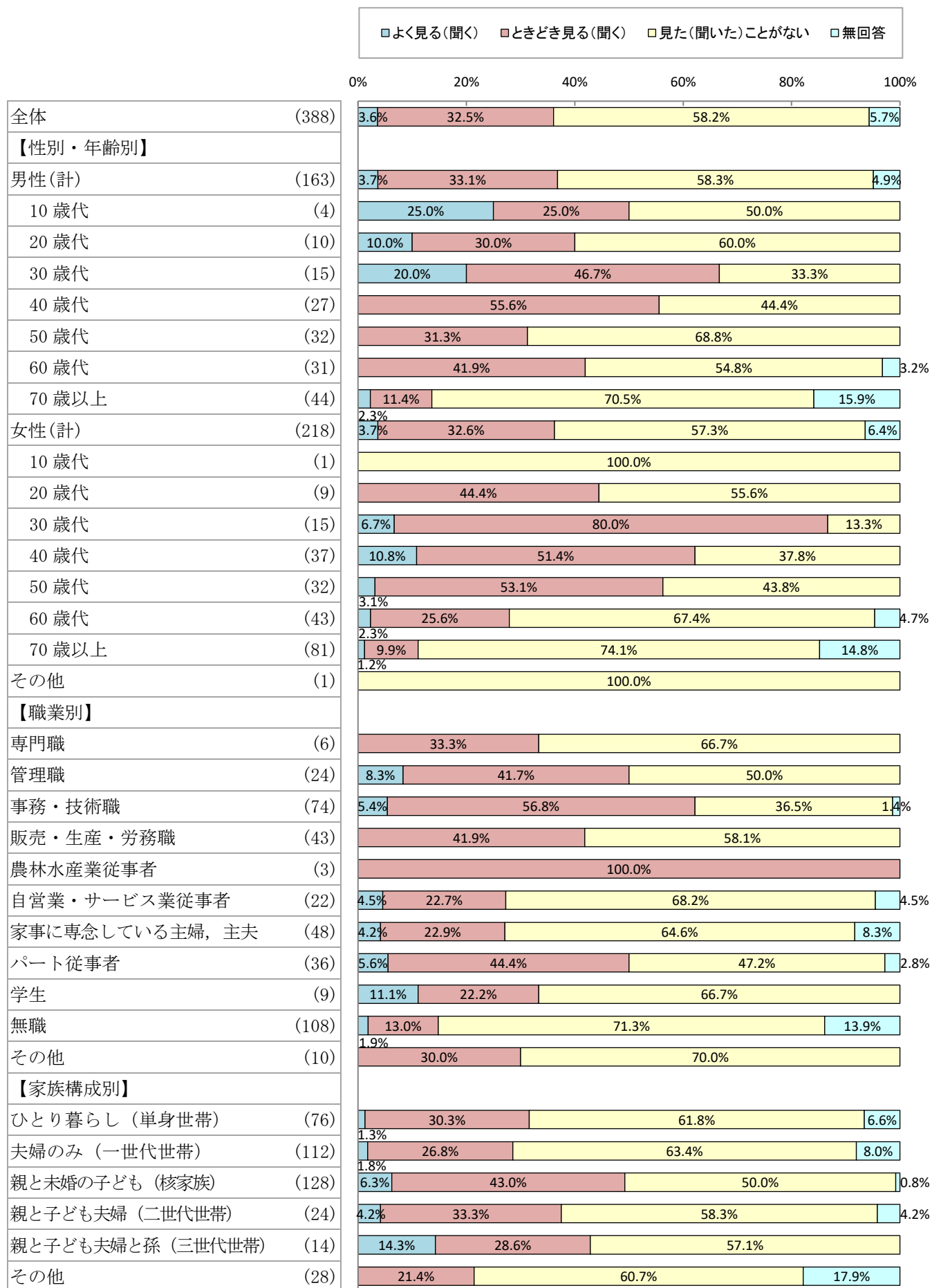
<図IV-2-9>性別・年齢別／職業別／家族構成別「ラジオ番組「未来はじまる宇都宮」



<図IV-2-10>性別・年齢別／職業別／家族構成別「インターネット「宇都宮市ホームページ」」



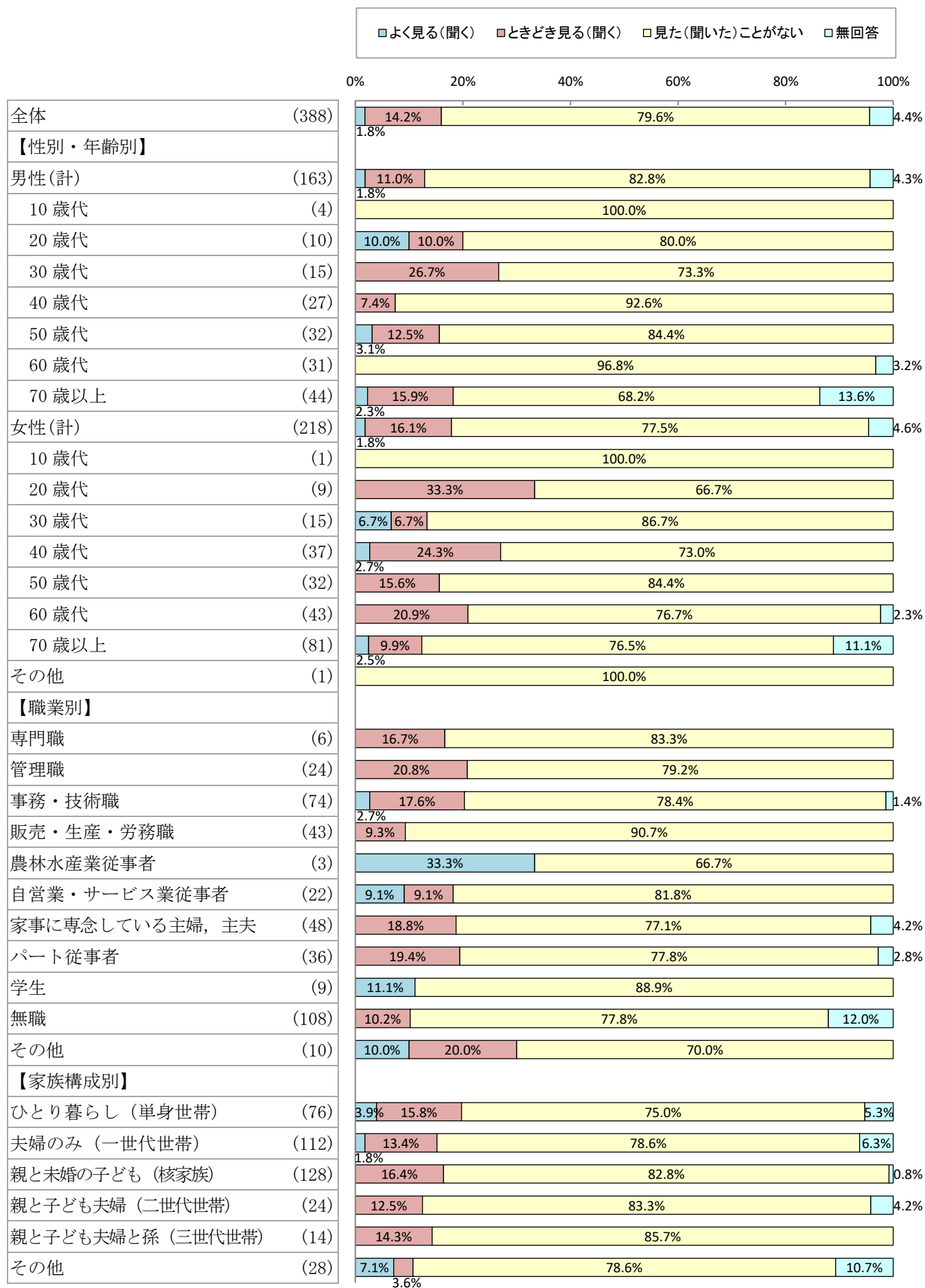
<図IV-2-11>性別・年齢別／職業別／家族構成別「インターネット「携帯サイト」」



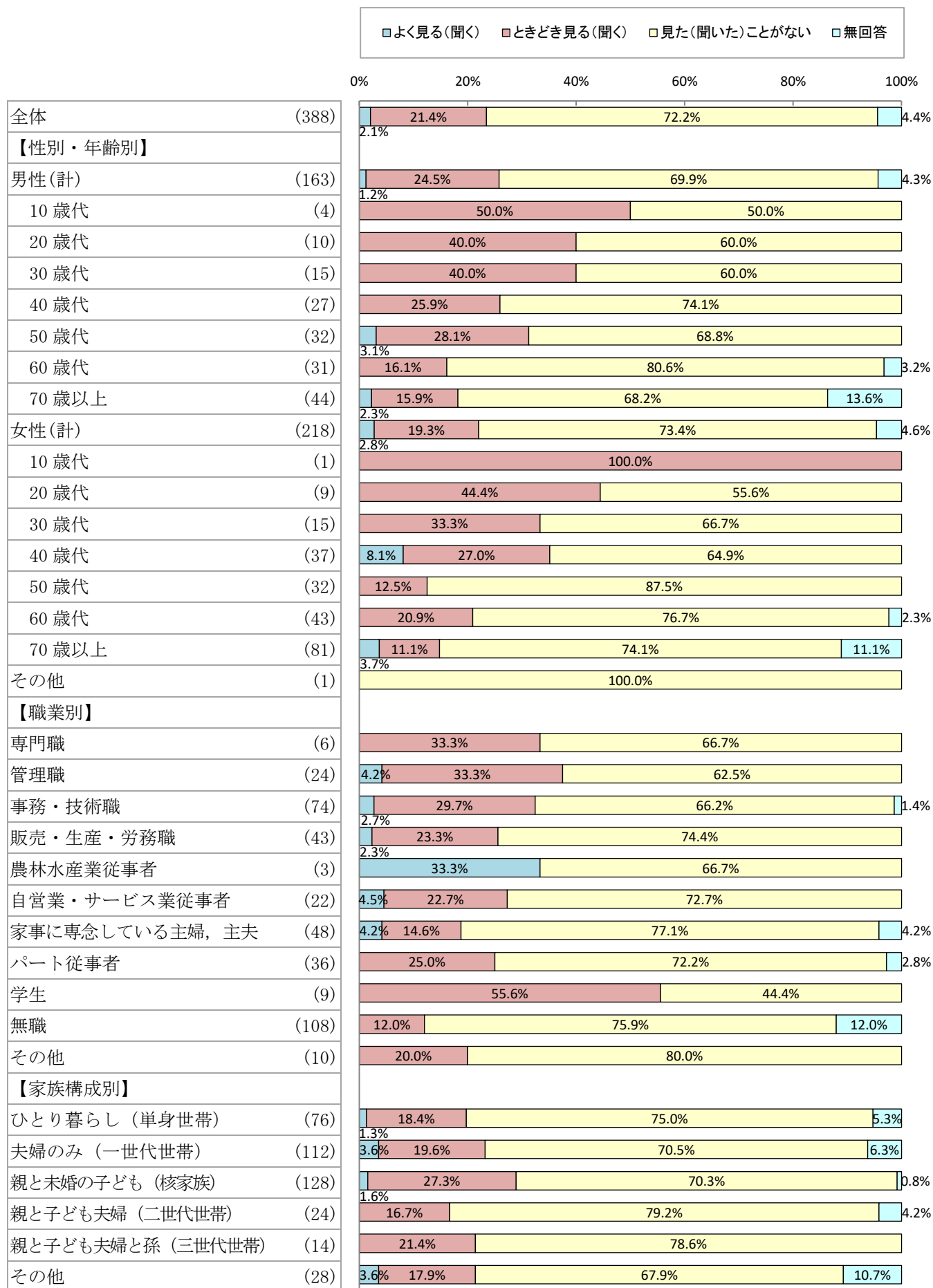
<図IV-2-12>性別・年齢別／職業別／家族構成別「インターネット X (旧 Twitter) (宇都宮市公式アカウント)」



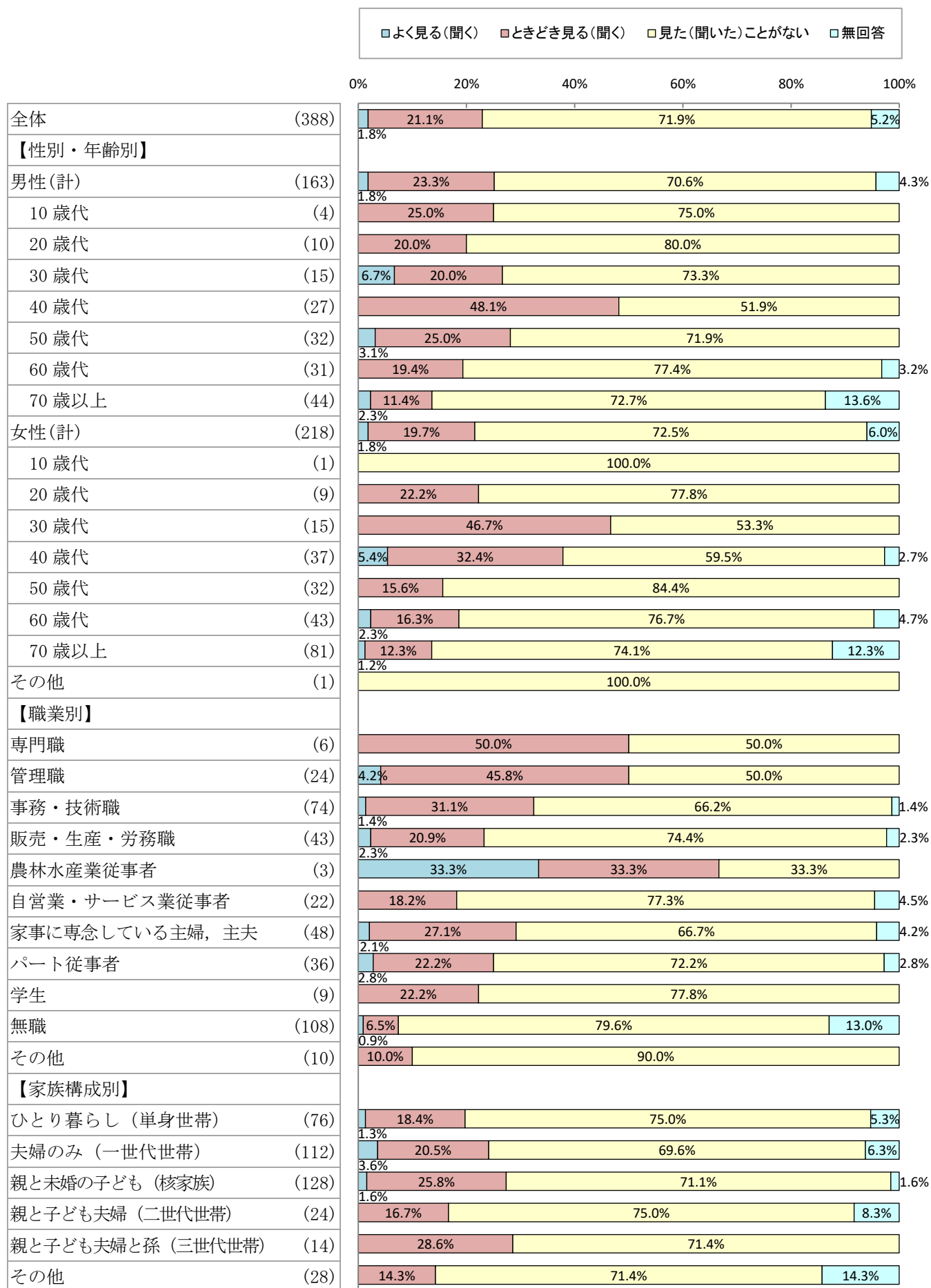
<図IV-2-13>性別・年齢別／職業別／家族構成別「その他「広告塔」」



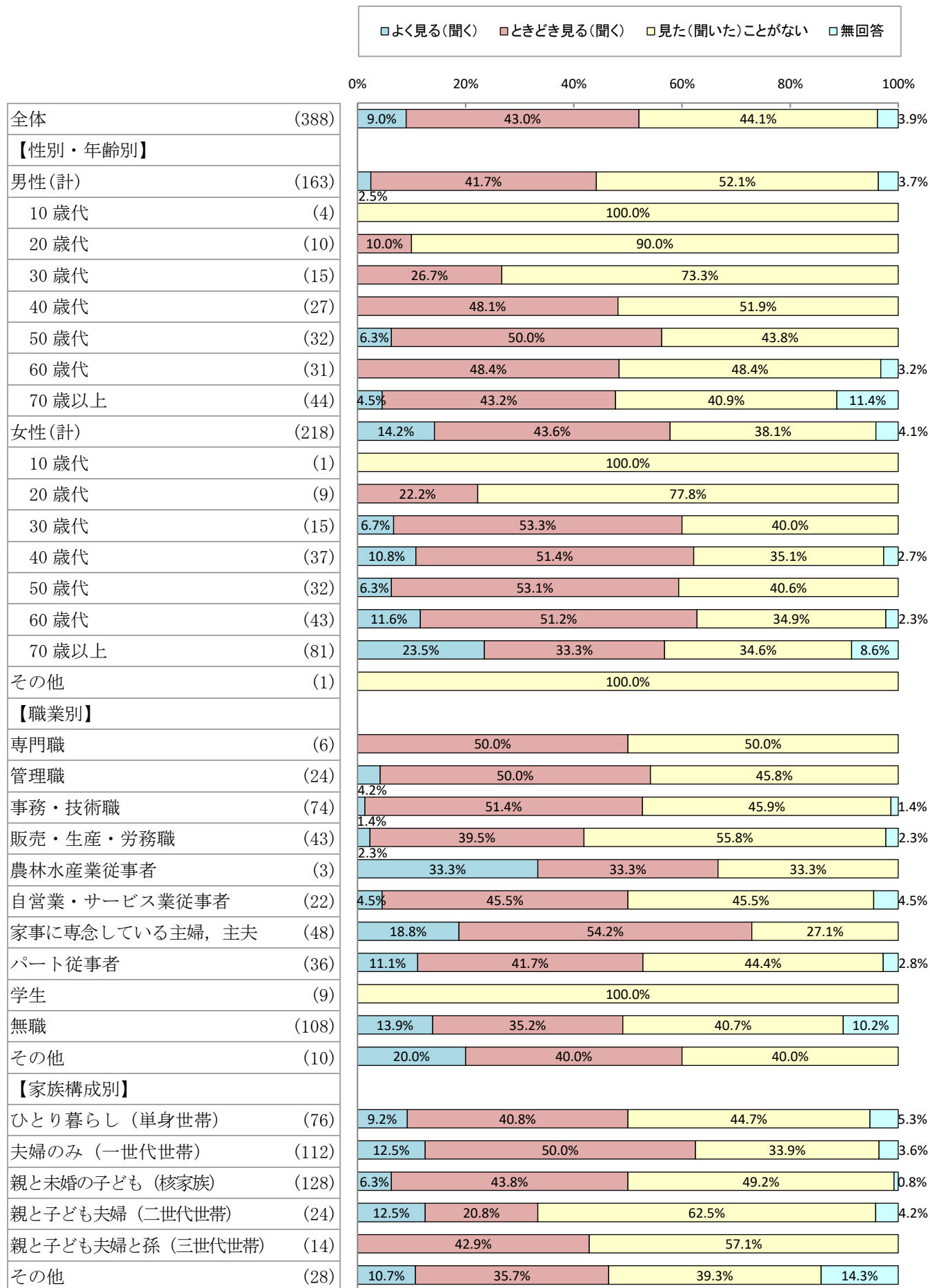
<図IV-2-14>性別・年齢別／職業別／家族構成別「その他「動画モニター」」



<図IV-2-15>性別・年齢別／職業別／家族構成別「その他「デジタルサイネージ」」



<図IV-2-16>性別・年齢別／職業別／家族構成別「その他「暮らしの便利帳」」

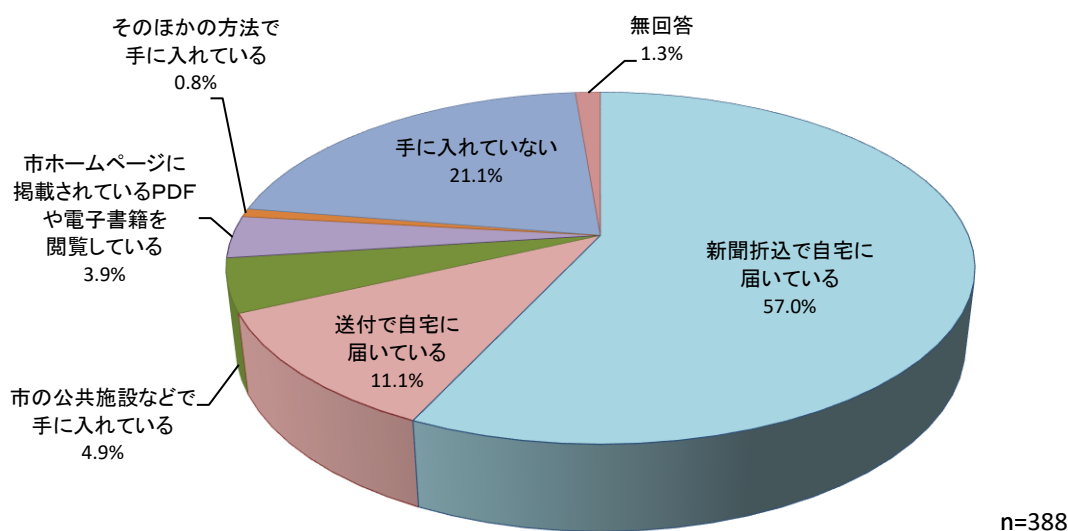


(2) 「広報うつのみや」の入手方法

◇ 「新聞折込で自宅に届いている」が6割弱

問5 あなたはどのような方法で、「広報うつのみや」の情報を手に入れていますか。	(○は1つ)	n=388
1 新聞折込で自宅に届いている		57.0%
2 送付で自宅に届いている		11.1%
3 市の公共施設などで手に入れている		4.9%
4 市ホームページに掲載されているPDFや電子書籍を閲覧している		3.9%
5 マチイロ, TOCHIGI e-books, マイ広報紙などのアプリやウェブサービスで閲覧している		0.0%
6 そのほかの方法で手に入れている		0.8%
7 手に入っていない		21.1%
(無回答)		1.3%

<図IV-2-17>全体



「広報うつのみや」の入手方法については、「新聞折込で自宅に届いている」が 57.0%で最も高かった。一方、「手に入っていない」は 21.1%であった。(図IV-2-17)

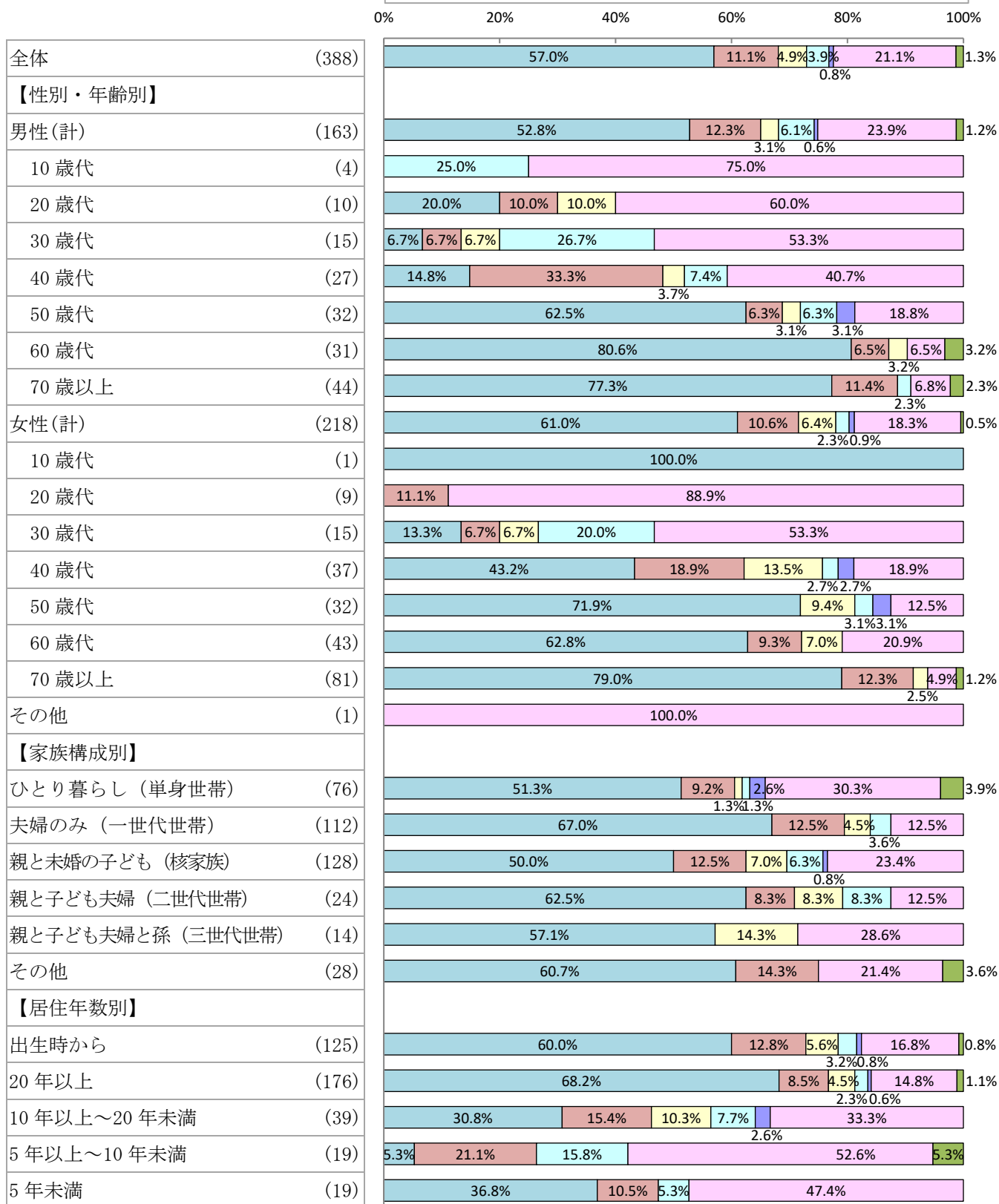
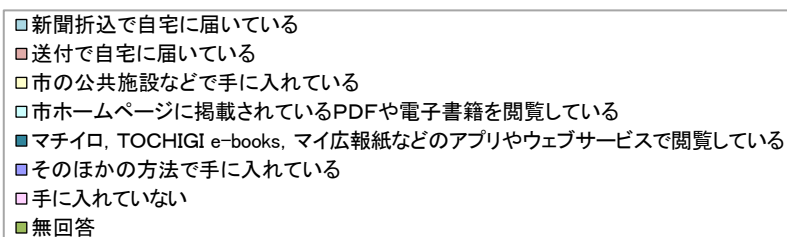
<参考>

性別・年齢別でみると、「新聞折込で自宅に届いている」はその他を除くと<男性/60歳代>が 80.6%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が 79.0%、<男性/70歳以上>が 77.3%と続いている。一方、「手に入っていない」は<女性/20歳代>が 88.9%で最も高く、次いで<男性/10歳代>が 75.0%であった。(図IV-2-18)

家族構成別でみると、「新聞折込で自宅に届いている」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が 67.0%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が 62.5%であった。(図IV-2-18)

居住年数別でみると、「新聞折込で自宅に届いている」は<20年以上>が 68.2%で最も高かった。(図IV-2-18)

<図IV-2-18>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別

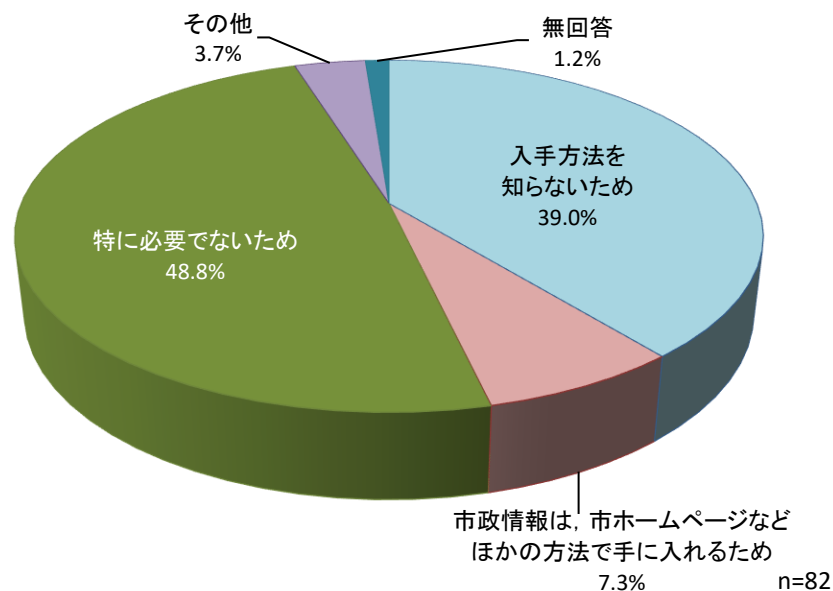


(3) 「広報うつのみや」を入手していない理由

◇ 「特に必要でないため」が約5割

問6	問5で「7 手に入れていない」に○をつけた方にお聞きます。 「広報うつのみや」の情報を入手していない理由を教えてください。(○は1つ)	n=82
1	入手方法を知らないため	39.0%
2	市政情報は、市ホームページなどほかの方法で手に入れるため	7.3%
3	特に必要でないため	48.8%
4	その他	3.7%
	(無回答)	1.2%

<図IV-2-19>全体



「広報うつのみや」を入手していない理由については、「特に必要でないため」が48.8%で最も高く、「入手方法を知らないため」が39.0%であった。(図IV-2-19)

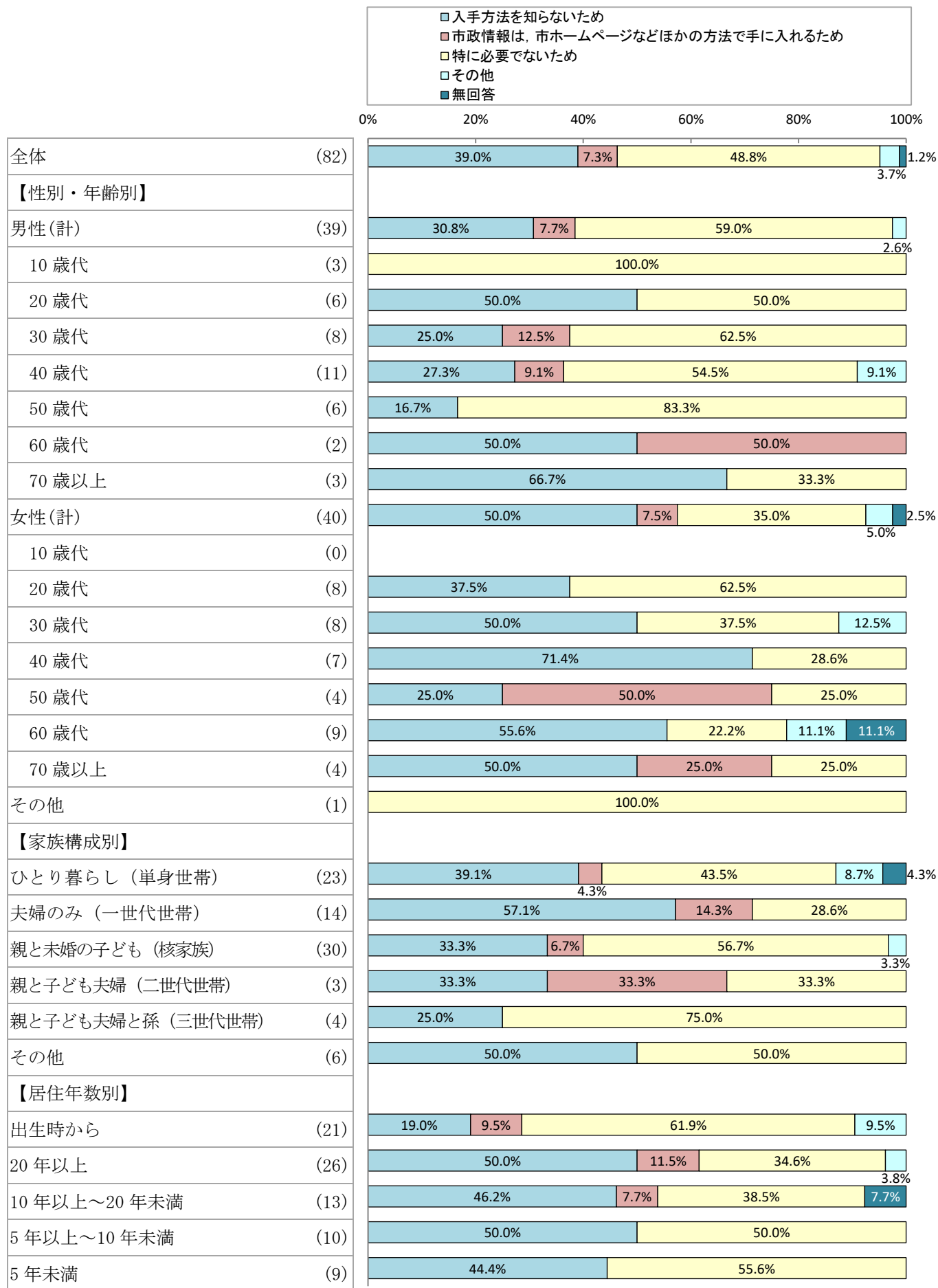
<参考>

性別・年齢別で見ると、「特に必要でないため」は<その他>を除くと<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、「入手方法を知らないため」は<女性/40歳代>が71.4%、次いで<男性/70歳以上>が66.7%であった。(図IV-2-20)

家族構成別で見ると、「特に必要でないため」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が75.0%で最も高く、「入手方法を知らないため」は<夫婦のみ(一世帯世帯)>が57.1%で最も高かった。(図IV-2-20)

居住年数別で見ると、「特に必要でないため」は<出生時から>が61.9%で最も高く、「入手方法を知らないため」は<20年以上>と<5年以上~10年未満>が50.0%で最も高かった。(図IV-2-20)

<図IV-2-20>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別



(4)「広報うつのみや」で読んでいる主な記事

◇「市政情報」が5割半ば

問7 問5で1～6に○をつけた方にお聞きします。

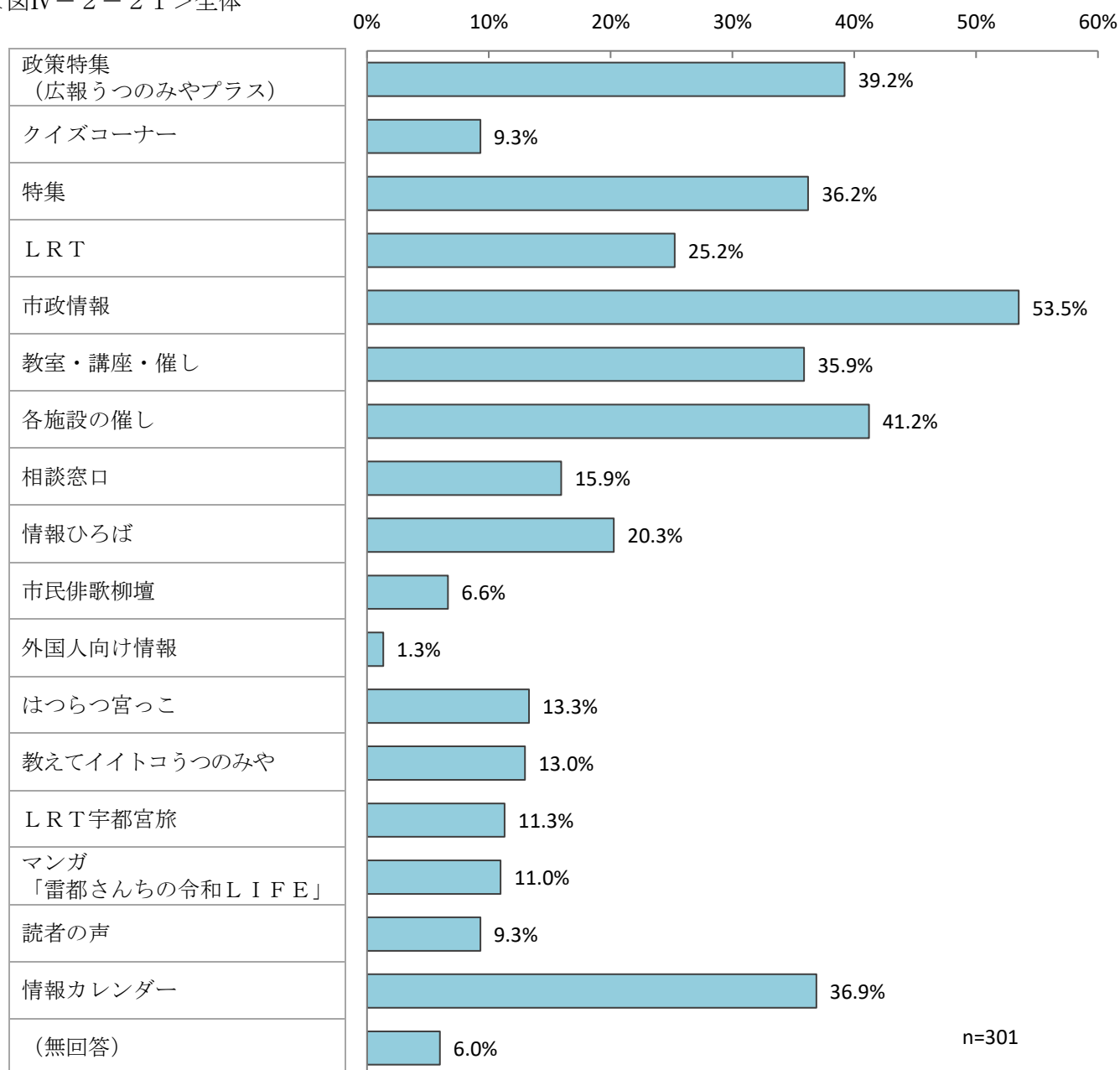
「広報うつのみや」では、どのような記事を主に読んでいますか。項目の番号に○をつけてください。

(○はいくつでも)

n=301

項目	ページ等	内容	
1 政策特集 (広報うつのみやプラス)	巻頭カラー	年4回。市のまちづくり全体に関する施策や事業を紹介	39.2%
2 クイズコーナー	目次	宇都宮にまつわる知識等をクイズ形式で紹介	9.3%
3 特集	巻頭カラー	市の重点事業や旬な話題など	36.2%
4 LRT	巻頭カラー	LRT事業について	25.2%
5 市政情報	—	健康・子ども・住まい・暮らし・税・文化・スポーツなど	53.5%
6 教室・講座・催し	—	各教室・講座・催し一覧	35.9%
7 各施設の催し	—	宇都宮美術館, 市文化会館, ろまんちっく村など	41.2%
8 相談窓口	—	法律・行政・健康・福祉・子ども・女性に関する相談窓口などの案内	15.9%
9 情報ひろば	—	県や国などからのお知らせ	20.3%
10 市民俳歌柳壇	カラー	市民から投稿された俳句・短歌・川柳を紹介	6.6%
11 外国人向け情報	巻末カラー	外国人住民向けの相談窓口など	1.3%
12 はつらつ宮っこ	巻末カラー	輝いている市民を紹介	13.3%
13 教えてイトコうつのみや	巻末カラー	とちぎテレビ連動企画。リポーター井上マーさんが街を歩き宇都宮を紹介	13.0%
14 LRT宇都宮旅	巻末カラー	宇都宮ケーブルテレビ連動企画。LRTや沿線の魅力などを紹介	11.3%
15 マンガ 「雷都さんちの令和LIFE」	巻末カラー	マンガを通じて、耳寄り情報などを紹介	11.0%
16 読者の声	巻末カラー	広報うつのみやを読んだ方からの意見を紹介	9.3%
17 情報カレンダー	巻末カラー	市のイベントカレンダー	36.9%
(無回答)			6.0%

<図IV-2-21>全体



問5で「広報うつのみや」を入手していると答えた人(301人)に、どのような記事を主に読んでいるかについてお聞きしたところ、1位が「市政情報」で53.5%、2位「各施設の催し」で41.2%、3位「政策特集(広報うつのみやプラス)」で39.2%、4位「情報カレンダー」で36.9%、5位「特集」で36.2%、6位「教室・講座・催し」の35.9%であった。(図IV-2-21)

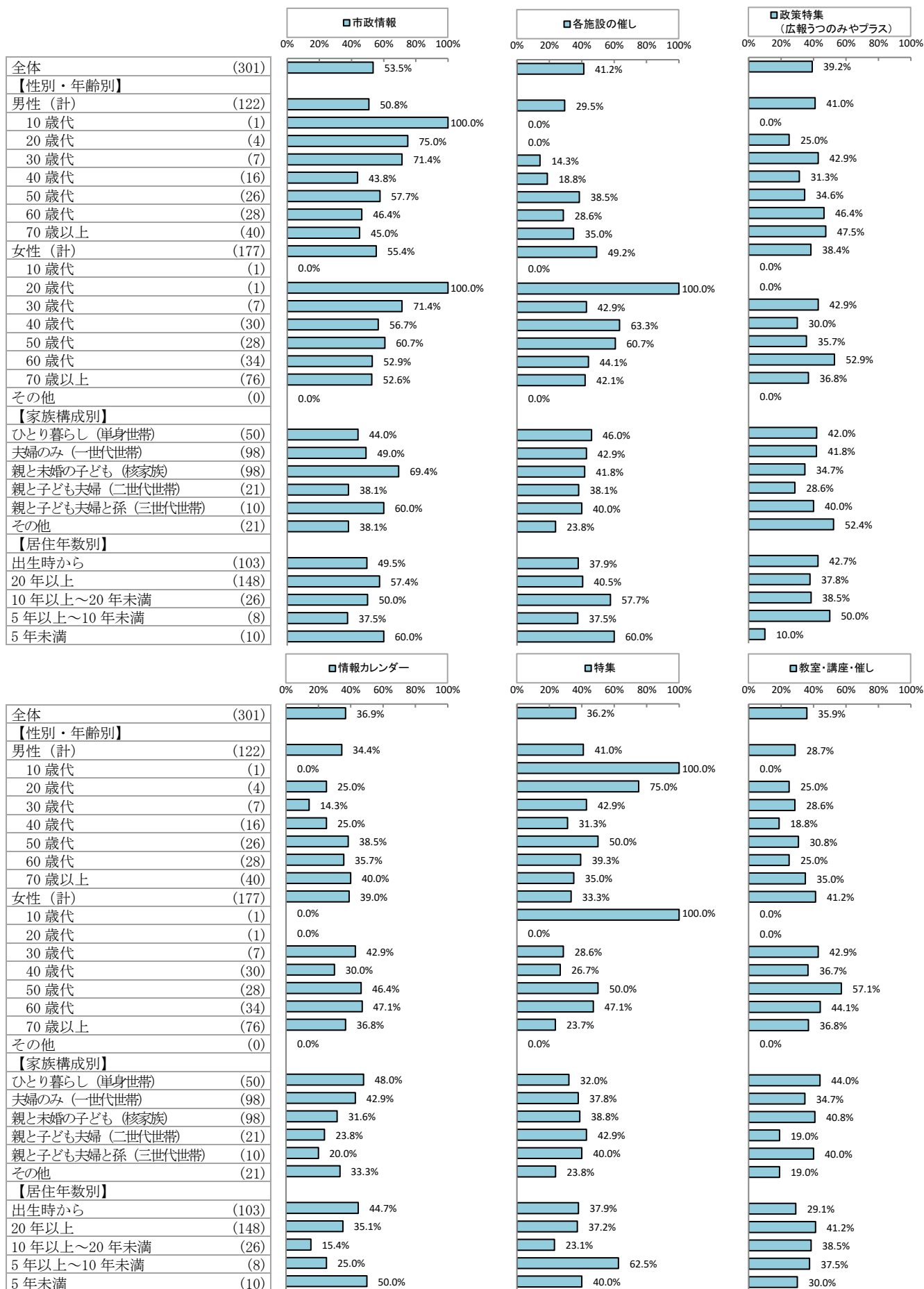
<参考>

上位6項目について性別・年齢別でみると、「市政情報」は<男性/10歳代><女性/10歳代>がともに100.0%、<男性/20歳代>が75.0%、「各施設の催し」は<女性/20歳代>が100.0%、<女性/40歳代>が63.3%、「政策特集(広報うつのみやプラス)」は<女性/60歳代>が52.9%であった。(図IV-2-22)

上位6項目について家族構成別でみると、「市政情報」は<親と未婚の子ども(核家族)>が69.4%で最も高かった。「各施設の催し」は<ひとり暮らし(単身世帯)>が46.0%で最も高かった。「政策特集(広報うつのみやプラス)」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が52.4%で最も高かった。(図IV-2-22)

上位6項目について居住年数別でみると、「市政情報」は<5年未満>が60.0%で最も高かった。「各施設の催し」は<5年未満>が60.0%で最も高かった。「政策特集(広報うつのみやプラス)」は<5年以上~10年未満>が50.0%で最も高かった。(図IV-2-22)

<図IV-2-22>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別（上位6項目）



(5) 広報うつのみやに関する感想, 取り上げてほしい話題・情報

問8 広報うつのみやに関する感想, 取り上げてほしい話題や情報などをお書きください。

広報紙やホームページで充実してほしい記事や情報, 改善してほしい点などについては, 以下のような意見があった。(原文のまま)

【情報】

- ◆ 高校野球の決勝戦くらいは放送してほしい。(70代)
- ◆ 宇都宮の市街で行われる催事の月日, 例えばだるま市, etc. (70代)
- ◆ 高齢者の仕事やアルバイト情報。(70代)
- ◆ 小中学校や学校地域協議会の活動内容。(50代)
- ◆ ペットの24時間病院に関する情報を知りたいです。(40代)
- ◆ JRバスの情報(60代)
- ◆ フリーマーケットなどの情報。(50代)
- ◆ 健康。(60代)
- ◆ 宇都宮駅周辺の再開発の構想や都市計画道路の進捗をもっと取り上げて欲しい。(30代)
- ◆ 歴史講座的なシリーズもの。(70代)
- ◆ 学校の部活。(50代)

【見やすさ・分かりやすさ】

- ◆ 読みやすく今のところ特別な希望はない。(60代)
- ◆ 宇都宮の動きがわかりやすい。(70代)
- ◆ 知りたい情報にアクセスしにくい。情報の分類をはっきりさせ必要な情報がどこに掲載されているかわかりやすくしてほしい。継続しているものは端折ることでボリュームも少なくしてほしい。(70代)

【その他】

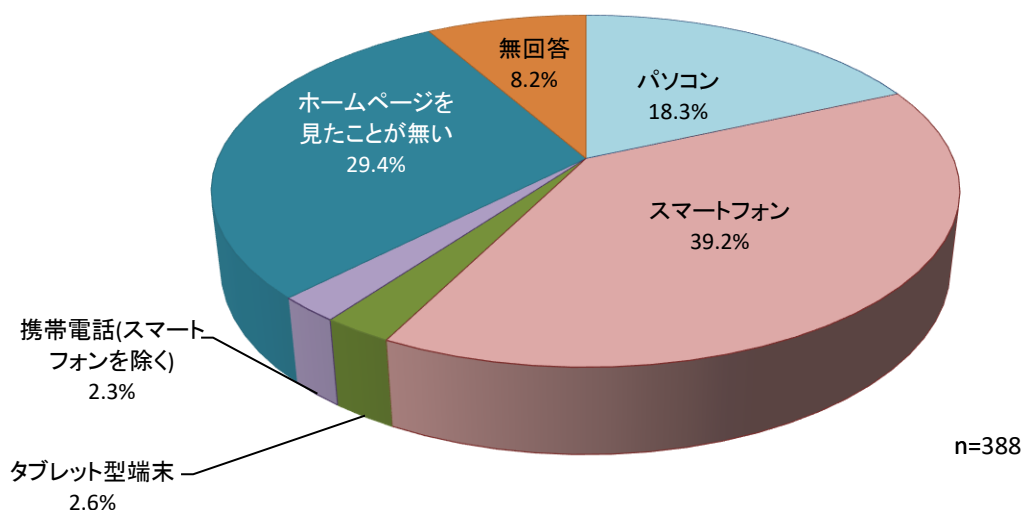
- ◆ 1月号~12月号まで, 毎月, 一年12回新聞と共に入ってくるがとても嬉しいです。これからもためになるし, うつのみやをより知るために続けてください。(50代)
- ◆ 大通りのメインストリートがもっともっと充実してほしい。メインが栄えれば裏通りにもお店が増えて人が沢山集まると思うから, 現実的に魅力的な街になることを考えてほしいです。(60代)
- ◆ 空屋問題, 共同墓地問題, 世話をする人がいないと雑草とか下手すると雑木林に?相談窓口というページに入るかもしれませんが。(60代)
- ◆ 他市町村とのコラボ。(30代)
- ◆ なぜかいつもイベントが終わってから情報を新聞で知ります。(60代)

(6) 市のホームページを見るための主な手段

◇ 「スマートフォン」が約4割

問9 市ではホームページを開発しています。ホームページを見るための主な手段は何ですか。		(○は1つ)
		n=388
1	パソコン	18.3%
2	スマートフォン	39.2%
3	タブレット型端末	2.6%
4	携帯電話 (スマートフォンを除く)	2.3%
5	ホームページを見たことが無い (無回答)	29.4% 8.2%

<図IV-2-23>全体



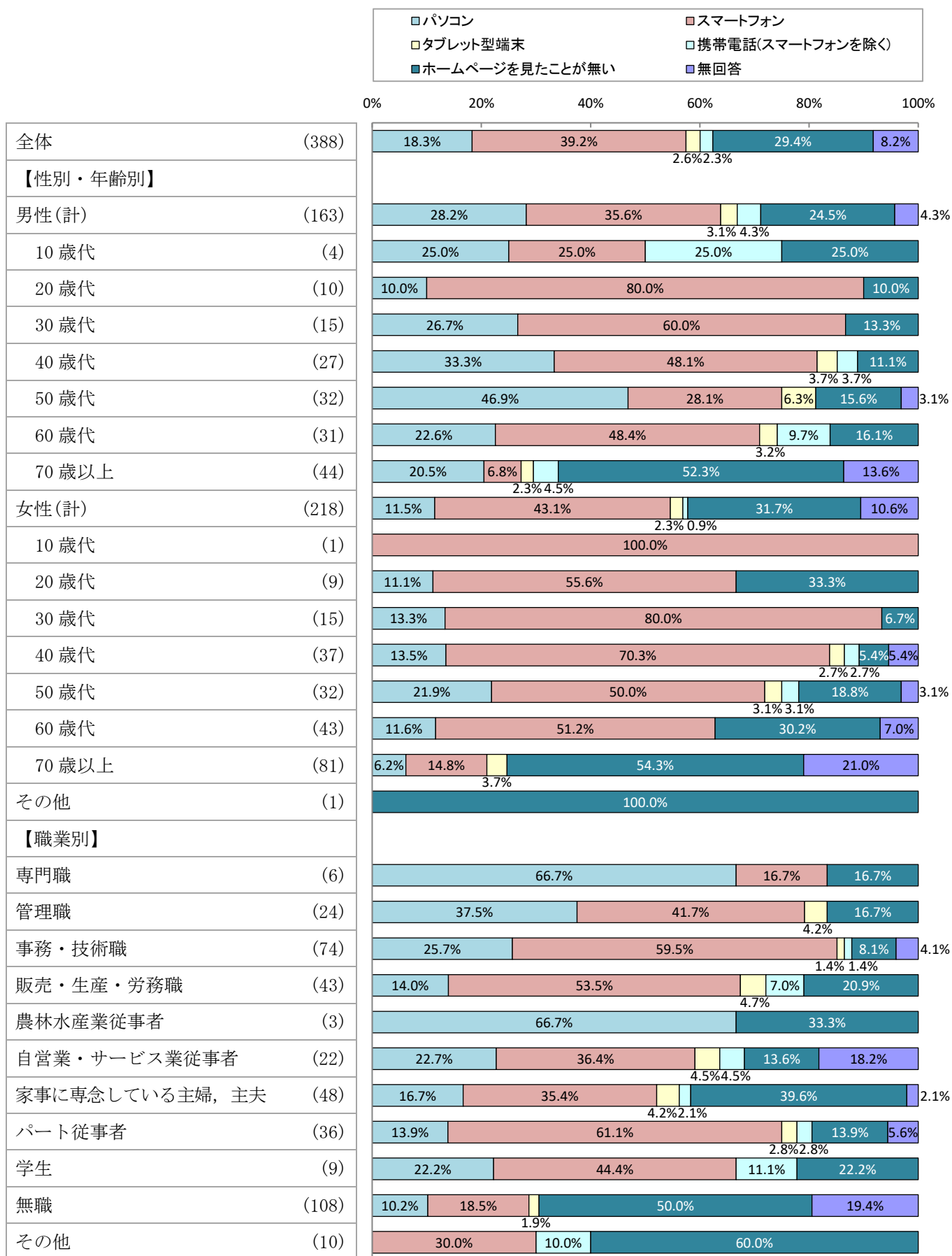
市のホームページを見るための主な手段は、「スマートフォン」が39.2%で最も高かった。次いで「パソコン」が18.3%であった。(図IV-2-23)

<参考>

性別・年齢別でみると、「スマートフォン」は<女性/10歳代>が100.0%、<男性/20歳代><女性/30歳代>がともに80.0%であった。「パソコン」は<男性/50歳代>が46.9%、<男性/40歳代>が33.3%であった。(図IV-2-24)

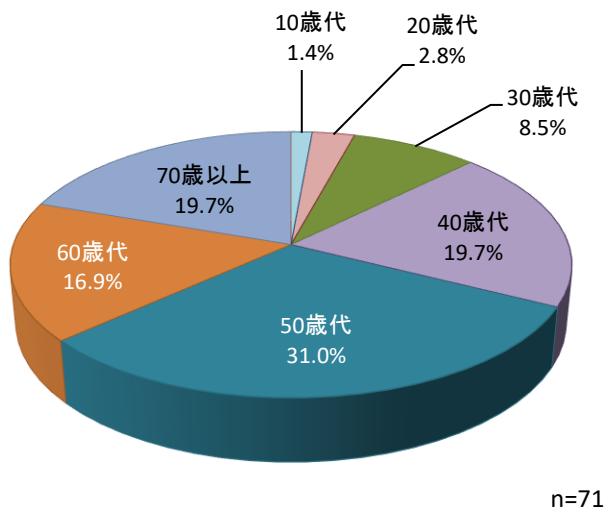
職業別でみると、「スマートフォン」は<パート従事者>が61.1%で最も高く、次いで<事務・技術職>が59.5%であった。「パソコン」は<専門職><農林水産業従事者>が66.7%で最も高かった。(図IV-2-24)

<図IV-2-24>性別・年齢別／職業別



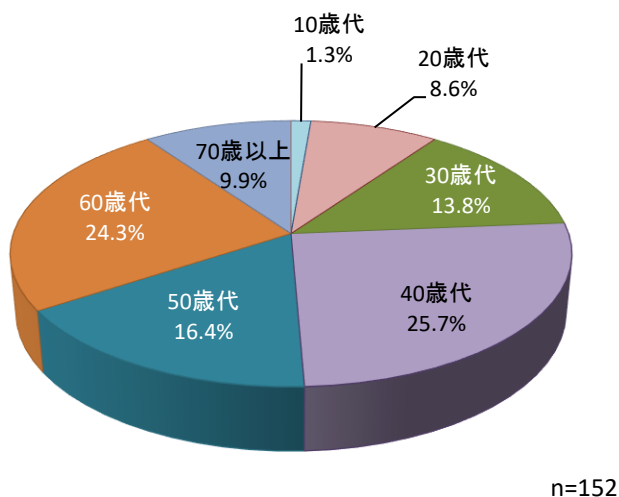
<図IV-2-25> 【パソコン】年齢別

【年齢別】	
10歳代	1.4%
20歳代	2.8%
30歳代	8.5%
40歳代	19.7%
50歳代	31.0%
60歳代	16.9%
70歳以上	19.7%
無回答	0.0%



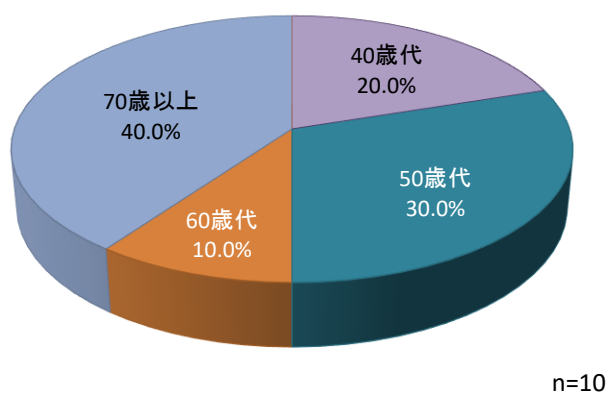
<図IV-2-26> 【スマートフォン】年齢別

【年齢別】	
10歳代	1.3%
20歳代	8.6%
30歳代	13.8%
40歳代	25.7%
50歳代	16.4%
60歳代	24.3%
70歳以上	9.9%
無回答	0.0%



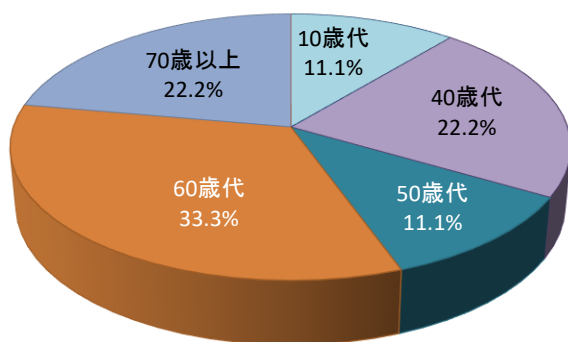
<図IV-2-27> 【タブレット型端末】年齢別

【年齢別】	
10歳代	0.0%
20歳代	0.0%
30歳代	0.0%
40歳代	20.0%
50歳代	30.0%
60歳代	10.0%
70歳以上	40.0%
無回答	0.0%



<図IV-2-28> 【携帯電話（スマートフォンを除く）】年齢別

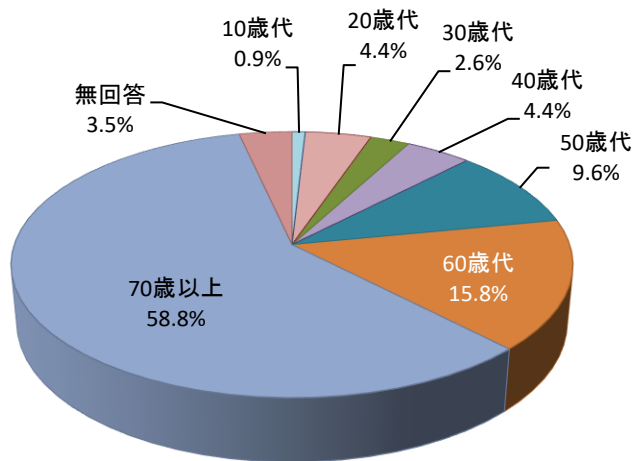
【年齢別】	
10歳代	11.1%
20歳代	0.0%
30歳代	0.0%
40歳代	22.2%
50歳代	11.1%
60歳代	33.3%
70歳以上	22.2%
無回答	0.0%



n=9

<図IV-2-29> 【ホームページを見たことがない】年齢別

【年齢別】	
10歳代	0.9%
20歳代	4.4%
30歳代	2.6%
40歳代	4.4%
50歳代	9.6%
60歳代	15.8%
70歳以上	58.8%
無回答	3.5%



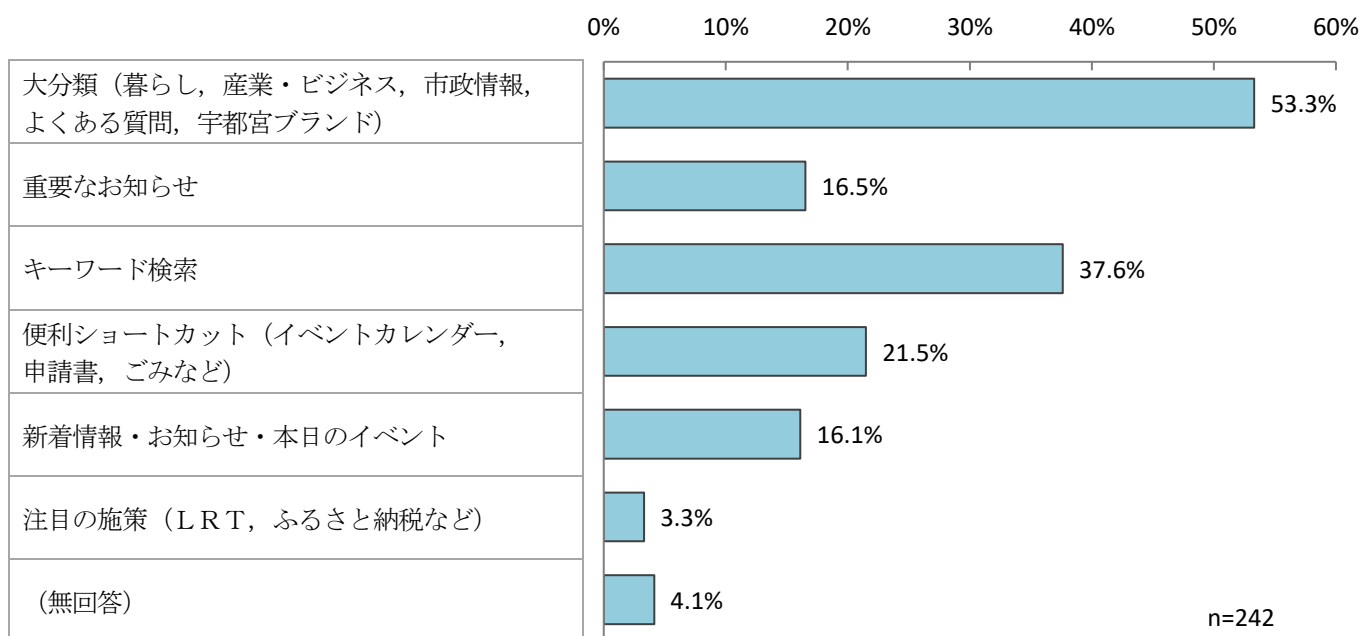
n=114

(7) ホームページで知りたい情報はどこから探すか

◇「大分類（暮らし、産業・ビジネス、市政情報、よくある質問、宇都宮ブランド）」が5割強

問10	問9で1～4に○をつけた方にお聞きします。 ホームページで知りたい情報をトップ画面のどこから探しますか。(○は3つまで)	n=242
1	大分類（暮らし、産業・ビジネス、市政情報、よくある質問、宇都宮ブランド）	53.3%
2	重要なお知らせ	16.5%
3	キーワード検索	37.6%
4	便利ショートカット（イベントカレンダー、申請書、ごみなど）	21.5%
5	新着情報・お知らせ・本日のイベント	16.1%
6	注目の施策（LRT、ふるさと納税など）	3.3%
	（無回答）	4.1%

<図IV-2-30>全体



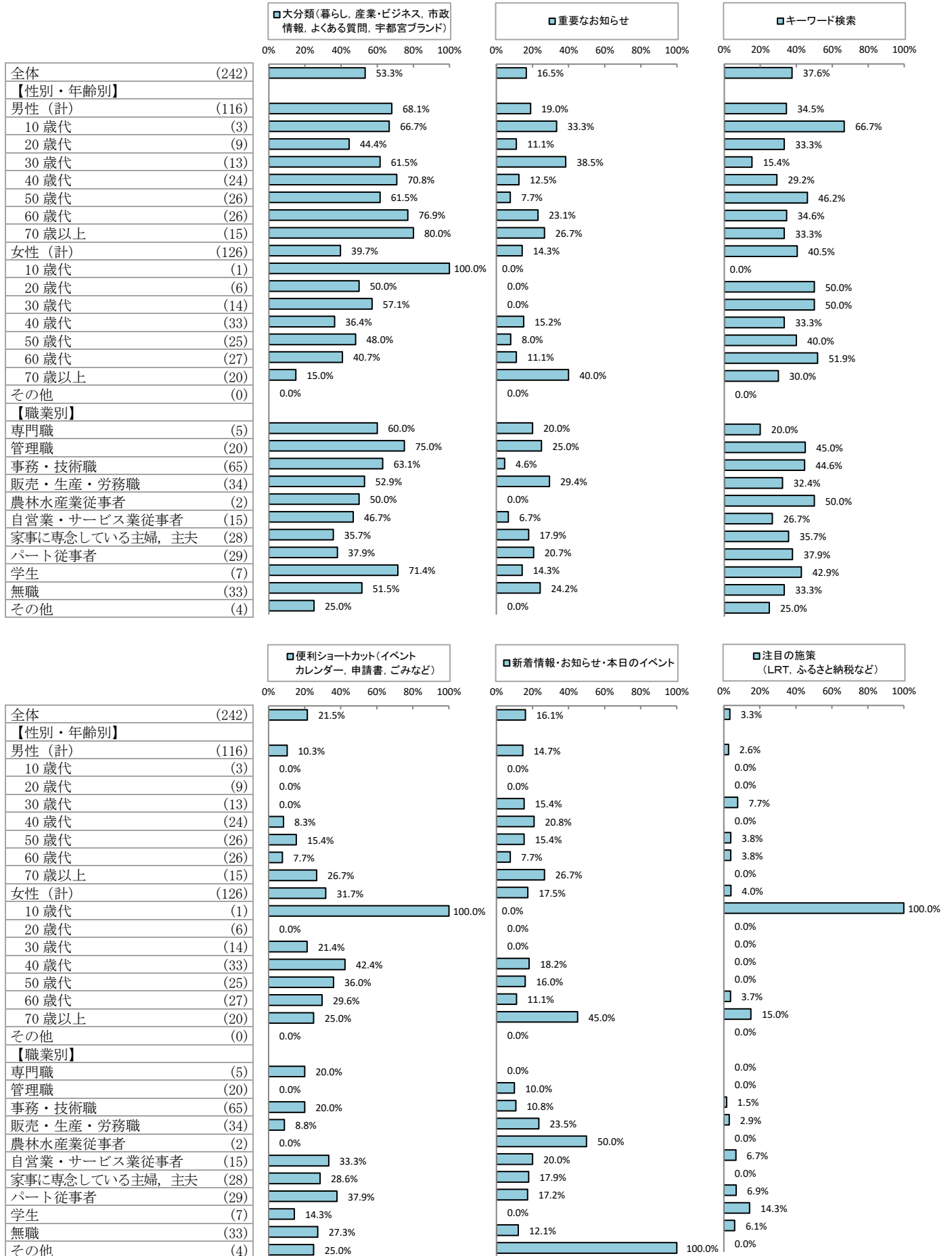
市ホームページで知りたい情報はどこから探すかは、「大分類（暮らし、産業・ビジネス、市政情報、よくある質問、宇都宮ブランド）」が53.3%で最も高く、次いで「キーワード検索」が37.6%、「便利ショートカット（イベントカレンダー、申請書、ごみなど）」が21.5%と続いている。（図IV-2-30）

<参考>

性別・年齢別でみると、「大分類（暮らし、産業・ビジネス、市政情報、よくある質問、宇都宮ブランド）」は<女性/10歳代>が100.0%、<男性/70歳以上>が80.0%であった。「キーワード検索」は<男性/10歳代>が66.7%、<女性/60歳代>51.9%であった。（図IV-2-31）

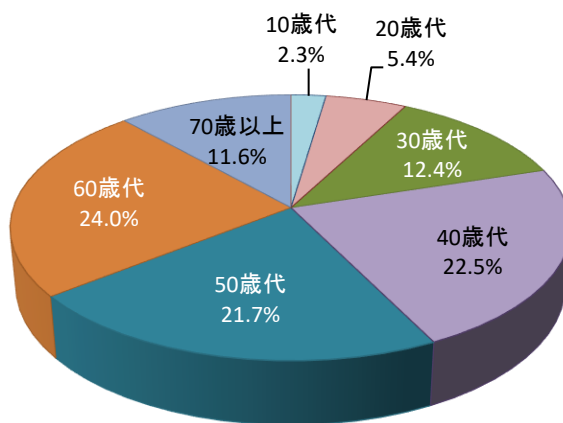
職業別でみると、「大分類（暮らし、産業・ビジネス、市政情報、よくある質問、宇都宮ブランド）」は<管理職>が75.0%で最も高く、次いで<学生>が71.4%であった。「キーワード検索」は<農林水産従事者>が50.0%、次いで<管理職><事務・技術職>が4割半ばであった。（図IV-2-31）

<図IV-2-31>性別・年齢別／職業別



<図IV-2-32> 【大分類（暮らし，産業・ビジネス，市政情報，よくある質問，宇都宮ブランド）】年齢別

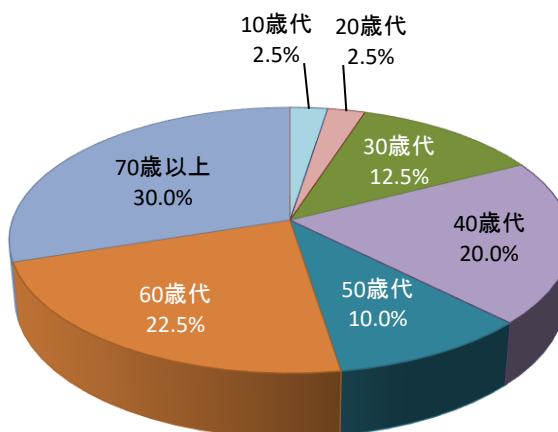
【年齢別】	
10歳代	2.3%
20歳代	5.4%
30歳代	12.4%
40歳代	22.5%
50歳代	21.7%
60歳代	24.0%
70歳以上	11.6%
無回答	0.0%



n=129

<図IV-2-33> 【重要なお知らせ】年齢別

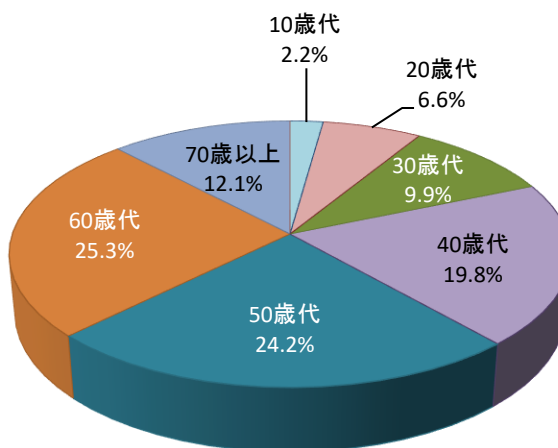
【年齢別】	
10歳代	2.5%
20歳代	2.5%
30歳代	12.5%
40歳代	20.0%
50歳代	10.0%
60歳代	22.5%
70歳以上	30.0%
無回答	0.0%



n=40

<図IV-2-34> 【キーワード検索】年齢別

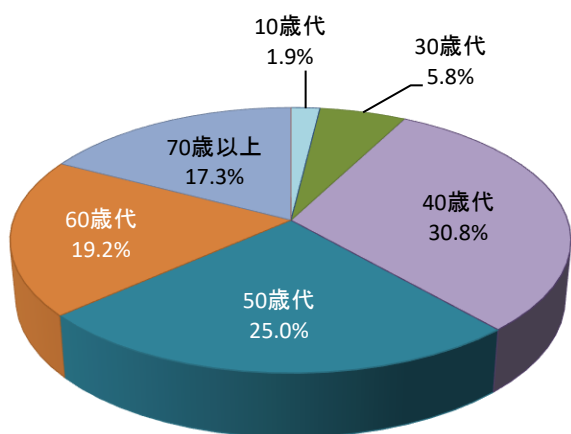
【年齢別】	
10歳代	2.2%
20歳代	6.6%
30歳代	9.9%
40歳代	19.8%
50歳代	24.2%
60歳代	25.3%
70歳以上	12.1%
無回答	0.0%



n=91

<図IV-2-35> 【便利ショートカット（イベントカレンダー，申請書，ごみなど）】年齢別

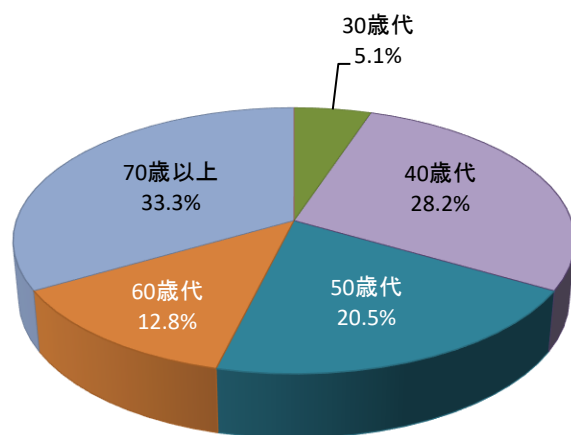
【年齢別】	
10歳代	1.9%
20歳代	0.0%
30歳代	5.8%
40歳代	30.8%
50歳代	25.0%
60歳代	19.2%
70歳以上	17.3%
無回答	0.0%



n=52

<図IV-2-36> 【新着情報・お知らせ・本日のイベント】年齢別

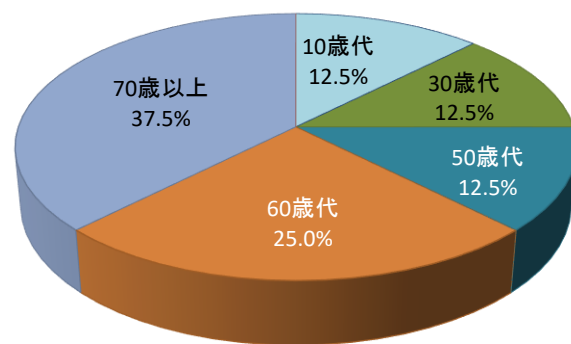
【年齢別】	
10歳代	0.0%
20歳代	0.0%
30歳代	5.1%
40歳代	28.2%
50歳代	20.5%
60歳代	12.8%
70歳以上	33.3%
無回答	0.0%



n=39

<図IV-2-37> 【注目の施策（LRT，ふるさと納税など）】年齢別

【年齢別】	
10歳代	12.5%
20歳代	0.0%
30歳代	12.5%
40歳代	0.0%
50歳代	12.5%
60歳代	25.0%
70歳以上	37.5%
無回答	0.0%



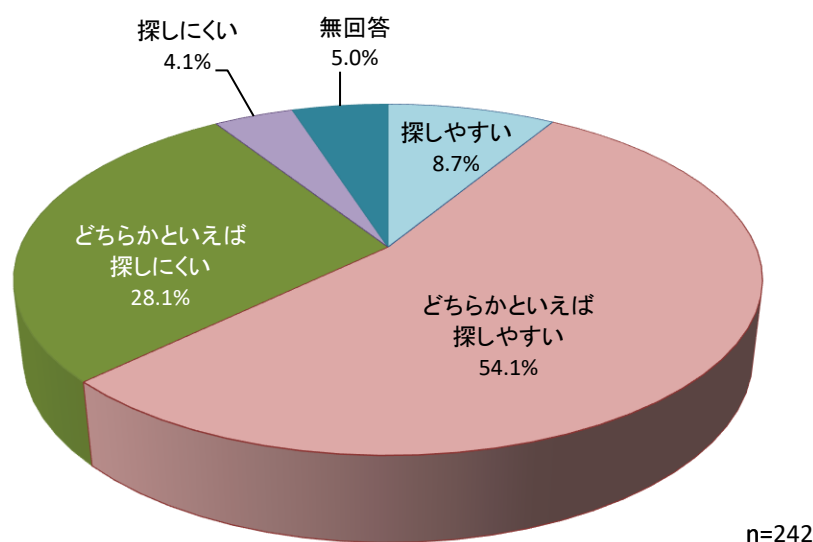
n=8

(8) ホームページを利用して知りたい情報は探しやすいか

◇「探しやすい」と「どちらかといえば探しやすい」を合わせた【探しやすい(計)】が6割強

問11	問9で1～4に○をつけた方にお聞きします。	
	ホームページを利用して知りたい情報は探しやすいですか。	(○は1つ)
		n=242
1	探しやすい	8.7%
2	どちらかといえば探しやすい	54.1%
3	どちらかといえば探しにくい	28.1%
4	探しにくい	4.1%
	(無回答)	5.0%

<図IV-2-38>全体



ホームページで知りたい情報は探しやすいかについて、「探しやすい」が8.7%、「どちらかといえば探しやすい」が54.1%で、これらを合わせた【探しやすい(計)】が62.8%であった。一方、「どちらかといえば探しにくい」が28.1%、「探しにくい」4.1%で、これらを合わせた【探しにくい(計)】が32.2%であった。

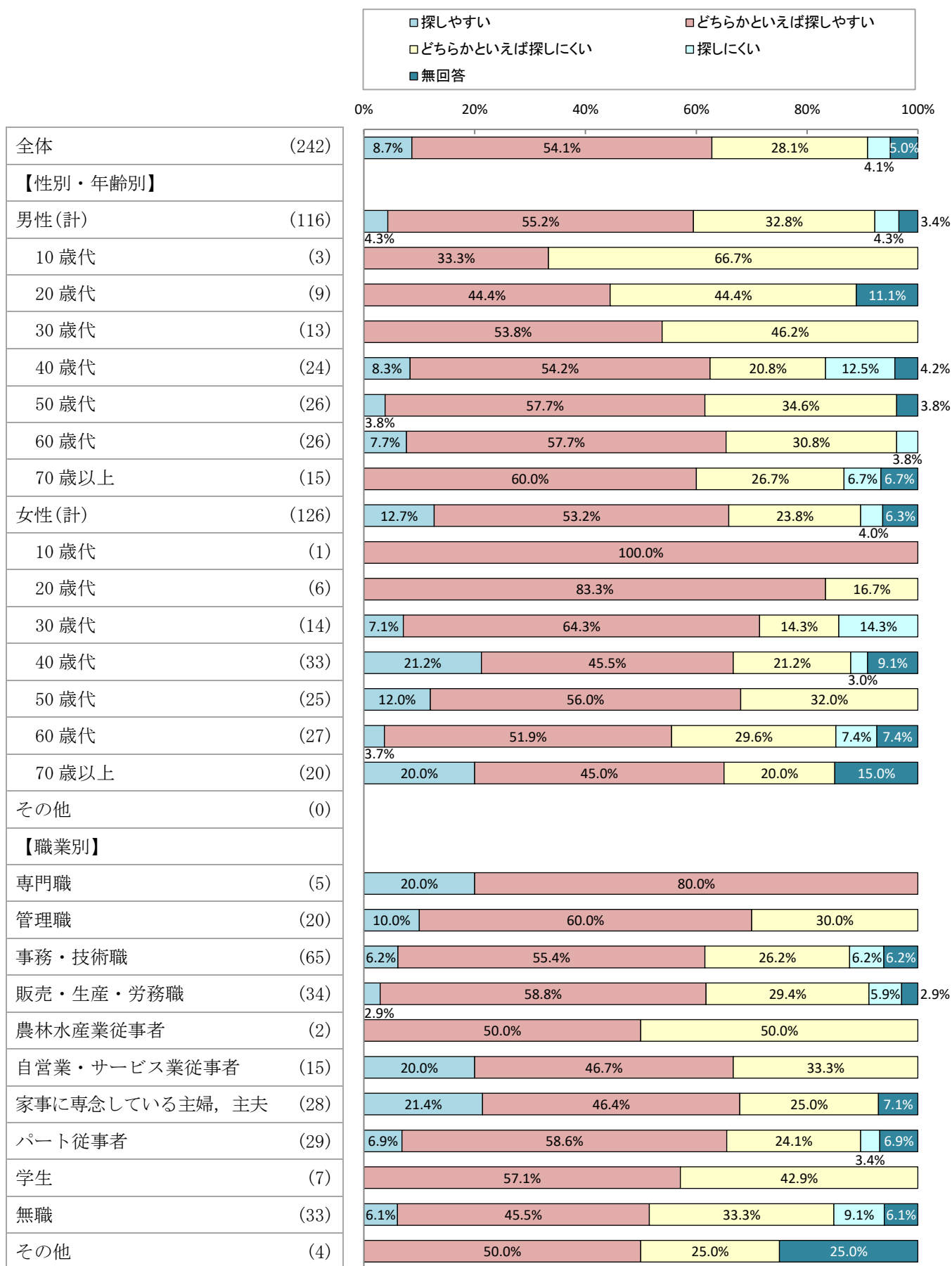
(図IV-2-38)

<参考>

性別・年齢別でみると、【探しやすい(計)】は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/20歳代>が83.3%であった。一方、【探しにくい(計)】は<男性/10歳代>が66.7%で最も高く、次いで<男性/30歳代>が46.2%であった。(図IV-2-39)

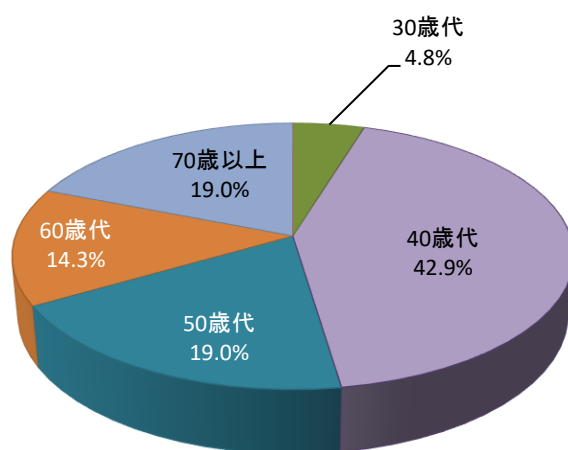
職業別でみると、【探しやすい(計)】は、<専門職>が100.0%で最も高く、次いで<管理職>が70.0%であった。一方、【探しにくい(計)】は<農林水産業従事者>が50.0%で最も高く、次いで<学生>が42.9%であった。(図IV-2-39)

<図IV-2-39>性別・年齢別／職業別



<図IV-2-40> 【探しやすい】年齢別

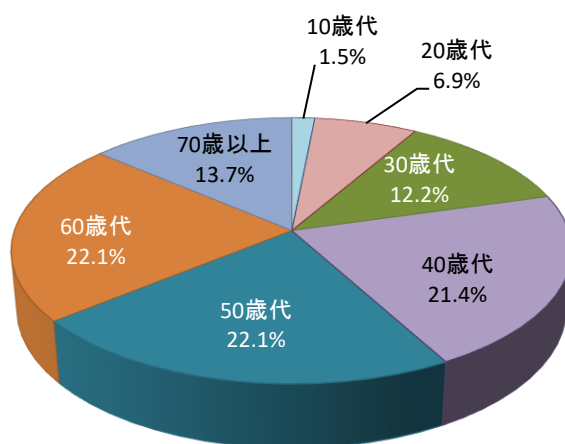
【年齢別】	
10 歳代	0.0%
20 歳代	0.0%
30 歳代	4.8%
40 歳代	42.9%
50 歳代	19.0%
60 歳代	14.3%
70 歳以上	19.0%
無回答	0.0%



n=21

<図IV-2-41> 【どちらかといえば探しやすい】年齢別

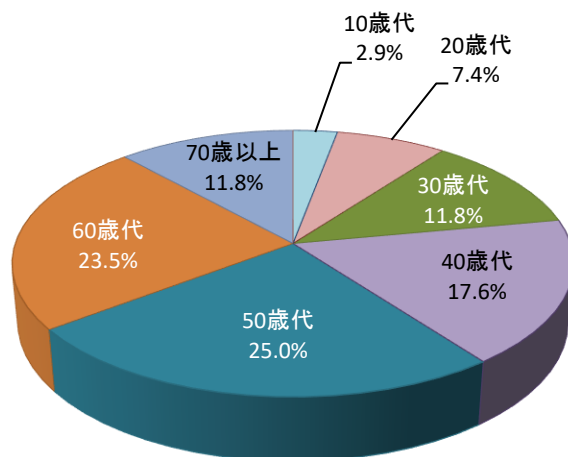
【年齢別】	
10 歳代	1.5%
20 歳代	6.9%
30 歳代	12.2%
40 歳代	21.4%
50 歳代	22.1%
60 歳代	22.1%
70 歳以上	13.7%
無回答	0.0%



n=131

<図IV-2-42> 【どちらかといえば探しにくい】年齢別

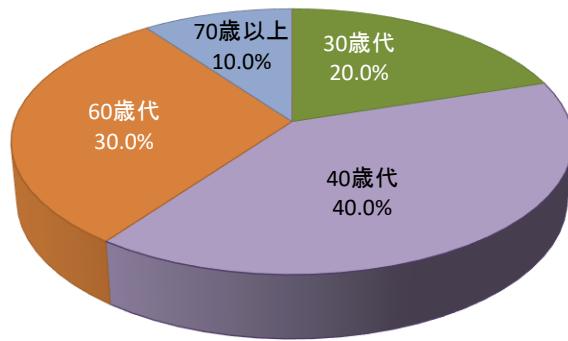
【年齢別】	
10 歳代	2.9%
20 歳代	7.4%
30 歳代	11.8%
40 歳代	17.6%
50 歳代	25.0%
60 歳代	23.5%
70 歳以上	11.8%
無回答	0.0%



n=68

<図IV-2-43> 【探しにくい】年齢別

【年齢別】	
10 歳代	0.0%
20 歳代	0.0%
30 歳代	20.0%
40 歳代	40.0%
50 歳代	0.0%
60 歳代	30.0%
70 歳以上	10.0%
無回答	0.0%



n=10

(9) ホームページに関する感想，充実してほしい機能や情報

問 1 2 ホームページに関する感想，充実してほしい機能や情報などをお書きください。

ホームページに関する感想，充実してほしい機能や情報などについては，以下のような意見があった。(原文のまま)

【情報】

- ◆ イベント情報・補助金や優遇制度などの周知。(50代)
- ◆ 福祉サービス情報が今後充実すればありがたいです。(40代)
- ◆ 宇都宮の未来計画は何年先まで考えているのか，3年後，5年後，10年後くらいまでをとりあえず知りたい。(70代)
- ◆ 市独自の補助金やイベント情報などのページが前面に出ているとありがたいです。(30代)
- ◆ より最新の情報が見られるようにしてほしい。特に災害時の避難場所の案内や被害の想定など。(70代)
- ◆ 子どもの教育に関する情報を充実させてほしい。(30代)
- ◆ 飲食店情報。(60代)

【見やすさ・分かりやすさ】

- ◆ ゴミの分別で，キーワードを入れるとすぐ検索できる機能をいれてほしい。知りたい情報を調べるのに手間がかかるのもう少し使いやすくしてほしい。(50代)
- ◆ もっと簡易に見やすくしてほしい。(50代)
- ◆ コロナになったときだけ見た時があり，その時の医療機関の情報についてすぐ調べることができました。(20代)
- ◆ 便利ショートカットが見やすくて便利です。充実してほしい機能ですが，1人暮らしをしている老人のための機能を作してほしいと思います。(40代)
- ◆ アイコンを直感的なものにしてほしい。(50代)
- ◆ 市議会や各種懇談会，協議会の資料や議事録を整理して階層分けして欲しい。(30代)
- ◆ 今回の調査をホームページで検索したが見当たらなかった。ホームページから簡単に飛べるようにしてほしい。(50代)
- ◆ もっとカテゴリー分けしてほしい。(40代)
- ◆ 目当ての情報が探しづらく検索しても出てこない。(30代)

【その他】

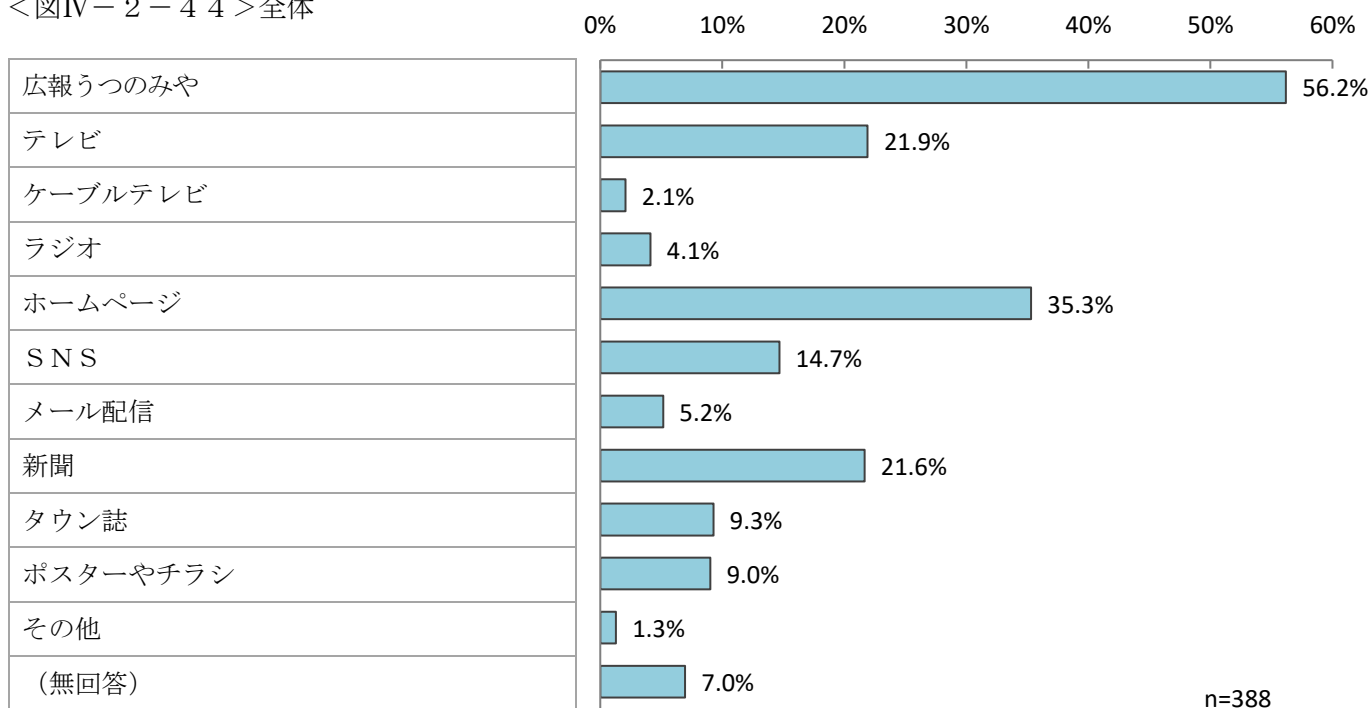
- ◆ 今後も続けてほしい。LRTやバス，タクシー未来の広がり，宇都宮市のイベント情報がたくさん載っているのはためになる。ライトラインの終点に道の駅があるといいと思いました。(50代)
- ◆ 見ることが少ないため，今後もっと見る方向へしてみたいと思った。(60代)
- ◆ あきらめている。よくならないと思う。(40代)
- ◆ 広報うつのみやなど，定期的に見てみたいと思うが，日常で用がない限り，辿り着かない。また宇都宮のホームページトップに行く機会はほぼなく，Googleなどの検索サイトから，宇都宮市・ごみなどで検索する方が多い。(30代)
- ◆ LINEでお知らせが入らないかな。(60代)

(10) 市政情報をどんな手段で知りたいか

◇ 「広報うつのみや」が5割半ば

問 1 3 今後、市政情報をどんな手段で知りたいですか。		(○は3つまで)
		n=388
1	広報うつのみや	56.2%
2	テレビ	21.9%
3	ケーブルテレビ	2.1%
4	ラジオ	4.1%
5	ホームページ	35.3%
6	SNS	14.7%
7	メール配信	5.2%
8	新聞	21.6%
9	タウン誌	9.3%
10	ポスターやチラシ	9.0%
11	その他	1.3%
	(無回答)	7.0%

<図IV-2-44>全体



市政情報をどんな手段で知りたいかについては、「広報うつのみや」が56.2%で最も高く、次いで「ホームページ」が35.3%、「テレビ」が21.9%、「新聞」が21.6%と続いている。(図IV-2-44)

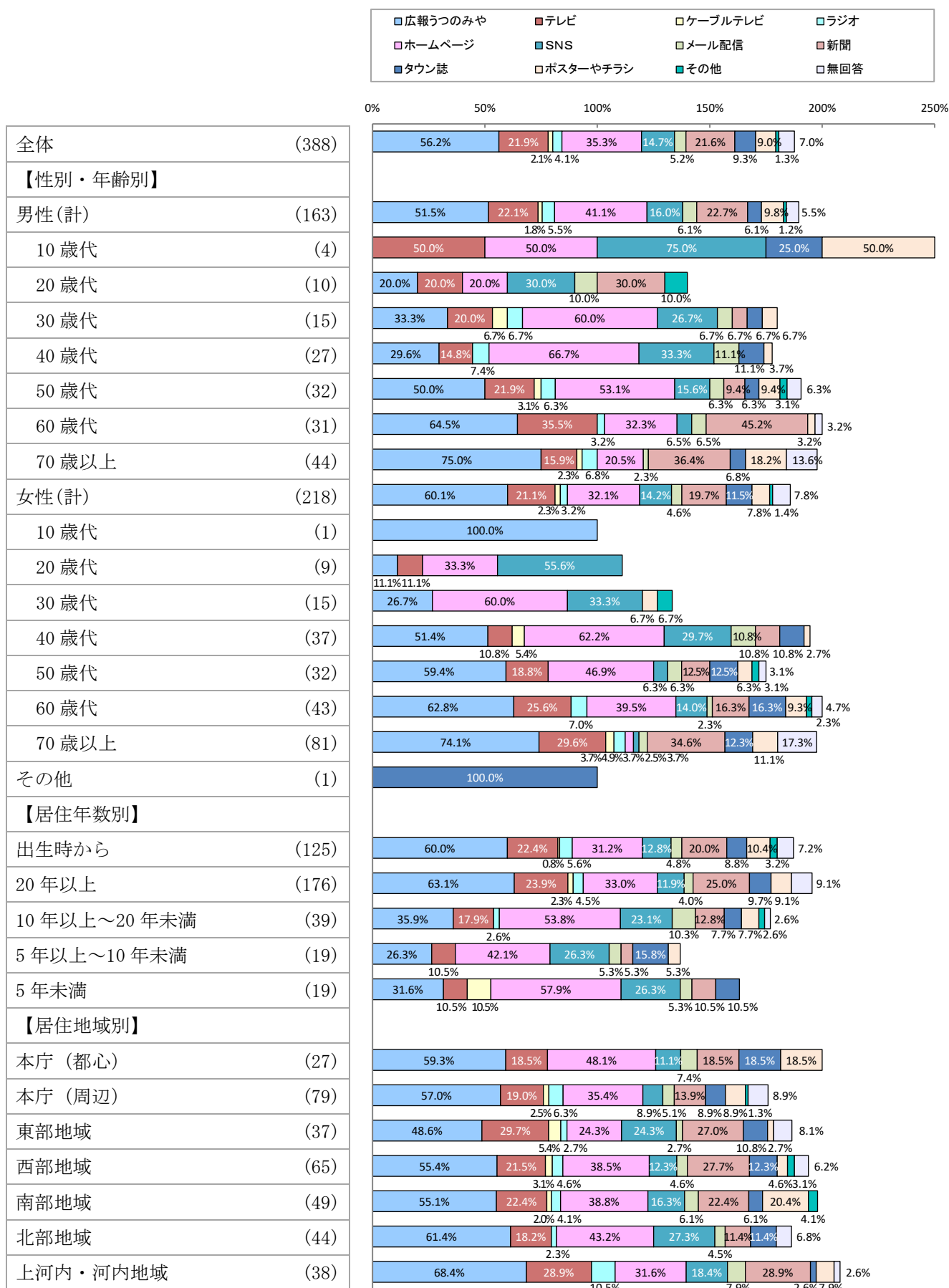
<参考>

性別・年齢別で見ると、「広報うつのみや」は<女性/10歳代>の100.0%を除くと<男性/70歳以上>が75.0%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が74.1%であった。(図IV-2-45)

居住年数別で見ると、「広報うつのみや」は<20年以上>が63.1%で最も高かった。(図IV-2-45)

居住地域別で見ると、「広報うつのみや」は<上河内・河内地域>が68.4%で最も高かった。(図IV-2-45)

<図IV-2-45>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別



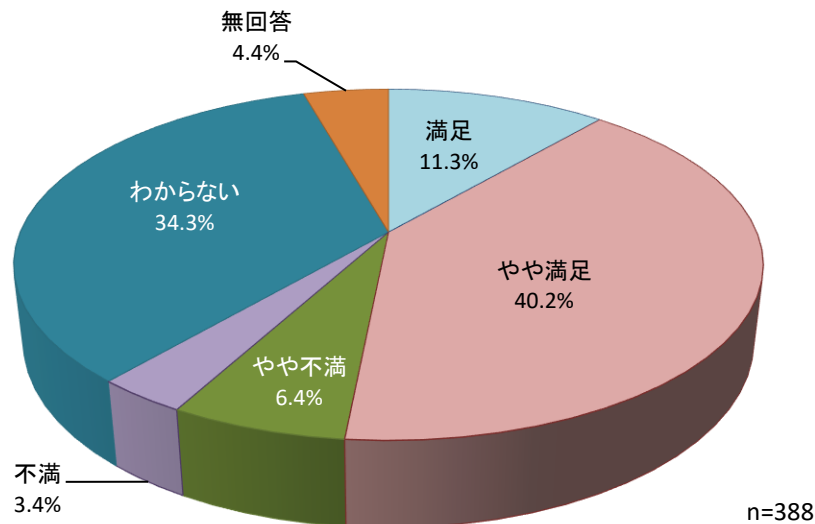
3. 良好な生活環境の確保に係る市民満足度について

(1) 環境負荷の低減が図られた良好な生活環境の確保に向けた施策に満足しているか

◇ 「満足」と「やや満足」を合わせた【満足(計)】が5割強

問14	環境負荷の低減が図られた良好な生活環境の確保に向けた本市の施策(※)に満足していますか。 ※ 本市では、良好な生活環境を確保するため、大気、水質、騒音に係る環境調査や、工場・事業場に対する立入検査・指導、事業者との相互協力による環境保全活動の推進などに取り組んでいます。 (○は1つ)	n=388
1	満足	11.3%
2	やや満足	40.2%
3	やや不満	6.4%
4	不満	3.4%
5	わからない (無回答)	34.3% 4.4%

<図IV-3-1>全体



環境負荷の低減が図られた良好な生活環境の確保に向けた施策に満足しているかについては、「満足」が11.3%、「やや満足」が40.2%で、これらを合わせた【満足(計)】は51.5%であった。一方、「不満」が3.4%で「やや不満」が6.4%で、これらを合わせた【不満(計)】は9.8%であった。(図IV-3-1)

<参考>

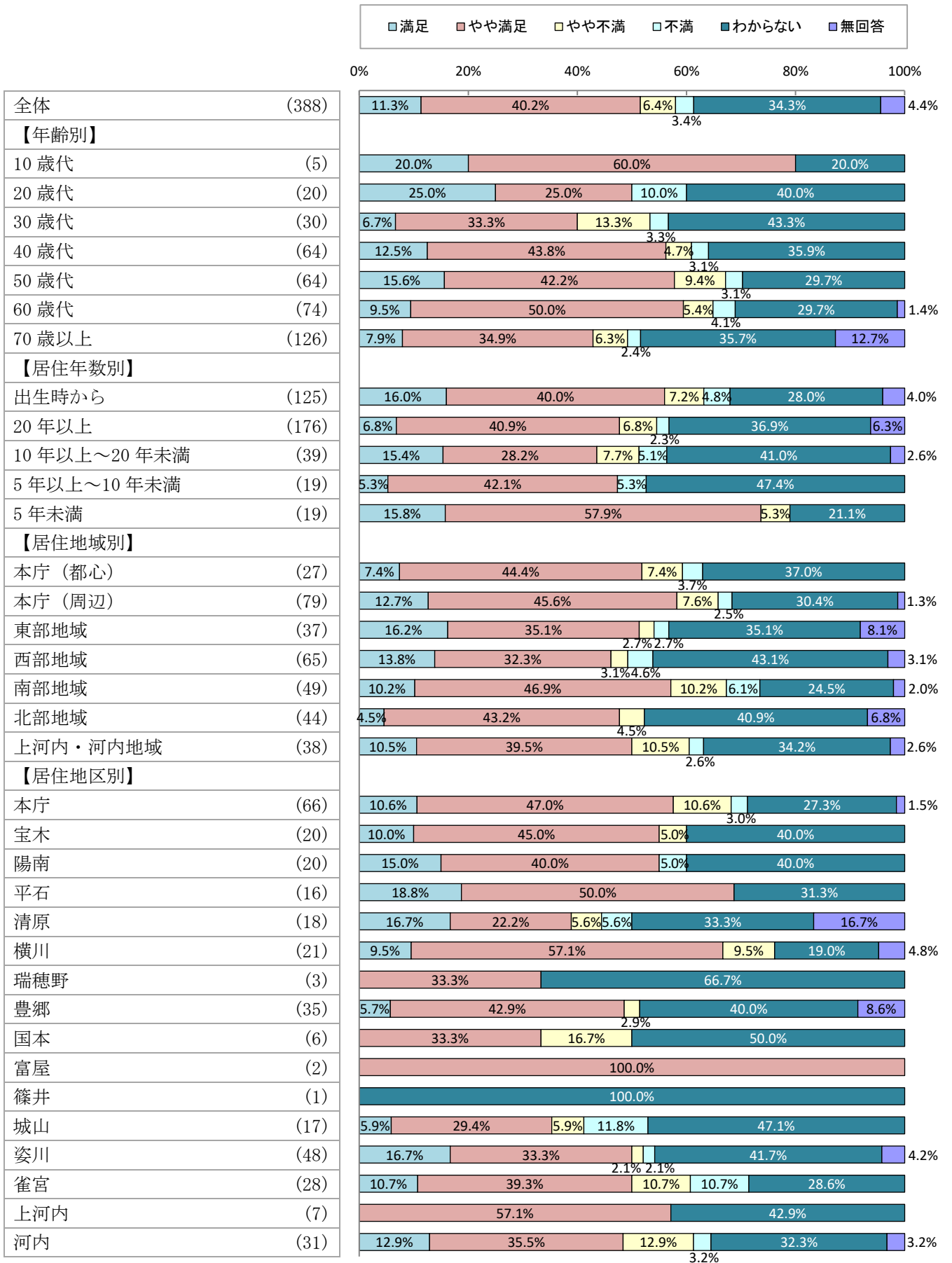
年齢別でみると、【満足(計)】は<10歳代>が80.0%で最も高かった。一方、【不満(計)】は<30歳代>が16.6%で最も高かった。(図IV-3-2)

居住年数別でみると、【満足(計)】は<5年未満>が73.7%で最も高かった。一方、【不満(計)】は<10年以上~20年未満>が12.8%で最も高かった。(図IV-3-2)

居住地域別でみると、【満足(計)】は<本庁(周辺)>が58.3%で最も高かった。一方、【不満(計)】は<南部地域>が16.3%で最も高かった。(図IV-3-2)

居住地区別でみると、【満足(計)】は<富屋>が100.0%、一方、【不満(計)】は<雀宮>が21.4%であった。(図IV-3-2)

<図IV-3-2> 年齢別／居住年数別／居住地域別／居住地区別



4. 生物多様性について

(1) 「生物多様性」の認知度

◇ 「聞いたことはあるが意味は知らなかった」が約4割, 「言葉も意味も知っていた」が3割半ば

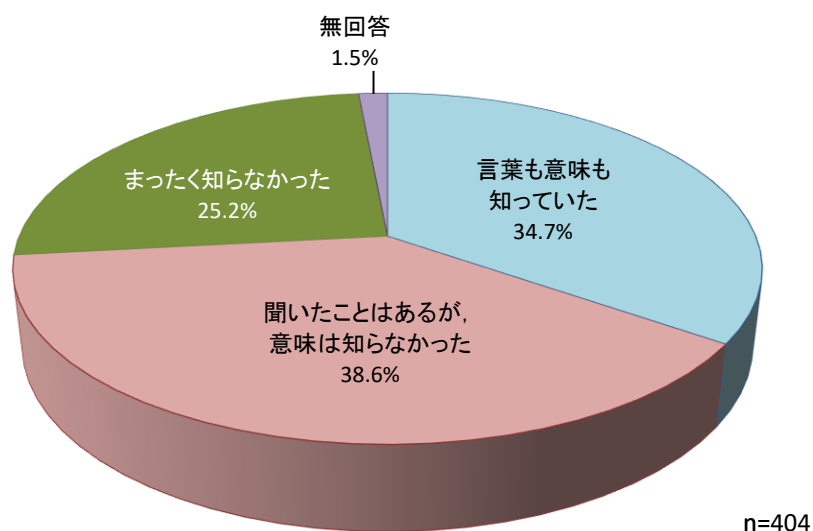
問15 「生物多様性」(※)という言葉を知っていますか。

※「生物多様性」とは、「生きものの個性と自然とのつながりの豊かさ」のことです。地球上には様々な個性を持った生きものがいて、それらが自然環境の中でつながりあっている, ということを知っていれば, 「生物多様性」の言葉も意味も知っていたこととします。(○は1つ)

n=404

1	言葉も意味も知っていた	34.7%
2	聞いたことはあるが, 意味は知らなかった	38.6%
3	まったく知らなかった	25.2%
	(無回答)	1.5%

<図IV-4-1>全体



「生物多様性」という言葉を知っているかについては, 「聞いたことはあるが意味は知らなかった」が38.6%で最も高く, 次いで「言葉も意味も知っていた」が34.7%, 「まったく知らなかった」が25.2%と続いている。(図IV-4-1)

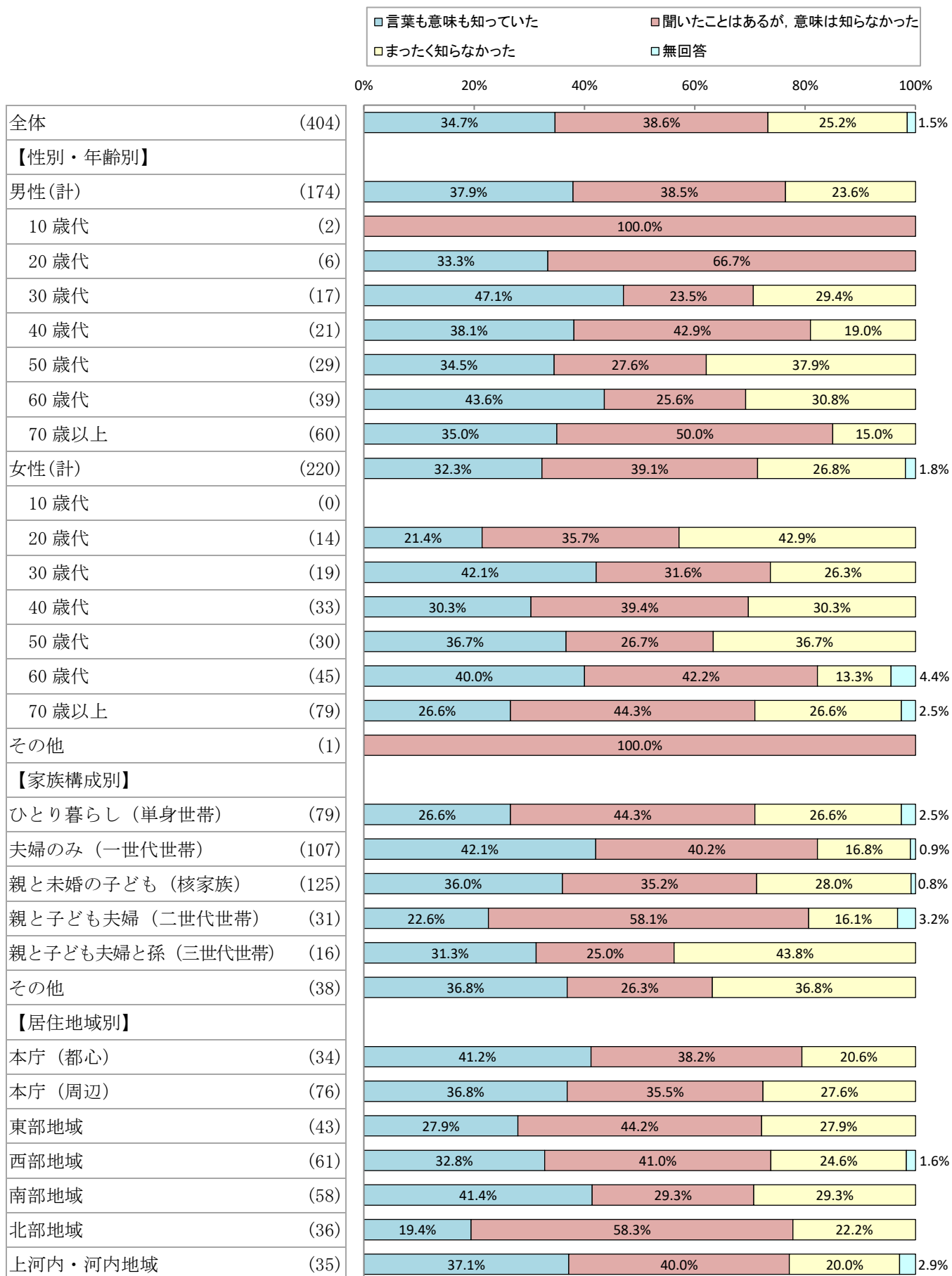
<参考>

性別・年齢別で見ると, 「聞いたことはあるが, 意味は知らなかった」は<その他>を除くと, <男性/10歳代>が100.0%, <男性/20歳代>が66.7%であった。「言葉も意味も知っていた」は<男性/30歳代>が47.1%, <男性/60歳代>が43.6%であった。(図IV-4-2)

家族構成別で見ると, 「聞いたことはあるが, 意味は知らなかった」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が58.1%で最も高く, 次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が44.3%であった。「言葉も意味も知っていた」は<その他>を除くと, <夫婦のみ(一世帯世帯)>が42.1%で最も高く, 次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が36.0%であった。(図IV-4-2)

居住地域別で見ると, 「聞いたことはあるが, 意味は知らなかった」は<北部地域>が58.3%で最も高く, 次いで<東部地域>が44.2%であった。「言葉も意味も知っていた」は<南部地域>が41.4%で最も高く, 次いで<本庁(都心)>が41.2%であった。(図IV-4-2)

<図IV-4-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



(2) 外来種が及ぼす影響の認知度

◇ 「知っていた」が9割弱

問16 外来種(※)が及ぼす影響を知っていますか。

※「外来種」とは、「もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生きもの」のことです。

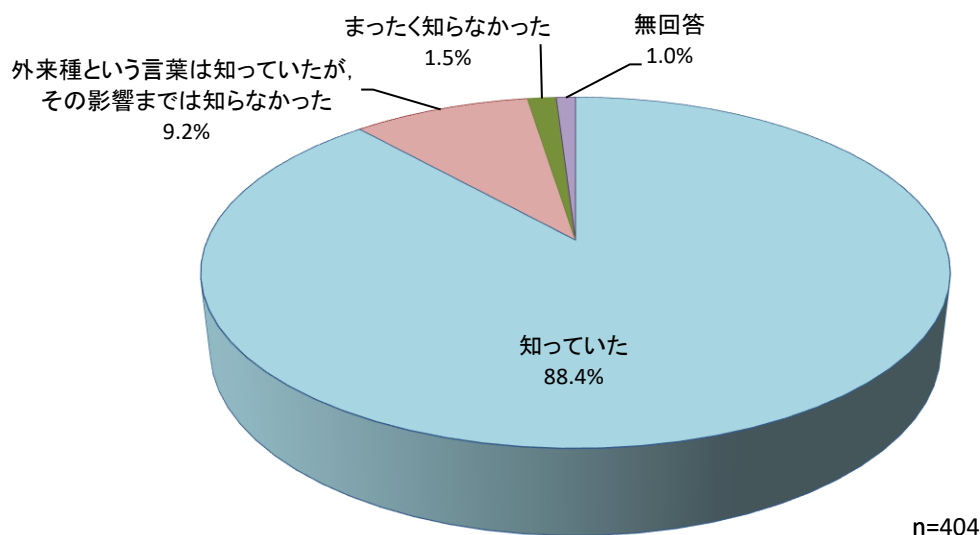
外来種は、もともといた在来の生きものの生息地を奪ったり、人の生命・身体に危険を及ぼしたり、田畑を荒らしたり、様々なことに悪影響を及ぼす場合があります。

このようなことを知っていれば、外来種が及ぼす影響を知っていたこととします。(○は1つ)

n=404

1	知っていた	88.4%
2	外来種という言葉は知っていたが、その影響までは知らなかった	9.2%
3	まったく知らなかった	1.5%
	(無回答)	1.0%

<図IV-4-3>全体



外来種が及ぼす影響を知っているかについては、「知っていた」が88.4%で最も高く、次いで「外来種という言葉は知っていたが、その影響までは知らなかった」が9.2%であった。(図IV-4-3)

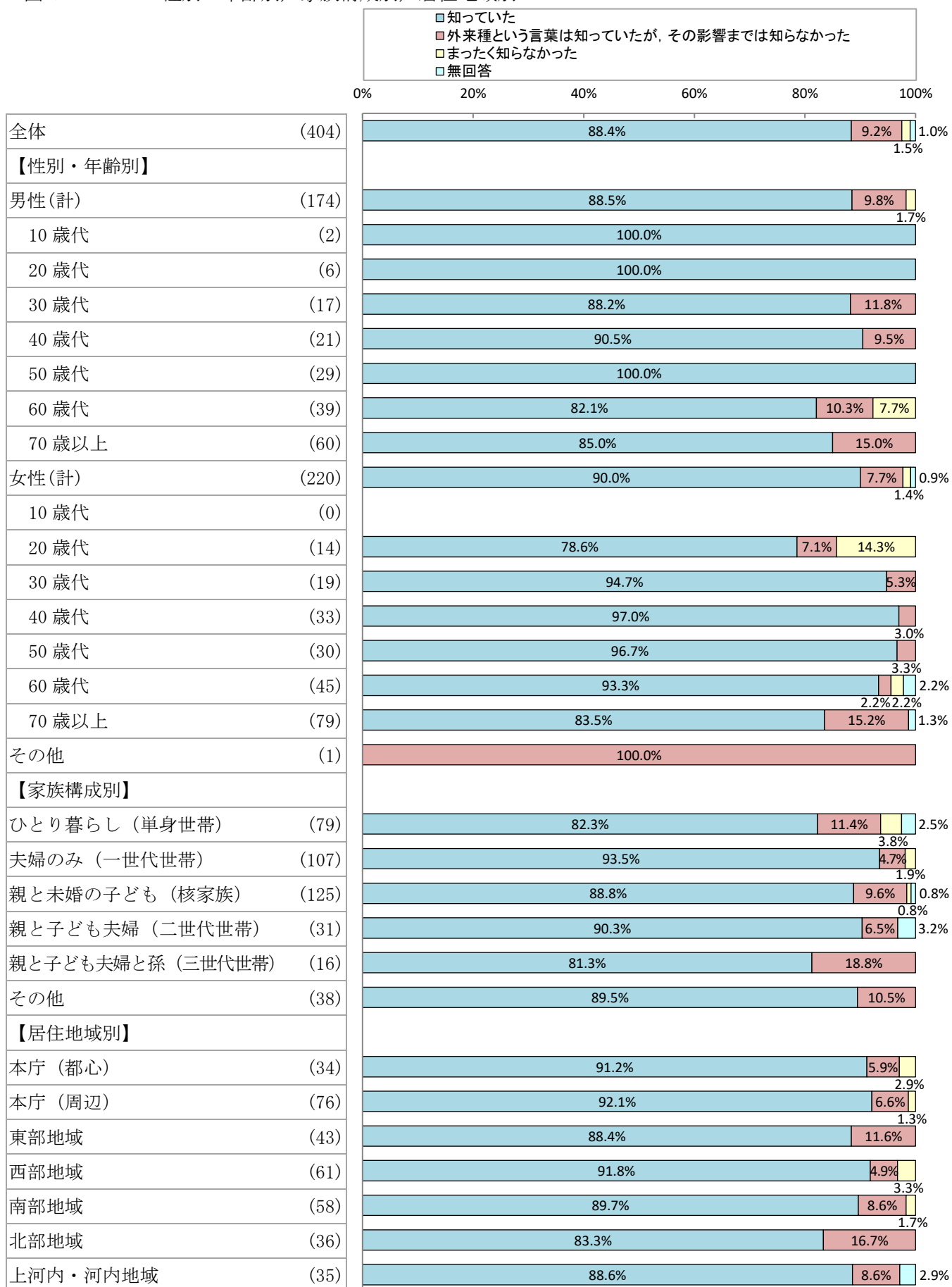
<参考>

性別・年齢別でみると、「知っていた」は<男性/10歳代><男性/20歳代><男性/50歳代>がいずれも100.0%、<女性/40歳代>が97.0%であった。「外来種という言葉は知っていたが、その影響までは知らなかった」は<女性/70歳以上>が15.2%、<男性/70歳以上>が15.0%であった。(図IV-4-4)

家族構成別でみると、「知っていた」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が93.5%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が90.3%であった。「外来種という言葉は知っていたが、その影響までは知らなかった」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が18.8%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が11.4%であった。(図IV-4-4)

居住地域別でみると、「知っていた」は<本庁(周辺)>が92.1%で最も高く、次いで<西部地域>が91.8%であった。「外来種という言葉は知っていたが、その影響までは知らなかった」は<北部地域>が16.7%で最も高く、次いで<東部地域>が11.6%であった。(図IV-4-4)

<図IV-4-4>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



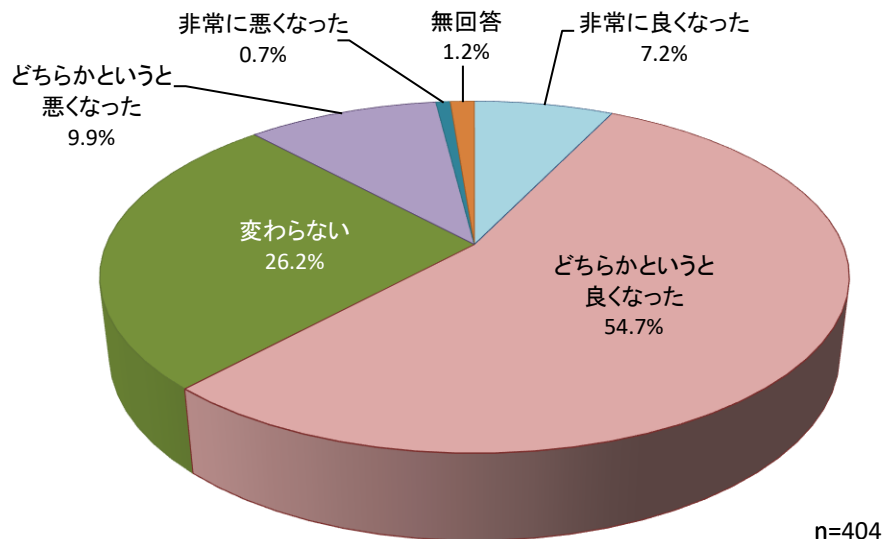
5. 宇都宮市の景観について

(1) 宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるか

◇ 「非常に良くなった」と「どちらかというと言くなった」を合わせた【良くなった(計)】が6割強

問17	本市の景観は10年前と比べてどう感じますか。	(○は1つ)
		n=404
1	非常に良くなった	7.2%
2	どちらかというと言くなった	54.7%
3	変わらない	26.2%
4	どちらかというと言くなった	9.9%
5	非常に悪くなった	0.7%
	(無回答)	1.2%

<図IV-5-1>全体



宇都宮市の景観は10年前と比べてどう感じるかについては、「非常に良くなった」が7.2%、「どちらかというと言くなった」が54.7%で、これらを合わせた【良くなった(計)】は61.9%であった。一方、「どちらかというと言くなった」が9.9%、「非常に悪くなった」が0.7%で、これらを合わせた【悪くなった(計)】は16.9%であった。また、「変わらない」が26.2%であった。(図IV-5-1)

<参考>

性別・年齢別でみると、【良くなった(計)】は<その他>を除くと、<男性/60歳代>が71.8%で最も高かった。一方、「どちらかというと言くなった」と「非常に悪くなった」を合わせた【悪くなった(計)】は<男性/10歳代>が50.0%で最も高かった。(図IV-5-2)

居住年数別でみると、【良くなった(計)】は<10年以上~20年未満>が69.7%で最も高かった。一方、【悪くなった(計)】は<20年以上><5年以上~10年未満>がともに11.5%で最も高かった。(図IV-5-2)

居住地域別でみると、【良くなった(計)】は<東部地域>が74.5%で最も高かった。一方、【悪くなった(計)】は<本庁(周辺)>が15.8%で最も高かった。(図IV-5-2)

居住地区別でみると、【良くなった(計)】は<瑞穂野>が88.9%で最も高かった。一方、【悪くなった(計)】は<陽南>が21.7%で最も高かった。(図IV-5-2)

<図IV-5-2>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別／居住地区別

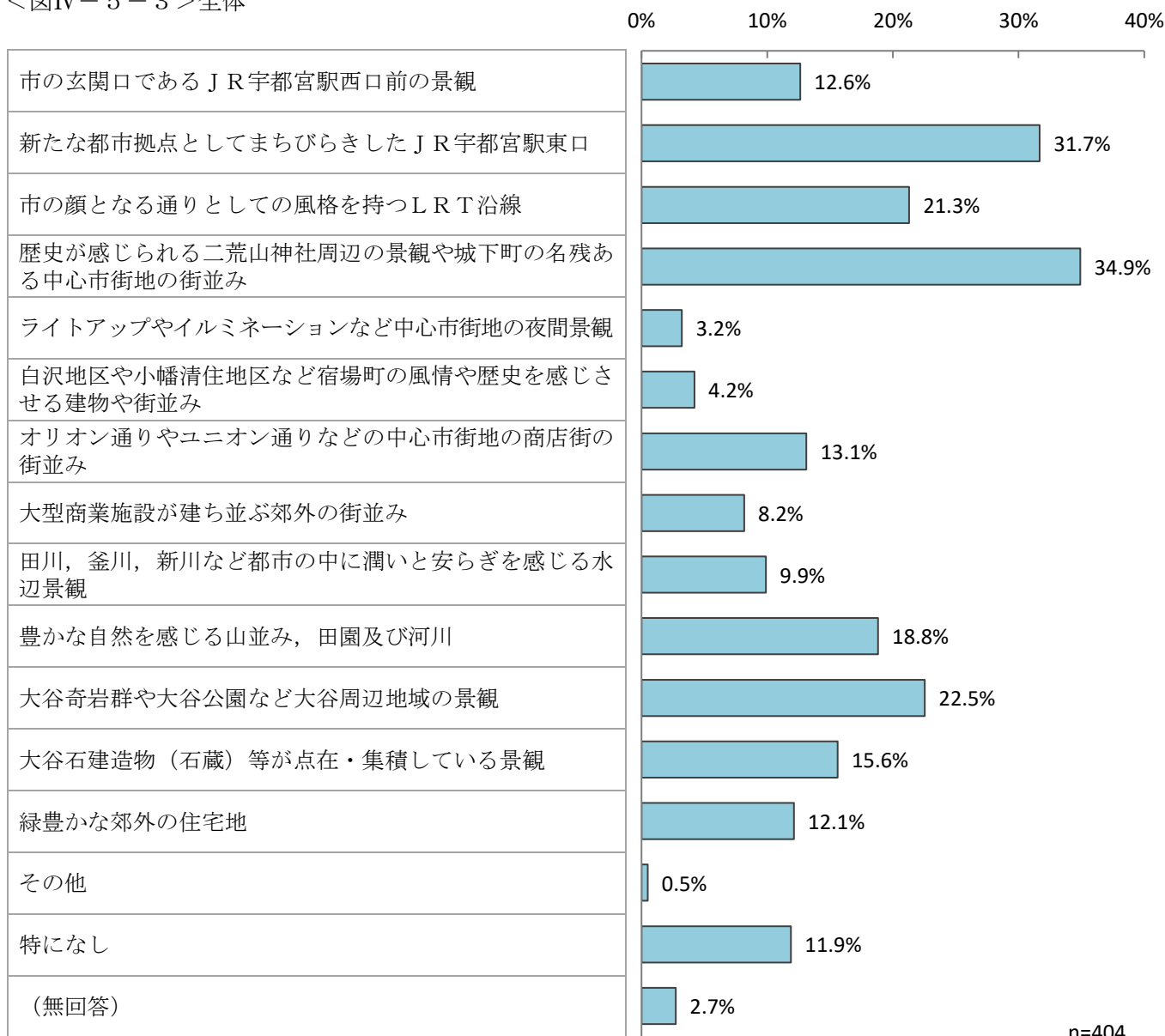


(2) 「宇都宮らしい景観」とは何か

◇ 「歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観や城下町の名残ある中心市街地の街並み」が3割半ば

問18	宇都宮市内で愛着や誇りを感じる「宇都宮らしい景観」は何ですか。	(○は3つまで)	n=404
1	市の玄関口であるJR宇都宮駅西口前の景観		12.6%
2	新たな都市拠点としてまちびらきしたJR宇都宮駅東口		31.7%
3	市の顔となる通りとしての風格を持つLRT沿線		21.3%
4	歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観や城下町の名残ある中心市街地の街並み		34.9%
5	ライトアップやイルミネーションなど中心市街地の夜間景観		3.2%
6	白沢地区や小幡清住地区など宿場町の風情や歴史を感じさせる建物や街並み		4.2%
7	オリオン通りやユニオン通りなどの中心市街地の商店街の街並み		13.1%
8	大型商業施設が建ち並ぶ郊外の街並み		8.2%
9	田川、釜川、新川など都市の中に潤いと安らぎを感じる水辺景観		9.9%
10	豊かな自然を感じる山並み、田園及び河川		18.8%
11	大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観		22.5%
12	大谷石建造物（石蔵）等が点在・集積している景観		15.6%
13	緑豊かな郊外の住宅地		12.1%
14	その他		0.5%
15	特になし		11.9%
	(無回答)		2.7%

<図IV-5-3>全体



「宇都宮らしい景観」とは何かについては、「歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観や城下町の名残ある中心市街地の街並み」が 34.9% で最も高く、次いで「新たな都市拠点としてまちびらきした J R 宇都宮駅東口」が 31.7% であった。（図IV-5-3）

<参考>

性別・年齢別でみると、「歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観や城下町の名残ある中心市街地の街並み」は<男性/10歳代>が 50.0%、「新たな都市拠点としてまちびらきした J R 宇都宮駅東口」は<男性/20歳代>が 50.0% であった。（図IV-5-4）

居住年数別でみると、「歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観や城下町の名残ある中心市街地の街並み」は、<5年以上～10年未満>が 42.3% で最も高かった。「新たな都市拠点としてまちびらきした J R 宇都宮駅東口」は、<20年以上>が 35.2% で最も高かった。（図IV-5-4）

居住地域別でみると、「歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観や城下町の名残ある中心市街地の街並み」は<西部地域>が 47.5% で最も高かった。「新たな都市拠点としてまちびらきした J R 宇都宮駅東口」は<本庁（都心）>が 38.2% で最も高かった。（図IV-5-4）

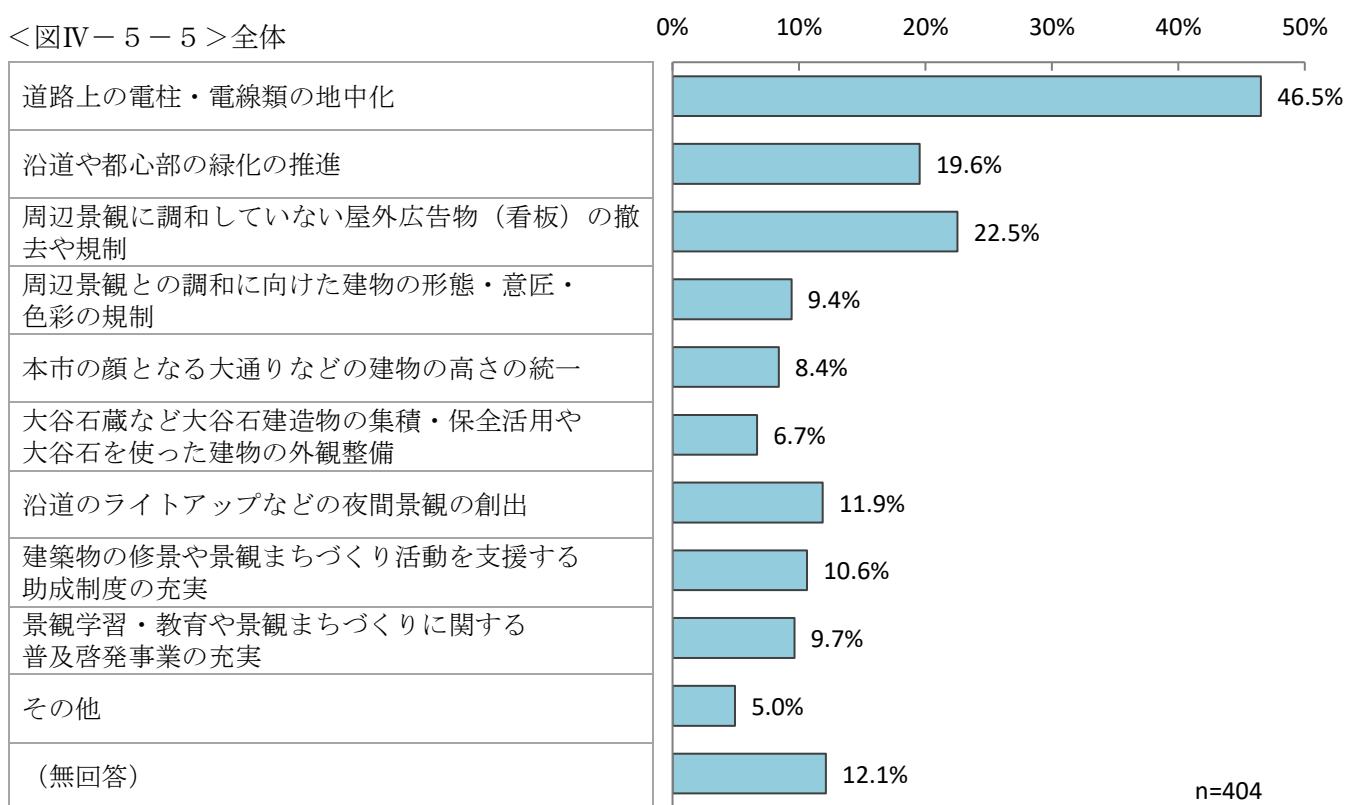
居住地区別でみると、「歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観や城下町の名残ある中心市街地の街並み」は<姿川>が 48.9% で最も高かった。「新たな都市拠点としてまちびらきした J R 宇都宮駅東口」は<瑞穂野>が 55.6% で最も高かった。（図IV-5-4）

(3) 良好な都市景観の形成に必要なこと

◇ 「道路上の電柱・電線類の地中化」が5割弱

問 1 9 良好な都市景観の形成に必要なことは何だと思えますか。(〇は2つまで)		n=404
1	道路上の電柱・電線類の地中化	46.5%
2	沿道や都心部の緑化の推進	19.6%
3	周辺景観に調和していない屋外広告物(看板)の撤去や規制	22.5%
4	周辺景観との調和に向けた建物の形態・意匠・色彩の規制	9.4%
5	本市の顔となる大通りなどの建物の高さの統一	8.4%
6	大谷石蔵など大谷石建造物の集積・保全活用や大谷石を使った建物の外観整備	6.7%
7	沿道のライトアップなどの夜間景観の創出	11.9%
8	建築物の修景や景観まちづくり活動を支援する助成制度の充実	10.6%
9	景観学習・教育や景観まちづくりに関する普及啓発事業の充実	9.7%
10	その他 (無回答)	5.0% 12.1%

<図IV-5-5>全体



良好な都市景観の形成に必要なことについては、「道路上の電柱・電線類の地中化」が46.5%で最も高く、次いで「周辺景観に調和していない屋外広告物(看板)の撤去や規制」が22.5%、「沿道や都心部の緑化の推進」が19.6%と続いている。(図IV-5-5)

<参考>

性別・年齢別でみると、「道路上の電柱・電線類の地中化」は<男性/50歳代>が65.5%で最も高かった。(図IV-5-6)

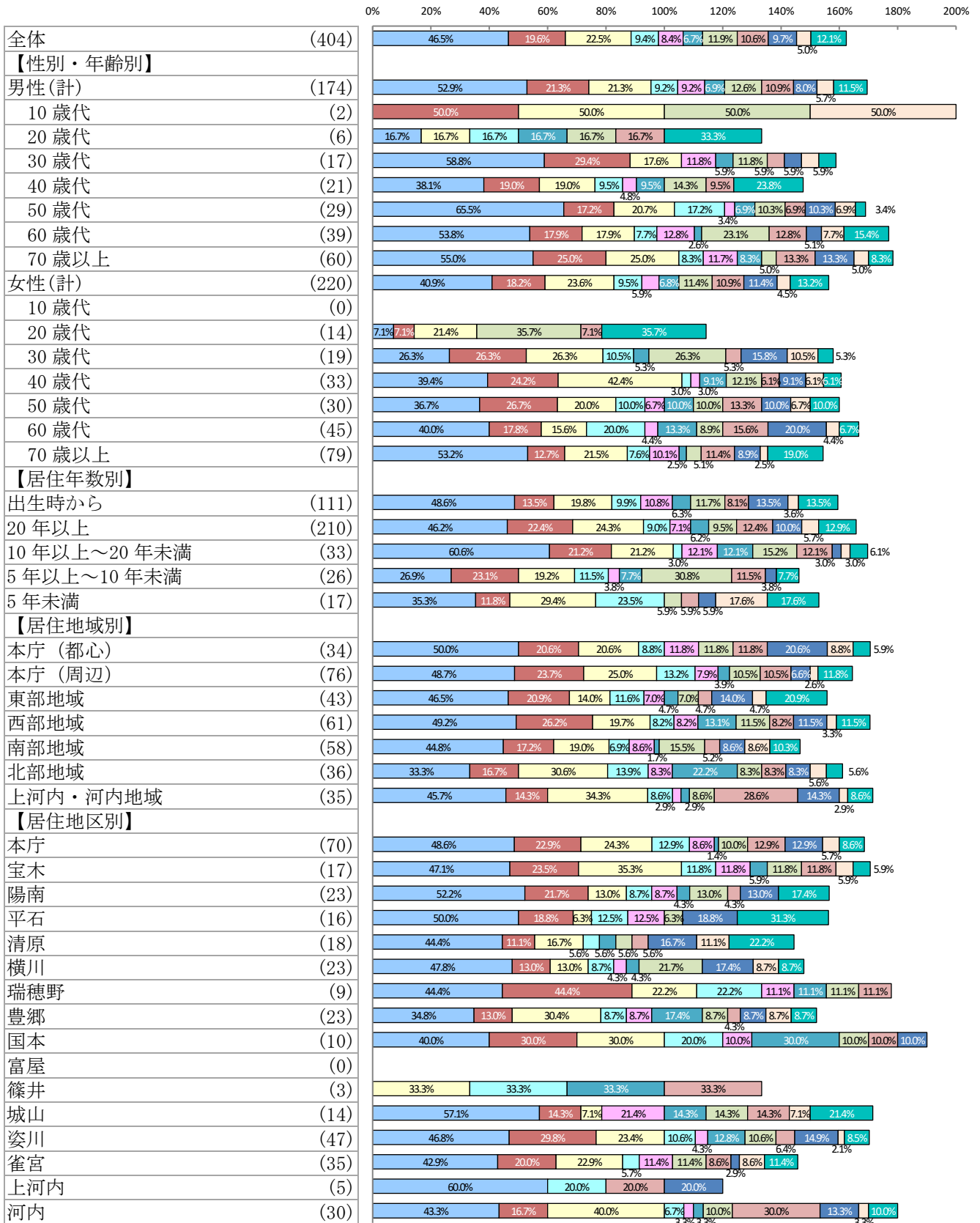
居住年数別でみると、「道路上の電柱・電線類の地中化」は、<10年以上~20年未満>が60.6%で最も高かった。(図IV-5-6)

居住地域別で見ると、「道路上の電柱・電線類の地中化」は<本庁(都心)>が50.0%で最も高かった。(図IV-5-6)

居住地区別でみると、「道路上の電柱・電線類の地中化」は<上河内>が60.0%で最も高かった。(図IV-5-6)

<図IV-5-6>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別／居住地区別

- 道路上の電柱・電線類の地中化
- 周辺景観に調和していない屋外広告物(看板)の撤去や規制
- 本市の顔となる大通りなどの建物の高さの統一
- 沿道のライトアップなどの夜間景観の創出
- 景観学習・教育や景観まちづくりに関する普及啓発事業の充実
- 無回答
- 沿道や都心部の緑化の推進
- 周辺景観との調和に向けた建物の形態・意匠・色彩の規制
- 大谷石蔵など大谷石建造物の集積・保全活用や大谷石を使った建物の外観整備
- 建築物の修景や景観まちづくり活動を支援する助成制度の充実
- その他

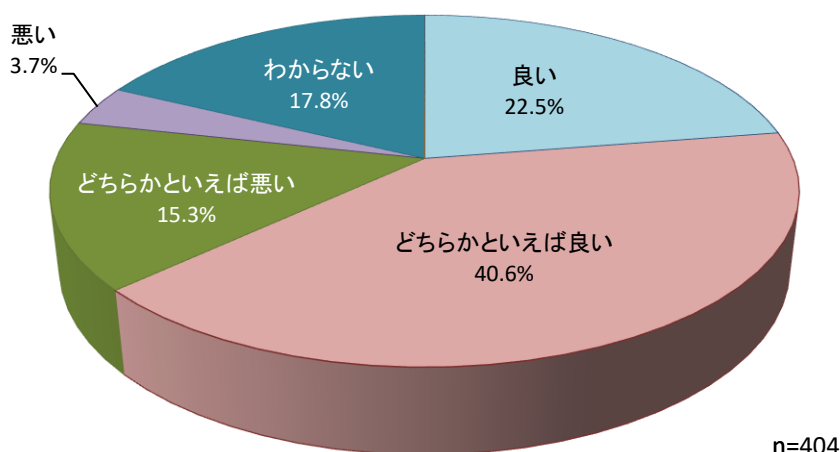


(4) ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象

◇ 「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせた【良い（計）】が6割強

問 2 0	バス及び鉄道やL R Tの車両などのラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）について、あなたは、どのような印象をお持ちですか。	(○は1つ)
		n=404
1	良い	22.5%
2	どちらかといえば良い	40.6%
3	どちらかといえば悪い	15.3%
4	悪い	3.7%
5	わからない	17.8%
	(無回答)	0.0%

<図IV-5-7>全体



ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象については、「良い」が22.5%、「どちらかといえば良い」が40.6%で、これらを合わせた【良い（計）】は63.1%であった。一方、「悪い」が3.7%、「どちらかといえば悪い」が15.3%で、これらを合わせた【悪い（計）】は19.0%であった。（図IV-5-7）

<参考>

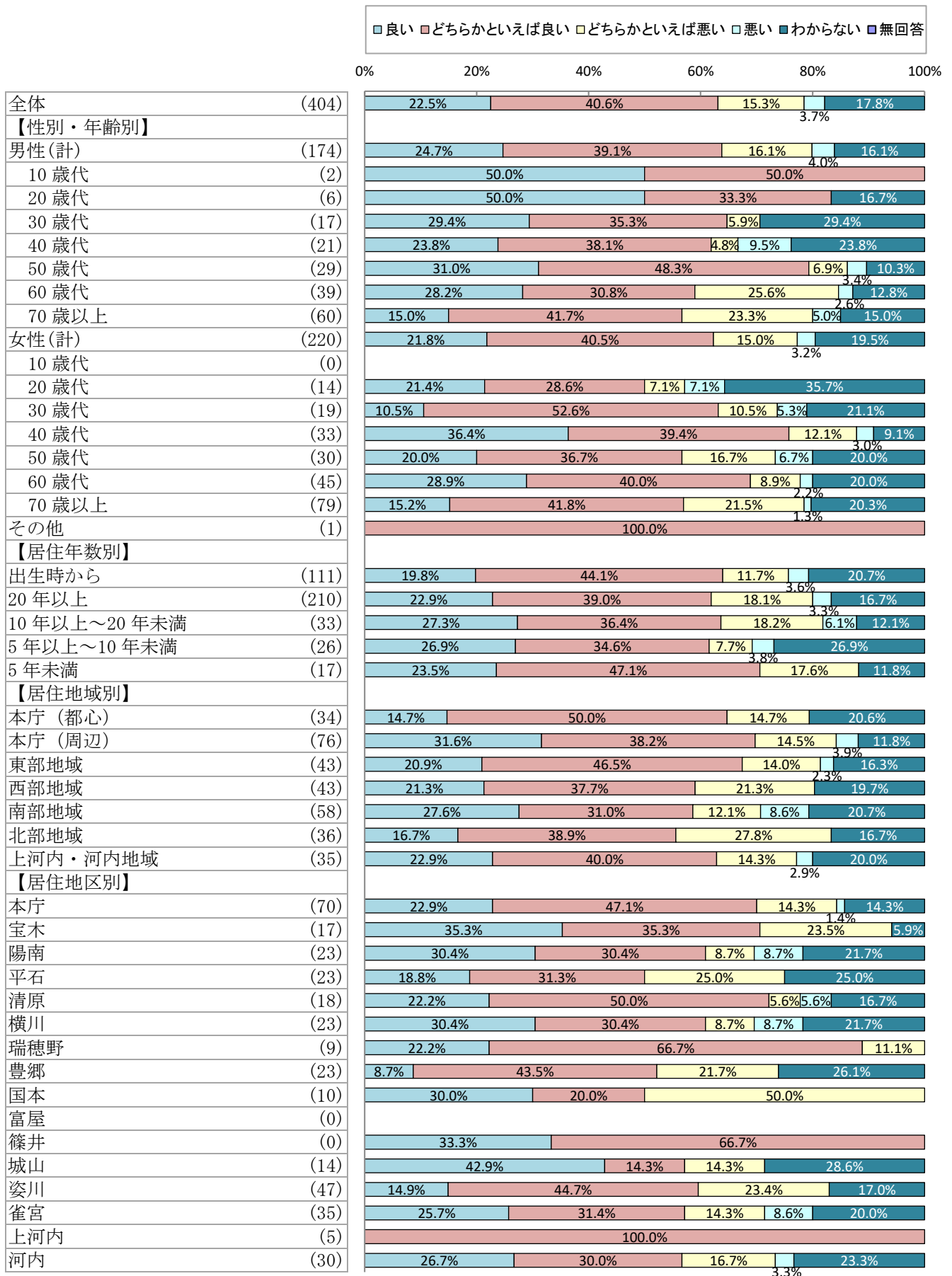
性別・年齢別でみると、【良くなった（計）】は<その他>を除くと、<男性/10歳代>が100.0%、一方、「どちらかというとも悪くなった」と「非常に悪くなった」を合わせた【悪くなった（計）】は<男性/70歳以上>が28.3%で最も高かった。（図IV-5-8）

居住年数別でみると、【良くなった（計）】は<5年未満>が70.6%で最も高かった。一方、【悪くなった（計）】は<10年以上～20年未満>が24.3%で最も高かった。（図IV-5-8）

居住地域別でみると、【良くなった（計）】は<本庁（周辺）>が69.8%で最も高かった。一方、【悪くなった（計）】は<北部地域>が27.8%で最も高かった。（図IV-5-8）

居住地区別でみると、【良くなった（計）】は<篠井><上河内>が100.0%で最も高かった。一方、【悪くなった（計）】は<国本>が50.0%で最も高かった。（図IV-5-8）

<図IV-5-8>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別／居住地区別

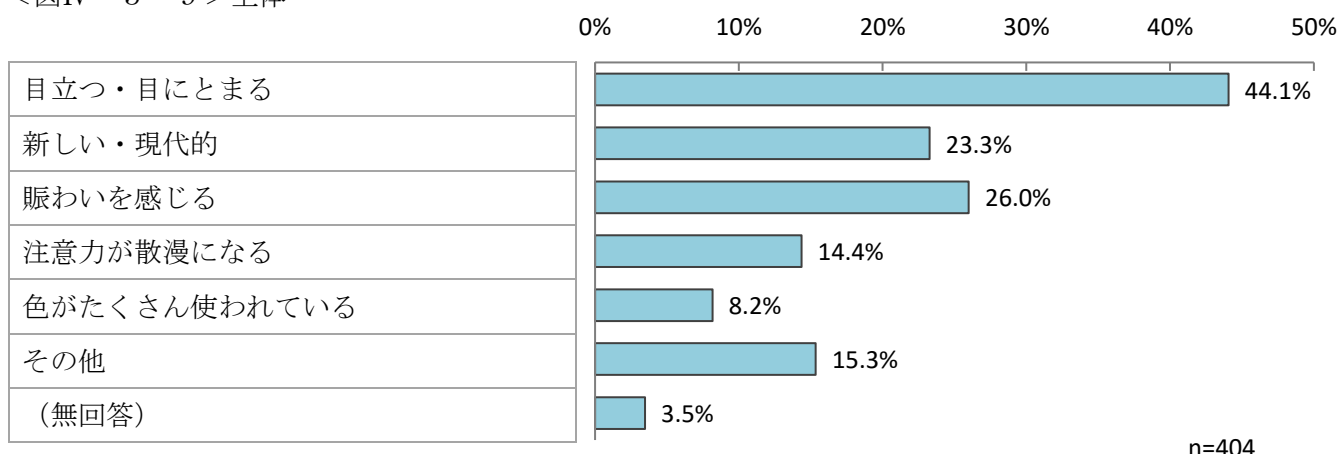


(5) ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象を持った点

◇ 「目立つ・目にとまる」が4割半ば

問 2 1	問 2 0 でそのような印象を持たれたのはどのような点についてですか。	(○は2つまで)
		n=404
1	目立つ・目にとまる	44.1%
2	新しい・現代的	23.3%
3	賑わいを感じる	26.0%
4	注意力が散漫になる	14.4%
5	色がたくさん使われている	8.2%
6	その他	15.3%
	(無回答)	3.5%

<図IV-5-9>全体



ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象を持った点については、「目立つ・目にとまる」が44.1%で最も高く、次いで「賑わいを感じる」が26.0%、「新しい・現代的」が23.3%と続いている。（図IV-5-9）

<参考>

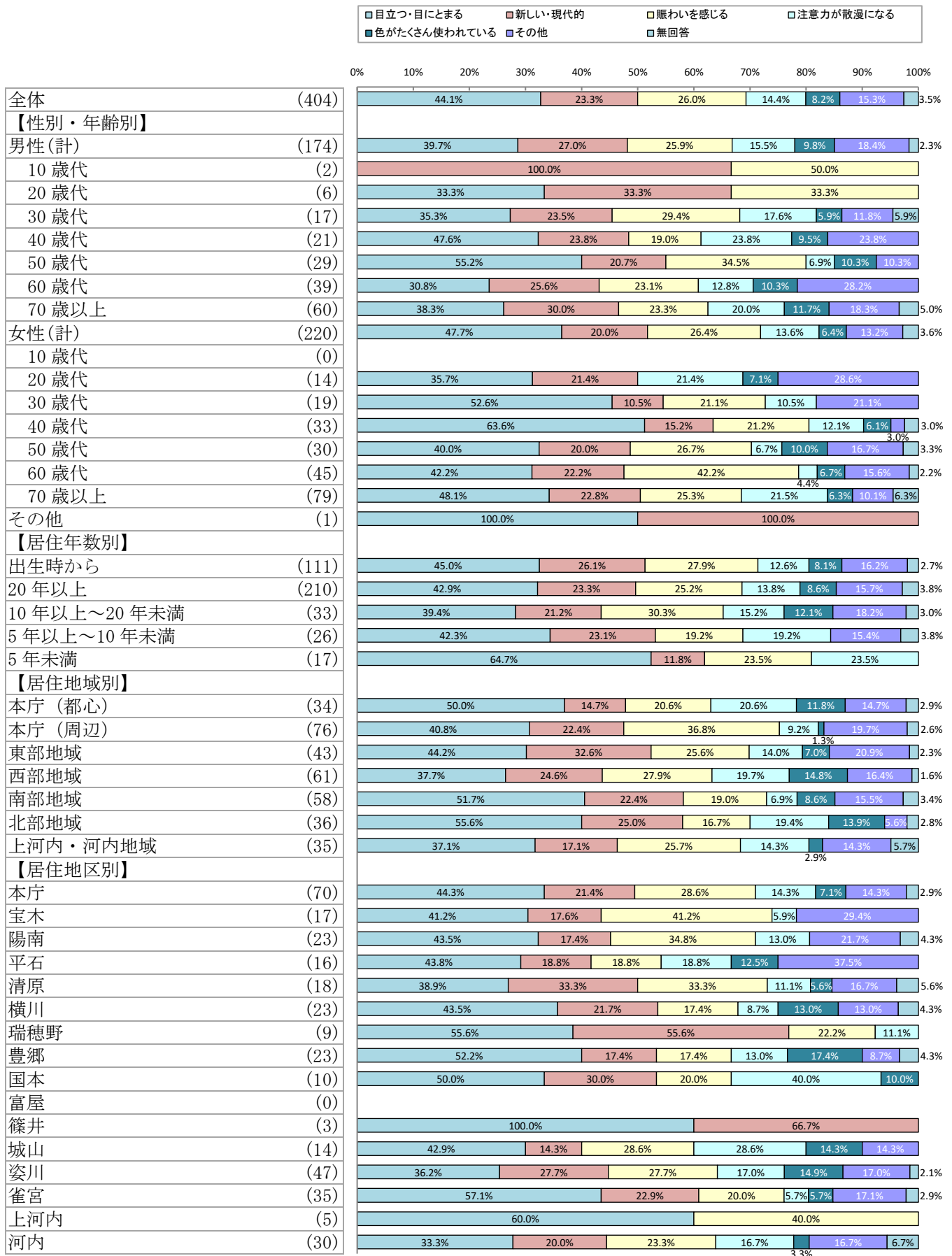
性別・年齢別で見ると、「目立つ・目にとまる」は<その他>を除くと、<女性/40歳代>が63.6%で最も高く、次いで<男性/50歳代>が55.2%であった。「賑わいを感じる」は<男性/10歳代>が50.0%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が42.2%であった。（図IV-5-10）

居住年数別で見ると、「目立つ・目にとまる」は、<5年未満>が64.7%で最も高く、次いで<出生時から>が45.0%であった。「賑わいを感じる」は、<10年以上～20年未満>が30.3%で最も高く、出生時から>が27.9%であった。（図IV-5-10）

居住地域別で見ると、「目立つ・目にとまる」は<北部地域>が55.6%で最も高く、次いで<南部地域>が51.7%であった。「賑わいを感じる」は<本庁（周辺）>が36.8%で最も高く、次いで<西部地域>が27.9%であった。（図IV-5-10）

居住地区別で見ると、「目立つ・目にとまる」は<篠井>が100.0%、次いで<上河内>が60.0%であった。「賑わいを感じる」は<宝木>が41.2%で最も高く、次いで<上河内>が40.0%であった。（図IV-5-10）

<図IV-5-10>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別／居住地区別



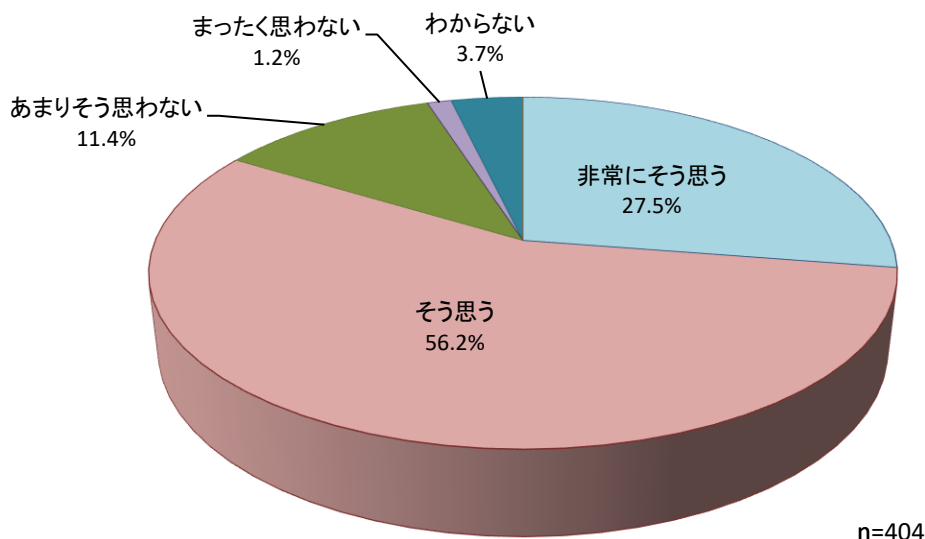
6. 宇都宮産の農産物について

(1) 宇都宮産の農産物の購入意欲

◇ 「非常にそう思う」と「そう思う」合わせた【そう思う（計）】が8割半ば

問 2 2 市は地産地消を推進していますが、あなたは「宇都宮産」の農産物を積極的に選択して購入したいと思いますか。		(○は1つ)
		n=404
1	非常にそう思う	27.5%
2	そう思う	56.2%
3	あまりそう思わない	11.4%
4	まったく思わない	1.2%
5	わからない	3.7%
	(無回答)	0.0%

<図IV-6-1>全体



「宇都宮産」の農産物の購入意欲については、「非常にそう思う」が27.5%、「そう思う」が56.2%で、これらを合わせた【そう思う（計）】は83.7%であった。一方、「まったく思わない」が1.2%、「あまりそう思わない」が11.4%で、これらを合わせた【そう思わない（計）】は12.6%であった。

(図IV-6-1)

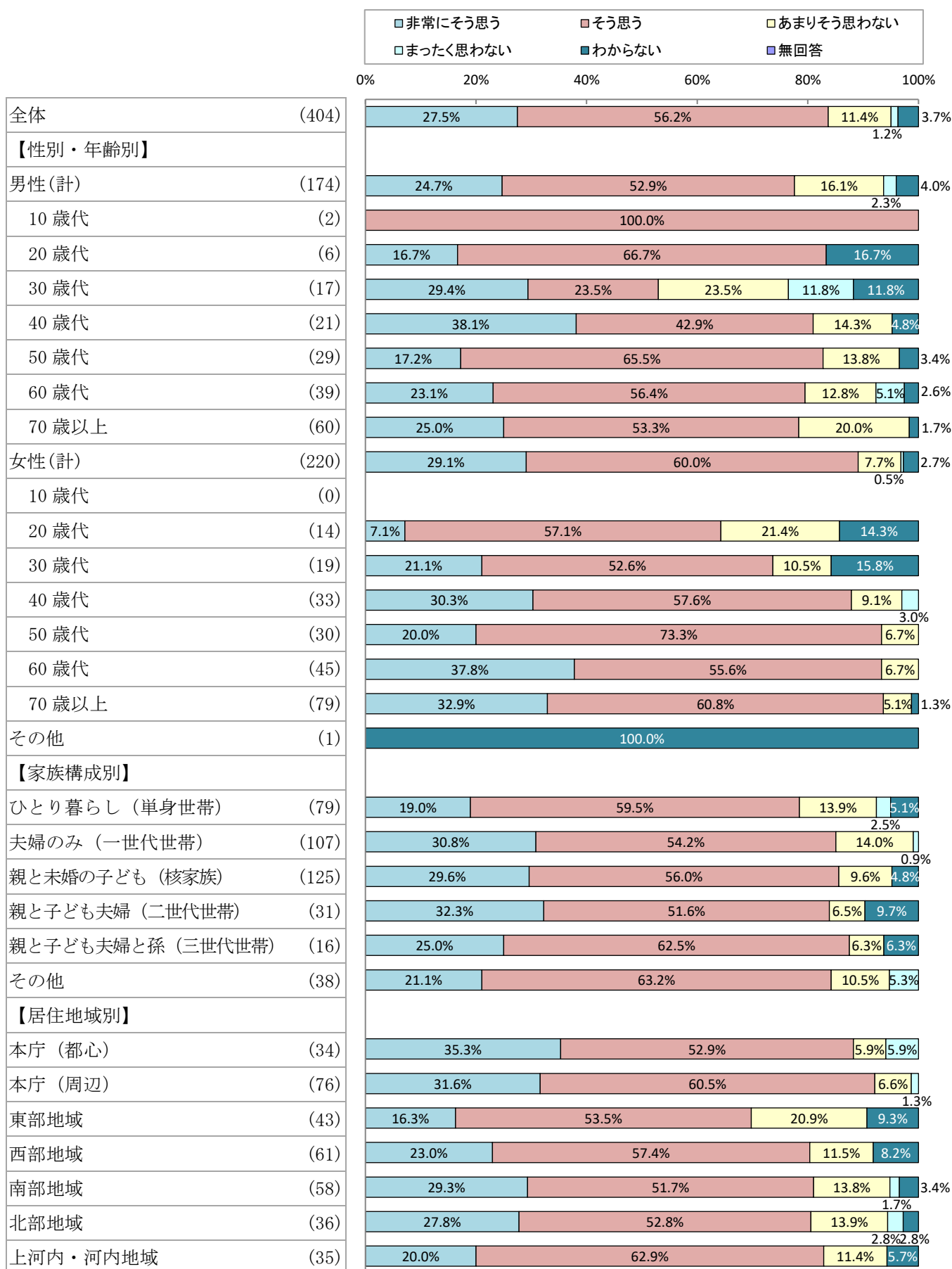
<参考>

性別・年齢別でみると、【そう思う（計）】は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が93.7%、<女性/60歳代>が93.4%と続いている。一方、【そう思わない（計）】は<男性/30歳代>が35.3%で最も高く、次いで<女性/20歳代>が21.4%、<男性/70歳以上>が20.0%と続いている。(図IV-6-2)

家族構成別でみると、【そう思う（計）】は<親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）>が87.5%で最も高かった。一方、【そう思わない（計）】は<ひとり暮らし（単身世帯）>が16.4%で最も高かった。(図IV-6-2)

居住地域別でみると、【そう思う（計）】は<本庁（周辺）>が92.1%で最も高かった。一方、【そう思わない（計）】は<東部地域>が20.9%で最も高かった。(図IV-6-2)

<図IV-6-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

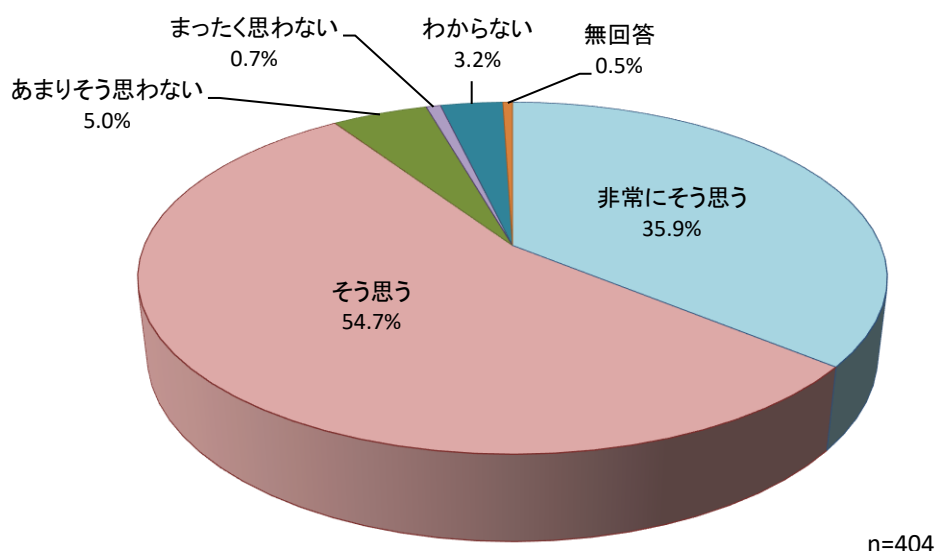


(2) 宇都宮の農業を大切にしたいと思うか

◇ 「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う（計）】が約9割

問 2 3	市は「農業王国うつのみや」の実現を目指した取組を推進していますが、あなたは宇都宮の農業を大切にしたいと思いますか。	(○は1つ)
		n=404
1	非常にそう思う	35.9%
2	そう思う	54.7%
3	あまりそう思わない	5.0%
4	まったく思わない	0.7%
5	わからない	3.2%
	(無回答)	0.5%

<図IV-6-3>全体



宇都宮の農業を大切にしたいかについては、「非常にそう思う」が35.9%、「そう思う」が54.7%で、これらを合わせた【そう思う（計）】は90.6%であった。一方、「まったく思わない」が0.7%、「あまりそう思わない」が5.0%で、これらを合わせた【そう思わない（計）】は5.7%であった。(図IV-6-3)

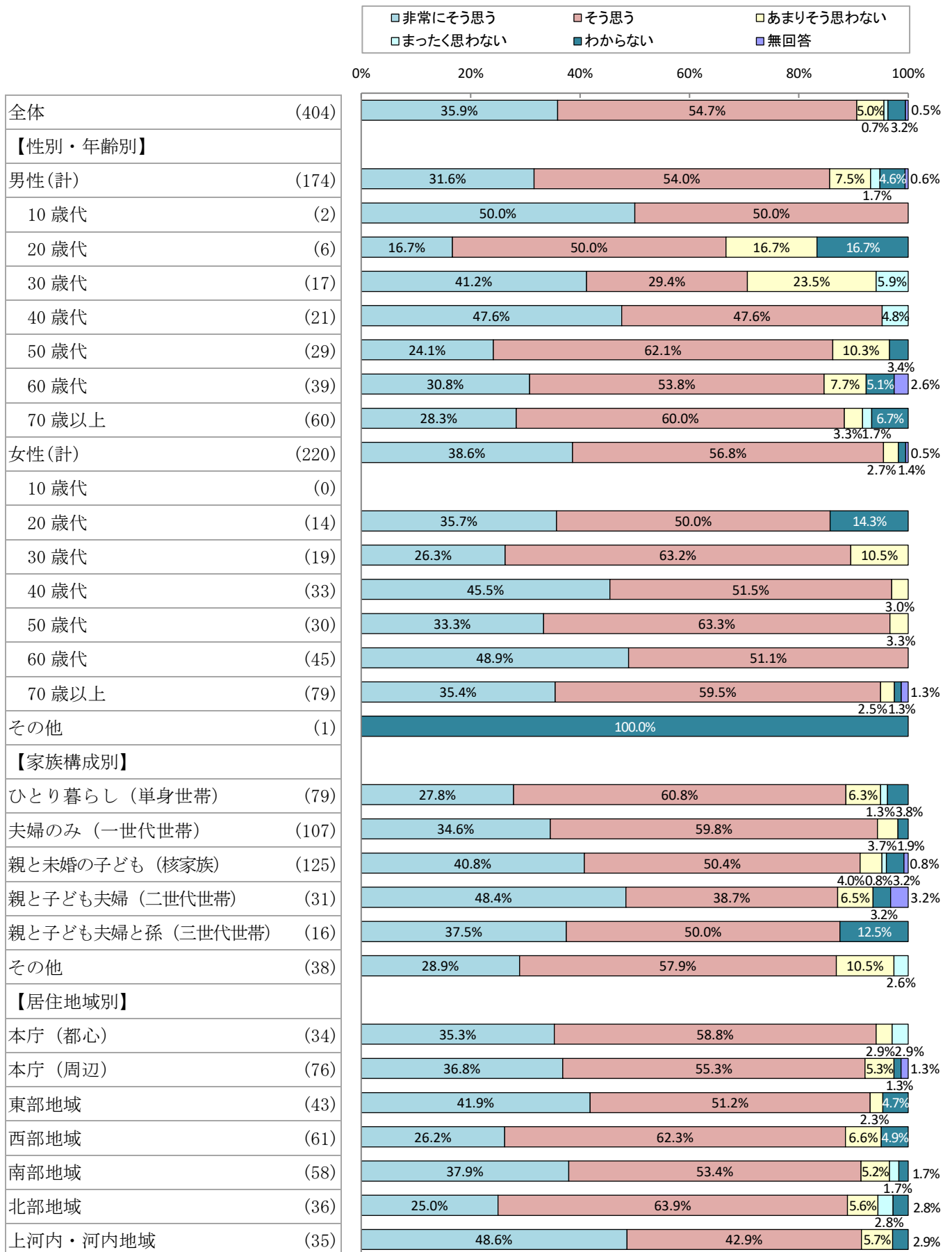
<参考>

性別・年齢別でみると、【そう思う（計）】は<男性/20歳代><男性/30歳代>を除き8割半ばを超えた。(図IV-6-4)

家族構成別でみると、<その他>を除く、【そう思う（計）】は<夫婦のみ（一世帯世帯）>が94.4%で最も高かった。一方、【そう思わない（計）】は<ひとり暮らし（単身世帯）>が7.6%で最も高かった。(図IV-6-4)

居住地域別でみると、【そう思う（計）】は<本庁（都心）>が94.1%で最も高かった。一方、【そう思わない（計）】は<北部地域>が8.4%で最も高かった。(図IV-6-4)

<図IV-6-4>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

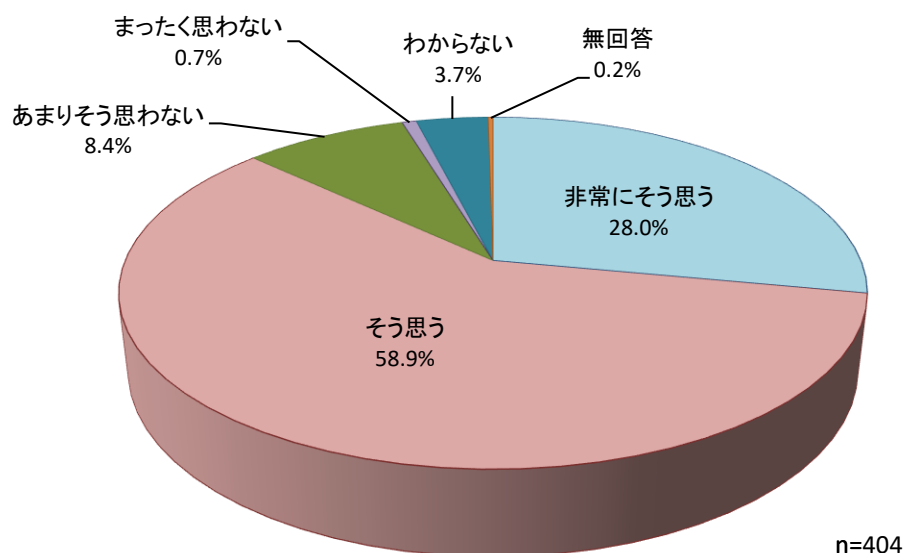


(3) 環境に配慮して生産された農産物の購入意欲

◇ 「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う（計）】が9割弱

問 2 4	市は環境にやさしい農業の取組を推進していますが、あなたは環境に配慮して生産された農産物を積極的に選択して購入したいと思いますか。	(○は1つ)
		n=404
1	非常にそう思う	28.0%
2	そう思う	58.9%
3	あまりそう思わない	8.4%
4	まったく思わない	0.7%
5	わからない	3.7%
	(無回答)	0.2%

<図IV-6-5>全体



環境に配慮して生産された農産物を積極的に選択して購入したいと思うかについては、「非常にそう思う」が28.0%、「そう思う」が58.9%で、これらを合わせた【そう思う（計）】は86.9%であった。一方、「まったく思わない」が0.7%、「あまりそう思わない」が8.4%で、これらを合わせた【そう思わない（計）】は9.1%であった。(図IV-6-5)

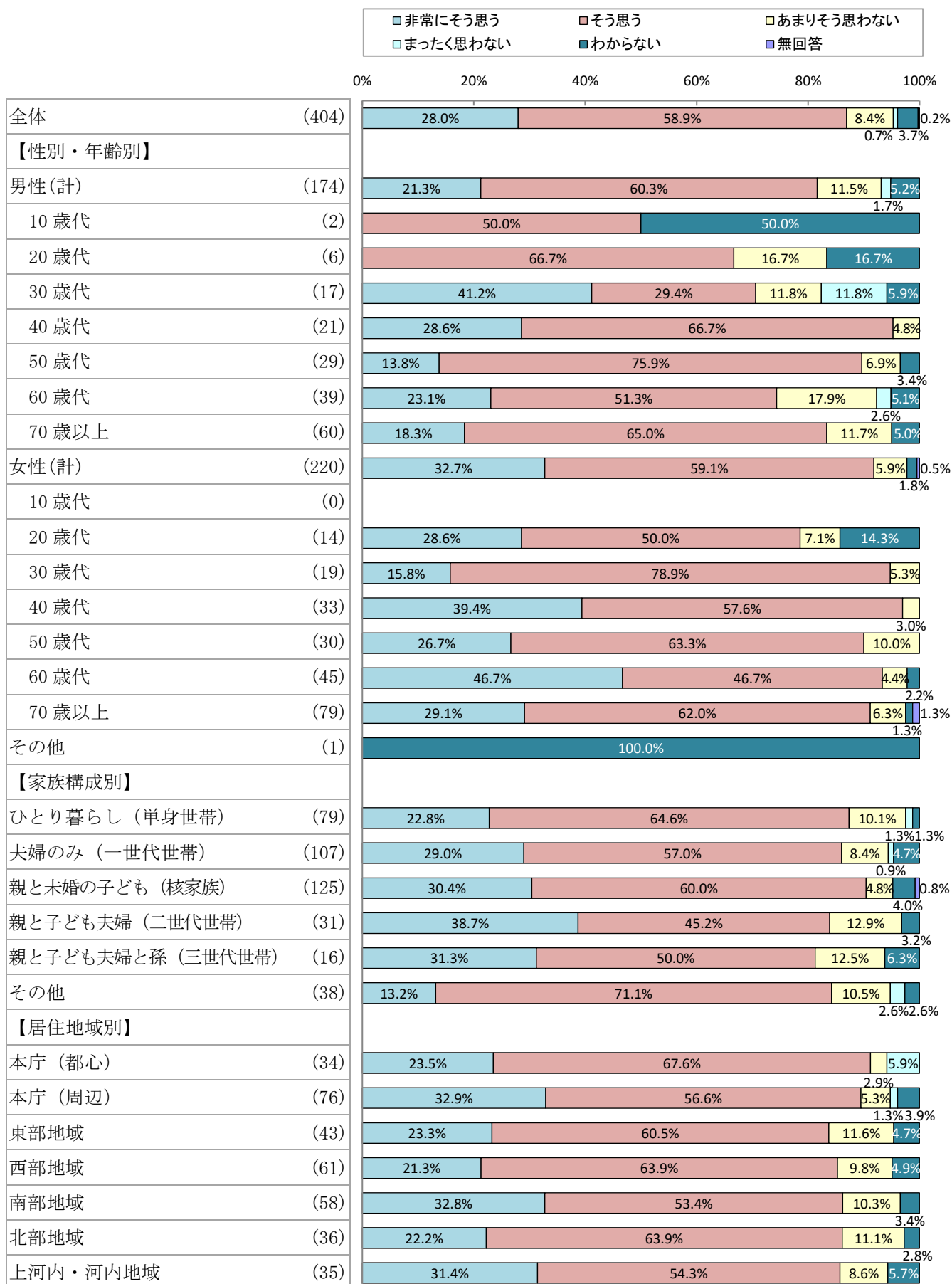
<参考>

性別・年齢別で見ると、【そう思う（計）】は<女性/40歳代>が97.0%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が95.3%、<女性/30歳代>が94.7%と続いている。一方、【そう思わない（計）】は<男性/30歳代>が23.6%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が20.5%であった。(図IV-6-6)

家族構成別で見ると、【そう思う（計）】は<親と未婚の子ども（核家族）>が90.4%で最も高く、次いで<ひとり暮らし（単身世帯）>が87.4%であった。一方、【そう思わない（計）】は<その他>を除くと、<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が12.9%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）>が12.5%であった。(図IV-6-6)

居住地域別で見ると、【そう思う（計）】は<本庁（都心）>が91.1%で最も高く、次いで<本庁（周辺）>が89.5%であった。一方、【そう思わない（計）】は<東部地域>が11.6%で最も高く、次いで<北部地域>が11.1%であった。(図IV-6-6)

<図IV-6-6>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



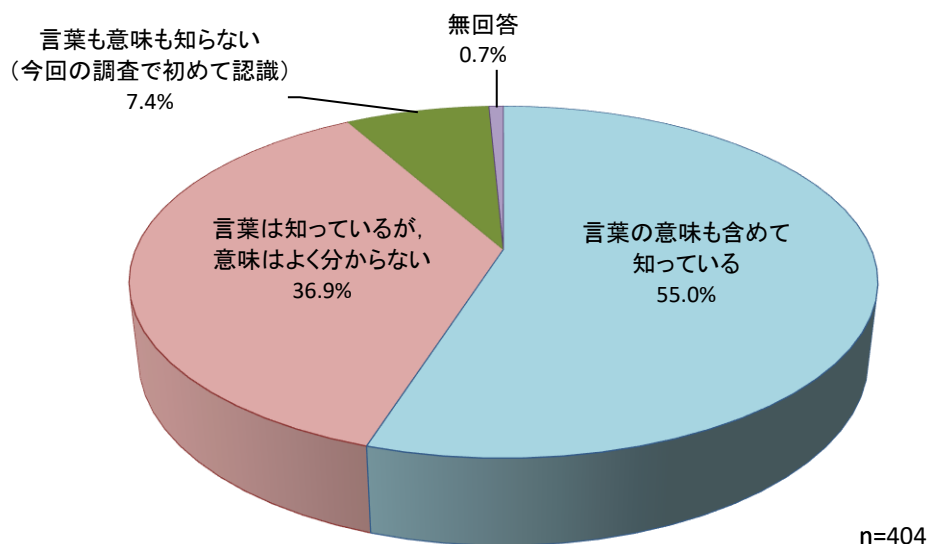
7. カーボンニュートラル（脱炭素）について

(1) カーボンニュートラルの認知度

◇ 「言葉の意味も含めて知っている」が5割半ば

問25	あなたは、カーボンニュートラル（脱炭素）についてどの程度知っていますか。	
※	カーボンニュートラル（脱炭素）とは… 二酸化炭素等の温室効果ガスの「排出量」から、植林や森林管理等による「吸収量」を差し引いて、その合計を実質的にゼロにすること。	(○は1つ)
		n=404
1	言葉の意味も含めて知っている	55.0%
2	言葉は知っているが、意味はよく分からない	36.9%
3	言葉も意味も知らない（今回の調査で初めて認識）	7.4%
	（無回答）	0.7%

<図IV-7-1>全体



カーボンニュートラル（脱炭素）についてどの程度知っているかについては、「言葉の意味も含めて知っている」が55.0%で最も高く、次いで「言葉は知っているが、意味はよく分からない」が36.9%、「言葉も意味も知らない（今回の調査で初めて認識）」が7.4%と続いている。（図IV-7-1）

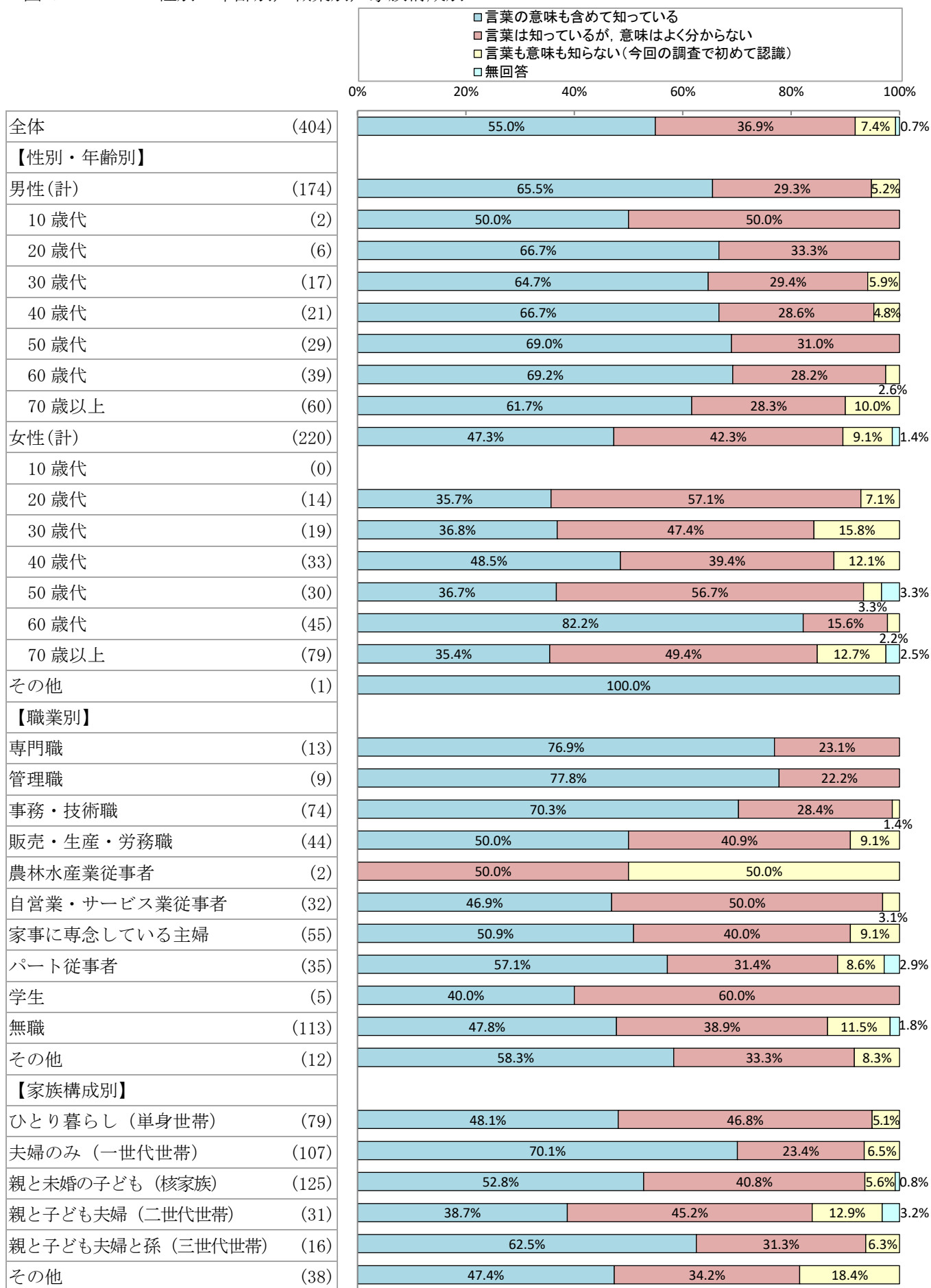
<参考>

性別・年齢別でみると、「言葉の意味も含めて知っている」は<その他>を除くと、<女性/60歳代>が82.2%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が69.2%、<男性/50歳代>が69.0%と続いている。「言葉は知っているが、意味はよく分からない」は<女性/20歳代>が57.1%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が56.7%であった。（図IV-7-2）

職業別でみると、「言葉の意味も含めて知っている」は<管理職>が77.8%で最も高く、次いで<専門職>が76.9%であった。「言葉は知っているが、意味はよく分からない」は<学生>が60.0%で最も高く、次いで<農林水産業従事者><自営業・サービス業従事者>がともに50.0%であった。（図IV-7-2）

家族構成別でみると、「言葉の意味も含めて知っている」は<夫婦のみ（一世代世帯）>が70.1%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫（三世代世帯）>が62.5%であった。「言葉は知っているが、意味はよく分からない」は<ひとり暮らし（単身世帯）>が46.8%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦（二世代世帯）>が45.2%であった。（図IV-7-2）

<図IV-7-2>性別・年齢別／職業別／家族構成別

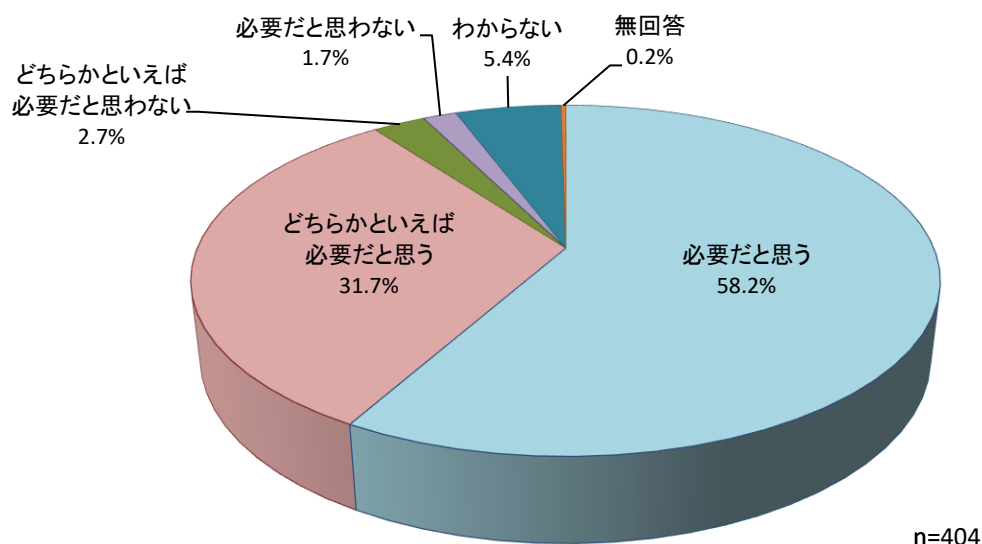


(2) カーボンニュートラルの実現に向けた取組は必要だと思うか

◇ 「必要だと思う」と「どちらかといえば必要だと思う」を合わせた【必要だと思う(計)】が約9割

問 2 6	カーボンニュートラルの実現に向けて取り組んでいくことは必要だと思いますか。宇都宮市は、2030年度市全体の温室効果ガス削減目標について、2013年度比50%削減を掲げています。	(○は1つ)
		n=404
1	必要だと思う	58.2%
2	どちらかといえば必要だと思う	31.7%
3	どちらかといえば必要だと思わない	2.7%
4	必要だと思わない	1.7%
5	わからない	5.4%
	(無回答)	0.2%

<図IV-7-3>全体



カーボンニュートラルの実現に向けた取組は必要だと思うかについては、「必要だと思う」が58.2%、「どちらかといえば必要だと思う」が31.7%で、これらを合わせた【必要だと思う(計)】は89.9%であった。一方、「必要だと思わない」が1.7%、「どちらかといえば必要だと思わない」が2.7%で、これらを合わせた【必要だと思わない(計)】は4.4%であった。(図IV-7-3)

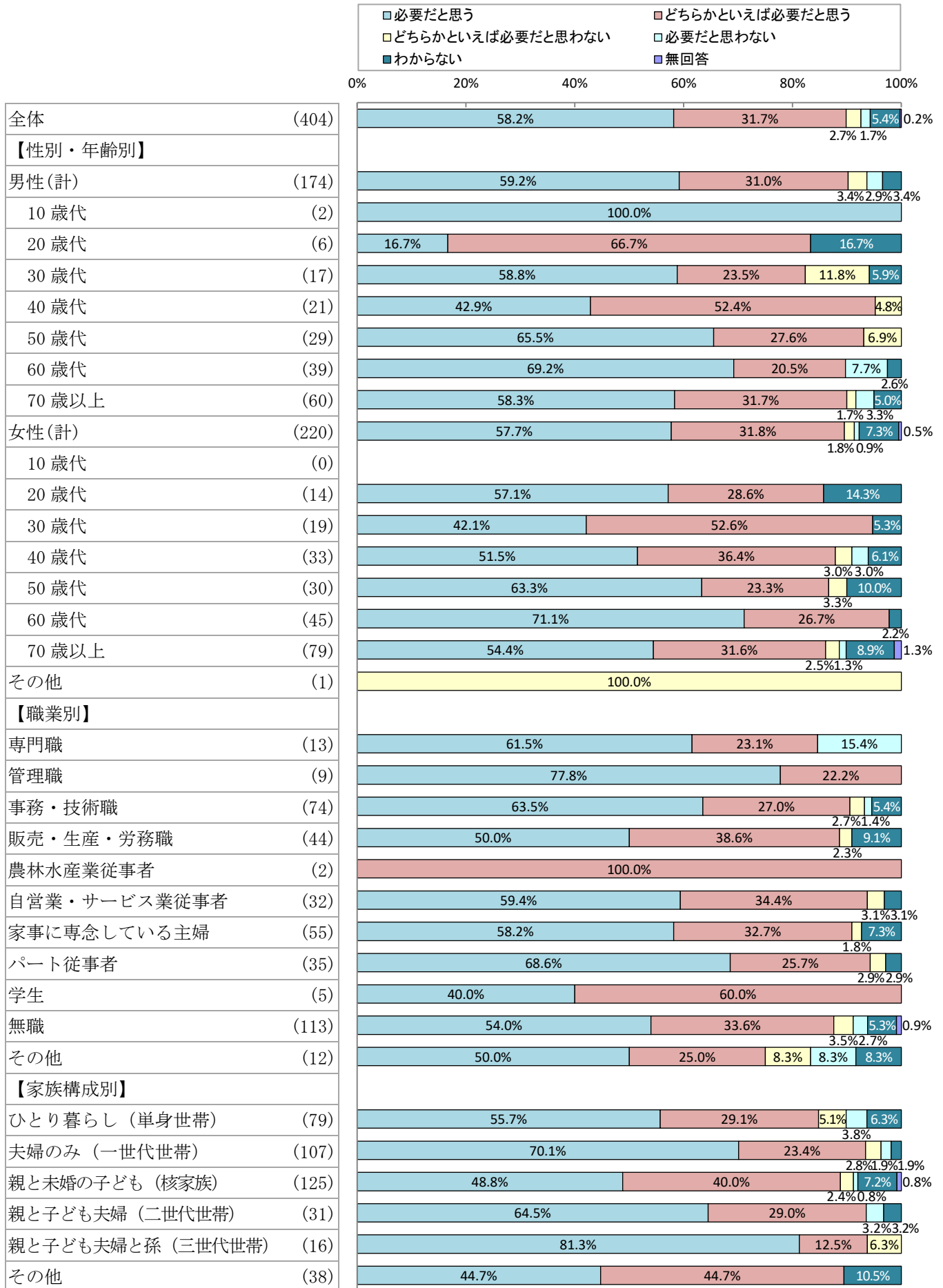
<参考>

性別・年齢別でみると、【必要だと思う(計)】は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が97.8%であった。一方、【必要だと思わない(計)】は<その他>を除くと、<男性/30歳代>が11.8%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が7.7%であった。(図IV-7-4)

職業別でみると、【必要だと思う(計)】は<管理職><農林水産業従事者><学生>が100.0%で最も高かった。一方、【必要だと思わない(計)】は<その他>を除くと、<専門職>が15.4%で最も高かった。(図IV-7-4)

家族構成別でみると、【必要だと思う(計)】は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が93.8%で最も高く、<夫婦のみ(一世代世帯)><親と子ども夫婦(二世代世帯)>がともに93.5%であった。一方、【必要だと思わない(計)】は<ひとり暮らし(単身世帯)>が8.9%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が6.3%であった。(図IV-7-4)

<図IV-7-4>性別・年齢別／職業別／家族構成別



(3) カーボンニュートラルにつながる行動について

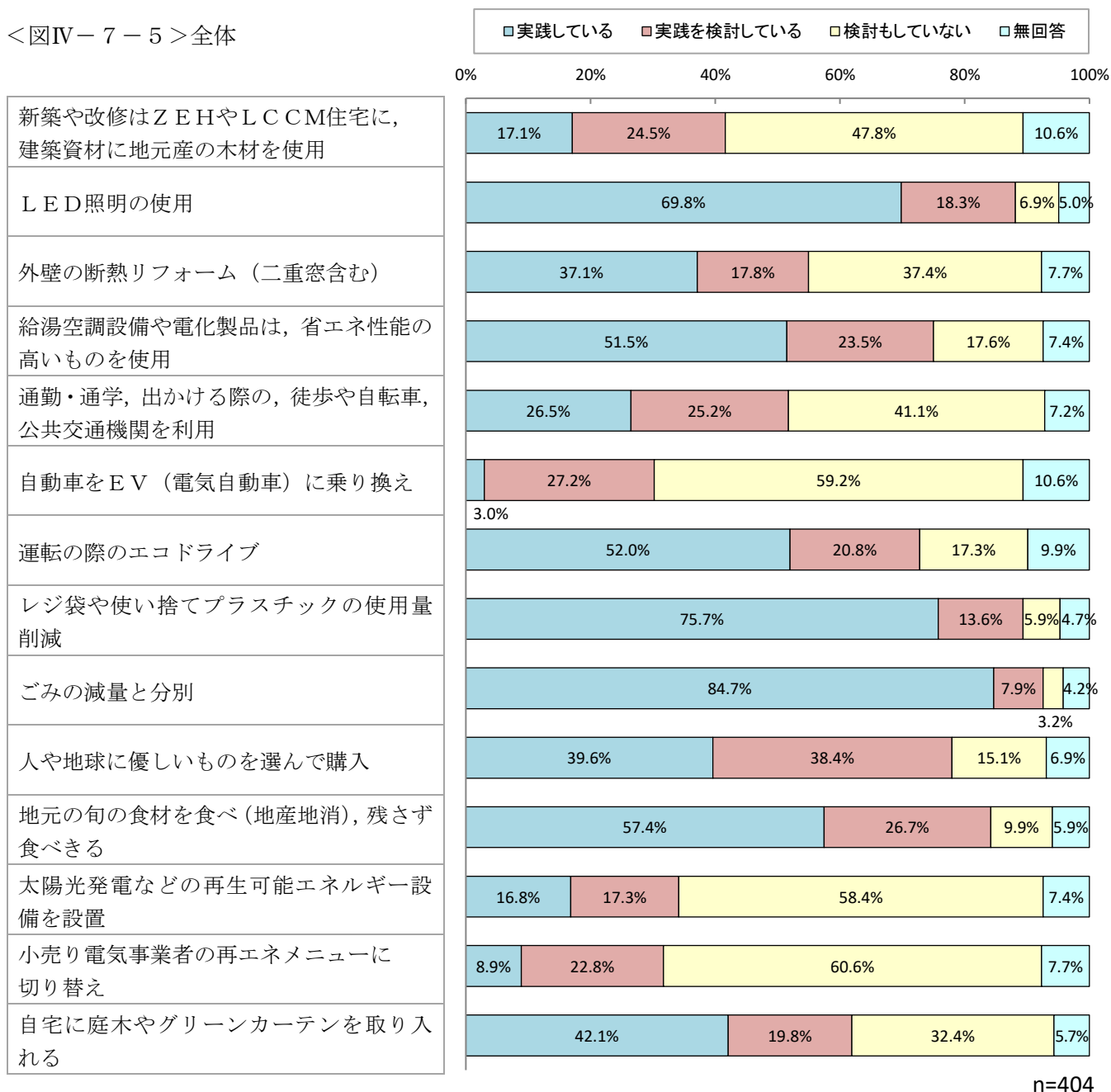
◇ 「実践している」は「ごみの減量と分別」が8割半ば

問27 以下のカーボンニュートラルにつながる各項目の行動について、「実践している」場合は1, 「実践を検討している」場合は2, 「検討もしていない」場合は3で答えてください。(〇は1つ)

n=404

項目	実践している	実践を検討している	検討もしていない	(無回答)	合計
1 新築や改修はZEH(※1)やLCCM住宅(※2)に、建築資材に地元産の木材を使用 ※1 ZEH:外皮の断熱性能を大幅に向上させるとともに、高効率な設備システムの導入により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギーを実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、年間の一次エネルギー消費量の収支がゼロとすることを目指した住宅 ※2 LCCM住宅:ライフ・サイクル・カーボン・マイナス住宅の略。建物を長寿命化するとともに、居住時だけでなく、住宅の建設から廃棄時に至るまでできるだけ省CO2に取り組み、ライフサイクルを通じてのCO2の収支をマイナスにする住宅	17.1%	24.5%	47.8%	10.6%	100.0%
2 LED照明の使用	69.8%	18.3%	6.9%	5.0%	100.0%
3 外壁の断熱リフォーム(二重窓含む)	37.1%	17.8%	37.4%	7.7%	100.0%
4 給湯空調設備や電化製品は、省エネ性能の高いものを使用	51.5%	23.5%	17.6%	7.4%	100.0%
5 通勤・通学、出かける際の、徒歩や自転車、公共交通機関を利用	26.5%	25.2%	41.1%	7.2%	100.0%
6 自動車をEV(電気自動車)に乗り換え	3.0%	27.2%	59.2%	10.6%	100.0%
7 運転の際のエコドライブ	52.0%	20.8%	17.3%	9.9%	100.0%
8 レジ袋や使い捨てプラスチックの使用量削減	75.7%	13.6%	5.9%	4.7%	100.0%
9 ごみの減量と分別	84.7%	7.9%	3.2%	4.2%	100.0%
10 人や地球に優しいものを選んで購入	39.6%	38.4%	15.1%	6.9%	100.0%
11 地元の旬の食材を食べ(地産地消)、残さず食べきる	57.4%	26.7%	9.9%	5.9%	100.0%
12 太陽光発電などの再生可能エネルギー設備を設置	16.8%	17.3%	58.4%	7.4%	100.0%
13 小売り電気事業者の再エネメニューに切り替え	8.9%	22.8%	60.6%	7.7%	100.0%
14 自宅に庭木やグリーンカーテンを取り入れる	42.1%	19.8%	32.4%	5.7%	100.0%

<図IV-7-5>全体



カーボンニュートラルにつながる各項目の行動については、「実践している」は『ごみの減量と分別』が84.7%で最も高く、次いで『レジ袋や使い捨てプラスチックの使用量削減』が75.7%、『LED照明の使用』が69.8%と続いている。「検討もしていない」は『小売り電気事業者の再エネメニューに切り替え』が60.6%で最も高く、次いで『自動車をEV（電気自動車）に乗り換え』が59.2%、『太陽光発電などの再生可能エネルギー設備を設置』が58.4%と続いている。（図IV-7-5）

<参考>

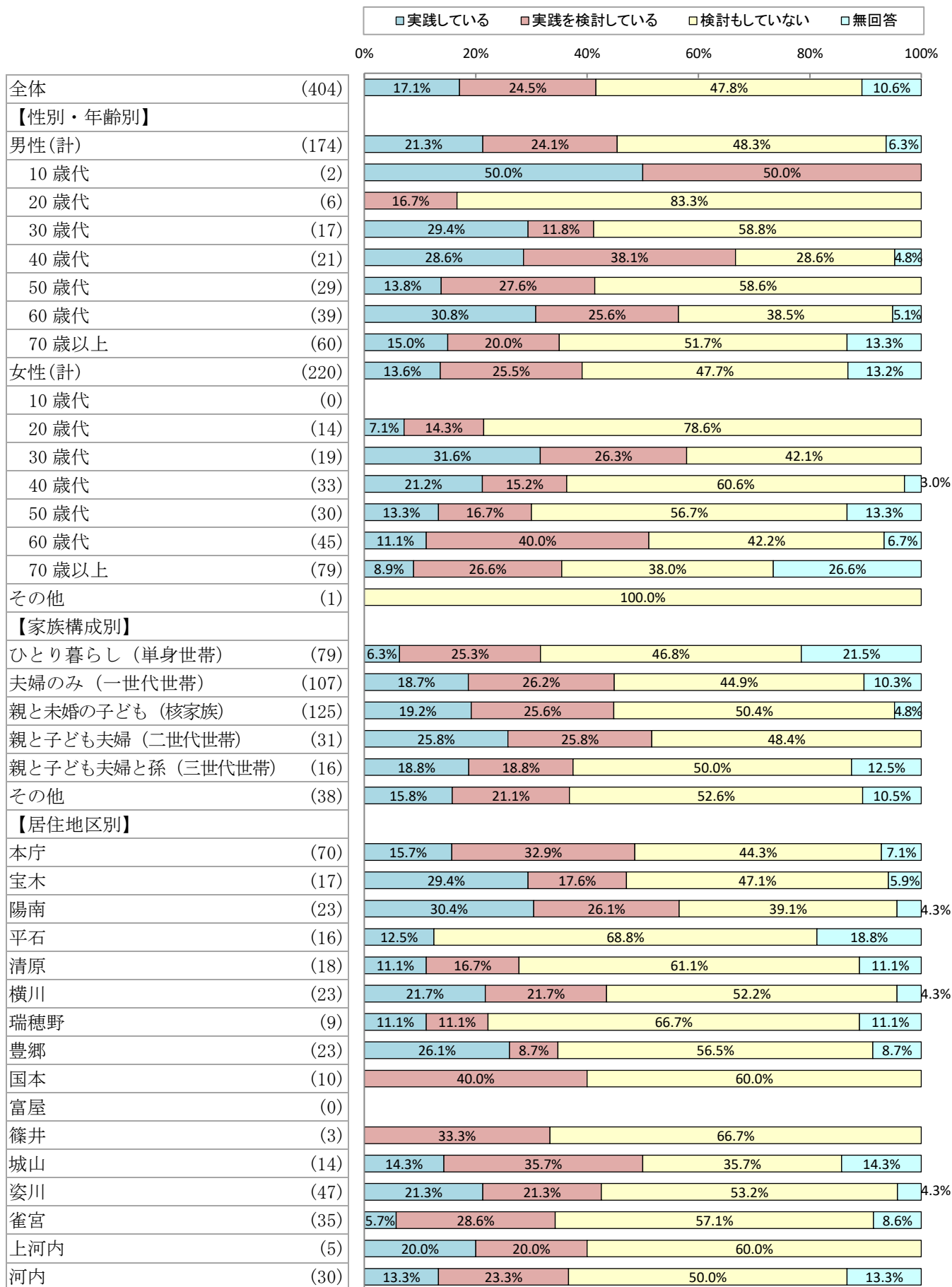
性別・年齢別でみると、『ごみの減量と分別』を「実践している」は、<男性/10歳代>が100.0%、<女性/40歳代>が93.9%であった。（図IV-7-14）

家族構成別でみると、『ごみの減量と分別』を「実践している」は、<親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）>が93.8%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が87.1%であった。（図IV-7-14）

居住地区別でみると、『ごみの減量と分別』を「実践している」は、<豊郷><国本><篠井>が100.0%、<城山>が92.9%であった。（図IV-7-14）

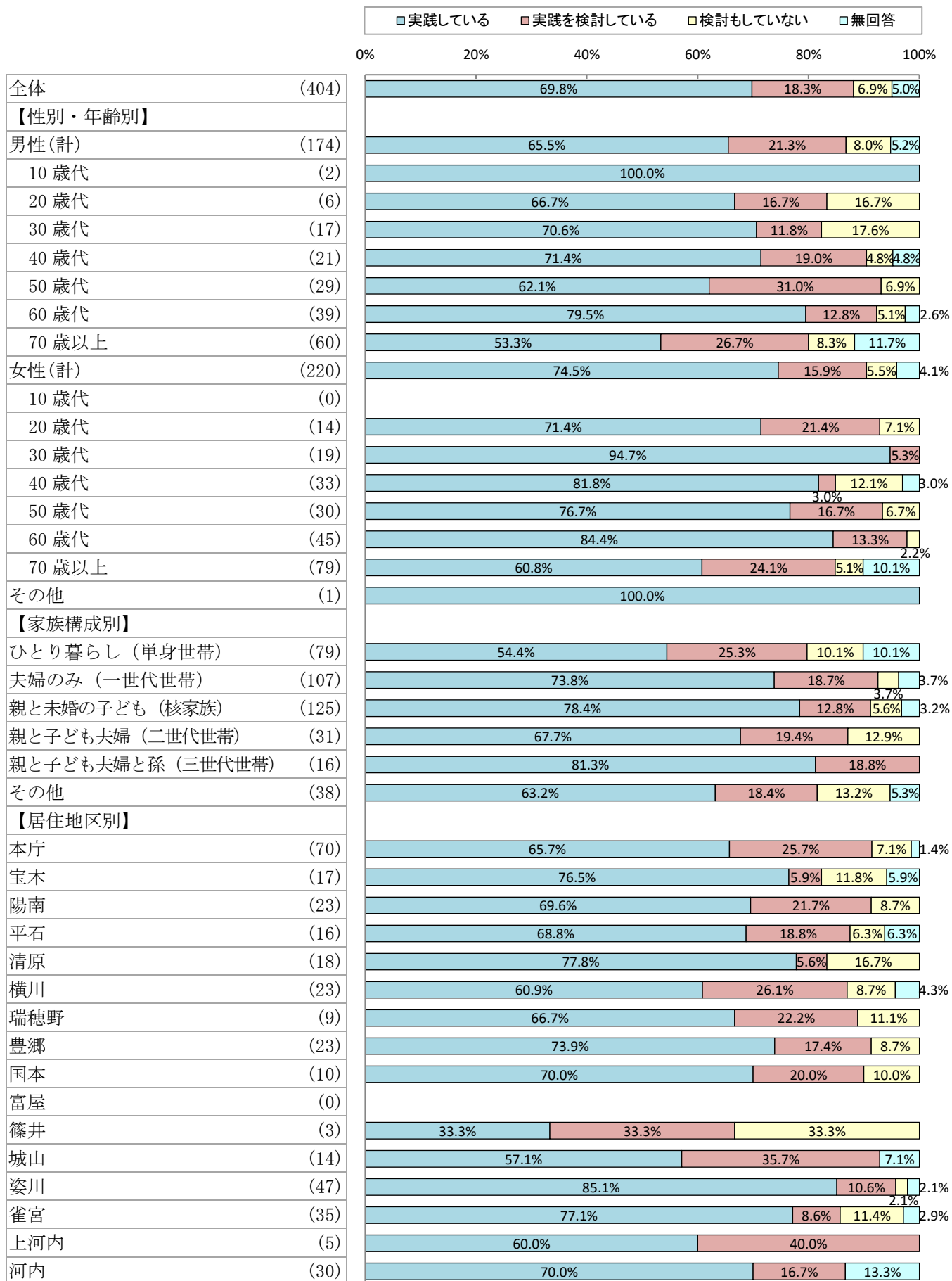
<図IV-7-6>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

①「新築や改修はZEHやLCCM住宅に、建築資材に地元産の木材を使用」



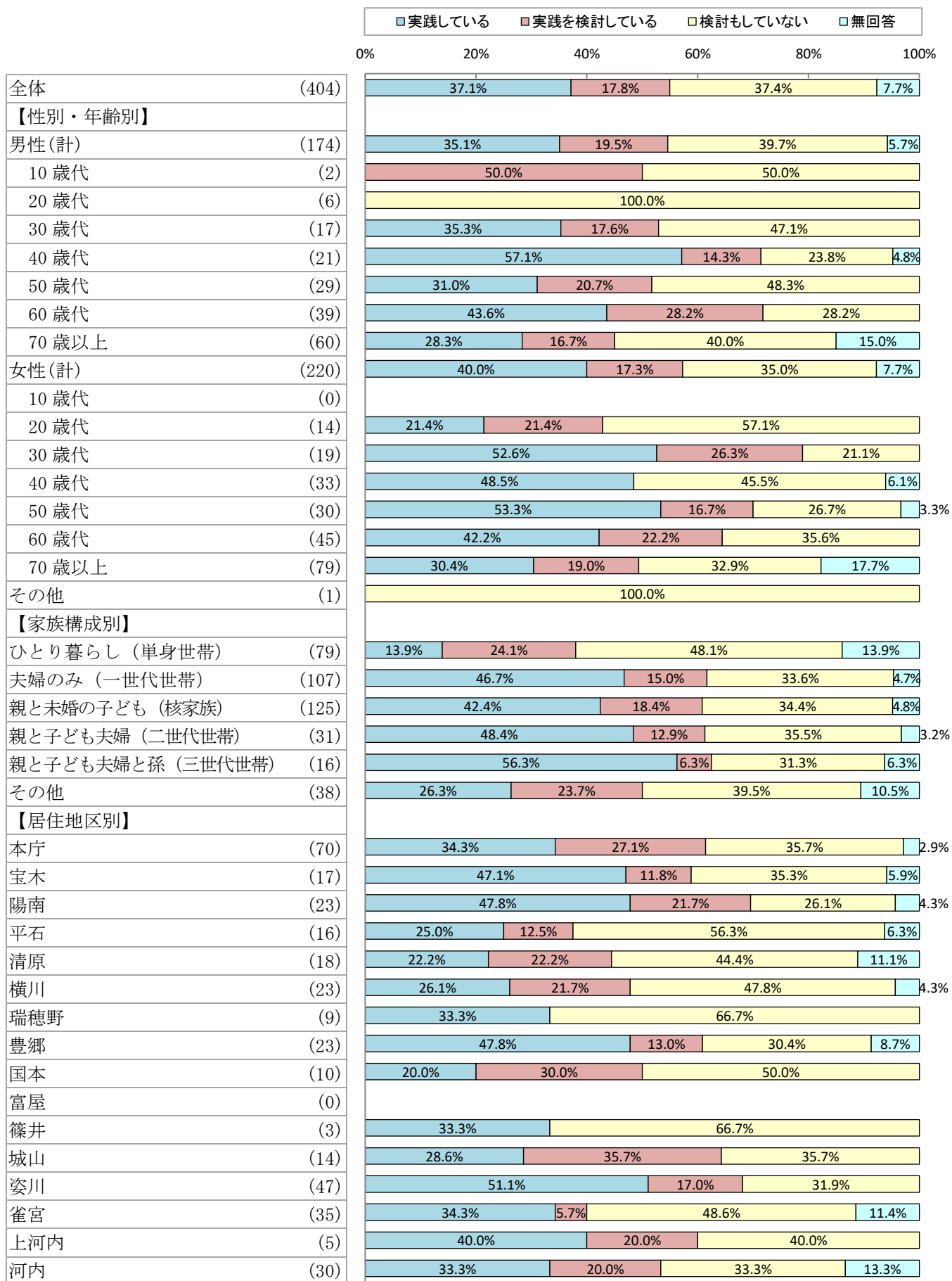
<図IV-7-7>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

②「LED照明の使用」



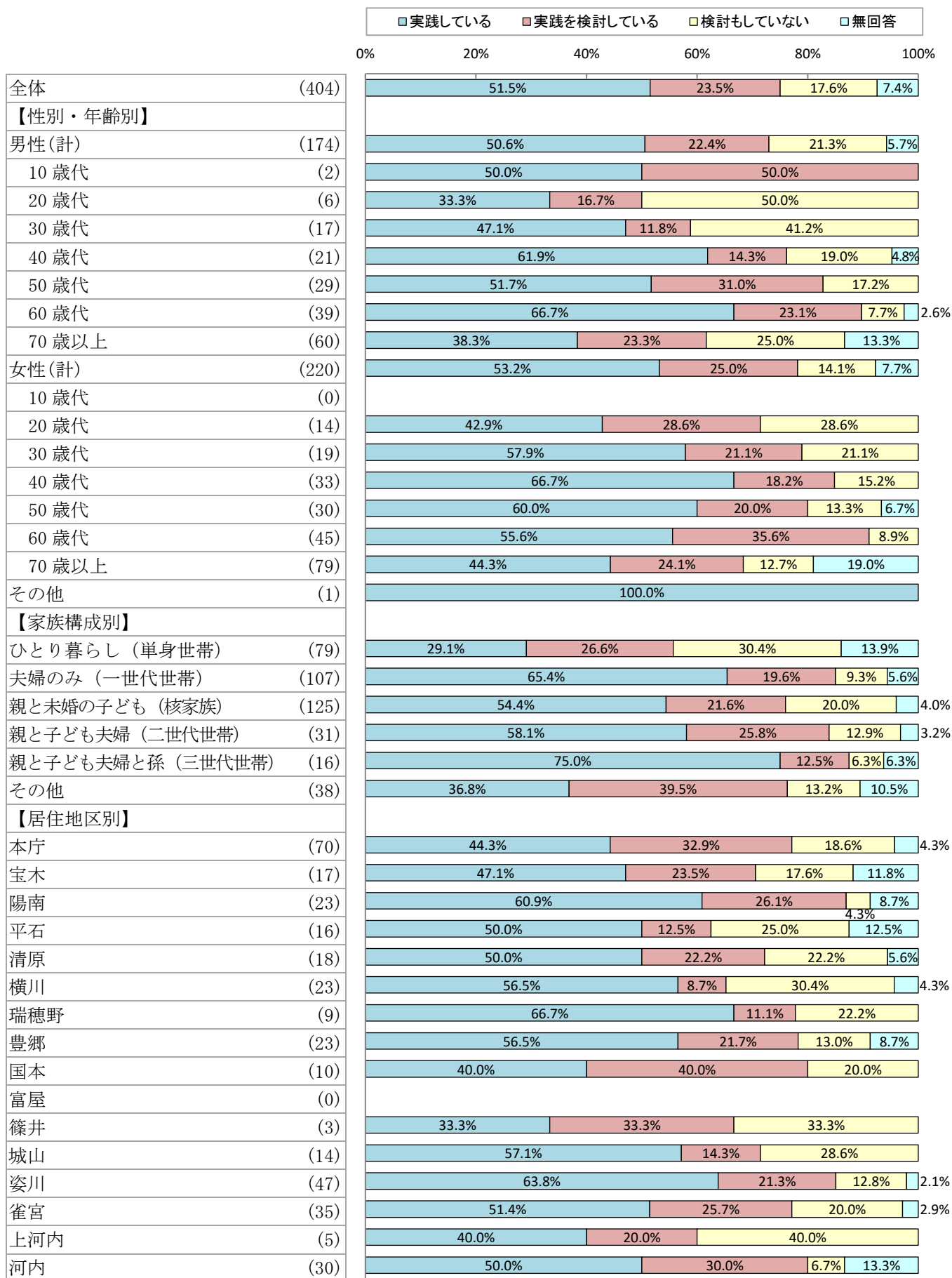
<図IV-7-8>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

③「外壁の断熱リフォーム（二重窓含む）」



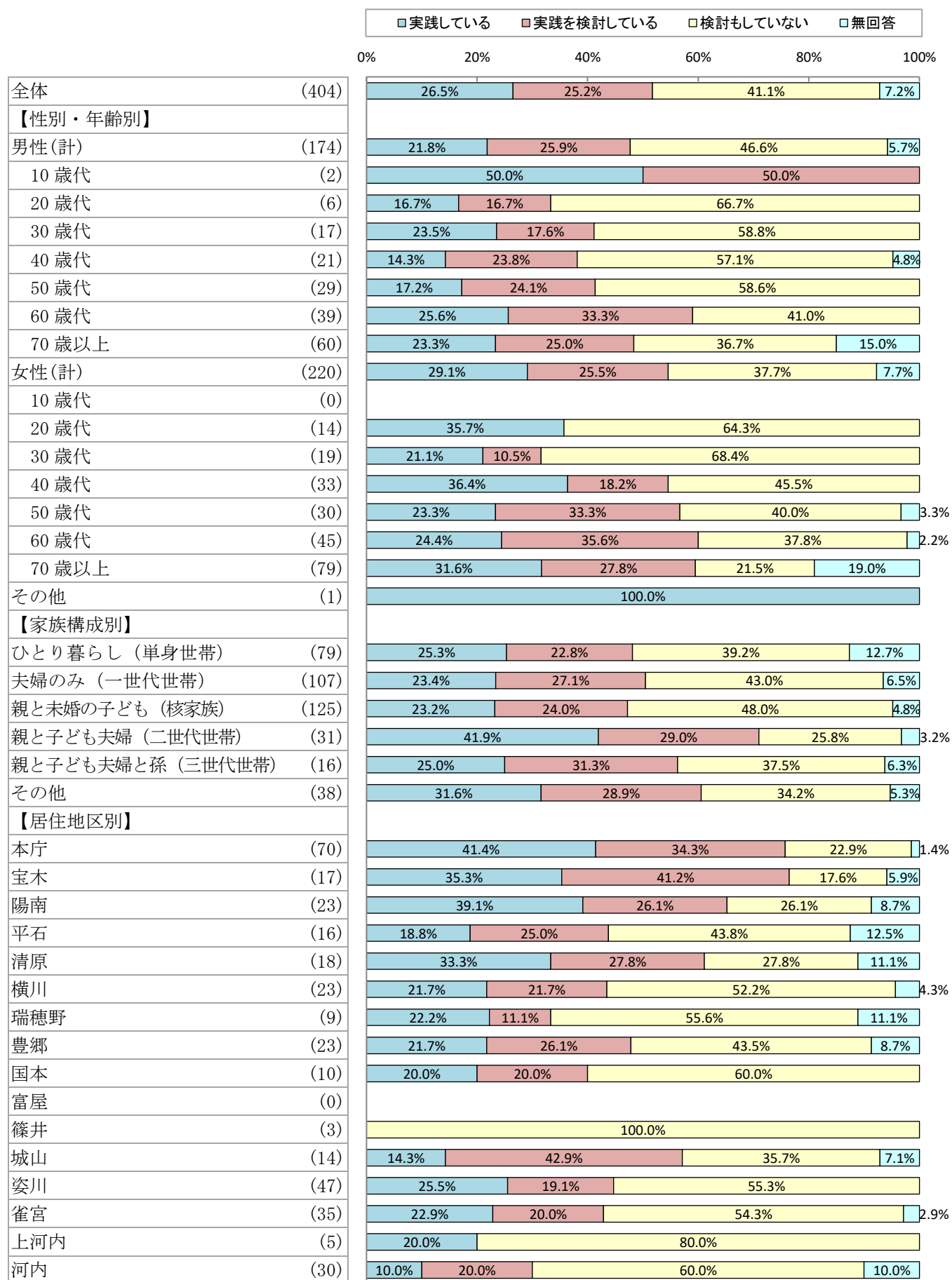
<図IV-7-9>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

④「給湯空調設備や電化製品は、省エネ性能の高いものを使用」



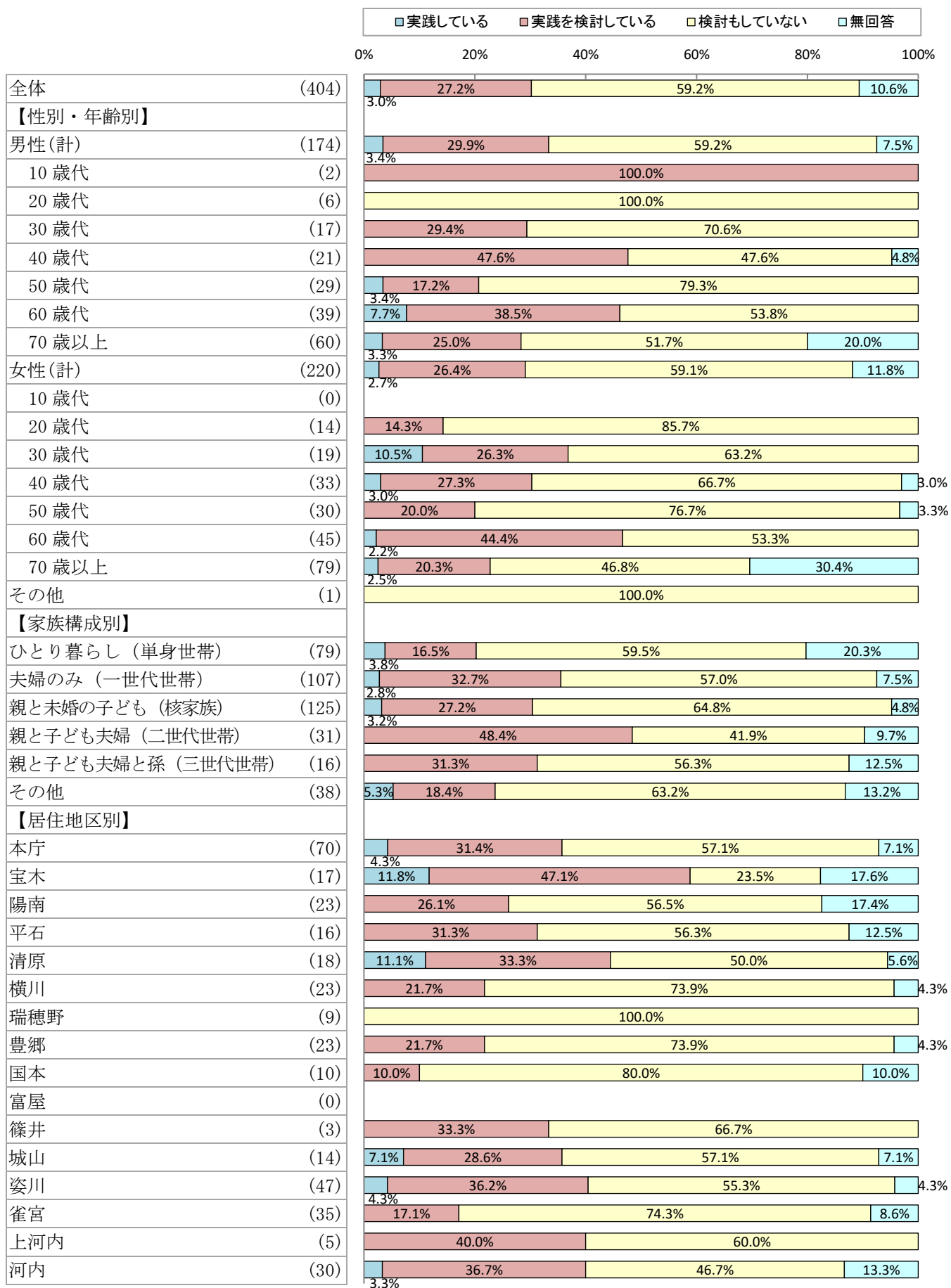
<図IV-7-10>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑤「通勤・通学，出かける際の，徒歩や自転車，公共交通機関を利用」



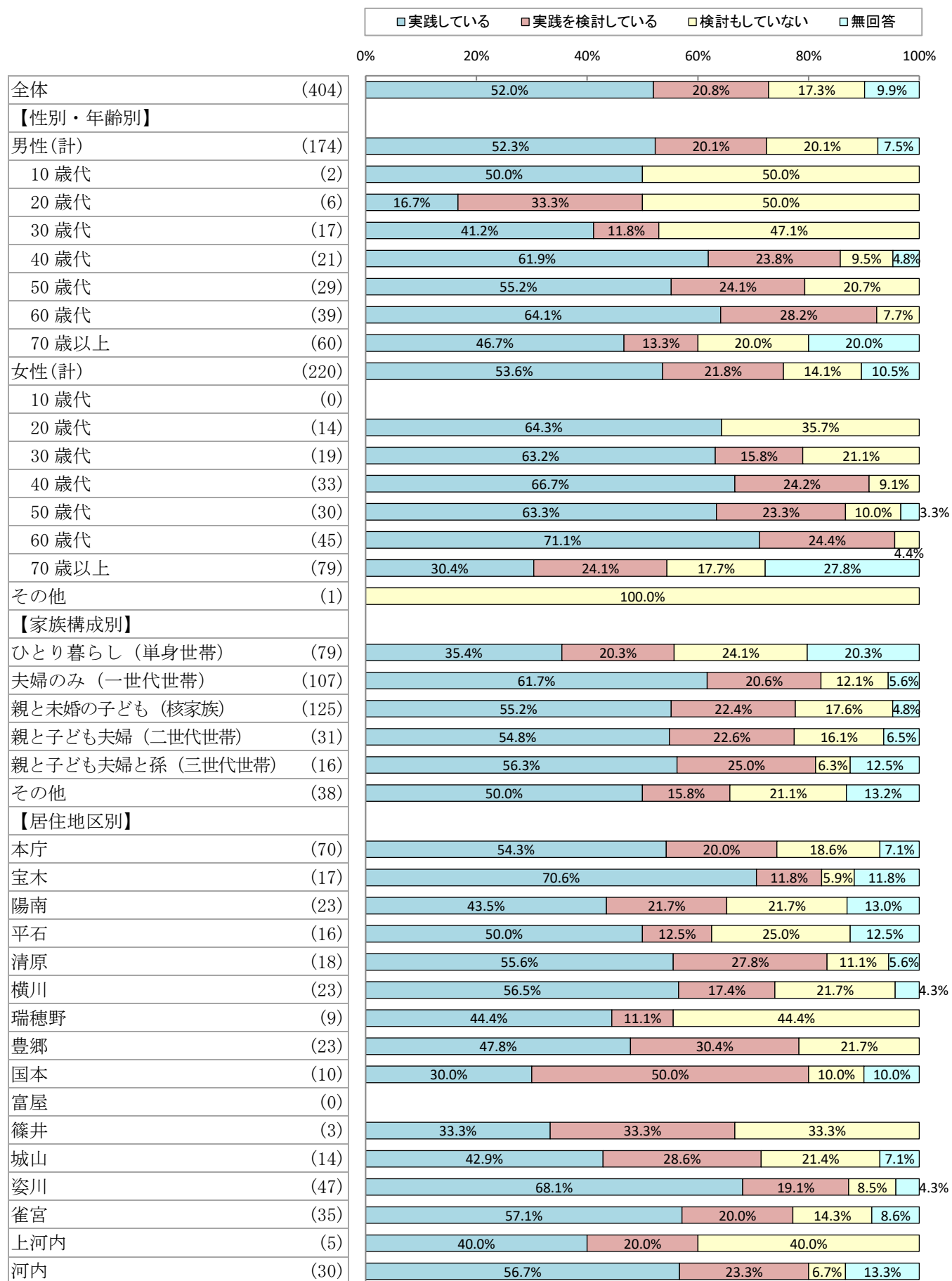
<図IV-7-11>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑥「自動車をEV（電気自動車）に乗り換え」



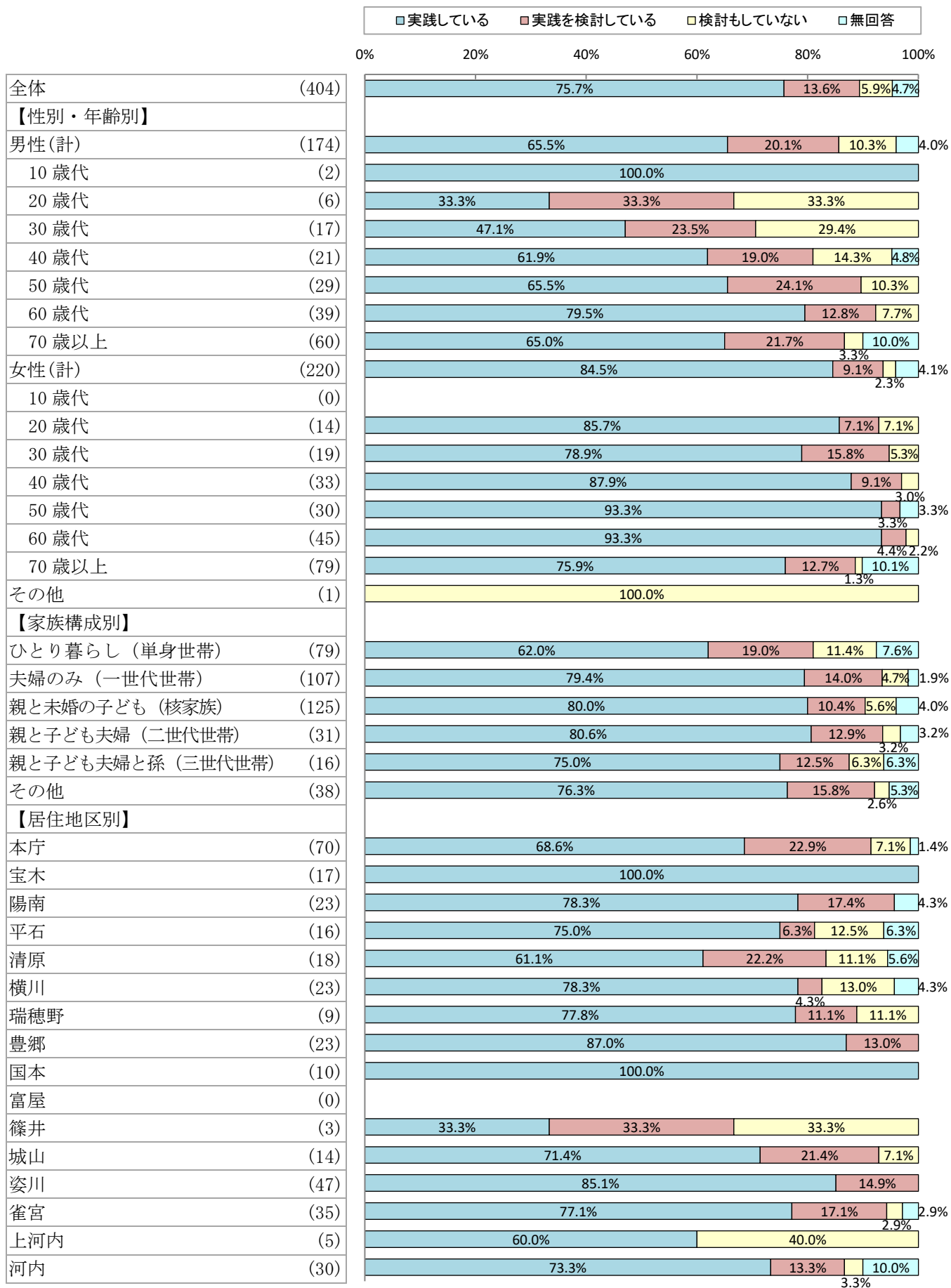
<図IV-7-12>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑦「運転の際のエコドライブ」



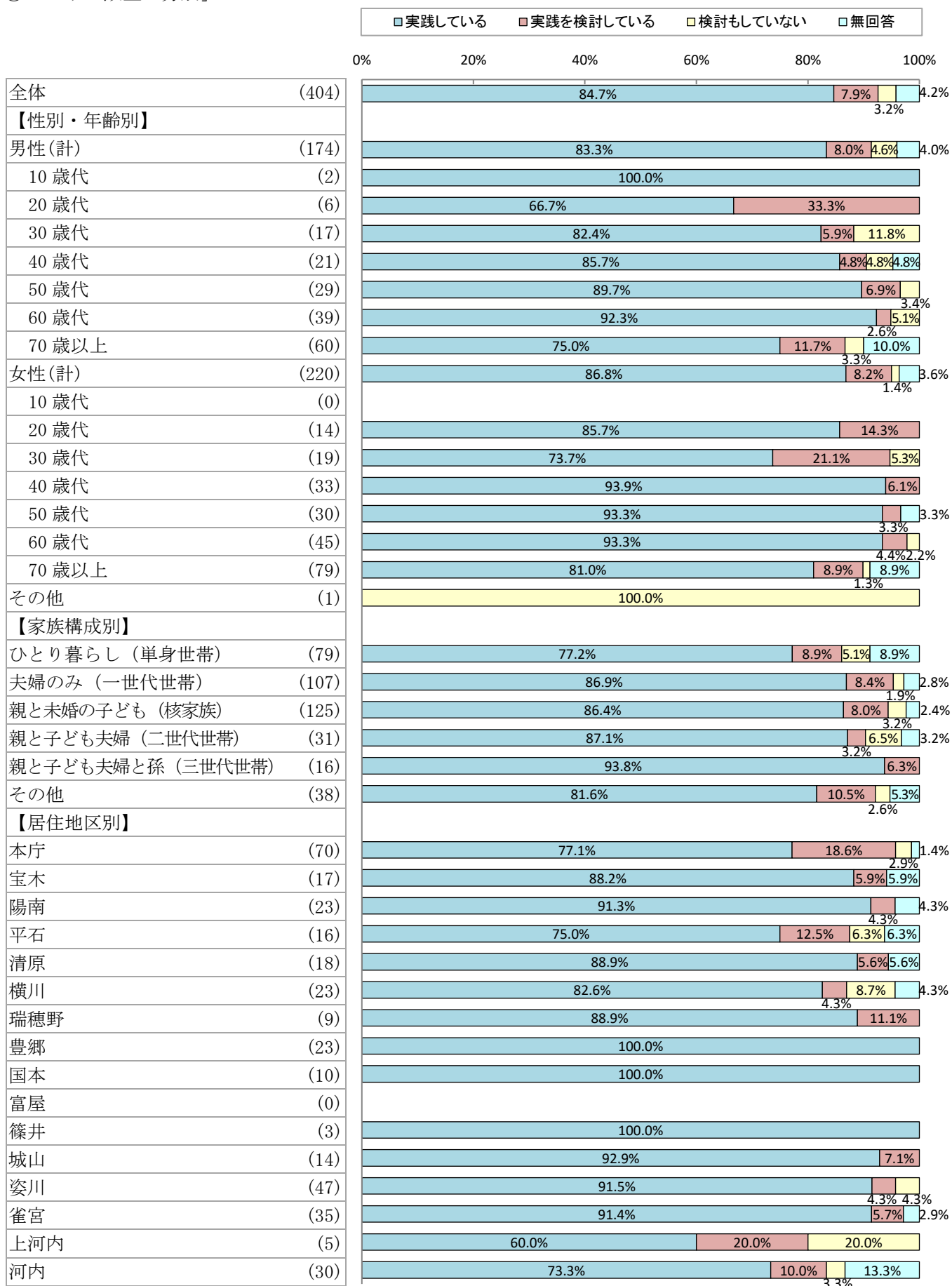
<図IV-7-13>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑧「レジ袋や使い捨てプラスチックの使用量削減」



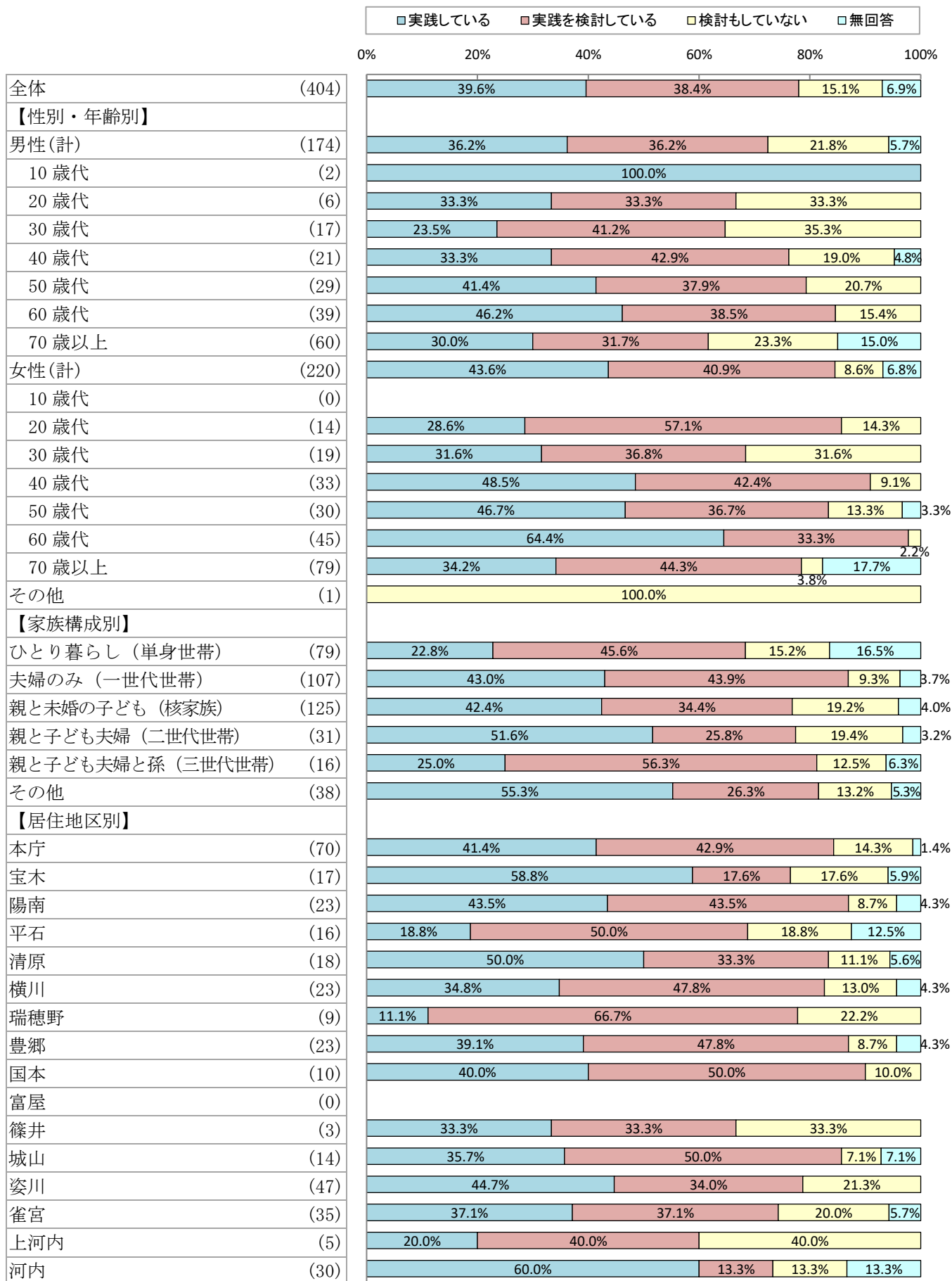
<図IV-7-14>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑨「ごみの減量と分別」



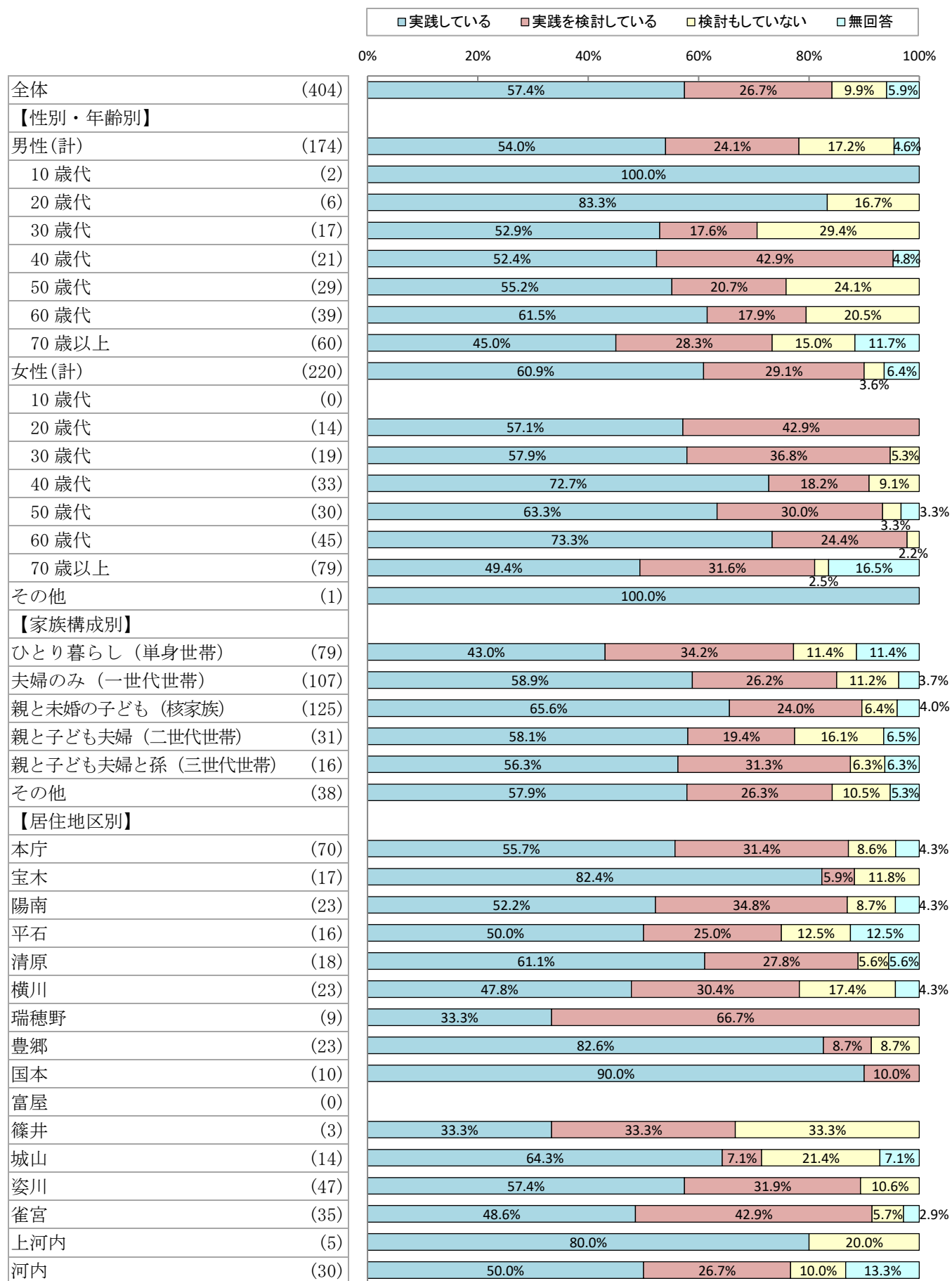
<図IV-7-15>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑩「人や地球に優しいものを選んで購入」



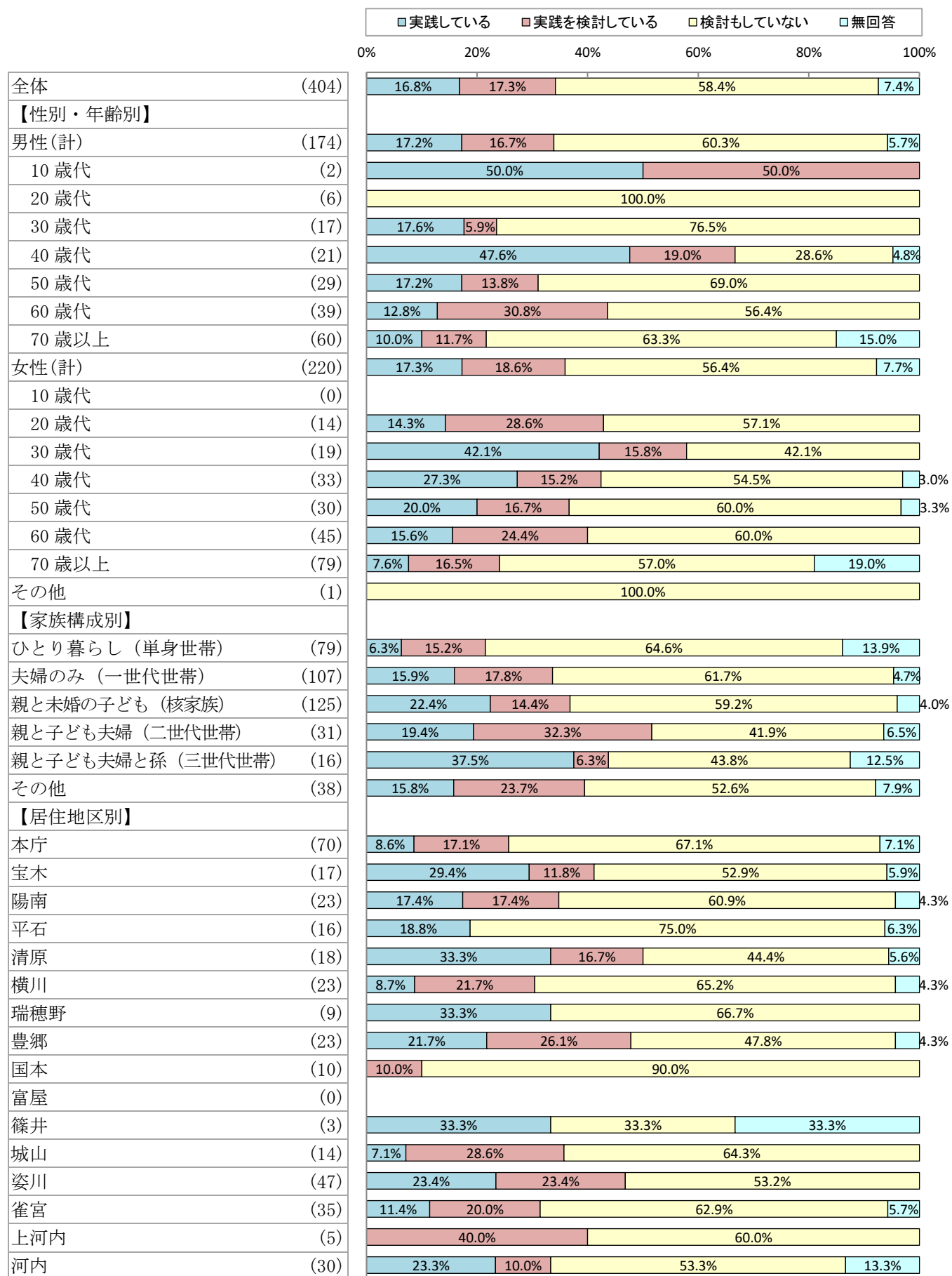
<図IV-7-16>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑪「地元の旬の食材を食べ（地産地消），残さず食べきる」



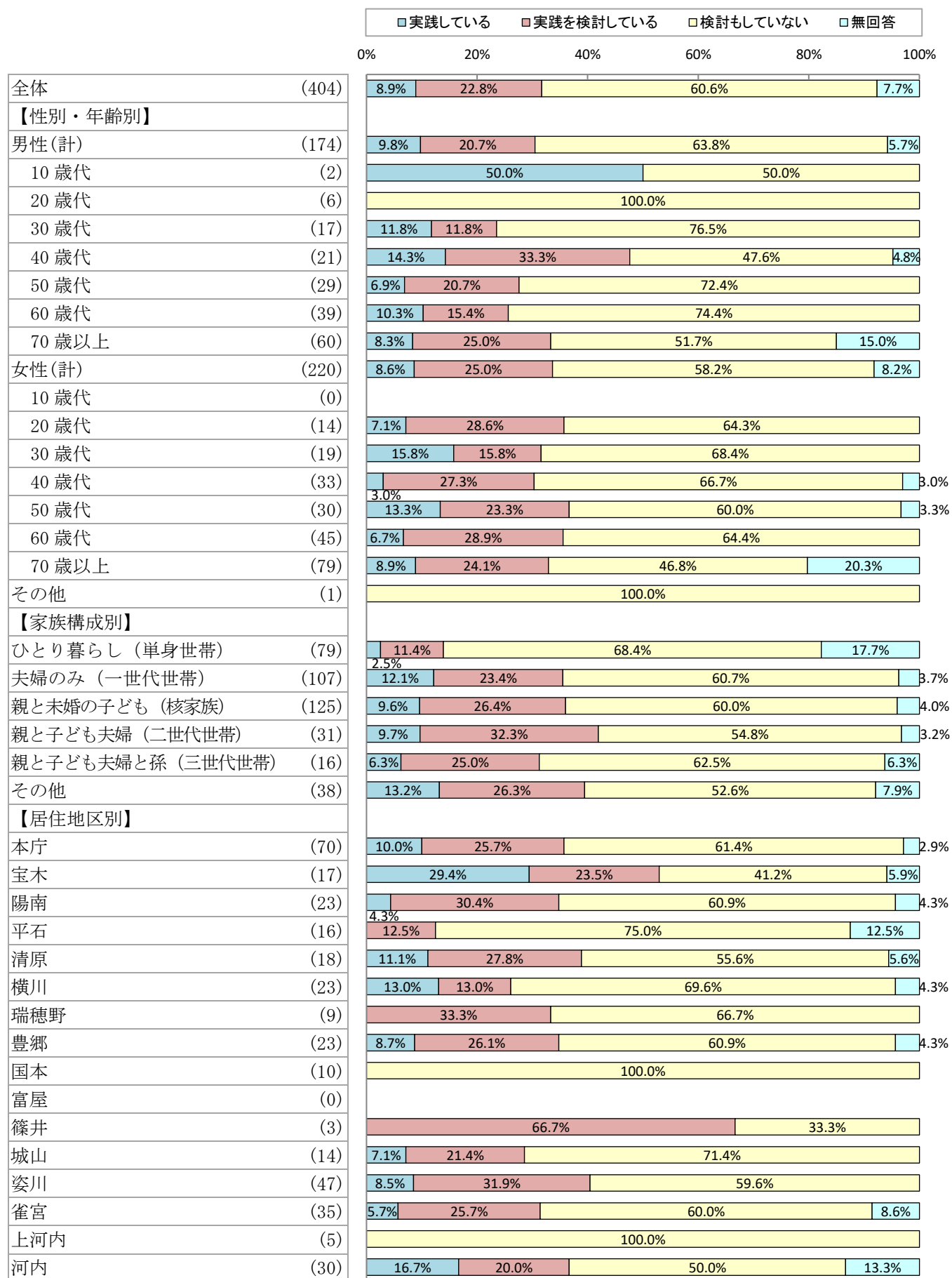
<図IV-7-17>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑫「太陽光発電などの再生可能エネルギー設備を設置」



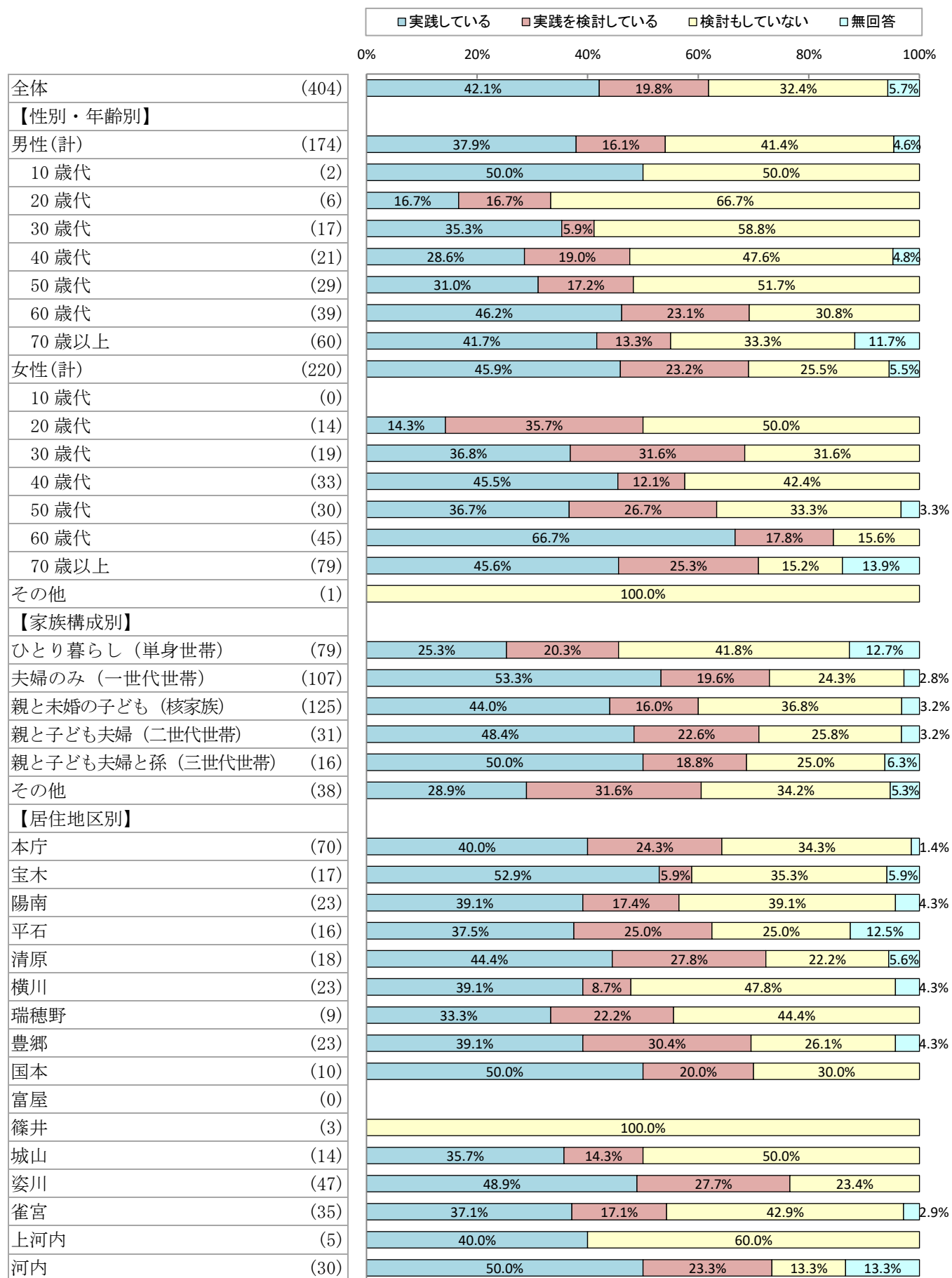
<図IV-7-18>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑬「小売り電気事業者の再エネメニューに切り替え」



<図IV-7-19>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑭「自宅に庭木やグリーンカーテンを取り入れる」

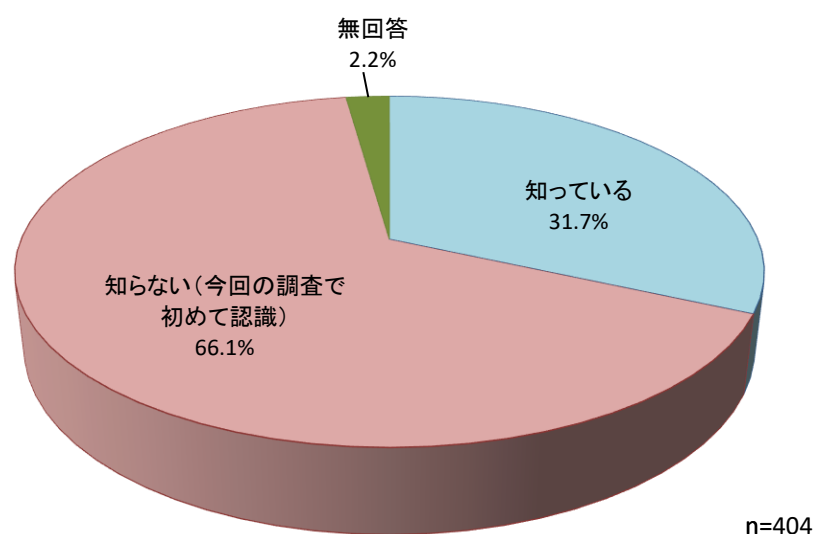


(4) ライトラインが再生可能エネルギー100%で走行していることの認知度

◇ 「知らない（今回の調査で初めて認識）」が6割半ば

問28 ライトライン※は、家庭ごみの焼却等や家庭用太陽光による発電で生み出される地域由来の再生可能エネルギー100%で走行していること（ゼロカーボントランスポート）を知っていますか。 ※芳賀宇都宮LRTの愛称		(○は1つ)
		n=404
1	知っている	31.7%
2	知らない（今回の調査で初めて認識）	66.1%
	（無回答）	2.2%

<図IV-7-20>全体



ライトラインは、家庭ごみの焼却等や家庭用太陽光による発電で生み出される地域由来の再生可能エネルギー100%で走行していること（ゼロカーボントランスポート）を知っているかについては、「知らない（今回の調査で初めて認識）」が66.1%であった。一方、「知っている」は31.7%であった。（図IV-7-20）

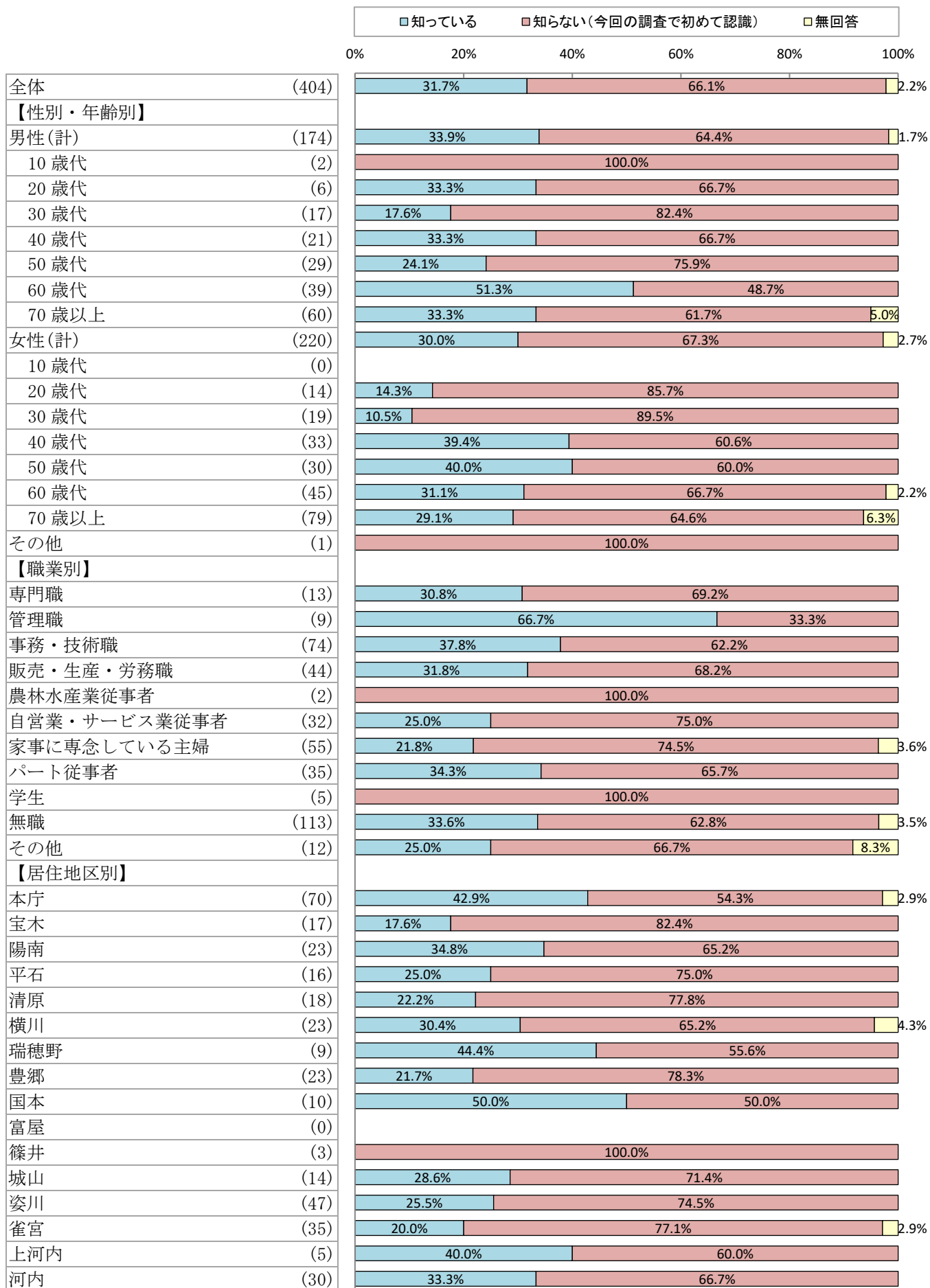
<参考>

性別・年齢別でみると、「知らない（今回の調査で初めて認識）」は<その他>を除くと、<男性/10歳代>が100.0%、<女性/30歳代>が89.5%であった。「知っている」は<男性/60歳代>が51.3%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が40.0%であった。（図IV-7-21）

職業別でみると、「知らない（今回の調査で初めて認識）」は<学生><農林水産業従事者>が100.0%、<自営業・サービス業従事者>が75.0%であった。「知っている」は<管理職>が66.7%、<事務・技術職>が37.8%であった。（図IV-7-21）

居住地域別でみると、「知らない（今回の調査で初めて認識）」は<篠井>が100.0%、<宝木>が82.4%であった。「知っている」は<国本>が50.0%、<瑞穂野>が44.4%であった。（図IV-7-21）

<図IV-7-21>性別・年齢別／職業別／居住地区別



8. 水災害（洪水など）への備えについて

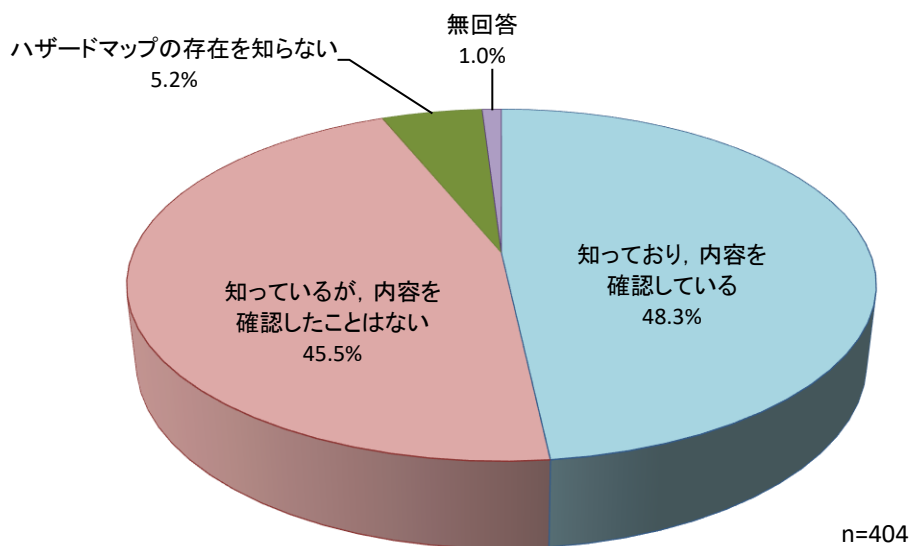
(1) ハザードマップの存在の認知度

◇ 「知っており、内容を確認している」が5割弱

問29 近年、台風の大規模化やゲリラ豪雨など、自然災害が激甚化・頻発化し、市内でも令和元年東日本台風などにより、洪水などの被害が発生しています。市では、こうした水災害などに対し、あらかじめ備えるため、洪水などの被害が発生する地域や浸水の深さ、災害時の避難や事前準備の情報をまとめた「ハザードマップ」を作成しています。あなたは、「ハザードマップ」の存在を知っていますか。 (○は1つ)

		n=404
1	知っており、内容を確認している	48.3%
2	知っているが、内容を確認したことはない	45.5%
3	ハザードマップの存在を知らない	5.2%
	(無回答)	1.0%

<図IV-8-1>全体



「ハザードマップ」の存在を知っているかについては、「知っており、内容を確認している」が48.3%で最も高く、次いで「知っているが、内容を確認したことはない」が45.5%であった。(図IV-8-1)

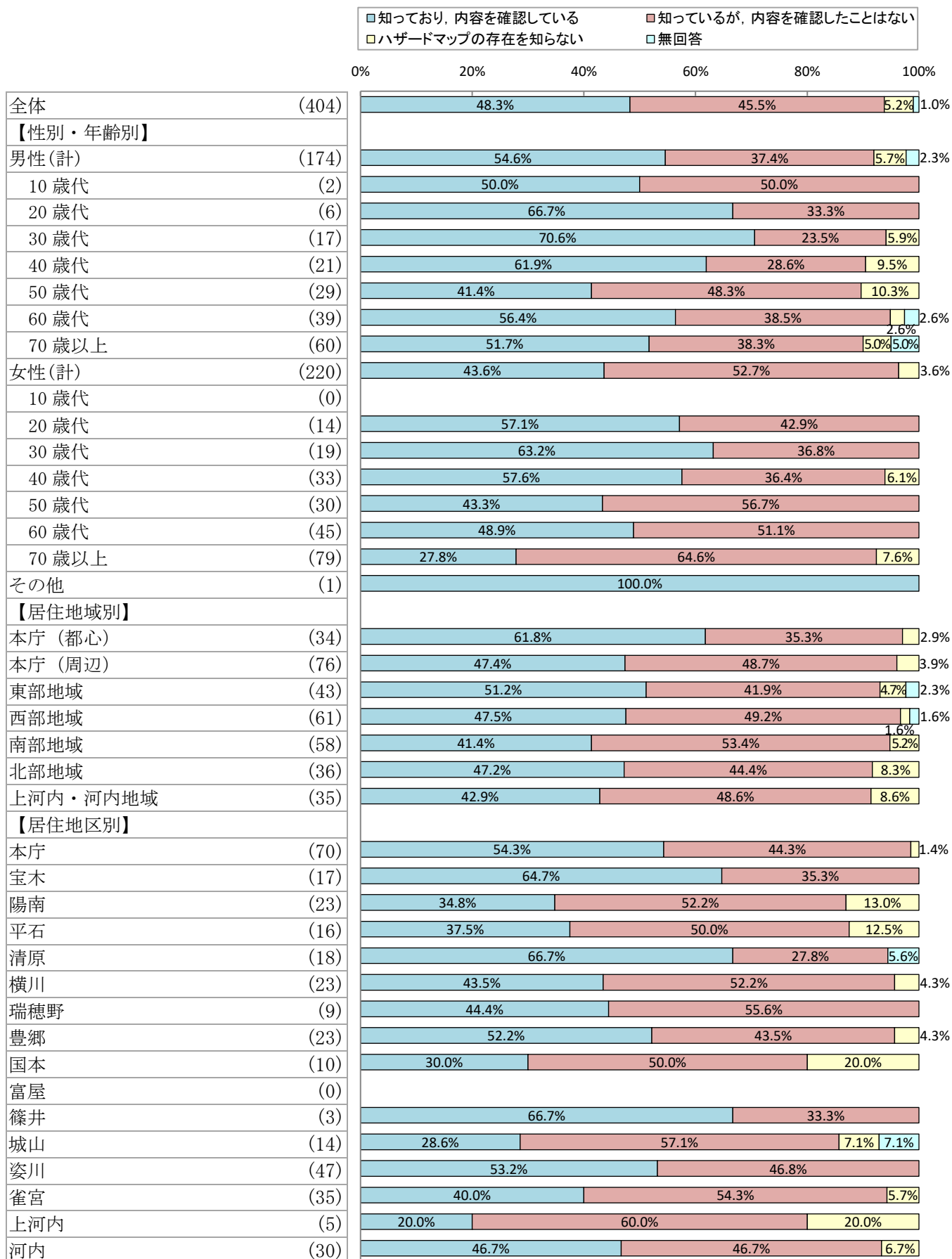
<参考>

性別・年齢別で見ると、「知っており、内容を確認している」は<その他>を除くと、<男性/30歳代>が70.6%、<男性/20歳代>が66.7%であった。「知っているが、内容を確認したことはない」は<女性/70歳以上>が64.6%、<女性/50歳代>が56.7%であった。(図IV-8-2)

居住地域別で見ると、「知っており、内容を確認している」は<本庁(都心)>が61.8%で最も高く、次いで<東部地域>が51.2%であった。「知っているが、内容を確認したことはない」は<南部地域>が53.4%で最も高く、次いで<西部地域>が49.2%であった。(図IV-8-2)

居住地区別で見ると、「知っており、内容を確認している」は<清原><篠井>が66.7%で最も高く、次いで<宝木>が64.7%であった。「知っているが、内容を確認したことはない」は<上河内>が60.0%で最も高く、次いで<城山>が57.1%であった。(図IV-8-2)

<図IV-8-2>性別・年齢別／居住地域別／居住地区別

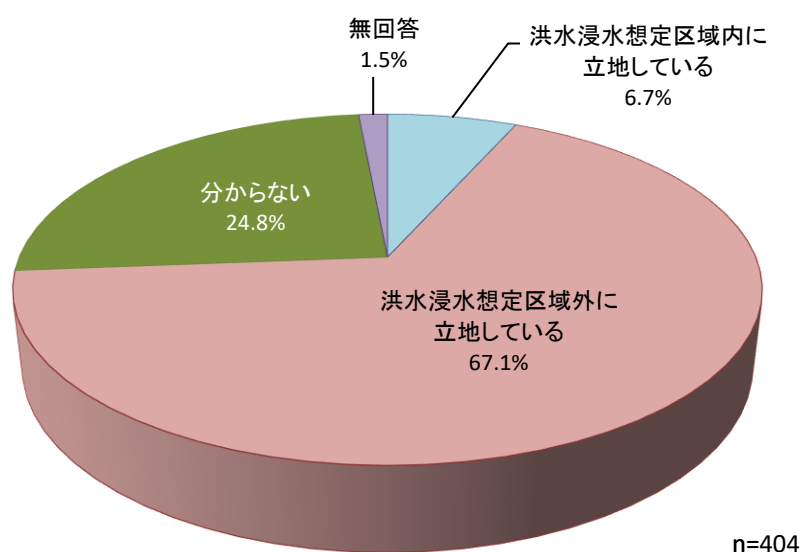


(2) 住んでいる建物（住宅）は、洪水浸水想定区域内、または洪水浸水想定区域外か

◇ 「洪水浸水想定区域外に立地している」が7割弱

問30	あなたの住んでいる建物（住宅）は、「ハザードマップ」で示す洪水浸水想定区域内、または洪水浸水想定区域外のどちらに立地していますか。	(○は1つ)
		n=404
1	洪水浸水想定区域内に立地している	6.7%
2	洪水浸水想定区域外に立地している	67.1%
3	分からない	24.8%
	(無回答)	1.5%

<図IV-8-3>全体



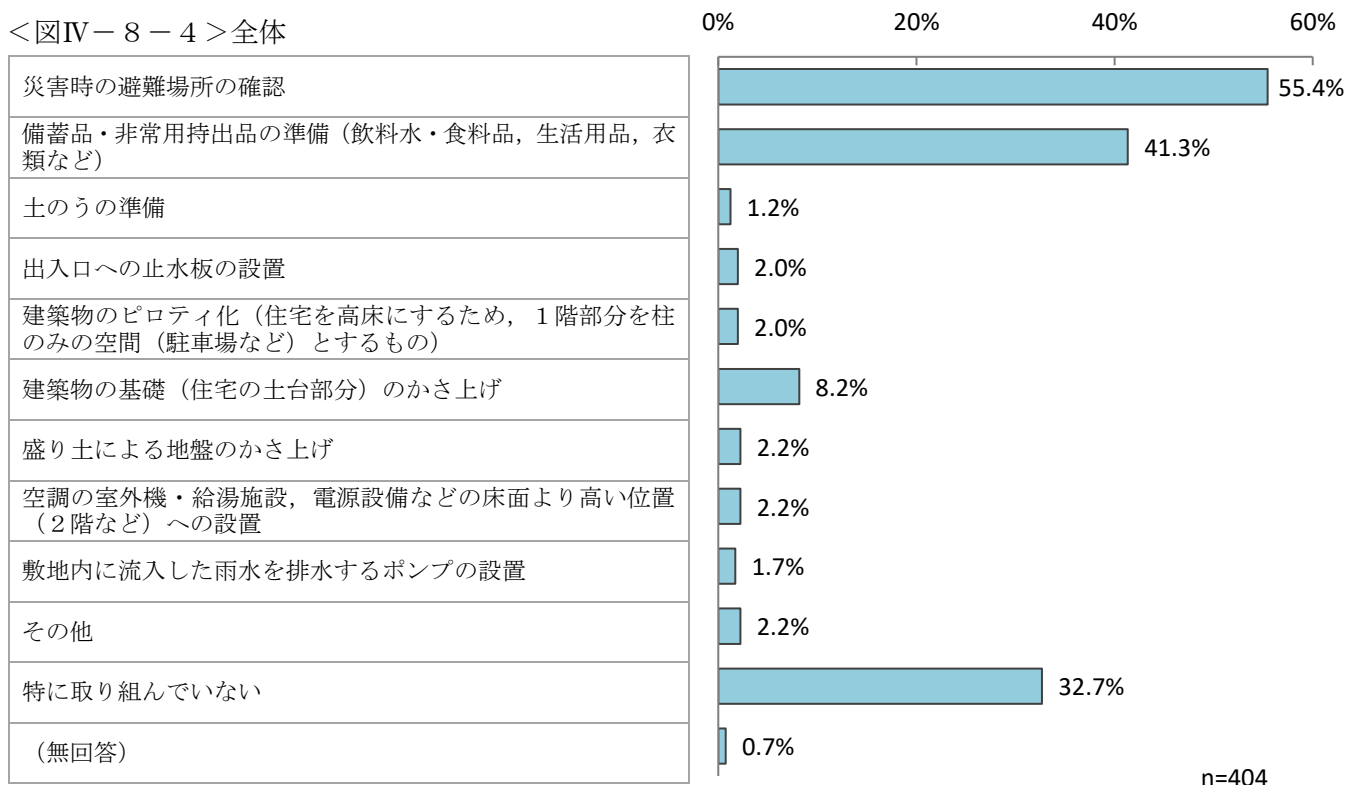
住んでいる建物（住宅）は、「ハザードマップ」で示す洪水浸水想定区域内、または洪水浸水想定区域外のどちらに立地しているかについては、「洪水浸水想定区域外に立地している」が67.1%で最も高く、次いで「分からない」が24.8%、「洪水浸水想定区域内に立地している」が6.7%であった。(図IV-8-3)

(3) 水災害への備えに取り組んでいるか

◇ 「災害時の避難場所の確認」が5割半ば

問 3 1	あなたは、水災害（洪水など）に対し、あらかじめ備えるため、以下の水災害への備えに取り組んでいますか。該当するものを全て選んでください。（〇はいくつでも）	n=404
1	災害時の避難場所の確認	55.4%
2	備蓄品・非常用持出品の準備（飲料水・食料品、生活用品、衣類など）	41.3%
3	土のうの準備	1.2%
4	出入口への止水板の設置	2.0%
5	建築物のピロティ化（住宅を高床にするため、1階部分を柱のみの空間（駐車場など）とするもの）	2.0%
6	建築物の基礎（住宅の土台部分）のかさ上げ	8.2%
7	盛り土による地盤のかさ上げ	2.2%
8	空調の室外機・給湯施設、電源設備などの床面より高い位置（2階など）への設置	2.2%
9	敷地内に流入した雨水を排水するポンプの設置	1.7%
10	その他	2.2%
11	特に取り組んでいない (無回答)	32.7% 0.7%

<図IV-8-4>全体



水災害（洪水など）に対し、あらかじめ備えるため、水災害への備えに取り組んでいるものについては、「災害時の避難場所の確認」が55.4%で最も高く、次いで「備蓄品・非常用持出品の準備（飲料水・食料品、生活用品、衣類など）」が41.3%、「特に取り組んでいない」が32.7%と続いている。（図IV-8-4）

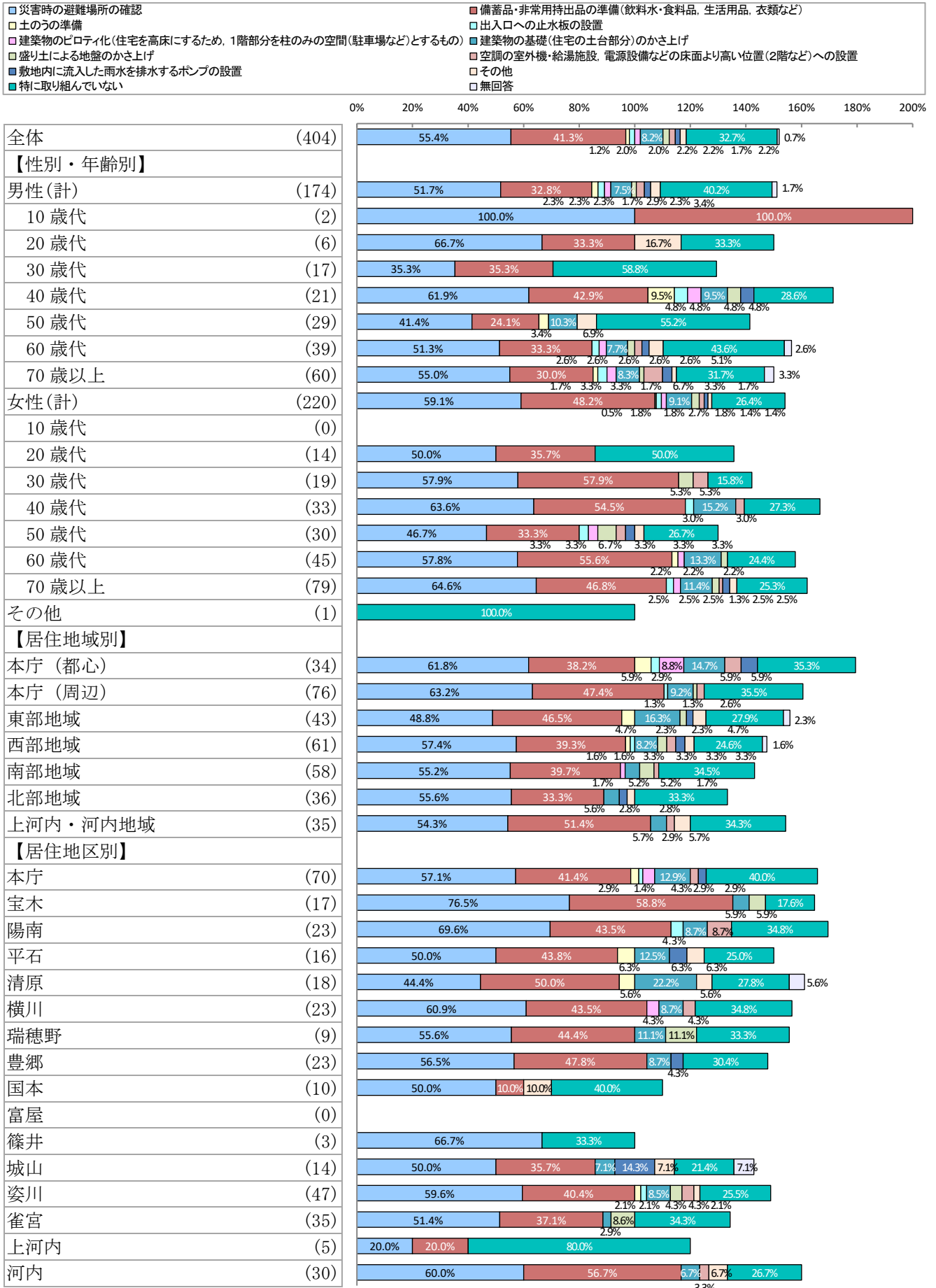
<参考>

性別・年齢別でみると、「災害時の避難場所の確認」は<男性/20歳代>が66.7%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が64.6%であった。（図IV-8-5）

居住地域別でみると、「災害時の避難場所の確認」は<本庁（周辺）>が63.2%で最も高く、次いで<本庁（都心）>が61.8%であった。（図IV-8-5）

居住地区別でみると、「災害時の避難場所の確認」は<宝木>が76.5%で最も高く、次いで<陽南>が69.6%であった。（図IV-8-5）

<図IV-8-5>性別・年齢別／居住地域・地区別



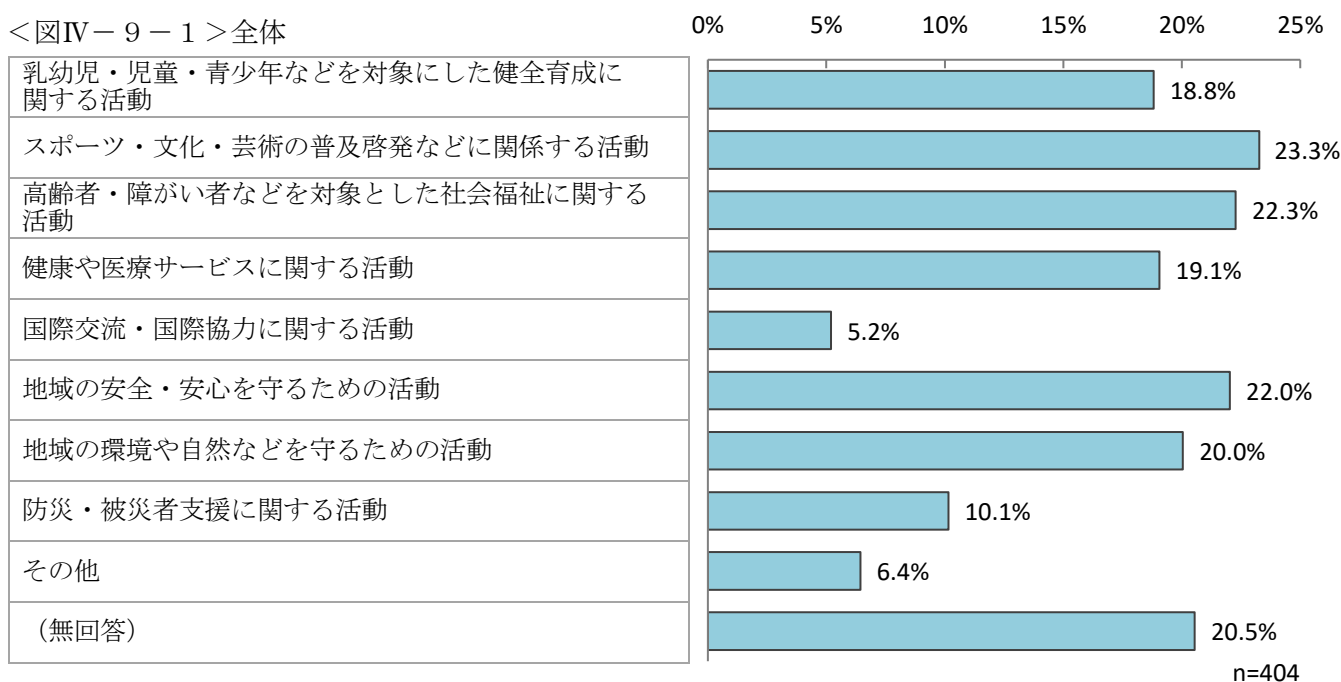
9. まちづくり活動への意識について

(1) 参加中または興味があるまちづくり活動

◇ 「スポーツ・文化・芸術の普及啓発などに関係する活動」が2割強

問3 2 あなたはどのような種類のまちづくり活動に参加していますか、または興味がありますか。 (〇はいくつでも)		n=404
1	乳幼児・児童・青少年などを対象にした健全育成に関する活動	18.8%
2	スポーツ・文化・芸術の普及啓発などに関係する活動	23.3%
3	高齢者・障がい者などを対象とした社会福祉に関する活動	22.3%
4	健康や医療サービスに関する活動	19.1%
5	国際交流・国際協力に関する活動	5.2%
6	地域の安全・安心を守るための活動	22.0%
7	地域の環境や自然などを守るための活動	20.0%
8	防災・被災者支援に関する活動	10.1%
9	その他	6.4%
	(無回答)	20.5%

<図IV-9-1>全体



参加中または興味があるまちづくり活動については、「スポーツ・文化・芸術の普及啓発などに関係する活動」が23.3%で最も高く、次いで「高齢者・障がい者などを対象とした社会福祉に関する活動」が22.3%、「地域の安全・安心を守るための活動」が22.0%と続いている。(図IV-9-1)

<参考>

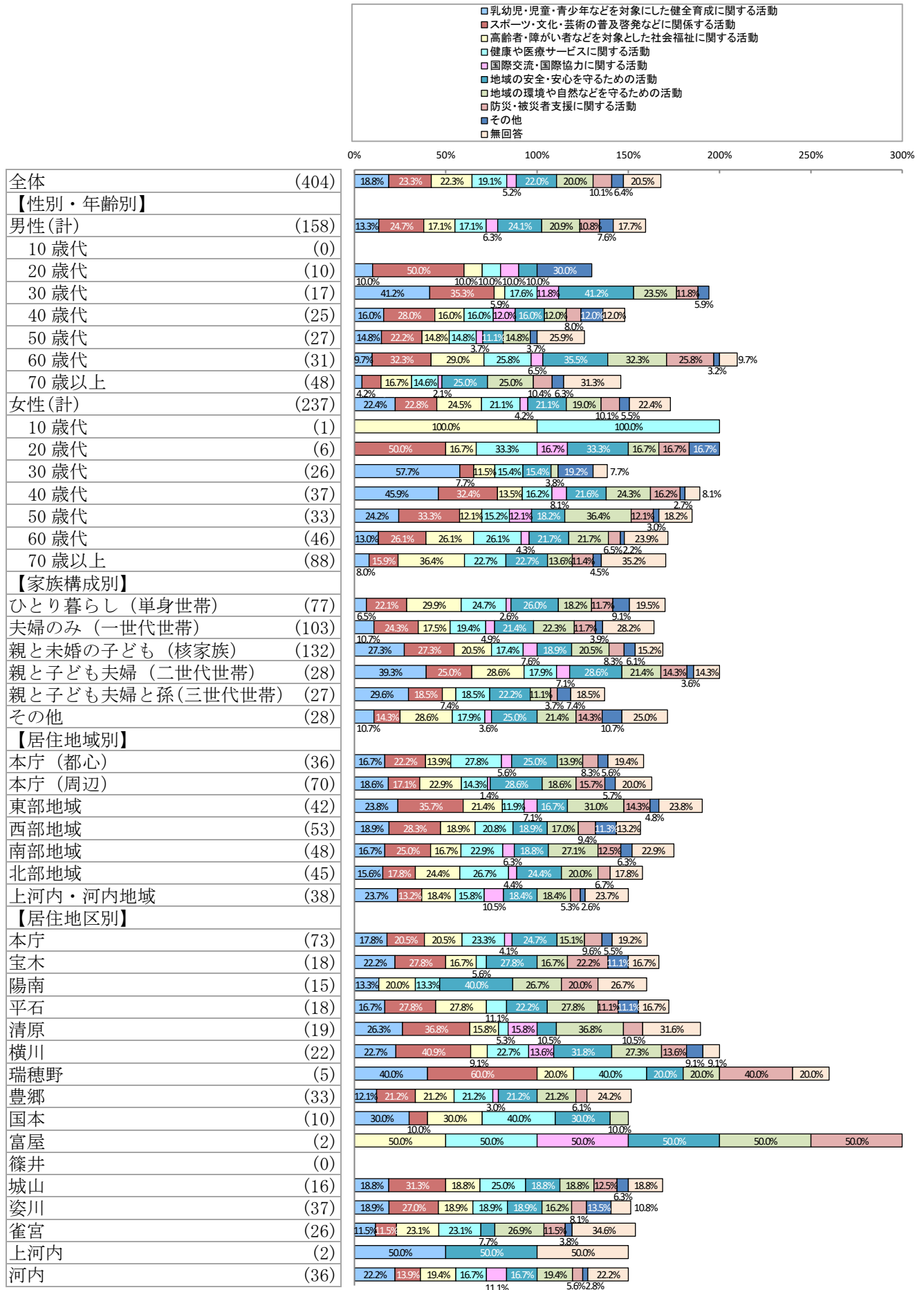
性別・年齢別でみると、「スポーツ・文化・芸術の普及啓発などに関係する活動」は<男性/20歳代><女性/20歳代>が50.0%、<男性/30歳代>が35.3%であった。(図IV-9-2)

家族構成別でみると、「スポーツ・文化・芸術の普及啓発などに関係する活動」は、<親と未婚の子ども(核家族)>が27.3%で最も高かった。(図IV-9-2)

居住地域別でみると、「スポーツ・文化・芸術の普及啓発などに関係する活動」は<東部地域>が35.7%で最も高かった。(図IV-9-2)

居住地区別でみると<瑞穂野>が60.0%で最も高かった。

<図IV-9-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域・地区別

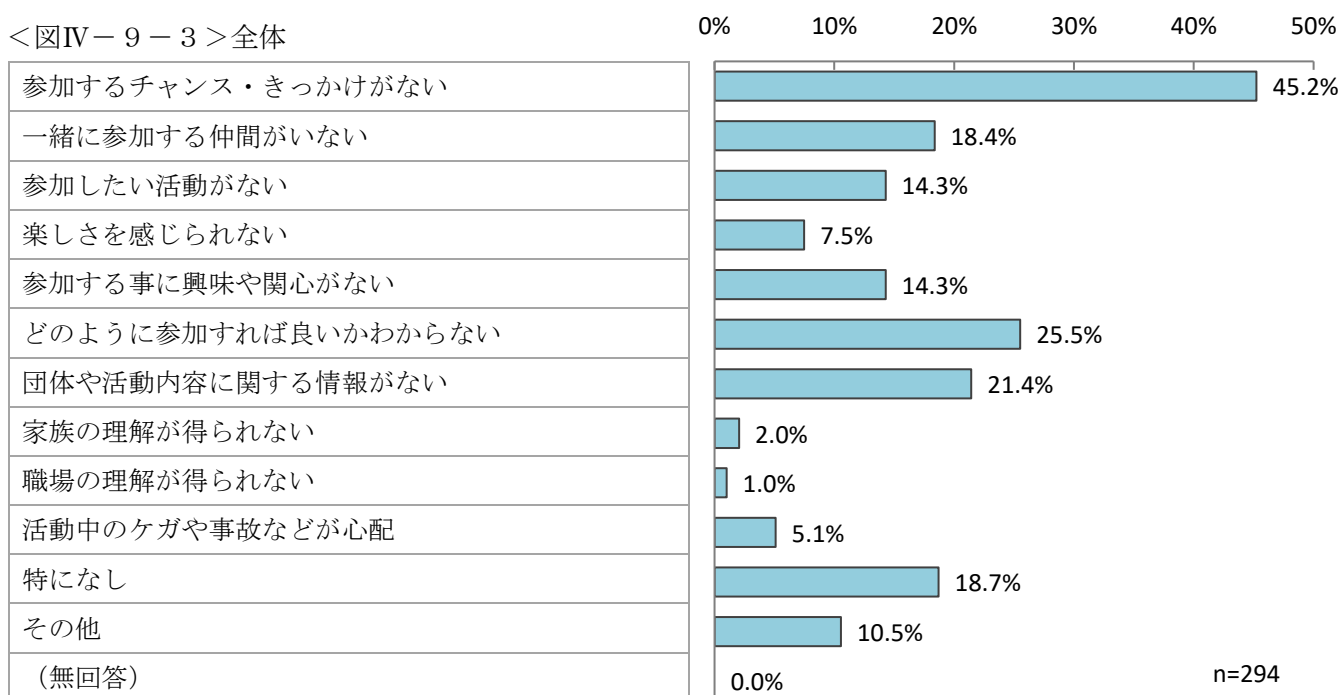


(2) まちづくり活動に参加していない理由

◇「参加するチャンス・きっかけがない」が4割半ば

問33 まちづくり活動に参加していない方にお聞きします。参加していない理由は何ですか。 (〇はいくつでも)		n=294
1	参加するチャンス・きっかけがない	45.2%
2	一緒に参加する仲間がない	18.4%
3	参加したい活動がない	14.3%
4	楽しさを感じられない	7.5%
5	参加する事に興味や関心がない	14.3%
6	どのように参加すれば良いかわからない	25.5%
7	団体や活動内容に関する情報がない	21.4%
8	家族の理解が得られない	2.0%
9	職場の理解が得られない	1.0%
10	活動中のケガや事故などが心配	5.1%
12	特になし	18.7%
13	その他	10.5%
	(無回答)	0.0%

<図IV-9-3>全体



まちづくり活動に参加していない理由については、「参加するチャンス・きっかけがない」が45.2%で最も高く、次いで「どのように参加すれば良いかわからない」が25.5%であった。(図IV-9-3)

<参考>

性別・年齢別でみると、「参加するチャンス・きっかけがない」は<女性/20歳代>が80.0%、<男性/30歳代>が62.5%であった。(図IV-9-4)

家族構成別でみると、「参加するチャンス・きっかけがない」は、<親と未婚の子ども(核家族)>が55.4%で最も高かった。(図IV-9-4)

居住地域別で見ると、「参加するチャンス・きっかけがない」は<本庁(都心)>が66.7%で最も高かった。(図IV-9-4)

居住地区別でみると、「参加するチャンス・きっかけがない」は<清原>が73.3%で最も高かった。(図IV-9-4)

<図IV-9-4>性別・年齢別／家族構成別／居住地域・地区別



10. スポーツに関することについて

(1) スポーツに関する指導を行ってみたいか

◇ 「行いたくない」が約5割

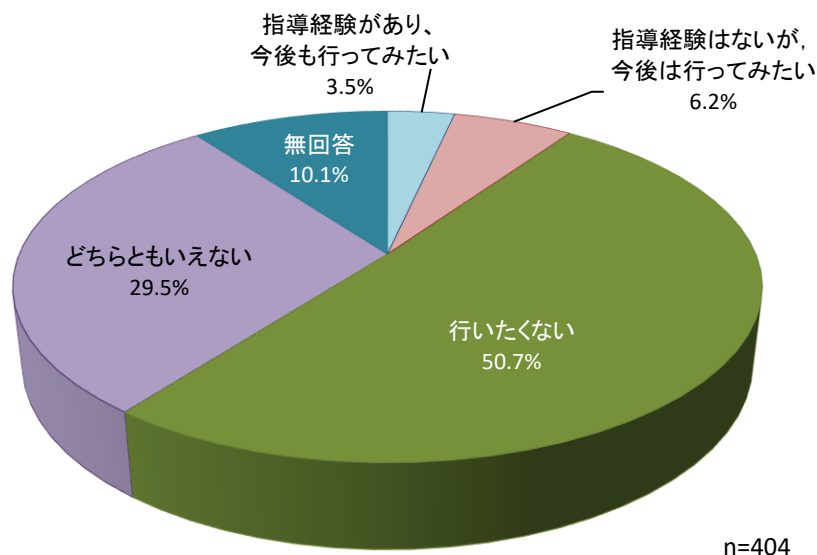
問34 今後、スポーツに関する指導を行ってみたいと思いますか。

※ スポーツに関する指導経験とは、資格の有無に関係なく、個人や団体への技術的指導や監督・コーチなどの役割を担ったことがあるということを経験があるとします。 (○は1つ)

n=404

1	指導経験(※)があり、今後も行ってみたい	3.5%
2	指導経験はないが、今後は行ってみたい	6.2%
3	行いたくない	50.7%
4	どちらともいえない	29.5%
	(無回答)	10.1%

<図IV-10-1>全体



今後、スポーツに関する指導を行ってみたいと思うかについては、「行いたくない」が50.7%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が29.5%であった。(図IV-10-1)

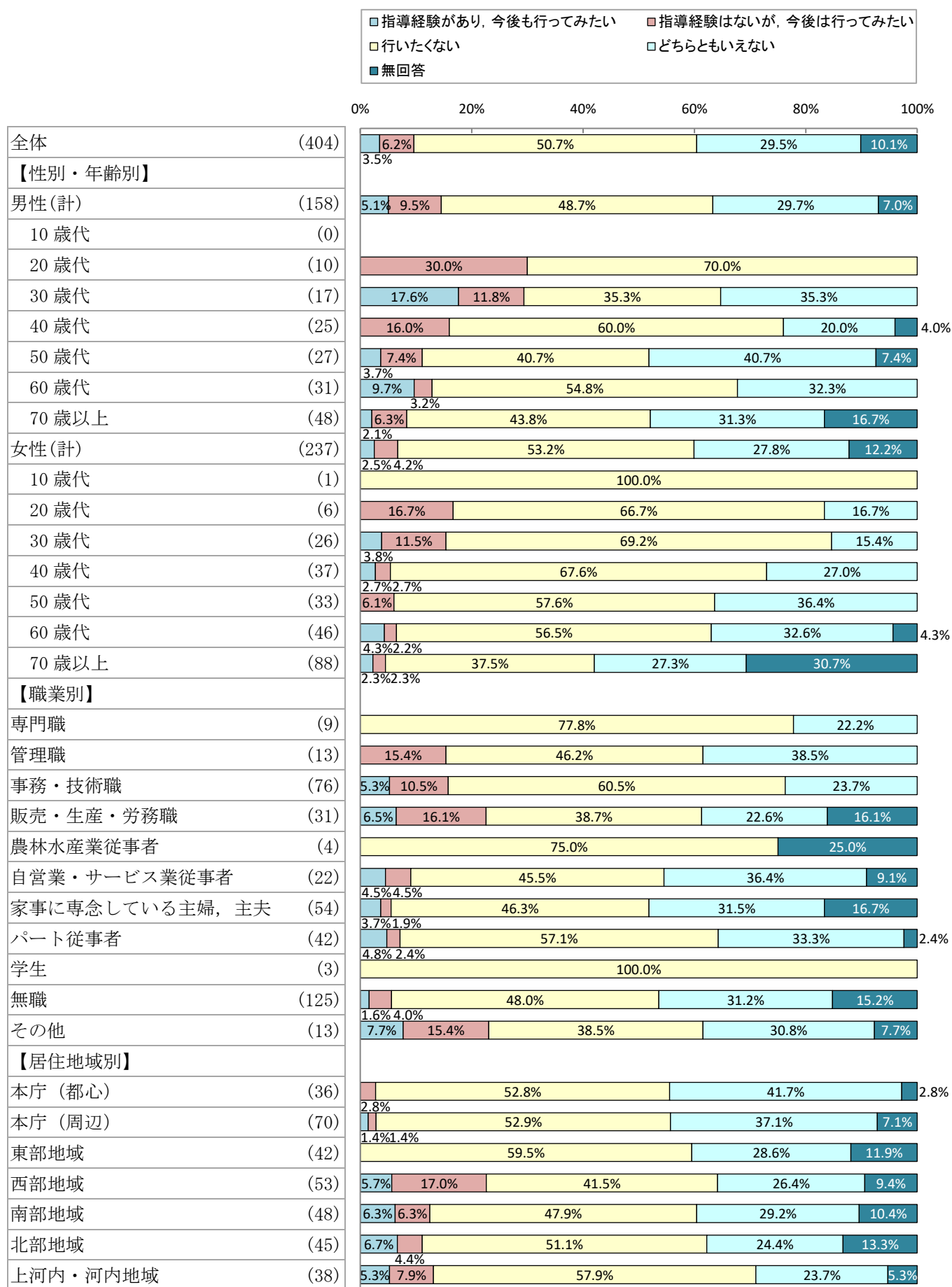
<参考>

性別・年齢別でみると、「行いたくない」は<男性/20歳代>が70.0%、<女性/30歳代>が69.2%であった。「どちらともいえない」は<男性/50歳代>が40.7%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が36.4%であった。(図IV-10-2)

職業別でみると、「行いたくない」は、<学生>が100.0%、<専門職>が77.8%であった。「どちらともいえない」は、<管理職>が38.5%で最も高く、次いで<自営業・サービス業従事者>が36.4%であった。(図IV-10-2)

居住地域別でみると、「行いたくない」は<東部地域>が59.5%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が57.9%であった。「どちらともいえない」は<本庁(都心)>が41.7%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が37.1%であった。(図IV-10-2)

<図IV-10-2>性別・年齢別／職業別／居住地域別

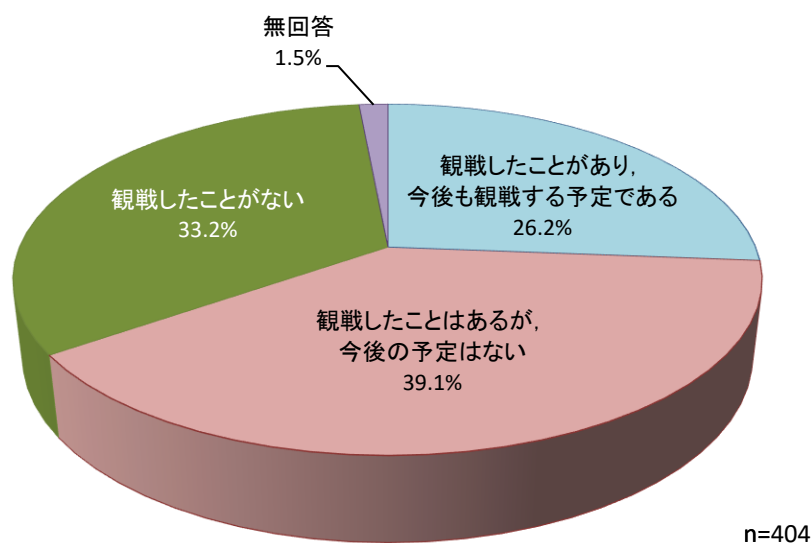


(2) スポーツ競技会場でスポーツ観戦をしたことがあるか

◇ 「観戦したことはあるが、今後の予定はない」が約4割

問35	スポーツ競技会場でスポーツ観戦をしたことはありますか。	(○は1つ)
		n=404
1	観戦したことがあり、今後も観戦する予定である	26.2%
2	観戦したことはあるが、今後の予定はない	39.1%
3	観戦したことがない	33.2%
	(無回答)	1.5%

<図IV-10-3>全体



スポーツ競技会場でスポーツ観戦をしたことがあるかについては、「観戦したことはあるが、今後の予定はない」が39.1%で最も高く、次いで「観戦したことがない」が33.2%、「観戦したことがあり、今後も観戦する予定である」が26.2%であった。(図IV-10-3)

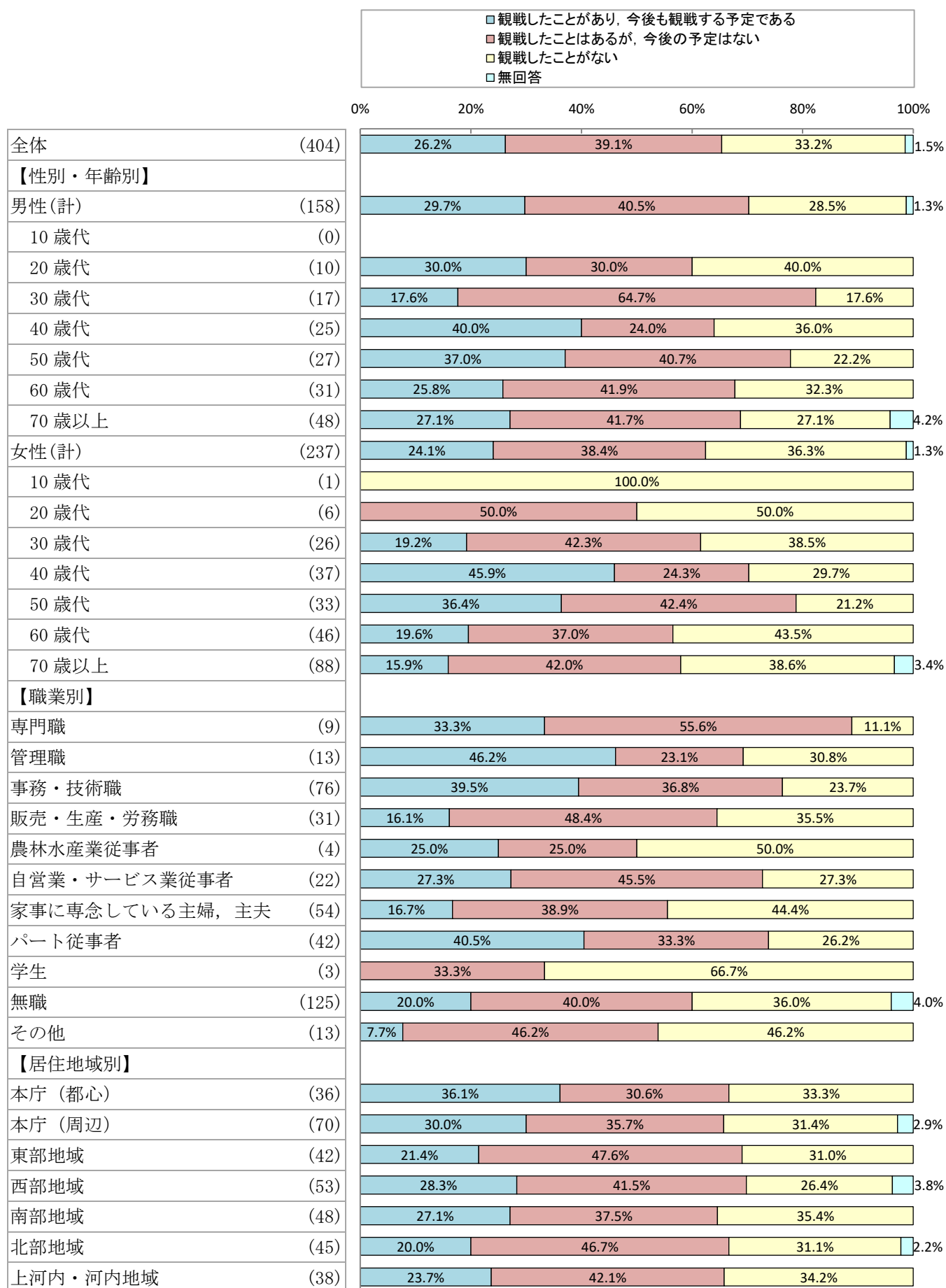
<参考>

性別・年齢別でみると、「観戦したことはあるが、今後の予定はない」は<男性/30歳代>が64.7%で最も高く、次いで<女性/20歳代>が50.0%であった。「観戦したことがない」は<女性/20歳代>が50.0%、<女性/60歳代>が43.5%であった。(図IV-10-4)

職業別でみると、「観戦したことはあるが、今後の予定はない」は、<専門職>が55.6%で最も高く、次いで<販売・生産・労務職>が48.4%であった。「観戦したことがない」は、<学生>が66.7%で最も高く、次いで<農林水産業従事者>が50.0%であった。(図IV-10-4)

居住地域別でみると、「観戦したことはあるが、今後の予定はない」は<東部地域>が47.6%で最も高く、次いで<北部地域>が46.7%であった。「観戦したことがない」は<南部地域>が35.4%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が34.2%であった。(図IV-10-4)

<図IV-10-4>性別・年齢別／職業別／居住地域別

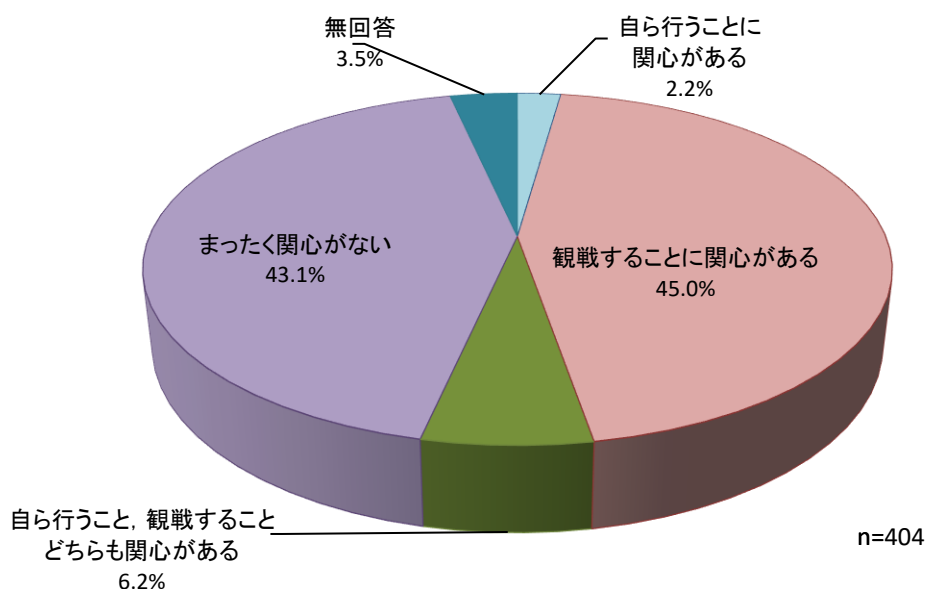


(3) アーバンスポーツに関心があるか

◇ 「観戦することに関心がある」が4割半ば

問36	アーバンスポーツ(※)に関心がありますか。	
	※ アーバンスポーツとは「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技会」において採用された、スケートボード、スポーツクライミング、3人制バスケットボール、BMXなどをはじめとした、気軽に楽しめるような都市型スポーツのことです。(○は1つ)	
		n=404
1	自ら行うことに関心がある	2.2%
2	観戦することに関心がある	45.0%
3	自ら行うこと、観戦することどちらも関心がある	6.2%
4	まったく関心がない	43.1%
	(無回答)	3.5%

<図IV-10-5>全体



アーバンスポーツに関心があるかについては、「観戦することに関心がある」が45.0%で最も高く、次いで「まったく関心がない」が43.1%、「自ら行うこと、観戦することどちらも関心がある」が6.2%であった。(図IV-10-5)

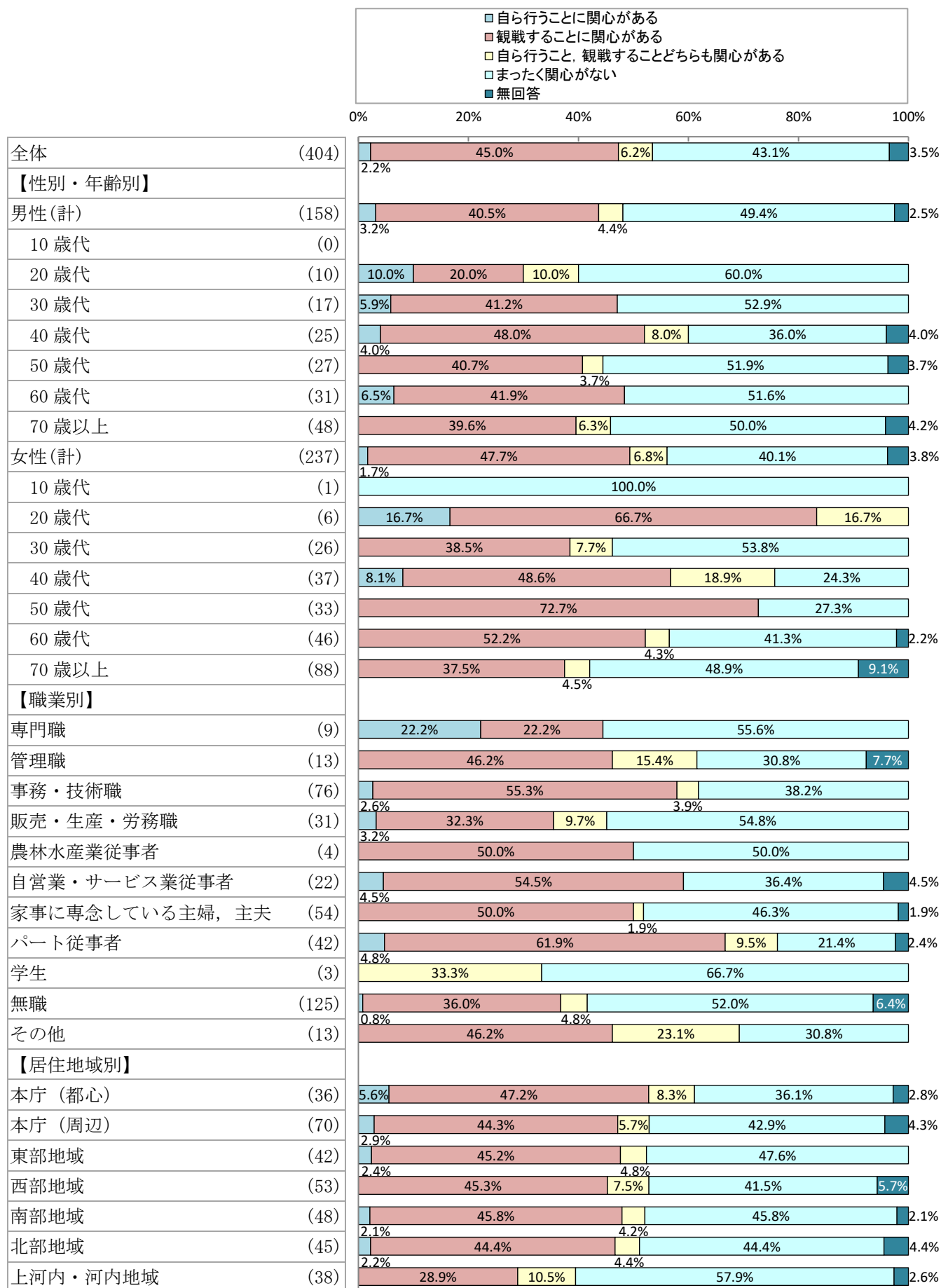
<参考>

性別・年齢別でみると、「観戦することに関心がある」は<女性/50歳代>が72.7%で最も高く、次いで<女性/20歳代>が66.7%であった。「まったく関心がない」は<男性/20歳代>が60.0%、<女性/30歳代>が53.8%であった。(図IV-10-6)

職業別でみると、「観戦することに関心がある」は、<パート従事者>が61.9%で最も高く、次いで<事務・技術職>が55.3%であった。「まったく関心がない」は、<学生>が66.7%で最も高く、次いで<専門職>が55.6%であった。(図IV-10-6)

居住地域別でみると、「観戦することに関心がある」は<本庁(都心)>が47.2%で最も高く、次いで<南部地域>が45.8%であった。「まったく関心がない」は<上河内・河内地域>が57.9%で最も高く、次いで<東部地域>が47.6%であった。(図IV-10-6)

<図IV-10-6>性別・年齢別／職業別／居住地域別



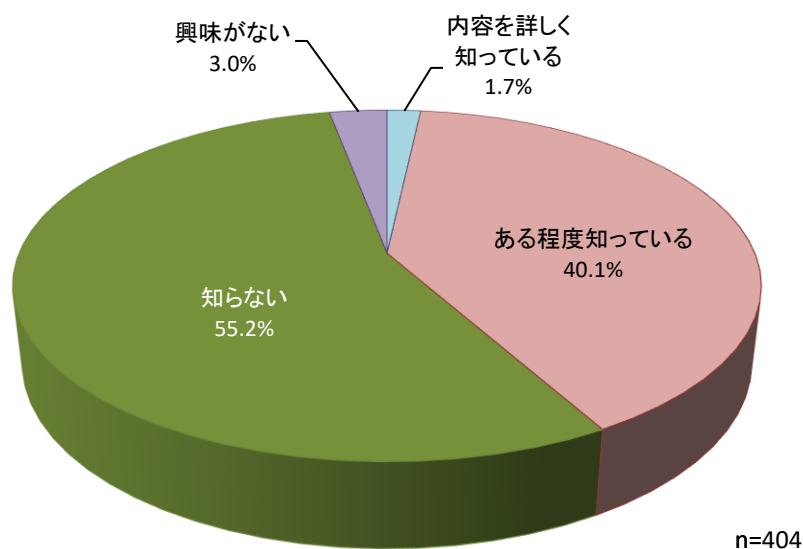
1 1. 治水・雨水対策について

(1) 総合治水・雨水対策の認知度

◇ 「知らない」が5割半ば

問37	宇都宮市による河川や下水道雨水幹線の整備のほか、市民・企業による田んぼダムや雨水貯留施設の設置など、官民が連携して様々な取組を行っていることを知っていますか。 (○は1つ)	n=404
1	内容を詳しく知っている	1.7%
2	ある程度知っている	40.1%
3	知らない	55.2%
4	興味がない	3.0%
	(無回答)	0.0%

<図IV-11-1>全体



総合治水・雨水対策の認知度については、「知らない」が55.2%で最も高く、次いで「ある程度知っている」が40.1%であった。(図IV-11-1)

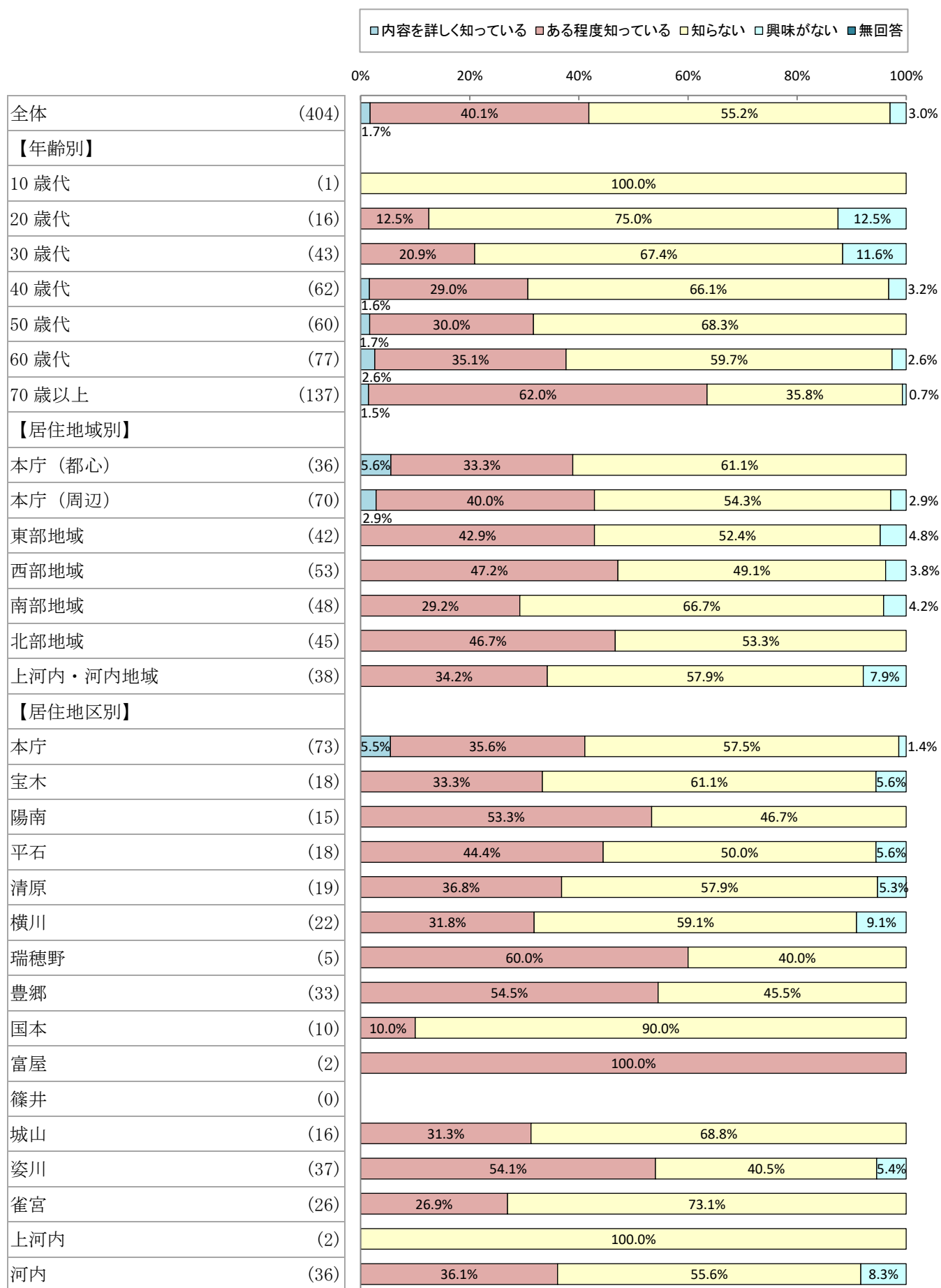
<参考>

年齢別で見ると、「知らない」は<10歳代>が100.0%、<20歳代>が75.0%であった。「ある程度知っている」は<70歳以上>が62.0%で最も高く、次いで<60歳代>が35.1%であった。(図IV-11-2)

居住地域別で見ると、「知らない」は、<南部地域>が66.7%で最も高く、次いで<本庁(都心)>が61.1%であった。「ある程度知っている」は、<西部地域>が47.2%で最も高く、次いで<北部地域>が46.7%であった。(図IV-11-2)

居住地区別で見ると、「知らない」は、<上河内>が100.0%、<国本>が90.0%であった。「ある程度知っている」は<富屋>が100.0%、<瑞穂野>が60.0%であった。(図IV-11-2)

<図IV-11-2> 年齢別／居住地域・地区別

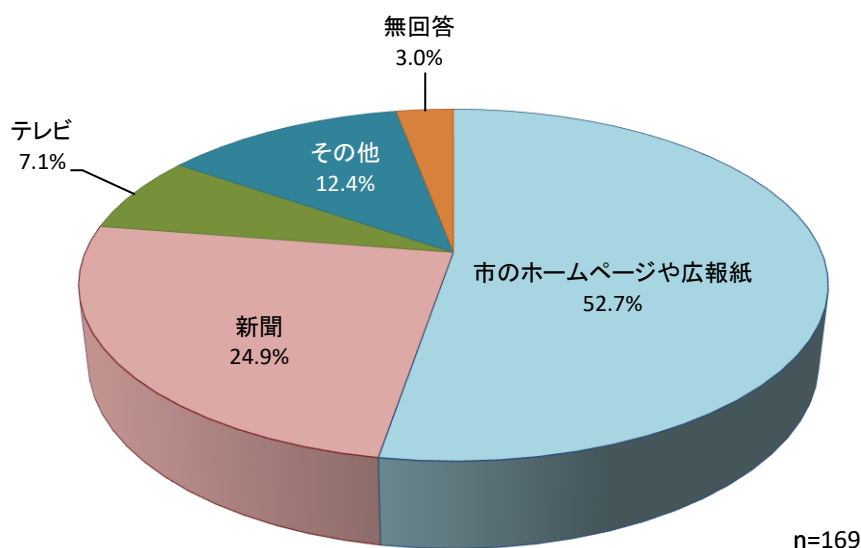


(2) 総合治水・雨水対策をどこで知ったり聞いたりしたか

◇ 「市のホームページや広報紙」が5割強

問38	問37で「1 内容を詳しく知っている」または「2 ある程度知っている」と回答した方にお聞きします。宇都宮市の取組をどこで知ったり聞いたりしましたか。	(○は1つ)
		n=169
1	市のホームページや広報紙	52.7%
2	新聞	24.9%
3	テレビ	7.1%
4	X (旧 Twitter) や YouTube などのSNS	0.0%
5	その他	12.4%
	(無回答)	3.0%

<図IV-11-3>全体



総合治水・雨水対策をどこで知ったり聞いたりしたかについては、「市のホームページや広報紙」が 52.7% で最も高く、次いで「新聞」が 24.9% であった。(図IV-11-3)

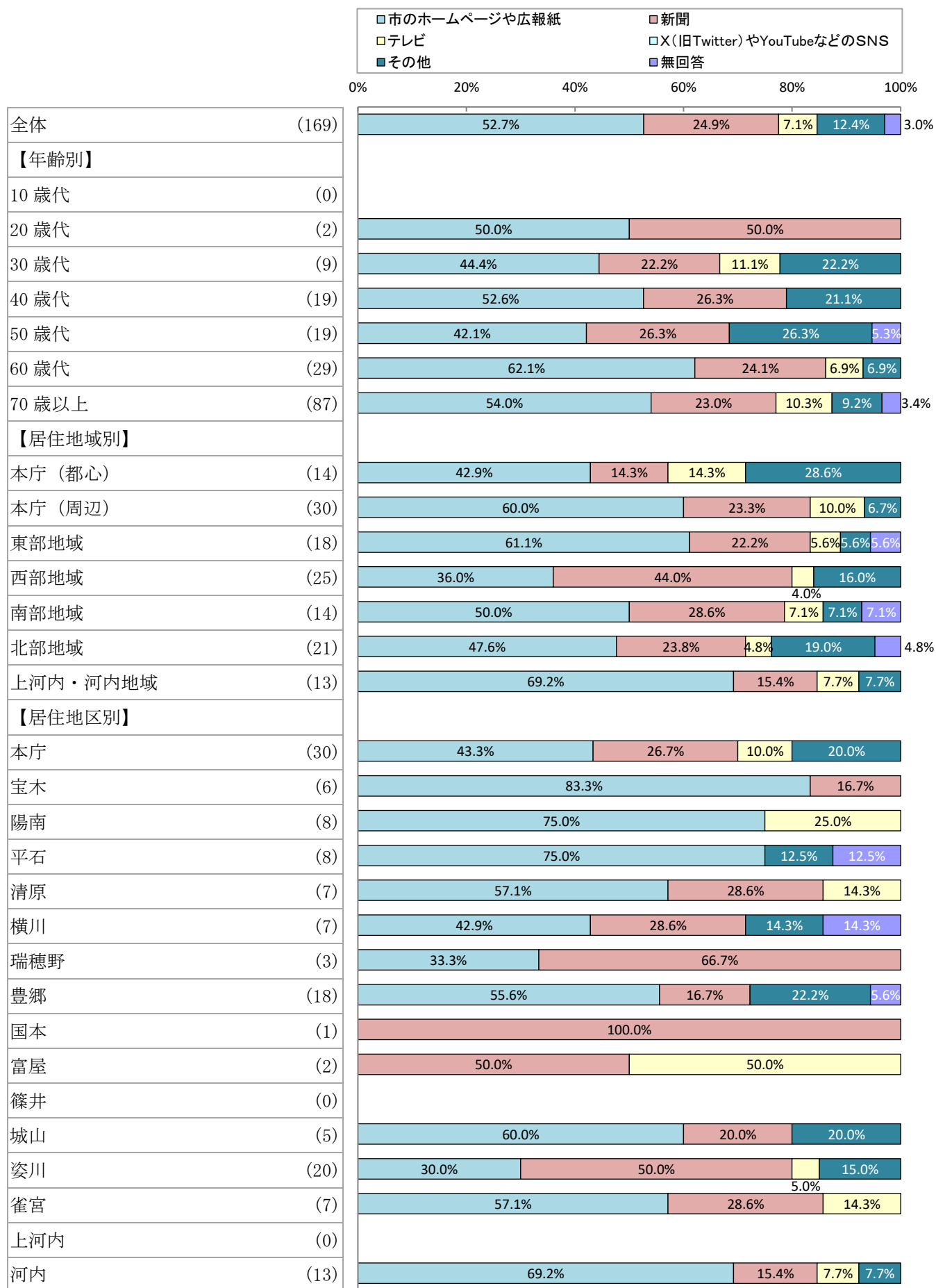
<参考>

年齢別で見ると、「市のホームページや広報紙」は<60歳代>が 62.1% で最も高く、次いで<70歳以上>が 54.0% であった。「新聞」は<20歳代>が 50.0% で最も高く、次いで<40歳代><50歳代>が 26.3% であった。(図IV-11-4)

居住地域別で見ると、「市のホームページや広報紙」は、<上河内・河内地域>が 69.2% で最も高く、次いで<東部地域>が 61.1% であった。「新聞」は、<西部地域>が 44.0% で最も高く、次いで<南部地域>が 28.6% であった。(図IV-11-4)

居住地区別で見ると、「市のホームページや広報紙」は、<宝木>が 83.3% で最も高く、次いで<陽南><平石>が 75.0% であった。「新聞」は<国本>が 100.0%、<瑞穂野>が 66.7% であった。(図IV-11-4)

<図IV-11-4>年齢別／居住地域・地区別

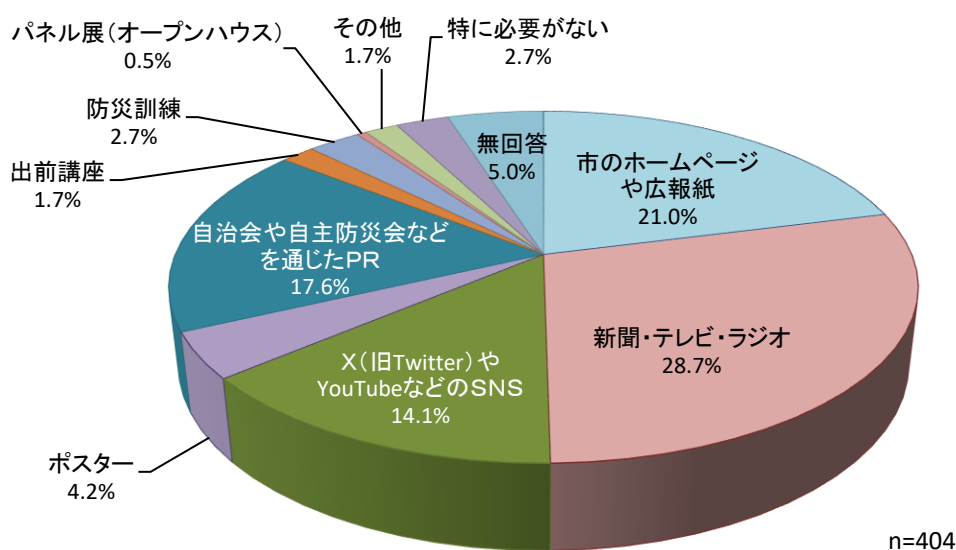


(3) 総合治水・雨水対策の効果的な周知・啓発手法

◇ 「新聞・テレビ・ラジオ」が約3割

問 3 9 宇都宮市の総合治水・雨水対策の取組を広めるために、どのような周知・啓発手法が効果的だと思いますか。(〇は1つ)		n=404
1	市のホームページや広報紙	21.0%
2	新聞・テレビ・ラジオ	28.7%
3	X(旧Twitter)やYouTubeなどのSNS	14.1%
4	ポスター	4.2%
5	自治会や自主防災会などを通じたPR	17.6%
6	出前講座	1.7%
7	防災訓練	2.7%
8	パネル展(オープンハウス)	0.5%
9	その他	1.7%
10	特に必要がない (無回答)	2.7% 5.0%

<図IV-11-5>全体



総合治水・雨水対策の効果的な周知・啓発手法については、「新聞・テレビ・ラジオ」が28.7%で最も高く、次いで「市のホームページや広報紙」が21.0%、「自治会や自主防災会などを通じたPR」が17.6%と続いている。(図IV-11-5)

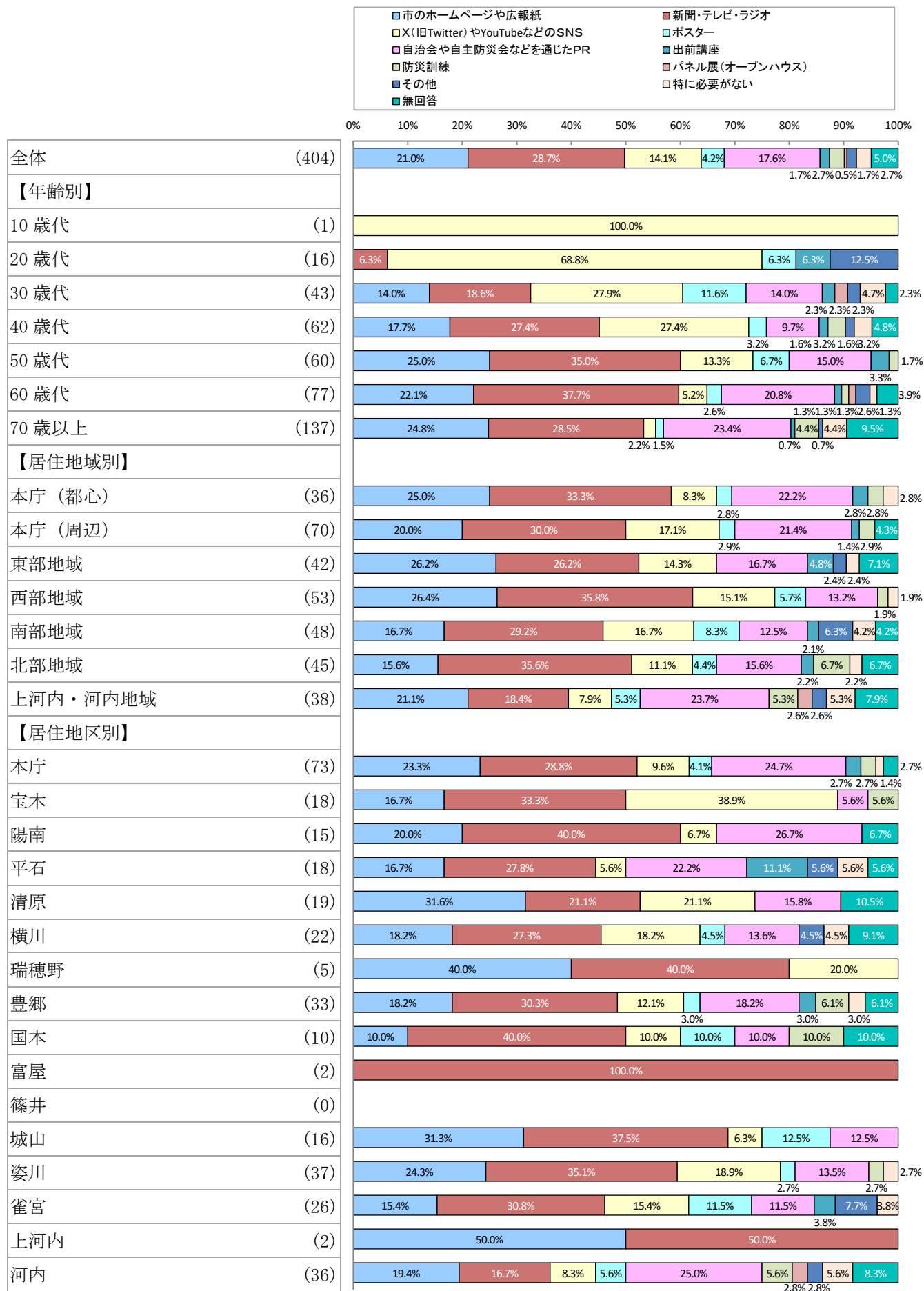
<参考>

年齢別でみると、「新聞・テレビ・ラジオ」は<60歳代>が37.7%で最も高く、次いで<50歳代>が35.0%であった。「市のホームページや広報紙」は<50歳代>が25.0%で最も高く、次いで<70歳以上>が24.8%であった。(図IV-11-6)

居住地域別でみると、「新聞・テレビ・ラジオ」は、<西部地域>が35.8%で最も高く、次いで<北部地域>が35.6%であった。「市のホームページや広報紙」は、<西部地域>が26.4%で最も高く、次いで<東部地域>が26.2%であった。(図IV-11-6)

居住地区別でみると、「新聞・テレビ・ラジオ」は、<富屋>が100.0%、<上河内>が50.0%であった。「市のホームページや広報紙」は<上河内>が50.0%、<瑞穂野>が40.0%であった。(図IV-11-6)

<図IV-11-6>年齢別／居住地域・地区別

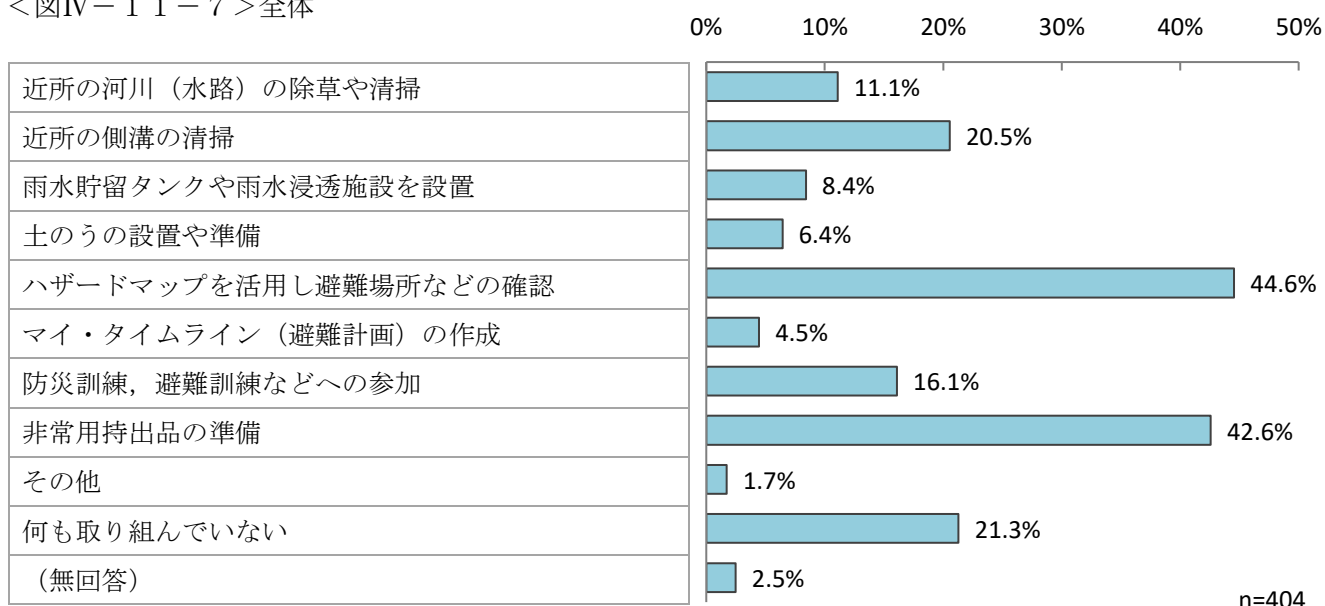


(4) 今後取り組んでいきたいと思っているもの

◇ 「ハザードマップを活用し避難場所などの確認」が4割半ば

問40	総合治水・雨水対策は行政と市民の皆さまの協働で取り組むことが大変重要となってきます。そこで、ご自身でできる身近な対策として実際に取り組んでいるもの、または、今後取り組んでいきたいと思っているものはありますか。 (〇はいくつでも)	n=404
1	近所の河川（水路）の除草や清掃	11.1%
2	近所の側溝の清掃	20.5%
3	雨水貯留タンクや雨水浸透施設を設置	8.4%
4	土のうの設置や準備	6.4%
5	ハザードマップを活用し避難場所などの確認	44.6%
6	マイ・タイムライン（避難計画）の作成	4.5%
7	防災訓練，避難訓練などへの参加	16.1%
8	非常用持出品の準備	42.6%
9	その他	1.7%
10	何も取り組んでいない (無回答)	21.3% 2.5%

<図IV-11-7>全体



ご自身でできる身近な対策として実際に取り組んでいるもの、または、今後取り組んでいきたいと思っているものについては、「ハザードマップを活用し避難場所などの確認」が44.6%で最も高く、次いで「非常用持出品の準備」が42.6%、「何も取り組んでいない」が21.3%と続いている。(図IV-11-7)

<参考>

年齢別でみると、「ハザードマップを活用し避難場所などの確認」は<10歳代>が100.0%、<40歳代>が56.5%であった。「非常用持出品の準備」は<10歳代>が100.0%、<30歳代>が51.2%であった。(図IV-11-8)

居住地域別でみると、「ハザードマップを活用し避難場所などの確認」は、<南部地域>が54.2%で最も高く、次いで<本庁(都心)>が50.0%であった。「非常用持出品の準備」は、<西部地域>が56.6%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が47.1%であった。(図IV-11-8)

居住地区別でみると、「ハザードマップを活用し避難場所などの確認」は、<瑞穂野>が60.0%で最も高く、次いで<横川>が54.5%であった。「非常用持出品の準備」は<富屋><上河内>が100.0%、<姿川>が56.8%であった。(図IV-11-8)

<図IV-11-8>年齢別／居住地域・地区別



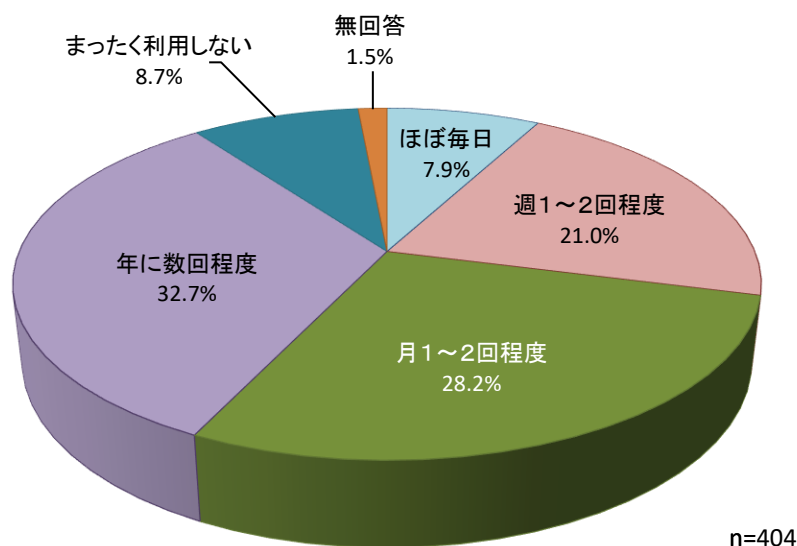
1 2. 中心市街地の活性化について

(1) 中心市街地に出かける頻度

◇ 「年に数回程度」が3割強

問 4 1	あなたは、中心市街地にどのくらいの頻度で出かけますか。	(○は1つ)
		n=404
1	ほぼ毎日	7.9%
2	週1～2回程度	21.0%
3	月1～2回程度	28.2%
4	年に数回程度	32.7%
5	まったく利用しない	8.7%
	(無回答)	1.5%

<図IV-1 2-1>全体



中心市街地に出かける頻度については、「年に数回程度」が32.7%で最も高く、次いで「月1～2回程度」が28.2%、「週1～2回程度」が21.0%と続いている。(図IV-1 2-1)

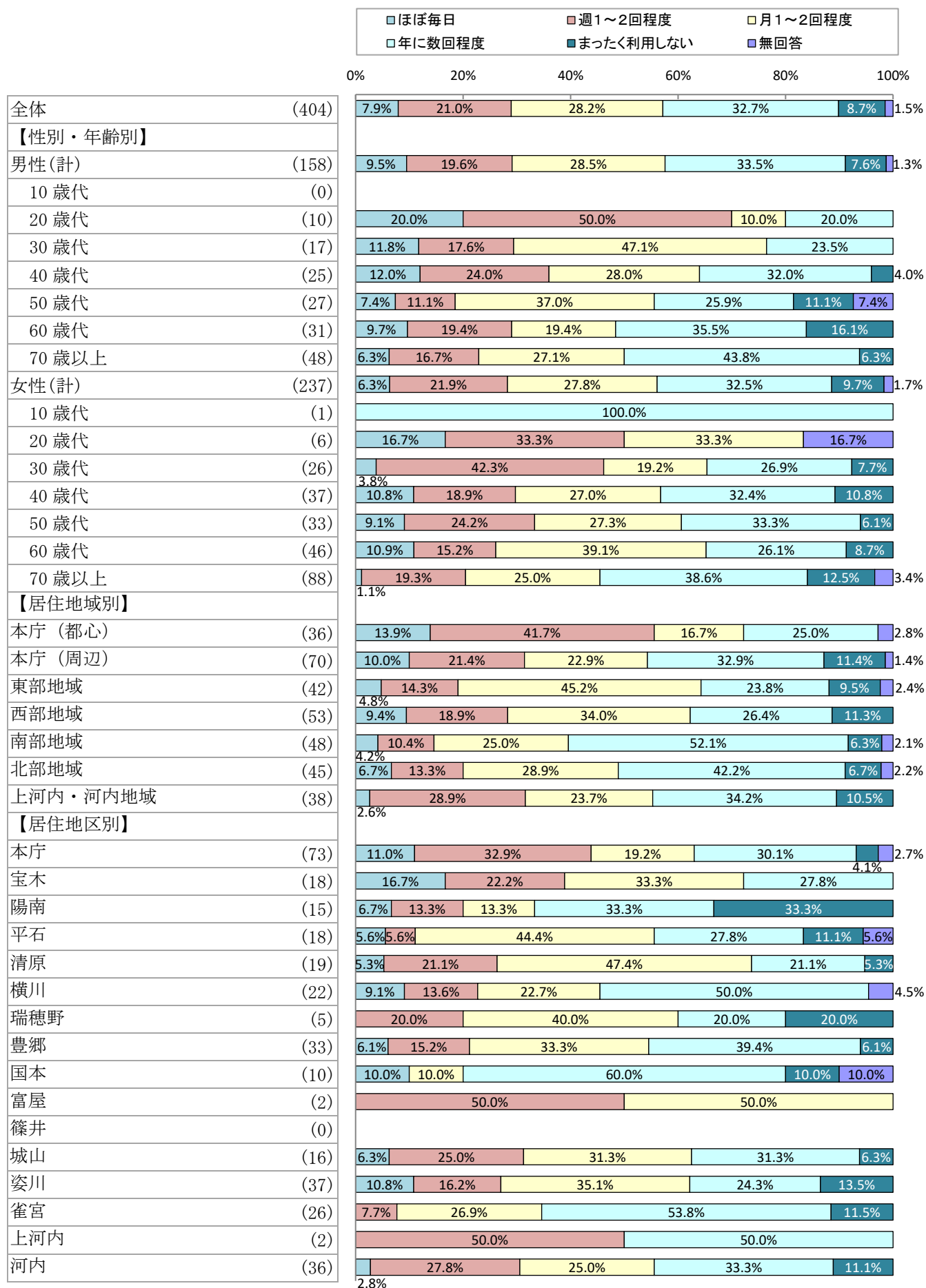
<参考>

性別・年齢別でみると、「年に数回程度」は<女性/10歳代>が100.0%、<男性/70歳以上>が43.8%であった。「月1～2回程度」は<男性/30歳代>が47.1%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が39.1%であった。(図IV-1 2-2)

居住地域別でみると、「年に数回程度」は、<南部地域>が52.1%で最も高く、次いで<北部地域>が42.2%であった。「月1～2回程度」は、<東部地域>が45.2%で最も高く、次いで<西部地域>が34.0%であった。(図IV-1 2-2)

居住地区別でみると、「年に数回程度」は、<国本>が60.0%で最も高く、次いで<雀宮>が53.8%であった。「月1～2回程度」は<富屋>が50.0%で最も高く、次いで<清原>が47.4%であった。(図IV-1 2-2)

<図IV-12-2>性別・年齢別／居住地域・地区別

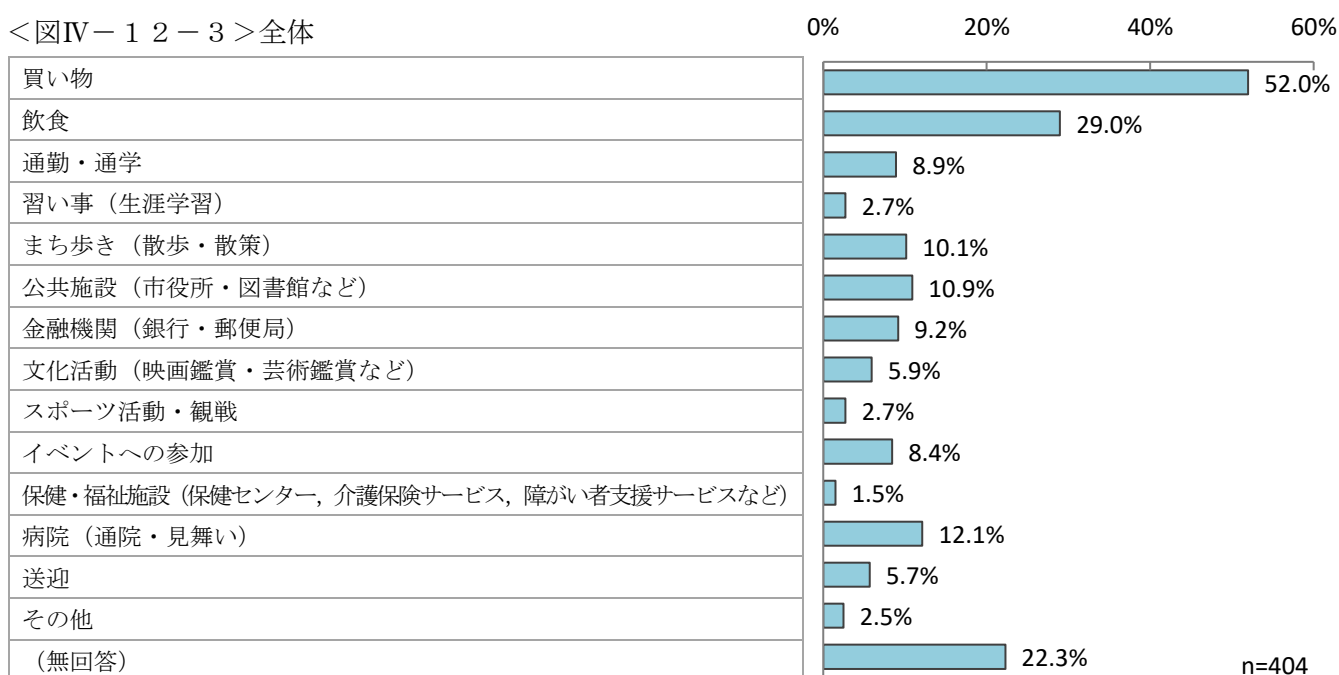


(2) 中心市街地へ出かける目的

◇ 「買い物」が5割強

問 4 2 あなたが中心市街地へ出かける目的は何ですか。問 4 1 で「5 まったく利用しない」と答えた方にお聞きします。どのような魅力があったら中心市街地へ出かけますか。(○は3つまで)		n=404
1	買い物	52.0%
2	飲食	29.0%
3	通勤・通学	8.9%
4	習い事(生涯学習)	2.7%
5	まち歩き(散歩・散策)	10.1%
6	公共施設(市役所・図書館など)	10.9%
7	金融機関(銀行・郵便局)	9.2%
8	文化活動(映画鑑賞・芸術鑑賞など)	5.9%
9	スポーツ活動・観戦	2.7%
10	イベントへの参加	8.4%
11	保健・福祉施設(保健センター, 介護保険サービス, 障がい者支援サービスなど)	1.5%
12	病院(通院・見舞い)	12.1%
13	送迎	5.7%
14	その他	2.5%
	(無回答)	22.3%

<図IV-12-3>全体



中心市街地へ出かける目的については、「買い物」が52.0%で最も高く、次いで「飲食」が29.0%であった。(図IV-12-3)

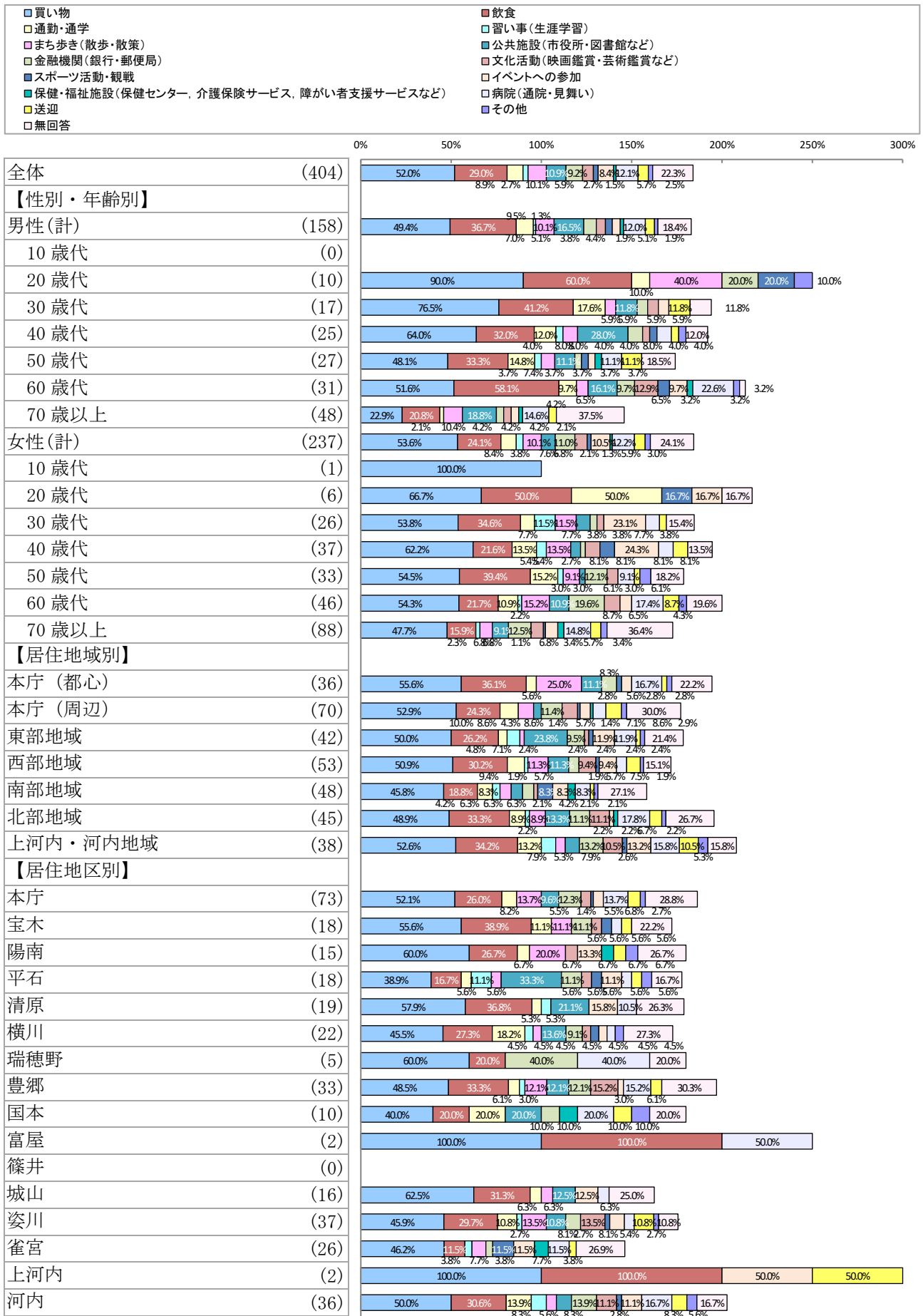
<参考>

性別・年齢別でみると、「買い物」は<女性/10歳代>が100.0%、<男性/20歳代>が90.0%であった。「飲食」は<男性/20歳代>が60.0%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が58.1%であった。(図IV-12-4)

居住地域別でみると、「買い物」は、<本庁(都心)>が55.6%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が52.9%であった。「飲食」は、<本庁(都心)>が36.1%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が34.2%であった。(図IV-12-4)

居住地区別でみると、「買い物」は、<富屋><上河内>が100.0%、<城山>が62.5%であった。「飲食」は<富屋><上河内>が100.0%、<宝木>が38.9%であった。(図IV-12-4)

<図IV-12-4>性別・年齢別／居住地域・地区別

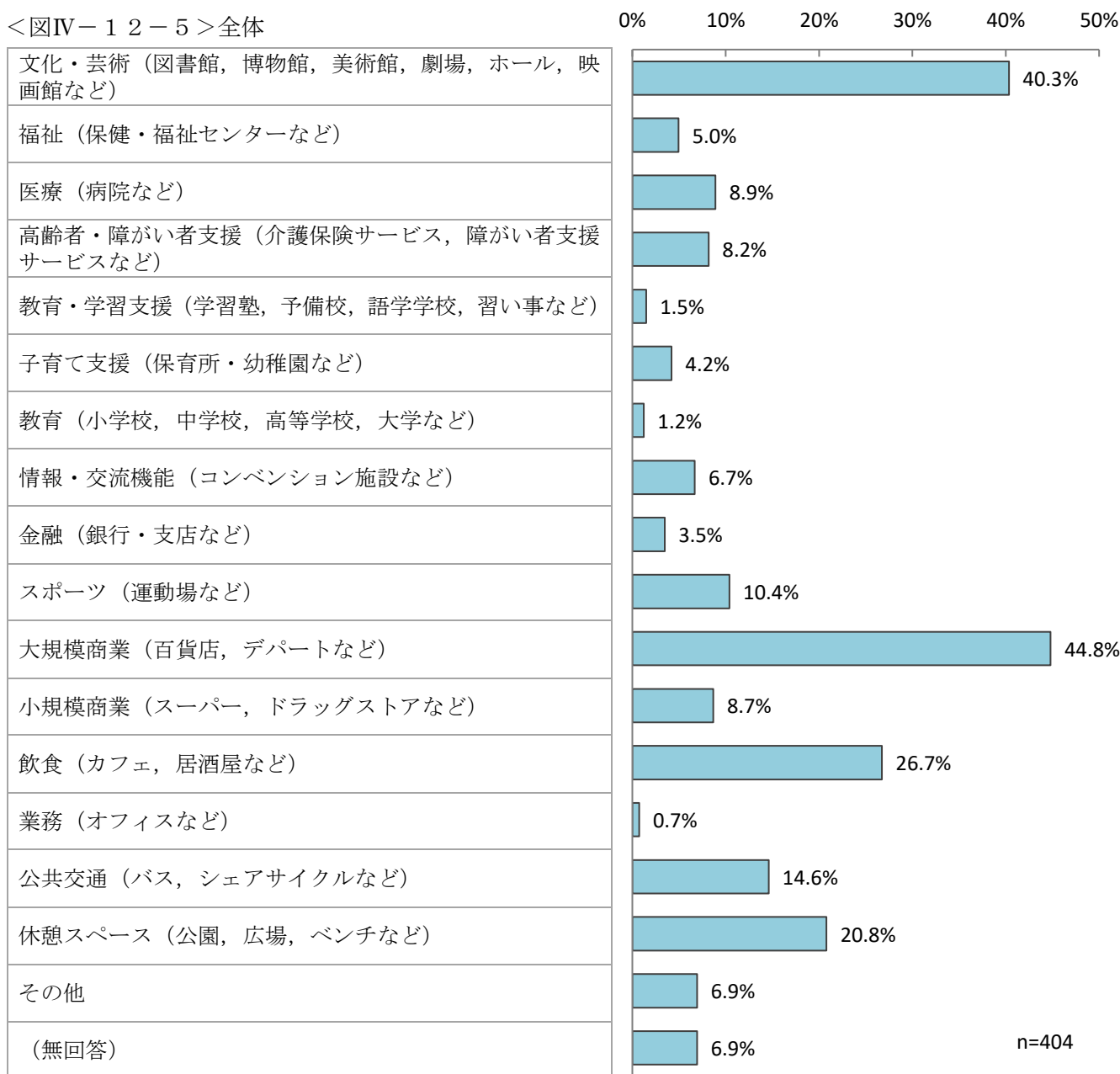


(3) より訪れたいくなるための機能や施設

◇「大規模商業（百貨店、デパートなど）」が4割半ば

問43	あなたが中心市街地に、より訪れたいくなるためにはどのような機能や施設が充実するとよいと思いますか。	(〇は3つまで)	n=404
1	文化・芸術（図書館、博物館、美術館、劇場、ホール、映画館など）		40.3%
2	福祉（保健・福祉センターなど）		5.0%
3	医療（病院など）		8.9%
4	高齢者・障がい者支援（介護保険サービス、障がい者支援サービスなど）		8.2%
5	教育・学習支援（学習塾、予備校、語学学校、習い事など）		1.5%
6	子育て支援（保育所・幼稚園など）		4.2%
7	教育（小学校、中学校、高等学校、大学など）		1.2%
8	情報・交流機能（コンベンション施設など）		6.7%
9	金融（銀行・支店など）		3.5%
10	スポーツ（運動場など）		10.4%
11	大規模商業（百貨店、デパートなど）		44.8%
12	小規模商業（スーパー、ドラッグストアなど）		8.7%
13	飲食（カフェ、居酒屋など）		26.7%
14	業務（オフィスなど）		0.7%
15	公共交通（バス、シェアサイクルなど）		14.6%
16	休憩スペース（公園、広場、ベンチなど）		20.8%
17	その他		6.9%
	（無回答）		6.9%

<図IV-12-5>全体



中心市街地により訪れたいための機能や施設については、「大規模商業（百貨店、デパートなど）」が44.8%で最も高く、次いで「文化・芸術（図書館、博物館、美術館、劇場、ホール、映画館など）」が40.3%、「飲食（カフェ、居酒屋など）」が26.7%と続いている。（図IV-12-5）

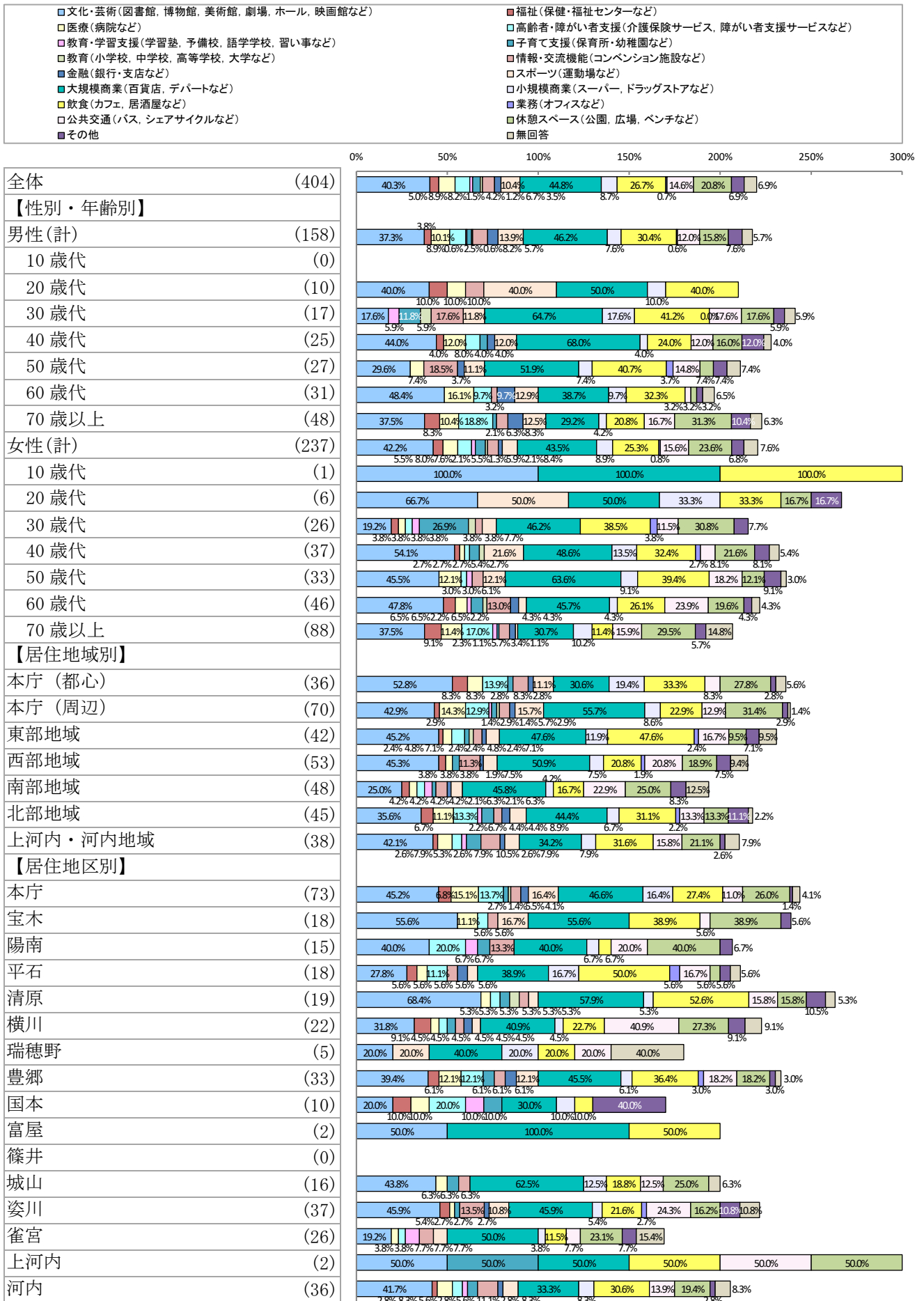
<参考>

性別・年齢別でみると、「大規模商業（百貨店、デパートなど）」は<女性/10歳代>が100.0%、<男性/40歳代>が68.0%であった。「文化・芸術（図書館、博物館、美術館、劇場、ホール、映画館など）」は<女性/10歳代>が100.0%、<女性/20歳代>が66.7%であった。（図IV-12-6）

居住地域別でみると、「大規模商業（百貨店、デパートなど）」は、<本庁（周辺）>が55.7%で最も高く、次いで<西部地域>が50.9%であった。「文化・芸術（図書館、博物館、美術館、劇場、ホール、映画館など）」は、<本庁（都心）>が52.8%で最も高く、次いで<西部地域>が45.3%であった。（図IV-12-6）

居住地区別でみると、「大規模商業（百貨店、デパートなど）」は、<富屋>が100.0%、<城山>が62.5%であった。「文化・芸術（図書館、博物館、美術館、劇場、ホール、映画館など）」は<清原>が68.4%で最も高く、次いで<宝木>が55.6%であった。（図IV-12-6）

<図IV-12-6>性別・年齢別／居住地域・地区別



1 3. プラスチック製品の資源化について

(1) プラスチックごみを減らすための取組

◇ 「マイバックを使用する（レジ袋を購入しない、もらわない）」が8割強

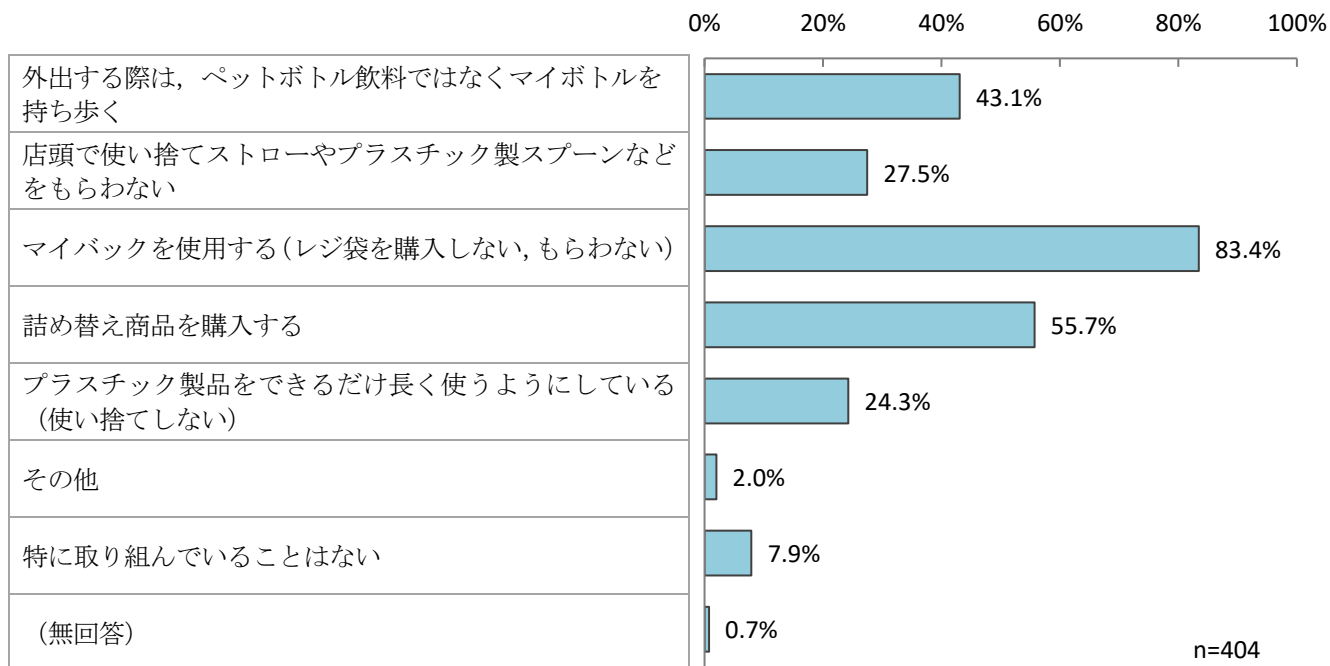
問 4 4 普段プラスチックごみを減らすために取り組んでいることがあれば教えてください。

(○はいくつでも)

n=404

1	外出する際は、ペットボトル飲料ではなくマイボトルを持ち歩く	43.1%
2	店頭で使い捨てストローやプラスチック製スプーンなどをもらわない	27.5%
3	マイバックを使用する（レジ袋を購入しない、もらわない）	83.4%
4	詰め替え商品を購入する	55.7%
5	プラスチック製品をできるだけ長く使うようにしている（使い捨てしない）	24.3%
6	その他	2.0%
7	特に取り組んでいることはない	7.9%
	(無回答)	0.7%

<図IV-13-1>全体



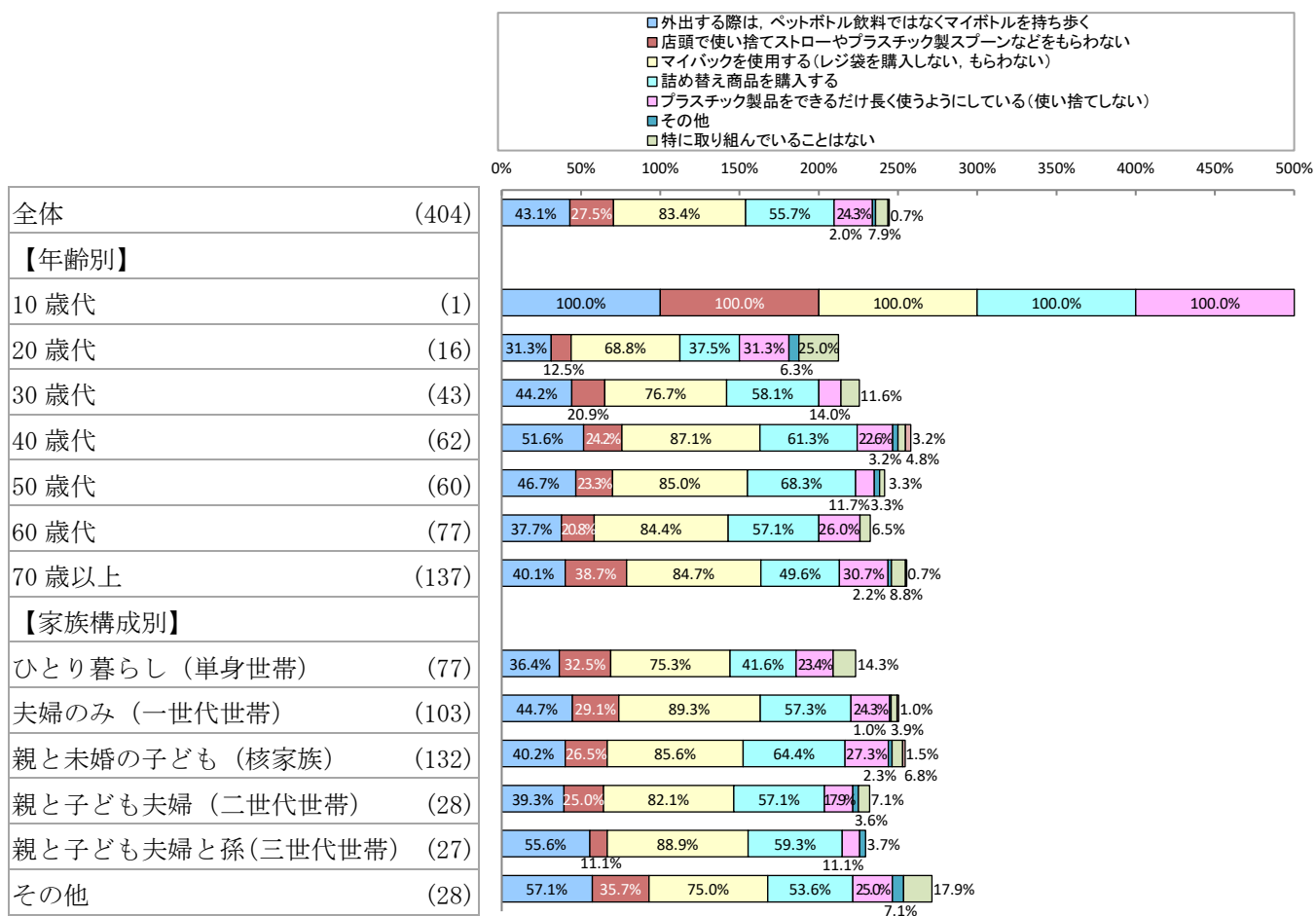
プラスチックごみを減らすための取組については、「マイバックを使用する（レジ袋を購入しない、もらわない）」が83.4%で最も高く、次いで「詰め替え商品を購入する」が55.7%、「外出する際は、ペットボトル飲料ではなくマイボトルを持ち歩く」が43.1%と続いている。(図IV-13-1)

<参考>

年齢別で見ると、「マイバックを使用する（レジ袋を購入しない、もらわない）」は<10歳代>が100.0%、<40歳代>が87.1%、次いで<50歳代>が85.0%であった。「詰め替え商品を購入する」は<10歳代>が100.0%、<50歳代>が68.3%、次いで<40歳代>が61.3%であった。(図IV-13-2)

家族構成別で見ると、「マイバックを使用する（レジ袋を購入しない、もらわない）」は、<夫婦のみ（一世代世帯）>が89.3%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫（三世代世帯）>が88.9%であった。「詰め替え商品を購入する」は、<その他>を除くと、<親と子ども夫婦と孫（三世代世帯）>が64.4%で最も高く、次いで<夫婦のみ（一世代世帯）>が59.3%であった。(図IV-13-2)

<図IV-13-2> 年齢別／家族構成別



(2) 「プラスチック製容器包装」と「プラスチック製品」の排出方法の違いの認知度

◇ 「知っている」が5割強

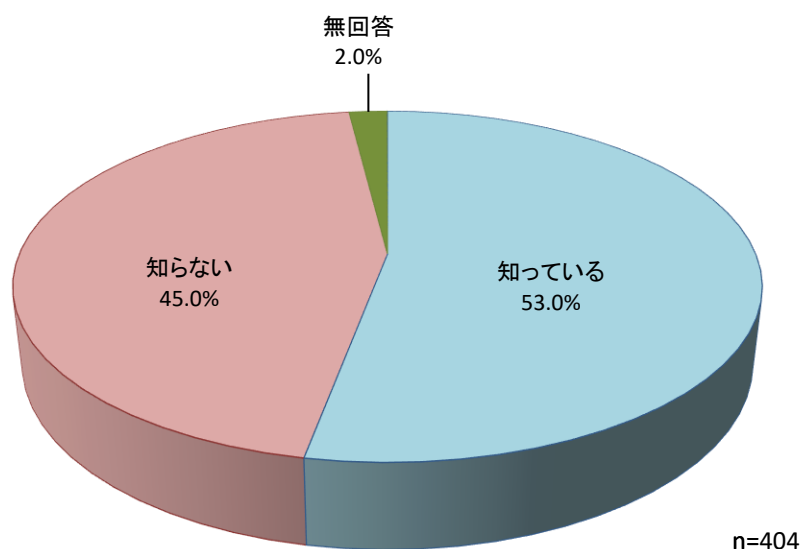
問45 本市では、弁当容器などの「プラスチック製容器包装」を資源物として収集しており、プラスチック製バケツ、スプーン、歯ブラシなどの「プラスチック製品」は焼却ごみとして収集しています。「プラスチック製容器包装」と「プラスチック製品」の排出方法の違いを知っていますか。

(○は1つ)

n=404

1	知っている	53.0%
2	知らない	45.0%
	(無回答)	2.0%

<図IV-13-3>全体



「プラスチック製容器包装」と「プラスチック製品」の排出方法の違いを知っているかについては、「知っている」が53.0%で最も高かった。一方、「知らない」は45.0%であった。(図IV-13-3)

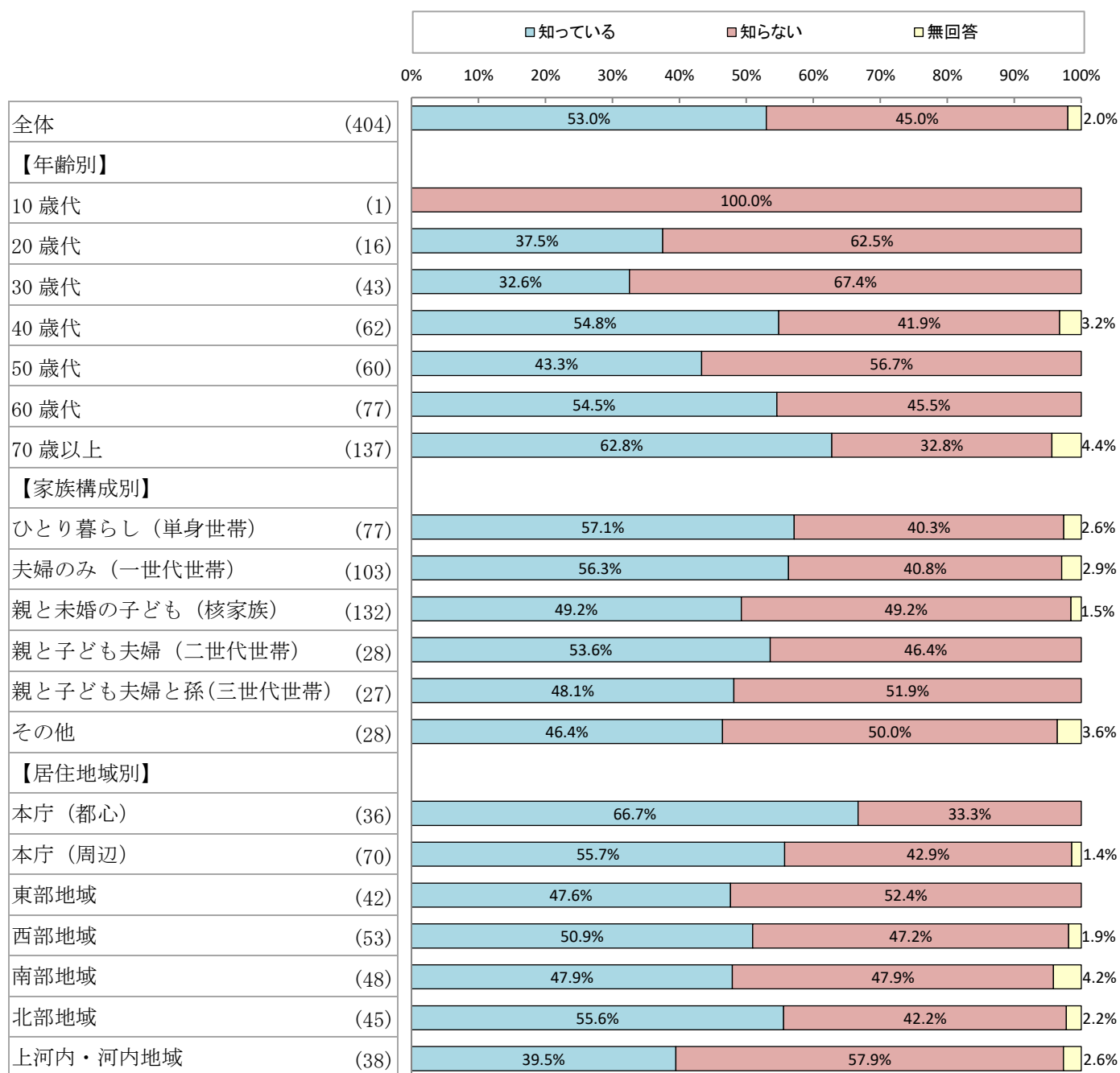
<参考>

年齢別で見ると、「知っている」は<70歳以上>が62.8%で最も高く、次いで<40歳代>が54.8%であった。「知らない」は<10歳代>が100.0%、<30歳代>が67.4%であった。(図IV-13-4)

家族構成別で見ると、「知っている」は、<ひとり暮らし(単身世帯)>が57.1%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世代世帯)>が56.3%であった。「知らない」は、<その他>を除くと、<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が51.9%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が49.2%であった。(図IV-13-4)

居住地域別で見ると、「知っている」は、<本庁(都心)>が66.7%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が55.7%であった。「知らない」は<上河内・河内地域>が57.9%で最も高く、次いで<東部地域>が52.4%であった。(図IV-13-4)

<図IV-13-4>年齢別／家族構成別／居住地域別

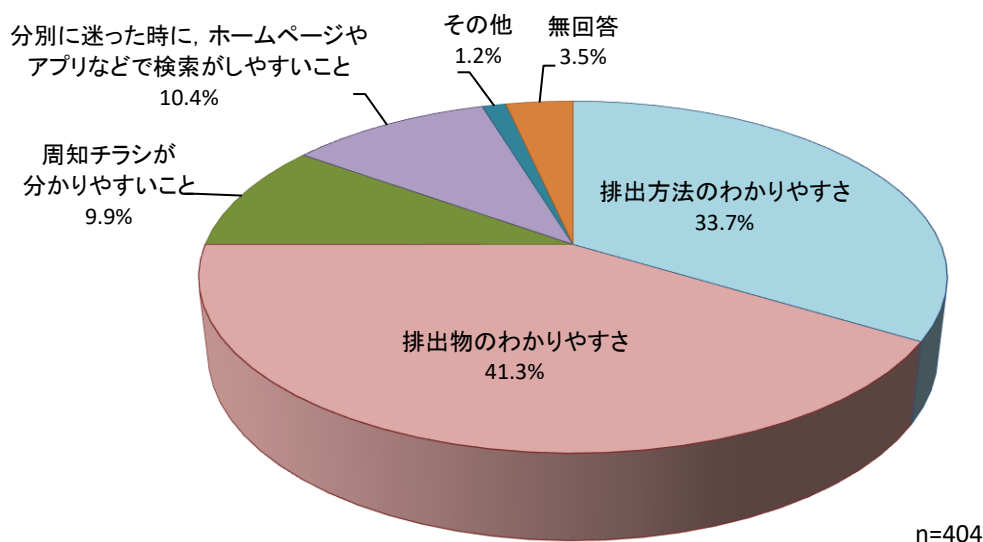


(3) プラスチック製品も資源物として収集する場合、分別に協力しやすい手法

◇ 「どのプラスチック製品が分別対象なのか分かりやすく明確であること（排出物のわかりやすさ）」が約4割

問46	プラスチック製品も資源物として収集する場合、どんな手法だと分別に協力しやすいですか。もっとも必要だと思う項目を1つ選んでください。(○は1つ)	n=404
1	プラスチック製容器包装と一緒にゴミ袋に入れられるなど排出方法が簡単であること（排出方法のわかりやすさ）	33.7%
2	どのプラスチック製品が分別対象なのか分かりやすく明確であること（排出物のわかりやすさ）	41.3%
3	周知チラシが分かりやすいこと	9.9%
4	分別に迷った時に、ホームページやアプリなどで検索がしやすいこと	10.4%
5	その他 (無回答)	1.2% 3.5%

<図IV-13-5>全体



プラスチック製品も資源物として収集する場合、分別に協力しやすい手法については、「どのプラスチック製品が分別対象なのか分かりやすく明確であること（排出物のわかりやすさ）」が41.3%で最も高く、次いで「プラスチック製容器包装と一緒にゴミ袋に入れられるなど排出方法が簡単であること（排出方法のわかりやすさ）」が33.7%であった。（図IV-13-5）

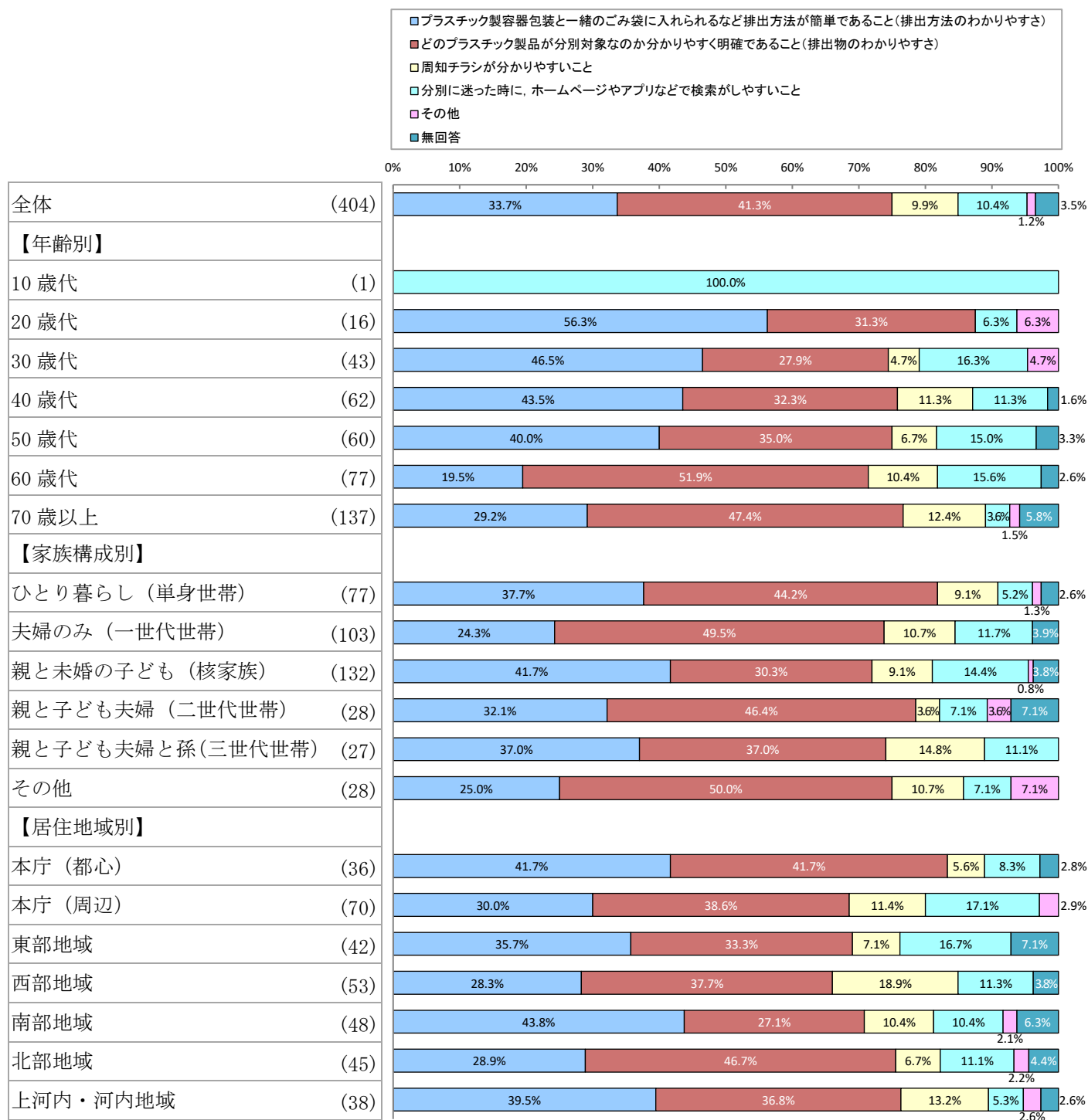
<参考>

年齢別でみると、「どのプラスチック製品が分別対象なのか分かりやすく明確であること（排出物のわかりやすさ）」は<60歳代>が51.9%で最も高く、「プラスチック製容器包装と一緒にゴミ袋に入れられるなど排出方法が簡単であること（排出方法のわかりやすさ）」は<20歳代>が56.3%で最も高かった。（図IV-13-6）

家族構成別でみると、「どのプラスチック製品が分別対象なのか分かりやすく明確であること（排出物のわかりやすさ）」は、<その他>を除くと、<夫婦のみ（一世代世帯）>が49.5%で最も高く、「プラスチック製容器包装と一緒にゴミ袋に入れられるなど排出方法が簡単であること（排出方法のわかりやすさ）」は<親と未婚の子ども（核家族）>が41.7%で最も高かった。（図IV-13-6）

居住地域別でみると、「どのプラスチック製品が分別対象なのか分かりやすく明確であること（排出物のわかりやすさ）」は、<北部地域>が46.7%で最も高く、「プラスチック製容器包装と一緒にゴミ袋に入れられるなど排出方法が簡単であること（排出方法のわかりやすさ）」は<南部地域>が43.8%で最も高かった。（図IV-13-6）

<図IV-13-6> 年齢別／家族構成別／居住地域別



14. 宇都宮市のみどりについて

(1) みどりの量についての感じ方

◇ 「ちょうどよい」は「a 郊外部のみどり」が6割半ば

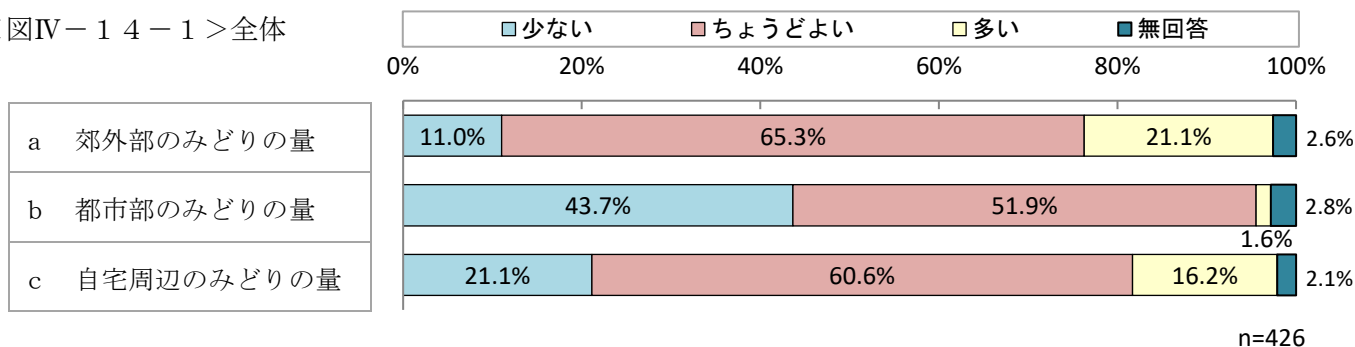
問47 宇都宮市の「a 郊外部のみどり」、「b 都市部のみどり」、「c 自宅周辺のみどり」の量についてそれぞれどのように感じていますか。次の中から当てはまるものを1つお選びください。

(○は1つ)

n=426

a 郊外部のみどりの量		
1	少ない	11.0%
2	ちょうどよい	65.3%
3	多い	21.1%
	(無回答)	2.6%
b 都市部のみどりの量		
1	少ない	43.7%
2	ちょうどよい	51.9%
3	多い	1.6%
	(無回答)	2.8%
c 自宅周辺のみどりの量		
1	少ない	21.1%
2	ちょうどよい	60.6%
3	多い	16.2%
	(無回答)	2.1%

<図IV-14-1>全体



宇都宮市のみどりの量についての感じ方については、「郊外部」「都市部」「自宅周辺」いずれも、『ちょうどよい』が最も多く、「a 郊外部のみどりの量」が65.3%、「b 都市部のみどりの量」が51.9%、「c 自宅周辺のみどりの量」60.6%であった。(図IV-14-1)

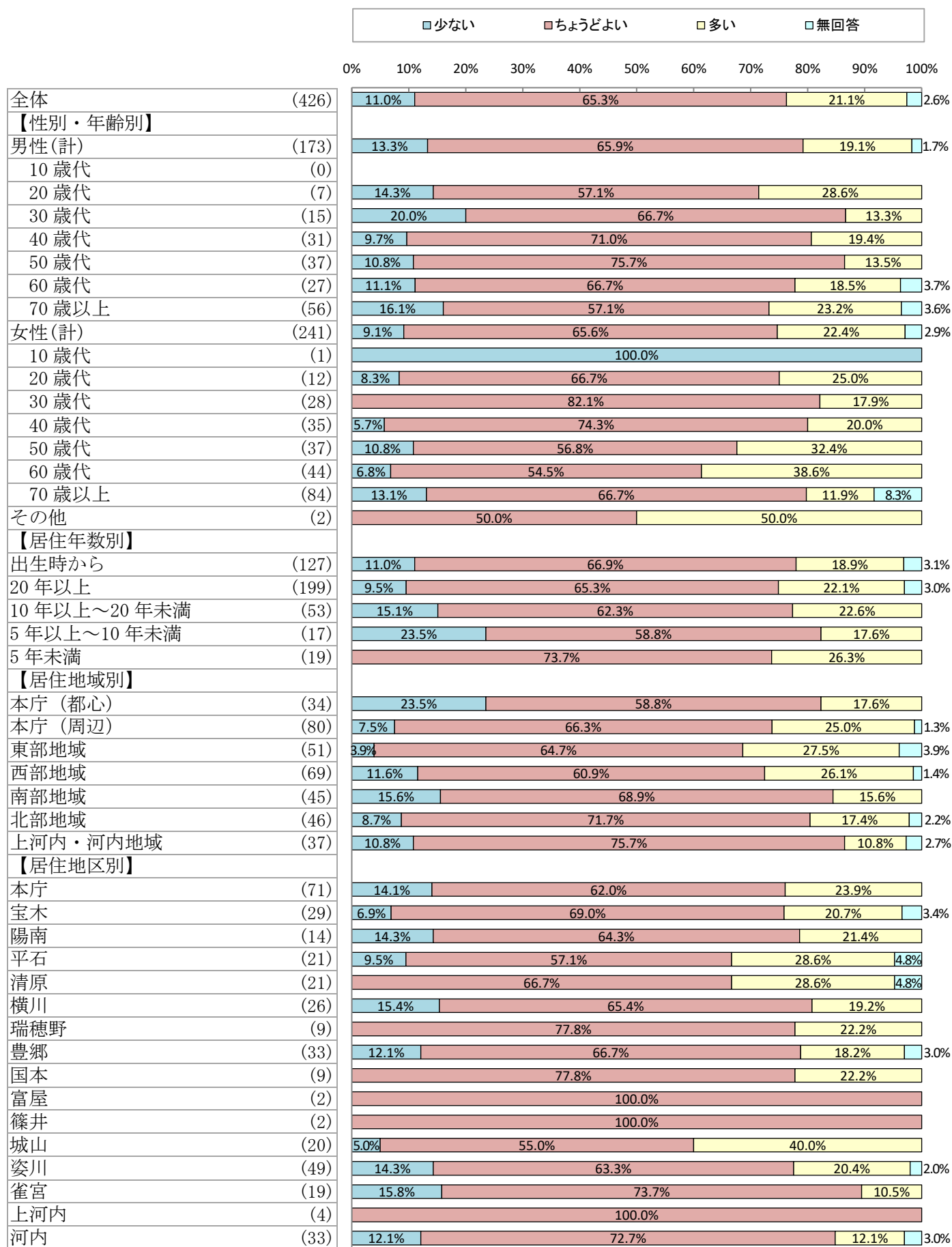
<参考>

性別・年齢別でみると、「a 郊外部のみどりの量」が『ちょうどよい』と感じたのは、<女性/30歳代>が82.1%で最も高く、「b 都市部のみどりの量」が『ちょうどよい』と感じたのは<男性/30歳代>が80.0%で最も高かった。「c 自宅周辺のみどりの量」が『ちょうどよい』と感じたのは<男性/20歳代>が85.7%で最も高かった。(図IV-14-2)

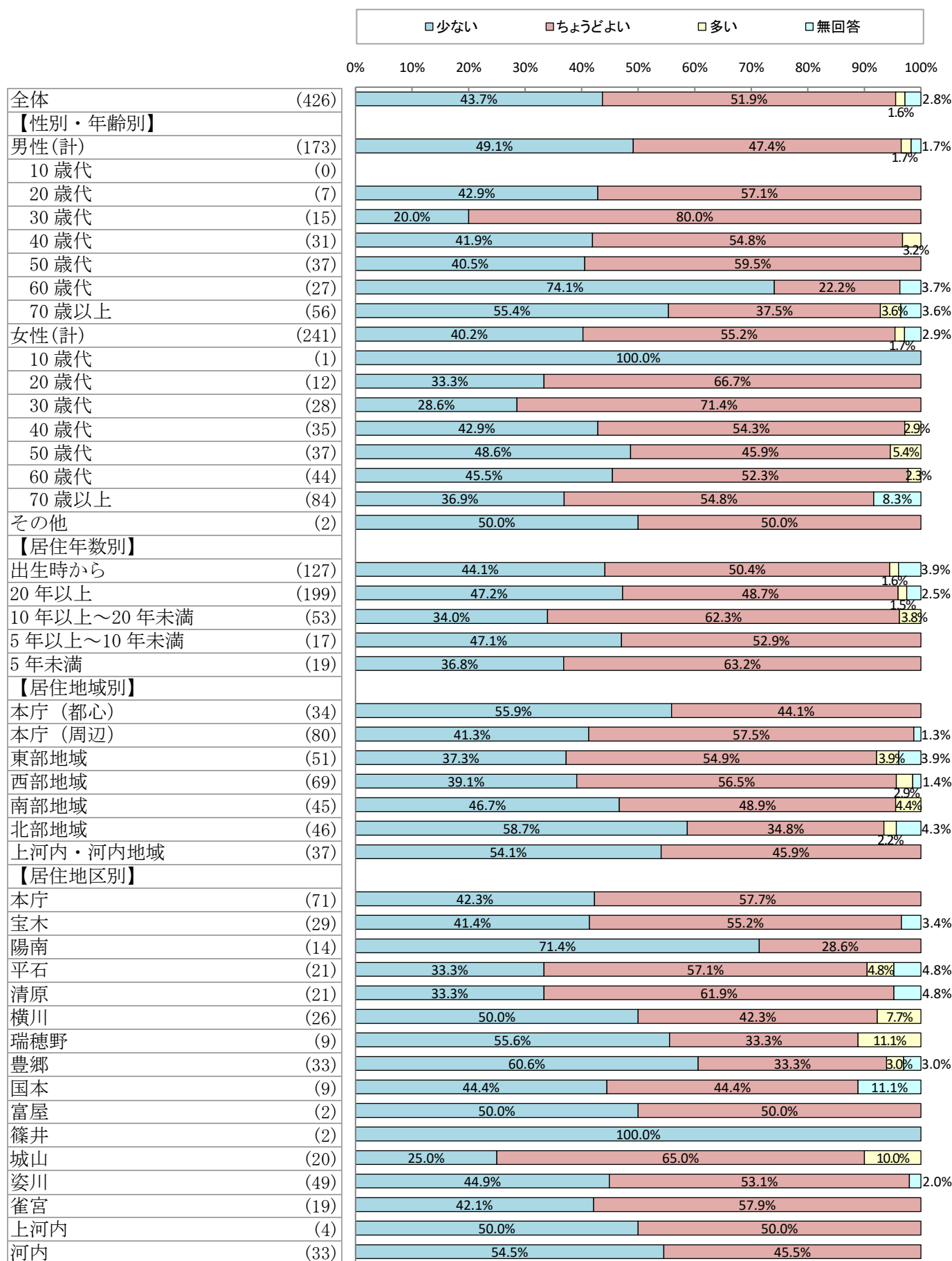
居住年数別でみると、『ちょうどよい』と感じたのは「郊外部」「都市部」「自宅周辺」いずれも5割を超えている。(図IV-14-2~4)

居住地区別でみると、「b 都市部のみどりの量」が『ちょうどよい』と感じたのは<城山>が65.0%で最も高かった。(図IV-14-3)

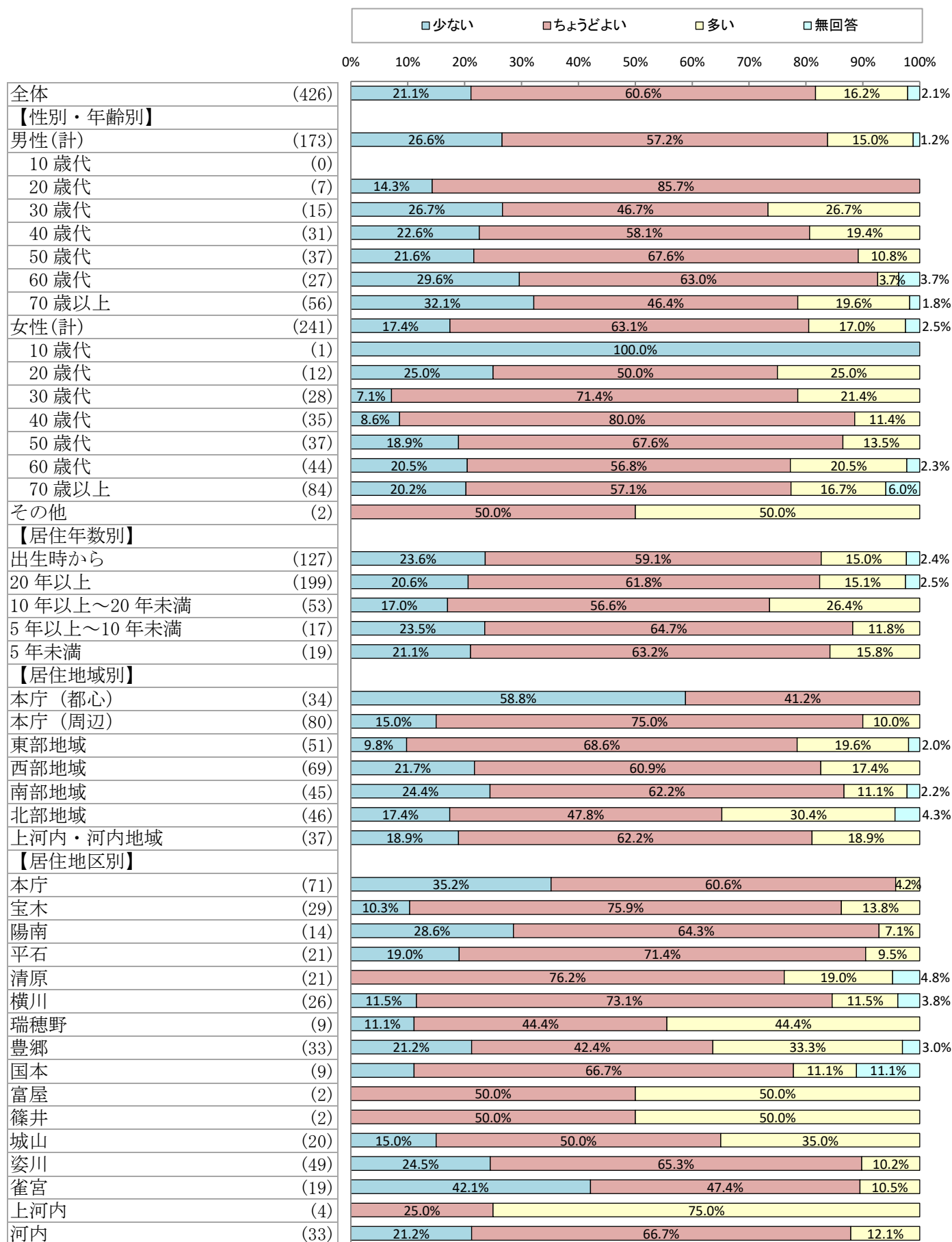
<図IV-14-2>性別・年齢別／居住年数別／居住地域・地区別「郊外部のみどりの量」の関係



<図IV-14-3>性別・年齢別／居住年数別／居住地域・地区別「都市部のみどりの量」の関係



<図IV-14-4>性別・年齢別／居住年数別／居住地域・地区別「自宅周辺のみどりの量」の関係

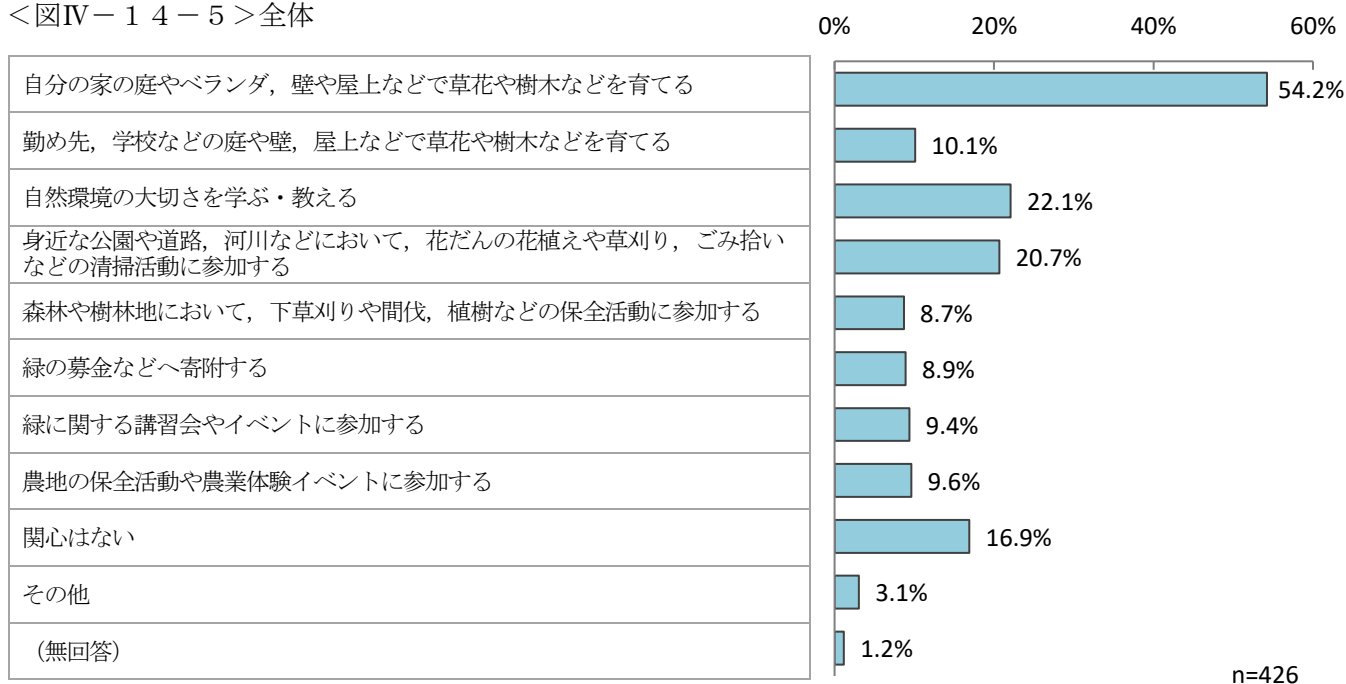


(2) 「みどり」に関することで取り組みたいこと

◇ 「自分の家の庭やベランダ、壁や屋上などで草花や樹木などを育てる」が5割半ば

問 4 8	今後、「みどり」に関することで、どのようなことに取り組んでみたいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお選びください。 (〇はいくつでも)	n=426
1	自分の家の庭やベランダ、壁や屋上などで草花や樹木などを育てる	54.2%
2	勤め先、学校などの庭や壁、屋上などで草花や樹木などを育てる	10.1%
3	自然環境の大切さを学ぶ・教える	22.1%
4	身近な公園や道路、河川などにおいて、花だんの花植えや草刈り、ごみ拾いなどの清掃活動に参加する	20.7%
5	森林や樹林地において、下草刈りや間伐、植樹などの保全活動に参加する	8.7%
6	緑の募金などへ寄附する	8.9%
7	緑に関する講習会やイベントに参加する	9.4%
8	農地の保全活動や農業体験イベントに参加する	9.6%
9	関心はない	16.9%
10	その他 (無回答)	3.1% 1.2%

<図IV-14-5>全体



「みどり」に関することで、取り組みたいことについては、「自分の家の庭やベランダ、壁や屋上などで草花や樹木などを育てる」が54.2%で最も高く、次いで「自然環境の大切さを学ぶ・教える」が22.1%、「身近な公園や道路、河川などにおいて、花だんの花植えや草刈り、ごみ拾いなどの清掃活動に参加する」が20.7%と続いている。(図IV-14-5)

<参考>

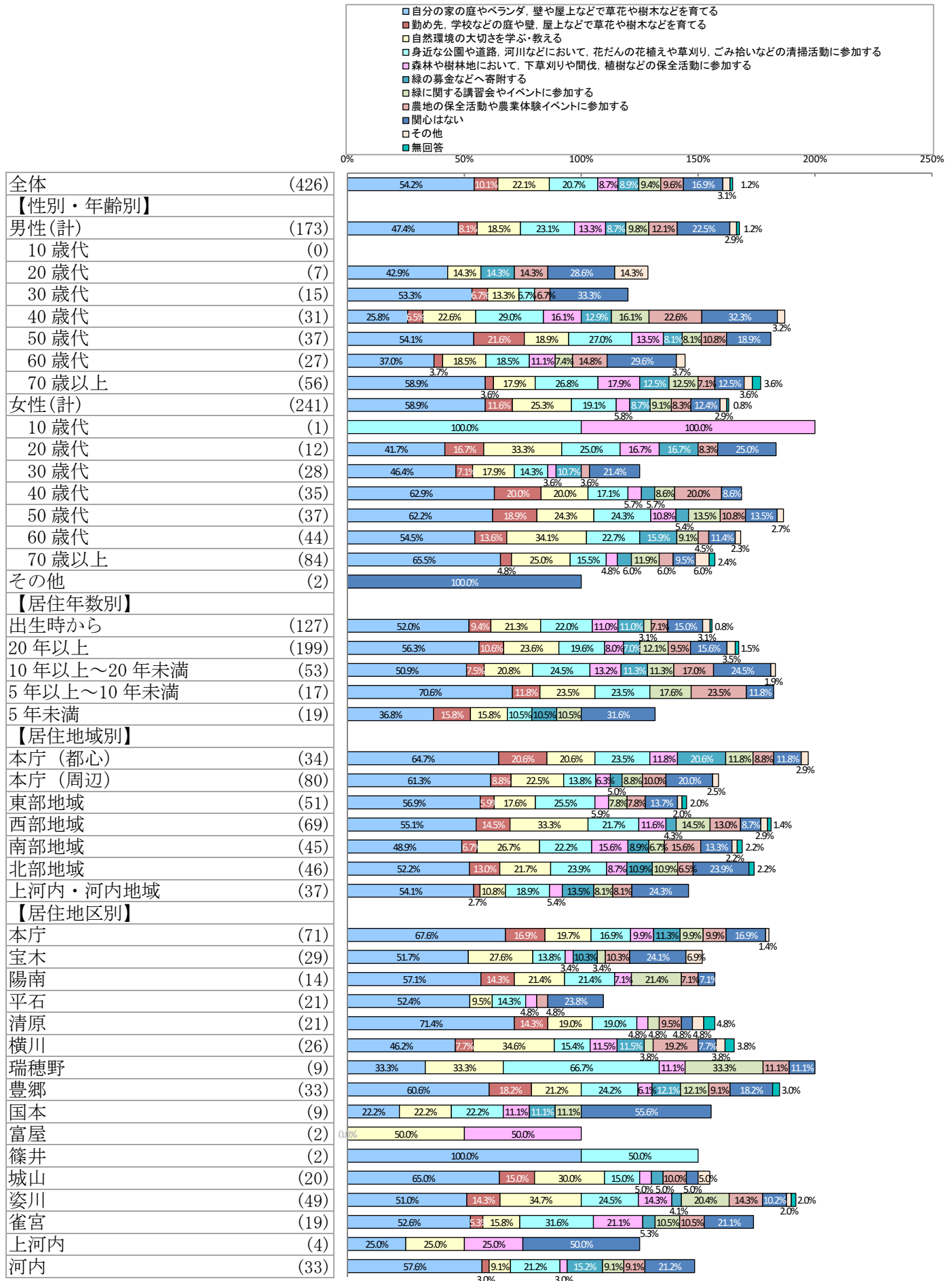
性別・年齢別でみると、「自分の家の庭やベランダ、壁や屋上などで草花や樹木などを育てる」は<女性/70歳以上>が65.5%で最も高かった。(図IV-14-6)

居住年数別でみると、「自分の家の庭やベランダ、壁や屋上などで草花や樹木などを育てる」は<5年以上~10年未満>が70.6%で最も高かった。(図IV-14-6)

居住地域別でみると、「自分の家の庭やベランダ、壁や屋上などで草花や樹木などを育てる」は<本庁(都心)>が64.7%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が61.3%であった。(図IV-14-6)

居住地区別でみると、「自分の家の庭やベランダ、壁や屋上などで草花や樹木などを育てる」は回答者の少ない<篠井>を除くと<清原>が71.4%で最も高かった。(図IV-14-6)

<図IV-14-6>性別・年齢別／居住年数別／居住地域・地区別

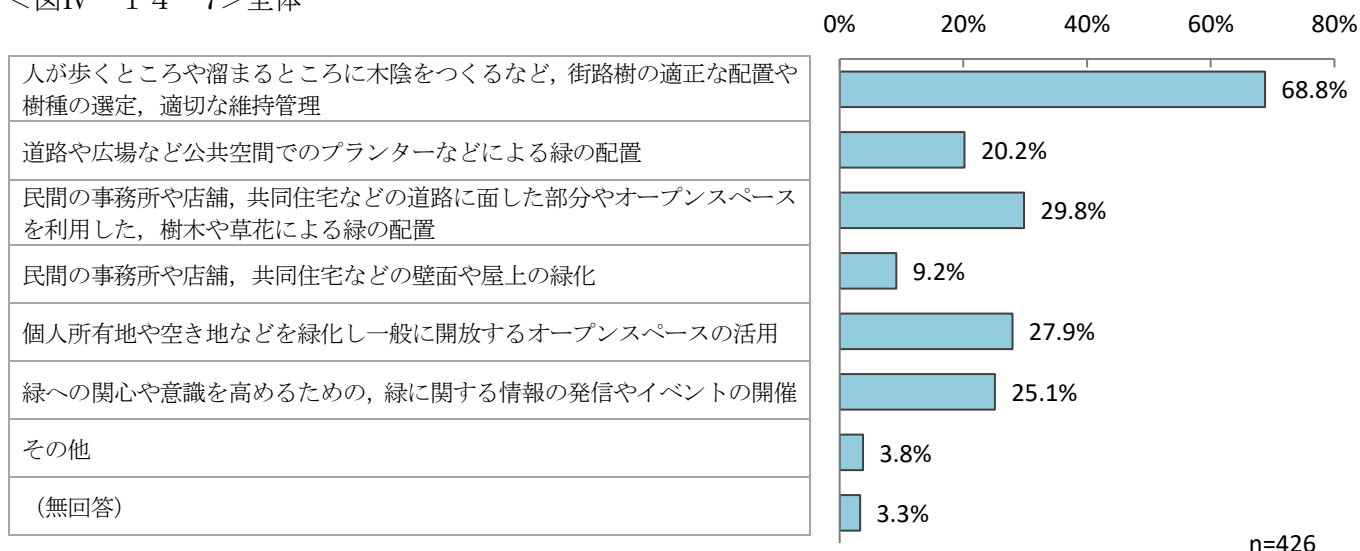


(3) 「みどり」を増やすために必要な取組

◇ 「人が歩くところや溜まるところに木陰をつくるなど、街路樹の適正な配置や樹種の選定、適切な維持管理」が約7割

問 4 9	本市の顔となる中心市街地において、人の目に映る「みどり」を増やすためには、どのような取組が必要だと思いますか。 (〇はいくつでも)	n=426
1	人が歩くところや溜まるところに木陰をつくるなど、街路樹の適正な配置や樹種の選定、適切な維持管理	68.8%
2	道路や広場など公共空間でのプランターなどによる緑の配置	20.2%
3	民間の事務所や店舗、共同住宅などの道路に面した部分やオープンスペースを利用	29.8%
4	民間の事務所や店舗、共同住宅などの壁面や屋上の緑化	9.2%
5	個人所有地や空き地などを緑化し一般に開放するオープンスペースの活用	27.9%
6	緑への関心や意識を高めるための、緑に関する情報の発信やイベントの開催	25.1%
7	その他	3.8%
	(無回答)	3.3%

<図IV-14-7>全体



「みどり」を増やすために必要な取組については、「人が歩くところや溜まるところに木陰をつくるなど、街路樹の適正な配置や樹種の選定、適切な維持管理」が68.8%で最も高く、次いで「民間の事務所や店舗、共同住宅などの道路に面した部分やオープンスペースを利用した、樹木や草花による緑の配置」が29.8%、「個人所有地や空き地などを緑化し一般に開放するオープンスペースの活用」が27.9%と続いている。
(図IV-14-7)

<参考>

性別・年齢別でみると、「人が歩くところや溜まるところに木陰をつくるなど、街路樹の適正な配置や樹種の選定、適切な維持管理」は<女性/40歳代>が82.9%で最も高かった。(図IV-14-8)

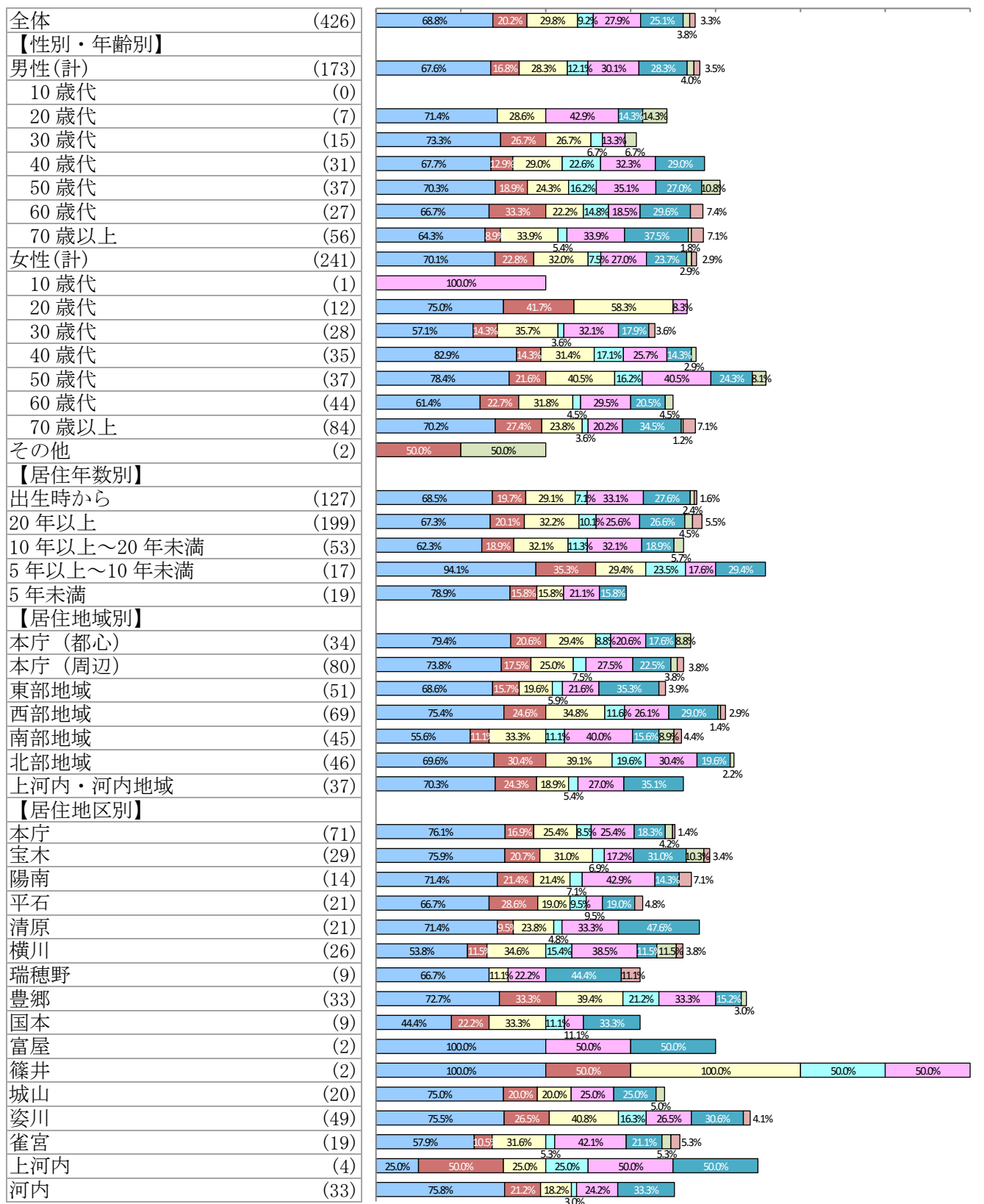
居住年数別でみると、「人が歩くところや溜まるところに木陰をつくるなど、街路樹の適正な配置や樹種の選定、適切な維持管理」は<5年以上~10年未満>が94.1%で最も高かった。

居住地域別でみると、「人が歩くところや溜まるところに木陰をつくるなど、街路樹の適正な配置や樹種の選定、適切な維持管理」は<本庁(都心)>が79.4%で最も高かった。(図IV-14-8)

居住地区別でみると、「人が歩くところや溜まるところに木陰をつくるなど、街路樹の適正な配置や樹種の選定、適切な維持管理」は回答数の少ない<富屋><篠井>を除くと、<本庁>が76.1%で最も高かった。(図IV-14-8)

<図IV-14-8>性別・年齢別／居住年数別／居住地域・地区別

- 人が歩くところや溜まるところに木陰をつくるなど、街路樹の適正な配置や樹種の選定、適切な維持管理
- 道路や広場など公共空間でのプランターなどによる緑の配置
- 民間の事務所や店舗、共同住宅などの道路に面した部分やオープンスペースを利用した、樹木や草花による緑の配置
- 民間の事務所や店舗、共同住宅などの壁面や屋上の緑化
- 個人所有地や空き地などを緑化し一般に開放するオープンスペースの活用
- 緑への関心や意識を高めるための、緑に関する情報の発信やイベントの開催
- その他
- 無回答



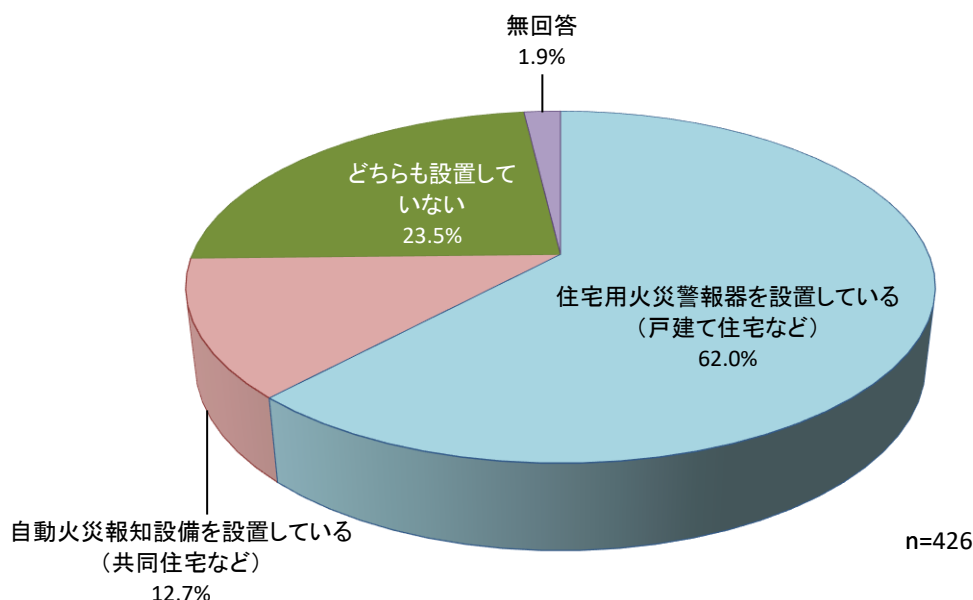
15. 住宅用火災警報器の設置及び維持管理状況について

(1) 「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」の設置状況

◇ 【住宅用火災警報器または自動火災報知設備を設置している（計）】が7割半ば

問50	現在、自宅に『住宅用火災警報器または自動火災報知設備』を設置していますか。（○は1つ）	n=426
1	住宅用火災警報器を設置している（戸建て住宅など）	62.0%
2	自動火災報知設備を設置している（共同住宅など）	12.7%
3	どちらも設置していない	23.5%
	（無回答）	1.9%

<図IV-15-1>全体



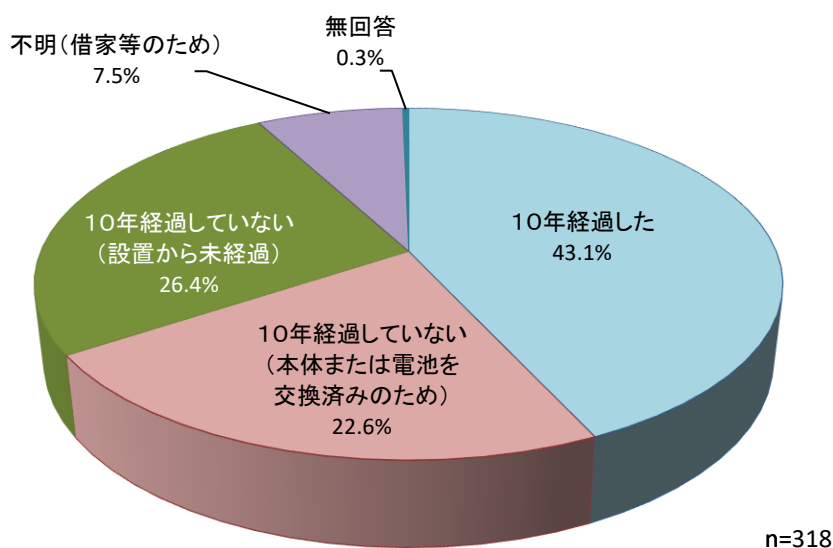
「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」の設置状況については、「住宅用火災警報器を設置している（戸建て住宅など）」が62.0%、「自動火災報知設備を設置している（共同住宅など）」が12.7%で、これらを合わせた【住宅用火災警報器または自動火災報知設備を設置している（計）】は74.7%であった。（図IV-15-1）

(2) 設置されている住宅用火災警報器の経過年数

◇ 「10年経過した」が4割強

問5 1	設置されている住宅用火災警報器は設置から『10年』を経過していますか。	(○は1つ)
		n=318
1	10年経過した	43.1%
2	10年経過していない (本体または電池を交換済みのため)	22.6%
3	10年経過していない (設置から未経過)	26.4%
4	不明 (借家等のため)	7.5%
	(無回答)	0.3%

<図IV-15-2>全体



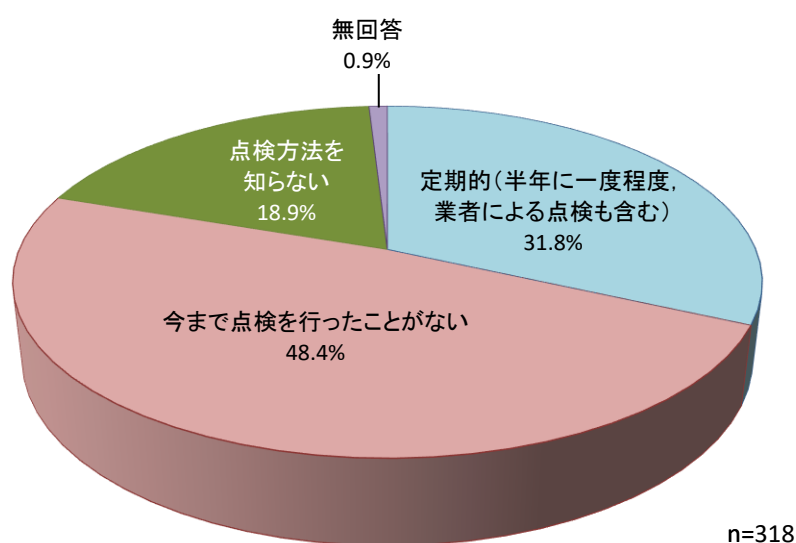
設置されている住宅用火災警報器の経過年数については、「10年経過した」が43.1%で最も高く、次いで、「10年経過していない (設置から未経過)」が26.4%、「10年経過していない (本体または電池を交換済みのため)」が22.6%であった。(図IV-15-2)

(3) 住宅用火災警報器などの「点検」の有無

◇ 「今まで点検を行ったことがない」が5割弱

問5 2	今までに住宅用火災警報器などの『点検』を行ったことはありますか。	(○は1つ)
		n=318
1	定期的 (半年に一度程度, 業者による点検も含む)	31.8%
2	今まで点検を行ったことがない	48.4%
3	点検方法を知らない	18.9%
	(無回答)	0.9%

<図IV-15-3>全体



住宅用火災警報器などの「点検」の有無については、「今まで点検を行ったことがない」が48.4%で最も高く、次いで「定期的 (半年に一度程度, 業者による点検も含む)」が31.8%、「点検方法を知らない」が18.9%であった。(図IV-15-3)

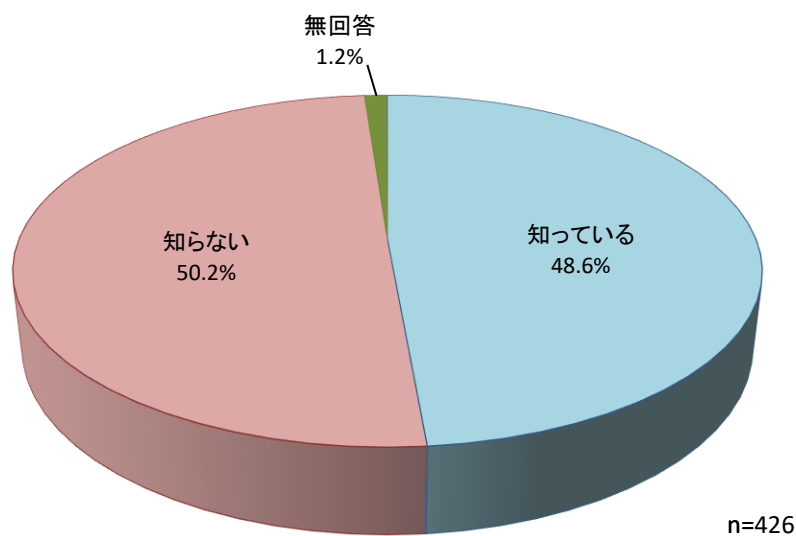
16. 「大谷石文化」の日本遺産認定について

(1) 「大谷石文化」が日本遺産に認定されていることの認知度

◇ 「知らない」が約5割

問53	「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことを知っていますか。	(○は1つ)
		n=426
1	知っている	48.6%
2	知らない	50.2%
	(無回答)	1.2%

<図IV-16-1>全体



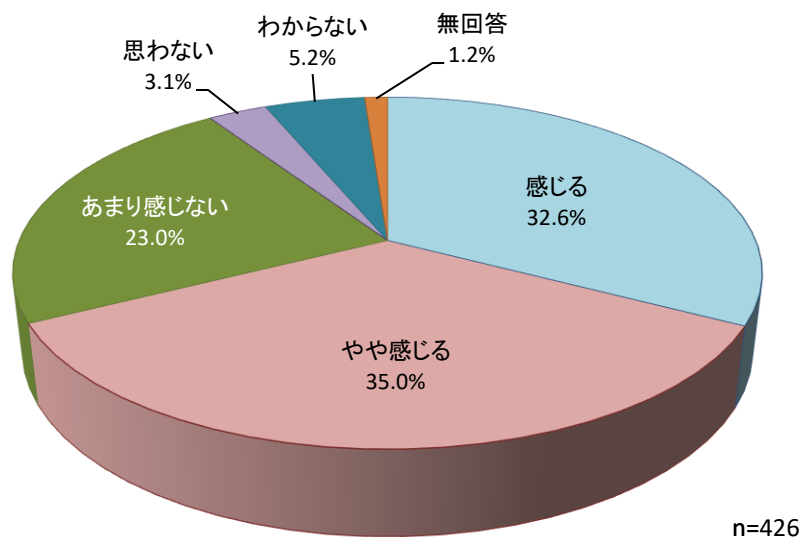
「大谷石文化」が日本遺産に認定されていることを知っているかについては、「知らない」が 50.2%，一方、「知っている」は 48.6%であった。(図IV-16-1)

(2) 「大谷石文化」を誇りに感じるか

◇ 「感じる」と「やや感じる」を合わせた【感じる(計)】が7割弱

問54	本市の暮らしに息づいている「大谷石文化」を誇りに感じますか。	(○は1つ)
		n=426
1	感じる	32.6%
2	やや感じる	35.0%
3	あまり感じない	23.0%
4	思わない	3.1%
5	わからない	5.2%
	(無回答)	1.2%

<図IV-16-2>全体



本市の暮らしに息づいている「大谷石文化」を誇りに感じるかについては、「感じる」が 32.6%、「やや感じる」が 35.0%で、これらを合わせた【感じる(計)】が 67.6%であった。また、「あまり感じない」が 23.0%、「思わない」が 3.1%で、これらを合わせた【あまり感じない・思わない(計)】は 26.1%であった。
(図IV-16-2)

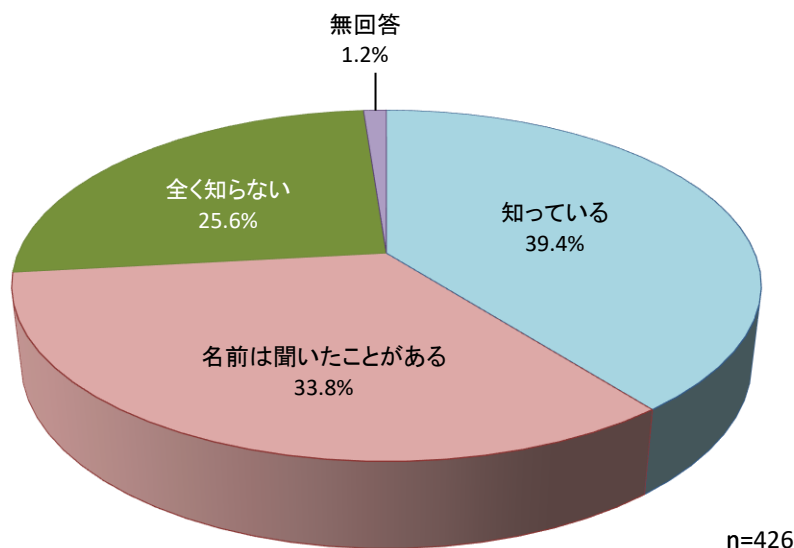
17. 雨水貯留・浸透施設の補助金制度について

(1) 「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」の認知度

◇ 「知っている」が約4割

問55	ご家庭で使用する「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」について知っていますか。	(○は1つ)
		n=426
1	知っている	39.4%
2	名前は聞いたことがある	33.8%
3	全く知らない	25.6%
	(無回答)	1.2%

<図IV-17-1>全体



「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」の認知度については、「知っている」が39.4%で最も高く、次いで「名前は聞いたことがある」が33.8%、「全く知らない」が25.6%であった。(図IV-17-1)

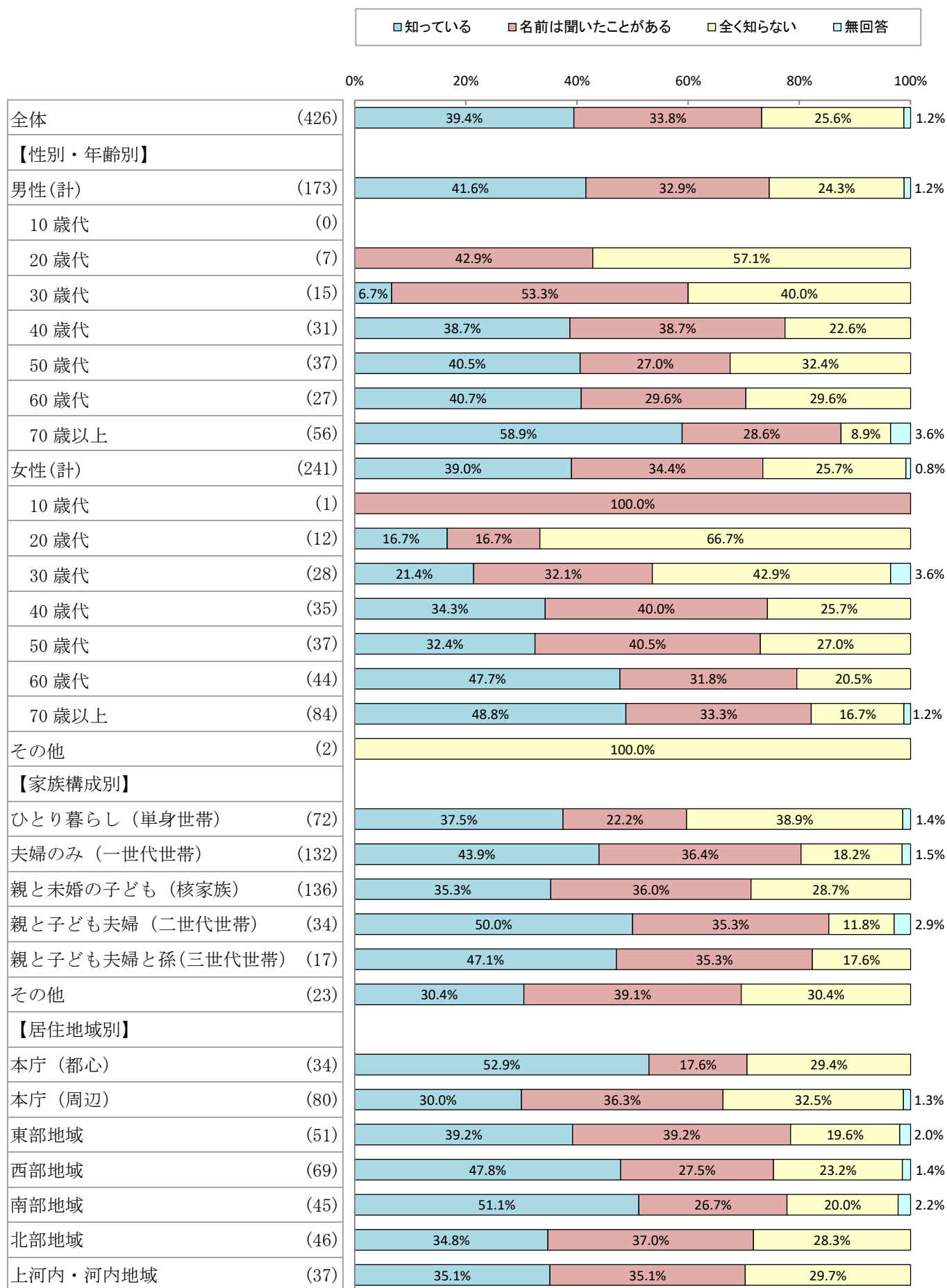
<参考>

性別・年齢別でみると、「知っている」は<男性/70歳以上>が58.9%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が48.8%であった。「名前は聞いたことがある」は<女性/10歳代>が100.0%、<男性/30歳代>が53.3%であった。(図IV-17-2)

家族構成別でみると、「知っている」は、<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が50.0%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）>が47.1%であった。「名前は聞いたことがある」は、<その他>を除くと、<夫婦のみ（一世帯世帯）>が36.4%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども（核家族）>が36.0%であった。(図IV-17-2)

居住地域別でみると、「知っている」は<本庁（都心）>が52.9%で最も高く、次いで<南部地域>が51.1%であった。「名前は聞いたことがある」は<東部地域>が39.2%で最も高く、次いで<北部地域>が37.0%であった。(図IV-17-2)

<図IV-17-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

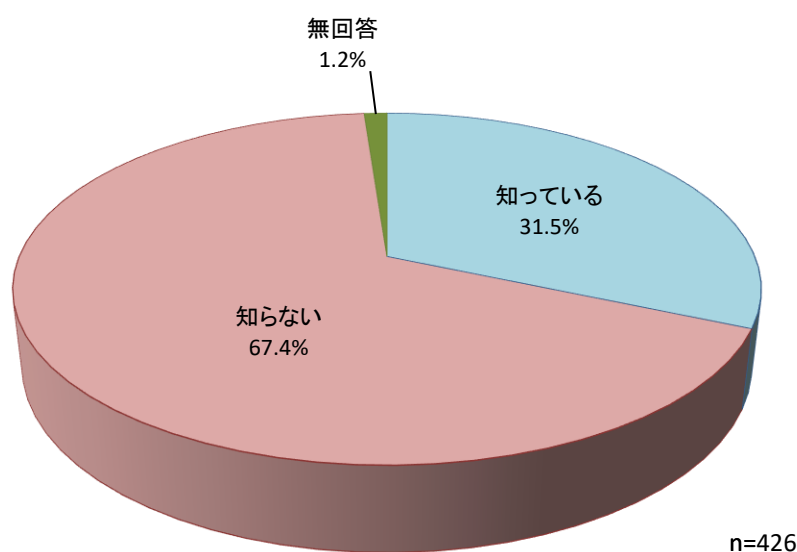


(2) 貯留タンクや浸透ますなどの設置に対する補助金制度の認知度

◇ 「知らない」が7割弱

問 5 6 貯留タンクや浸透ますなどの設置に対する補助金制度があることを知っていますか。(○は1つ)		n=426
1	知っている	31.5%
2	知らない	67.4%
	(無回答)	1.2%

<図IV-17-3>全体



貯留タンクや浸透ますなどの設置に対する補助金制度を知っているかについては、「知らない」が67.4%であった。一方、「知っている」は31.5%であった。(図IV-17-3)

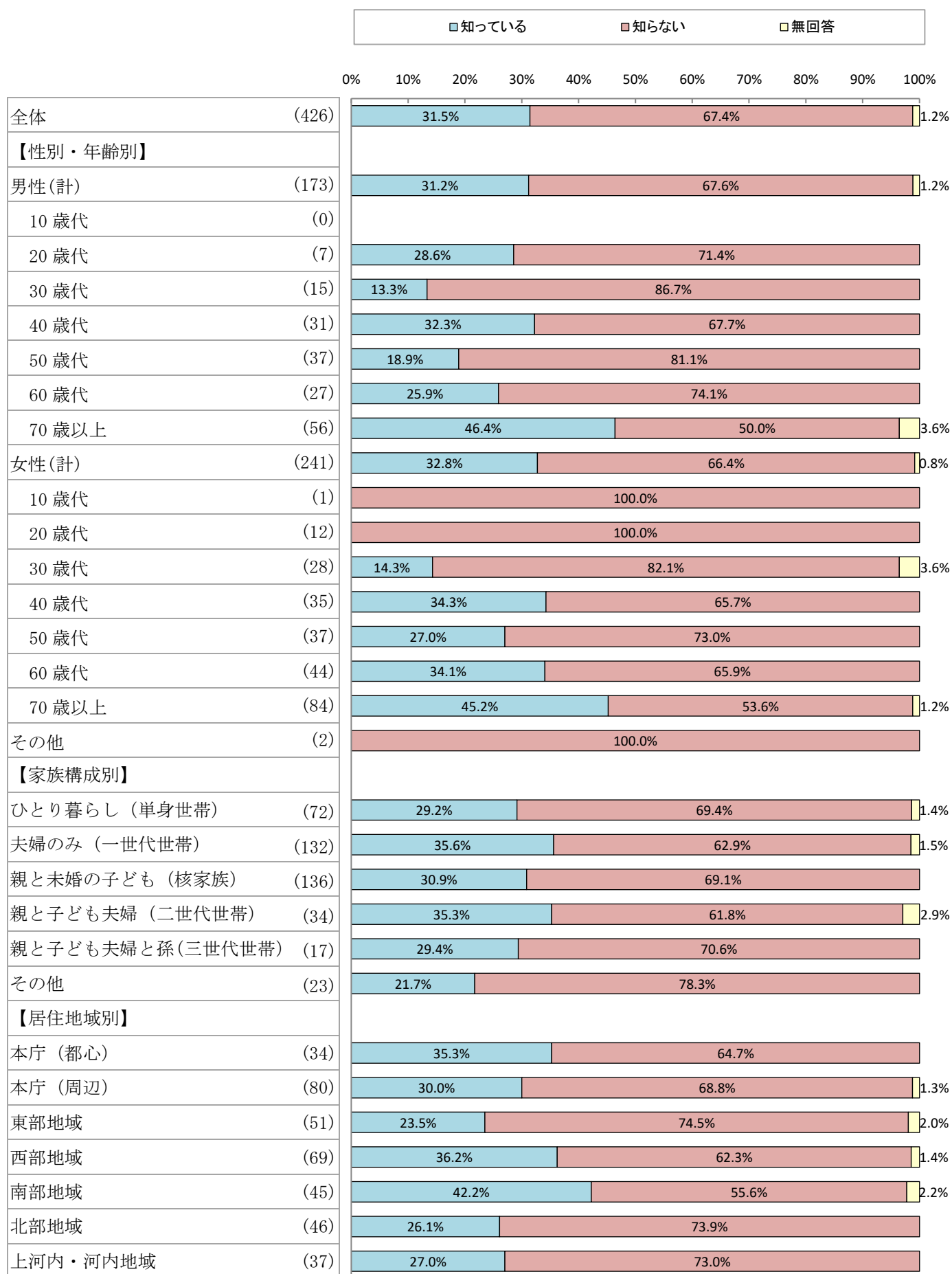
<参考>

性別・年齢別でみると、「知らない」は<女性/10歳代><女性/20歳代>が100.0%、<男性/30歳代>が86.7%であった。「知っている」は<男性/70歳以上>が46.4%、<女性/70歳以上>が45.2%であった。(図IV-17-4)

家族構成別でみると、「知らない」は、<その他>を除くと、<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が70.6%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が69.4%であった。「知っている」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が35.6%で最も高く、<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が35.3%であった。(図IV-17-4)

居住地域別でみると、「知らない」は<東部地域>が74.5%で最も高く、次いで<北部地域>が73.9%であった。「知っている」は<南部地域>が42.2%で最も高く、次いで<西部地域>が36.2%であった。(図IV-17-4)

<図IV-17-4>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

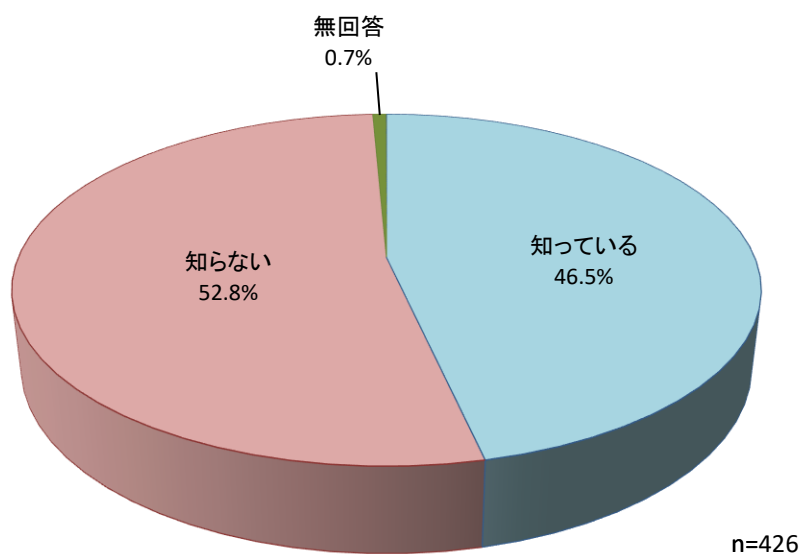


(3) 貯留タンクや浸透ますなどの設置効果についての認知度

◇ 「知らない」が5割強

問 5 7	貯留タンクや浸透ますなどを設置することが浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につながることを知っていますか。	(○は1つ)
		n=426
1	知っている	46.5%
2	知らない	52.8%
	(無回答)	0.7%

<図IV-17-5>全体



貯留タンクや浸透ますなどの設置効果についての認知度については、「知らない」が52.8%であった。一方、「知っている」は46.5%であった。(図IV-17-5)

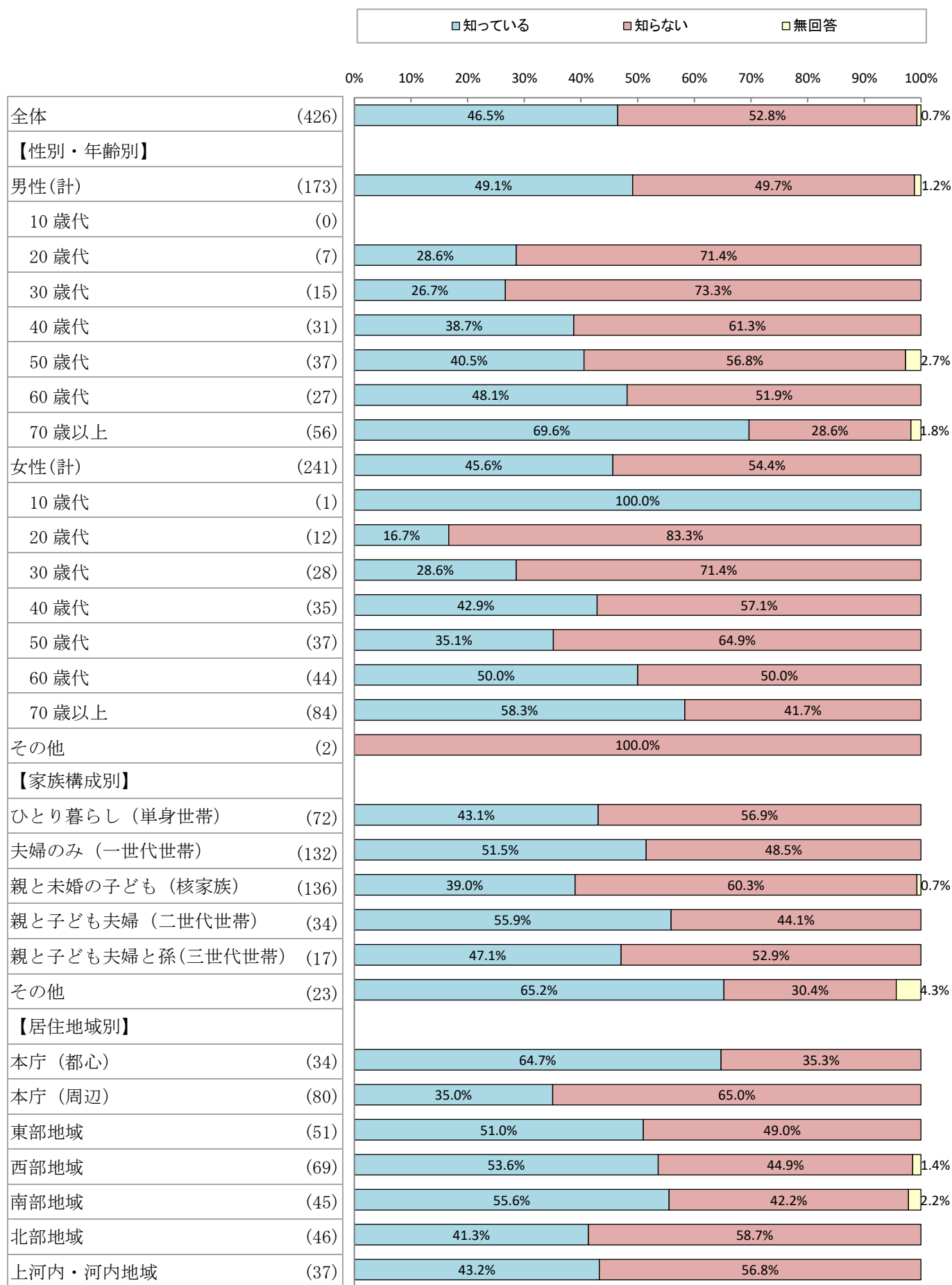
<参考>

性別・年齢別でみると、「知らない」は、<その他>を除くと、<女性/20歳代>が83.3%、<男性/30歳代>が73.3%であった。「知っている」は<女性/10歳代>が100.0%、<男性/70歳以上>が69.6%であった。(図IV-17-6)

家族構成別でみると、「知らない」は<その他>を除くと、<親と未婚の子ども(核家族)>が60.3%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が56.9%であった。「知っている」は<その他>を除くと、<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が55.9%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が51.5%であった。(図IV-17-6)

居住地域別でみると、「知らない」は<本庁(周辺)>が65.0%で最も高く、次いで<北部地域>が58.7%であった。「知っている」は<本庁(都心)>が64.7%で最も高く、次いで<南部地域>が55.6%であった。(図IV-17-6)

<図IV-17-6>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

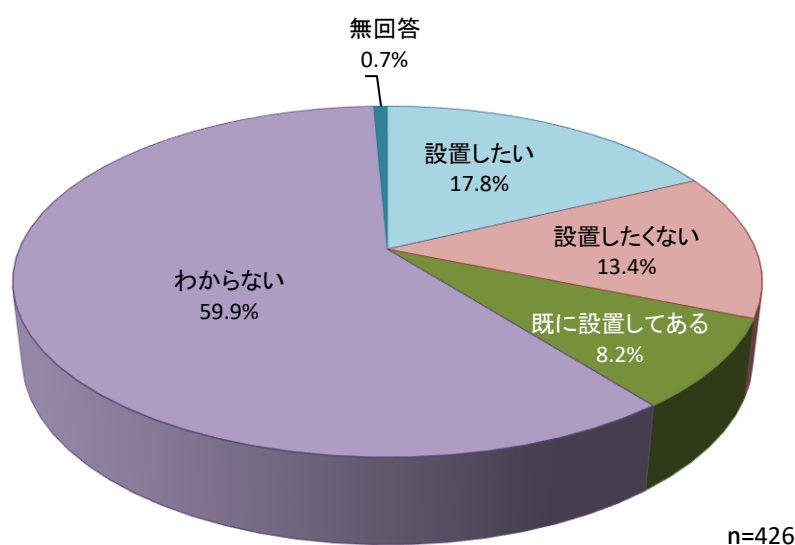


(4) 貯留タンクや浸透ますなどを設置したいと思うか

◇ 「わからない」が約6割

問58 貯留タンクや浸透ますなどを設置したいと思いますか。		(○は1つ)
		n=426
1	設置したい	17.8%
2	設置したくない	13.4%
3	既に設置してある	8.2%
4	わからない	59.9%
	(無回答)	0.7%

<図IV-17-7>全体



貯留タンクや浸透ますなどを設置したいと思うかについては、「わからない」が59.9%で最も高く、次いで「設置したい」が17.8%、「設置したくない」が13.4%であった。(図IV-17-7)

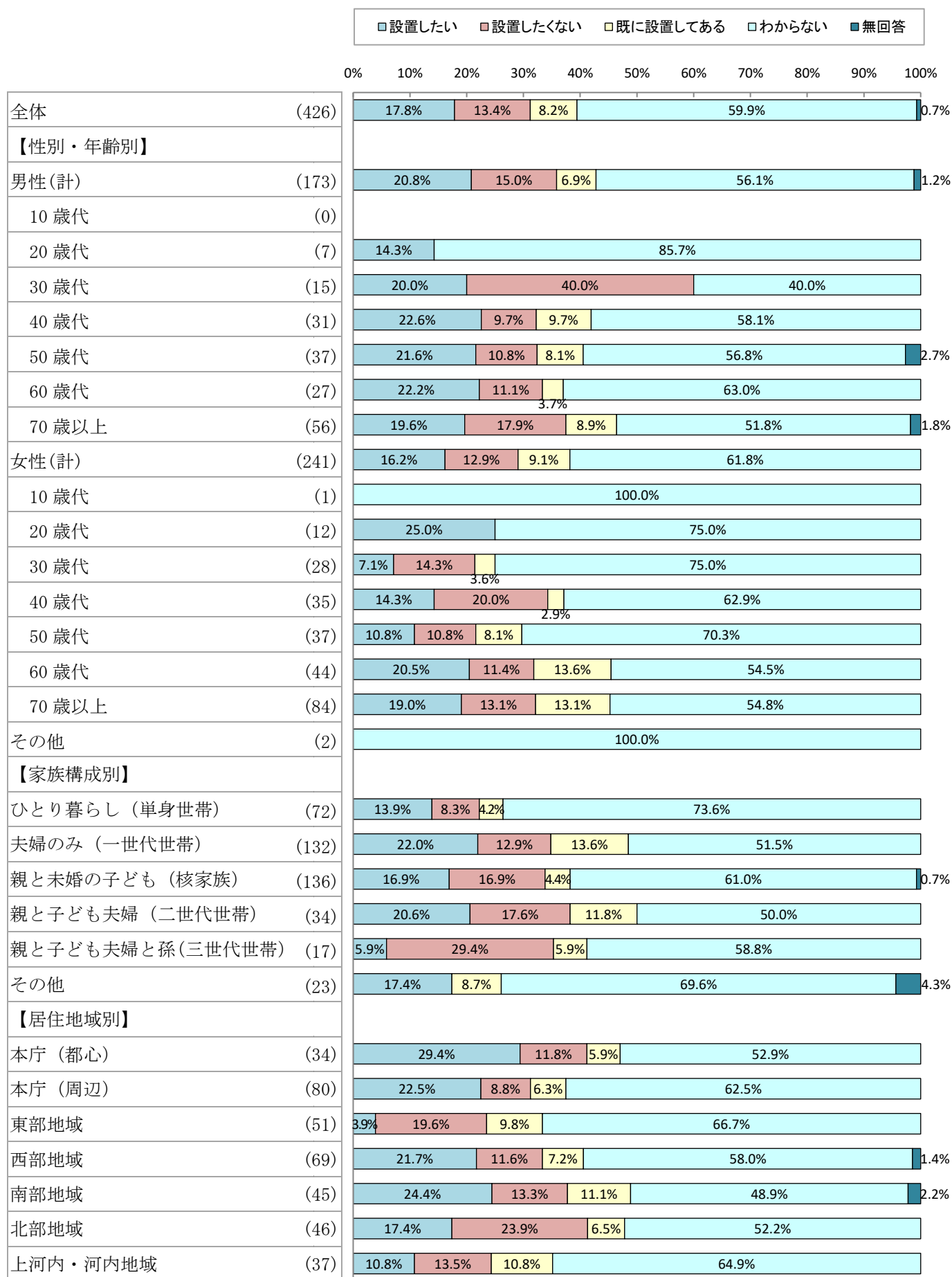
<参考>

性別・年齢別でみると、「設置したい」は、<その他>を除くと、<女性/20歳代>が25.0%で最も高く、「設置したくない」は、<男性/30歳代>が40.0%で最も高かった。(図IV-17-8)

家族構成別でみると、「設置したい」は、<夫婦のみ(一世代世帯)>が22.0%で最も高く、「設置したくない」は、<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が29.4%で最も高かった。(図IV-17-8)

居住地域別でみると、「設置したい」は<本庁(都心)>が29.4%で最も高く、「設置したくない」は<北部地域>が23.9%で最も高かった。(図IV-17-8)

<図IV-17-8>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

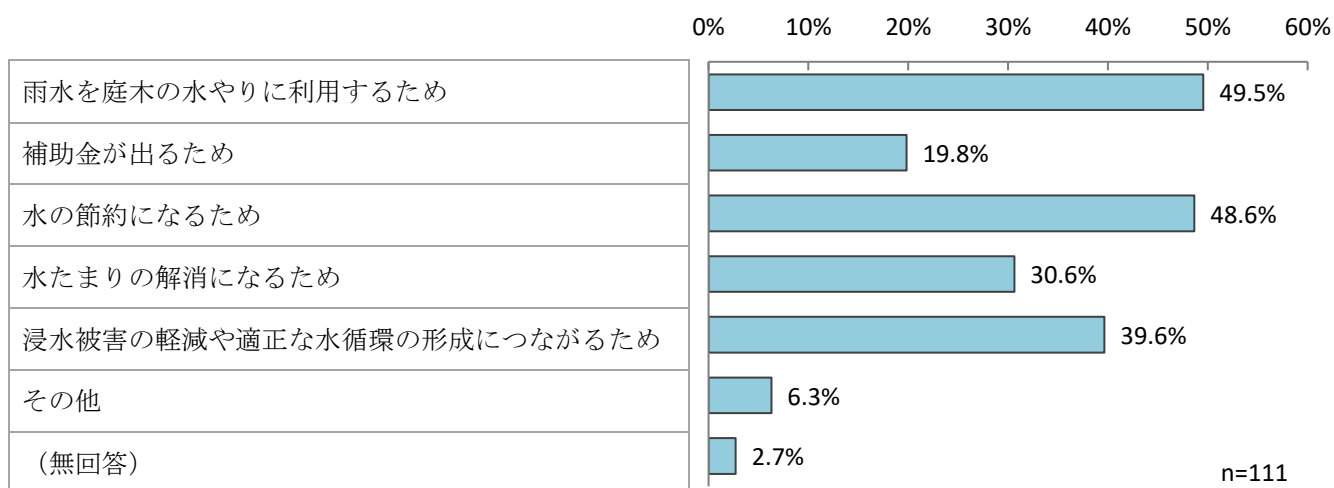


(5) 設置希望・既設置の理由

◇ 「雨水を庭木の水やりに利用するため」が約5割

問59	問58で「1 設置したい」「3 既に設置してある」と回答した方にお伺いします。その理由は 何ですか。	(〇はいくつでも)	n=111
1	雨水を庭木の水やりに利用するため		49.5%
2	補助金が出るため		19.8%
3	水の節約になるため		48.6%
4	水たまりの解消になるため		30.6%
5	浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につながるため		39.6%
6	その他		6.3%
	(無回答)		2.7%

<図IV-17-9>全体



設置希望・既設置の理由については、「雨水を庭木の水やりに利用するため」が49.5%で最も高く、次いで「水の節約になるため」が48.6%、「浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につながるため」が39.6%と続いている。(図IV-17-9)

<参考>

性別・年齢別でみると、「雨水を庭木の水やりに利用するため」は<女性/50歳代>が85.7%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が71.4%であった。「水の節約になるため」は<女性/40歳代><女性/60歳代>が66.7%で最も高く、次いで<男性/60歳代><女性/50歳代>が57.1%であった。(図IV-17-10)

家族構成別でみると、「雨水を庭木の水やりに利用するため」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が72.7%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が61.5%であった。「水の節約になるため」は<親と未婚の子ども(核家族)>が55.2%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が53.8%であった。(図IV-17-10)

居住地域別でみると、「雨水を庭木の水やりに利用するため」は<本庁(周辺)>が65.2%で最も高く、次いで<本庁(都心)>が58.3%であった。「水の節約になるため」は<西部地域>が60.0%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が56.5%であった。(図IV-17-10)

<図IV-17-10>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

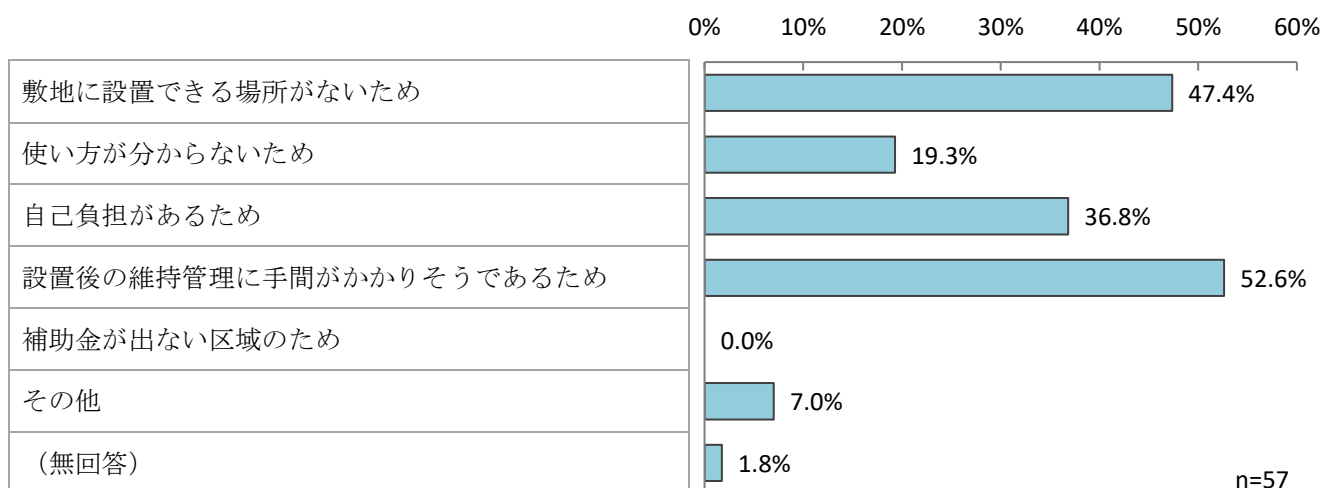


(6) 設置したくない理由

◇ 「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」が5割強

問60	問58で「2 設置したくない」と回答した方にお伺いします。その理由は何ですか。 (〇はいくつでも)	
		n=57
1	敷地に設置できる場所がないため	47.4%
2	使い方が分からないため	19.3%
3	自己負担があるため	36.8%
4	設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため	52.6%
5	補助金が出ない区域のため	0.0%
6	その他	7.0%
	(無回答)	1.8%

<図IV-17-11>全体



設置したくない理由については、「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」が52.6%で最も高く、次いで「敷地に設置できる場所がないため」が47.4%、「自己負担があるため」が36.8%と続いている。

(図IV-17-11)

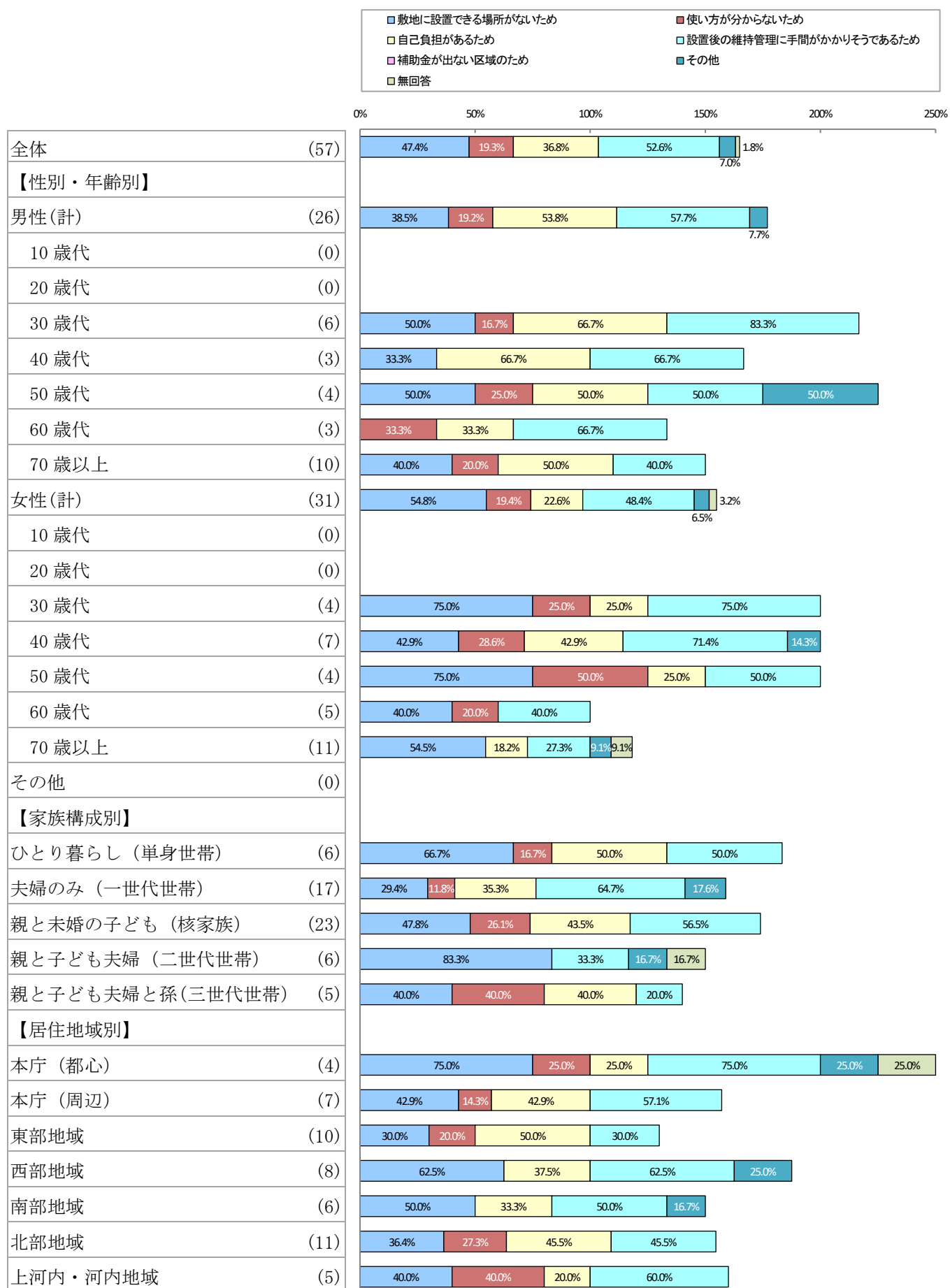
<参考>

性別・年齢別でみると、「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」は<男性/30歳代>が83.3%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が75.0%であった。「敷地に設置できる場所がないため」は<女性/30歳代><女性/50歳代>が75.0%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が54.5%であった。(図IV-17-12)

家族構成別でみると、「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が64.7%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が56.5%であった。「敷地に設置できる場所がないため」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が83.3%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が66.7%であった。(図IV-17-12)

居住地域別でみると、「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」は<本庁(都心)>が75.0%で最も高く、次いで<西部地域>が62.5%であった。「敷地に設置できる場所がないため」は<本庁(都心)>が75.0%で最も高く、次いで<西部地域>が62.5%であった。(図IV-17-12)

<図IV-17-12>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



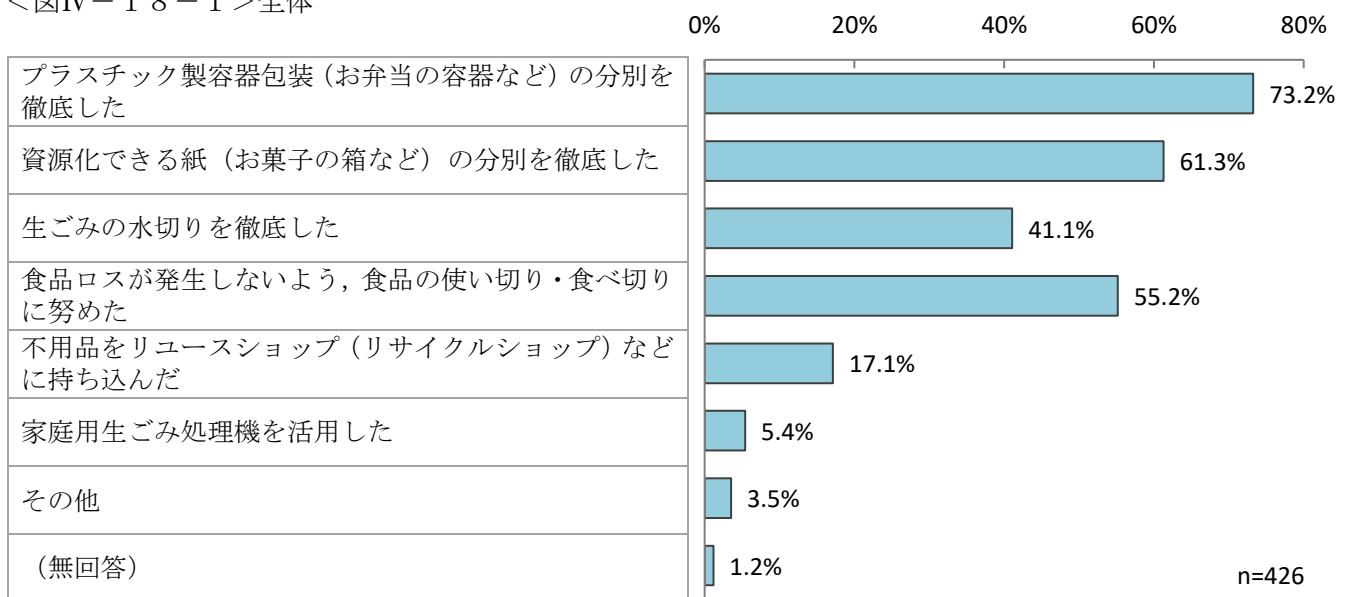
18. 焼却ごみ削減の取組について

(1) ごみ削減のため実施した取組

◇ 「プラスチック製容器包装（お弁当の容器など）の分別を徹底した」が7割強

問61	本市では令和4年2月に発生したクリーンパーク茂原の火災に伴い、市民の皆様に焼却ごみの削減をお願いし、皆様のご協力のおかげで前年同時期と比較し約1割の削減を図ることができました。ごみ削減のため、どのような取組を実施しましたか。（〇はいくつでも）	n=426
1	プラスチック製容器包装（お弁当の容器など）の分別を徹底した	73.2%
2	資源化できる紙（お菓子の箱など）の分別を徹底した	61.3%
3	生ごみの水切りを徹底した	41.1%
4	食品ロスが発生しないよう、食品の使い切り・食べ切りに努めた	55.2%
5	不用品をリユースショップ（リサイクルショップ）などに持ち込んだ	17.1%
6	家庭用生ごみ処理機を活用した	5.4%
7	その他	3.5%
	（無回答）	1.2%

<図IV-18-1>全体



ごみ削減のため実施した取組については、「プラスチック製容器包装（お弁当の容器など）の分別を徹底した」が73.2%で最も高く、次いで「資源化できる紙（お菓子の箱など）の分別を徹底した」が61.3%、「食品ロスが発生しないよう、食品の使い切り・食べ切りに努めた」が55.2%と続いている。（図IV-18-1）

<参考>

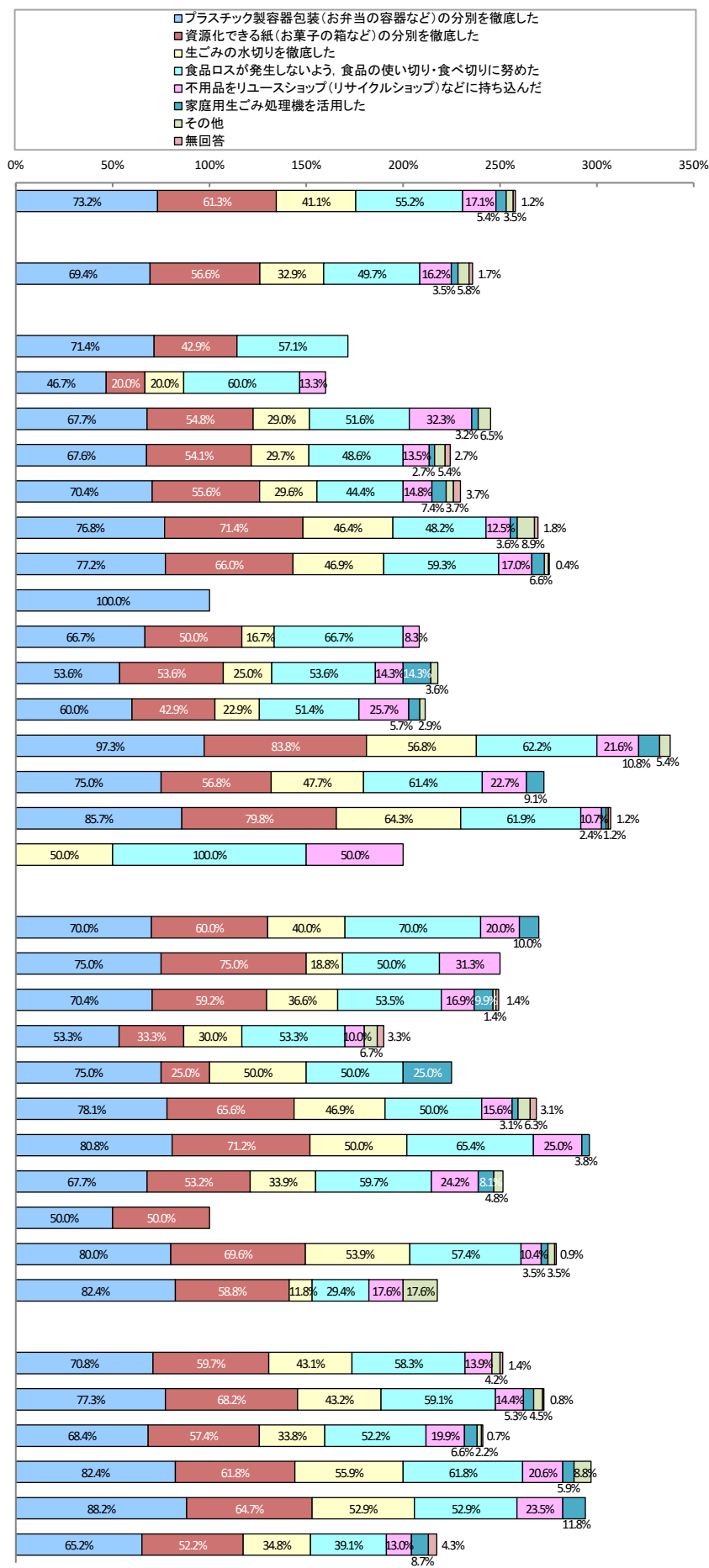
性別・年齢別でみると、「プラスチック製容器包装（お弁当の容器など）の分別を徹底した」は<女性/10歳代>が100.0%、<女性/50歳代>が97.3%であった。（図IV-18-2）

職業別でみると、「プラスチック製容器包装（お弁当の容器など）の分別を徹底した」は、<その他>を除くと、<家事に専念している主婦、主夫>が80.8%で最も高く、次いで<無職>が80.0%であった。（図IV-18-2）

家族構成別でみると、「プラスチック製容器包装（お弁当の容器など）の分別を徹底した」は<親と子ども夫婦と孫（三世代世帯）>が88.2%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦（二世代世帯）>が82.4%であった。（図IV-18-2）

<図IV-18-2>性別・年齢別／職業別／家族構成別

全体	(426)
【性別・年齢別】	
男性(計)	(173)
10歳代	(0)
20歳代	(7)
30歳代	(15)
40歳代	(31)
50歳代	(37)
60歳代	(27)
70歳以上	(56)
女性(計)	(241)
10歳代	(1)
20歳代	(12)
30歳代	(28)
40歳代	(35)
50歳代	(37)
60歳代	(44)
70歳以上	(84)
その他	(2)
【職業別】	
専門職	(10)
管理職	(16)
事務・技術職	(71)
販売・生産・労務職	(30)
農林水産業従事者	(4)
自営業・サービス業従事者	(32)
家事に専念している主婦、主夫	(52)
パート従事者	(62)
学生	(4)
無職	(115)
その他	(17)
【家族構成別】	
ひとり暮らし(単身世帯)	(72)
夫婦のみ(一世代世帯)	(132)
親と未婚の子ども(核家族)	(136)
親と子ども夫婦(二世帯世帯)	(34)
親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)	(17)
その他	(23)

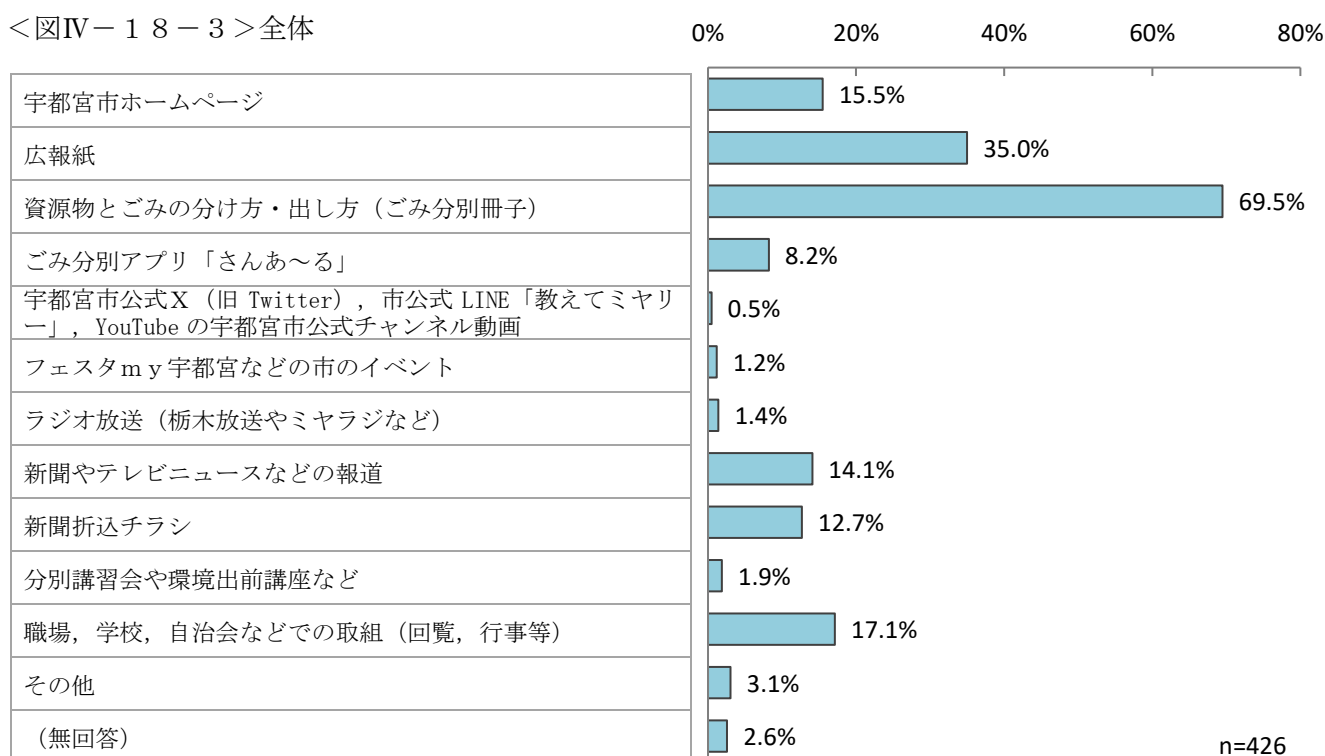


(2) 焼却ごみ削減の取組のために参考にしたもの

◇「資源物とごみの分け方・出し方（ごみ分別冊子）」が約7割

問62	焼却ごみ削減の取組のために、参考にされたものはありますか。	(〇はいくつでも)
		n=426
1	宇都宮市ホームページ	15.5%
2	広報紙	35.0%
3	資源物とごみの分け方・出し方（ごみ分別冊子）	69.5%
4	ごみ分別アプリ「さんあ〜る」	8.2%
5	宇都宮市公式X（旧 Twitter）、市公式 LINE「教えてミヤリー」、YouTube の宇都宮市公式チャンネル動画	0.5%
6	フェスタmy 宇都宮などの市のイベント	1.2%
7	ラジオ放送（栃木放送やミヤラジなど）	1.4%
8	新聞やテレビニュースなどの報道	14.1%
9	新聞折込チラシ	12.7%
10	分別講習会や環境出前講座など	1.9%
11	職場、学校、自治会などでの取組（回覧、行事等）	17.1%
12	その他	3.1%
	（無回答）	2.6%

<図IV-18-3>全体



焼却ごみ削減の取組のために参考にしたものについては、「資源物とごみの分け方・出し方（ごみ分別冊子）」が 69.5%で最も高く、次いで「広報紙」が 35.0%、「職場、学校、自治会などでの取組（回覧、行事等）」が 17.1%と続いている。（図IV-18-3）

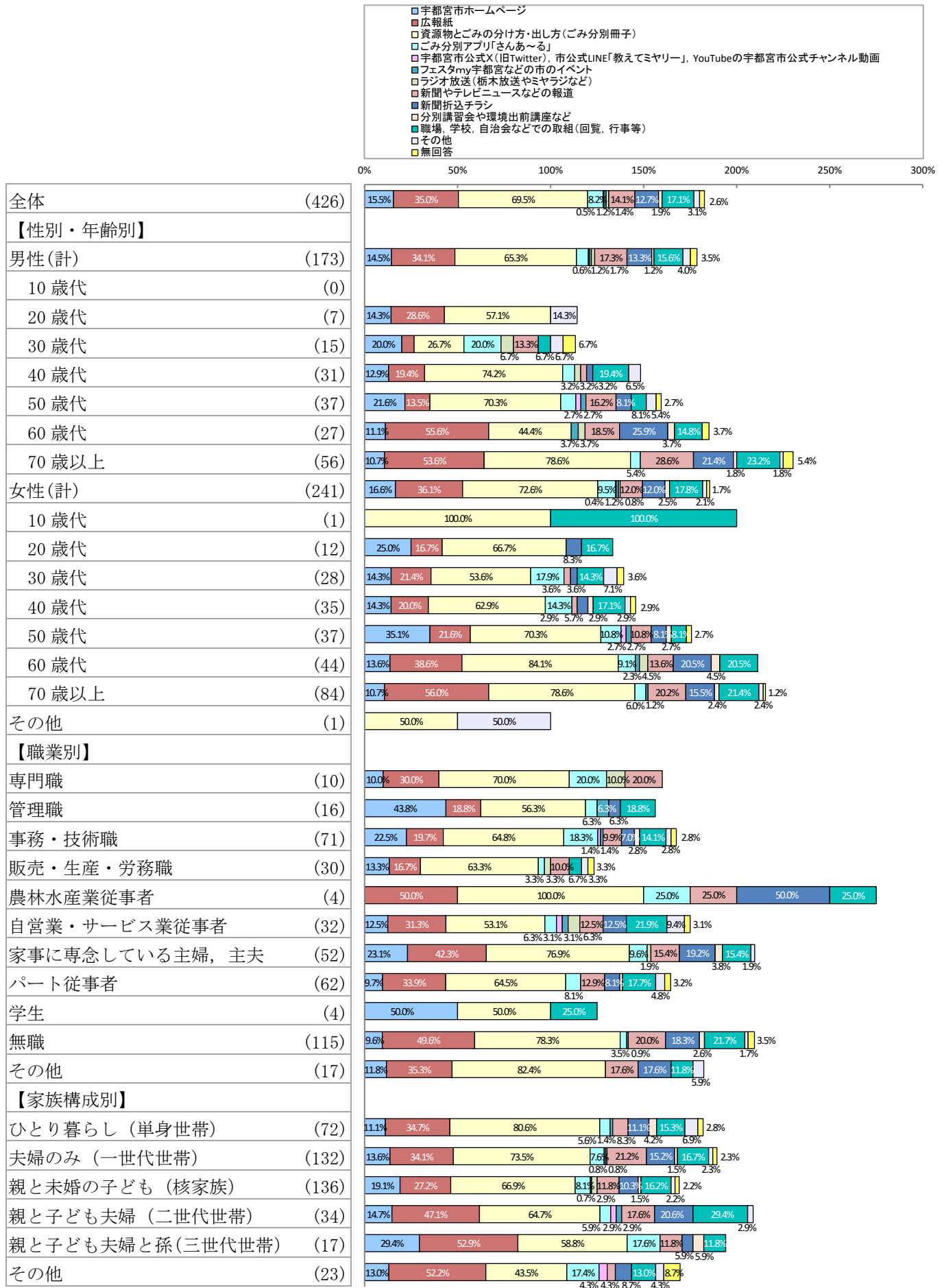
<参考>

性別・年齢別でみると、「資源物とごみの分け方・出し方（ごみ分別冊子）」は<女性/10歳代>が 100.0%、<女性/60歳代>が 84.1%であった。（図IV-18-4）

職業別でみると、「資源物とごみの分け方・出し方（ごみ分別冊子）」は、<その他>を除くと、<農林水産業従事者>が 100.0%、<無職>が 78.3%であった。（図IV-18-4）

家族構成別でみると、「資源物とごみの分け方・出し方（ごみ分別冊子）」は<ひとり暮らし（単身世帯）>が 80.6%、<夫婦のみ（一世代世帯）>が 73.5%であった。（図IV-18-4）

<図IV-18-4>性別・年齢別／職業別／家族構成別



19. シェアリングモビリティの認知度等について

(1) 市役所や宇都宮駅周辺でシェアリングサービスを実施していることの認知度

◇ 「知っているが利用したことはない」が6割弱

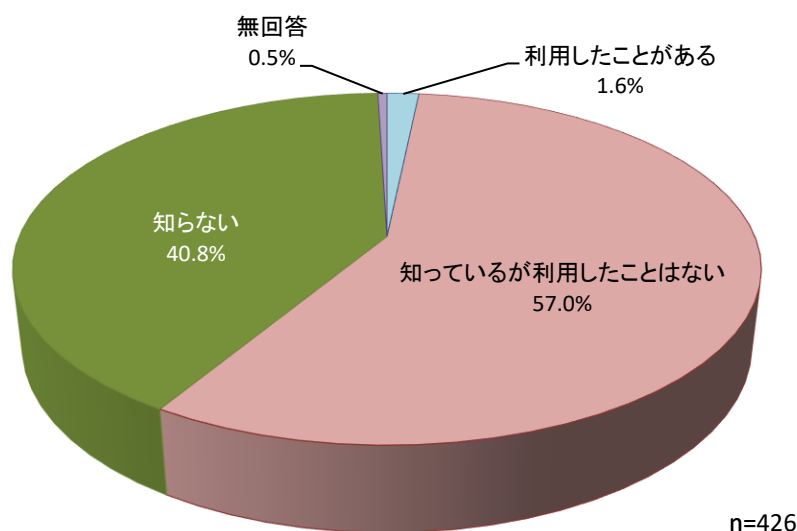
問63 市役所や宇都宮駅周辺で、電動アシスト自転車や電動キックボードのシェアリングサービスを実施していることはご存じですか。

※ 専用ポートに設置してある電動アシスト自転車や電動キックボードをレンタル使用し、目的地周辺にある専用ポートへ返却できるサービス。宇都宮市では市役所や宇都宮駅周辺など街なか
に専用ポートを複数設置し実証実験中。 (〇は1つ)

回答	割合
1 利用したことがある	1.6%
2 知っているが利用したことはない	57.0%
3 知らない	40.8%
(無回答)	0.5%

n=426

<図IV-19-1>全体



市役所や宇都宮駅周辺でシェアリングサービスを実施していることの認知度については、「知っているが利用したことはない」が57.0%で最も高く、次いで「知らない」が40.8%であった。(図IV-19-1)

<参考>

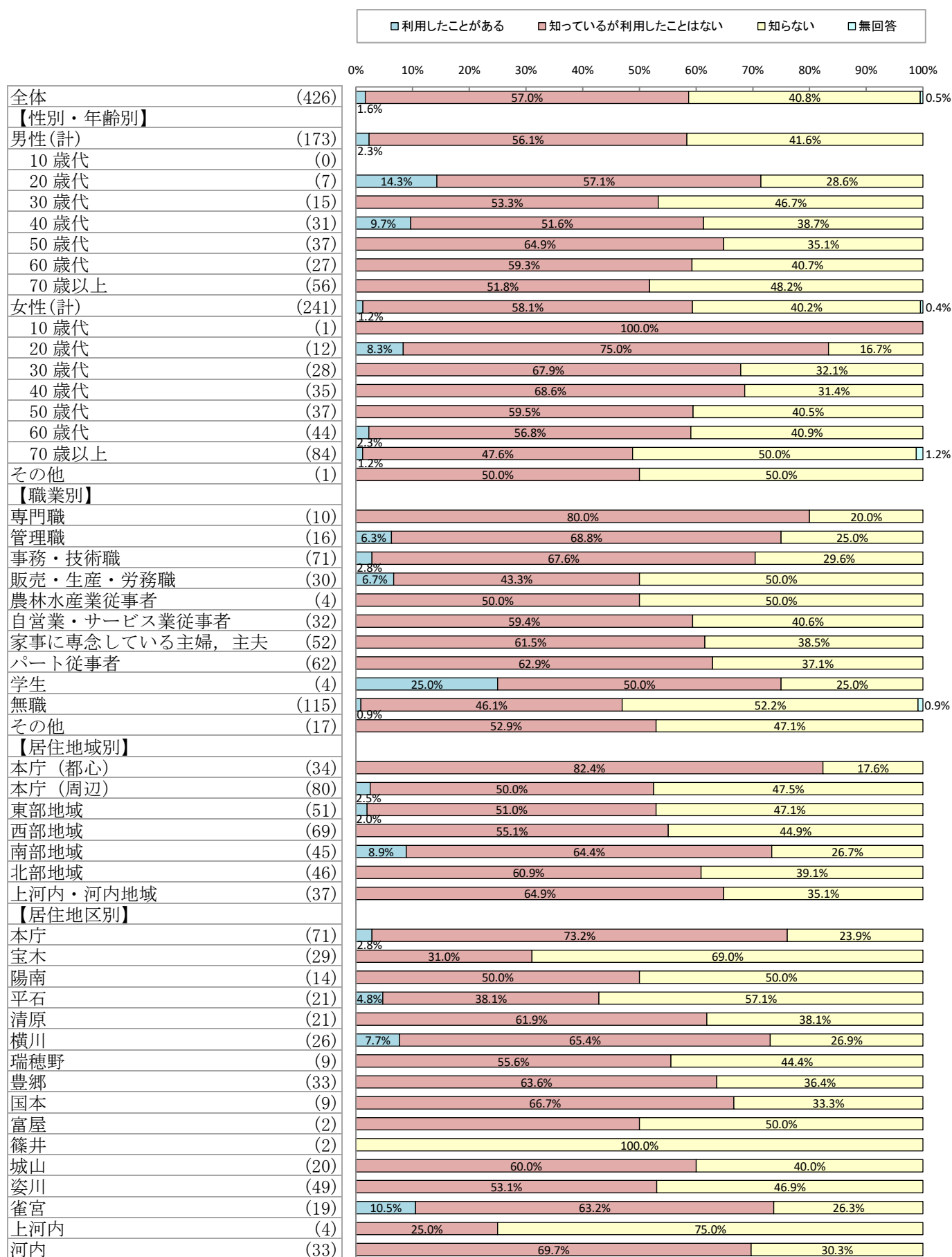
性別・年齢別でみると、「知っているが利用したことはない」は<女性/10歳代>が100.0%、<女性/20歳代>が75.0%であった。「知らない」は<女性/70歳以上>が50.0%、<男性/70歳以上>が48.2%であった。(図IV-19-2)

職業別でみると、「知っているが利用したことはない」は<専門職>が80.0%で最も高く、次いで<管理職>が68.8%であった。「知らない」は<無職>が52.2%で最も高く、次いで<販売・生産・労務職><農林水産業従事者>がともに50.0%であった。(図IV-19-2)

居住地域別でみると、「知っているが利用したことはない」は<本庁(都心)>が82.4%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が64.9%であった。「知らない」は<本庁(周辺)>が47.5%で最も高く、次いで<東部地域>が47.1%であった。(図IV-19-2)

居住地区別でみると、「知っているが利用したことはない」は<本庁>が73.2%、<河内>が69.7%であった。「知らない」は<篠井>が100.0%、<上河内>が75.0%であった。(図IV-19-2)

<図IV-19-2>性別・年齢別／職業別／居住地域・地区別

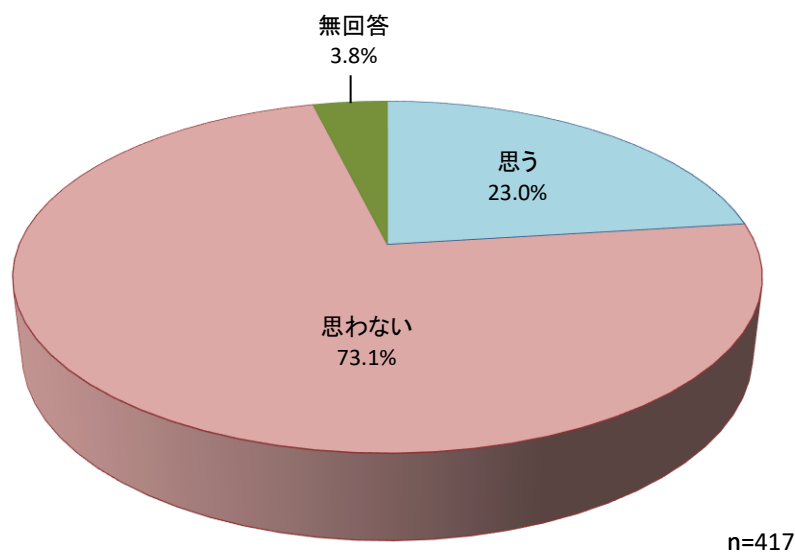


(2) シェアリングサービスを利用してみたいか

◇ 「思わない」が7割強

問6 4	問6 3 「2 知っているが利用したことはない」「3 知らない」を選択した方にお聞きします。 シェアリングサービスを利用してみたいと思いますか。	(○は1つ)
		n=417
1	思う	23.0%
2	思わない	73.1%
	(無回答)	3.8%

<図IV-19-3>全体



シェアリングサービスを利用してみたいかについては、「思わない」が73.1%であった。一方、「思う」は23.0%であった。(図IV-19-3)

<参考>

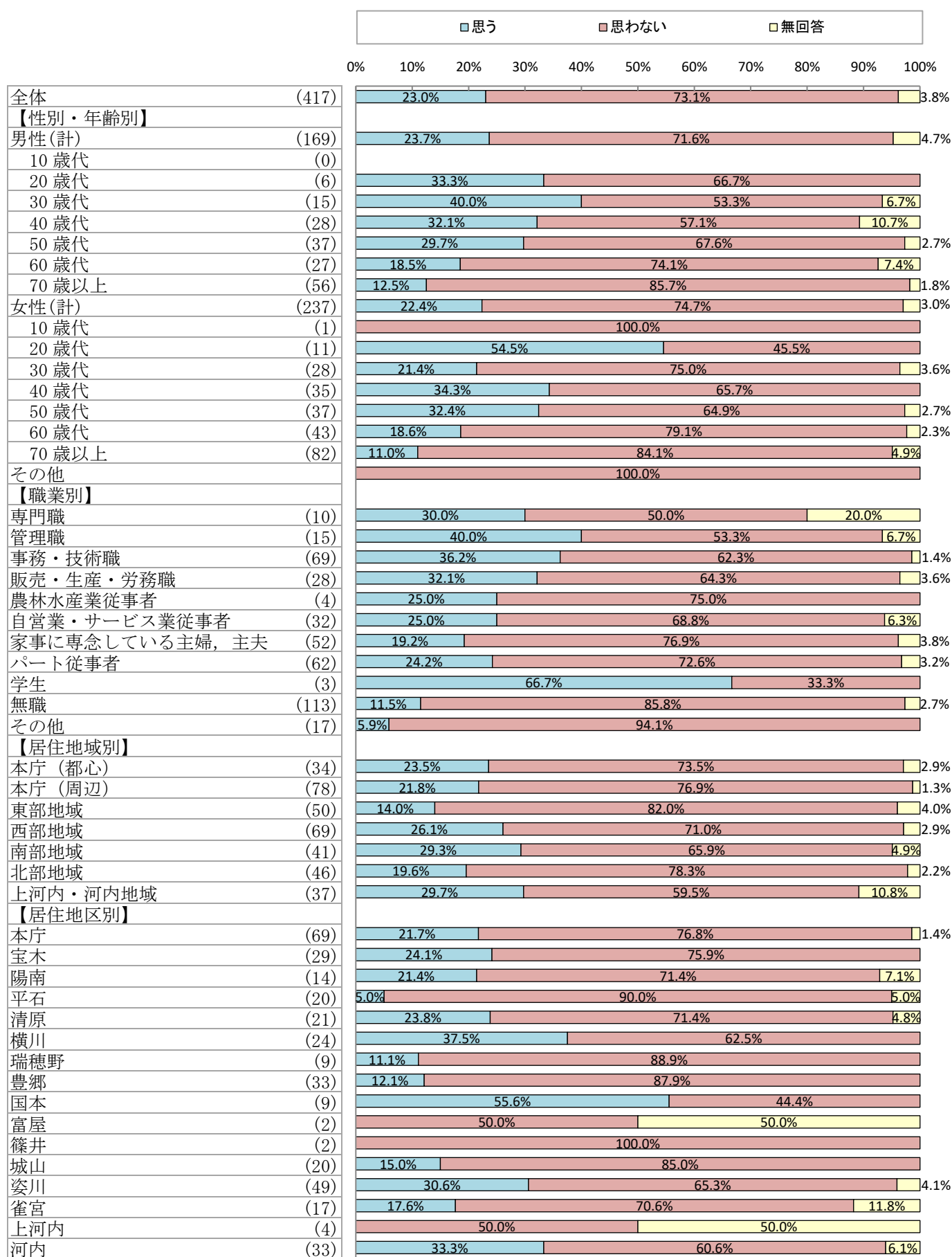
性別・年齢別でみると、「思わない」は<女性/10歳代>が100.0%、<女性/70歳以上>が84.1%であった。「思う」は<女性/20歳代>が54.5%、<男性/30歳代>が40.0%であった。(図IV-19-4)

職業別でみると、「思わない」は、<その他>を除くと、<無職>が85.8%で最も高く、次いで<農林水産業従事者>が75.0%であった。「思う」は<学生>が66.7%で最も高く、次いで<管理職>が40.0%であった。(図IV-19-4)

居住地域別でみると、「思わない」は<東部地域>が82.0%で最も高く、次いで<北部地域>が78.3%であった。「思う」は<上河内・河内地域>が29.7%で最も高く、次いで<南部地域>が29.3%であった。(図IV-19-4)

居住地区別でみると、「思わない」は<篠井>が10.0%、<平石>が90.0%であった。「思う」は<国本>が55.6%で、<横川>が37.5%であった。(図IV-19-4)

<図IV-19-4>性別・年齢別／職業別／居住地域・地区別

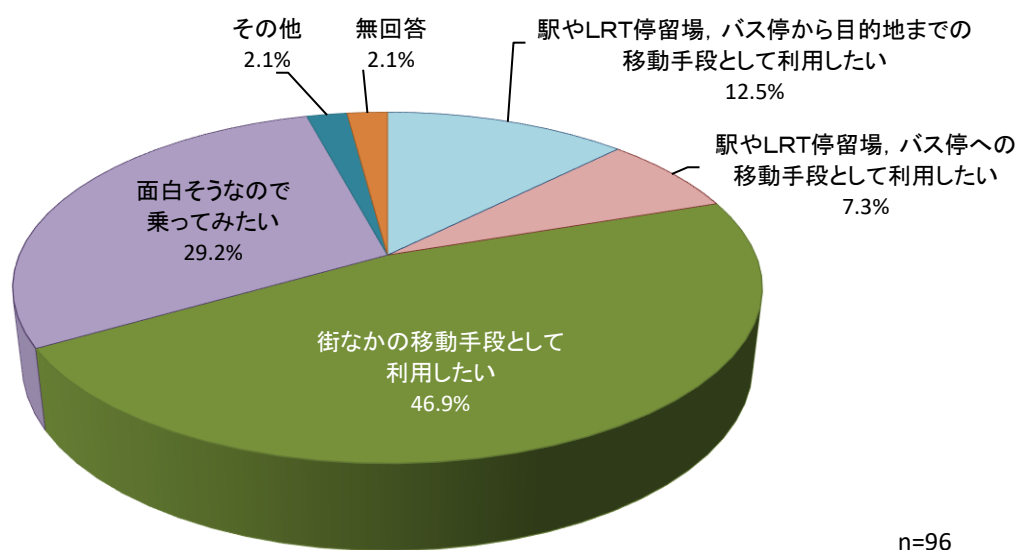


(3) シェアリングサービスを利用してみたい理由

◇ 「街なかの移動手段として利用したい」が5割弱

問65	問64「1 思う」を選択した方にお聞きします。その主な理由はなんですか。(○は1つ)	n=96
1	駅やLRT停留場、バス停から目的地までの移動手段として利用したい	12.5%
2	駅やLRT停留場、バス停への移動手段として利用したい	7.3%
3	街なかの移動手段として利用したい	46.9%
4	面白そうなので乗ってみたい	29.2%
5	その他	2.1%
	(無回答)	2.1%

<図IV-19-5>全体



シェアリングサービスを利用してみたい理由については、「街なかの移動手段として利用したい」が46.9%で最も高く、次いで「面白そうなので乗ってみたい」が29.2%、「駅やLRT停留場、バス停から目的地までの移動手段として利用したい」が12.5%と続いている。(図IV-18-5)

<参考>

性別・年齢別でみると、「街なかの移動手段として利用したい」は<男性/70歳以上>が85.7%、<女性/30歳代>が66.7%であった。「面白そうなので乗ってみたい」は<男性/60歳代>が60.0%、<男性/20歳代><女性/20歳代>がともに50.0%であった。(図IV-19-6)

職業別でみると、「街なかの移動手段として利用したい」は<農林水産業従事者>が100.0%、<専門職>が66.7%であった。「面白そうなので乗ってみたい」は、<その他>を除くと、<学生>が50.0%、<事務・技術職><家事に専念している主婦、主夫>がともに40.0%であった。(図IV-19-6)

居住地域別でみると、「街なかの移動手段として利用したい」は<本庁(都心)>が62.5%で最も高く、次いで<南部地域>が58.3%であった。「面白そうなので乗ってみたい」は<北部地域>が44.4%で最も高く、次いで<東部地域>が42.9%であった。(図IV-19-6)

居住地区別でみると、「街なかの移動手段として利用したい」は<瑞穂野>が100.0%、<雀宮>が66.7%であった。「面白そうなので乗ってみたい」は<平石>が100.0%、<陽南>が66.7%であった。(図IV-19-6)

<図IV-19-6>性別・年齢別／職業別／居住地域・地区別

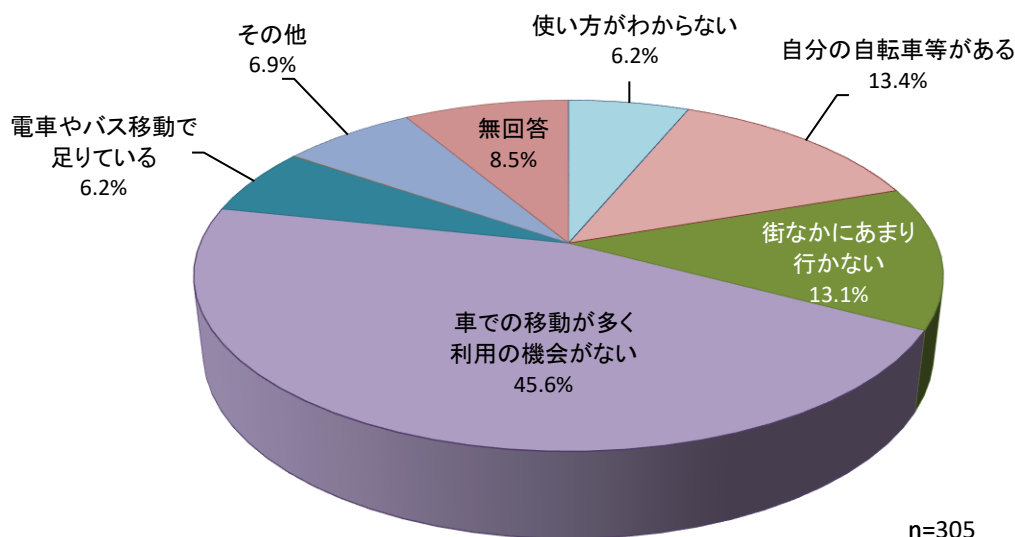


(4) シェアリングサービスを利用したくない理由

◇ 「車での移動が多く利用の機会がない」が4割半ば

問 6 6	問 6 4 「2 思わない」を選択した方にお聞きします。その主な理由はなんですか。	(○は1つ)
		n=305
1	使い方がわからない	6.2%
2	自分の自転車等がある	13.4%
3	街なかにあまり行かない	13.1%
4	車での移動が多く利用の機会がない	45.6%
5	電車やバス移動で足りている	6.2%
6	市営駐輪場のレンタサイクルを利用しているため	0.0%
7	その他	6.9%
	(無回答)	8.5%

<図IV-19-7>全体



シェアリングサービスを利用したくない理由については、「車での移動が多く利用の機会がない」が45.6%で最も高く、次いで「自分の自転車等がある」が13.4%、「街なかにあまり行かない」が13.1%と続いている。(図IV-18-7)

<参考>

性別・年齢別でみると、「車での移動が多く利用の機会がない」は<女性/20歳代>が80.0%、<女性/30歳代>が52.4%であった。「自分の自転車等がある」は<男性/60歳代><女性/20歳代>がともに20.0%、<男性/70歳以上>が18.8%であった。(図IV-19-8)

職業別でみると、「車での移動が多く利用の機会がない」は<専門職>が80.0%で最も高く、次いで<管理職>が75.0%であった。「自分の自転車等がある」は<パート従事者>が15.6%で最も高く、次いで<無職>が15.5%であった。(図IV-19-8)

居住地域別でみると、「車での移動が多く利用の機会がない」は<北部地域>が66.7%で最も高く、次いで<東部地域>が53.7%であった。「自分の自転車等がある」は<本庁(都心)>が32.0%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が25.0%であった。(図IV-19-8)

居住地区別でみると、「車での移動が多く利用の機会がない」は<篠井>が100.0%、<国本>が75.0%であった。「自分の自転車等がある」は<本庁>が34.0%、<宝木>が22.7%であった。(図IV-19-8)

<図IV-19-8>性別・年齢別／職業別／居住地域・地区別

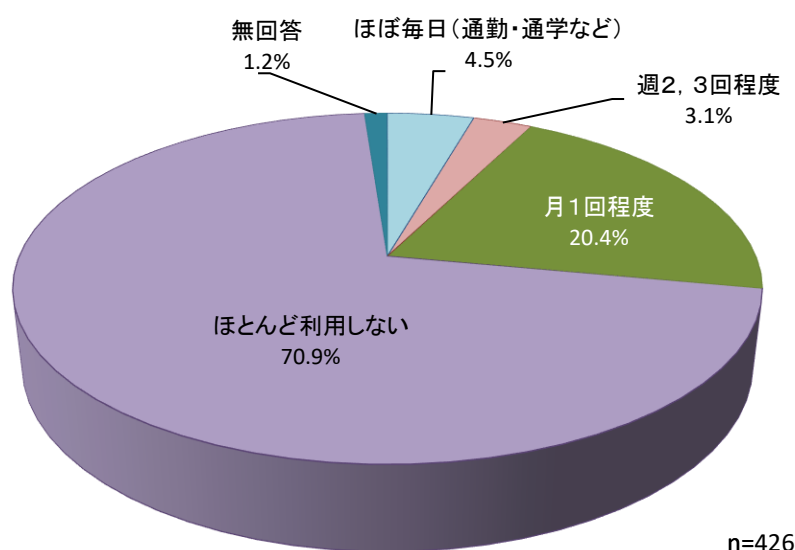


(5) 普段の公共交通（電車やバス）の利用頻度

◇ 「ほとんど利用しない」が約7割

問67 普段の公共交通（電車やバス）の利用頻度はどの程度ですか。		(○は1つ)
		n=426
1	ほぼ毎日（通勤・通学など）	4.5%
2	週2, 3回程度	3.1%
3	月1回程度	20.4%
4	ほとんど利用しない	70.9%
	（無回答）	1.2%

<図IV-19-9>全体



普段の公共交通（電車やバス）の利用頻度については、「ほとんど利用しない」が70.9%で最も高く、次いで「月1回程度」が20.4%であった。（図IV-19-9）

<参考>

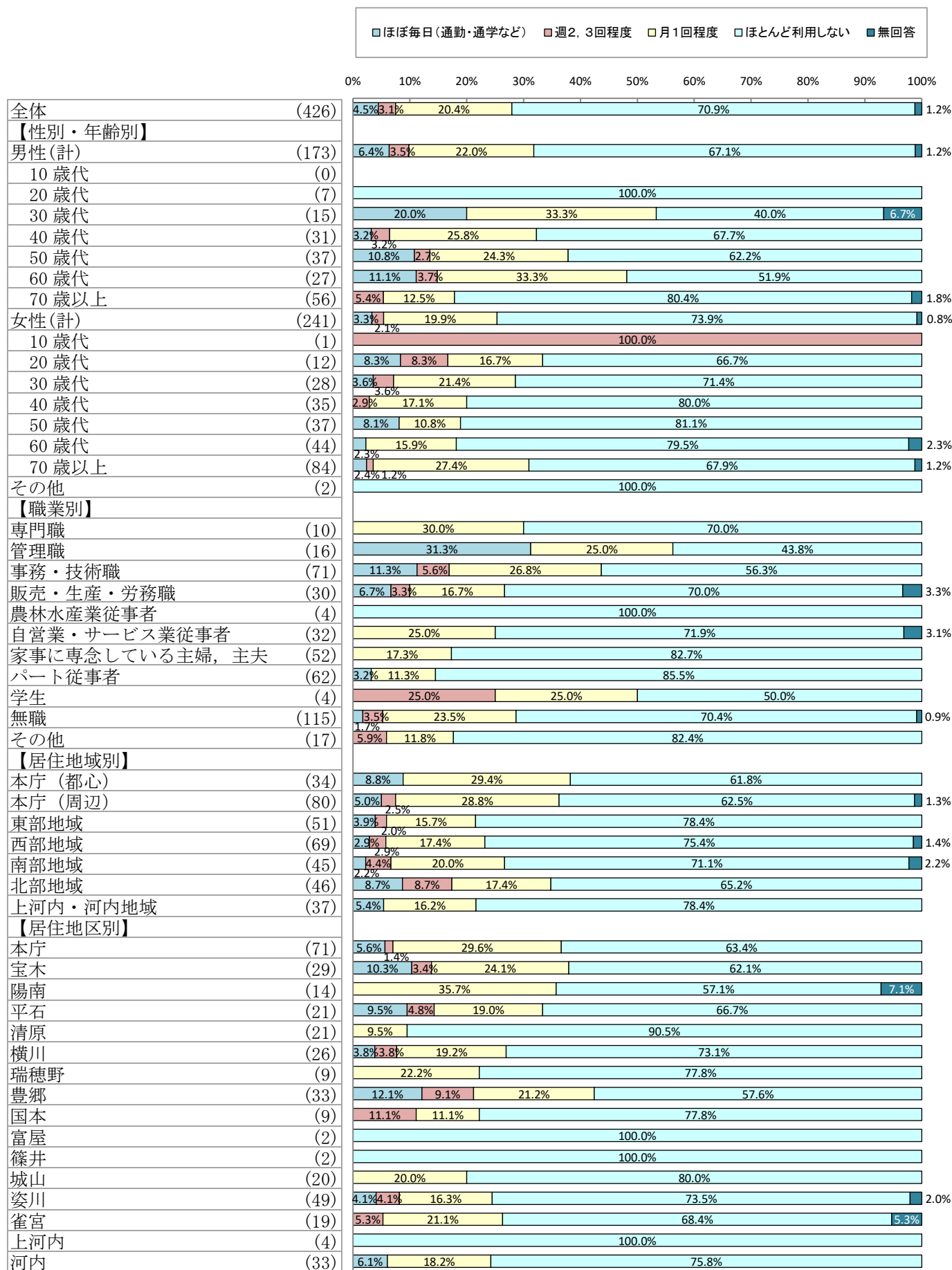
性別・年齢別でみると、「ほとんど利用しない」は<男性/20歳代>が100.0%、<女性/50歳代>が81.1%であった。「月1回程度」は<男性/30歳代><男性/60歳代>がともに33.3%、<女性/70歳以上>が27.4%であった。（図IV-19-10）

職業別でみると、「ほとんど利用しない」は<農林水産業従事者>が100.0%、<パート従事者>が85.5%であった。「月1回程度」は<専門職>が30.0%、<事務・技術職>が26.8%であった。（図IV-19-10）

居住地域別でみると、「ほとんど利用しない」は<東部地域><上河内・河内地域>がともに78.4%で最も高く、次いで<西部地域>が75.4%であった。「月1回程度」は<本庁（都心）>が29.4%で最も高く、次いで<本庁（周辺）>が28.8%であった。（図IV-19-10）

居住地区別でみると、「ほとんど利用しない」は<富屋><篠井><上河内>がともに100.0%、<清原>が90.5%であった。「月1回程度」は<陽南>が35.7%、<本庁>が29.6%であった。（図IV-19-10）

<図IV-19-10>性別・年齢別／職業別／居住地域・地区別



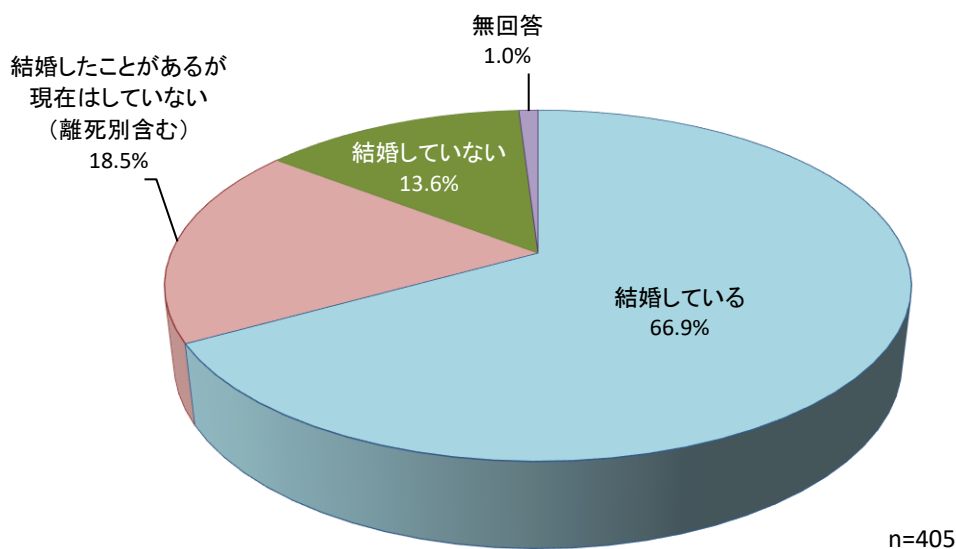
20. 結婚・出産・子育てに関する意識について

(1) 結婚しているか

◇ 「結婚している」が7割弱

問68	あなたは結婚していますか。	(○は1つ)
		n=405
1	結婚している	66.9%
2	結婚したことがあるが現在はしていない(離死別含む)	18.5%
3	結婚していない	13.6%
	(無回答)	1.0%

<図IV-20-1>全体



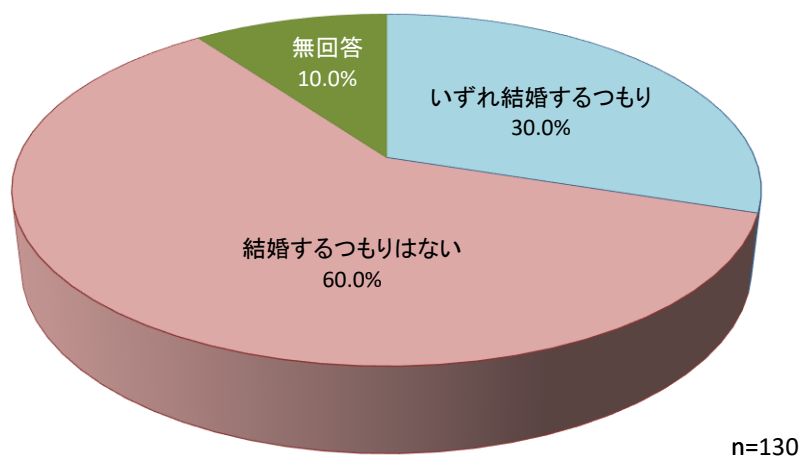
結婚しているかについては、「結婚している」が66.9%で最も高く、次いで「結婚したことがあるが現在はしていない(離死別含む)」が18.5%、「結婚していない」が13.6%であった。(図IV-20-1)

(2) 結婚するつもりがあるか

◇ 「結婚するつもりはない」が約6割

問69	問68で「2 結婚したことがあるが現在はしていない(離死別含む)」「3 結婚していない」と答えた方にお伺いします。あなたの結婚に対する考えは、次のうちどちらですか。(○は1つ)	n=130
1	いずれ結婚するつもり	30.0%
2	結婚するつもりはない (無回答)	60.0%
		10.0%

<図IV-20-2>全体



結婚するつもりがあるかについては、「結婚するつもりはない」が60.0%であった。一方、「いずれ結婚するつもり」は30.0%であった。(図IV-20-2)

(3) 結婚している場合、全部で何人のお子さんをもちたいか

◇ 「2人」が5割半ば

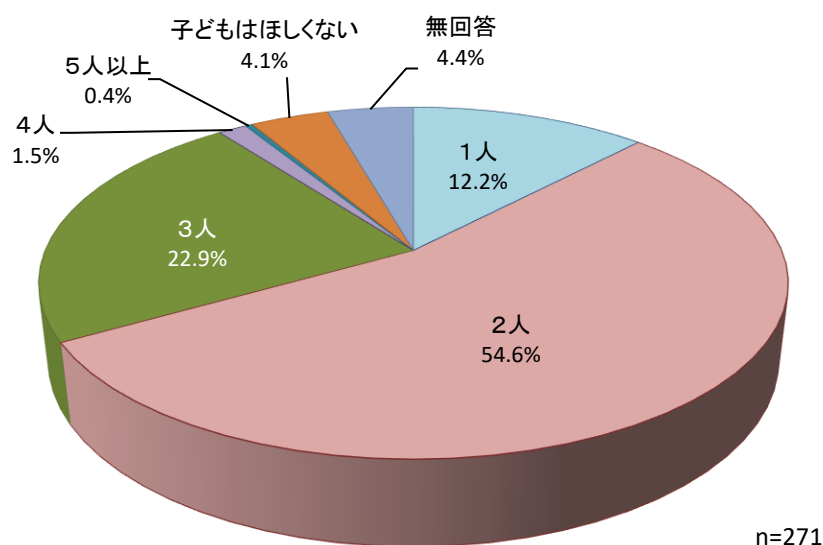
問70 問68で「1 結婚している」と答えた方にお伺いします。「これまでに生んだお子さん」と「今後のお子さんの予定」の数を合わせて、全部で何人のお子さんを持つおつもりですか。

(○は1つ)

n=271

1	1人	12.2%
2	2人	54.6%
3	3人	22.9%
4	4人	1.5%
5	5人以上 (人)	0.4%
6	子どもはほしくない (無回答)	4.1% 4.4%

<図IV-20-3>全体



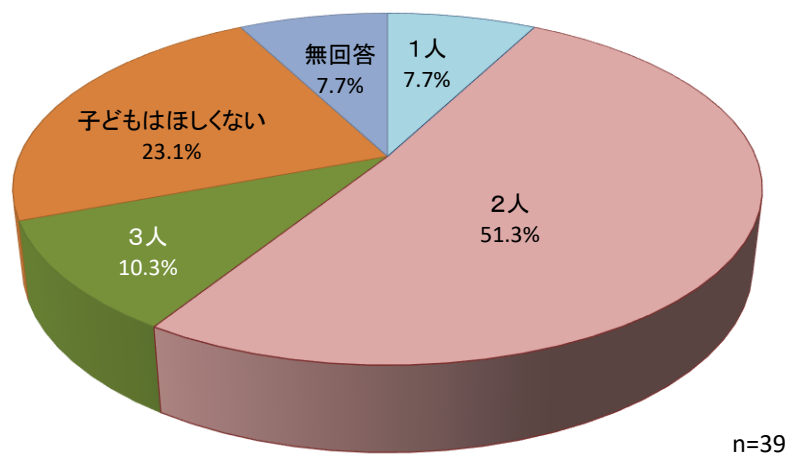
結婚している場合、全部で何人のお子さんをもちたいかについては、「2人」が54.6%で最も高く、次いで「3人」が22.9%、「1人」が12.2%と続いている。なお、「5人以上」では「8人」という回答があった。(図IV-20-3)

(4) 結婚を予定している場合、子どもは何人ほしいか

◇ 「2人」が約5割

問7 1	問6 9で「1 いずれ結婚するつもり」と答えた方にお伺いします。子どもは何人ほしいですか。	(〇は1つ)
		n=39
1	1人	7.7%
2	2人	51.3%
3	3人	10.3%
4	4人	0.0%
5	5人以上 (人)	0.0%
6	子どもはほしくない (無回答)	23.1% 7.7%

<図IV-20-4>全体



結婚を予定している場合、子どもは何人ほしいかについては、「2人」が51.3%で最も高く、次いで「子どもはほしくない」が23.1%、「3人」が10.3%と続いている。(図IV-20-4)

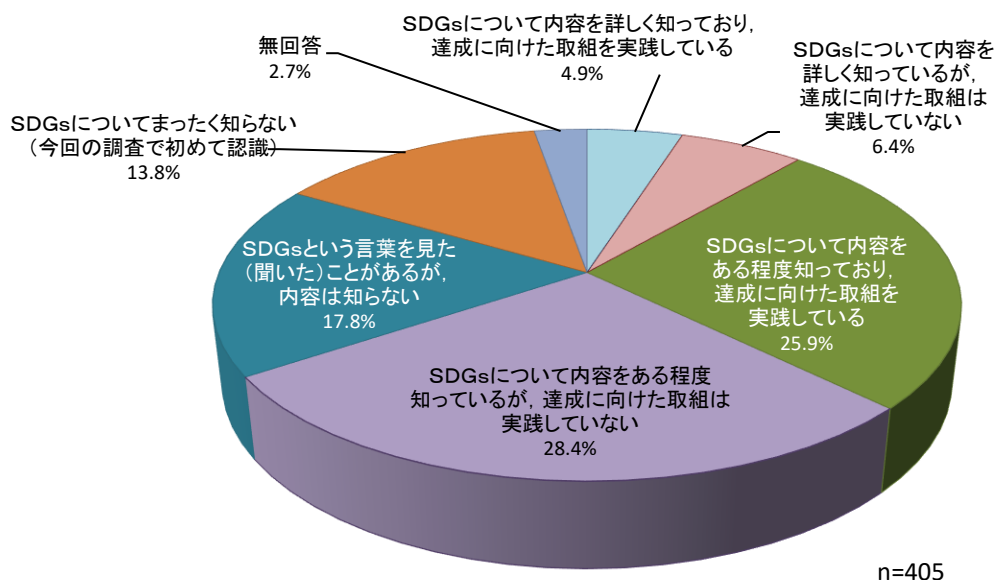
2 1. 「SDGs (エス・ディー・ジーズ)」について

(1) SDGs についての認知度

◇ 「SDGs について内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」が3割弱

問72	あなたはSDGs (エス・ディー・ジーズ) について、どの程度知っていますか。(○は1つ)	n=405
1	SDGs について内容を詳しく知っており、達成に向けた取組を実践している	4.9%
2	SDGs について内容を詳しく知っているが、達成に向けた取組は実践していない	6.4%
3	SDGs について内容をある程度知っており、達成に向けた取組を実践している	25.9%
4	SDGs について内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない	28.4%
5	SDGs という言葉を見た(聞いた)ことがあるが、内容は知らない	17.8%
6	SDGs についてまったく知らない(今回の調査で初めて認識) (無回答)	13.8% 2.7%

<図IV-21-1>全体



SDGs についてのどの程度知っているかについては、「SDGs について内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」が 28.4%で最も高く、次いで「SDGs について内容をある程度知っており、達成に向けた取組を実践している」が 25.9%、「SDGs という言葉を見た(聞いた)ことがあるが、内容は知らない」が 17.8%と続いている。(図IV-21-1)

<参考>

年齢別でみると、「SDGs について内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」は<40歳代>が 41.4%で最も高かった。(図IV-21-2)

性別・年齢別でみると、「SDGs について内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」は<その他>を除くと<男性/40歳代>が 52.4%で最も高かった。(図IV-21-2)

職業別でみると、「SDGs について内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」は<学生>が 42.9%で最も高かった。(図IV-21-2)

家族構成別でみると、「SDGs について内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が 33.3%で最も高かった。(図IV-21-2)

<図IV-21-2>性別・年齢別／職業別／家族構成別

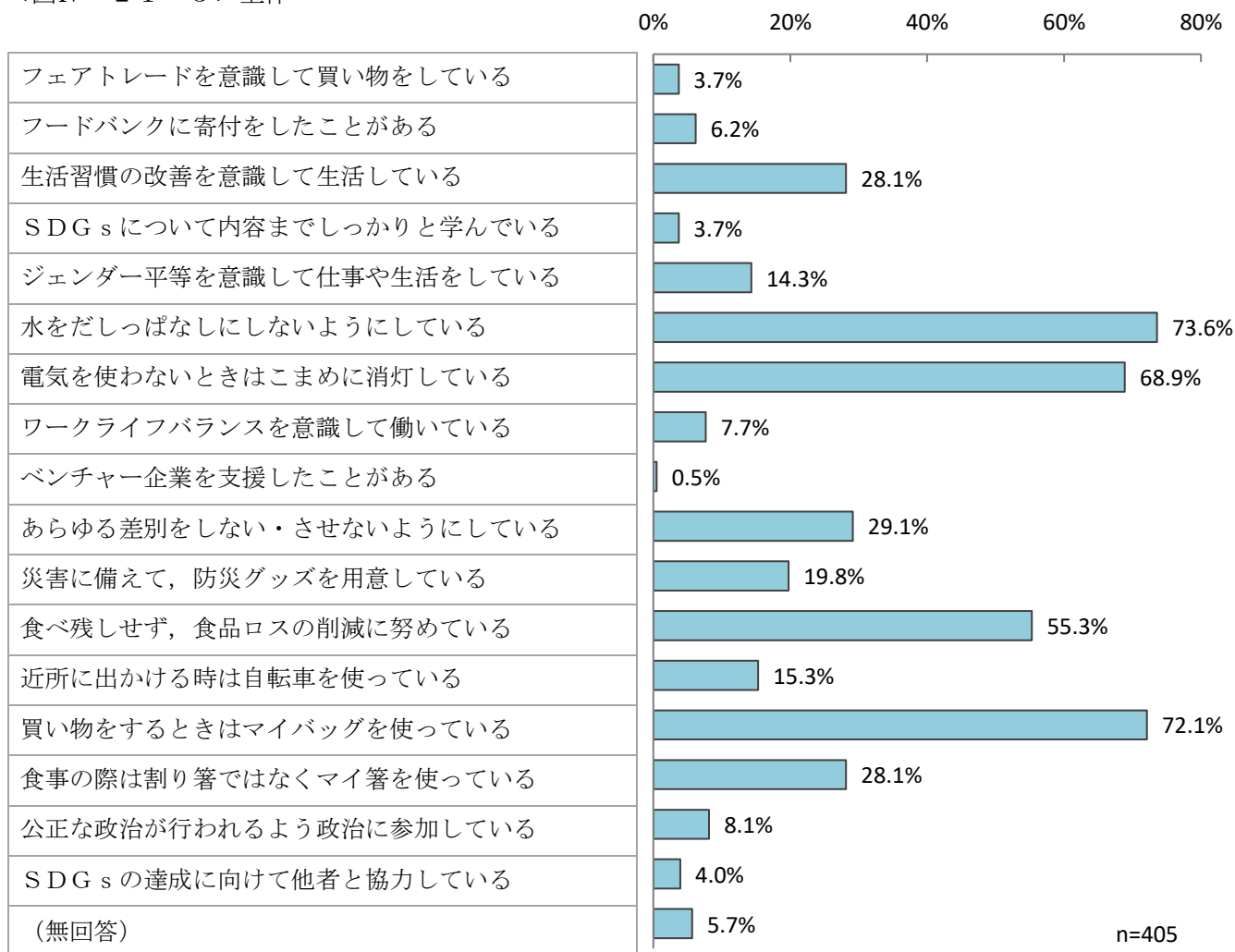


(2) SDGsにつながる行動の中で、日頃から取り組んでいるもの

◇ 「水をだしっぱなしにしないようにしている」が7割半ば

問73 以下のSDGsにつながる行動の中で、日頃から取り組んでいるものをお答えください。		(〇はいくつでも)
		n=405
1	フェアトレード(※1)を意識して買い物をしている	3.7%
2	フードバンクに寄付をしたことがある	6.2%
3	生活習慣の改善を意識して生活している	28.1%
4	SDGsについて内容までしっかりと学んでいる	3.7%
5	ジェンダー平等を意識して仕事や生活をしている	14.3%
6	水をだしっぱなしにしないようにしている	73.6%
7	電気を使わないときはこまめに消灯している	68.9%
8	ワークライフバランスを意識して働いている	7.7%
9	ベンチャー企業(※2)を支援したことがある	0.5%
10	あらゆる差別をしない・させないようにしている	29.1%
11	災害に備えて、防災グッズを用意している	19.8%
12	食べ残しせず、食品ロスの削減に努めている	55.3%
13	近所に出かける時は自転車を使っている	15.3%
14	買い物をするときはマイバッグを使っている	72.1%
15	食事の際は割り箸ではなくマイ箸を使っている	28.1%
16	公正な政治が行われるよう政治に参加している	8.1%
17	SDGsの達成に向けて他者と協力している	4.0%
	(無回答)	5.7%
	※1 主に発展途上国から原料や製品を適正な値段で継続的に購入し、生産者の待遇改善と自立を目指すしくみ	
	※2 革新的な技術をもとに新規事業に取り組むため、設立された企業	

<図IV-21-3>全体



SDGsにつながる行動の中で、日頃から取り組んでいるものについては、「水をだしっぱなしにしないようにしている」が73.6%で最も高く、次いで「買い物をするときはマイバッグを使っている」が72.1%、「電気を使わないときはこまめに消灯している」が68.9%と続いている。(図IV-21-3)

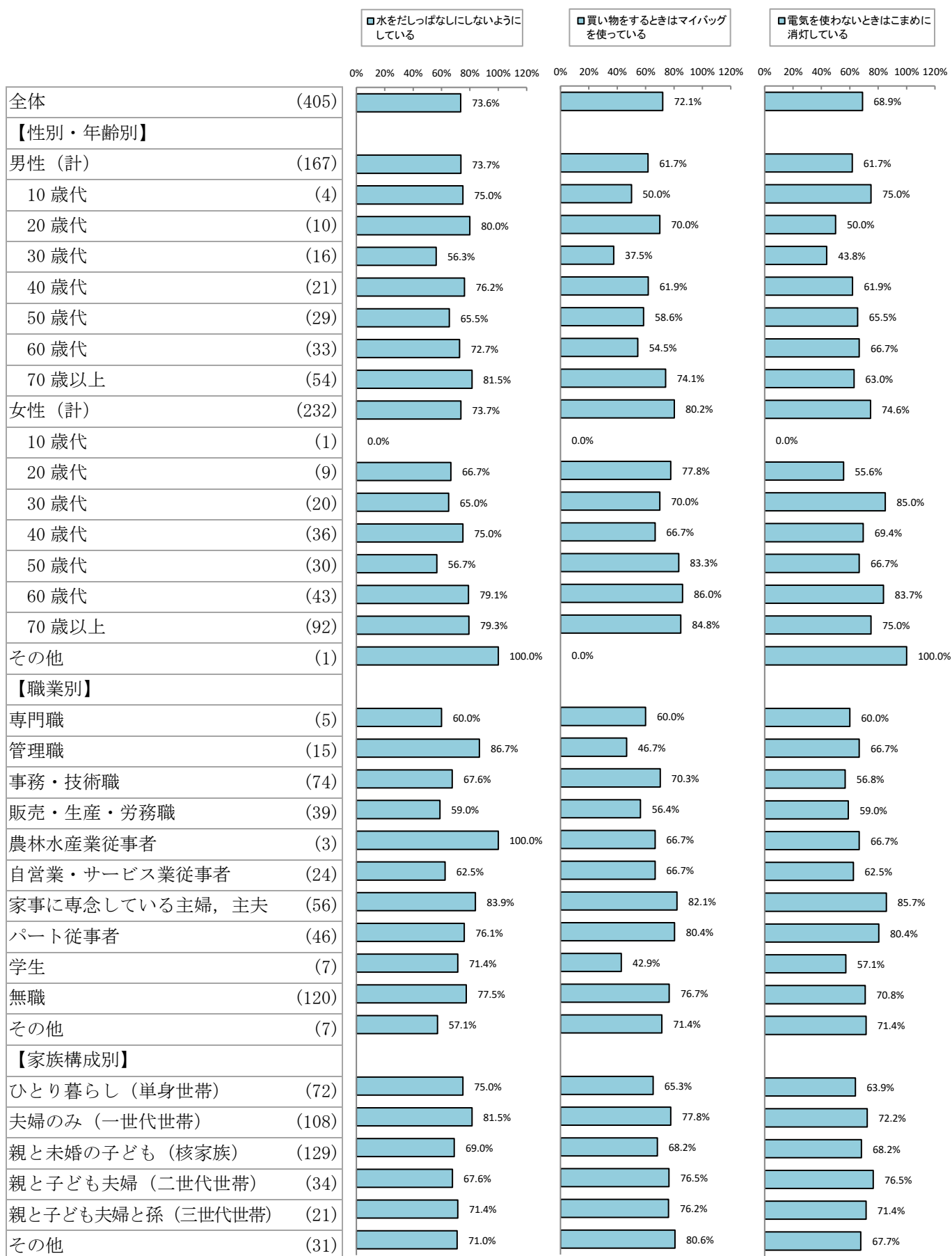
<参考>

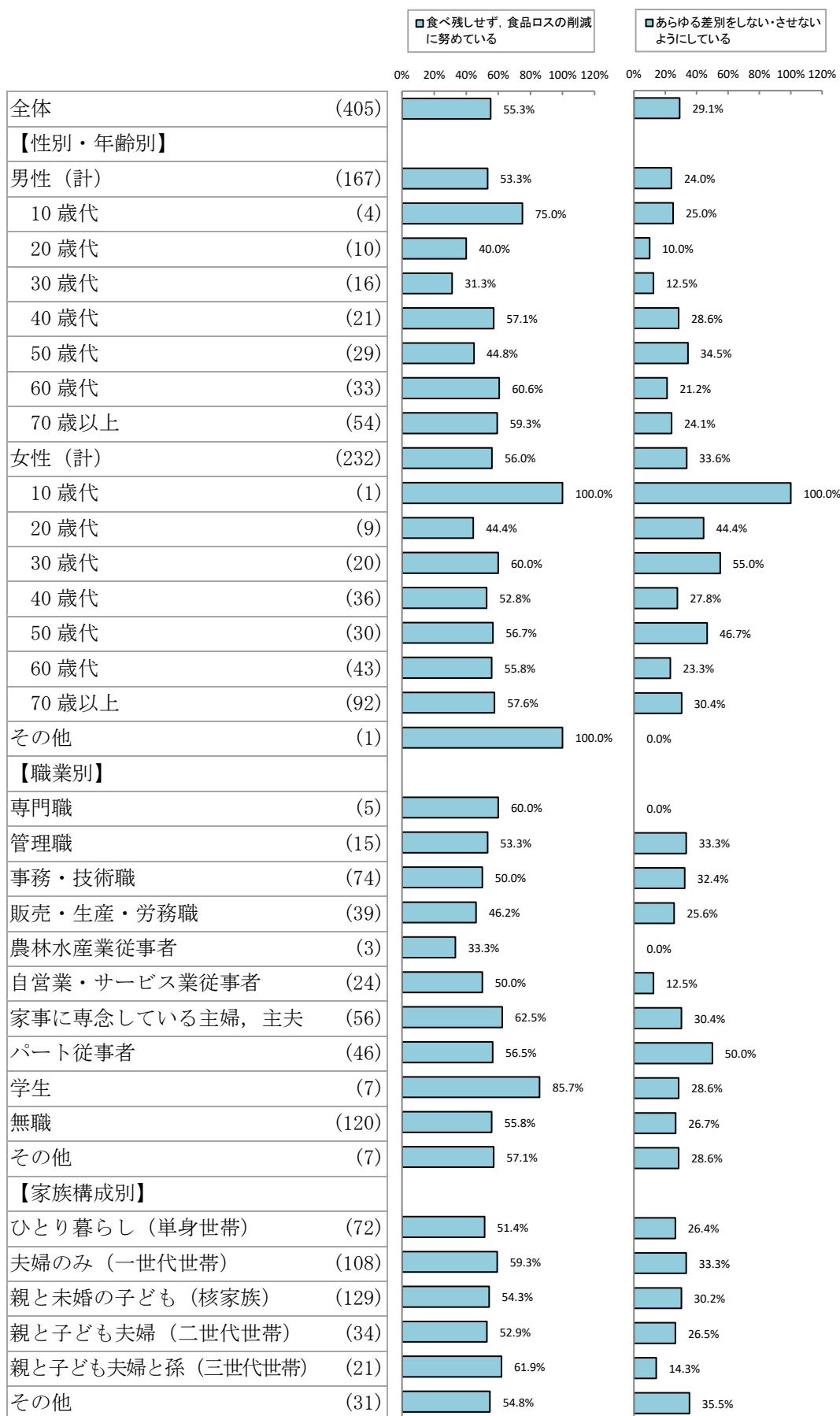
性別・年齢別でみると、「水をだしっぱなしにしないようにしている」は<その他>を除くと、<男性/70歳以上>が81.5%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が80.0%であった。「買い物をするときはマイバッグを使っている」は<女性/60歳代>が86.0%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が84.8%であった。(図IV-21-4)

職業別でみると、「水をだしっぱなしにしないようにしている」は<農林水産業従事者>が100.0%、<管理職>が86.7%であった。「買い物をするときはマイバッグを使っている」は<家事に専念している主婦、主夫>が82.1%、<パート従事者>が80.4%であった。(図IV-21-4)

家族構成別でみると、「水をだしっぱなしにしないようにしている」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が81.5%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が75.0%であった。「買い物をするときはマイバッグを使っている」は<その他>を除くと、<夫婦のみ(一世代世帯)>が77.8%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が76.5%であった。(図IV-21-4)

<図IV-21-4>性別・年齢別／職業別／家族構成別（上位5項目）



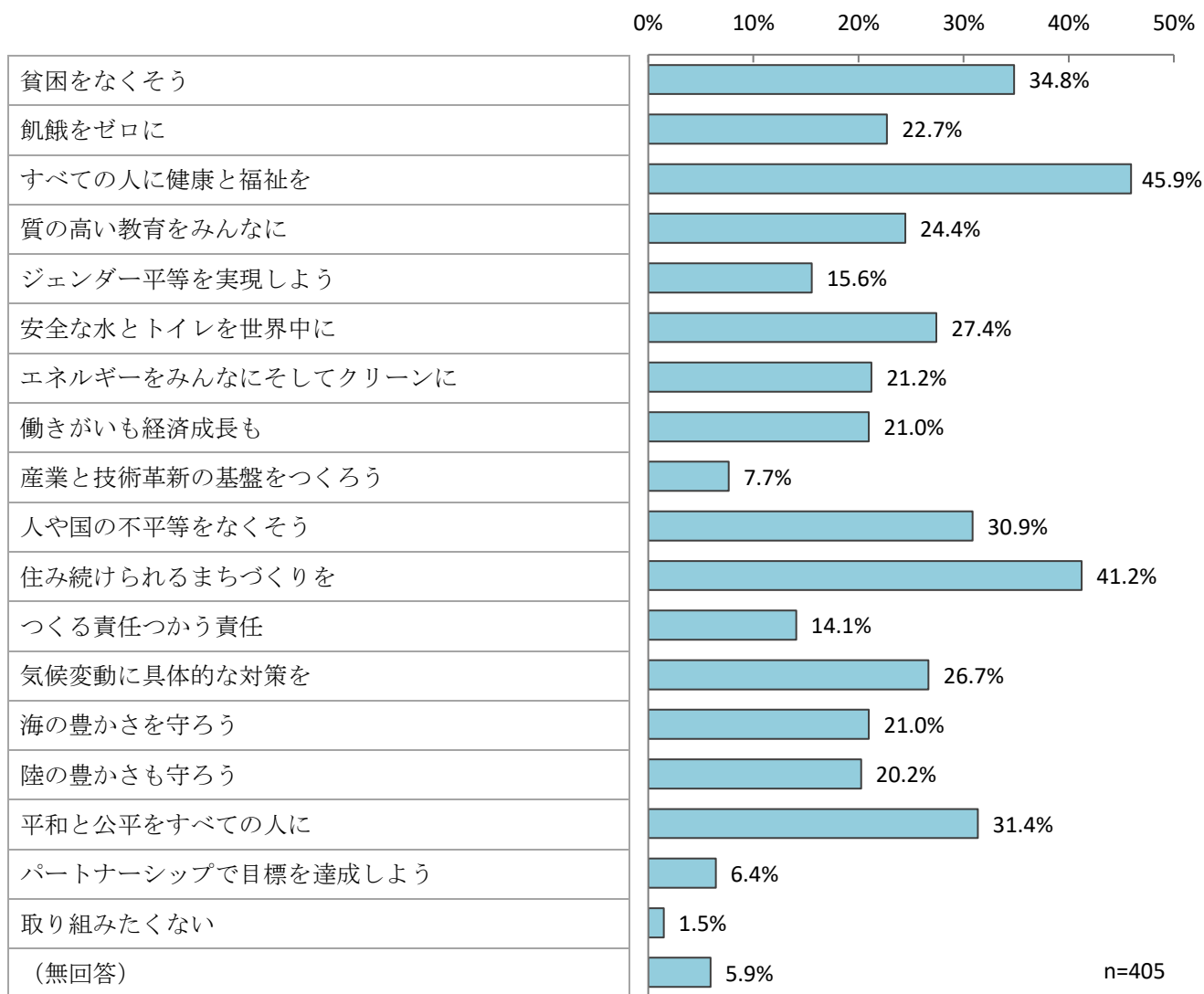


(3) SDGsのゴールの中で、積極的に取り組みたい分野

◇ 「すべての人に健康と福祉を」が4割半ば

問74 SDGsのゴールの中で、積極的に取り組みたい分野をお答えください。(〇はいくつでも)		n=405
1	貧困をなくそう	34.8%
2	飢餓をゼロに	22.7%
3	すべての人に健康と福祉を	45.9%
4	質の高い教育をみんなに	24.4%
5	ジェンダー平等を実現しよう	15.6%
6	安全な水とトイレを世界中に	27.4%
7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	21.2%
8	働きがいも経済成長も	21.0%
9	産業と技術革新の基盤をつくろう	7.7%
10	人や国の不平等をなくそう	30.9%
11	住み続けられるまちづくりを	41.2%
12	つくる責任つかう責任	14.1%
13	気候変動に具体的な対策を	26.7%
14	海の豊かさを守ろう	21.0%
15	陸の豊かさも守ろう	20.2%
16	平和と公平をすべての人に	31.4%
17	パートナーシップで目標を達成しよう	6.4%
18	取り組みたくない	1.5%
	(無回答)	5.9%

<図IV-21-5>全体



SDGsのゴールの中で、積極的に取り組みたい分野については、「すべての人に健康と福祉を」が45.9%で最も高く、次いで「住み続けられるまちづくりを」が41.2%、「貧困をなくそう」が34.8%と続いている。(図IV-21-5)

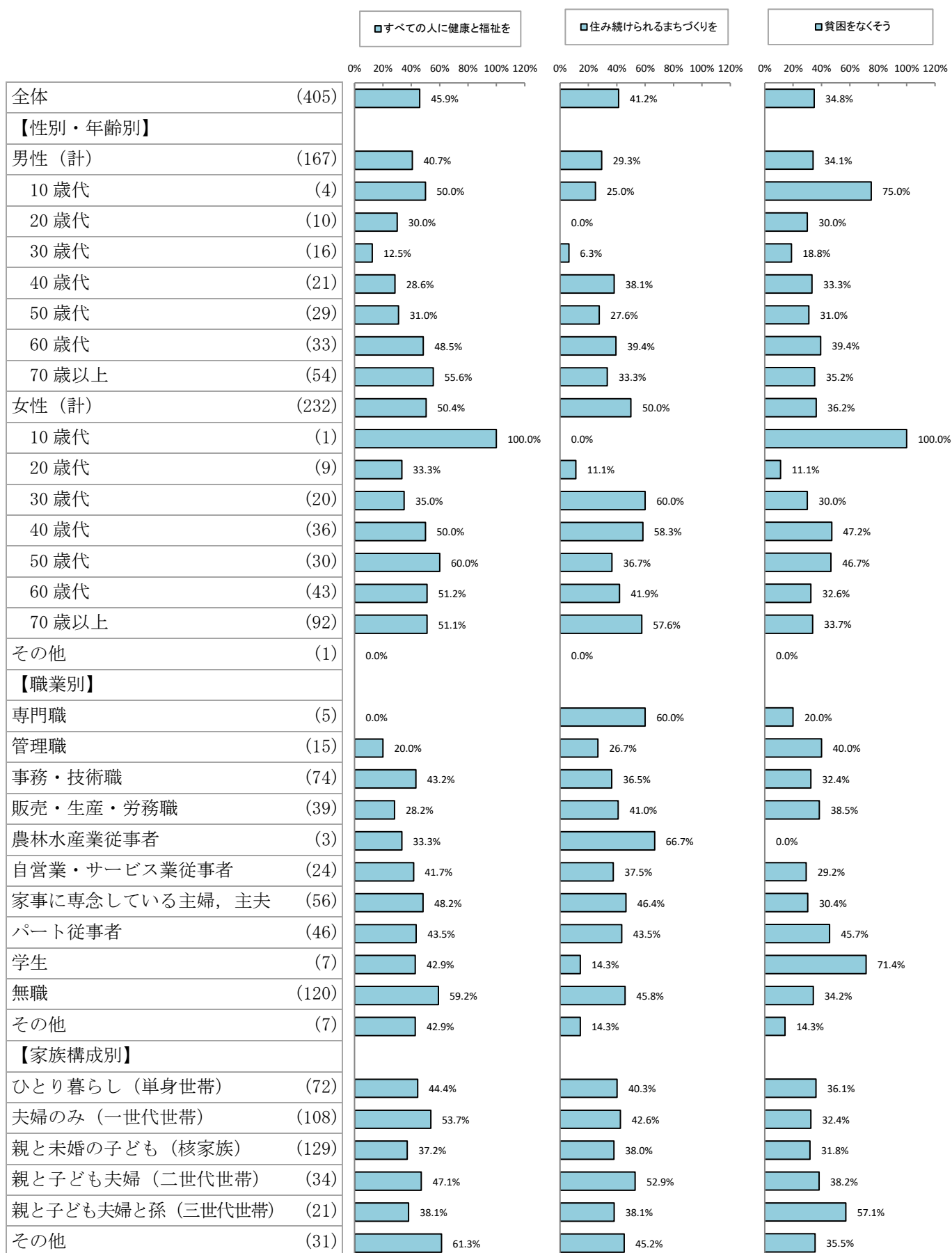
<参考>

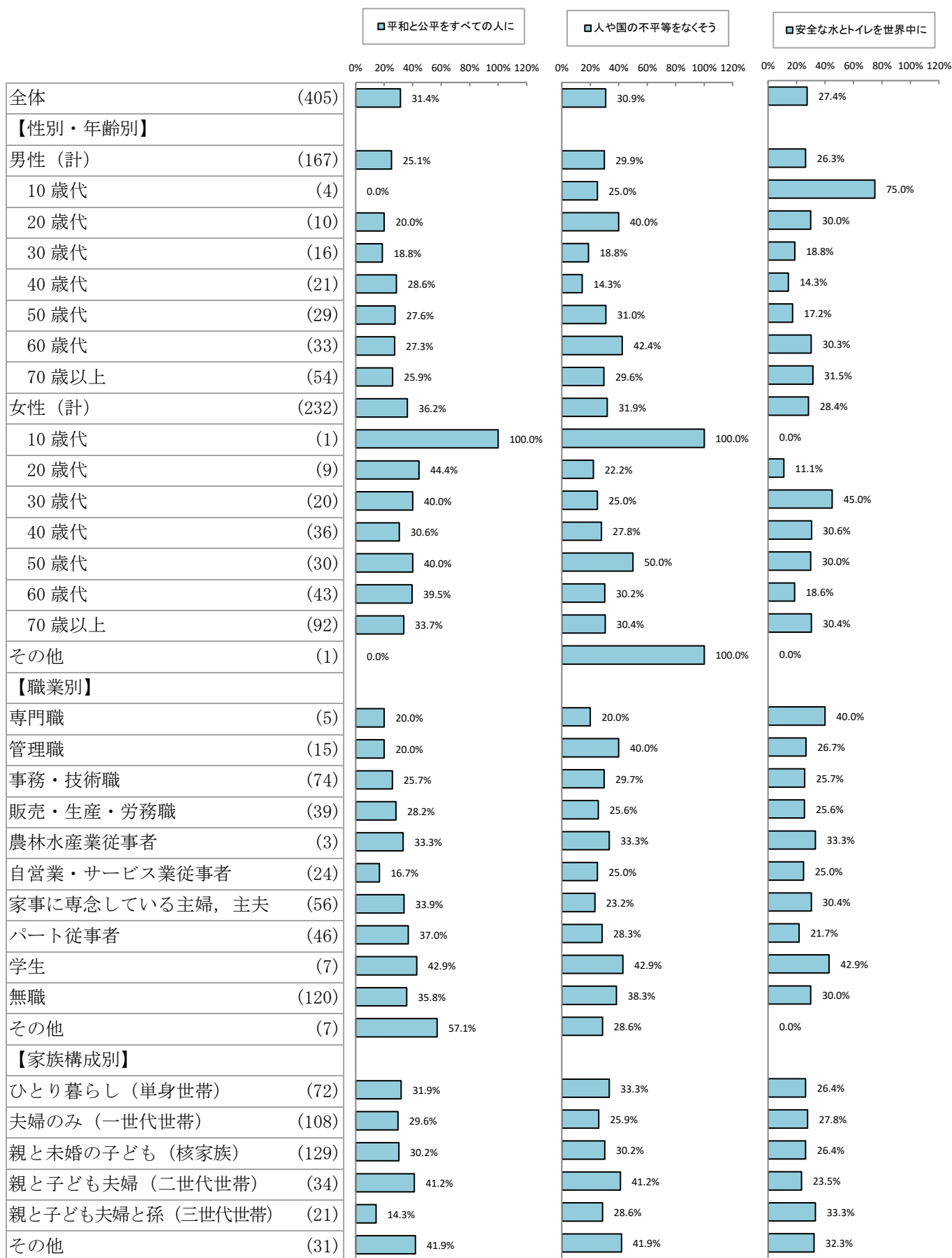
性別・年齢別でみると、「すべての人に健康と福祉を」は<女性/50歳代>が60.0%、<男性/70歳以上>が55.6%であった。「住み続けられるまちづくりを」は<女性/30歳代>が60.0%、<女性/40歳代>が58.3%であった。(図IV-21-6)

職業別でみると、「すべての人に健康と福祉を」は<無職>が59.2%で最も高く、次いで<家事に専念している主婦、主夫>が48.2%であった。「住み続けられるまちづくりを」は<農林水産業従事者>が66.7%で最も高く、次いで<専門職>が60.0%であった。(図IV-21-6)

家族構成別でみると、「すべての人に健康と福祉を」は<その他>を除くと、<夫婦のみ(一世代世帯)>が53.7%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が47.1%であった。「住み続けられるまちづくりを」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が52.9%で最も高く、<その他>を除くと、次いで<夫婦のみ(一世代世帯)>が42.6%であった。(図IV-21-6)

<図IV-21-6>性別・年齢別／職業別／家族構成（上位6項目）





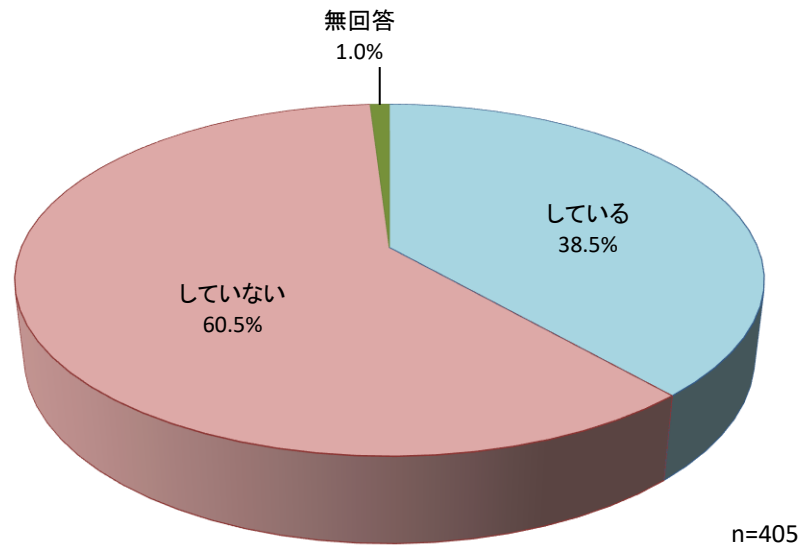
2.2. 生涯学習について

(1) 現在、生涯学習として学習、文化・スポーツ活動等をしているか

◇ 「していない」が約6割

問75	現在、生涯学習として学習、文化・スポーツ活動等をしていますか。	(○は1つ)
		n=405
1	している	38.5%
2	していない	60.5%
	(無回答)	1.0%

<図IV-22-1>全体



現在、生涯学習として学習、文化・スポーツ活動等をしているかについては、「していない」が60.5%であった。一方、「している」は38.5%であった。(図IV-22-1)

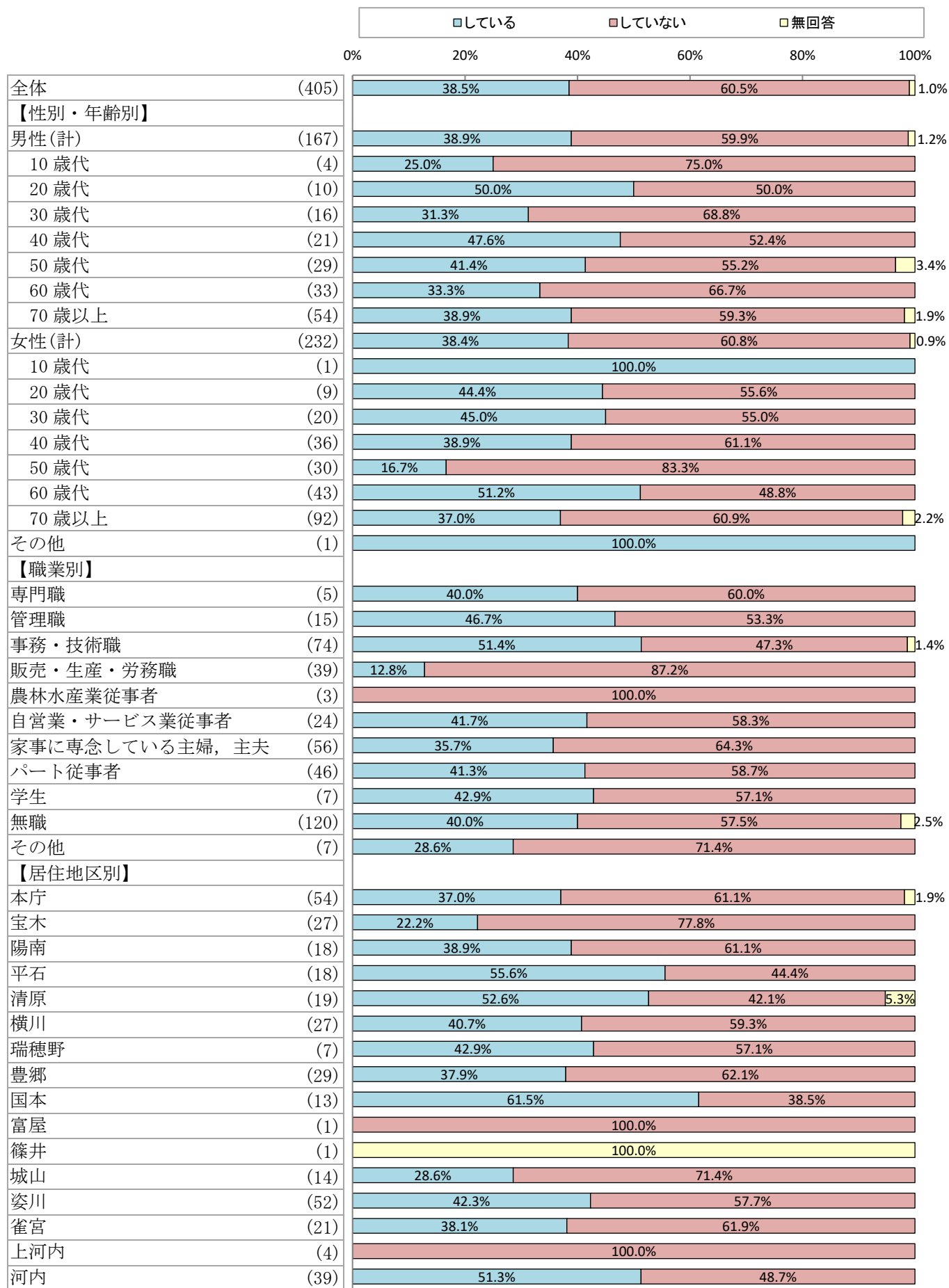
<参考>

性別・年齢別でみると、「していない」は<女性/50歳代>が83.3%、<男性/10歳代>が75.0%であった。「している」は<その他>を除くと、<女性/60歳代>が51.2%、<女性/30歳代>が45.0%であった。(図IV-22-2)

職業別でみると、「していない」は<その他>を除くと、<販売・生産・労務職>が87.2%、<家事に専念している主婦、主夫>が64.3%であった。「している」は<事務・技術職>が51.4%、<管理職>が46.7%であった。(図IV-22-2)

居住地区別でみると、「していない」は<宝木>が77.8%、<城山>が71.4%であった。「している」は<国本>が61.5%、<平石>が55.6%であった。(図IV-22-2)

<図IV-22-2>性別・年齢別／職業別／居住地区別



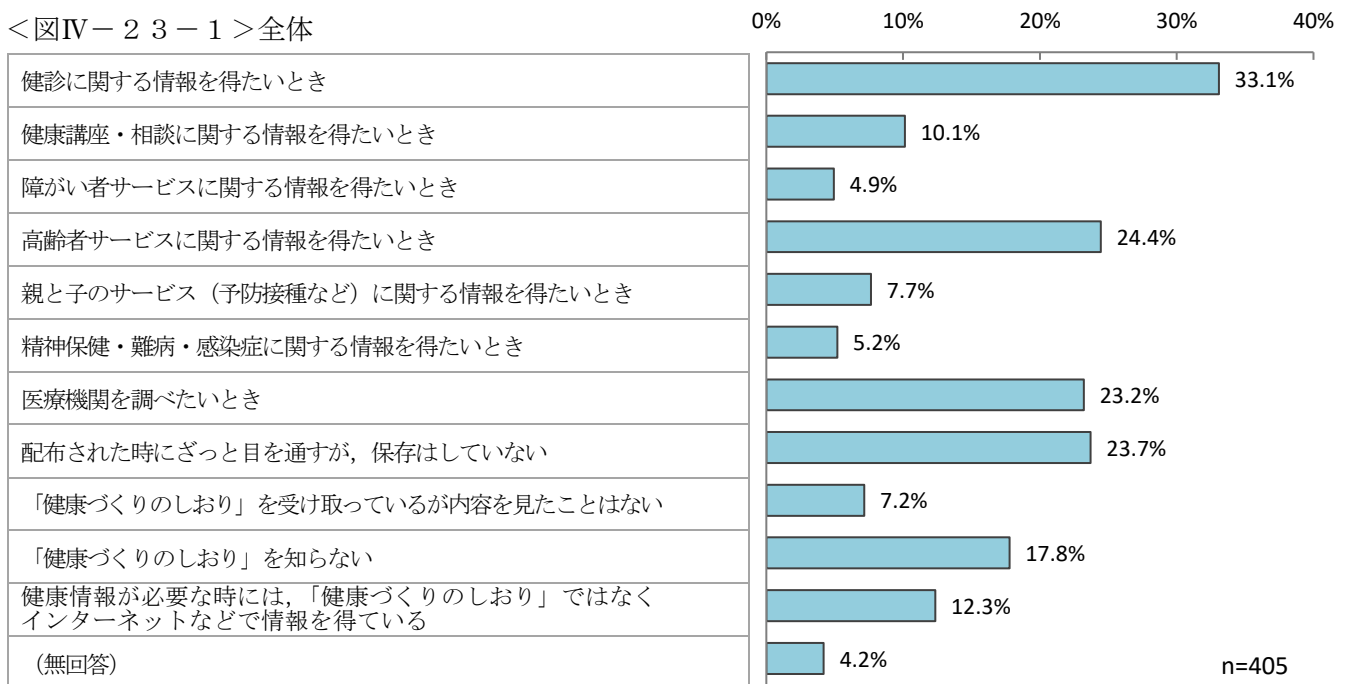
23. 健康づくりについて

(1) 「(保存版(冊子))健康づくりのしおり」をどのように利用しているか

◇「健診に関する情報を得たいとき」が3割強

問76	毎年、広報うつつのみや4月号に合わせて、健診をはじめ様々な健康情報を提供する「(保存版(冊子))健康づくりのしおり」を配布していますが、どのように利用していますか。該当するものに○をつけてください。(○はいくつでも)	n=405
1	健診に関する情報を得たいとき	33.1%
2	健康講座・相談に関する情報を得たいとき	10.1%
3	障がい者サービスに関する情報を得たいとき	4.9%
4	高齢者サービスに関する情報を得たいとき	24.4%
5	親と子のサービス(予防接種など)に関する情報を得たいとき	7.7%
6	精神保健・難病・感染症に関する情報を得たいとき	5.2%
7	医療機関を調べたいとき	23.2%
8	配布された時にざっと目を通すが、保存はしていない	23.7%
9	「健康づくりのしおり」を受け取っているが内容を見たことはない	7.2%
10	「健康づくりのしおり」を知らない	17.8%
11	健康情報が必要な時には、「健康づくりのしおり」ではなくインターネットなどで情報を得ている	12.3%
	(無回答)	4.2%

<図IV-23-1>全体



「(保存版(冊子))健康づくりのしおり」をどのように利用しているかについては、「健診に関する情報を得たいとき」が33.1%で最も高く、次いで「高齢者サービスに関する情報を得たいとき」が24.4%、「配布された時にざっと目を通すが、保存はしていない」が23.7%と続いている。(図IV-23-1)

<参考>

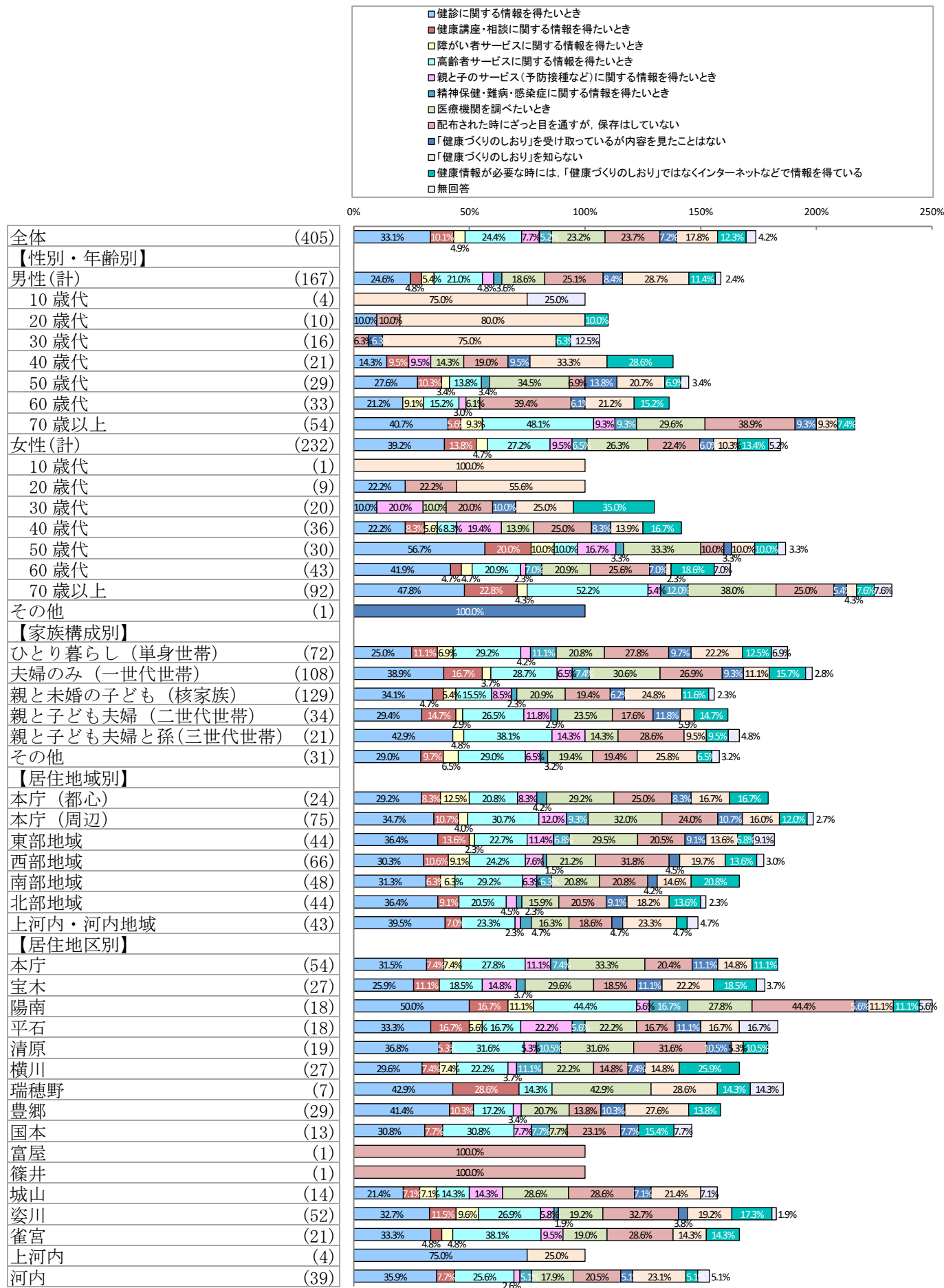
性別・年齢別でみると、「健診に関する情報を得たいとき」は<女性/50歳代>が56.7%で最も高かった。(図IV-23-2)

家族構成別でみると、「健診に関する情報を得たいとき」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が42.9%で最も高かった。(図IV-23-2)

居住地域別でみると、「健診に関する情報を得たいとき」は<上河内・河内地域>が39.5%で最も高かった。(図IV-23-2)

居住地区別でみると、「健診に関する情報を得たいとき」は<上河内>が75.0%で最も高かった。(図IV-23-2)

<図IV-23-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域・地区別

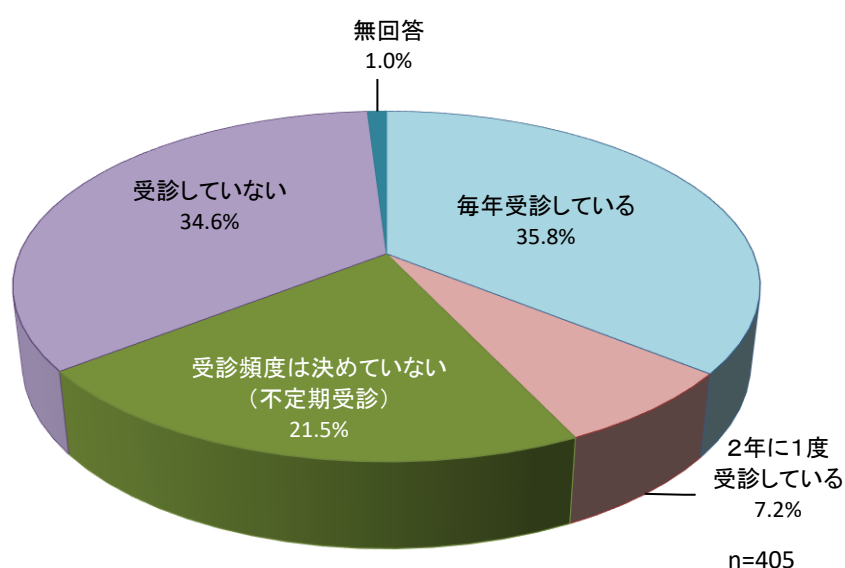


(2) がん検診を受診する間隔

◇ 「毎年受診している」が3割半ば

問77	がん検診を受診する間隔について、該当するものに○をつけてください。(○は1つ)	n=405
1	毎年受診している	35.8%
2	2年に1度受診している	7.2%
3	受診頻度は決めていない(不定期受診)	21.5%
4	受診していない	34.6%
	(無回答)	1.0%

<図IV-23-3>全体



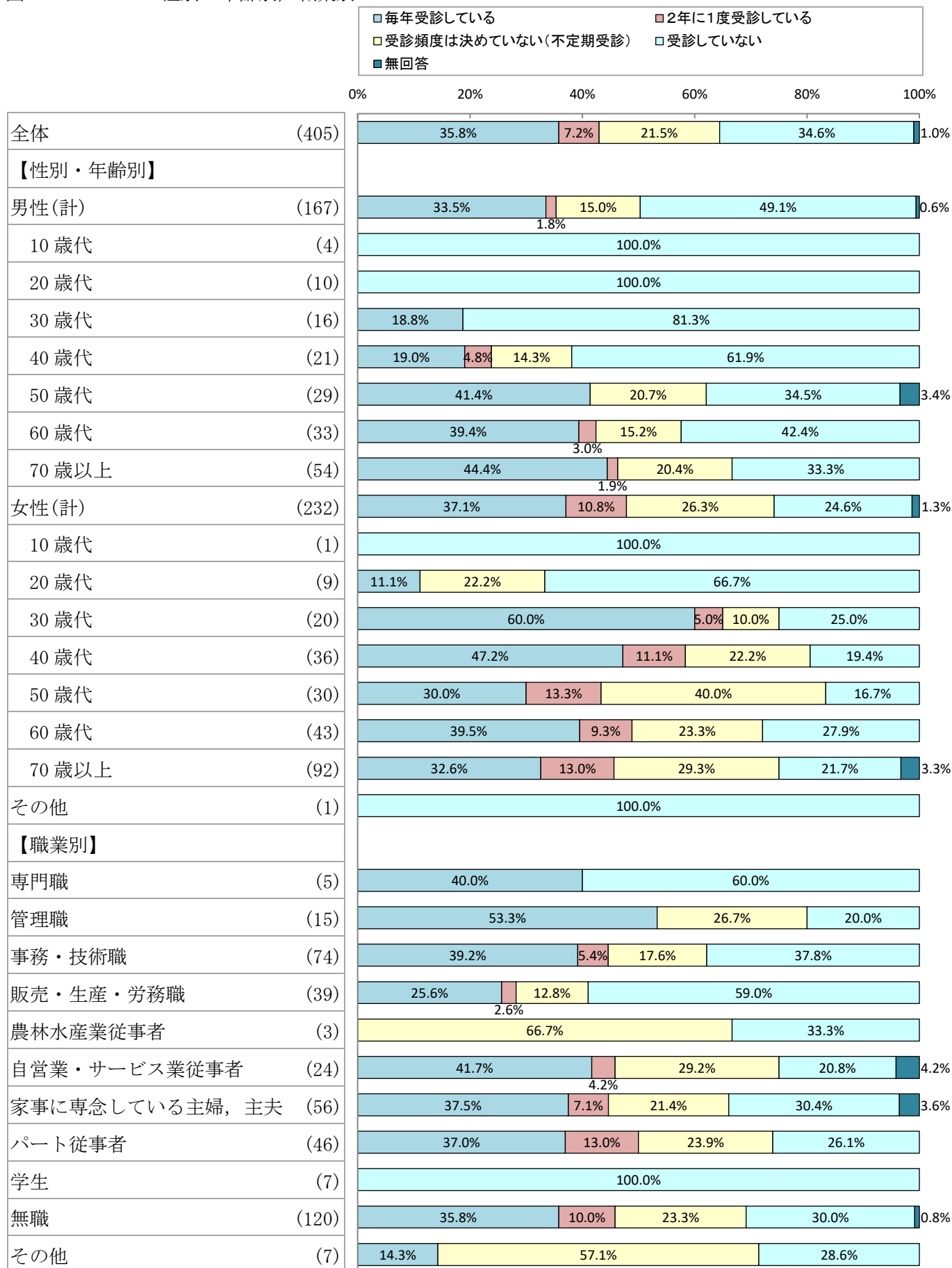
がん検診を受診する間隔については、「毎年受診している」が35.8%で最も高く、次いで「受診していない」が34.6%、「受診頻度は決めていない(不定期受診)」が21.5%と続いている。(図IV-23-3)

<参考>

性別・年齢別でみると、「毎年受診している」は<女性/30歳代>が60.0%、<女性/40歳代>が47.2%であった。「受診していない」は<男性/10歳代><男性/20歳代><女性/10歳代>が100.0%、<男性/30歳代>が81.3%であった。(図IV-23-4)

職業別でみると、「毎年受診している」は<管理職>が53.3%、<自営業・サービス業従事者>が41.7%であった。「受診していない」は<学生>が100.0%、<専門職>が60.0%であった。(図IV-23-4)

<図IV-23-4>性別・年齢別／職業別



(3) 直近のがん検診の受診先

◇ 「市の受診券を利用して受ける個別検診（医療機関で実施している検診）」が3割半ば

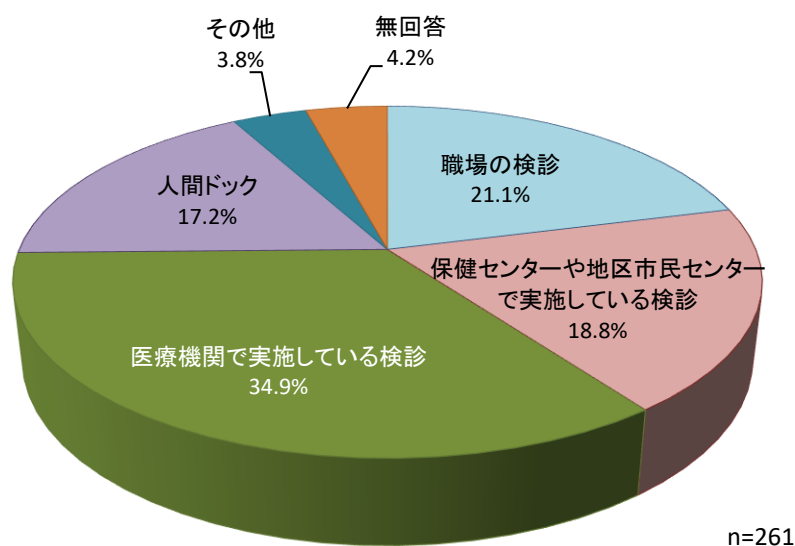
問78 問77で1～3と回答した方に伺います。

直近のがん検診の受診先について該当するものに○をつけてください。 (○は1つ)

n=261

1	職場の検診	21.1%
2	市の受診券を利用して受ける集団検診（保健センターや地区市民センターで実施している検診）	18.8%
3	市の受診券を利用して受ける個別検診（医療機関で実施している検診）	34.9%
4	人間ドック	17.2%
5	その他	3.8%
	（無回答）	4.2%

<図IV-23-5>全体



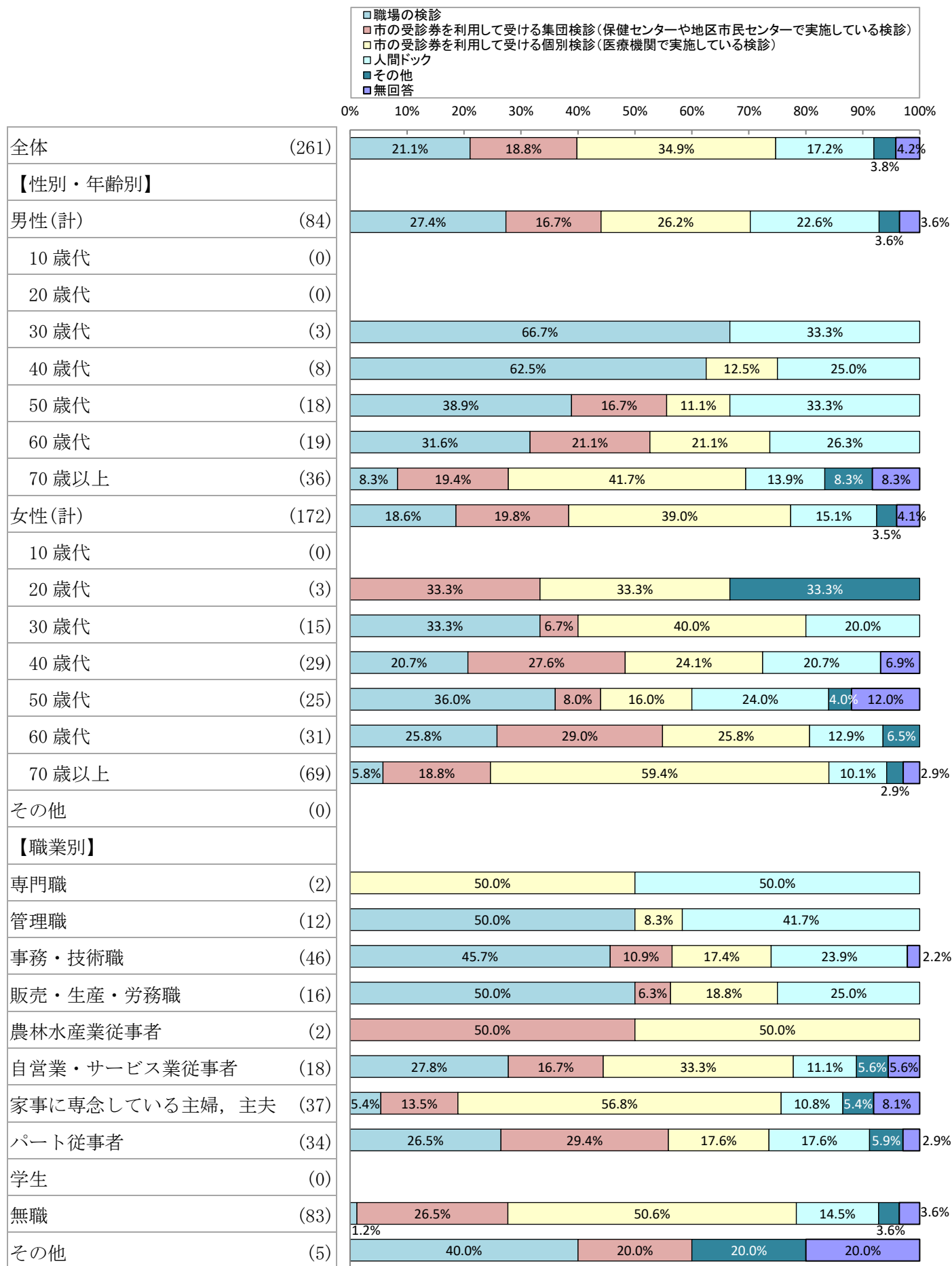
直近のがん検診の受診先については、「市の受診券を利用して受ける個別検診（医療機関で実施している検診）」が34.9%で最も高く、次いで「職場の検診」が21.1%、「市の受診券を利用して受ける集団検診（保健センターや地区市民センターで実施している検診）」が18.8%と続いている。（図IV-23-5）

<参考>

性別・年齢別でみると、「市の受診券を利用して受ける個別検診（医療機関で実施している検診）」は<女性/70歳以上>が59.4%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が41.7%であった。「職場の検診」は<男性/30歳代>が66.7%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が62.5%であった。（図IV-23-6）

職業別でみると、「市の受診券を利用して受ける個別検診（医療機関で実施している検診）」は<家事に専念している主婦、主夫>が56.8%で最も高く、次いで<無職>が50.6%であった。「職場の検診」は<管理職><販売・生産・労務職>が50.0%で最も高く、次いで<事務・技術職>が45.7%であった。（図IV-23-6）

<図IV-23-6>性別・年齢別／職業別

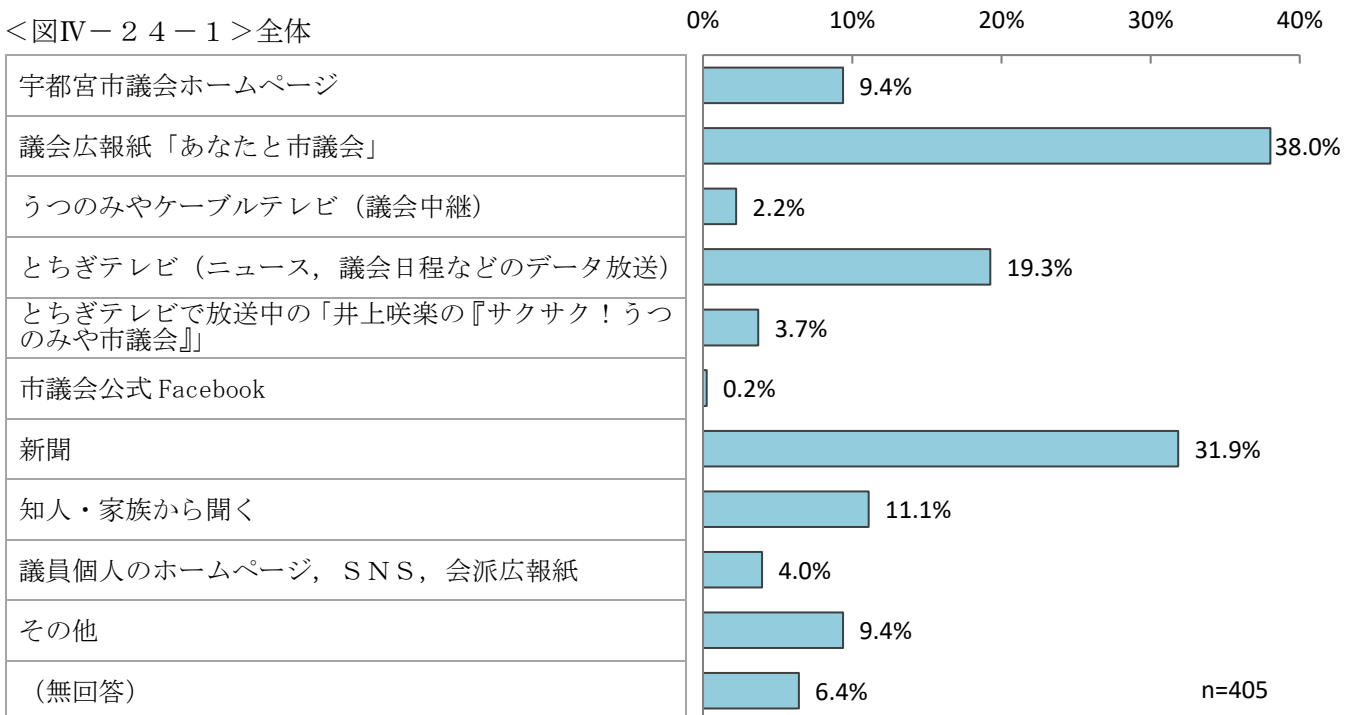


24. 議会の広報・広聴に対する市民の認知度について

(1) 市議会の情報をどのような方法で得ているか

◇ 「議会広報紙「あなたと市議会」」が4割弱

問79	あなたは、市議会の情報をどのような方法で得ていますか。	(〇はいくつでも)
		n=405
1	宇都宮市議会ホームページ	9.4%
2	議会広報紙「あなたと市議会」	38.0%
3	うつのみやケーブルテレビ（議会中継）	2.2%
4	とちぎテレビ（ニュース、議会日程などのデータ放送）	19.3%
5	とちぎテレビで放送中の「井上咲楽の『サクサク！うつのみや市議会』」	3.7%
6	市議会公式 Facebook	0.2%
7	新聞	31.9%
8	知人・家族から聞く	11.1%
9	議員個人のホームページ，SNS，会派広報紙	4.0%
10	その他	9.4%
	（無回答）	6.4%



市議会の情報をどのような方法で得ているかについては、「議会広報紙「あなたと市議会」」が 38.0%で最も多く、次いで「新聞」が 31.9%、「とちぎテレビ（ニュース、議会日程などのデータ放送）」が 19.3%と続いている。（図IV-24-1）

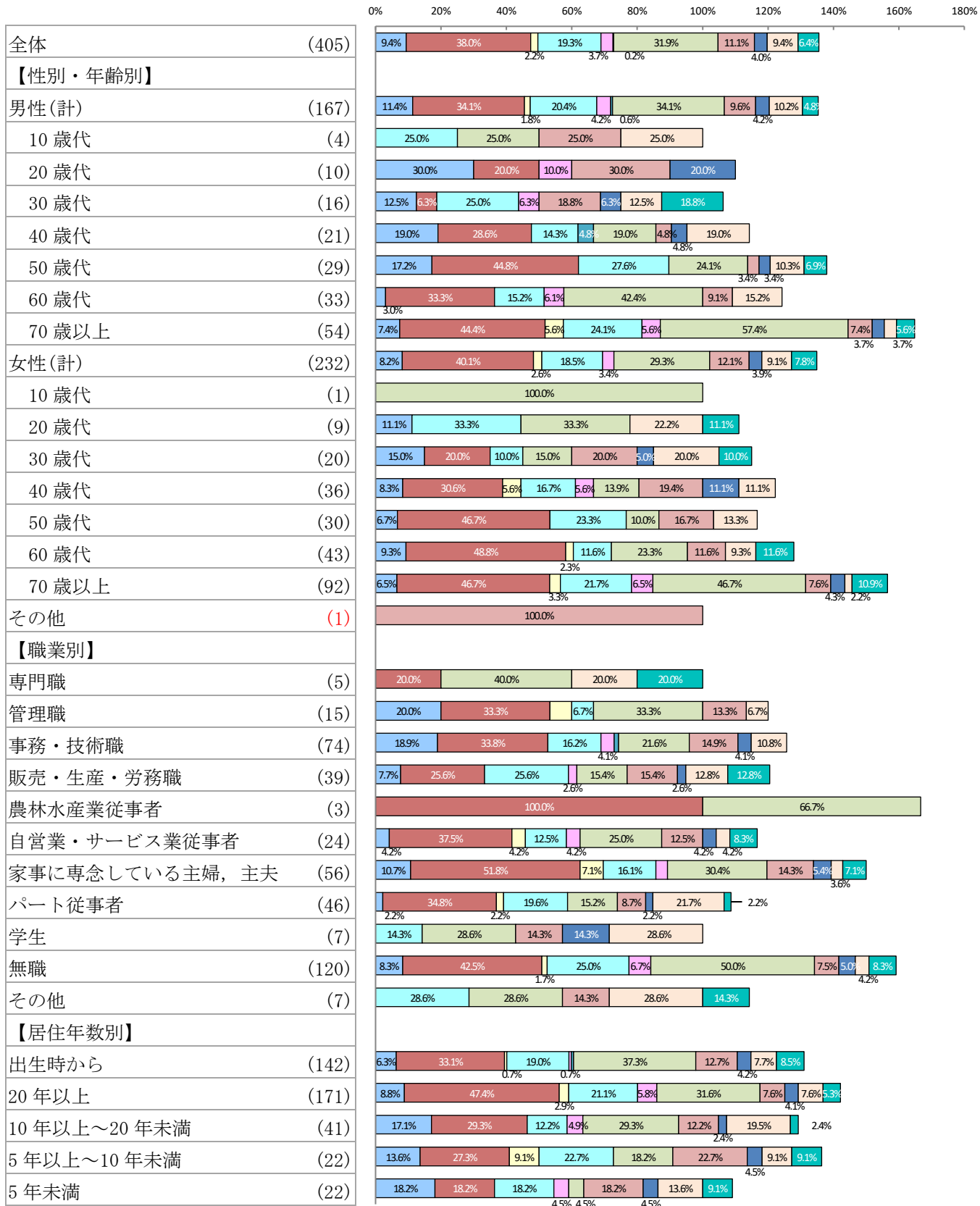
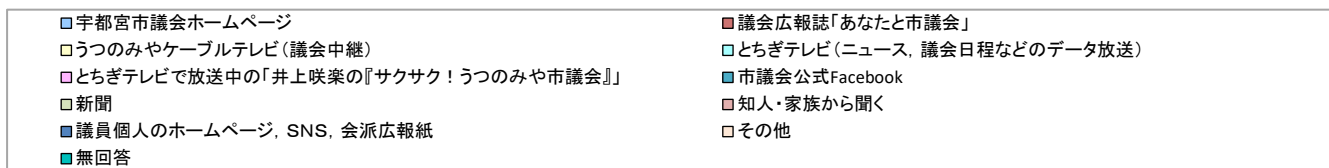
<参考>

性別・年齢別でみると、「議会広報紙「あなたと市議会」」は<女性/60歳代>が 48.8%で最も高かった。（図IV-24-2）

職業別でみると、「議会広報紙「あなたと市議会」」は<農林水産業従事者>が 100.0%で最も高く、次いで<家事に専念している主婦，主夫>が 51.8%であった。（図IV-24-2）

居住年数別でみると、「議会広報紙「あなたと市議会」」は<20年以上>が 47.4%で最も高く、次いで<出生時から>が 33.1%であった。（図IV-24-2）

<図IV-24-2>性別・年齢別／職業別／居住年数別

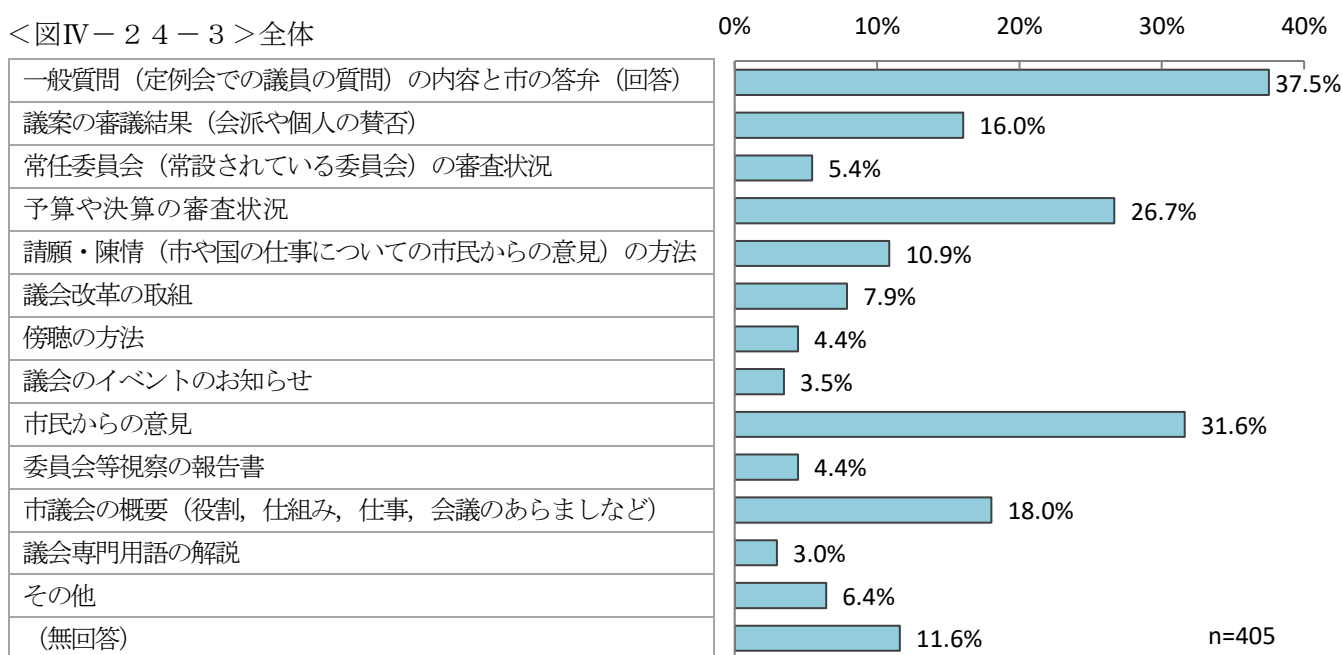


(2) 市議会について知りたいこと

◇ 「一般質問（定例会での議員の質問）の内容と市の答弁（回答）」が4割弱

問 8 0	あなたは市議会についてどのようなことが知りたいですか。	(〇はいくつでも)
		n=405
1	一般質問（定例会での議員の質問）の内容と市の答弁（回答）	37.5%
2	議案の審議結果（会派や個人の賛否）	16.0%
3	常任委員会（常設されている委員会）の審査状況	5.4%
4	予算や決算の審査状況	26.7%
5	請願・陳情（市や国の仕事についての市民からの意見）の方法	10.9%
6	議会改革の取組	7.9%
7	傍聴の方法	4.4%
8	議会のイベントのお知らせ	3.5%
9	市民からの意見	31.6%
10	委員会等視察の報告書	4.4%
11	市議会の概要（役割、仕組み、仕事、会議のあらましなど）	18.0%
12	議会専門用語の解説	3.0%
13	その他	6.4%
	（無回答）	11.6%

<図IV-24-3>全体



市議会についてどのようなことが知りたいかについては、「一般質問（定例会での議員の質問）の内容と市の答弁（回答）」が37.5%で最も多く、次いで「市民からの意見」が31.6%、「予算や決算の審査状況」が26.7%と続いている。（図IV-24-3）

<参考>

性別・年齢別でみると、「一般質問（定例会での議員の質問）の内容と市の答弁（回答）」は<女性/10歳代>が100.0%、<男性/50歳代>が58.6%であった。（図IV-24-4）

職業別でみると、「一般質問（定例会での議員の質問）の内容と市の答弁（回答）」は<パート従事者>が43.5%で最も高かった。（図IV-24-4）

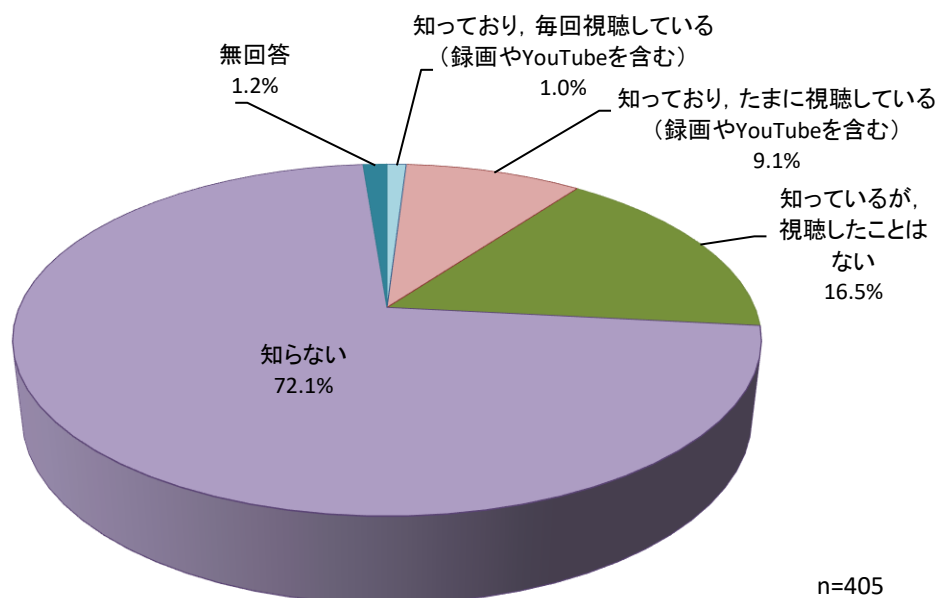
居住年数別でみると、「一般質問（定例会での議員の質問）の内容と市の答弁（回答）」は<5年以上～10年未満>が45.5%で最も高かった。（図IV-24-4）

(3) 「サクサク！うつのみや市議会」や「なるほど！うつのみや市議会」の認知度・視聴経験

◇ 「知らない」が7割強

問 8 1	とちぎテレビで放送中の「井上咲楽の『サクサク！うつのみや市議会』」や過去に放送していた「井上咲楽の『なるほど！うつのみや市議会』」を知っていますか、また視聴したことはありますか。	(○は1つ)
		n=405
1	知っており、毎回視聴している（録画やYouTubeを含む）	1.0%
2	知っており、たまに視聴している（録画やYouTubeを含む）	9.1%
3	知っているが、視聴したことはない	16.5%
4	知らない	72.1%
	（無回答）	1.2%

<図IV-24-5>全体



「サクサク！うつのみや市議会」や「なるほど！うつのみや市議会」の認知度・視聴経験については、「知らない」が72.1%で最も高く、次いで「知っているが、視聴したことはない」が16.5%であった。（図IV-24-5）

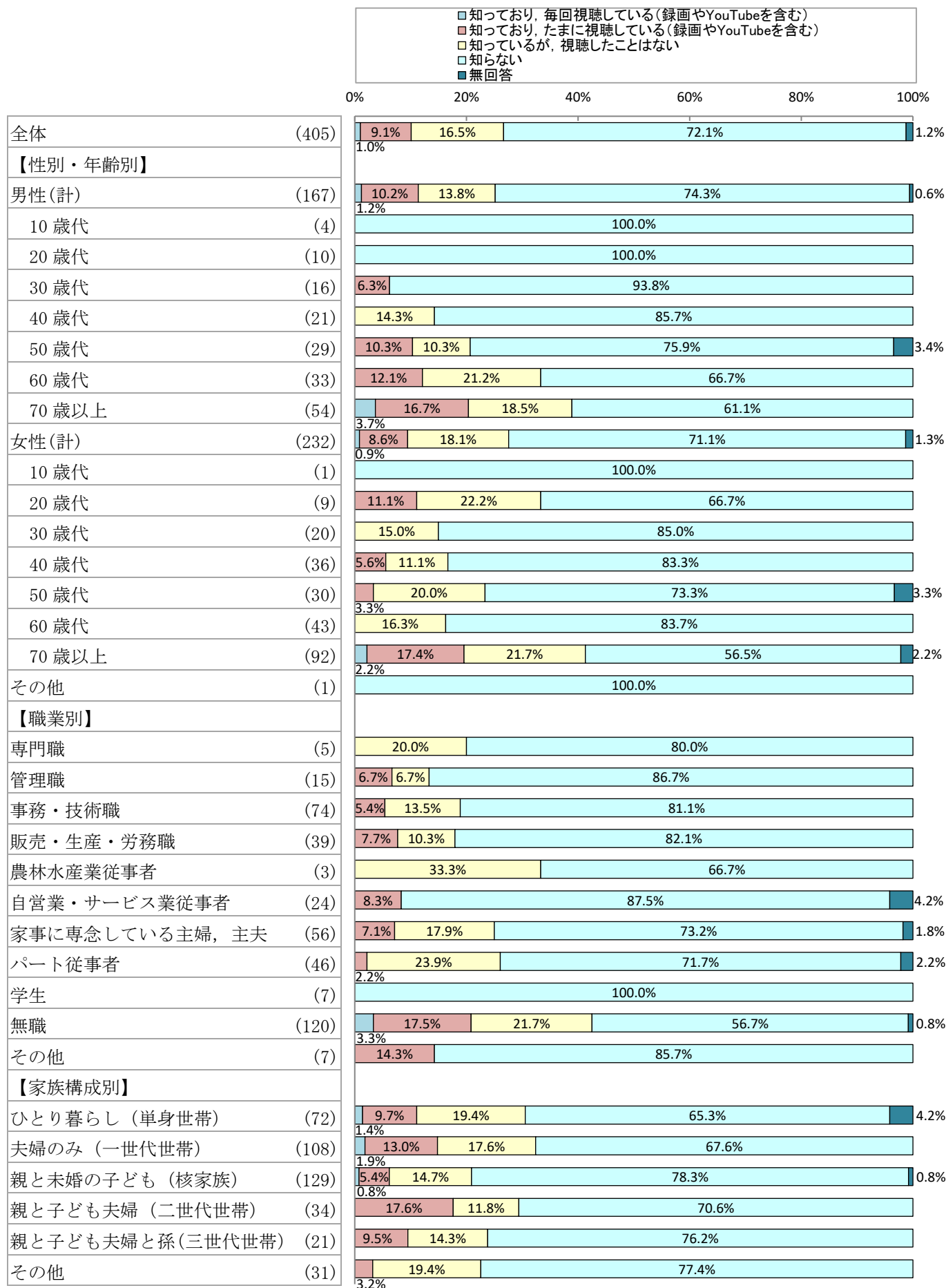
<参考>

性別・年齢別でみると、「知らない」は<男性/10歳代><男性/20歳代><女性/10歳代>が100.0%、<男性/30歳代>が93.8%であった。「知っているが、視聴したことはない」は<女性/20歳代>が22.2%、<女性/70歳以上>が21.7%であった。（図IV-24-6）

職業別でみると、「知らない」は<学生>が100.0%、<自営業・サービス業従事者>が87.5%であった。「知っているが、視聴したことはない」は<農林水産業従事者>が33.3%、<パート従事者>が23.9%であった。（図IV-24-6）

家族構成別でみると、「知らない」は<その他>を除くと、<親と未婚の子ども（核家族）>が78.3%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫（三世代世帯）>が76.2%であった。「知っているが、視聴したことはない」は<その他>を除くと、<ひとり暮らし（単身世帯）>が19.4%で最も高く、次いで<夫婦のみ（一世代世帯）>が17.6%であった。（図IV-24-6）

<図IV-24-6>性別・年齢別／職業別／家族構成別

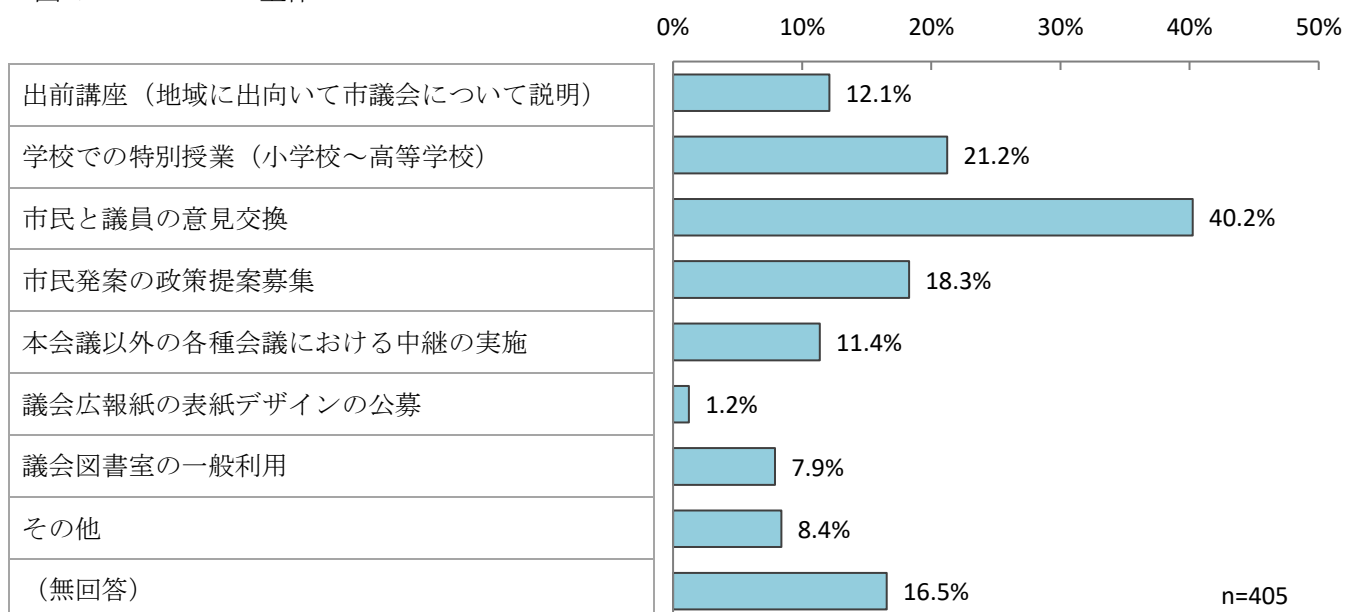


(4) 市議会に取り組んでほしいこと

◇ 「市民と議員の意見交換」が約4割

問 8 2 今後、市議会に取り組んでほしいことは何ですか。		(〇はいくつでも)
		n=405
1	出前講座（地域に出向いて市議会について説明）	12.1%
2	学校での特別授業（小学校～高等学校）	21.2%
3	市民と議員の意見交換	40.2%
4	市民発案の政策提案募集	18.3%
5	本会議以外の各種会議における中継の実施	11.4%
6	議会広報紙の表紙デザインの公募	1.2%
7	議会図書室の一般利用	7.9%
8	その他	8.4%
	（無回答）	16.5%

<図IV-24-7>全体



市議会に取り組んでほしいことについては、「市民と議員の意見交換」が40.2%で最も多く、次いで「学校での特別授業（小学校～高等学校）」が21.2%、「市民発案の政策提案募集」が18.3%と続いている。（図IV-24-7）

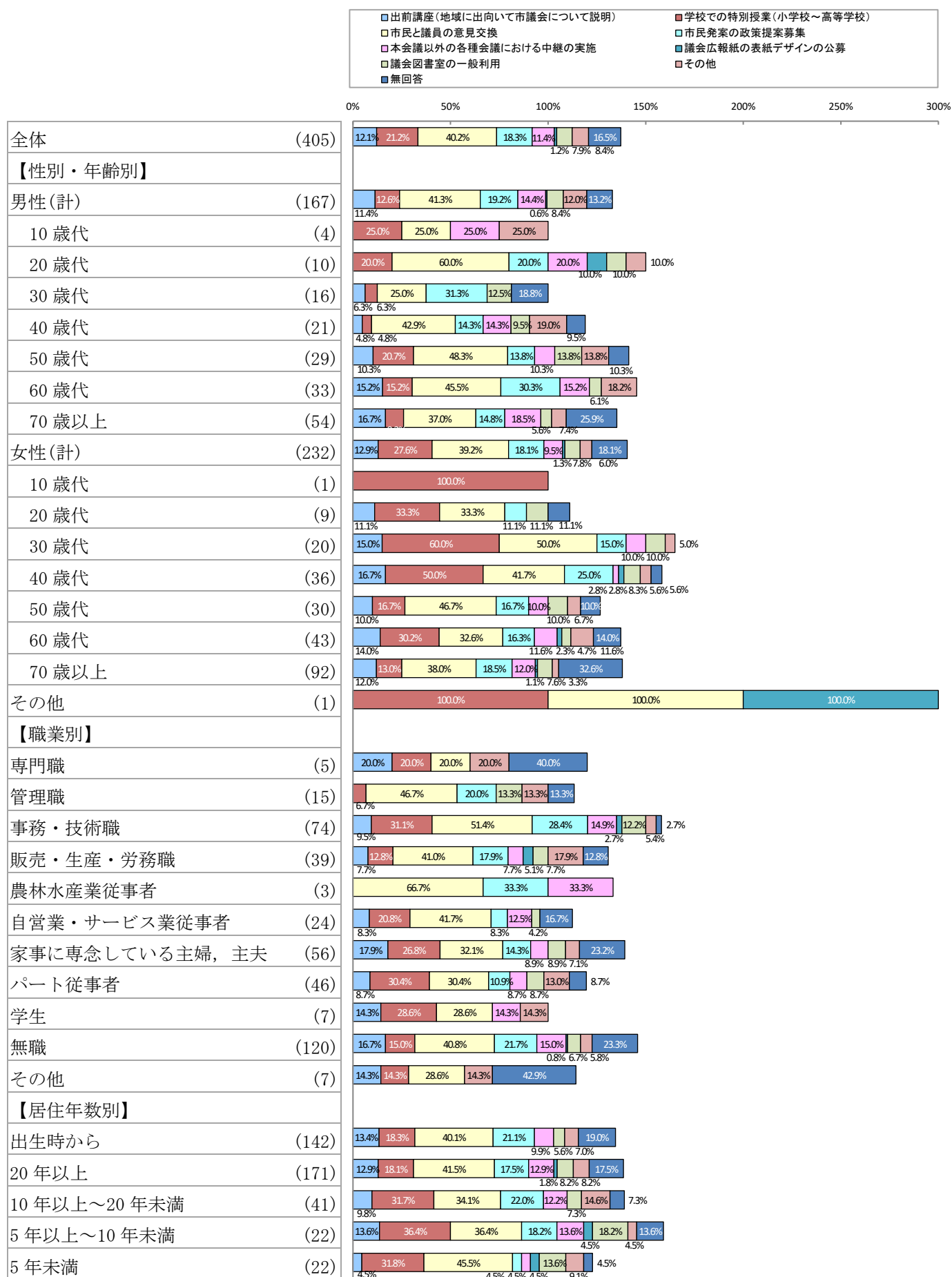
<参考>

性別・年齢別でみると、「市民と議員の意見交換」は<その他>を除くと、<男性/20歳代>が60.0%、<女性/30歳代>が50.0%であった。「学校での特別授業（小学校～高等学校）」は<その他>を除くと、<女性/10歳代>が100.0%、<女性/30歳代>が60.0%であった。（図IV-24-8）

職業別でみると、「市民と議員の意見交換」は<農林水産業従事者>が66.7%で最も高く、次いで<事務・技術職>が51.4%であった。「学校での特別授業（小学校～高等学校）」は<事務・技術職>が31.1%で最も高く、次いで<パート従事者>が30.4%であった。（図IV-24-8）

居住年数別でみると、「市民と議員の意見交換」は<5年未満>が45.5%で最も高く、次いで<20年以上>が41.5%であった。「学校での特別授業（小学校～高等学校）」は<5年以上～10年未満>が36.4%で最も高く、次いで<5年未満>が31.8%であった。（図IV-24-8）

<図IV-24-8>性別・年齢別／職業別／居住年数別



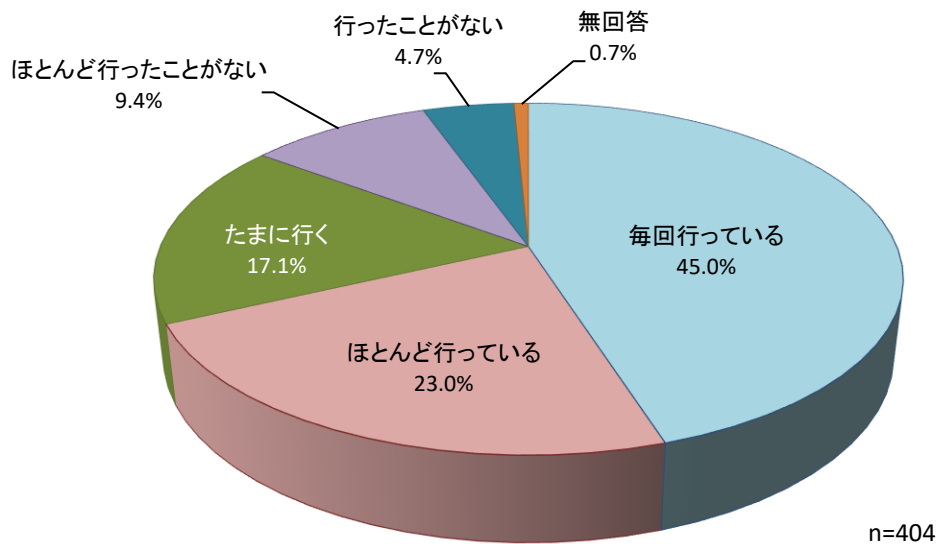
25. 選挙の投票率向上に向けた取組について

(1) 最近の選挙について、投票に行っているか

◇ 「毎回行っている」が4割半ば

問83	最近の選挙について、投票に行っていますか。	(○は1つ)
		n=404
1	毎回行っている	45.0%
2	ほとんど行っている	23.0%
3	たまに行く	17.1%
4	ほとんど行ったことがない	9.4%
5	行ったことがない	4.7%
	(無回答)	0.7%

<図IV-25-1>全体



最近の選挙について、投票に行っているかについては、「毎回行っている」が45.0%で最も高く、次いで「ほとんど行っている」が23.0%、「たまに行く」が17.1%であった。(図IV-25-1)

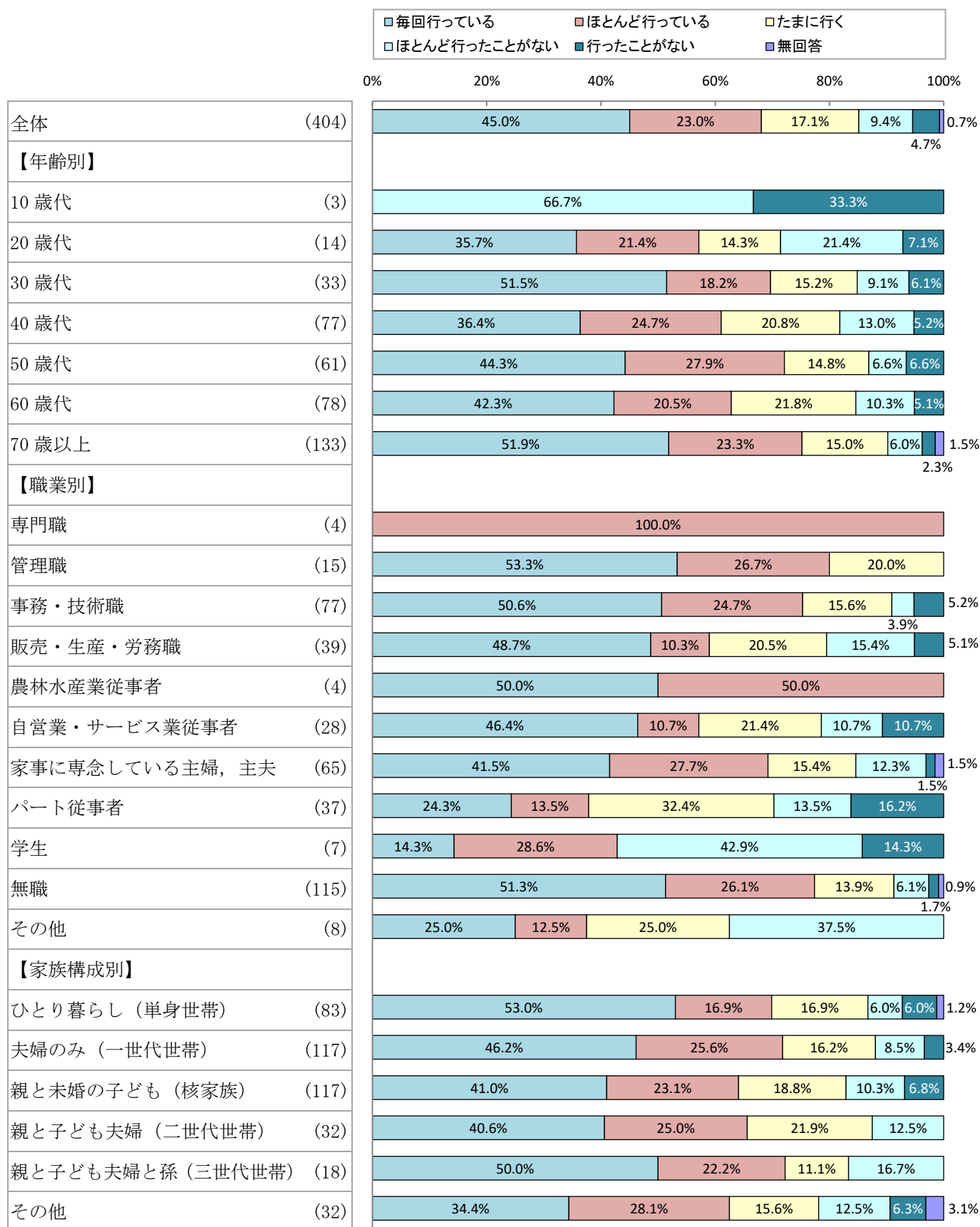
<参考>

年齢別でみると、「毎回行っている」は<70歳以上>が51.9%で最も高く、次いで<30歳代>が51.5%であった。一方、「行ったことがない」は<10歳代>が33.3%で最も高く、次いで<20歳代>が7.1%であった。(図IV-25-2)

職業別でみると、「毎回行っている」は、<管理職>が53.3%で最も高く、次いで<無職>が51.3%であった。一方、「行ったことがない」は<パート従事者>が16.2%で最も高く、次いで<学生>が14.3%であった。(図IV-25-2)

家族構成別でみると、「毎回行っている」は、<ひとり暮らし(単身世帯)>が53.0%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(三世代世帯)>が50.0%であった。一方、「行ったことがない」は<その他>を除くと、<親と未婚の子ども(核家族)>が6.8%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が6.0%であった。(図IV-25-2)

<図IV-25-2> 年齢別／職業別／家族構成別



(2) 投票に行ったことがない方の4月23日宇都宮市議会議員選挙の認知度

◇ 「知っていた」が約5割

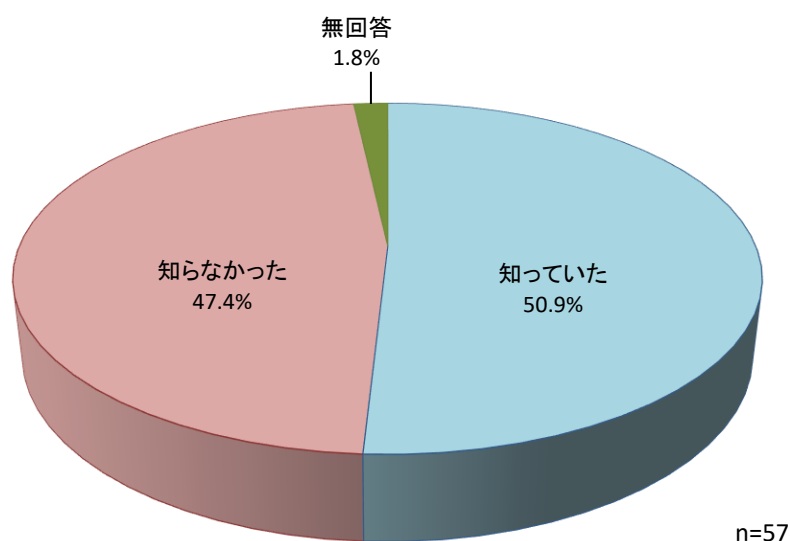
問84 問83で「4 ほとんど行ったことがない」または「5 行ったことがない」と回答した方に伺います。本年、4月23日に宇都宮市議会議員選挙が行われたことを知っていましたか。

(○は1つ)

n=57

1	知っていた	50.9%
2	知らなかった	47.4%
	(無回答)	1.8%

<図IV-25-3>全体



投票に行ったことがない方の4月23日宇都宮市議会議員選挙の認知度については、「知っていた」が50.9%であった。一方、「知らなかった」は47.4%であった。(図IV-25-3)

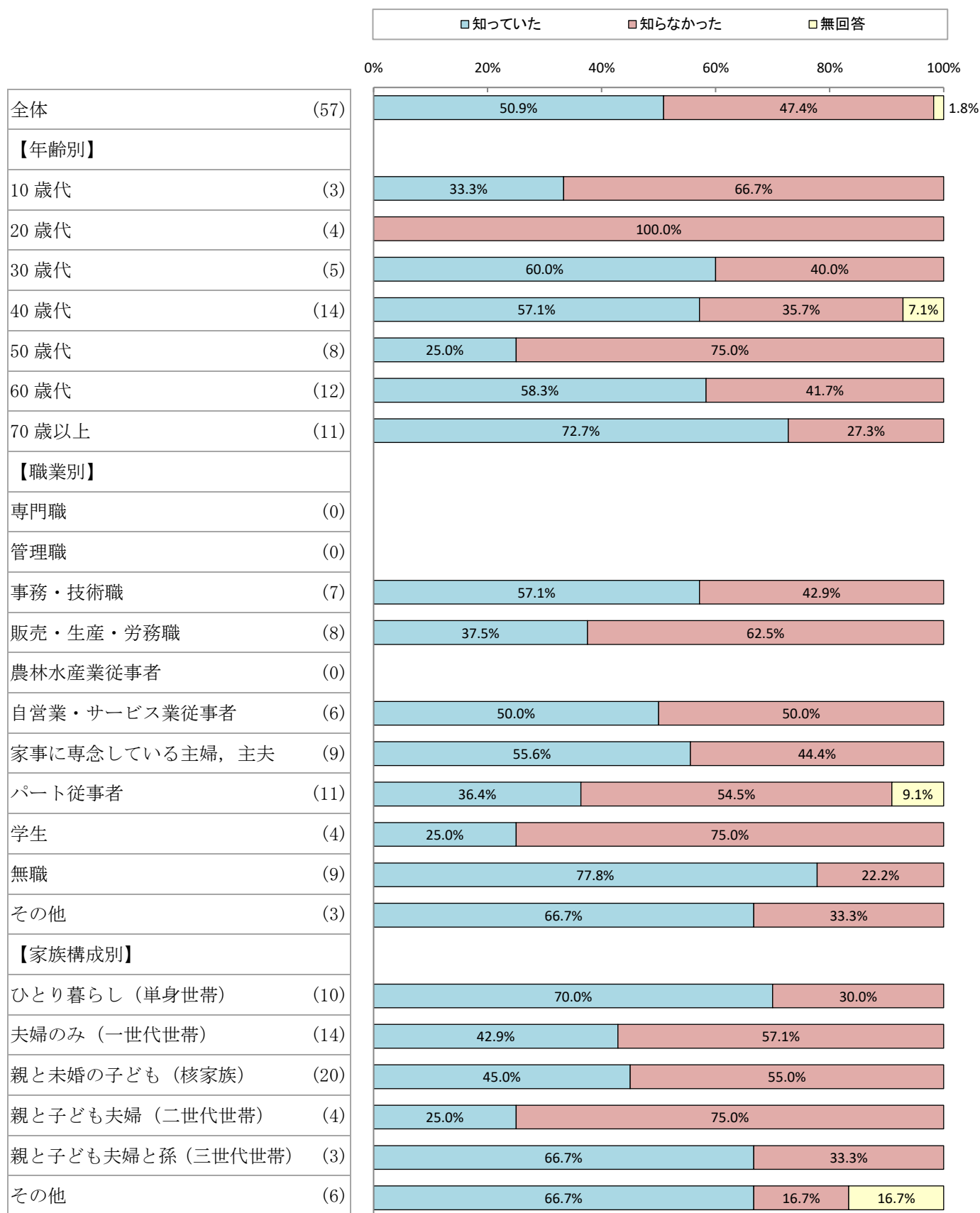
<参考>

年齢別でみると、「知っていた」は<70歳以上>が72.7%で最も高く、次いで<30歳代>が60.0%であった。一方、「知らなかった」<20歳代>が100.0%で最も高く、次いで<50歳代>が75.0%であった。(図IV-25-4)

職業別でみると、「知っていた」は<その他>を除くと、<無職>が77.8%で最も高く、次いで<事務・技術職>が57.1%であった。一方、「知らなかった」は<学生>が75.0%で最も高く、次いで<販売・生産・労務職>が62.5%であった。(図IV-25-4)

家族構成別でみると、「知っていた」は<その他>を除くと、<ひとり暮らし(単身世帯)>が70.0%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が66.7%であった。一方、「知らなかった」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が75.0%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が57.1%であった。(図IV-25-4)

<図IV-25-4>年齢別／職業別／家族構成別

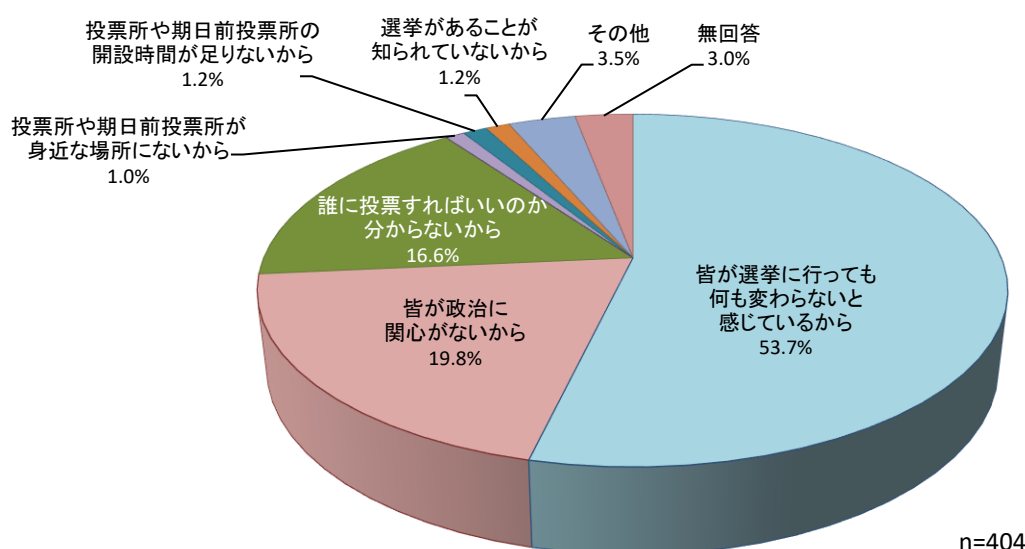


(3) 宇都宮市議会議員選挙の低投票率の理由

◇ 「皆が選挙に行っても何も変わらないと感じているから」が5割半ば

問 8 5	4月に執行した宇都宮市議会議員選挙の投票率は過去最低であり、全国的に低投票率となっておりますが、どのようなことが理由であるとお考えですか。	(○は1つ)
		n=404
1	皆が選挙に行っても何も変わらないと感じているから	53.7%
2	皆が政治に関心がないから	19.8%
3	誰に投票すればいいのかわからないから	16.6%
4	投票所や期日前投票所が身近な場所がないから	1.0%
5	投票所や期日前投票所の開設時間が足りないから	1.2%
6	選挙があることが知られていないから	1.2%
7	その他	3.5%
	(無回答)	3.0%

<図IV-25-5>全体



宇都宮市議会議員選挙の低投票率の理由については、「皆が選挙に行っても何も変わらないと感じているから」が53.7%で最も高く、次いで「皆が政治に関心がないから」が19.8%、「誰に投票すればいいのかわからないから」が16.6%と続いている。(図IV-25-5)

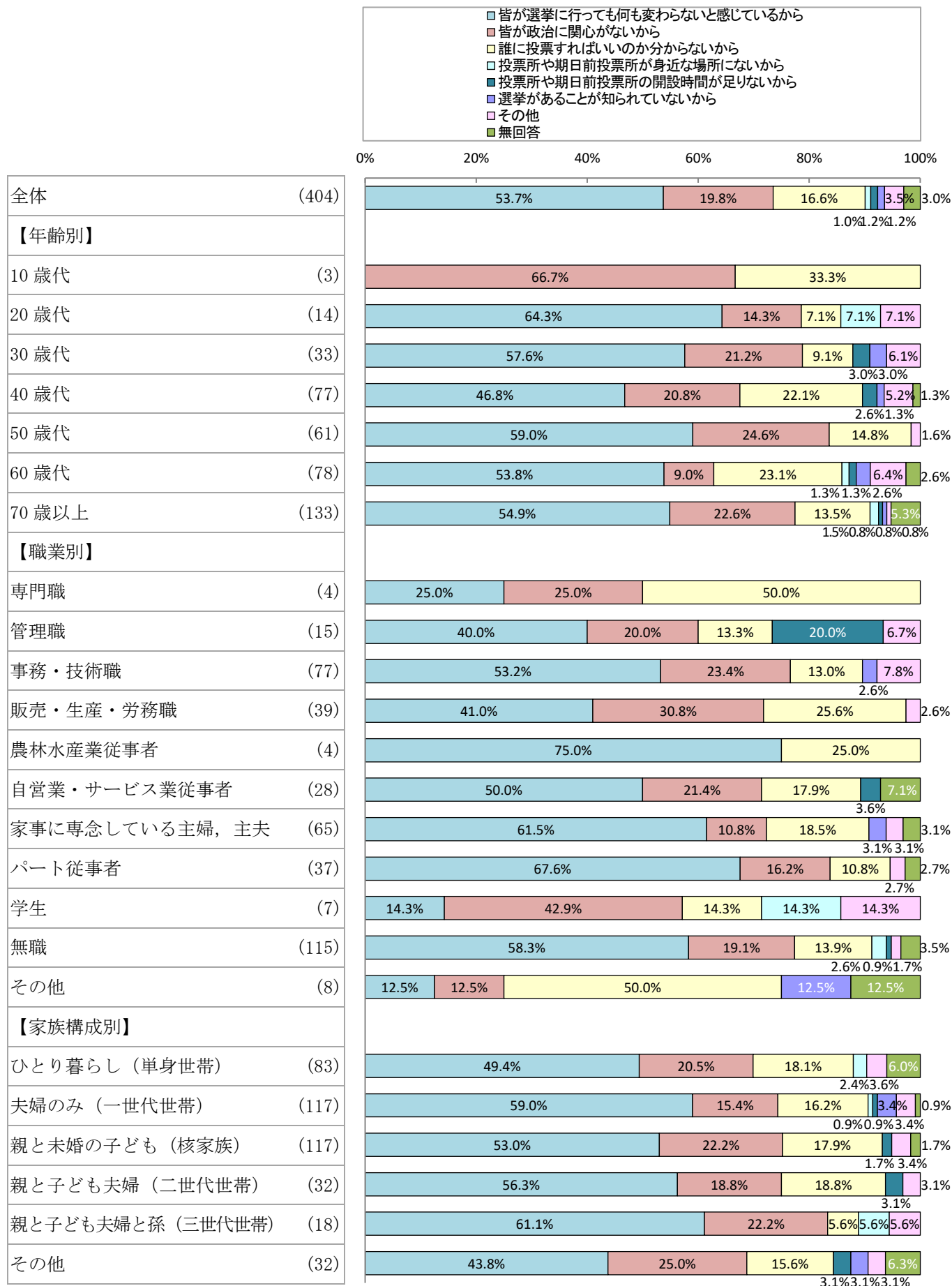
<参考>

年齢別でみると、「皆が選挙に行っても何も変わらないと感じているから」は<20歳代>が64.3%で最も高く、次いで<50歳代>が59.0%であった。「皆が政治に関心がないから」は<10歳代>が66.7%で最も高く、次いで<50歳代>が24.6%であった。(図IV-25-6)

職業別でみると、「皆が選挙に行っても何も変わらないと感じているから」は<農林水産業従事者>が75.0%で最も高く、次いで<パート従事者>が67.6%であった。「皆が政治に関心がないから」は<学生>が42.9%で最も高く、次いで<販売・生産・労務職>が30.8%であった。(図IV-25-6)

家族構成別でみると、「皆が選挙に行っても何も変わらないと感じているから」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が61.1%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が59.0%であった。「皆が政治に関心がないから」は、<その他>を除くと、<親と未婚の子ども(核家族)><親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が22.2%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が20.5%であった。(図IV-25-6)

<図IV-25-6> 年齢別／職業別／家族構成別

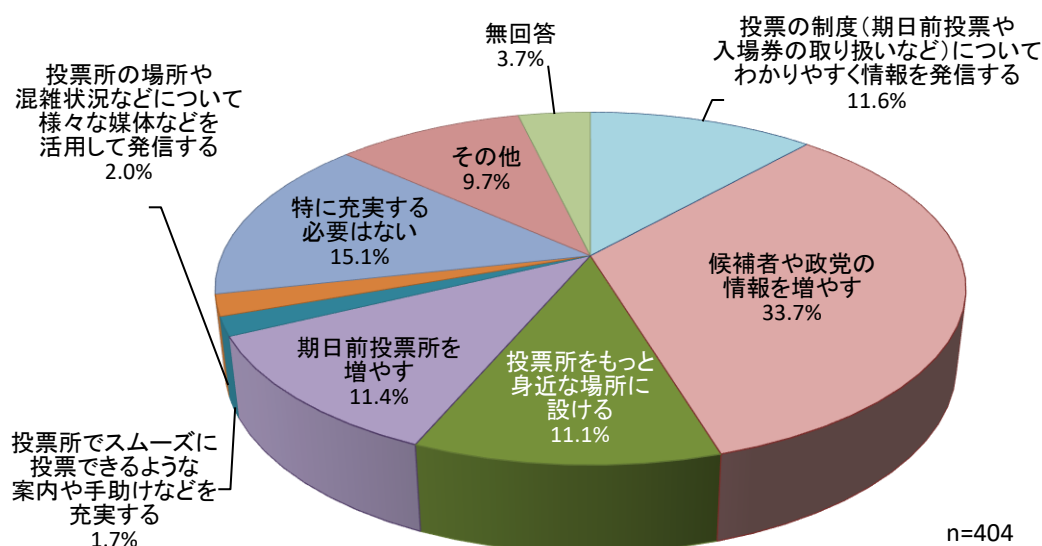


(4) 投票環境の充実を図るために必要な取組

◇ 「候補者や政党の情報を増やす」が3割半ば

問 8 6	投票環境の充実を図るためにどのような取組が必要だと思いますか。	(○は1つ)
		n=404
1	投票の制度（期日前投票や入場券の取り扱いなど）についてわかりやすく情報を発信する	11.6%
2	候補者や政党の情報を増やす	33.7%
3	投票所をもっと身近な場所に設ける	11.1%
4	期日前投票所を増やす	11.4%
5	投票所でスムーズに投票できるような案内や手助けなどを充実する	1.7%
6	投票所の場所や混雑状況などについて様々な媒体などを活用して発信する	2.0%
7	特に充実する必要はない	15.1%
8	その他	9.7%
	(無回答)	3.7%

<図IV-25-7>全体



投票環境の充実を図るために必要な取組については、「候補者や政党の情報を増やす」が33.7%で最も高く、次いで「特に充実する必要はない」が15.1%であった。（図IV-25-7）

<参考>

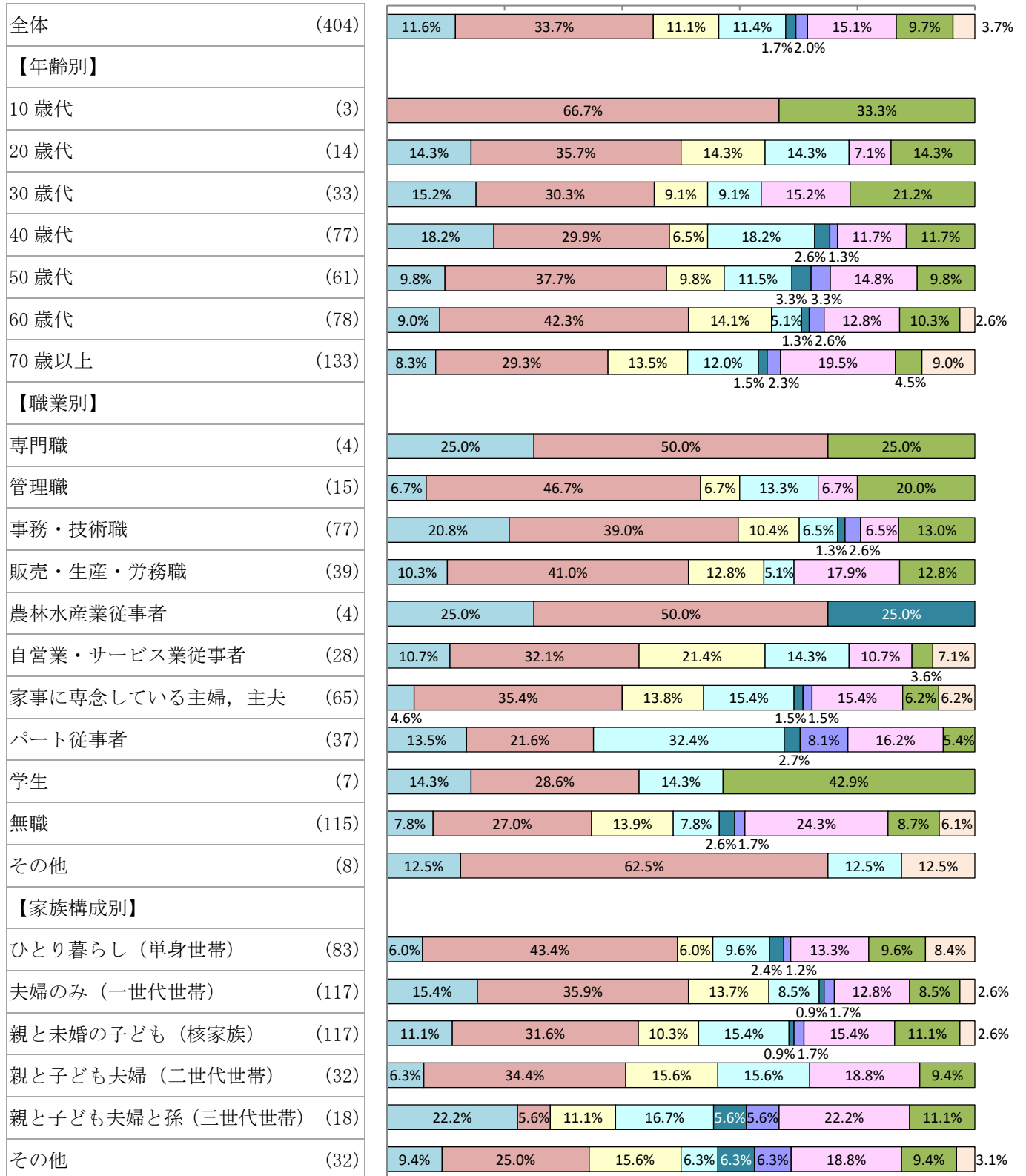
年齢別でみると、「候補者や政党の情報を増やす」は<10歳代>が66.7%で最も高く、次いで<60歳代>が42.3%であった。「特に充実する必要はない」は<70歳以上>が19.5%で最も高く、次いで<30歳代>が15.2%であった。（図IV-25-8）

職業別でみると、「候補者や政党の情報を増やす」は、<その他>を除くと、<専門職><農林水産業従事者>が50.0%で最も高く、次いで<管理職>が46.7%であった。「特に充実する必要はない」は<無職>が24.3%で最も高く、次いで<販売・生産・労務職>が17.9%であった。（図IV-25-8）

家族構成別でみると、「候補者や政党の情報を増やす」は、<ひとり暮らし（単身世帯）>が43.4%で最も高く、次いで<夫婦のみ（一世代世帯）>が35.9%であった。「特に充実する必要はない」は、<親と子ども夫婦と孫（三世代世帯）>が22.2%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦（二世代世帯）>が18.8%であった。（図IV-25-8）

<図IV-25-8> 年齢別／職業別／家族構成別

- 投票の制度(期日前投票や入場券の取り扱いなど)についてわかりやすく情報を発信する
- 候補者や政党の情報を増やす
- 投票所をもっと身近な場所に設ける
- 期日前投票所を増やす
- 投票所でスムーズに投票できるような案内や手助けなどを充実する
- 投票所の場所や混雑状況などについて様々な媒体などを活用して発信する
- 特に充実する必要はない
- その他
- 無回答



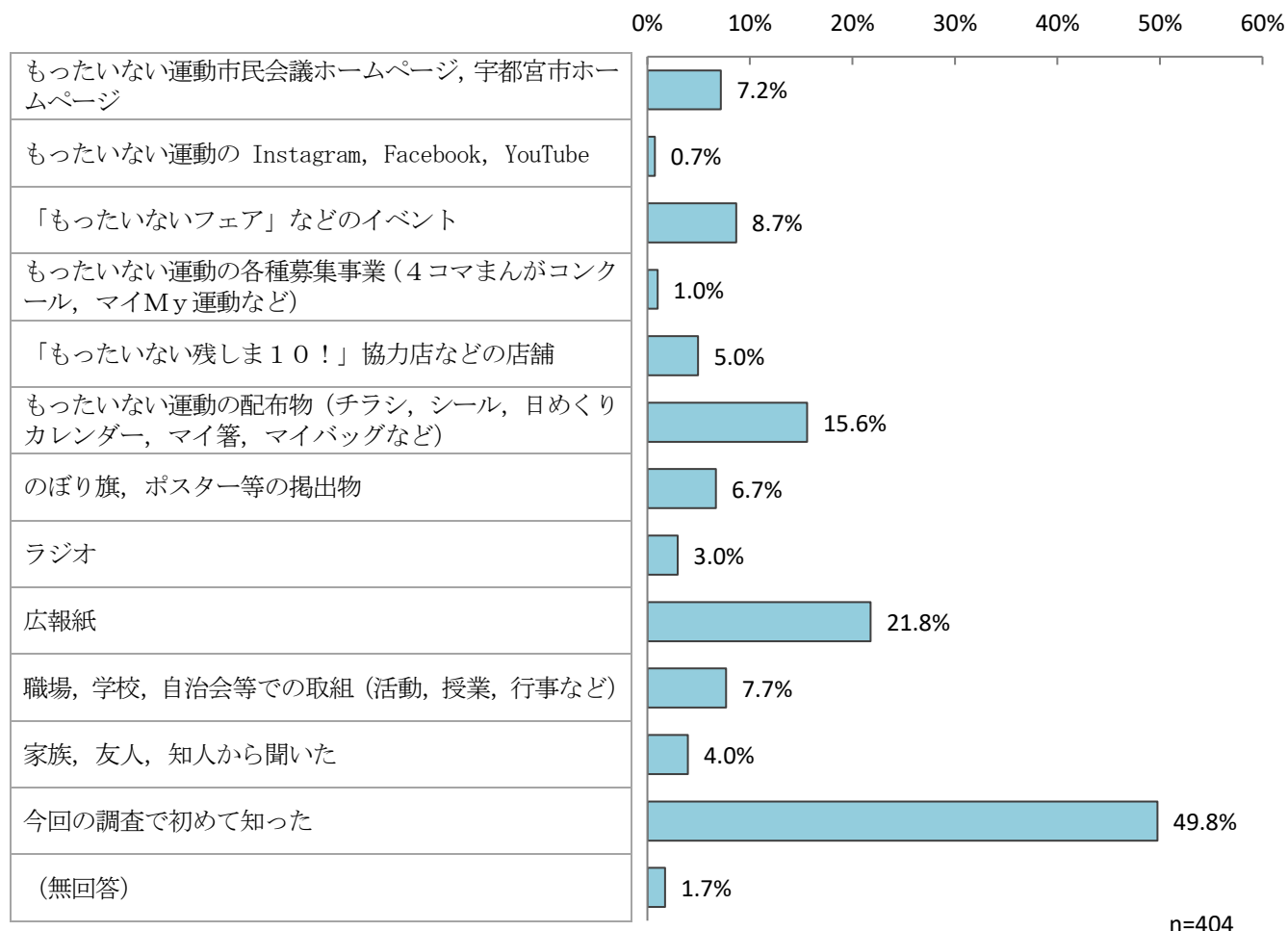
26. 「もったいない運動」について

(1) 「もったいない運動」を知った経緯

◇ 「今回の調査で初めて知った」が約5割

問87	「ひと」「もの」「まち」を大切にする本市独自の「もったいない運動」について、どのようにして知りましたか。	(〇はいくつでも)	n=404
1	もったいない運動市民会議ホームページ、宇都宮市ホームページ		7.2%
2	もったいない運動の Instagram, Facebook, YouTube		0.7%
3	「もったいないフェア」などのイベント		8.7%
4	もったいない運動の各種募集事業(4コマまんがコンクール, マイMy運動など)		1.0%
5	「もったいない残しま10!」協力店などの店舗		5.0%
6	もったいない運動の配布物(チラシ, シール, 日めくりカレンダー, マイ箸, マイバッグなど)		15.6%
7	のぼり旗, ポスター等の掲出物		6.7%
8	ラジオ		3.0%
9	広報紙		21.8%
10	職場, 学校, 自治会等での取組(活動, 授業, 行事など)		7.7%
11	家族, 友人, 知人から聞いた		4.0%
12	今回の調査で初めて知った		49.8%
	(無回答)		1.7%

<図IV-26-1>全体



「もったいない運動」について、どのようにして知ったかについては、「今回の調査で初めて知った」が49.8%で最も高く、次いで「広報紙」が21.8%、「もったいない運動の配布物（チラシ、シール、日めくりカレンダー、マイ箸、マイバッグなど）」が15.6%と続いている。（図IV-26-1）

<参考>

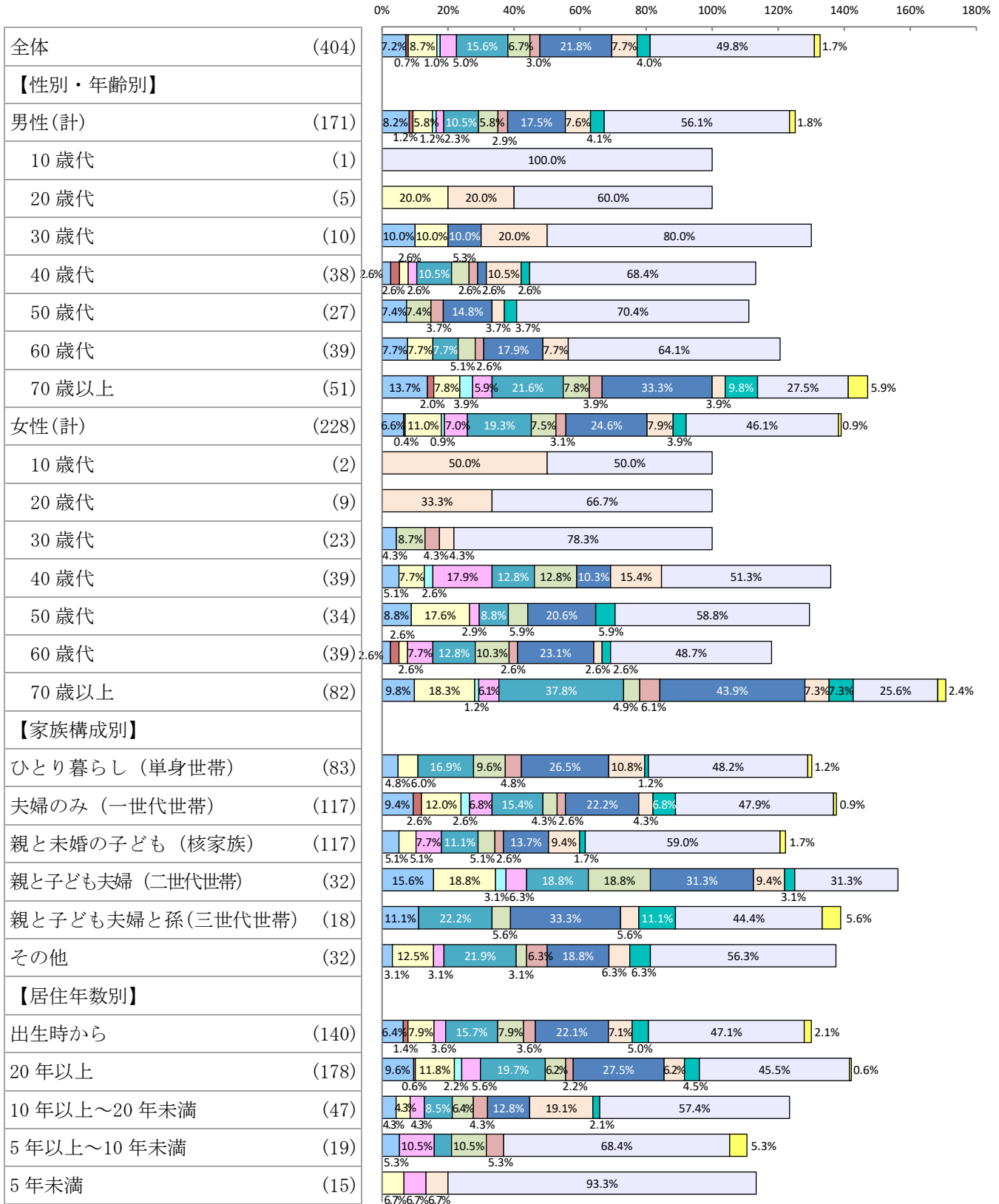
性別・年齢別でみると、「今回の調査で初めて知った」は<男性/30歳代>が80.0%、<女性/30歳代>が78.3%、「広報紙」は<女性/70歳以上>が43.9%、<男性/70歳以上>が33.3%であった。（図IV-26-2）

家族構成別でみると、「今回の調査で初めて知った」は、<その他>を除くと<親と未婚の子ども（核家族）>が59.0%で最も高く、次いで<ひとり暮らし（単身世帯）>が48.2%であった。「広報紙」は<親と子ども夫婦と孫（三世代世帯）>が33.3%で最も高く、次いで、<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が31.3%であった。（図IV-26-2）

居住年数別でみると、「今回の調査で初めて知った」は<5年未満>が93.3%で最も高く、次いで<5年以上～10年未満>が68.4%であった。「広報紙」は<20年以上>が27.5%で最も高く、次いで<出生時から>が22.1%であった。（図IV-26-2）

<図IV-26-2>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別

- もったいない運動市民会議ホームページ、宇都宮市ホームページ
- もったいない運動の Instagram, Facebook, YouTube
- 「もったいないフェア」などのイベント
- もったいない運動の各種募集事業(4コマまんがコンクール、マイMy運動など)
- 「もったいない残しま10!」協力店などの店舗
- もったいない運動の配布物(チラシ、シール、日めくりカレンダー、マイ箸、マイバッグなど)
- のぼり旗、ポスター等の掲出物
- ラジオ
- 広報紙
- 職場、学校、自治会等での取組(活動、授業、行事など)
- 家族、友人、知人から聞いた
- 今回の調査で初めて知った
- 無回答

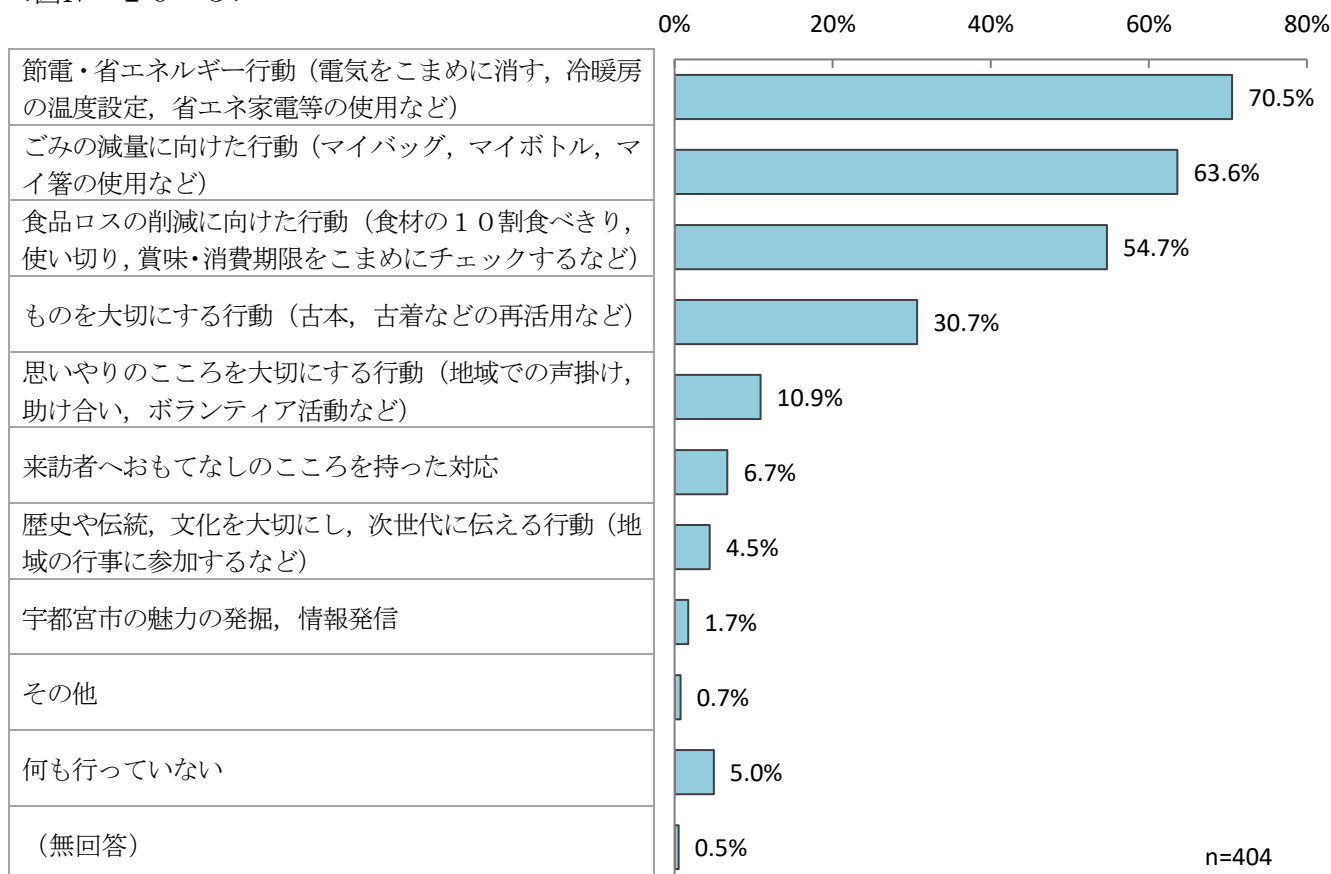


(2) 日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」

◇ 「節電・省エネルギー行動（電気をこまめに消す，冷暖房の温度設定，省エネ家電等の使用など）」
が約7割

問88 あなたが日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」はどのようなことですか。		
		(〇はいくつでも)
		n=404
1	節電・省エネルギー行動（電気をこまめに消す，冷暖房の温度設定，省エネ家電等の使用など）	70.5%
2	ごみの減量に向けた行動（マイバッグ，マイボトル，マイ箸の使用など）	63.6%
3	食品ロスの削減に向けた行動（食材の10割食べきり，使い切り，賞味・消費期限をこまめにチェックするなど）	54.7%
4	ものを大切にする行動（古本，古着などの再活用など）	30.7%
5	思いやりのところを大切にする行動（地域での声掛け，助け合い，ボランティア活動など）	10.9%
6	来訪者へおもてなしのこころを持った対応	6.7%
7	歴史や伝統，文化を大切にし，次世代に伝える行動（地域の行事に参加するなど）	4.5%
8	宇都宮市の魅力の発掘，情報発信	1.7%
9	その他	0.7%
10	何も行っていない (無回答)	5.0% 0.5%

<図IV-26-3>



日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」については、「節電・省エネルギー行動（電気をこまめに消す，冷暖房の温度設定，省エネ家電等の使用など）」が70.5%で最も高く，次いで「ごみの減量に向けた行動（マイバッグ，マイボトル，マイ箸の使用など）」が63.6%，「食品ロスの削減に向けた行動（食材の10割食べきり，使い切り，賞味・消費期限をこまめにチェックするなど）」が54.7%と続いている。

（図IV-26-3）

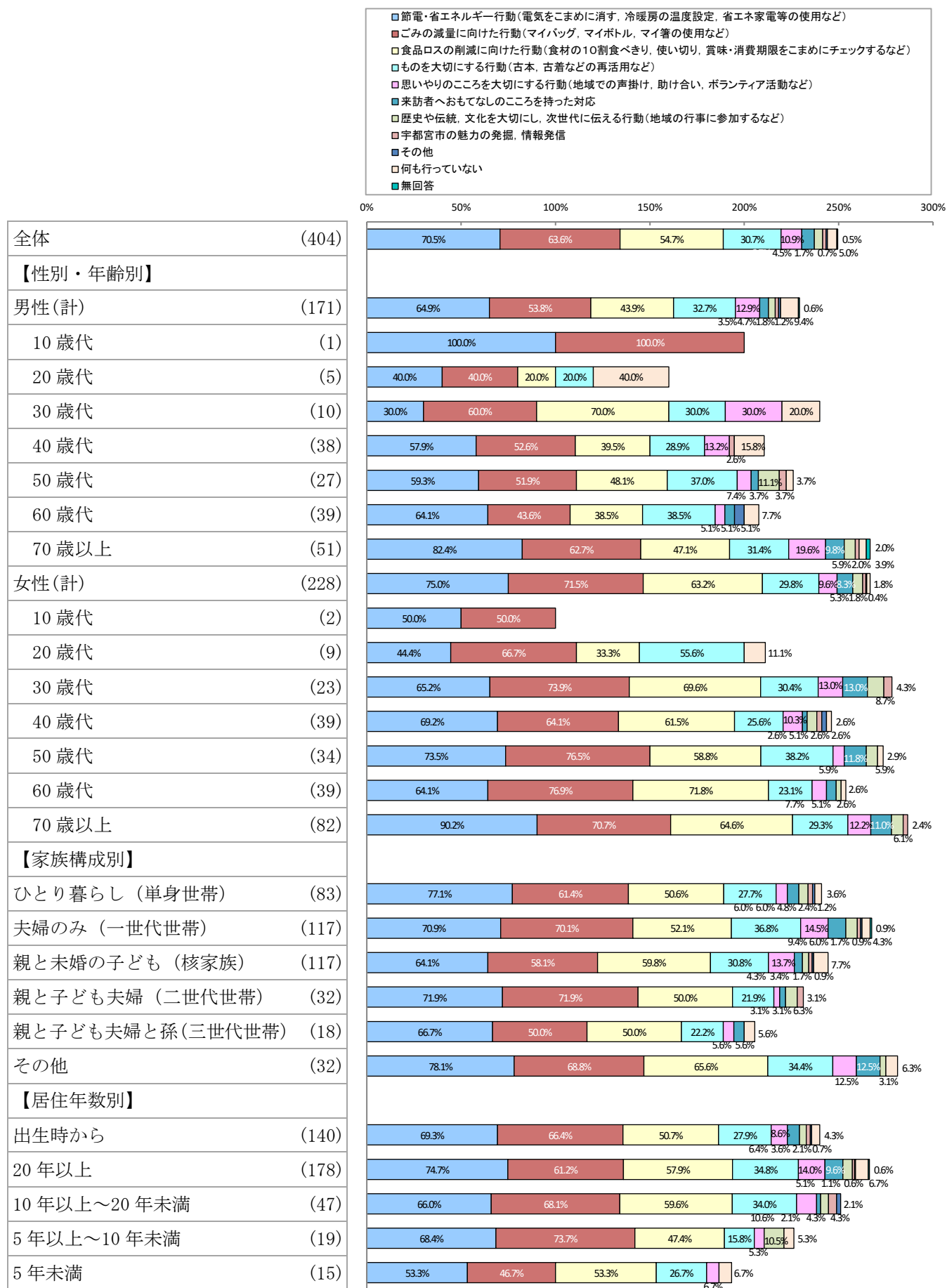
<参考>

性別・年齢別でみると，「節電・省エネルギー行動（電気をこまめに消す，冷暖房の温度設定，省エネ家電等の使用など）」は<女性/70歳以上>が90.2%，<男性/70歳以上>が82.4%であった。「ごみの減量に向けた行動（マイバッグ，マイボトル，マイ箸の使用など）」は<女性/60歳代>が76.9%，<女性/50歳代>が82.4%であった。（図IV-26-4）

家族構成別でみると，「節電・省エネルギー行動（電気をこまめに消す，冷暖房の温度設定，省エネ家電等の使用など）」は<その他>を除くと，<ひとり暮らし（単身世帯）>が77.1%で最も高く，次いで<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が71.9%であった。「ごみの減量に向けた行動（マイバッグ，マイボトル，マイ箸の使用など）」は<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が71.9%で最も高く，次いで<夫婦のみ（一世帯世帯）>が70.1%であった。（図IV-26-4）

居住年数別でみると，「節電・省エネルギー行動（電気をこまめに消す，冷暖房の温度設定，省エネ家電等の使用など）」は<20年以上>が74.7%で最も高く，次いで<出生時から>が69.3%であった。「ごみの減量に向けた行動（マイバッグ，マイボトル，マイ箸の使用など）」は<5年以上～10年未満>が73.7%で最も高く，次いで<10年以上～20年未満>が68.1%であった。（図IV-26-4）

<図IV-26-4>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別



27. 男女共同参画について

(1) 家事・育児・介護それぞれに費やした時間

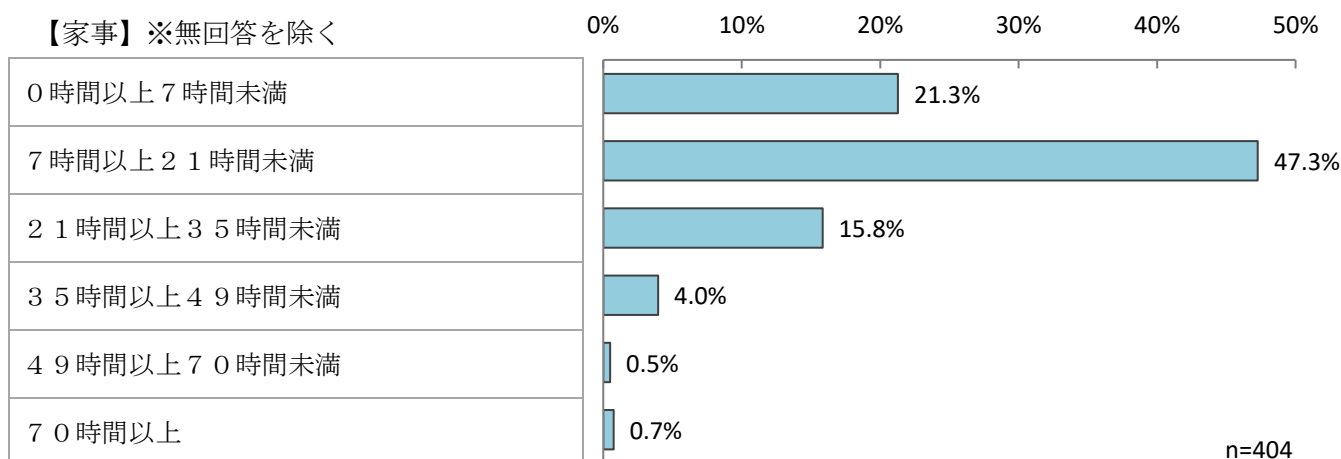
※月曜日から土曜日は1日3時間程度(3時間×6日=18時間)、日曜日は1日2時間程度(2時間×1日=2時間)を費やしている場合、回答は「20時間」となります。また、育児、介護について、対象者がいない場合は、「対象者なし」に○を付けてください。

◇【家事】は「7時間以上21時間未満」が5割弱

問89	1週間の生活の中で、家事・育児・介護におおよそどの程度の時間を費やしたかお答えください。	
	【家事】	n=404
1	0時間以上7時間未満	21.3%
2	7時間以上21時間未満	47.3%
3	21時間以上35時間未満	15.8%
4	35時間以上49時間未満	4.0%
5	49時間以上70時間未満	0.5%
6	70時間以上	0.7%
	(無回答)	10.4%

<図IV-27-1>全体

【家事】※無回答を除く



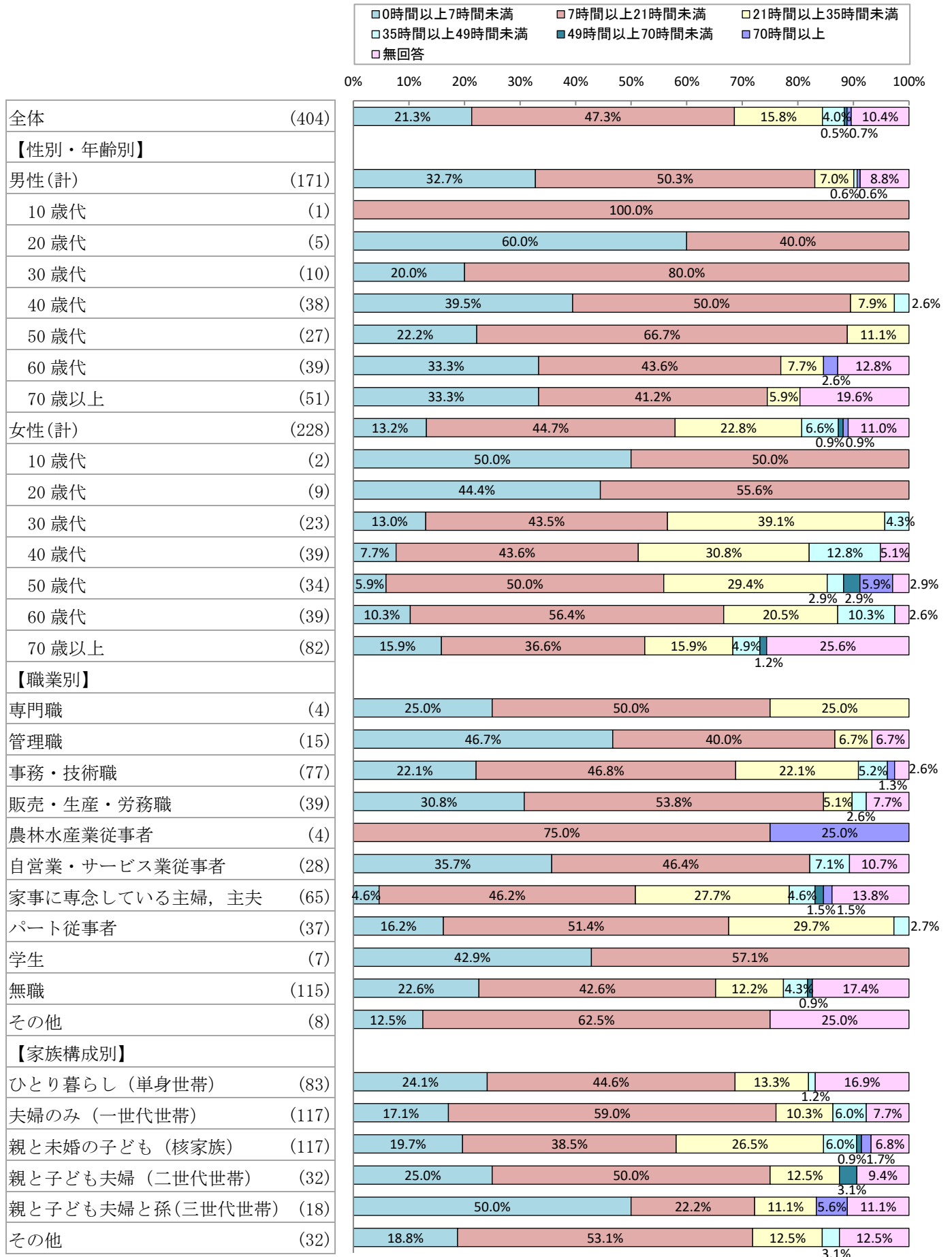
家事に費やした時間については、「7時間以上21時間未満」が47.3%で最も高く、次いで「0時間以上7時間未満」が21.3%、「21時間以上35時間未満」が15.8%であった。(図IV-27-1)

<参考>

性別・年齢別で見ると、「21時間以上35時間未満」と「35時間以上49時間未満」と「49時間以上70時間未満」と「70時間以上」を合わせた【21時間以上(計)】の割合は、男性で30歳代が0.0%、40歳代が10.5%、50歳代が11.1%であったのに対し、女性では、30歳代が43.4%、40歳代が48.7%、50歳代が44.0%であった。(図IV-27-2)

職業別で見ると、「家事に専念している主婦、主夫」で【21時間以上(計)】の割合が49.1%と高くなっており、また、家族構成別で見ると、「親と未婚の子ども(核家族)」で【21時間以上(計)】の割合が41.9%と最も高くなった。(図IV-27-2)

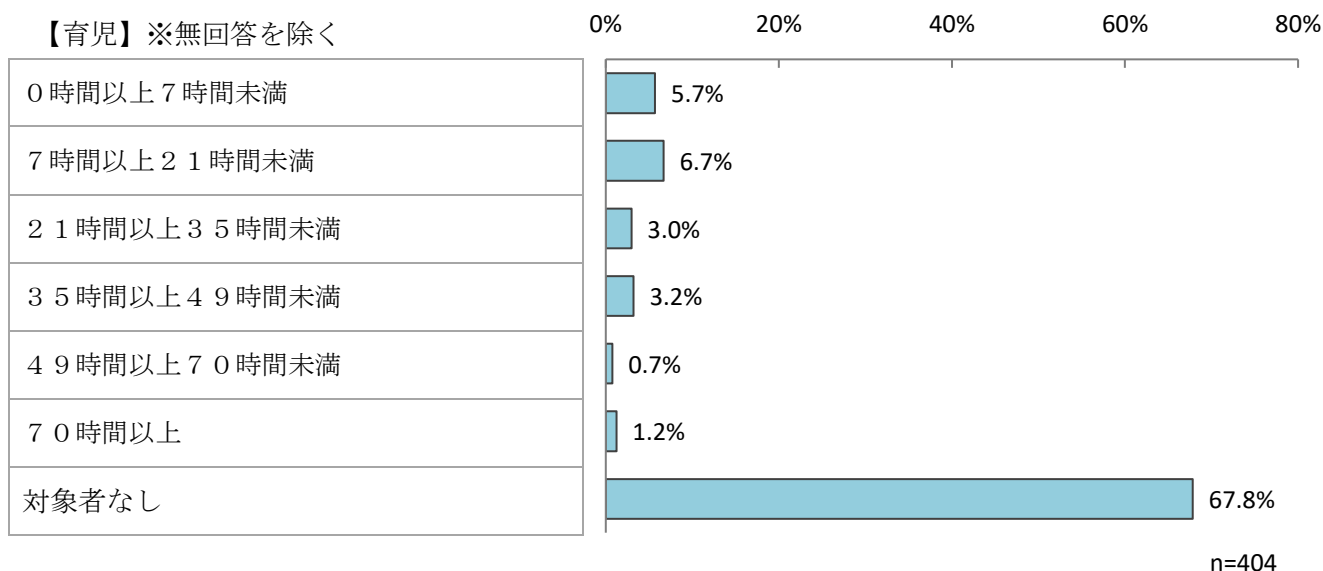
<図IV-27-2>性別・年齢別／職業別／家族構成別



◇ 【育児】は「7時間以上21時間未満」が約2割（「対象者なし」を除く）

【育児】		n=404
1	0時間以上7時間未満	5.7%
2	7時間以上21時間未満	6.7%
3	21時間以上35時間未満	3.0%
4	35時間以上49時間未満	3.2%
5	49時間以上70時間未満	0.7%
6	70時間以上	1.2%
7	対象者なし (無回答)	67.8% 11.6%

<図IV-27-3>全体



育児に費やした時間については、「対象者なし」を除くと、「7時間以上21時間未満」が6.7%で最も高く、次いで「0時間以上7時間未満」が5.7%であった。(図IV-27-3)

<参考>

年齢別で見ると、30歳代と40歳代において、「7時間以上21時間未満」と「21時間以上35時間未満」と「35時間以上49時間未満」と「49時間以上70時間未満」と「70時間以上」を合わせた【7時間以上(計)】の割合が高くなっており、性別で見ると「21時間以上35時間未満」と「35時間以上49時間未満」と「49時間以上70時間未満」と「70時間以上」を合わせた【21時間以上(計)】の割合について、男性で30歳代が10.0%、40歳代で10.6%であったのに対し、女性では、30歳代が52.1%、40歳代が35.9%であった。(図IV-27-4)

家族構成別で見ると、「親と未婚の子ども(核家族)」において、【21時間以上(計)】の割合が21.4%であり、次いで「親と子ども夫婦(二世帯世帯)」の9.3%、「親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)」の5.6%となっている。(図IV-27-4)

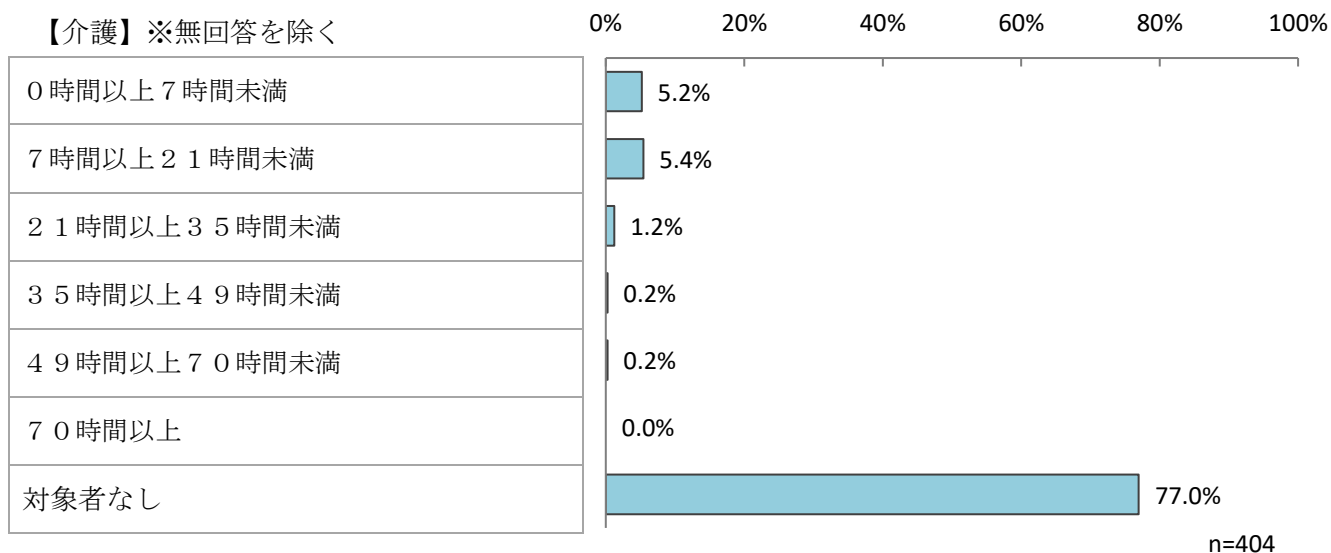
<図Ⅳ-27-4>性別・年齢別／職業別／家族構成別



◇ 【介護】は「7時間以上21時間未満」が2割半ば（「対象者なし」を除く）

【介護】		n=404
1	0時間以上7時間未満	5.2%
2	7時間以上21時間未満	5.4%
3	21時間以上35時間未満	1.2%
4	35時間以上49時間未満	0.2%
5	49時間以上70時間未満	0.2%
6	70時間以上	0.0%
7	対象者なし (無回答)	77.0% 10.6%

<図IV-27-5>全体



介護に費やした時間については、「対象者なし」を除くと、「7時間以上21時間未満」が5.4%、「0時間以上7時間未満」が5.2%であった。（図IV-27-5）

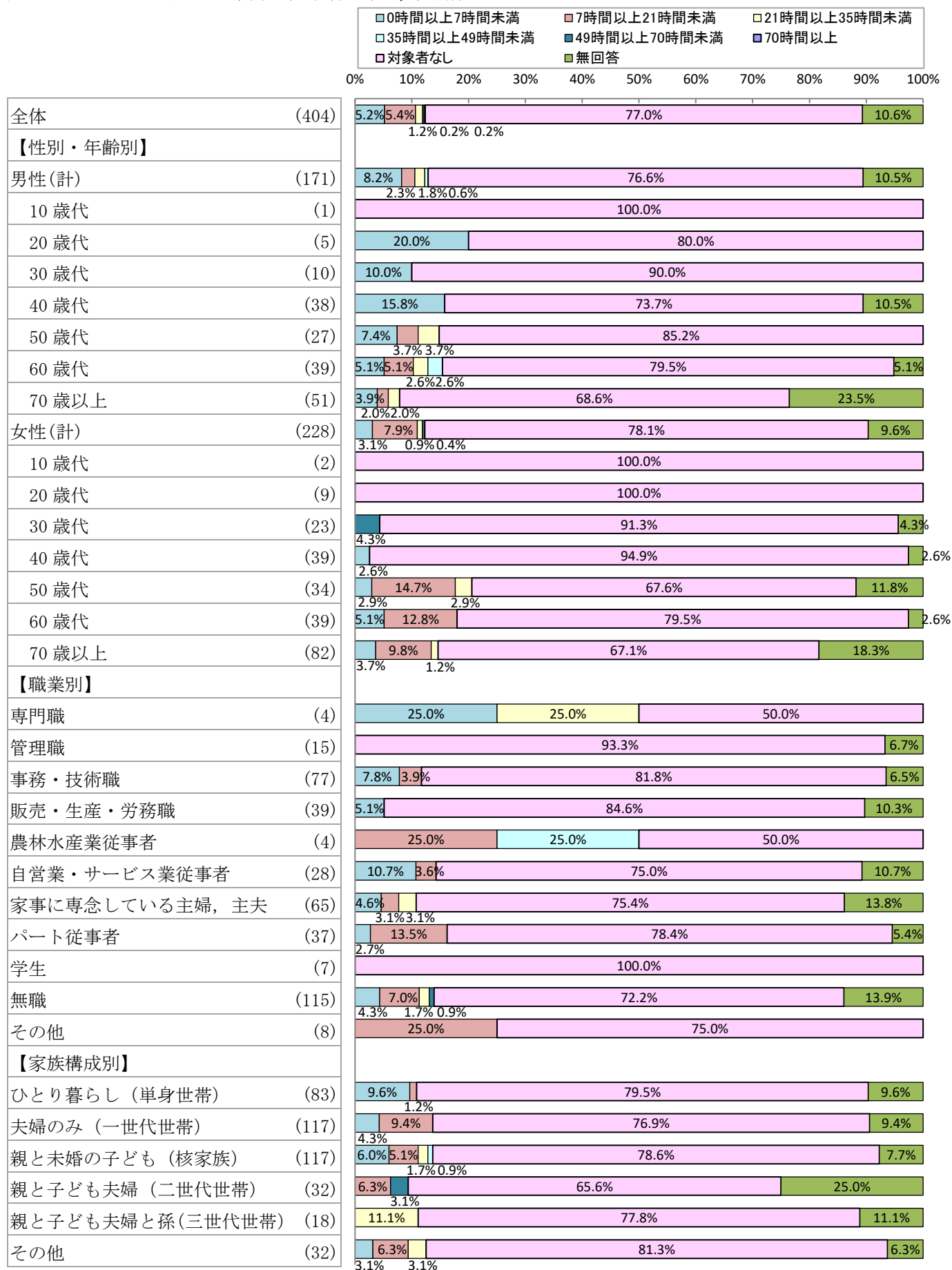
<参考>

性別・年齢別でみると、「7時間以上21時間未満」は<女性/50歳代>が14.7%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が12.8%であった。（図IV-27-6）

職業別でみると、「7時間以上21時間未満」は<その他>を除くと、<農林水産業従事者>が25.0%、<パート従事者>が13.5%であった。（図IV-27-6）

家族構成別でみると、「7時間以上21時間未満」は<その他>を除くと、<夫婦のみ（一世代世帯）>が9.4%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦（二世代世帯）>が6.3%であった。（図IV-27-6）

<図Ⅳ-27-6>性別・年齢別／職業別／家族構成別

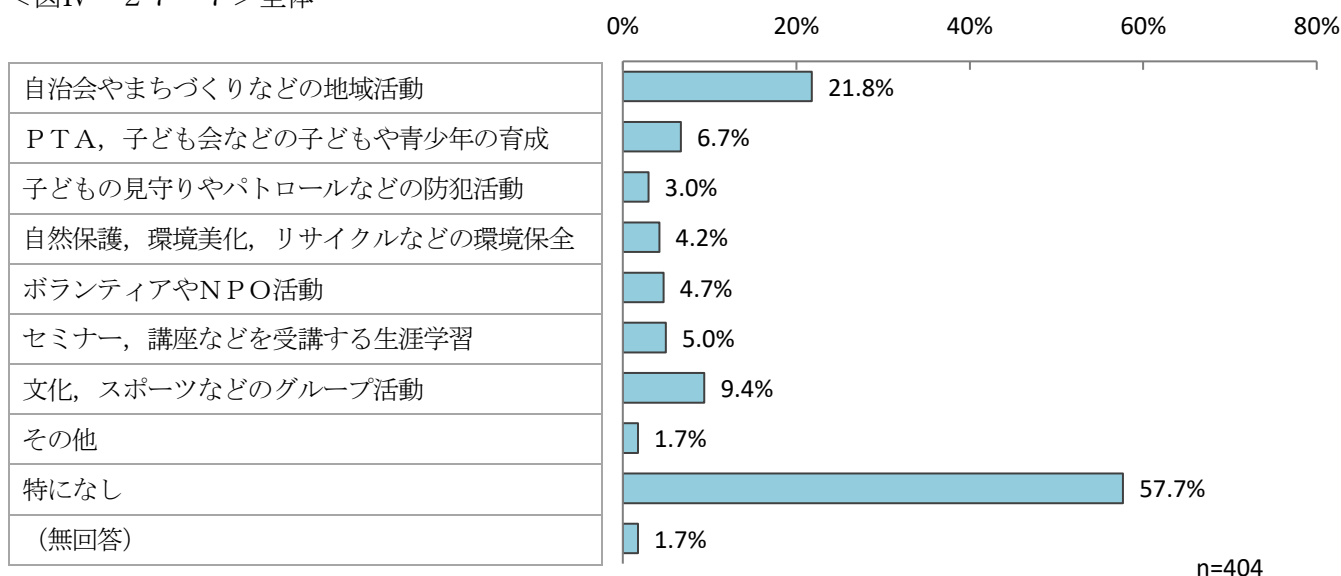


(2) 社会的な活動の実施状況

◇ 「特になし」が6割弱

問90	現在、地域などで社会的な活動を行なっていますか。	(〇はいくつでも)
		n=404
1	自治会やまちづくりなどの地域活動	21.8%
2	P T A, 子ども会などの子どもや青少年の育成	6.7%
3	子どもの見守りやパトロールなどの防犯活動	3.0%
4	自然保護, 環境美化, リサイクルなどの環境保全	4.2%
5	ボランティアやN P O活動	4.7%
6	セミナー, 講座などを受講する生涯学習	5.0%
7	文化, スポーツなどのグループ活動	9.4%
8	その他	1.7%
9	特になし	57.7%
	(無回答)	1.7%

<図IV-27-7>全体



社会的な活動を行っているかについては、「特になし」が57.7%であった。社会的な活動を行っている中では、「自治会やまちづくりなどの地域活動」が21.8%で最も高く、次いで「文化、スポーツなどのグループ活動」が9.4%と続いている。(図IV-27-7)

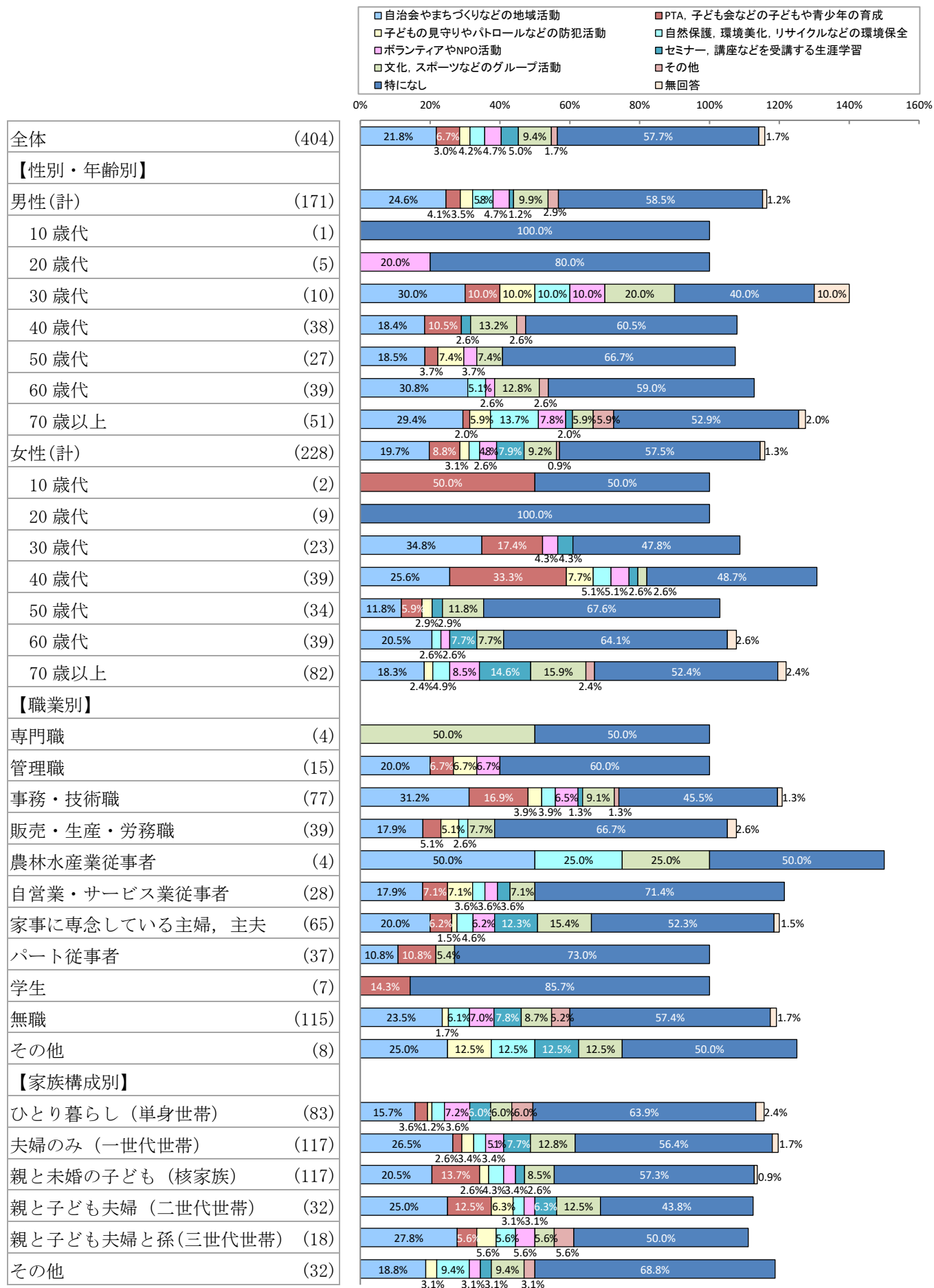
<参考>

性別・年齢別でみると、「特になし」は<男性/10歳代><女性/20歳代>が100.0%、<男性/20歳代>が80.0%であった。「自治会やまちづくりなどの地域活動」は<女性/30歳代>が34.8%、<男性/60歳代>が30.8%、<男性/70歳以上>が29.4%であった。(図IV-27-8)

職業別でみると、「特になし」は<学生>が85.7%、<パート従事者>が73.0%であった。「自治会やまちづくりなどの地域活動」は<農林水産業従事者>が50.0%、<事務・技術職>が31.2%であった。(図IV-27-8)

家族構成別でみると、「特になし」は<その他>を除くと、<ひとり暮らし(単身世帯)>が63.9%、親と未婚の子ども(核家族)>が57.3%であった。「自治会やまちづくりなどの地域活動」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が27.8%、<夫婦のみ(一世代世帯)>が26.5%であった。(図IV-27-8)

<図Ⅳ－２７－８>性別・年齢別／職業別／家族構成別



(3) 配偶者からの暴力を受けた経験

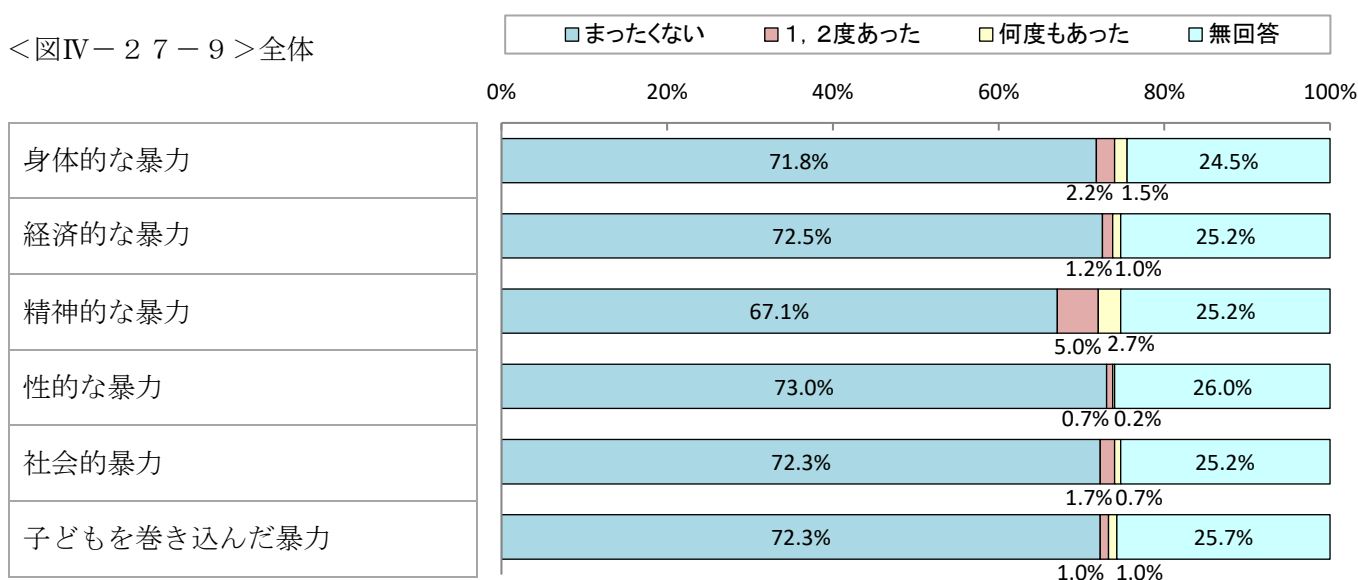
◇ 「何度もあった」と「1, 2度あった」を合わせた【経験あり(計)】は, 「精神的な暴力」が1割弱

問9 1 過去1年間に配偶者から次のような暴力を受けたことがありますか。
(それぞれ項目ごとに○は1つ)

n=404

	項目	まったく ない	1, 2度 あった	何度も あった	無回答
1	身体的な暴力(殴る・蹴る・つねる・髪を引っ張る・物を投げつけるなど)	71.8%	2.2%	1.5%	24.5%
2	経済的な暴力(生活費を渡さない・給料や貯金を勝手に使われる・仕事をさせないなど)	72.5%	1.2%	1.0%	25.2%
3	精神的な暴力(言葉や態度で侮辱する・どなったり脅したりする・何を言っても無視する・別れるなら死ぬ, 又は殺すと言うなど)	67.1%	5.0%	2.7%	25.2%
4	性的な暴力(性行為を強要する・避妊に協力しない・無理やりアダルト動画を見せる・中絶を強要するなど)	73.0%	0.7%	0.2%	26.0%
5	社会的暴力(実家や友人との付き合いを制限する・携帯電話や郵便物を勝手に見る・外出を制限する・行動を監視するなど)	72.3%	1.7%	0.7%	25.2%
6	子どもを巻き込んだ暴力(子どもの前で「バカだ」「親の資格がない」などと非難する・「子どもに危害を加える」と言って脅すなど)	72.3%	1.0%	1.0%	25.7%

<図IV-27-9>全体



n=404

過去1年間に配偶者からの暴力を受けた経験については、「何度もあった」と「1, 2度あった」を合わせた【経験あり(計)】の割合は、「精神的な暴力」が7.7%で最も高く、次いで「身体的な暴力」が3.7%、「社会的暴力」が2.4%、「経済的な暴力」が2.2%であった。(図IV-27-9)

<参考>

さらに暴力の種類ごとに性別・年齢別でみると【経験あり(計)】が最も多かったのは、「精神的な暴力」で<女性/40歳代>が20.6%で最も高く、「身体的な暴力」は<男性/40歳代>が7.9%、「社会的暴力」は、<男性/40歳代>と<女性/60歳代>が5.2%、「経済的な暴力」は<女性/50歳代>が5.8%であった。(図IV-27-10～図IV-27-15)

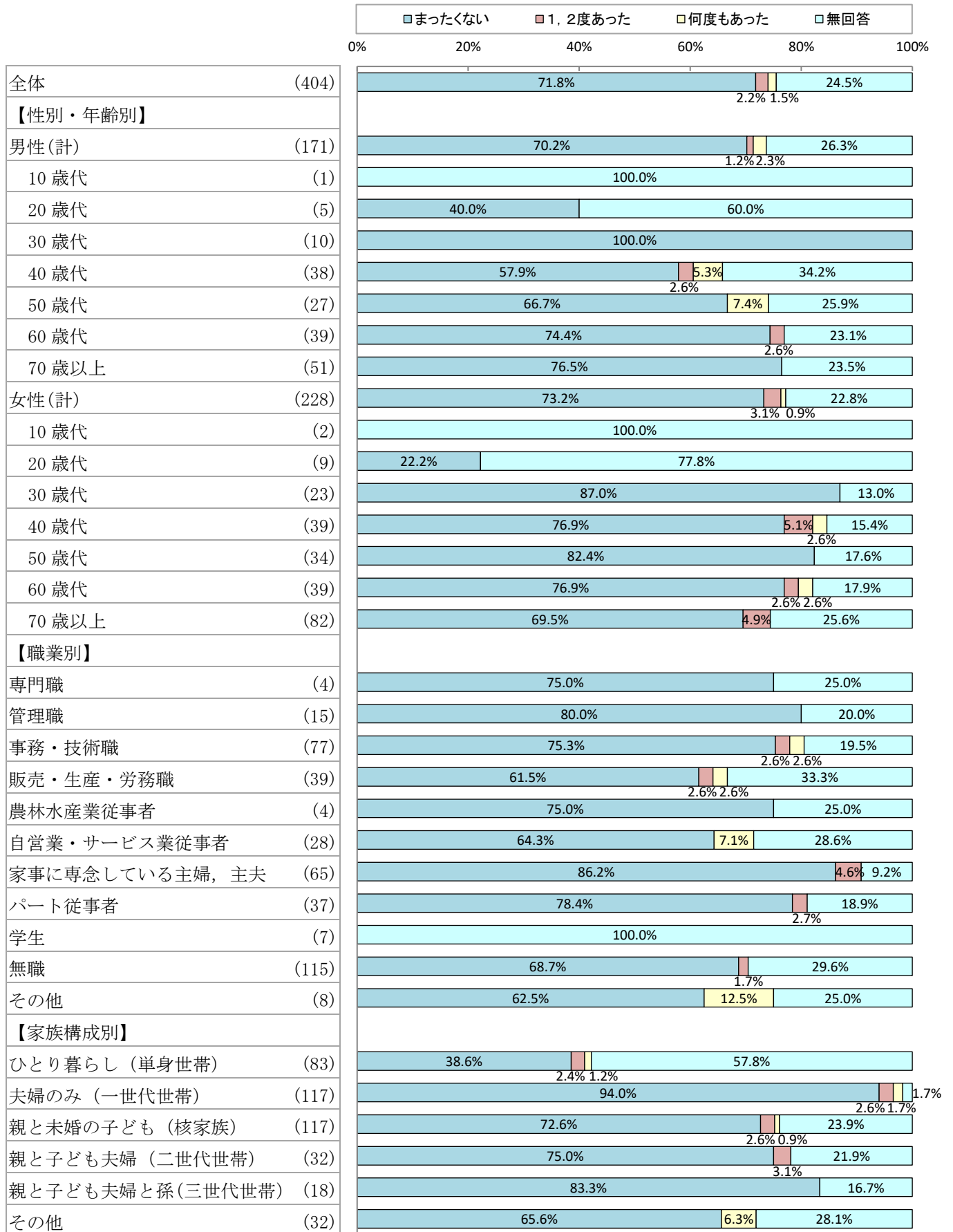
暴力を受けたことがある(総合)について性別でみると、【経験あり(計)】は<女性>が3.9%、<男性>が2.4%で<女性>が高かった。性別・年齢別でみると、【経験あり(計)】は<女性/40歳代>が7.3%で最も高かった。(図IV-27-16 総合)

暴力を受けたことがある(総合)について職業別でみると、【経験あり(計)】は<その他>を除くと、<販売・生産・労務職>が4.7%で最も高かった。(図IV-27-16 総合)

暴力を受けたことがある(総合)について家族構成別でみると、【経験あり(計)】は<その他>を除くと、<夫婦のみ(一世代世帯)>が3.9%で最も高かった。(図IV-27-16 総合)

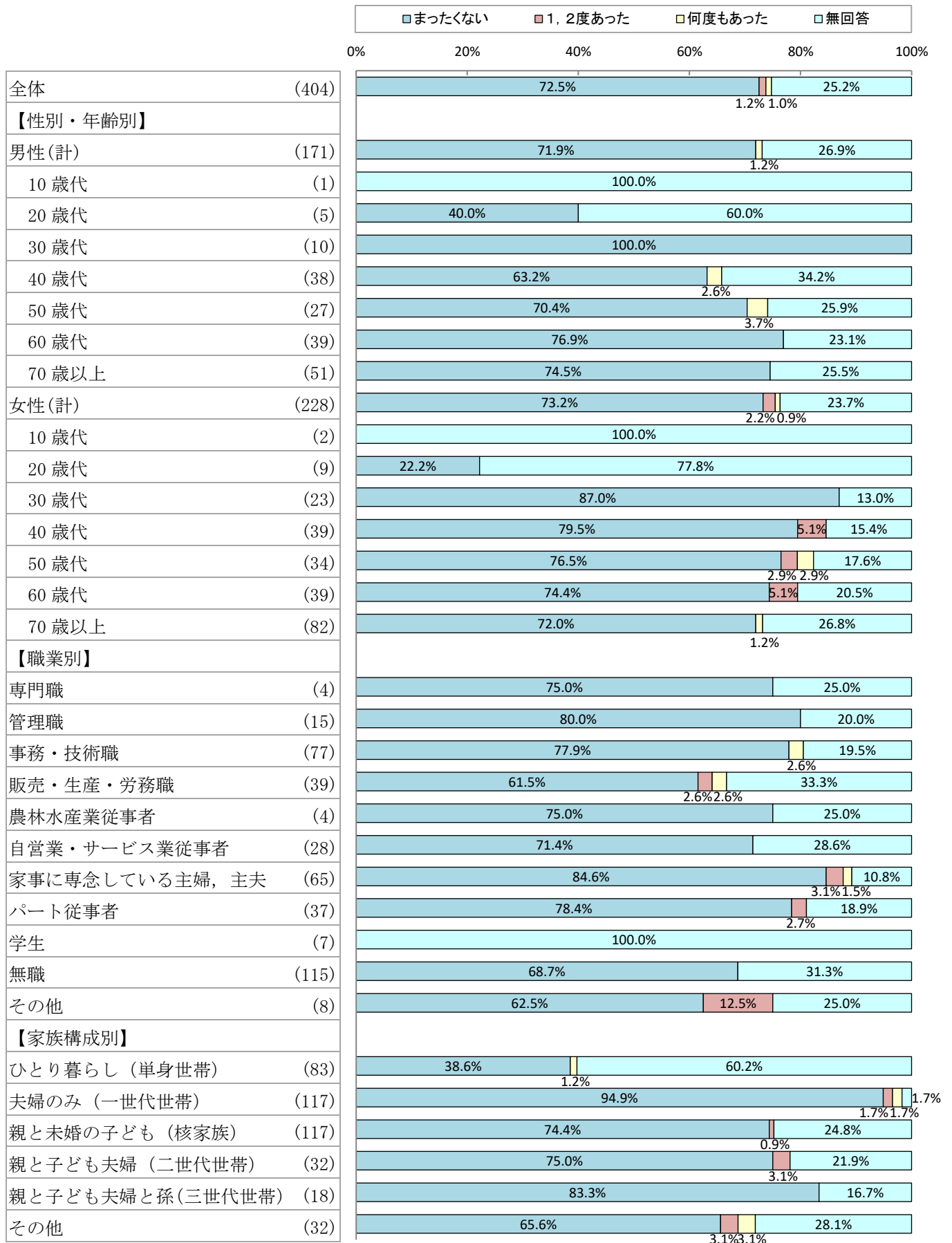
①身体的な暴力

<図Ⅳ-27-10>性別・年齢別／職業別／家族構成別



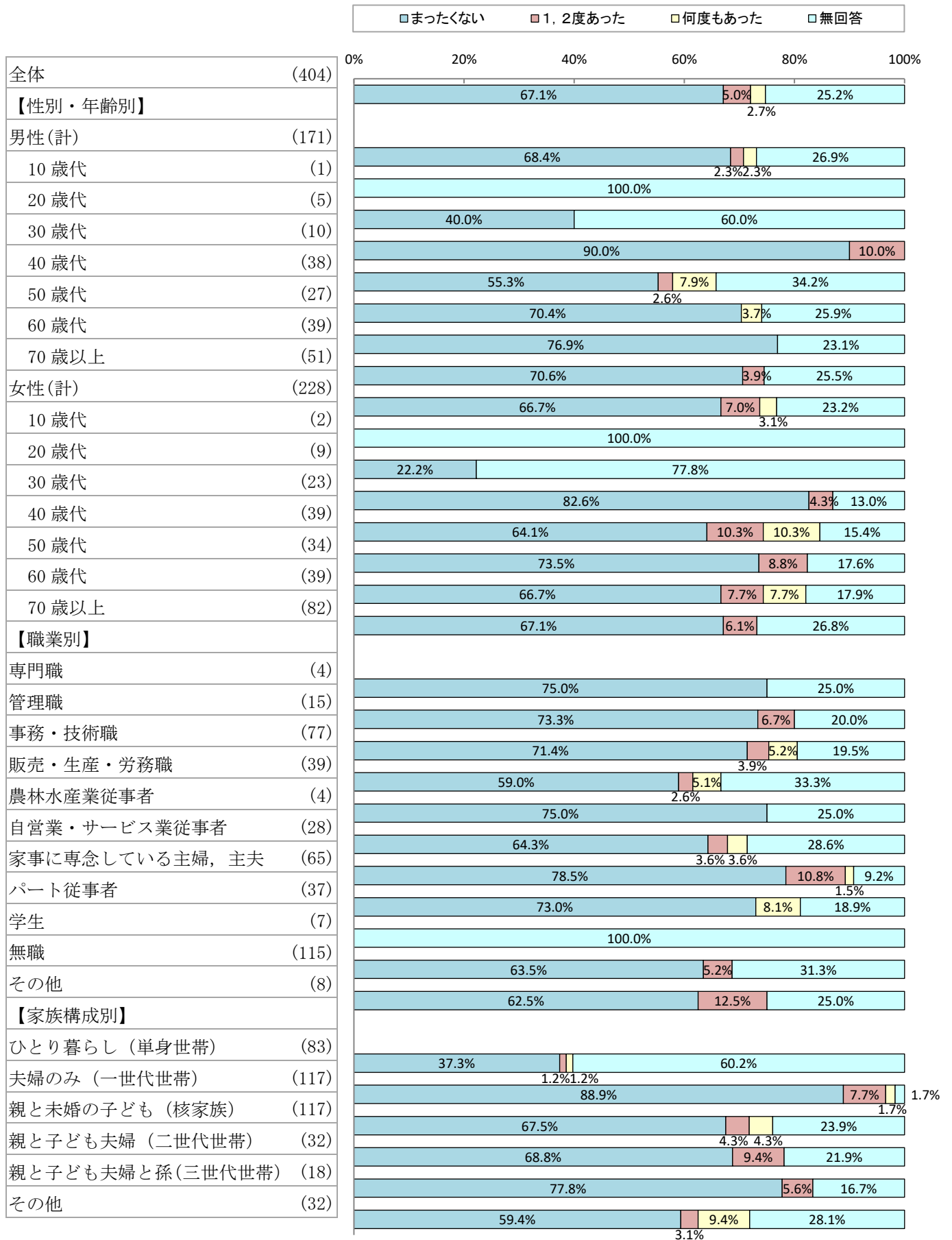
②経済的な暴力

<図Ⅳ－２７－１１>性別・年齢別／職業別／家族構成別



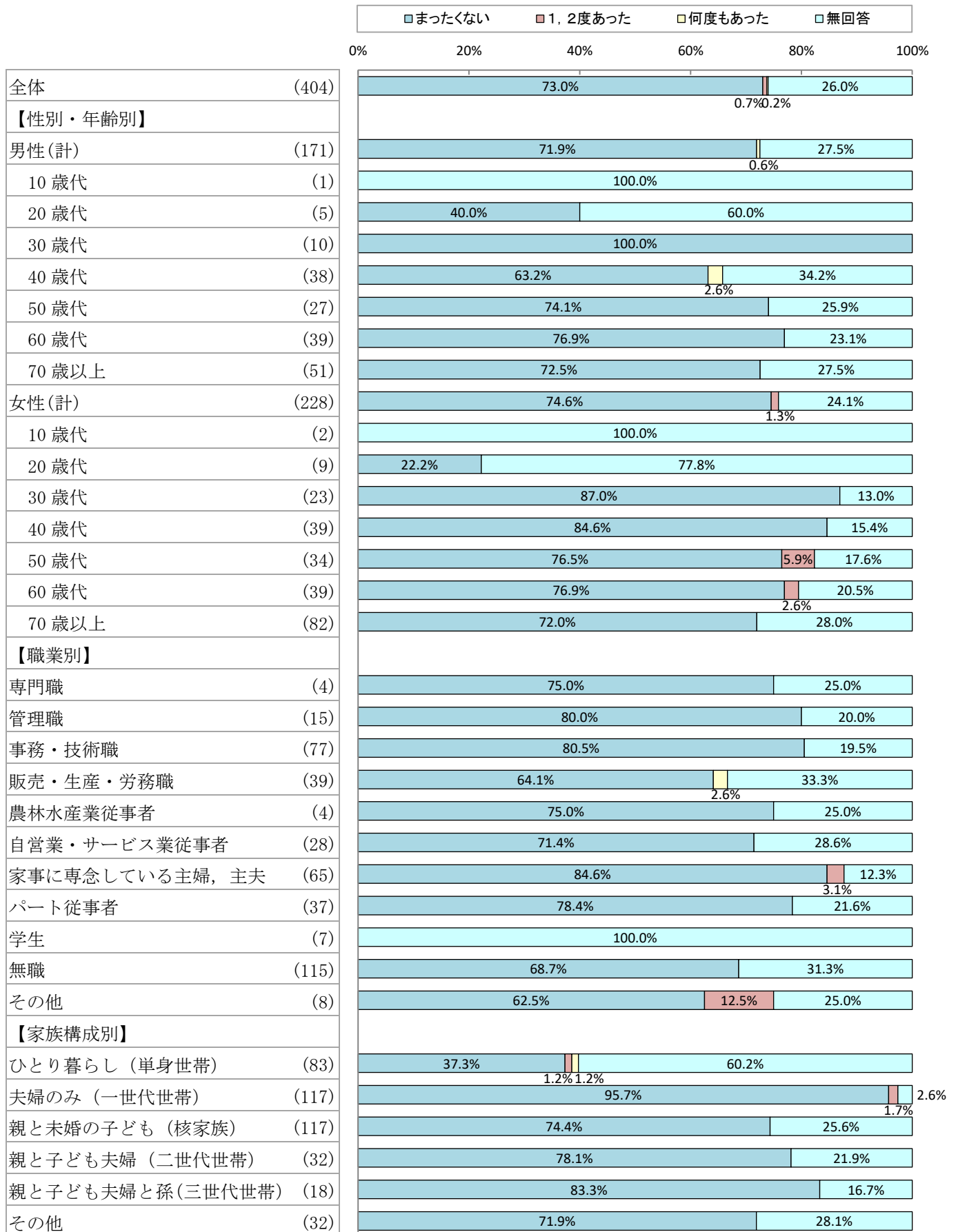
③精神的な暴力

<図Ⅳ－２７－１２>性別・年齢別／職業別／家族構成別



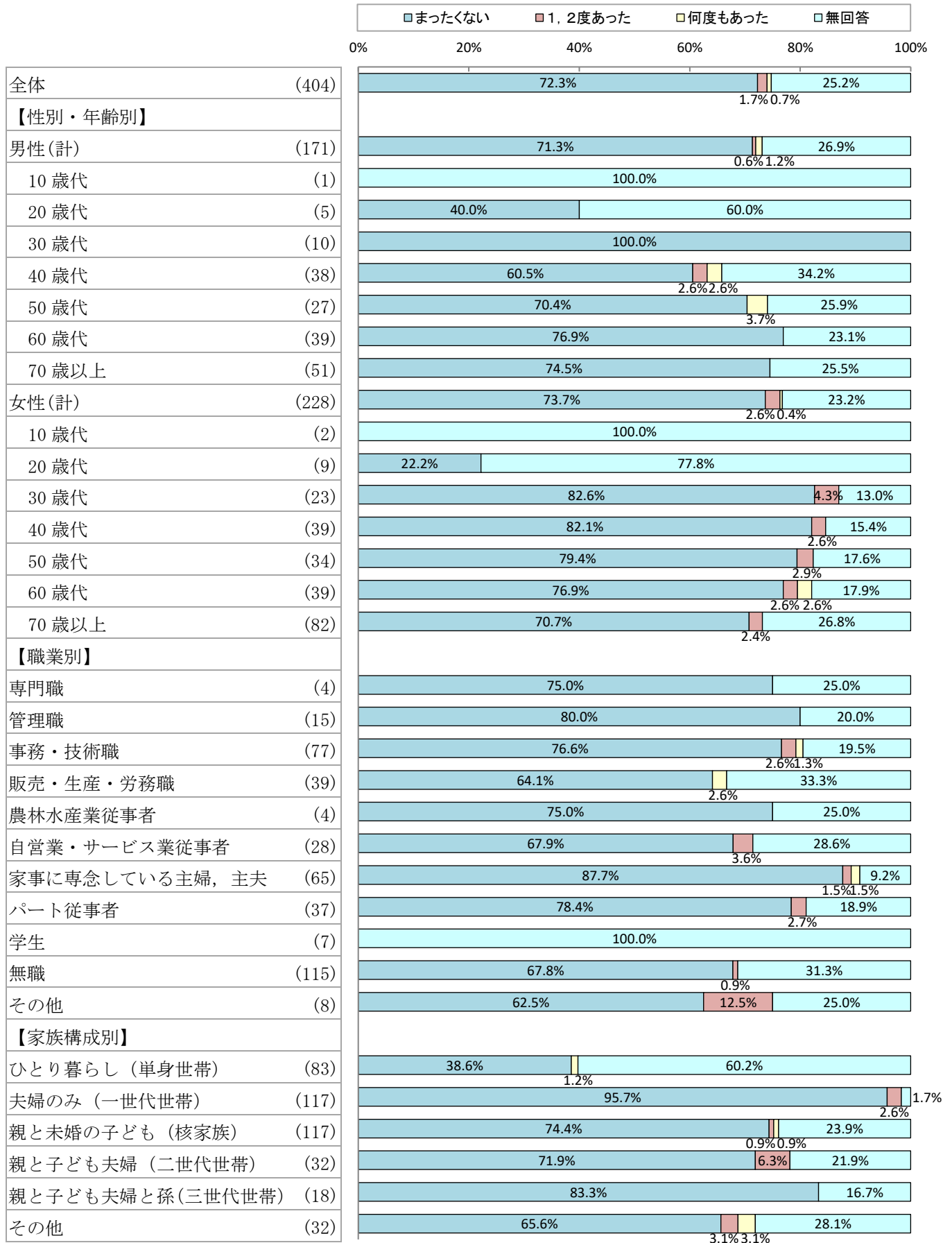
④性的な暴力

<図Ⅳ－２７－１３>性別・年齢別／職業別／家族構成別



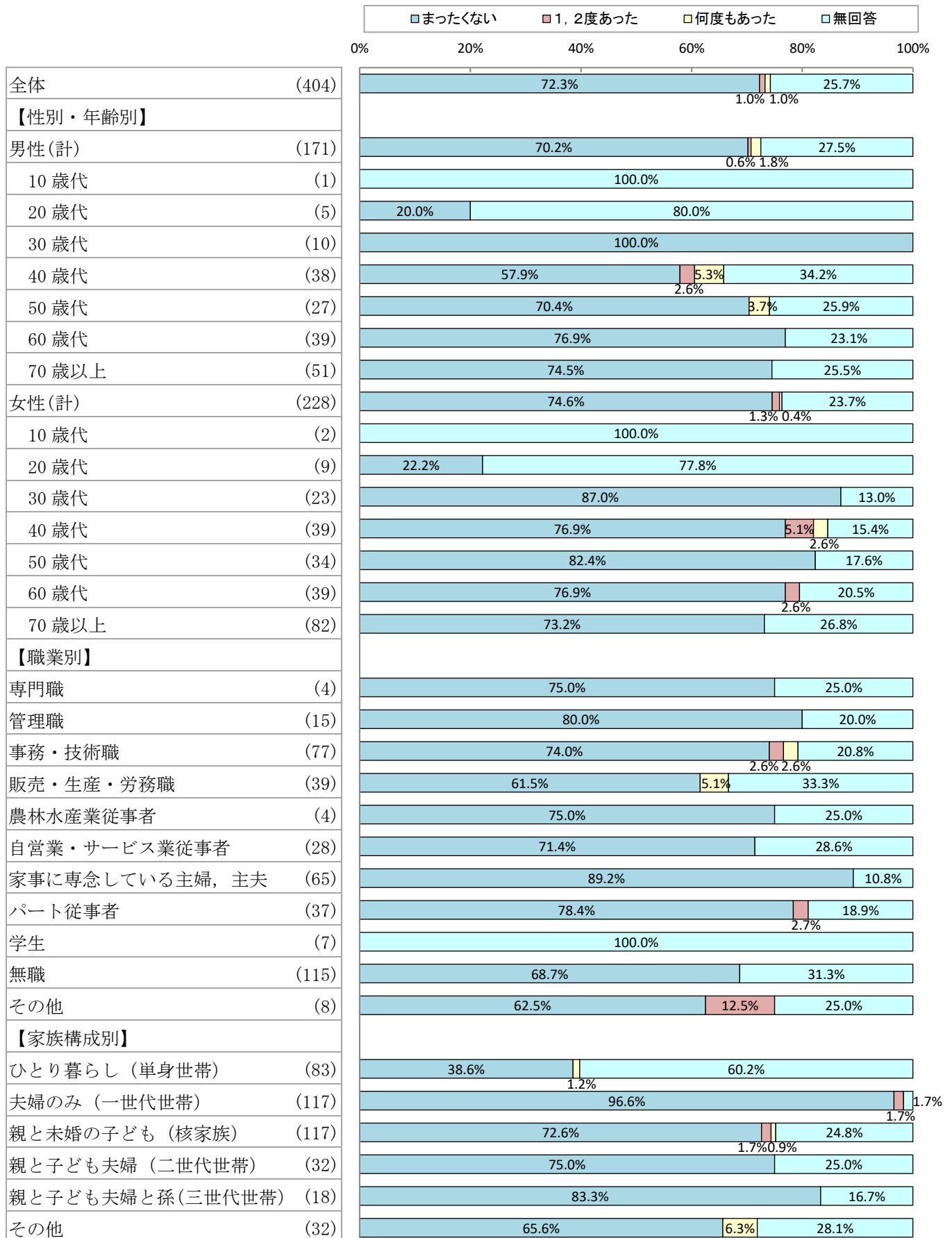
⑤社会的暴力

<図Ⅳ－２７－１４>性別・年齢別／職業別／家族構成別



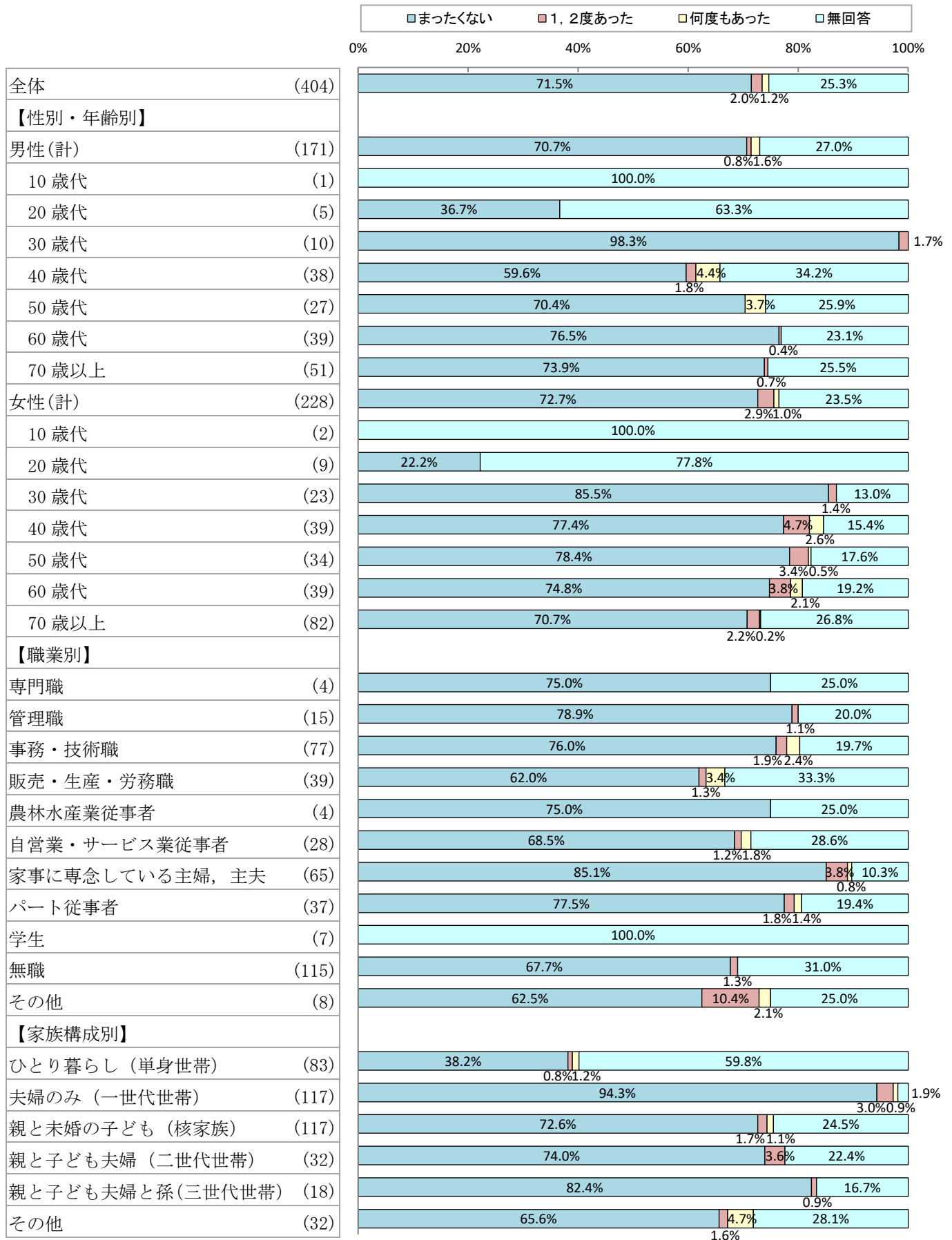
⑥子どもを巻き込んだ暴力

<図Ⅳ-27-15>性別・年齢別／職業別／家族構成別



⑦総合

<図Ⅳ-27-16>性別・年齢別／職業別／家族構成別



(4) LGBTQ (エルジービーティーキュー) の認知度

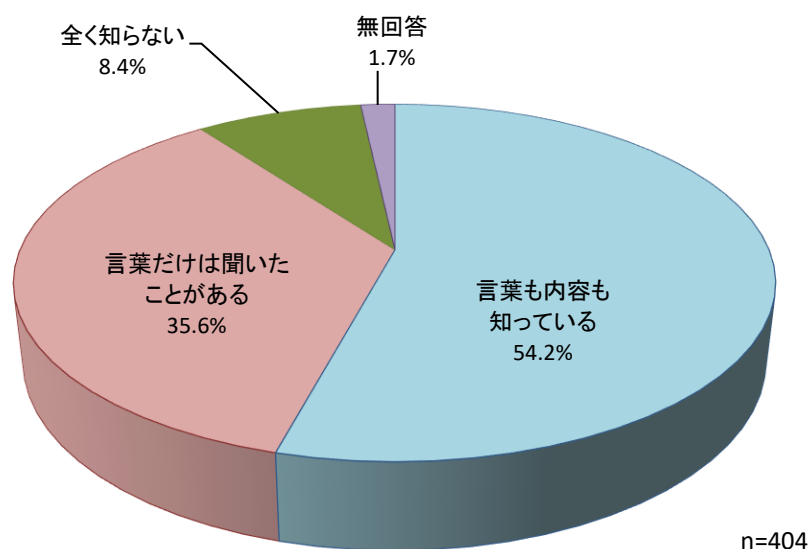
◇ 「言葉も内容も知っている」が5割半ば

問92 LGBTQ (エルジービーティーキュー) ※という言葉について聞いたことがありますか。
 ※L (レズビアン・女性同性愛者), G (ゲイ・男性同性愛者), B (バイセクシャル・両性愛者),
 T (トランスジェンダー・からだところの性が一致せず, 性別に違和感を覚える人), Q (クエ
 ストニング・性自認や性的指向が明確ではない人、探している人、決めかねている人/クイア・
 LGBTQに当てはまらない性的マイノリティや性的マイノリティを広範的に包括する概念) の
 5つの単語の頭文字をとった言葉で, 性的マイノリティ (性的少数者) を表す総称のひとつ
 (○は1つ)

n=404

1	言葉も内容も知っている	54.2%
2	言葉だけは聞いたことがある	35.6%
3	全く知らない	8.4%
	(無回答)	1.7%

<図IV-27-17>全体



LGBTQ (エルジービーティーキュー) の認知度については、「言葉も内容も知っている」が 54.2%で最も高く、次いで「言葉だけは聞いたことがある」が 35.6%、「全く知らない」が 8.4%であった。

(図IV-27-17)

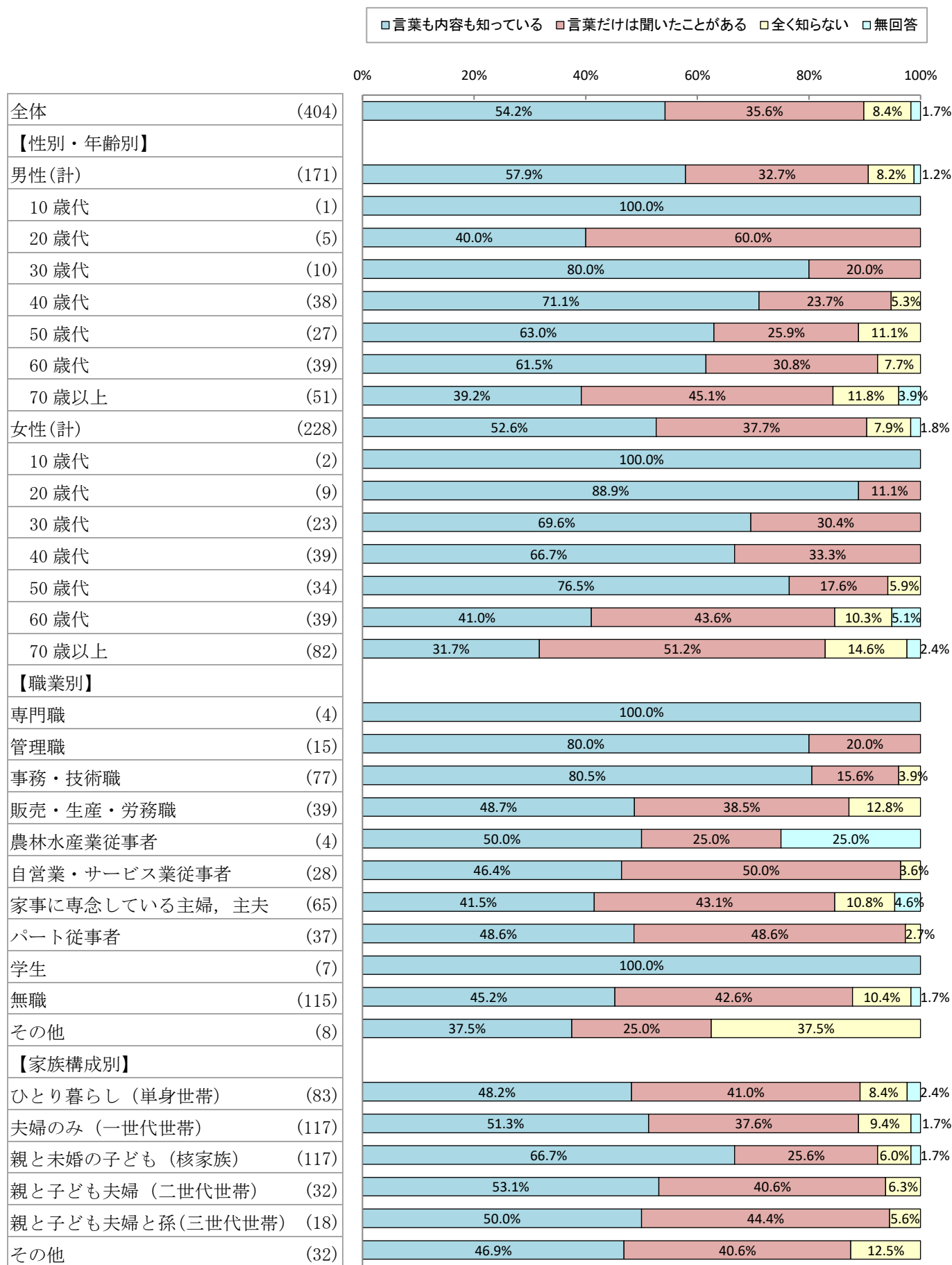
<参考>

性別・年齢別で見ると、「言葉も内容も知っている」は<男性/10歳代><女性/10歳代>が 100.0%、<女性/20歳代>が 88.9%であった。「言葉だけは聞いたことがある」は<男性/20歳代>が 60.0%、<女性/70歳以上>が 51.2%であった。(図IV-27-18)

職業別で見ると、「言葉も内容も知っている」は<専門職><学生>が 100.0%、<事務・技術職>が 80.5%であった。「言葉だけは聞いたことがある」は<自営業・サービス業従事者>が 50.0%、<パート従事者>が 48.6%であった。(図IV-27-18)

家族構成別で見ると、「言葉も内容も知っている」は<親と未婚の子ども(核家族)>が 66.7%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が 53.1%であった。「言葉だけは聞いたことがある」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が 44.4%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が 41.0%であった。(図IV-27-18)

<図Ⅳ－２７－１８>性別・年齢別／職業別／家族構成別



28. 防犯・交通安全に関する意識・状況について

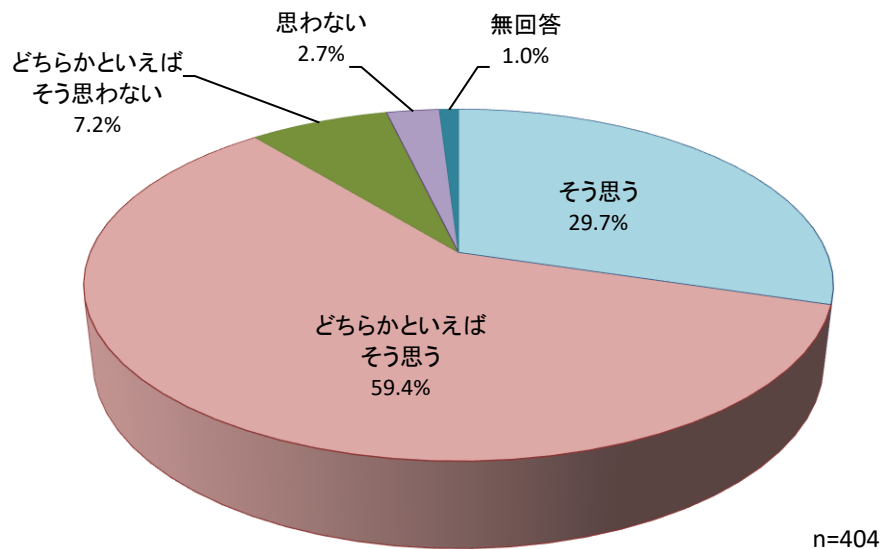
(1) 安心して暮らすことができているか

◇ 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う（計）】が約9割

問93 宇都宮市では、犯罪のない安全で安心なまちづくりを目指した取組を推進していますが、あなたは普段、宇都宮市で生活する中で、安心して暮らすことができていると思いますか。（○は1つ）

	n=404
1 そう思う	29.7%
2 どちらかといえばそう思う	59.4%
3 どちらかといえばそう思わない	7.2%
4 思わない	2.7%
(無回答)	1.0%

<図IV-28-1>全体



安心して暮らすことができているかについては、「そう思う」が29.7%、「どちらかといえばそう思う」が59.4%で、これらを合わせた【そう思う（計）】は89.1%であった。一方、「思わない」が2.7%、「どちらかといえばそう思わない」が7.2%で、これらを合わせた【思わない（計）】は9.9%であった。（図IV-28-1）

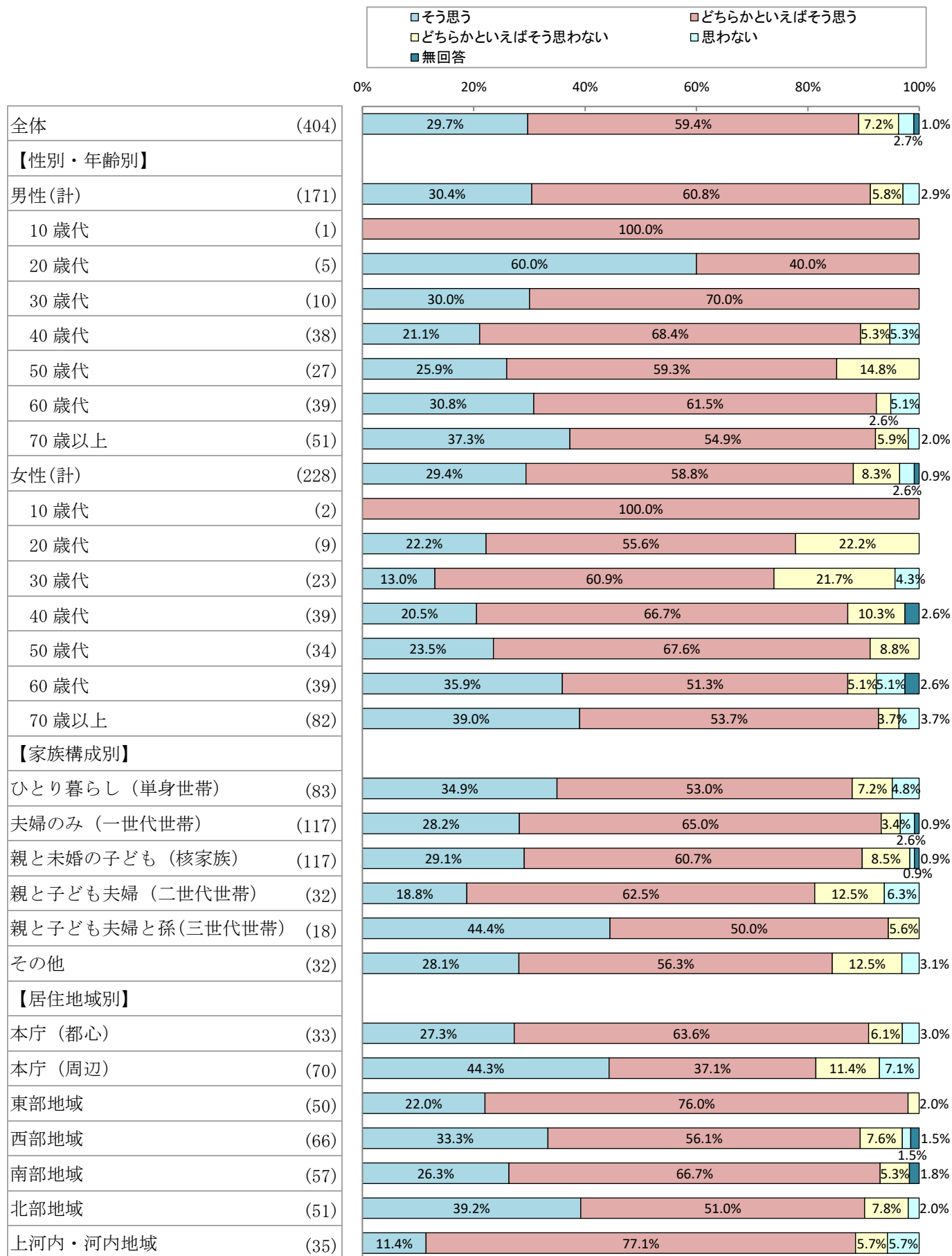
<参考>

性別・年齢別でみると、【そう思う（計）】は<男性/20歳代><男性/30歳代>が100.0%、<女性/70歳以上>が92.7%であった。【思わない（計）】は<女性/30歳代>が26.0%、<女性/20歳代>が22.2%であった。（図IV-28-2）

家族構成別でみると、【そう思う（計）】は<親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）>が94.4%で最も高く、次いで<夫婦のみ（一世帯世帯）>が93.2%であった。【思わない（計）】は<その他>を除くと、<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が18.8%で最も高く、次いで<ひとり暮らし（単身世帯）>が12.0%であった。（図IV-28-2）

居住地域別でみると、【そう思う（計）】は<東部地域>が98.0%で最も高く、次いで<南部地域>が93.0%であった。【思わない（計）】は、<本庁（周辺）>が18.5%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が11.4%であった。（図IV-28-2）

<図IV-28-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



(2) 自転車乗車用のヘルメットの所持および着用状況

◇ 「普段自転車を利用しておらず保有もしていない」が7割弱

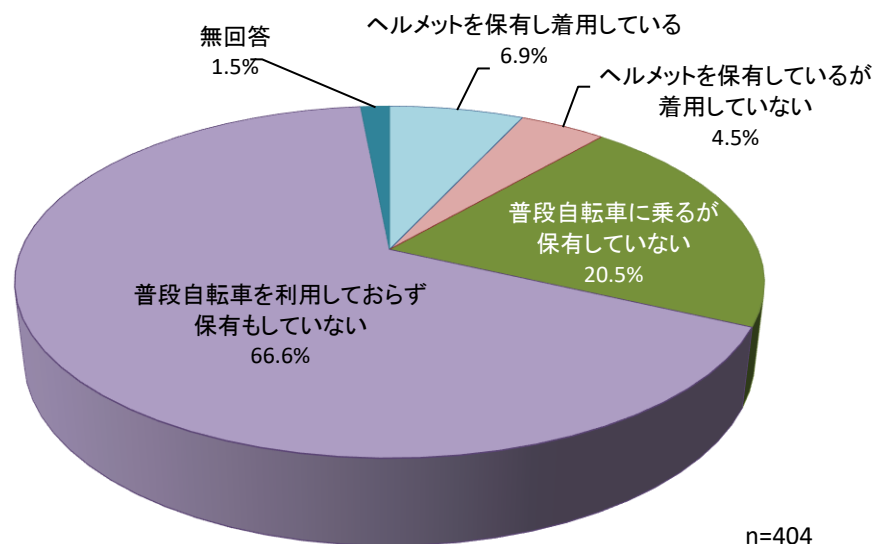
問9 4 自転車乗車中の交通事故で亡くなった人の「約6割」が頭部に致命傷を負っていることや、自転車乗車中の交通事故において、ヘルメットを着用していなかった人は着用していた人に比べて致死率が「約2.1倍」高くなっていることから、本市では自転車利用者のヘルメット着用を推進しています。

あなたは、自転車乗車用のヘルメットを持っていますか。また、自転車乗車中は着用していますか。
(○は1つ)

n=404

1	ヘルメットを保有し着用している	6.9%
2	ヘルメットを保有しているが着用していない	4.5%
3	普段自転車に乗るが保有していない	20.5%
4	普段自転車を利用しておらず保有もしていない	66.6%
	(無回答)	1.5%

<図IV-28-3>全体



自転車乗車用のヘルメットの所持および着用状況については、「普段自転車を利用しておらず保有もしていない」が66.6%で最も高く、次いで「普段自転車に乗るが保有していない」が20.5%であった。(図IV-28-3)

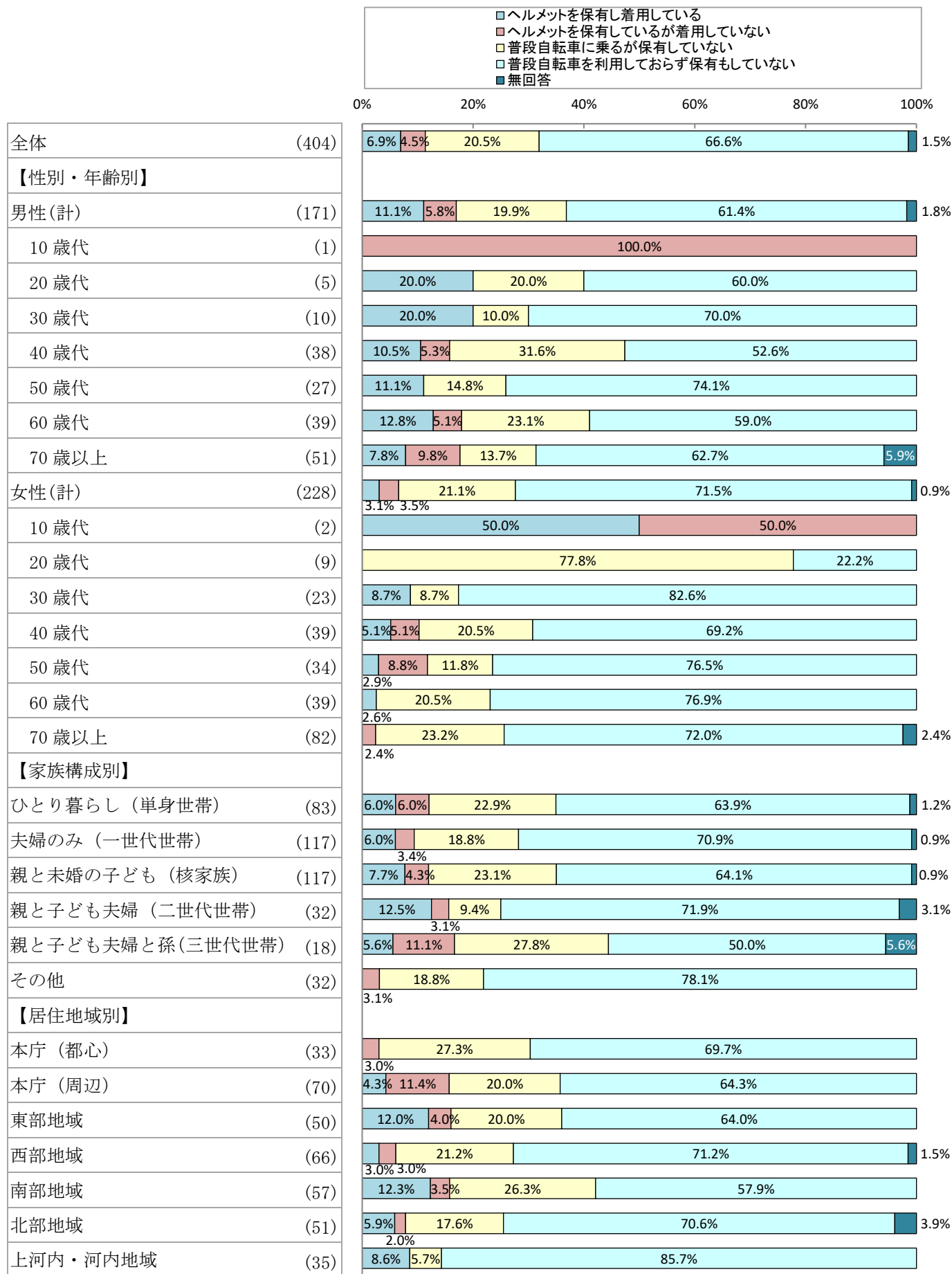
<参考>

性別・年齢別で見ると、「普段自転車を利用しておらず保有もしていない」は<女性/30歳代>が82.6%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が76.9%であった。「普段自転車に乗るが保有していない」は<女性/20歳代>が77.8%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が31.6%であった。(図IV-28-4)

家族構成別で見ると、「普段自転車を利用しておらず保有もしていない」は<その他>を除くと、<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が71.9%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が70.9%であった。「普段自転車に乗るが保有していない」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が27.8%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が23.1%であった。(図IV-28-4)

居住地域別で見ると、「普段自転車を利用しておらず保有もしていない」は<上河内・河内地域>が85.7%で最も高く、次いで<西部地域>が71.2%であった。「普段自転車に乗るが保有していない」は<本庁(都心)>が27.3%で最も高く、次いで<南部地域>が26.3%であった。(図IV-28-4)

<図IV-28-4>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

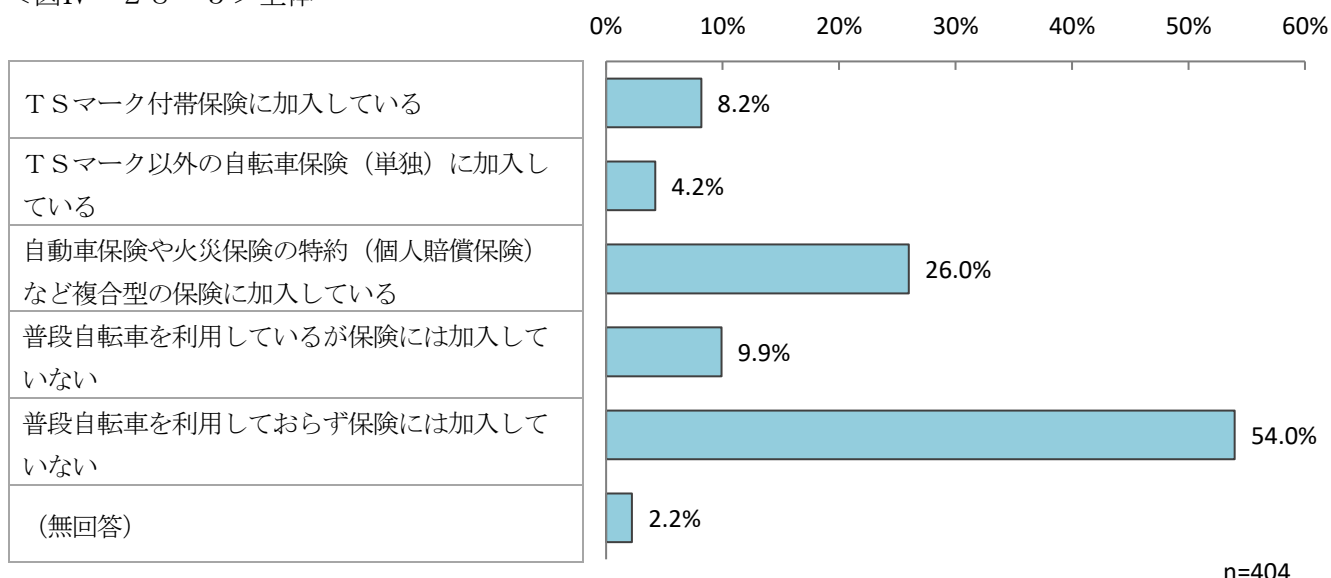


(3) 自転車保険の加入状況

◇ 「普段自転車を利用しておらず保険には加入していない」が5割半ば

問95	宇都宮市では、「交通事故のない社会」を目指し、総合的な交通安全対策を推進していますが、あなたは、自転車乗用中に事故を起こしたとき、相手のけがの治療費などを補償する保険（自転車保険）に加入していますか。 (〇はいくつでも)	n=404
1	TSマーク付帯保険に加入している	8.2%
2	TSマーク以外の自転車保険（単独）に加入している	4.2%
3	自動車保険や火災保険の特約（個人賠償保険）など複合型の保険に加入している	26.0%
4	普段自転車を利用しているが保険には加入していない	9.9%
5	普段自転車を利用しておらず保険には加入していない (無回答)	54.0% 2.2%

<図IV-28-5>全体



自転車保険の加入状況については、「普段自転車を利用しておらず保険には加入していない」が54.0%で最も高く、次いで「自動車保険や火災保険の特約（個人賠償保険）など複合型の保険に加入している」が26.0%であった。（図IV-28-5）

<参考>

性別・年齢別でみると、「普段自転車を利用しておらず保険には加入していない」は<女性/60歳代>が76.9%、<男性/50歳代>が66.7%であった。「自動車保険や火災保険の特約（個人賠償保険）など複合型の保険に加入している」は<男性/10歳代>が100.0%、<女性/20歳代>が66.7%であった。（図IV-28-6）

家族構成別でみると、「普段自転車を利用しておらず保険には加入していない」は<その他>を除くと、<夫婦のみ（一世代世帯）>が55.6%で最も高く、次いで<ひとり暮らし（単身世帯）><親と未婚の子ども（核家族）>が53.0%であった。「自動車保険や火災保険の特約（個人賠償保険）など複合型の保険に加入している」は<親と未婚の子ども（核家族）>が33.3%で最も高く、次いで<夫婦のみ（一世代世帯）>が29.1%であった。（図IV-28-6）

居住地域別でみると、「普段自転車を利用しておらず保険には加入していない」は<上河内・河内地域>が65.7%で最も高く、次いで<東部地域>が60.0%であった。「自動車保険や火災保険の特約（個人賠償保険）など複合型の保険に加入している」は<本庁（都心）>が30.3%で最も高く、次いで<南部地域>が29.8%であった。（図IV-28-6）

<図IV-28-6>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



V 調査結果の考察

V 調査結果の考察

宇都宮大学の中村祐司教授に御協力をいただき、専門的、客観的な立場から、各テーマについて、調査結果を考察していただきました。

●中村祐司教授のプロフィール●

1991年3月、早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程を満期退学し、早稲田大学人間科学部助手(1991年4月～1993年3月)を経て、1993年4月に宇都宮大学に赴任。博士(政治学)。2003年4月に宇都宮大学国際学部・大学院国際学研究科教授。2016年4月から宇都宮大学地域デザイン科学部教授。2019年4月から同大学院地域創生科学研究科教授(現在に至る)。

専門は行政学・地方自治。現在、うつのみや市政研究センター運営協議会委員など、主として栃木県内の地方自治体における審議会等の活動に積極的に従事している。単著に、『スポーツの行政学』(成文堂, 2006年), 『“とちぎ発” 地域社会を見るポイント100』(下野新聞新書, 2007年), 『スポーツと震災復興』(成文堂, 2016年), 『政策を見抜く10のポイント』(同, 2016年), 『危機と地方自治』(同, 2016年), 『2020年東京オリンピックの研究—メガ・スポーツイベントの虚と実—』(同, 2018年), 『2020年東京オリンピックを問う—自治の終焉, 統治の歪み—』(同, 2020年), 『2020年東京オリンピックの変質—コロナ禍で露呈した誤謬—』(同, 2021年), 『2020年東京オリンピックとは何だったのか—欺瞞の祭典が残したもの—』。共著に、『日本の公共経営』(北樹出版, 2014年), 『地方自治の基礎』(一藝社, 2017年) など多数。

1. 宇都宮市に対する感じ方について

「どちらかといえば好き」を含め、9割以上(91.9%。前年92.5%。前々年91.3%)が宇都宮市を「好き」と回答した。経年変化では9割を少し超える横ばい状況が続く。内訳は、「好き」が47.7%で、前年の45.8%。前々年42.0%から上昇傾向にある。一方、「どちらかといえば好き」は44.2%と前年(46.7%)、前々年(49.3%)から下降した。「どちらかといえば嫌い」から一気に「好き」に転じた回答者は少ないと思われるので、課題は、「どちらかといえば好き」から「好き」へどうシフトさせていくかである。割合は低いものの、「どちらかといえば嫌い」は4.7%で、前年(5.1%)や前々年(5.6%)よりも若干減る傾向にある。「嫌い」(0.6%。前年1.1%。前々年1.5%)についても同様である。好き派が9割台後半に達するのはなかなか難しい印象だ。

好きな理由としては、「自然災害の少なさ」(44.2%。前年50.8%。前々年50.1%)、「買い物など日常生活の便利さ」(40.1%。前年47.5%。前々年45.6%)、「自然環境の豊かさ」(29.6%。前年34.0%。前々年35.3%)、「慣れ親しんだところ」(28.7%。前年29.9%。前々年28.8%)が定着している。ただ、上記項目の経年変化を見ると、いずれもトータルでは漸減している。好きな理由をめぐる市民の間での分散傾向は今後さらに強まるのではないだろうか。

嫌いな理由について、「交通マナーの悪さ」(31.1%。前年 35.5%。前々年 37.0%) が数ポイントずつではあるものの、明らかに減ってきている。まだまだ浸透しているとはいえないものの、日常生活において横断歩道を渡る人優先の交通マナーは向上していると感じる機会が増えている。

一方で「交通渋滞の多さ」(27.5%。前年 25.9%。前々年 24.8%) は若干ではあるが、悪化傾向にある。「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」(18.5%。前年 24.5%。前々年 26.0%) の低下傾向は、おそらく L R T 開通の影響であろう。開通後の交通渋滞の変化には、両者がリンクしていることから今後とも注目し続ける必要がある。

「街に活気がないところ」(24.2%。前年 31.3%。前々年 32.1%) と回答する市民は明らかに減っている。L R T 以外にもスポーツイベントや多彩な催し、それらの P R 戦略などが市の活気感の上昇につながっている。

2. 広報媒体の活用状況について

広報媒体の活用について、「よく見る（聞く）」でも「ときどき見る（聞く）」でも「広報うつのみや」の存在感が圧倒的に高い傾向が続いている（前者 39.9%。後者 41.5%。前年は前者 41.6%。後者 41.0%。前々年は前者が 35.8%、後者が 44.7%）。ただ、両者ともに伸び悩み傾向にある。

「よく見る（聞く）」に注目すると広報紙以外では、「暮らしの便利帳」(9.0%。前年 10.8%。前々年 8.7%) が 1 割弱で、それに続くのが「宇都宮ホームページ」(4.9%。前年 8.1%)、「とちぎテレビ（データ放送）」(4.9%)、携帯サイト (3.6%。前年 4.9%) であり、広報紙との格差があまりにも大きい。

一方で「ときどき見る（聞く）」では、「暮らしの便利帳」(43.0%。前年 39.8%。前々年 45.3%) の場合、ほぼ 4 割台である。「宇都宮市ホームページ」(47.9%。前年 48.3%。前々年 46.3%) の場合、4 割台後半を維持している。「ときどき見る（聞く）」の頻度など中身によるだろうが、市民は行政に関する情報を比較的積極的に取りに行っているのではないだろうか。

「広報うつのみや」の入手方法では、「新聞折込で自宅に届いている」(57.0%。前年 60.8%。前々年 57.4%) の割合が最も高い。広報の伝達手段として、紙媒体の新聞折込にはなかなか捨てがたいものがありそうだ。

「送付で自宅に届いている」(11.1%。前年 8.7%。前々年 6.8%) も着実に伸びている。「市の公共施設などで手に入れている」(4.9%。前年 3.5%。前々年 3.4%)、さらには「市ホームページに掲載されている P D F や電子書籍を閲覧している」(3.9%。前年 2.9%。前々年 1.8%) も低率ではあるものの上昇傾向にある。受け取り方が多様化する中、広報の市民への届け方にはまだまだ工夫の余地がありそうだ。

「手に入れていない」(21.1%。前年 20.3%。前々年 25.5%) の率は横這い傾向にあるものの、5 人に一人が市政情報の詰まっている「広報うつのみや」に接していないのは、何とももったいない気がする。

「広報うつのみや」を「入手方法を知らないため」(39.0%。前年 40.0%。前々年 35.1%) 見ていない市民の割合は 4 割近い。「特に必要でないため」(48.8%。前年 50.0%。前々年 49.5%) と考える市民も相変わらず多い。「入手方法を知らないため」を 10 ポイント近く上回っている。両者の割合が逆転した状況で「入手方法を知らない」市民に周知できれば、広報は飛躍的に市民の間に浸透するはずだ。

「広報うつのみや」で読んでいる記事について、「市政情報」(53.5%。前年 69.9%。前々年 64.5%)、「各施設の催し」(41.2%。前年 49.8%。前々年 46.6%)、「特集」(36.2%。前年 48.0%。前々年 45.5%)、「情報カレンダー」(36.9%。前年 44.2%。前々年 40.5%) などの割合が高かった。いずれも率が下がっているのが共通点である。市民の関心が上記三項目以外に分散する傾向にあるのかもしれない。

ただ、たとえば「政策特集」(39.2%。前年 29.4%。前々年 31.2%) では前年比ほぼ 10%の上昇となっている。行政が提供する生きた魅力的な情報と、それらを求める市民とのマッチングの態様はさまざまなのであろう。

「LRT」についての記事を読んでいる市民の割合は25.2%で、前年26.4%と前々年の21.9%からすると予想外の横這い傾向となった。LRT開通と無関係ではないと思われるが、市民は他の媒体が提供する情報を把握しているのだろうか。

「広報うつのみや」に関する感想、取り上げてほしい話題・情報について、市民の自由記載の項目もあり、選択回答では把握しきれない市民の問題意識が浮かび上がっている。市のホームページを見るための主な手段は、「スマートフォン」(39.2%。前年40.1%。前々年39.5%)の場合、横這い傾向にあるものの、「パソコン」(18.3%。前年23.5%。前々年23.7%)を大きく上回った。とくに今回調査では両者には倍以上の開きが生じた。ソフトの進化と相俟ってスマホ全盛時代はまだまだ続きそうである。

ホームページで知りたい情報をトップ画面のどこから探すかについて、「キーワード検索」(37.6%。前年56.1%。前々年60.1%)が大きく率を下げた。一方で、暮らし、産業・ビジネス、市政情報、よくある質問、宇都宮ブランドといった「大分類」(53.3%。前年47.3%。前々年36.8%)の場合、6ポイント上昇した。「大分類」は有効に機能しているのである。まずはここにアクセスすれば、市民にとっては目当ての情報に行きやすいということだろう。

ところが、「ホームページで知りたい情報は探しやすいか」について、「探しやすい」(8.7%。前年9.6%。前々年13.4%)は下降傾向にあり、「どちらかといえば探しやすい」(54.1%。前年58.6%。前々年49.4%)も前年比では同様な傾向を示した。「探しやすい」が合わせて62.8%(前年68.2%)となり、数ポイント下がった。今後は急速に浸透しつつあるAI(人工知能)の使い方によっても、目当ての情報に行きつける効率は激変するであろう。

ホームページに関する感想や充実してほしい機能や情報について、市民から率直な要請が記載されている。回答者の自由記載は調査分析の幅を広げる効果があると思われ、どんどん取り入れてほしい。

市政情報をどんな手段で知りたいかについて、「広報うつのみや」(56.2%。前年60.8%。前々年56.1%)の割合が最も高い傾向が続いている。その次には「ホームページ」(35.3%。前年36.6%。前々年38.4%)が続いた。「新聞」(21.6%。前年27.3%。前々年25.0%)は数ポイント下がり、僅かだがテレビ(21.9%)に逆転された。「SNS」(14.7%。前年15.1%。前々年14.5%)が意外にも横這い傾向を示した。広報うつのみやを軸とした傾向には当面変化がなさそうである。ただ、行政が複合的な市政情報の柔軟な提供を継続する必要性は今後も変わらないであろう。

3. 良好な生活環境の確保に係る市民満足度調査について

質問の冒頭が「環境負荷の低減が図られた…」から始まり、回答者が難しいと感じるのではとの危惧を抱いた。しかし、その後に丁寧な趣旨説明があることから、回答に迷った市民は少なかったはずだ。

結果は「満足」(11.3%)、「やや満足」(40.2%)と後者が前者を大幅に上回ったものの、総じて満足派が5割を超えた。市が取り組む環境調査や環境保存活動に多くの市民が満足していることに意義がある。

ただ、「わからない」(34.3%)も優に3割を超えた。市は今後も施策の周知に粘り強く取り組んでほしい。

4. 生物多様性について

生物多様性という言葉について、今回調査では「聞いたことはあるが、意味は知らない」（38.6%。前年 35.5%。前々年 38.5%）が「言葉も意味も知っている」（34.7%。前年 44.6%。前々年 40.8%）を上回った。認知者の割合が前年比ではほぼ 10 ポイント下回ってしまったのはなぜだろうか。意味を知らない市民が前年比で数ポイント増えていることと合わせて考えると、「生物多様性」という言葉自体が長い目で見れば退却を迫られているのかもしれない。

一方、外来種が及ぼす影響については、「知っている」（88.4%。前年 85.8%。前々年 84.9%）の割合が大幅にとまではいえないまでも堅調に上昇している。歩調を合わせるかのように「言葉は知っているが、その影響までは知らなかった」（9.2%。前年 11.4%。前々年 14.0%）割合が下降傾向を示している。市民に対するインパクトとしては、「生物多様性」より「外来種」の方が明らかに強いのである。外来種をめぐる報道に接する中で、市民はその脅威を他人事ではないと捉えるようになった。

5. 宇都宮市の景観について

宇都宮市の景観は 10 年前と比べてどうなったと感じるかについて、「どちらかといえば良くなった」（54.7%。前年 48.2%。前々年 45.0%）、「変わらない」（26.2%。前年 30.6%。前々年 37.2%）となった。今回調査では、「良くなった」が「変わらない」の 2 倍以上となり、また、経年変化では「良くなった」の増加傾向と「変わらない」の下降傾向がはっきりした。市民は宇都宮市の景観向上をはっきりと認識するようになりつつある。

ただ、「非常に良くなった」（7.2%。前年 7.0%。前々年 4.7%）となると前年比で伸び悩んでいる。市の景観は確実に改善されつつあると受け止める市民が増えているものの、「非常に」とまではいえないようだ。「非常に」が大幅に増えると、景観が市の新たなシンボルとなるのだろう。こうしたことの裏返しで、「どちらかといえば悪くなった」（9.9%。前年 11.1%。前々年 10.1%）は着実に減りつつある。

「宇都宮らしい景観」とは何かについて、「歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観や城下町の名残のある中心市街地の街並み」（34.9%）がトップで、「新たな都市拠点としてまちびらきした J R 宇都宮駅東口」（31.7%）が続いた。これは注目すべき結果である。というのは市の歴史性と新規性という二つの対象的な宇都宮コンセプトが、市民の間ではっきりと共有されつつあることがはっきりしたからである。

「大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観」（22.5%。前年 27.5%。前々年 27.7%）は下降したものの 2 割強であり、また「市の顔となる通りとしての風格を持つ L R T 沿線」（21.3%）も 2 割を超えた。とくに後者には今後飛躍的に上昇する潜在力があるし、将来的には駅西側の L R T 延伸が、大谷石という歴史性のある資源と L R T という新規資源をつなげる役割を果たす可能性もある。

良好な都市景観の形成に必要なことについて、「道路上の電柱・電線類の地中化」（46.5%。前年 50.3%。前々年 50.8%）の割合が最も高いが、経年変化でみると初の 5 割以下となった。それに続いたのが「周辺景観に調和していない野外広告物（看板）の撤去や規制」（22.5%。前年 25.6%。前々年 21.2%）であった。前年比では下がったものの、まちの「見映え」は景観の重要要素であることがわかる。一方で、「沿道や都心部の緑化の推進」（19.6%。前年 25.6%。前々年 28.5%）は下降傾向にある。重要視は変わらないものの、改善が図られてきたと認識する市民が増えてきたと推察できる。

バスや鉄道などのラッピング広告物についての印象は、全体としては好意的に受け止められている傾向が続く（今回は「良い」22.5%。「どちらかといえば良い」40.6%。前年は「良い」21.0%。「どちらかといえば良

い」42.0%)。とくに市民のほぼ5人に一人が「良い」印象を持っているのが心強い。たとえば地元プロスポーツチームのLR T車体側面のラッピングは注目を集めた。今後の工夫や仕掛けがさらに広がっていくことを期待したい。

また、上記設問における回答（「良い」「どちらかといえば良い」「どちらかといえば悪い」「悪い」「わからない」）のいずれにもかかわらず、そのような印象を持った点についての設問では、「目立つ・目にとまる（44.1%。前年50.0%）」が、前年比では低下しているものの、最も高い割合となった。「目立つ・目にとまる」以外にも「賑わいを感じる」（26.0%）や「新しい・現代的」（23.3%）など、「注意力が散漫になる」（14.4%）よりも、好印象を持っている多くの市民が存在する。こうした市民の応援が市の促進策を後押しするに違いない。

6. うつのみや産の農産物について

「うつのみや産」の農産物の積極的購入について、「非常にそう思う」（27.5%。前年27.2%。前々年27.4%）と「そう思う」（56.2%。57.5%。前年57.3%）は、経年でほぼ同率となり、安定・定着ぶりがはっきりした。そのことは市民による「宇都宮産」農産物の購入実践が定着していることを示している。さらに、多くの市民は宇都宮の農業を大切にしたいと思っている（「非常にそう思う」が35.9%。前年39.1%。前々年34.9%。「そう思う」が54.7%。前年53.5%。前々年57.5%）。多くの市民は地元農業に対する愛着を持っている。市と関係者との協働事業を今後とも継続展開し、「宇都宮産」農産物にさらに磨きをかけてほしい。

環境に配慮して生産された農産物を積極的に選択して購入したいかについて、「非常にそう思う」（28.0%）と「そう思う」（58.9%）を合わせて8割台後半となった。後は市民による実際の購入行動に向けて一押しするのが市の役割であろう。

7. カーボンニュートラル（脱炭素）について

カーボンニュートラルの認知度は相当に浸透している（「言葉の意味も含めて知っている」55.0%。「言葉は知っているが、意味はよく分からない」36.9%）。しかも言葉だけでなく意味を知っている回答者の割合の方が相当に高い。

当然、こうした結果と連動して、取り組みの必要性についても「必要だと思う」（58.2%）と「どちらかといえば必要だと思う」（31.7%）を合わせると9割を超えた。「必要だと思わない」が僅か1.7%というのは、市民への意識の浸透ぶりがはっきり出た結果であろう。

それではカーボンニュートラルにつながる市民の実践についてはどうであろうか。「実践している」最上位は「ごみの減量と分別」（84.7%）であり、「レジ袋や使い捨てプラスチックの使用量削減」（75.7%）と「LED照明の使用」（69.8%）が続いた。いずれも市民が日常的に取り組める身近な実践事例となり得るものである。

一方で、たとえば「自動車をEV（電気自動車）に乗り換え」の場合、「実践している」（3.0%）と「実践を検討している」（27.2%）との大幅な乖離はあるものの、今後さらに技術的にも価格的にも普及が進めば、実践派が飛躍的に増える可能性がある。

同様に「新築や改修はZEHやLCCM住宅に、建築資材に地元産の木材を使用」では、「実践している」（17.1%）は「実践を検討している」（24.5%）を下回っているものの、市民の一定割合の関心は相当に高いという見方もできる。これについても住宅コストとの兼ね合いはあるものの、市には既存の支援策の周知戦略をさらに向上させることを求めたい。

ライトラインが再生可能エネルギー100%で走行していることについて、「知っている」(31.7%)、「知らない(今回の調査で初めて認識)」(66.1%)という結果となった。このことは車内広告枠などでもっとPRしてもいいのではないだろうか。市内外の人々が乗車した際の「乗り心地」にも大きく響いてくるに違いない。

8. 水災害(洪水など)への備えについて

ハザードマップの存在について、「知っており内容を確認している」(48.3%)と「知っているが、内容を確認したことはない」(45.5%)が拮抗する結果となった。ただこの用語自体は9割台半ば近くの市民に浸透していることになる。自然災害の脅威を他人事とは捉えていない市民が圧倒的に多くなったのである。

それではここから踏み込んで、実際に「住んでいる建物(住宅)は、洪水浸水想定区域内、または洪水浸水想定区域外か」との設問には、「洪水浸水想定区域内に立地している」(6.7%)、「洪水浸水想定区域外に立地している」(67.1%)、「分からない」(24.8%)となった。ここで問われるのは、市民のほぼ4人に一人が「分からない」と回答したことだ。自分が住んでいる住所をもとに、ネット情報などを使えば意外とすぐに区域内か区域外かは分かる仕組みとなっている。どこにアクセスすれば分かるのかを、市はPRし続けてほしい。

水災害への備えに取り組んでいるかについて、他の項目と比べて圧倒的に高率であったのが、「災害時の避難場所の確認」(55.4%)と「備蓄品・非常用持出品の準備(飲料水・食料品、生活用品、衣類など)

(41.3%)であった。両者ともに割合は高ければ高いほどいい。しかし、後者では飲料水・食料品などは長期保存が可能であっても、いずれは入れ替え作業が必要になる。こうした活動の敷居をどうすれば低くすることができるのかといったことや保存スペースの工夫の仕方などについて、市からの情報提供をさらに充実させてほしい。

気掛かりなのは、「特に取り組んでいない」(32.7%)が3割を超えている点である。水災害は決して何もしなくても何とかなる類のものではない。時には財産の破壊・消失や命の危険を伴う類の自然の脅威である。避難訓練に遊びや楽しみを盛り込み、参加者の満足感を高めるやり方でありだと思われ、そのことを通じて市民が地道に向き合う実践につながっていくと考える。

9. まちづくり活動への意識について

まちづくり活動への参加の中身について、「地域の環境や自然等を守るための活動」(20.0%。前年24.1%)、「スポーツ・文化・芸術の普及啓発等に関係する活動」(23.3%。前年22.4%)、「地域の安全・安心を守るための活動」(22.0%。前年21.4%)などが2割を超えた。

「高齢者・障がい者などを対象とした社会福祉に関する活動」(22.3%)も2割以上となった。いずれも内容は能動的・積極的なもので、受け身ではないという点で価値がある。また、様々な活動の展開こそが、まちづくりの意義でもある多様性に直結する。

まちづくり活動に参加していないと回答した理由について、「参加するチャンス・きっかけがない」(45.2%。前年28.7%)が前年比で大幅に増加した。参加したい気持ちがあっても、仕事や時間確保の事情などのため、機会そのものが狭まってしまうと受け止める市民が多いのだろうか。また、「どのように参加すれば良いかわからない」(25.5%。前年19.7%)も増えた。情報把握に戸惑いを覚える一定割合の市民の存在が浮かび上がってくる。

「参加する事に興味や関心がない」(14.3%。前年 25.0%)は大幅に減った。興味や関心があっても、どうしたらよいかわからない市民が意外に多いのだろう。市は支援や情報提供によって参加への敷居を低くすることに今後とも取り組み続けてほしい。そして、もう一押し何かしらの工夫や仕掛けが提供できればいい。

10. スポーツに関することについて

スポーツに関する指導を行ってみたいかについて、「行いたくない」(50.7%)がほぼ5割となった。指導経験の有無にかかわらず、「今後も行ってみたい」は合わせて僅か9.7%であった。市は部活動の地域移行を睨んでこうした設問を立てたのだろうか。あるいは設問数の制約があったのかもしれないが、最初にしては、回答者が思わず引いてしまうような、やや唐突な質問だと感じた。

スポーツ競技会場でスポーツ経験をしたことがあるかについて、「観戦したことはあるが、今後の予定はない」(39.1%)が、「観戦したことがあり、今後も観戦する予定である」(26.2%)と「観戦したことがない」(33.2%)を上回った。

確かに、観戦経験者が今後の予定がなくても、興味関心に応じて観戦する機会は生じるであろうし、その逆(予定としては立てても観戦しない、あるいはできないケース)もあるだろう。それでも観戦予定の有無は観戦者の見込みという点では大切な要素である。その意味では観戦予定者は多ければ多いほどよい。

アーバンスポーツについての関心について、「観戦することに関心がある」(45.0%)と「まったく関心がない」(43.1%)が拮抗する形となった。観戦の関心は強要されるものではなく、この程度の割合であれば問題視する必要はない。むしろ、観戦の関心が意外にも高いことに驚いた。これだけの関心層があれば、市はLRT停車駅周辺の敷地を活用した振興に弾みを付けることができるだろう。

11. 治水・雨水対策について

総合治水・雨水対策の認知度について、「ある程度知っている」(40.1%)が4割台には乗ったものの、「知らない」(55.2%)を大きく下回った。この分野は専門領域の説明が避けられないので、その影響があるのかもしれない。

総合治水・雨水対策をどこで知ったり聞いたりしたかについて、「市のホームページや広報紙」(52.7%)の果たす役割の大きさが明らかになった。それに続いた「新聞」(24.9)の果たす伝達力にも根強いものがある。

意外だったのは、「X(旧Twitter)やYouTubeなどのSNS」が何と0.0%だった点である。とくに若い世代では情報は何でもSNSというイメージを持っていただけに、市情報の伝達におけるSNS万能論を見直す契機となるかもしれない。あるいは逆に市にとってはSNS活用の余地が非常に大きいといえるかもしれない。

総合治水・雨水対策の効果的な周知・啓発手法について、「新聞・テレビ・ラジオ」(28.7%)がトップで、「市のホームページや広報紙」(21.0%)と「自治会や自主防災会などを通じてPR」(17.6%)が続いた。注目されるのは、「X(旧Twitter)やYouTubeなどのSNS」が14.1%とそれなりの期待値が存在する点である。市は治水・雨水対策をめぐりSNSを通じた周知・啓発に踏み込むことはできないか。この面での市の奮起を期待したい。

今後取り組んでいきたいと思っているものについて、「ハザートマップを活用し避難場所などの確認」(44.6%)と「非常用持出品の準備」(42.6%)が4割を超えた。両者は避難行動の最重要事項であり、ぜひともこの割合を高めたい。もちろん「近所の側溝の清掃」(20.5%)も地道で貴重な実践行為である。また、と

くに「防災訓練、避難訓練などへの参加」(16.1%)率の向上は、すべての項目の改善につながる契機となると思われる。

1 2. 中心市街地の活性化について

中心市街地に出かける頻度について、「年に数回程度」(32.7%)が「月1~2回程度」(28.2%)を上回り、「週1~2回程度」(21.0%)との差は10ポイント以上開いた。本来、中心市街地の良さはぶらっと週1~2回出かけるといった、日常生活の延長に連なる魅力的な場所である点だ。その意味で市は重い課題を突き付けられたことになる。

中心市街地へ出かける目的では、「買い物」(52.0%)が圧倒的に高い割合となり、「飲食」(29.0%)がそれに続いた。「買い物」なみにとはいわないまでも、「まち歩き(散歩・散策)」(10.1%)や「公共施設(市役所・図書館など)」(10.9%)、さらには「イベントへの参加」(8.4%)や文化活動(映画鑑賞・芸術鑑賞など)」(5.9%)などが「飲食」なみの感覚で市民を引き付けられるようになれば、中心市街地の雰囲気自体が一変するはずだ。

中心市街地に、より訪れたいようになるためにはどのような機能や施設が充実するとよいと思うかについて、「文化・芸術(図書館、博物館、美術館、劇場、ホール、映画館など)」(40.3%)と「大規模商業(百貨店、デパートなど)」(44.8%)が高い割合となった。そして「飲食(カフェ、居酒屋など)」(26.7%)や「休憩スペース(公園、広場、ベンチなど)」(20.8%)が続く形となった。このように中心市街地には商業的かつ文化的、さらには交流や憩いの場としての複合・多様な要素が求められている。

1 3. プラスチック製品の資源化について

プラスチックごみを減らすための普段の取組について、「マイバックを使用する(レジ袋を購入しない、もらわない)」(83.4%)が最上位で、「詰め替え商品を購入する」(55.7%)と「外出する際は、ペットボトル飲料ではなくマイボトルを持ち歩く」(43.1%)が続いた。確かにスーパーでのレジ袋有料化など影響もあろうが、基本的に市民の多くは身近でできることをしっかりやっている。

「プラスチック製容器包装」と「プラスチック製品」の排出方法の違いの認知度は、「知っている」(53.0%)と5割を超えた。やや乱暴な言い方だが、容器包装であろうが製品であろうが、プラスチックであることには変わりがないため、両者の違いにまぎらわしさがあることは否定できない。そうした中での市民の見極め力と意識の高さには相当なものがあると受け止めたい。ただ、「知らない」市民の捨て方が「知っている」市民による実践行為の効果を減じてしまうことも事実である。「知っている」市民の増加が政策効果の鍵を握っている。

プラスチック製品も資源物として収集する場合、どんな手法だと分別に協力しやすいかについて、「プラスチック製容器包装と一緒にゴミ袋に入れられるなど排出方法が簡単であること」(33.7%)と「どのプラスチック製品が分別対象なのか分かりやすく明確であること」(41.3%)が上位に並んだ。市がやるべきことは明白である。市民への分別対象の理解浸透とそれを行動(排出)に移す際のハードル(わかりにくさ)をできるだけ下げる(わかやりやすくする)ことである。

14. 宇都宮市のみどりについて

みどりの量について市民はどう受け止めているのだろうか。結果は「郊外部のみどりの量」（ちょうどよい65.3%。少ない11.0%）、「都市部のみどりの量」（ちょうどよい51.9%。少ない43.7%）、「自宅周辺のみどりの量」（ちょうどよい60.6%。少ない21.1%）となった。都市部のみどりの量が少ないと感じる市民が4割以上いる。しかし「ちょうどよい」が5割を超えた。自宅周辺のみどりの量を「多い」と感じる市民が16.2%いることと合わせて考えると、宇都宮市は緑溢れるとまでは言えないまでも、市民が満足する程度の緑を都市部でも有しているユニークな都市と言えそうである。

「みどり」に関することで取り組みたいことについて、「自分の家の庭やベランダ、壁や屋上などで草花や樹木などを育てる」（54.2%）と他の項目を大きく離して最上位であった。市民からすれば自らにストレートに跳ね返ってくる「みどり」に魅力を感じるのは不思議ではない。そうした行為を少し広げていけば、「身近な公園や道路、河川などにおいて、花だんの花植えや草刈り、ごみ拾いなどの清掃活動に参加する」（20.7%）割合も着実に増えていくであろう。

中心市街地において「みどり」を増やすために必要な取組について、「人が歩くところや留まるところに木陰をつくるなど、街路樹の適正な配置や樹種の選定、適切な維持管理」（68.8%）が唯一7割近くに達した。ただ街路樹の管理にはコストが掛かる。そこも含めて、「適正な配置」や「適切な維持管理」といった場合の中身について、市民に丁寧に説明する必要があるだろう。

15. 住宅用火災警報器の設置及び維持管理状況について

住宅用火災警報器の設置率（62.0%。前年61.7%。前々年65.3%）は横這い状況が続く。設置からの経過年数については、「10年経過した」（43.1%。前年31.1%。前々年24.4%）という結果から、急激な増加傾向をはっきりと見て取ることができる。10年経過が耐用年数などとの関係で警報器の点検のあり方や取扱いにどう影響するのかは不透明である。10年経過した警報器はどうなるのかについての説明があった方がいい。

「今まで点検を行ったことがない」（48.4%。前年38.8%。前々年45.7%）が再び急上昇した。一方で「定期的（半年に一度程度）に点検を行っている」（31.8%。前年22.1%。前々年20.3%）割合も上昇した。市民の間で点検に向き合うスタンスが二極化している。経過年数との関連があるのだろうか。「点検方法を知らない」（18.9%。前年21.9%。前々年24.2%）の割合は若干低下傾向にあり、改善傾向が全く見受けられないわけでもないのだが。

16. 「大谷石文化」の日本遺産認定について

「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことに関する認知度について、「知っている」（48.6%。前年41.8%。前々年45.0%）が前年比でかなり盛り返した。連動して「知らない」（50.2%。前年57.2%。前々年55.0%）が下降した。認知度が上がることが大谷石の魅力をもさらに発信していくためには不可欠だろうが、日本遺産認定の認知についてはじわじわと着実に上がっていくことが大切である。

また、「大谷石文化」を誇りに感じるかについて、「やや感じる」（35.0%。前年34.1%。前々年36.2%）も「感じる」（32.6%。前年33.1%。前々年29.3%）も横這い状況にある。これについても誇りに「感じる」市民が6割台後半で安定しているのであれば、現状の割合の継続で十分ではないだろうか。

17. 雨水貯留・浸透施設の補助金制度について

雨水貯留・浸透施設の補助金制度の認知度（「知っている」(39.4%。前年 34.6%。前々年 36.0%) は前年比で5ポイント近く上がり、4割近くに達した。

ただ、設置に対する補助金制度については、「知らない」(67.4%) は「知っている」(31.5%。前年 29.1%) の2倍以上で、まだまだ開きがある。

雨水貯留・浸透施設の設置効果についてどうであろう。「知っている」(46.5%。前年 41.3%。前々年 40.1%) が前々年から10ポイント以上、上昇した。市民は確実に「浸水被害の軽減や適正な水環境の形成」の大切さを認識するようになってきている。ただ、下がったとはいうものの、依然として5割強(52.8%。前年 58.0%) はその設置効果の認識には至っていない。補助金制度と設置効果をセットにした形での市民の理解が大切である。

「貯留タンク」や「浸透ます」の設置意向について、「設置したい」(17.8%。前年 22.4%。前々年 22.8%) と「設置したくない」(13.4%。前年 17.7%。前々年 18.0%) を比べるとかろうじて前者が後者を上回った。設置意向は前年比で減りながら、これと歩調を合わせるかのように、「設置したくない」も減っている。分析の難しい中途半端な回答結果である。「わからない」(59.9%。前年 53.2%。前々年 53.3%) が前年比で増えているのも悩ましい。市民の受け止め方がある種の膠着状態に陥っているのだろうか。

「設置したい」「既に設置してある」と回答した市民にその理由を聞いたところ、「水の節約になるため」(48.6%。前年 55.8%。前々年 59.6%) と「雨水を庭木の水やりに利用するため」(49.5%。前年 54.9%。前々年 53.2%) が上位に並んだが、両者とも下降傾向が見て取れる。市民は節約と水やりという二重効果に関心を寄せる一方で、「浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につながるため」(39.6%。47.8%。前年 35.8%) が増えているかといえ、前年比でほぼ8ポイント低下した。少なくとも上述した項目については被害軽減や環境保全についての意識は若干ではあるが低下傾向にある。

雨水貯留・浸透施設を設置したくない理由として挙げられた最上位が、「敷地に設置できる場所がないため」(47.4%。前年 53.5%。前々年 53.5%) と「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」(52.6%。前年 53.5%。前々年 40.8%) であった。5ポイント程度の差ではあるが、今回後者が前者を上回った。前者の設置スペースは工夫すれば何とか確保できるのではないか。後者の維持管理についてもやってみれば意外と手間はかからないのではないだろうか。市は簡潔明瞭な説明を粘り強く発信し続けてほしい。

18. 焼却ごみ削減の取組について

市民がごみ削減のため実施した取組について、「プラスチック製容器包装（お弁当の容器など）の分別を徹底した」(73.2%)、「資源化できる紙（お菓子の箱など）の分別を徹底した」(61.3%)、「食品ロスが発生しないよう、食品の使い切り・食べ切りに務めた」(55.2%) が上位にならんだ。こうした項目についての市民の取組実施率は高いといえよう。いったん市民に浸透してそれが行為に移されると、継続力も付くと思われる。

焼却ごみ削減の取組のために、市民が参考にしたのは専ら「資源とごみの分け方・出し方（ごみの分別冊子）」(69.5%) といっていいただろう。「広報紙」(35.0%) も健闘しているが、有用性では分別冊子の半分程度である。この冊子を見れば大丈夫という市民の安心感も大きいのだろう。

19. シェアリングモビリティの認知度等について

市役所や宇都宮駅周辺で、シェアリングサービス（電動アシスト自転車や電動キックボード）を実施していることについて、「知っているが利用したことはない」（57.0%）が「知らない」（40.8%）を上回った。情報提供とは異なり、実際にモノを目にする機会があることも影響したのだろう。ただ、「利用したことがある」（1.6%）は現段階では僅かである。利用者の世代が若者に偏っている可能性もある。

ただ、「利用してみたい」（23.0%）市民層は意外と多い。さらにその理由となると、「街なかの移動手段として利用したい」（46.9%）が最上位で、「面白そうなので乗ってみたい」（29.2%）が続いた。後者には市民の関心の高さが窺われる。

安全性が大前提ではあるものの、電動アシスト自転車や電動キックボードは、今後、駅・LRT停留場・バス停などへのアクセスをつなぐ実用と好イメージを併せ持った存在となるかもしれない。

利用したくない理由としては、「車での移動が多く利用の機会がない」（45.6%）が最上位であった。仮に車での移動とシェアリングモビリティを組み合わせるとしたら、それなりの駐車場の確保が不可欠となろう。多様な移動ルートを考慮すれば、本来、両者は反作用ではなく、相乗効果を発揮できる関係にあるはずだ。

普段の公共交通（電車やバス）の利用頻度について、「ほとんど利用しない」（70.9%）の割合の高さを受け入れるとすれば、シェアリングモビリティと絡ませることで、起死回生の効果が生まれるかもしれない。

20. 結婚・出産・子育てに関する意識について

「結婚している」（66.9%。前年 66.0%。前々年 64.6%）以外で、現段階において「結婚していない」（結婚経験者と合わせて 32.1%。前年 31.7%。前々年 35.4%）とした回答者に対して、結婚するつもりがあるか聞いたところ、「いずれ結婚するつもり」（30.0%。前年 30.1%。前々年 29.1%）、「結婚するつもりはない」（60.0%。前年 65.9%。前々年 61.9%）という結果となった。

「結婚するつもりはない」以外は経年変化でいずれも横這い傾向にある。この種の割合は定着・停滞傾向があるのかもしれない。

結婚している場合に持ちたい子どもの数は、「2人」（54.6%。前年 58.6%。前々年 54.1%）が最も高く、大きく差が開く形で「3人」（22.9%。前年 18.0%。前々年 17.2%）と「1人」（12.2%。前年 12.5%。前々年 19.7%）となった。

若干ではあるものの、持ちたい子供数は2人から3人に向かう薄い気配が見て取れる。また、「3人」が「1人」の2倍近くというのも興味深い。「1人」が回避される傾向が続いている。

ところが、「いずれ結婚するつもり」の回答者が子どもを何人望んでいるかについては、「2人」（51.3%。前年 43.2%。前々年 51.3%）が前年比で数ポイント増え、復活した感がある。また、「1人」（7.7%。前年 16.2%。前々年 17.9%）は大幅に下がり、脱1人志向が明らかになった。「3人」（10.3%。前年 18.9%。前々年 7.7%）も前年比で下がった。

「子どもはほしくない」（23.1%。前年 16.2%。前々年 15.4%）が増えた。こうした結果からも、少子化対策とはいっても一筋縄ではいかないのがよくわかる。

21. 「SDGs」について

SDGsについての認知度は、「まったく知らない」(13.8%。前年14.7%。前々年32.8%)がほぼ底を打った印象だ。ただ、「内容を詳しく知っている」は11.3%(前年15.7%。前々年13%)で、そのうちの実践派は4.9%(前年8.25%。前々年6.9%)と前年比で半分近くまで下がってしまった。「内容をある程度知っている」実践派についても25.9%(前年29.1%。前々年11.4%)となり、前年比から若干ではあるが下がった。実践派の合計は30.8%とちょうど3割を超えたものの、とくにSDGsについては認知と実践との差は小さければ小さいほどいい。その意味では認知派の合計は65.6%に達していて、認知度と実践派の乖離が大きくなってしまった。

日頃の取組内容について、「水をだしっぱなしにしないようにしている」(73.6%。前年67.8%)が前年比で6ポイント近く上昇し、「買い物をするときはマイバッグを使っている」(72.1%。前年72.7%)、「電気を使わないときはこまめに消灯している」(68.9%。前年66.5%)は横這いであった。SDGsの実践対象は身の回りにいろいろある。ちょっとした心掛けで行動に移しやすい類のものであり、実践率をぜひとも上げたいところだ。

SDGsのゴールの中で、積極的に取り組みたい分野について、「すべての人に健康と福祉を」(45.9%。前年48.7%。前々年43.1%)が最上位で、「住み続けられるまちづくりを」(41.2%。前年43.3%。前々年38.9%)が続いた。「貧困をなくそう」(34.8%。前年40.2%。前々年38.1%)も前年比で下がったとはいうものの、ほぼ3割台半ばとなっている。SDGsの場合、積極的に取り組みたいと思わせる分野が実に多様であり、行動においてもいくつもの掛け持ちが可能であるのが強みだ。

22. 生涯学習について

生涯学習としての学習、文化・スポーツ活動等について、「している」(38.5%)と「していない」(60.5%)との差が開いた。しかし、4割近くが実践しているというのは、市民の学ぶ意欲の高さを示しているようにも思われる。「していない」とした回答者のうちの一定割合は「やってみたい」という意識を持っているはずだ。

23. 健康づくりについて

「(保存版(冊子))健康づくりのしおり」をどのように利用しているかについて、「健康に関する情報を得たいとき」(33.1%)が最上位で、「高齢者サービスに関する情報を得たいとき」(24.4%)、「医療機関を調べたいとき」(23.2%)が続いた。市民は「高齢者サービス」や「医療機関」といった具体的な対象にも関心を持っている。

一方で、「配布された時にざっと目を通すが、保存はしていない」(23.7%)も一定割合に達した。「保存版」を保存しないのは好回答とはいえないという見方もできようが、たとえ「ざっと目を通す」程度であっても「内容を見たことはない」(7.2%)とは大違いである。ある意味で前者は冊子を有用に活用している層といえるからである。

がん検診を受診する間隔について、何らかの形で受診している市民は合計で64.5%となった。そのうち直近のがん検診の受診先では、「市の受診券を利用して受ける個別検診(医療機関で実施している検診)」

(34.9%)がトップで、「職場の検診」(21.1%)が続いた。市(行政)や職場(勤務先)といったように他者の力を借りる形での受診は、健康をめぐるセーフティーネット機能の活用であり、今後とも安定的な充実の継続が望まれる。

24. 議会の広報・広聴に対する市民の認知度について

市議会の情報をどのように得ているかについて、「議会広報紙『あなたと市議会』」(38.0%)と「新聞」(31.9%)が上位に並んだ。意外だったのはネット利用が浸透した時代でありながら、「宇都宮市議会ホームページ」(9.4%)が1割に届かず、「議員個人のホームページ、SNS、会派広報紙」に至っては僅か4.0%であった点である。市議会としては重い課題を突き付けられた格好となった。もちろんこれまでも工夫を重ねてきたのだろうが、このあたりはまだ開拓の余地がありそうである。

市議会についてどのようなことが知りたいかについて、「一般質問(定例会での議員の質問)の内容と市の答弁(回答)」(37.5%)が最上位で、「市民からの意見」(31.6%)と「予算や決算の審査状況」(26.7%)が続いた。とくに「市民からの意見」に注目したい。議会の広報に、多様な市民からの意見を分量的にもっと多く掲載してはどうだろうか。ある市民の意見が別の市民の関心と呼ぶことは間違いないと思われるからである。

「サクサク! うつのみや市議会」や「なるほど! うつのみや市議会」の認知度・視聴経験について、知っている毎回(1.0%)かたまに視聴(9.1%)している、の合計がほぼ1割であった。確かに现阶段では「知らない」(72.1%)が圧倒的に高い割合である。しかし、「知っているが、視聴したことはない」(16.5%)は、視聴に向けた潜在力を有している層である。もう少し長い目で見る必要があるだろう。

市議会に取り組んでほしいことは、「市民と議員の意見交換」(40.2%)が最も高かった。市議会に最も求められるのは、両者の意見のキャッチボールであり、その積み重ねと中身の積極的公開こそが市議会の質を高めると同時に、市民が市議会に強い関心の目を向ける契機となる。

25. 選挙の投票率向上に向けた取組について

最近の選挙で投票に行っているかについて、「毎回行っている」(45.0%)と「ほとんど行っている」(23.0%)を合わせると7割近くに達した。国政選挙や地方選挙では、毎回、投票率の低下が顕著になっていると個人的に受け止めていたので、この結果は意外であった。同様に「ほとんど行ったことがない」(9.4%)と「行ったことがない」(4.7%)を合わせると1割超で、こんなに低率だったのかという印象を持った。罪悪感とまではいえないとしても、選挙に行っていないことを認めたくないと思える回答者が相当多くいた可能性がある。

「ほとんど行ったことがない」「行ったことがない」とした回答者を対象とした2023年4月23日宇都宮市議会議員選挙の認知度について、「知っていた」(50.9%)と「知らなかった」(47.4%)がほぼ同率であった。ここからわかることは、「知っていた」ことが投票行為に直結するわけではないという点である。市には、有権者が選挙の実施を知る時点で投票したくなるあるいはその後押しをするような、選挙情報提示内容の工夫を検討してほしい。

宇都宮市議会議員選挙の低投票率の理由について、「皆が選挙に行っても何も変わらないと感じているから」(53.7%)が圧倒的に高い割合となった。これは議員、議会、政治に対する期待感が持てないという意識の現れである。5割を超える有権者が無力感を抱いているような状況で、行政がいくら諸課題領域をめぐる市民の理解や協力を求めても限界があるように思われる。

投票環境の充実を図るために必要な取組について、投票制度のわかりやすい情報発信(11.6%)、身近な場所への投票所の設置(11.1%)、期日前投票所の増加(11.4%)、といった結果以上に、「候補者や政党の情報を増やす」(33.7%)が高い割合となった。候補者や政党の情報が足りないと思っている有権者が3割強もいるのであれば、それに応える責務は候補者や政党にあるのではないだろうか。質量も充実した投票PR情

報をどう有権者に届けばいいのか。SNSなどを使ったさらなる工夫に加えて、その内容のあり方について重い課題が突き付けられた。

26. 「もったいない運動」について

「もったいない運動」を知った経緯について、「今回の調査で初めて知った」(49.8%。前年 40.8%。前々年 49.5%) が前年比で9ポイント増加したのは気掛かりだ。そもそも知られていなければ「運動」は成り立たないからである。

同様に「広報紙」(21.8%。前年 24.8%。前々年 19.3%) についても前年比で3ポイント下がり、紙媒体による周知提供も一定の役割を果たしているとはいえない、伸びているとはいえない。

日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」については、「ごみの減量に向けた行動(マイバッグ、マイボトル、マイ箸の使用等)」(63.6%。前年 67.2%。前々年 68.0%) が前年比で若干下がり、「節電・省エネルギー行動(電気をこまめに消す、冷暖房の温度設定、省エネ家電の使用等)」(70.5%。前年 64.6%。前々年 57.6%) が前年比ではほぼ6ポイント上がったため、後者がトップとなった。

市民の間でごみ減量行動は定着傾向にあり、節電・省エネルギー行動はまだまだ伸びしろがあるということか。同様に「食品ロスの削減に向けた行動(食材の10割食べきり、使い切り、賞味・消費期限をこまめにチェックする等)」(54.7%。前年 52.5%。前々年 45.4%) についても、まだまだ市民への浸透の余地はあると受け止めたい。

27. 男女共同参画について

家事・育児・介護それぞれに費やした時間について、家事の場合、「7時間以上21時間未満」(47.3%。前年 43.9%。前々年 50.0%) の割合が高いものの、経年変化としては横這い状況にある。育児の場合、「7時間以上21時間未満」(6.7%。前年 5.9%。前々年 10.9%) が他項目との比較で最も高かったものの、同様に横這い傾向が明らかとなった。

ところが介護の場合は、「7時間以上21時間未満」(5.4%。前年 2.6%。前々年 2.8%) が前年比で倍以上となり、「0時間以上7時間未満」(5.2%。前年 4.7%。前々年 5.9%) も前年比では若干上昇した。介護の時間は長時間化する傾向がはっきり示されたといえよう。

社会的活動の実施状況について、「自治会やまちづくりなどの地域活動」(21.8%。前年 18.9%。前々年 17.9%) が最上位で上昇傾向がはっきりした。一方で、「文化、スポーツなどのグループ活動」(9.4%。前年 9.6%。前々年 9.2%) は横這い傾向にあり、「PTA、子ども会などの子どもや青少年の育成」(6.7%。前年 9.0%。前々年 9.8%) は前年比で低下した。いずれも地道な活動の積み重ねと継続が地域社会活動の重要な土台となるものだが、三項目の間で微妙な傾向の違いが見て取れる。

過去1年間に配偶者から暴力を受けたことがあるかについて、「精神的な暴力」(「1,2度あった」と「何度もあった」の合計(7.7%。前年 7.5%。前々年 4.2%)) が、他の項目よりも比較的高い割合となった。また、「身体的な暴力」(3.7%。前年 3.1%。前々年 1.4%) は増加傾向、「経済的な暴力」(2.2%。前年 3.4%。前々年 2.8%) は前年比で低下し、「性的な暴力」(0.9%。前年 1.8%。前々年 0.9%) は前年比で低下傾向となった。

また、いずれの項目でも「無回答」が、今回はほぼ2割台後半となった(「身体的な暴力」24.5%。前年 19.1%。前々年 19.0%。「精神的な暴力」25.2%。前年 19.4%。前々年 19.3%。「経済的な暴力」25.2%。前年 20.2%。前々年 19.3%など)。いずれも前年比で数ポイントの上昇である。これは良くない。いわゆる「隠

れた形での〇〇的暴力」となり、実際の状況や実態の把握が困難になってしまうからである。たとえば、「あなたはなぜ無回答と回答したのですか」と問う設問を用意した方がいいのではないか。

LGBTQ（エルジービーティーキュー。なお前年調査ではQはなし）の認知度について、「言葉も内容も知っている」（54.2%。前年 68.2%。前々年 66.5%）と前年比で 14 ポイントも下がった。Q が加わったからだろうか。とくにこの項目では認知度は高ければ高いほど、当事者をめぐる社会活動などが円滑になると思われるのだが。連動して、「全く知らない」（8.4%。前年 4.9%。前々年 6.1%）が増え、懸念の残る結果となった。今後の推移を注意深く見守っていきたい。

28. 防犯・交通安全に関する意識・状況について

安心して暮らすことができているかとの問いに対して、「そう思う」（29.7%。前年 21.4%）と「どちらかといえばそう思う」（59.4%。前年 67.4%）を合わせると、全体としては 8 割近くの市民が「そう思う」と回答したことになる。「そう思う」が 8 ポイント以上増えたのが心強い。安全だと断言できる市民の割合は高ければ高いほどよい。

自転車乗車用ヘルメットの所持及び着用状況について、着用派は僅か 6.9%（前年 4.1%）であった。増加しているとはいうものの、着用を慣行とするのはなかなか難しいと考える市民が多いのではないだろうか。また、「普段自転車に乗るが保有していない」（20.5%。前年 22.5%）となり、2 割以上が対応していない結果となった。「ヘルメットを保有しているが着用していない」（4.5%。前年 3.9%）は若干上昇した。自転車から降りた際などのヘルメットの保管の仕方の情報提供など、何か工夫した仕掛けを出さないと見通しがますますつかなくなるのではないだろうか。

ただ、自転車保険の加入状況については、「普段自転車を利用しておらず保険には加入していない」（54.0%）を差し引けば、「自転車保険や火災保険の特約（個人賠償保険）など複合型の保健に加入している」（26.0%）が自転車利用者の 5 割以上を優に占めた。加えて「TS マーク付帯保険に加入している」（8.2%）と「TS マーク以外の自転車保険（単独）に加入している」（4.2%）の合計は 1 割超となった。その結果、「普段自転車を利用しているが保険には加入していない」（9.9%）となり、ほぼ 1 割台で自転車利用者の中ではその半分以下の割合となった。

もちろん、保険に入っていればそれですべて安全が確保されるというわけではない。さらに、保険加入が乱暴な自転車運転の歯止めとなることも限らない。それでも自転車利用者の中で保険加入がほぼ前提となっているのは、好ましい状況だといえよう。

VI 宇都宮市の取組についての意識調査の結果

VI 宇都宮市の取組についての意識調査の結果

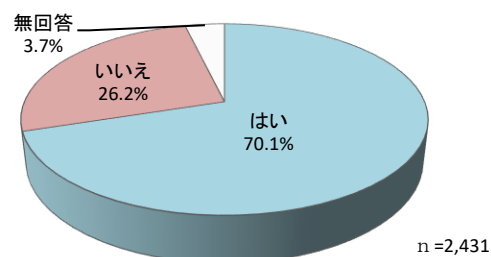
1. あなたのことについて

(1-1) 結婚について

問 1-1(1) 現在、あなたは結婚していますか。

n=2,431

	回答数	構成比
はい	1,704	70.1%
いいえ	636	26.2%
無回答	91	3.7%
計	2,431	100.0%



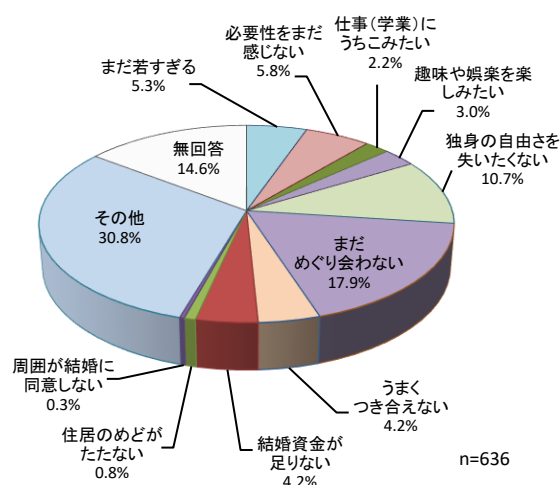
現在、結婚しているかについては、「はい」が約7割、「いいえ」が2割半ばであった。

(1-2) 結婚していない理由について

問 1-1(2) あなたが結婚していない最も大きな理由は何ですか。

n=636

	回答数	構成比
結婚するにはまだ若すぎる	34	5.3%
結婚する必要性をまだ感じない	37	5.8%
今は、仕事(または学業)にうちこみたい	14	2.2%
今は、趣味や娯楽を楽しみたい	19	3.0%
独身の自由さや気楽さを失いたくない	68	10.7%
適当な相手にまだめぐり会わない	114	17.9%
異性とうまくつき合えない	27	4.2%
結婚資金が足りない	27	4.2%
結婚生活のための住居のめどがたたない	5	0.8%
親や周囲が結婚に同意しない(だろう)	2	0.3%
その他	196	30.8%
無回答	93	14.6%
計	636	100.0%

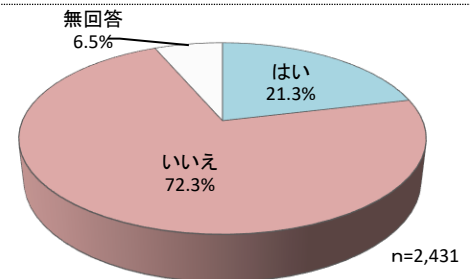


前問で「いいえ」と答えた人(636人)の、結婚していない最も大きな理由については、「その他」を除き「適当な相手にまだめぐり会わない」が17.9%で最も高く、次いで「独身の自由さや気楽さを失いたくない」の10.7%と続いている。

(2-1) 子育ての関わりについて

問 1-2(1) あなたは、現在、小学生まで（12歳以下）のお子さんの子育てに関わりがありますか。 n=2,431

	回答数	構成比
はい	517	21.3%
いいえ	1,757	72.3%
無回答	157	6.5%
計	2,431	100.0%

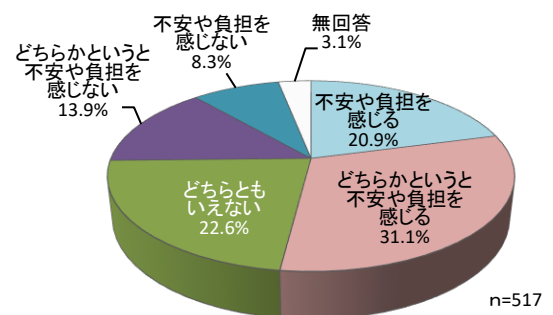


現在、小学生まで（12歳以下）のお子さんの子育てに関わりがあるかについては、「いいえ」が7割強、「はい」が約2割であった。

(2-2) 子育てに関して不安感や負担感を感じるかどうかについて

問 1-2(2) あなたは、子育てに関して不安感や負担感を感じることがありますか。 n=517

	回答数	構成比
不安や負担を感じる	108	20.9%
どちらかという不安や負担を感じる	161	31.1%
どちらともいえない	117	22.6%
どちらかという不安や負担を感じない	72	13.9%
不安や負担を感じない	43	8.3%
無回答	16	3.1%
計	517	100.0%

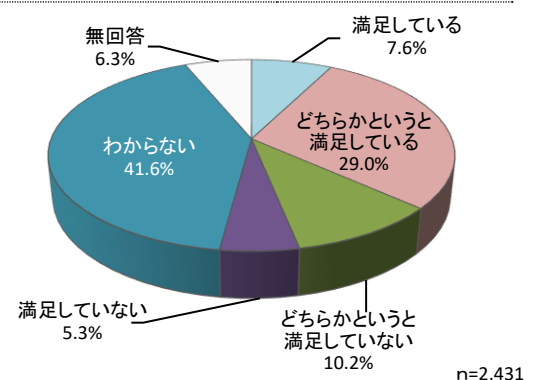


前問で「はい」と答えた人（517人）に、子育てに関して不安感や負担感を感じるかどうかについて聞いたところ、「どちらかという不安や負担を感じる」が31.1%で最も高く、「不安や負担を感じる」の20.9%を合わせると、不安や負担を感じている人は5割強であった。

(3) 学習や活動を行う機会や生涯学習センターや図書館などの学習環境について

問 1-3 あなたは、学習や活動を行う機会や生涯学習センターや図書館などの学習環境に満足していますか。 n=2,431

	回答数	構成比
満足している	184	7.6%
どちらかという満足している	705	29.0%
どちらかという満足していない	249	10.2%
満足していない	129	5.3%
わからない	1,012	41.6%
無回答	152	6.3%
計	2,431	100.0%



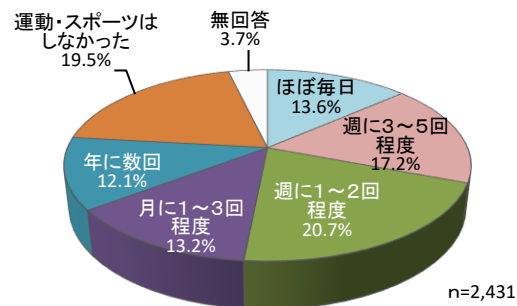
学習や活動を行う機会や生涯学習センターや図書館などの学習環境に満足しているかについては、「わからない」が41.6%で最も高かった。満足している人の割合は、「満足している」、「どちらかという満足している」を合わせると4割弱であった。

(4) 運動やスポーツの活動状況について

問 1-4 あなたは、この1年間にどのくらいの頻度で運動・スポーツを行いましたか。
複数の運動・スポーツを行っている場合は、合計の回数でお答えください。

n=2,431

	回答数	構成比
ほぼ毎日	330	13.6%
週に3～5回程度	419	17.2%
週に1～2回程度	504	20.7%
月に1～3回程度	320	13.2%
年に数回	294	12.1%
運動・スポーツはしなかった	474	19.5%
無回答	90	3.7%
計	2,431	100.0%



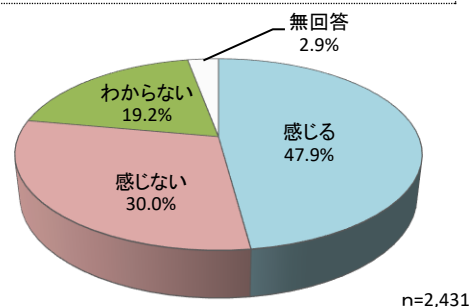
この1年間にどのくらいの頻度で運動・スポーツを行ったかについては、「週に1～2回程度」が20.7%で最も高く、「ほぼ毎日」、「週に3～5回程度」と合わせると、週1回以上運動・スポーツを行った人は5割強で、運動やスポーツに対する意識は高い傾向にある。一方、「運動・スポーツはしなかった」は19.5%であった。

(5) 地域の中での「絆」や「つながり」について

問 1-5 地域の中で「絆」や「つながり」を感じますか。

n=2,431

	回答数	構成比
感じる	1,164	47.9%
感じない	729	30.0%
わからない	467	19.2%
無回答	71	2.9%
計	2,431	100.0%



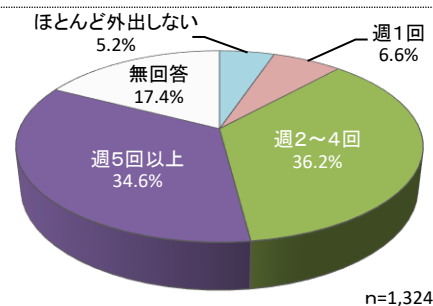
地域の中で「絆」や「つながり」を感じるかについては、「感じる」が47.9%で最も高く、「感じない」は30.0%であった。

(6) 65歳以上の方の外出状況について

問 1-6 65歳以上の方にお伺いします。あなたは週に1回以上外出していますか。

n=1,324

	回答数	構成比
ほとんど外出しない	69	5.2%
週1回	87	6.6%
週2～4回	479	36.2%
週5回以上	458	34.6%
無回答	231	17.4%
計	1,324	100.0%

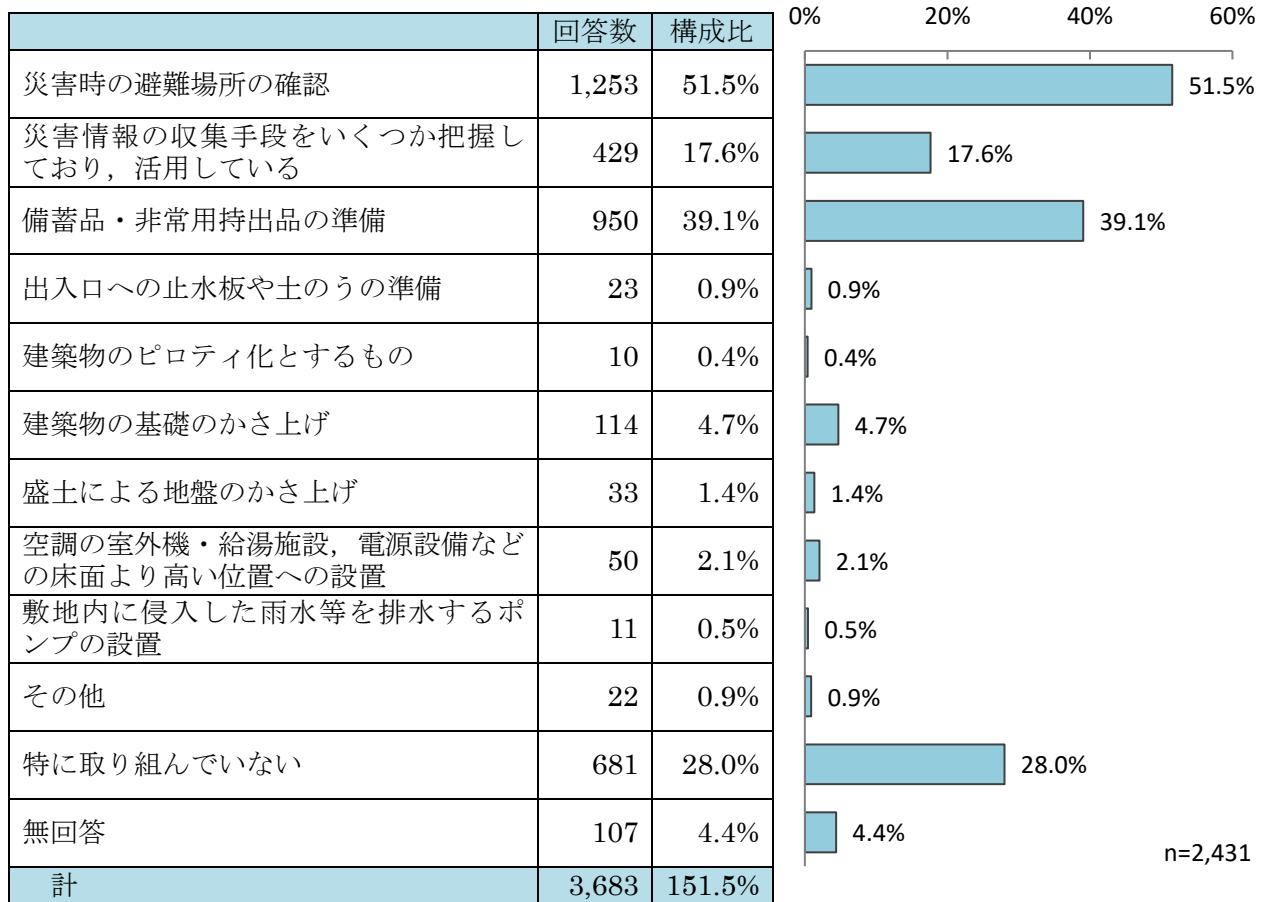


65歳以上の方に、週1回以上外出しているかについて聞いたところ、「週2～4回」が36.2%で最も高く、「週1回」、「週5回以上」を合わせた、週1回以上外出している人は8割弱であった。

(7-1) 災害を想定した備えについて

問 1-7(1) あなたは、災害を想定して、以下の備えに取り組んでいますか。

n=2,431

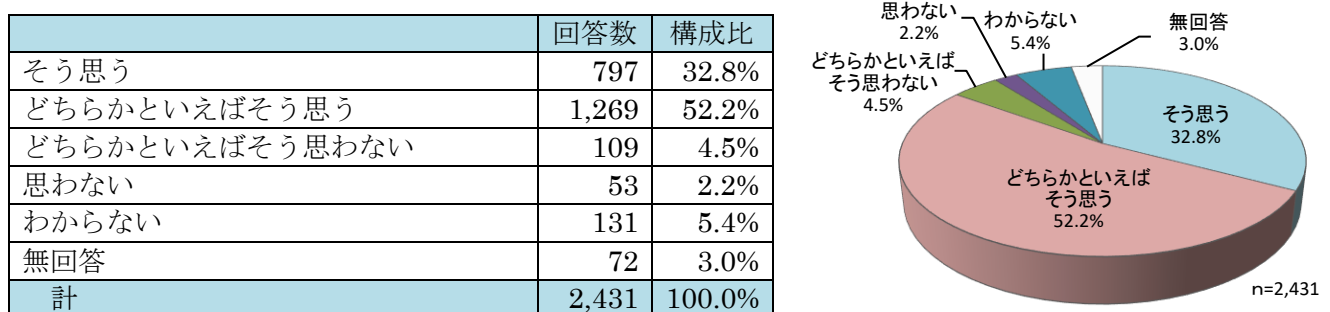


災害を想定しての備えに取り組んでいるかについては、「災害時の避難場所の確認」が 51.5%で最も高く、次いで「備蓄品・非常用持出品の準備」が 39.1%、「特に取り組んでいない」が 28.0%と続いている。

(7-2) 安心した生活が送れているかについて

問 1-7(2) 日ごろから、戸締りなどの防犯や交通安全、詐欺に気を付けた消費生活（買い物）、食材の保存などの食品安全、ペットの正しい飼い方などの生活衛生に気を配り、安心した生活が送れていると感じていますか。

n=2,431



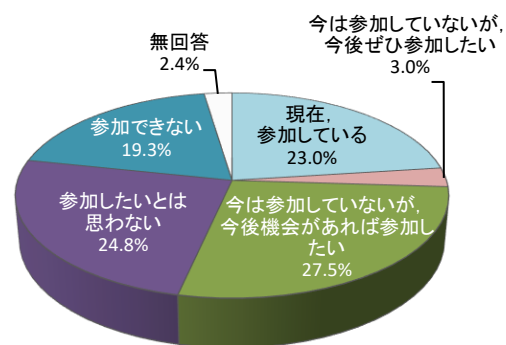
安心した生活が送れているかについては、「どちらかといえばそう思う」が 52.2%で最も高く、「そう思う」の 32.8%と合わせると 8割半ばであった。一方、「どちらかといえばそう思わない」、「思わない」を合わせると 1割弱であった。

(8) まちづくり活動の参加状況について

問 1-8 あなたの「まちづくり活動」の参加状況について教えてください。

n=2,431

	回答数	構成比
現在、参加している	559	23.0%
今は参加していないが、今後ぜひ参加したい	73	3.0%
今は参加していないが、今後機会があれば参加したい	668	27.5%
参加したいとは思わない	603	24.8%
参加できない	470	19.3%
無回答	58	2.4%
計	2,431	100.0%



n=2,431

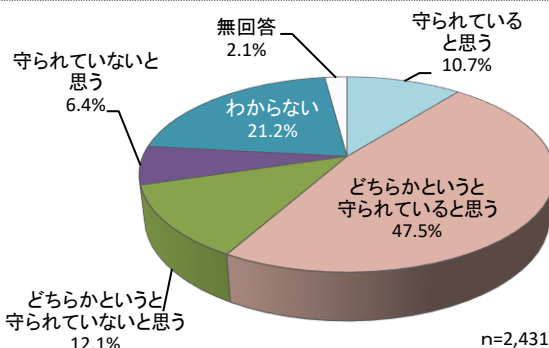
まちづくり活動の参加状況については、「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」が 27.5%で最も高く、次いで「参加したいとは思わない」が 24.8%であった。

(9) 一人一人の権利が守られているかについて

問 1-9 あなたは、子どもから高齢者まで、一人一人の権利が守られていると感じていますか。

n=2,431

	回答数	構成比
守られていると思う	260	10.7%
どちらかというと守られていると思う	1,155	47.5%
どちらかというと守られていないと思う	295	12.1%
守られていないと思う	155	6.4%
わからない	516	21.2%
無回答	50	2.1%
計	2,431	100.0%



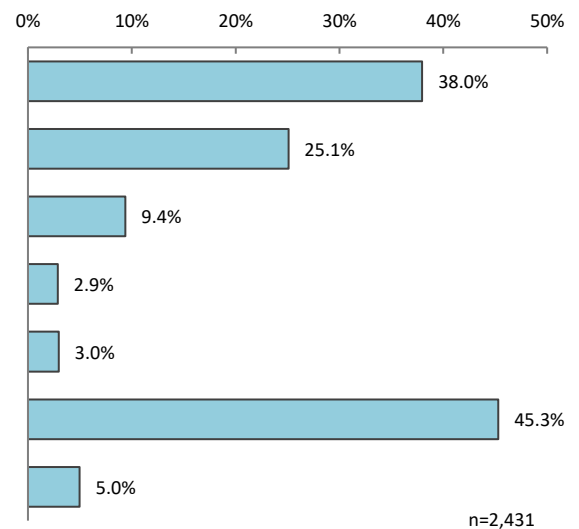
n=2,431

子どもから高齢者まで、一人一人の権利が守られていると感じているかについては、「どちらかというと守られていると思う」の 47.5%と「守られていると思う」の 10.7%を合わせると 6 割弱であった。一方、「どちらかというと守られていないと思う」、「守られていないと思う」を合わせると約 2 割弱であった。

(10) 女性に対する暴力や様々な悩みなどについて相談できる窓口の認知度について

問 1-10 あなたは、女性に対する暴力や様々な悩みなどについて相談できる窓口を知っていますか。
n=2,431

	回答数	構成比
宇都宮市の相談窓口（市女性相談所・市配偶者暴力相談支援センターなど）	923	38.0%
栃木県の相談窓口（とちぎ男女共同参画センター（パーティ）相談ルーム・栃木県警本部県民相談室など）	610	25.1%
国の相談窓口（女性の人権ホットライン・DV相談+（プラス）など）	228	9.4%
民間の相談窓口（ウイメンズハウスとちぎなど）	70	2.9%
その他の相談窓口（つなサポ相談室、とちエールなど）	72	3.0%
知らない	1,101	45.3%
無回答	121	5.0%
計	3,125	128.5%

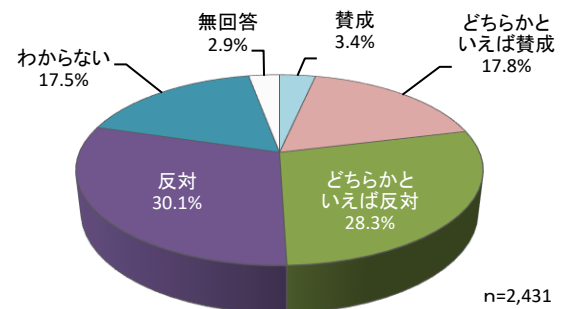


女性に対する暴力や様々な悩みなどについて相談できる窓口を知っているかについては、「知らない」が45.3%で最も高く、次いで「宇都宮市の相談窓口（市女性相談所・市配偶者暴力相談支援センターなど）」が38.0%、「栃木県の相談窓口（とちぎ男女共同参画センター（パーティ）相談ルーム・栃木県警本部県民相談室など）」が25.1%と続いている。

(11) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

問 1-11 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのようにお考えですか。
n=2,431

	回答数	構成比
賛成	83	3.4%
どちらかといえば賛成	432	17.8%
どちらかといえば反対	689	28.3%
反対	731	30.1%
わからない	425	17.5%
無回答	71	2.9%
計	2,431	100.0%

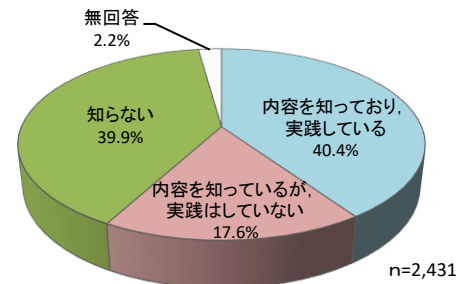


「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、「反対」が30.1%で最も高く、「どちらかといえば反対」の28.3%と合わせると6割弱であった。一方、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせると約2割であった。

(12) 「もったいない運動」について

問 1-12 あなたは、宇都宮市で取り組んでいる「もったいない運動」を知っていますか。 n=2,431

	回答数	構成比
内容を知っており、実践している	982	40.4%
内容を知っているが、実践はしていない	427	17.6%
知らない	969	39.9%
無回答	53	2.2%
計	2,431	100.0%

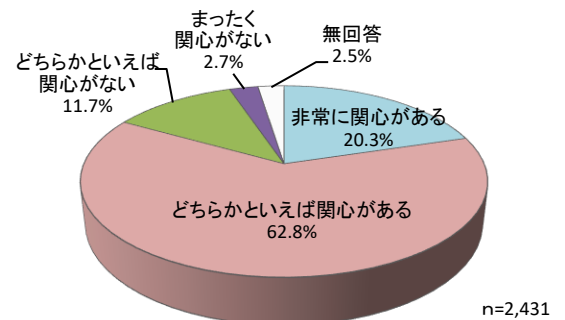


宇都宮市で取り組んでいる「もったいない運動」を知っているかについては、「内容を知っており、実践している」が40.4%で最も高く、「内容を知っているが、実践はしていない」の17.6%を合わせると6割弱であった。一方、「知らない」は約4割であった。

(13) 自然環境について

問 1-13 あなたは、自然環境について関心がありますか。 n=2,431

	回答数	構成比
非常に関心がある	494	20.3%
どちらかといえば関心がある	1,527	62.8%
どちらかといえば関心がない	284	11.7%
まったく関心がない	66	2.7%
無回答	60	2.5%
計	2,431	100.0%

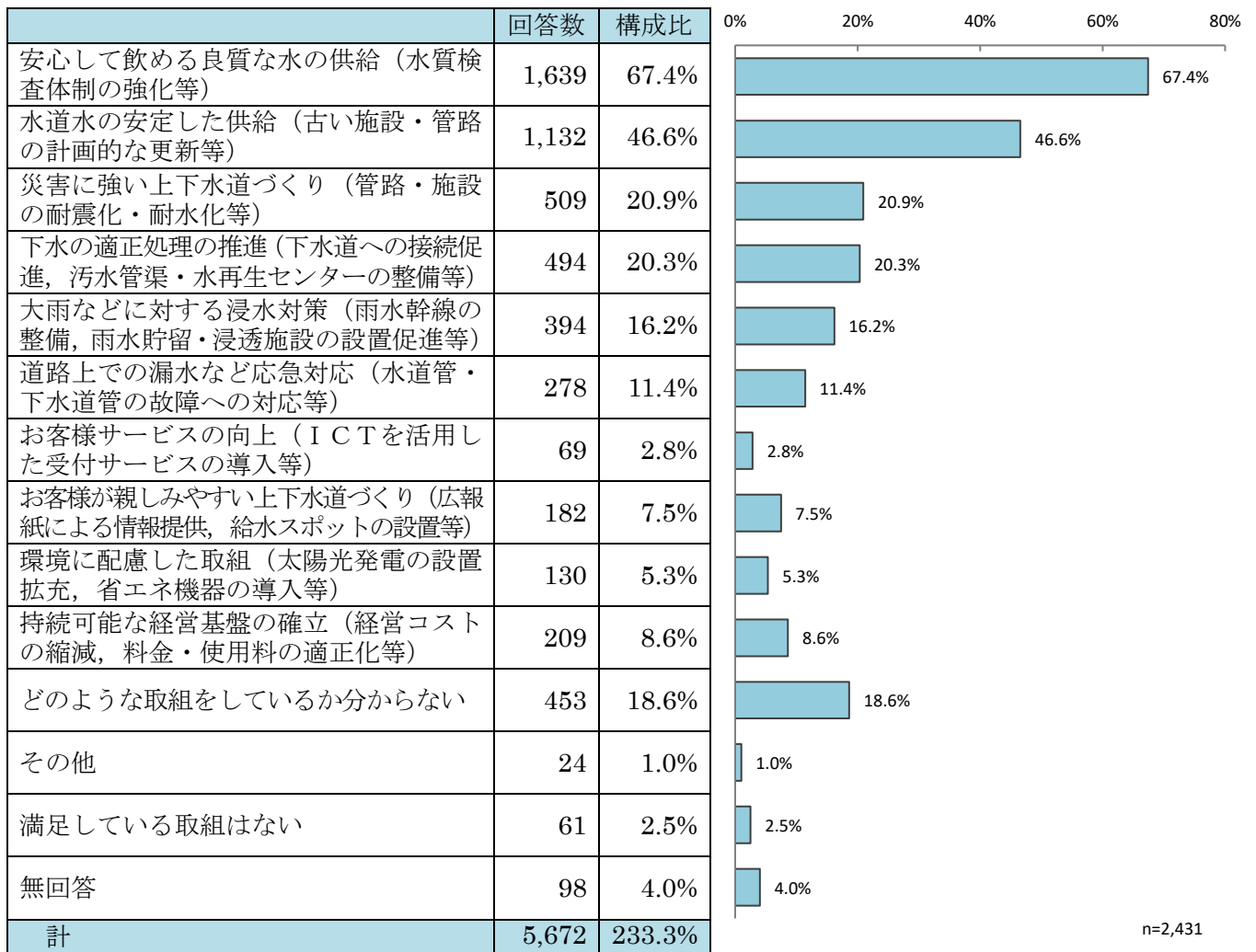


自然環境について関心があるかについては、「どちらかといえば関心がある」が62.8%で最も高く、「非常に関心がある」の20.3%を合わせると8割強であった。一方、「どちらかといえば関心がない」、「まったく関心がない」を合わせると1割半ばであった。

(14) 上下水道事業の取組について

問 1-14 あなたは、上下水道事業のどのような取組に満足していますか。

n=2,431

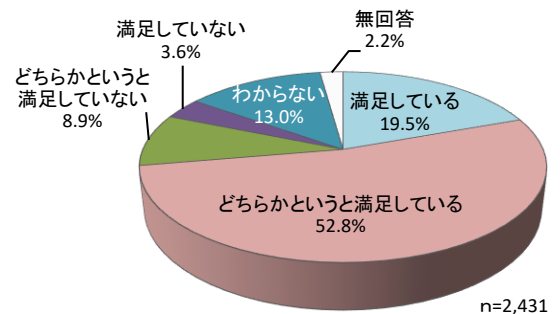


上下水道事業のどのような取組に満足しているかについては、「安心して飲める良質な水の供給（水質検査体制の強化等）」が 67.4%で最も高く、次いで「水道水の安定した供給（古い施設・管路の計画的な更新等）」が 46.6%、「災害に強い上下水道づくり（管路・施設の耐震化・耐水化等）」が 20.9%と続いている。

(15) 地域行政機関を利用しやすいと感じているかについて

問 1-15 あなたは、地区市民センターや出張所などの地域行政機関を利用しやすいと感じていますか。
n = 2,431

	回答数	構成比
満足している	473	19.5%
どちらかという満足している	1,284	52.8%
どちらかという満足していない	217	8.9%
満足していない	88	3.6%
わからない	316	13.0%
無回答	53	2.2%
計	2,431	100.0%

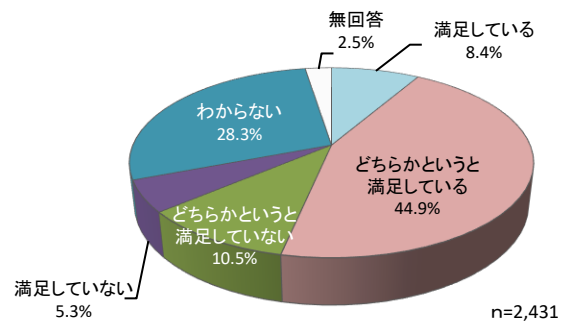


地区市民センターや出張所などの地域行政機関を利用しやすいと感じているかについては、「どちらかという満足している」が 52.8%で最も高く、「満足している」の 19.5%を合わせると 7 割強であった。

(16) 市が提供するサービスの内容や手段に満足しているかについて

問 1-16 市が提供するサービスの内容や手段に満足していますか。
n = 2,431

	回答数	構成比
満足している	205	8.4%
どちらかという満足している	1,092	44.9%
どちらかという満足していない	255	10.5%
満足していない	130	5.3%
わからない	688	28.3%
無回答	61	2.5%
計	2,431	100.0%

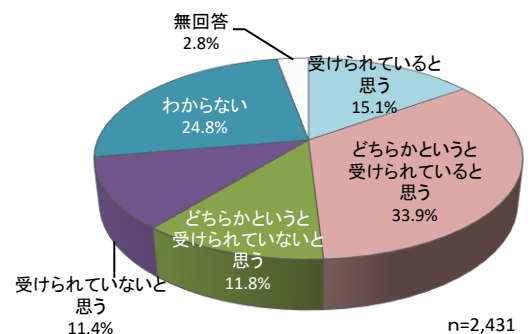


市が提供するサービスの内容や手段に満足しているかについては、「どちらかという満足している」が 44.9%で最も高く、「満足している」の 8.4%を合わせると 5 割強であった。

(17) デジタルの恩恵を受けられている（便利である）と感じているかについて

問 1-17 あなたは、日々の暮らしの中で、身近な人（親など）も含め、それぞれのニーズにあったデジタルサービスを利用し、デジタルの恩恵を受けられている（便利である）と感じますか。
n = 2,431

	回答数	構成比
受けられていると思う	368	15.1%
どちらかという受けられていると思う	825	33.9%
どちらかという受けられていないと思う	287	11.8%
受けられていないと思う	278	11.4%
わからない	604	24.8%
無回答	69	2.8%
計	2,431	100.0%



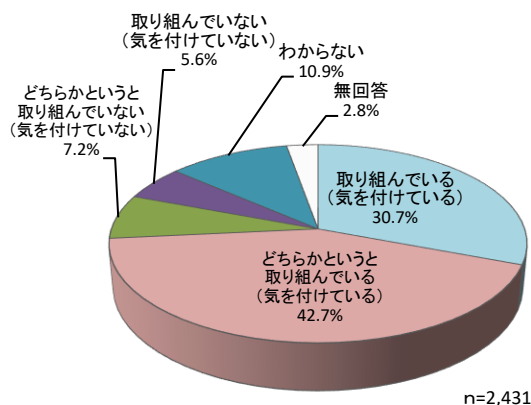
日々の暮らしの中で、身近な人（親など）も含め、それぞれのニーズにあったデジタルサービスを利用し、デジタルの恩恵を受けられている（便利である）と感じるかについては、「どちらかという受けられていると思う」が 33.9%で最も高く、「受けられていると思う」の 15.1%を合わせると約 5 割であった。

(18) 情報セキュリティ対策や不審なメールによるフィッシング詐欺などへの適切な対応に取り組んでいるかについて

問 1-18 あなたは、スマートフォンなどを利用するに当たり、情報セキュリティ対策（ウイルス対策ソフトの利用など）や不審なメールによるフィッシング詐欺などへの適切な対応に取り組んでいますか。

n=2,431

	回答数	構成比
取り組んでいる（気を付けている）	747	30.7%
どちらかというに取り組んでいる（気を付けている）	1,039	42.7%
どちらかというに取り組んでいない（気を付けていない）	176	7.2%
取り組んでいない（気を付けていない）	137	5.6%
わからない	264	10.9%
無回答	68	2.8%
計	2,431	100.0%



スマートフォンなどを利用するに当たり、情報セキュリティ対策（ウイルス対策ソフトの利用など）や不審なメールによるフィッシング詐欺などへの適切な対応に取り組んでいるかについては、「どちらかというに取り組んでいる（気を付けている）」が42.7%で最も高く、「取り組んでいる（気を付けている）」の30.7%を合わせると7割強であった。

1. 現在の宇都宮市について

問2 宇都宮市がまちづくりのために実施している取組について、お聞きします。
あなたは、下記の取組の、「重要度」と「満足度」をどのように感じていますか。
最も当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。

(1) 宇都宮市が実施している取組（14政策 53施策）の重要度

①政策の柱Ⅰ：「子育て・教育・学習」

政策	政策を構成する施策（53項目）	重要度
1. 全ての子どもが安心して健やかに成長出来る社会を実現する	結婚や妊娠・出産、子育ての希望をかなえる支援の充実	67.5
	子育て支援の充実	69.3
	子ども・若者の健全育成環境の充実	68.3
	子どもを守り育てる支援の充実	72.9
2. 誰もが夢や希望を持ち必要な教育を享受できる社会を実現する	新たな時代に必要となる資質・能力の育成	66.2
	誰もが生き生きと学ぶ学校教育の推進	70.1
	児童生徒の学びと教職員を支える学校教育環境の充実	68.0
	学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実	61.9
3. 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現する	生涯にわたる学習活動の促進	65.2
	生涯にわたるスポーツ活動の促進	63.1

②政策の柱Ⅱ：「健康・福祉・医療」

政策	政策を構成する施策（53項目）	重要度
4. 誰もが心身ともに健康に生活できる社会を実現する	健康づくりの推進	80.4
	感染症対策の推進	84.9
	安心して医療を受けられる環境の充実	88.9
5. あらゆる市民が安心し、自立して生活できる社会を実現する	安心して暮らせる福祉基盤の充実	80.2
	高齢期の生活の充充実	80.2
	障がいのある人の生活の充実	78.2
	共に支え合う地域社会づくりの推進	72.0

③政策の柱Ⅲ：「安心・協働・共生」

政策	政策を構成する施策（53項目）	重要度
6. 誰もが安全・安心に日常生活を送ることができる社会を実現する	危機に対する体制・都市基盤の強化	81.2
	総合的な治水・雨水対策の推進	77.5
	消防・救急体制の充実	80.7
	日常生活の安心感の向上	81.2
	快適で衛生的な生活環境	75.2
7. 市民が互いに尊重し、支え合う社会を実現する	地域主体の協働によるまちづくりの推進	59.7
	市民の市政への参画促進	63.4
	かけがえのない個人の尊重	65.6
	男女共同参画の推進	63.4
	多文化共生の推進	56.2

④政策の柱Ⅳ：「魅力・交流・文化」

政策	政策を構成する施策（53項目）	重要度
8. 地域資源を守り、活用した賑わいと活力を創出する	個性豊かな観光と交流の創出	68.3
	MICEの推進による魅力と交流の創出	48.1
	スポーツを通じた都市の魅力向上・地域活性化	66.0
	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進	64.1
9. 着実な定住の促進や移住・関係人口の増加による持続可能な地域社会を構築する	都市ブランド戦略の推進	64.8
	移住・定住支援の充実	51.2

⑤政策の柱Ⅴ:「産業・環境」

政策	政策を構成する施策（53項目）	重要度
10. 各種産業の強みを生かした持続的な発展を実現する	地域産業の創造性・発展性の向上	61.2
	商工・サービス業の活力の向上	61.2
	農林業の生産力・販売力・地域力の向上	59.8
11. 脱炭素で循環型、自然共生社会を実現する	環境配慮行動の推進	66.7
	脱炭素化の推進	64.7
	ごみの減量化・資源化と適正処理の推進	82.0
	自然との共生の推進	75.1

⑥政策の柱Ⅵ:「都市空間・交通」

政策	政策を構成する施策（53項目）	重要度
12. 魅力的で持続可能な都市空間を形成する	地域特性を生かした安全で魅力ある都市空間の形成	71.5
	安心で快適な住まいづくりの促進	60.1
	空き家・空き地対策の推進	70.8
	緑豊かで魅力ある都市景観の保全・創出	72.5
	質の高い上下水道サービスを提供する	87.9
13. 誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークを実現する	公共交通ネットワークの維持・充実	74.0
	公共交通の利便性向上と利用促進	66.6
	円滑・快適・安心な道路づくりの推進	72.5
	「自転車のまち宇都宮」の推進	59.9

■各政策の柱を支える行政経営基盤

政策	政策を構成する施策（53項目）	重要度
14. 持続可能な公共的サービスの提供体制を確立する	新たなニーズに対応できる持続可能な行政経営の推進	48.6
	地区行政の推進	75.8
	行政の組織マネジメント力の向上	62.7
	財政基盤の確立	72.1

(2) 宇都宮市が実施している取組 (14 政策 53 施策) の現在の満足度

①政策の柱Ⅰ:「子育て・教育・学習」

政策	政策を構成する施策 (53項目)	満足度
1. 全ての子どもが安心して健やかに成長出来る社会を実現する	結婚や妊娠・出産、子育ての希望をかなえる支援の充実	32.7
	子育て支援の充実	36.3
	子ども・若者の健全育成環境の充実	23.2
	子どもを守り育てる支援の充実	23.7
2. 誰もが夢や希望を持ち必要な教育を享受できる社会を実現する	新たな時代に必要となる資質・能力の育成	29.4
	誰もが生き生きと学ぶ学校教育の推進	22.4
	児童生徒の学びと教職員を支える学校教育環境の充実	27.8
	学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実	28.1
	生涯にわたる学習活動の促進	24.2
3. 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現する	生涯にわたるスポーツ活動の促進	29.4

②政策の柱Ⅱ:「健康・福祉・医療」

政策	政策を構成する施策 (53項目)	満足度
4. 誰もが心身ともに健康に生活できる社会を実現する	健康づくりの推進	56.2
	感染症対策の推進	69.8
	安心して医療を受けられる環境の充実	60.4
5. あらゆる市民が安心し、自立して生活できる社会を実現する	安心して暮らせる福祉基盤の充実	40.1
	高齢期の生活の充実	33.4
	障がいのある人の生活の充実	28.5
	共に支え合う地域社会づくりの推進	28.5

③政策の柱Ⅲ:「安心・協働・共生」

政策	政策を構成する施策 (53項目)	満足度
6. 誰もが安全・安心に日常生活を送ることができる社会を実現する	危機に対する体制・都市基盤の強化	45.5
	総合的な治水・雨水対策の推進	38.1
	消防・救急体制の充実	47.5
	日常生活の安心感の向上	47.5
	快適で衛生的な生活環境	39.1
7. 市民が互いに尊重し、支え合う社会を実現する	地域主体の協働によるまちづくりの推進	30.9
	市民の市政への参画促進	37.6
	かけがえのない個人の尊重	31.9
	男女共同参画の推進	28.0
	多文化共生の推進	24.0

④政策の柱Ⅳ:「魅力・交流・文化」

政策	政策を構成する施策 (53項目)	満足度
8. 地域資源を守り、活用した賑わいと活力を創出する	個性豊かな観光と交流の創出	46.7
	MICEの推進による魅力と交流の創出	25.6
	スポーツを通じた都市の魅力向上・地域活性化	50.9
	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進	40.1
9. 着実な定住の促進や移住・関係人口の増加による持続可能な地域社会を構築する	都市ブランド戦略の推進	43.4
	移住・定住支援の充実	23.0

⑤政策の柱Ⅴ:「産業・環境」

政策	政策を構成する施策（53項目）	満足度
10. 各種産業の強みを生かした持続的な発展を実現する	地域産業の創造性・発展性の向上	28.1
	商工・サービス業の活力の向上	27.4
	農林業の生産力・販売力・地域力の向上	21.5
11. 脱炭素で循環型、自然共生社会を実現する	環境配慮行動の推進	31.9
	脱炭素化の推進	25.4
	ごみの減量化・資源化と適正処理の推進	45.9
	自然との共生の推進	30.4

⑥政策の柱Ⅵ:「都市空間・交通」

政策	政策を構成する施策（53項目）	満足度
12. 魅力的で持続可能な都市空間を形成する	地域特性を生かした安全で魅力ある都市空間の形成	45.0
	安心で快適な住まいづくりの促進	28.2
	空き家・空き地対策の推進	19.3
	緑豊かで魅力ある都市景観の保全・創出	46.5
	質の高い上下水道サービスを提供する	70.5
13. 誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークを実現する	公共交通ネットワークの維持・充実	36.4
	公共交通の利便性向上と利用促進	40.3
	円滑・快適・安心な道路づくりの推進	34.4
	「自転車のまち宇都宮」の推進	30.7

■各施策の柱を支える行政経営基盤

政策	政策を構成する施策（53項目）	満足度
14. 持続可能な公共的サービスの提供体制を確立する	新たなニーズに対応できる持続可能な行政経営の推進	21.4
	地区行政の推進	45.5
	行政の組織マネジメント力の向上	21.6
	財政基盤の確立	40.1

2. 各施策についての重要度

(1) 宇都宮市が実施している取組（14 政策 53 施策）の重要度

①政策の柱Ⅰ：「子育て・教育・学習」

①-1 全ての子どもが安心して健やかに成長出来る社会を実現する (%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
結婚や妊娠・出産，子育ての希望をかなえる支援の充実	388	42.3	25.3	2.3	2.1	22.7	5.4
子育て支援の充実		53.6	15.7	2.1	1.0	21.2	6.5
子ども・若者の健全育成環境の充実		42.0	26.3	2.6	1.0	21.9	6.2
子どもを守り育てる支援の充実		54.9	18.0	1.0	0.5	20.1	5.4

全ての子どもが安心して健やかに成長出来る社会を実現するについて、【重要】と【やや重要】を合わせた【重要(計)】(以下【重要(計)】とする)は「子どもを守り育てる支援の充実」が7割強で最も高く、次いで、「子育て支援の充実」が約7割であった。

①-2 誰もが夢や希望を持ち必要な教育を享受できる社会を実現する (%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
新たな時代に必要となる資質・能力の育成	388	43.0	23.2	3.1	0.5	22.4	7.7
誰もが生き生きと学ぶ学校教育の推進		51.0	19.1	0.8	0.8	20.6	7.7
児童生徒の学びと教職員を支える学校教育環境の充実		47.2	20.9	3.6	0.3	20.6	7.5
学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実		35.3	26.5	5.4	1.5	23.2	8.0
生涯にわたる学習活動の促進		34.3	30.9	4.6	1.0	21.4	7.7

誰もが夢や希望を持ち必要な教育を享受できる社会を実現するについて、【重要(計)】は「誰もが生き生きと学ぶ学校教育の推進」が約7割で最も高く、次いで「児童生徒の学びと教職員を支える学校教育環境の充実」が7割弱であった。

①-3 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
生涯にわたるスポーツ活動の促進	388	27.8	35.3	8.5	1.5	19.3	7.5

誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現するについて、【重要(計)】は「生涯にわたるスポーツ活動の促進」が約3割であった。

②政策の柱Ⅱ：「健康・福祉・医療」

②-4 誰もが心身ともに健康に生活できる社会を実現する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
健康づくりの推進	404	52.5	28.0	4.2	0.7	9.2	5.4
感染症対策の推進		65.3	19.6	2.7	0.0	6.7	5.7
安心して医療を受けられる環境の充実		73.8	15.1	1.2	0.0	4.7	5.2

誰もが心身ともに健康に生活できる社会を実現するについて、【重要(計)】は「安心して医療を受けられる環境の充実」が約9割で最も高く、次いで「感染症対策の推進」が8割半ばであった。

②-5 あらゆる市民が安心し、自立して生活できる社会を実現する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
安心して暮らせる福祉基盤の充実	404	58.9	21.3	3.2	0.5	10.1	5.9
高齢期の生活の充実		55.9	24.3	2.7	1.0	11.1	5.0
障がいのある人の生活の充実		59.9	18.3	1.5	1.0	14.9	4.5
共に支え合う地域社会づくりの推進		43.6	28.5	5.7	0.7	16.3	5.2

あらゆる市民が安心し、自立して生活できる社会を実現するについて、【重要(計)】は「安心して暮らせる福祉基盤の充実」と「高齢期の生活の充実」がいずれも約8割であった。

③政策の柱Ⅲ：「安心・協働・共生」

③-6 誰もが安全・安心に日常生活を送ることができる社会を実現する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
危機に対する体制・都市基盤の強化	404	60.6	20.5	0.5	0.2	10.6	7.4
総合的な治水・雨水対策の推進		57.7	19.8	0.7	0.0	15.6	6.2
消防・救急体制の充実		63.9	16.8	0.7	0.0	11.9	6.7
日常生活の安心感の向上		56.4	24.8	1.2	0.2	10.4	6.9
快適で衛生的な生活環境		46.0	29.2	2.5	0.2	14.9	7.2

誰もが安全・安心に日常生活を送ることができる社会を実現するについて、【重要(計)】は「危機に対する体制・都市基盤の強化」と「日常生活の安心感の向上」がいずれも約8割であった。

③-7 市民が互いに尊重し、支え合う社会を実現する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
地域主体の協働によるまちづくりの推進	404	24.0	35.6	10.4	2.5	19.8	7.7
市民の市政への参画促進		29.7	33.7	10.9	0.7	18.3	6.7
かけがえのない個人の尊重		36.1	29.5	4.7	1.7	19.8	8.2
男女共同参画の推進		29.2	34.2	5.7	1.2	22.3	7.4
多文化共生の推進		24.0	32.2	10.4	1.2	26.0	6.2

市民が互いに尊重し、支え合う社会を実現するについて、【重要(計)】は「かけがえのない個人の尊重」が6割半ばで最も高く、次いで「男女共同参画の推進」が6割強であった。

④政策の柱Ⅳ：「魅力・交流・文化」

④-8 地域資源を守り，活用した賑わいと活力を創出する (％)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
個性豊かな観光と交流の創出	426	34.0	34.3	8.5	0.9	18.3	4.0
MICEの推進による魅力と交流の創出		20.9	27.2	10.8	2.6	33.8	4.7
スポーツを通じた都市の魅力向上・地域活性化		32.6	33.3	6.6	1.6	21.4	4.5
暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進		27.2	36.9	6.6	1.6	23.5	4.2

地域資源を守り，活用した賑わいと活力を創出するについて，【重要(計)】は「個性豊かな観光と交流の創出」が7割弱で最も高く，次いで「スポーツを通じた都市の魅力向上・地域活性化」が6割半ばであった。

④-9 移住定住・関係人口の増加による持続可能な地域社会を構築する (％)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
都市ブランド戦略の推進	426	33.8	31.0	8.9	2.6	19.2	4.5
移住・定住支援の充実		21.4	29.8	10.6	1.9	31.9	4.5

移住定住・関係人口の増加による持続可能な地域社会を構築するについて，【重要(計)】は「都市ブランド戦略の推進」が6割半ばで最も高く，次いで「移住・定住支援の充実」が約5割であった。

⑤政策の柱Ⅴ：「産業・環境」

⑤-10 地域産業の創造性・発展性を高める (％)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
地域産業の創造性・発展性の向上	405	38.0	23.2	3.0	0.7	27.4	7.7
商工・サービス業の活力の向上		36.0	25.2	2.5	0.5	26.7	9.1
農林業の生産力・販売力・地域力の向上		36.5	23.2	1.5	0.7	29.1	8.9

地域産業の創造性・発展性を高めるについて，【重要(計)】は「地域産業の創造性・発展性の向上」と「商工・サービス業の活力の向上」がいずれも約6割であった。

⑤-11 脱炭素で循環型，自然共生社会を実現する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
環境配慮行動の推進	405	33.8	32.8	4.2	1.0	19.0	9.1
脱炭素化の推進		37.8	26.9	4.4	1.7	20.5	8.6
ごみの減量化・資源化と適正処理の推進		56.5	25.4	2.0	0.5	9.6	5.9
自然との共生の推進		44.2	30.9	1.7	0.7	15.1	7.4

脱炭素で循環型，自然共生社会を実現するについて，【重要(計)】は「ごみの減量化・資源化と適正処理の推進」が8割強で最も高く，次いで「自然との共生の推進」が7割半ばであった。

⑥政策の柱VI：「都市空間・交通」

⑥-12 魅力的で持続可能な都市空間を形成する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
地域特性を生かした安全で魅力ある都市空間の形成	404	36.6	34.9	7.2	2.5	15.1	3.7
安心で快適な住まいづくりの促進		30.2	30.0	7.7	3.0	24.0	5.2
空き家・空き地対策の推進		44.1	26.7	5.4	1.0	18.1	4.7
緑豊かで魅力ある都市景観の保全・創出		37.4	35.1	5.7	2.2	15.1	4.5
質の高い上下水道サービスを提供する		73.8	14.1	1.5	0.2	7.7	2.7

魅力的で持続可能な都市空間を形成するについて，【重要(計)】は「質の高い上下水道サービスを提供する」が9割弱で最も高く，次いで「緑豊かで魅力ある都市景観の保全・創出」が7割強であった。

⑥-13 誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークを実現する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
公共交通ネットワークの維持・充実	404	47.0	27.0	6.7	5.4	10.4	3.5
公共交通の利便性向上と利用促進		36.4	30.2	11.1	4.7	13.4	4.2
円滑・快適・安心な道路づくりの推進		43.3	29.2	7.9	1.5	14.1	4.0
「自転車のまち宇都宮」の推進		28.0	31.9	13.9	6.9	15.6	3.7

誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークを実現するについて、【重要(計)】は「公共交通ネットワークの維持・充実」が7割半ばで最も高く、次いで「円滑・快適・安心な道路づくりの推進」が7割強であった。

■各政策の柱を支える行政経営基盤

14 持続可能な公共的サービスの提供体制を確立する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
新たなニーズに対応できる持続可能な行政経営の推進	426	21.8	26.8	8.5	1.4	35.2	6.3
地区行政の推進		42.5	33.3	1.6	0.9	16.7	4.9
行政の組織マネジメント力の向上		33.8	28.9	3.1	1.2	28.4	4.7
財政基盤の確立		43.2	28.9	3.1	0.7	19.5	4.7

持続可能な公共的サービスの提供体制を確立するについて、【重要(計)】は「地区行政の推進」が7割半ばで最も高く、次いで「財政基盤の確立」が7割強であった。

3. 各施策についての満足度

(1) 宇都宮市が実施している取組（14 政策 53 施策）の満足度

①政策の柱Ⅰ：「子育て・教育・学習」

①-1 全ての子どもが安心して健やかに成長出来る社会を実現する (%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
結婚や妊娠・出産，子育ての希望をかなえる支援の充実	388	3.9	28.9	10.1	3.4	46.6	7.2
子育て支援の充実		8.8	27.6	8.2	4.1	43.8	7.5
子ども・若者の健全育成環境の充実		3.1	20.1	9.8	1.8	57.2	8.0
子どもを守り育てる支援の充実		3.6	20.1	9.3	2.8	56.2	8.0

全ての子どもが安心して健やかに成長出来る社会を実現するについて、【満足】と【やや満足】を合わせた【満足(計)】(以下【満足(計)】とする)は「子育て支援の充実」が3割半ばで最も高く、次いで「結婚や妊娠・出産，子育ての希望をかなえる支援の充実」が3割強であった。

①-2 誰もが夢や希望を持ち必要な教育を享受できる社会を実現する (%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
新たな時代に必要となる資質・能力の育成	388	4.6	24.7	6.2	3.6	51.8	9.0
誰もが生き生きと学ぶ学校教育の推進		3.4	19.1	8.2	5.2	55.4	8.8
児童生徒の学びと教職員を支える学校教育環境の充実		4.4	23.5	7.2	5.4	50.8	8.8
学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実		4.6	23.5	6.4	2.3	55.2	8.0
生涯にわたる学習活動の促進		3.6	20.6	8.2	4.4	55.4	7.7

誰もが夢や希望を持ち必要な教育を享受できる社会を実現するについて、【満足(計)】は「新たな時代に必要となる資質・能力の育成」が約3割で最も高く、次いで「学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実」が3割弱であった。

①-3.誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
生涯にわたるスポーツ活動の促進	388	4.9	24.5	9.8	6.4	46.6	7.7

誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現するについて、【満足(計)】は「生涯にわたるスポーツ活動の促進」が約3割であった。

②政策の柱Ⅱ：「健康・福祉・医療」

②-4 誰もが心身ともに健康に生活できる社会を実現する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
健康づくりの推進	404	13.4	42.8	9.2	3.2	25.7	5.7
感染症対策の推進		24.0	45.8	8.7	1.7	13.9	5.9
安心して医療を受けられる環境の充実		19.8	40.6	11.9	6.2	15.1	6.4

誰もが心身ともに健康に生活できる社会を実現するについて、【満足(計)】は「感染症対策の推進」が約7割で最も高く、次いで「安心して医療を受けられる環境の充実」が約6割であった。

②-5 あらゆる市民が安心して、自立して生活できる社会を実現する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
安心して暮らせる福祉基盤の充実	404	8.4	31.7	11.4	4.2	38.1	6.2
高齢期の生活の充実		8.7	24.8	10.9	3.7	45.8	6.2
障がいのある人の生活の充実		7.4	21.0	8.4	4.5	52.2	6.4
共に支え合う地域社会づくりの推進		6.4	22.0	7.7	5.0	53.2	5.7

あらゆる市民が安心して、自立して生活できる社会を実現するについて、【満足(計)】は「安心して暮らせる福祉基盤の充実」が約4割で最も高く、次いで「高齢期の生活の充実」が3割強であった。

③政策の柱Ⅲ：「安心・協働・共生」

③-6 誰もが安全・安心に日常生活を送ることができる社会を実現する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
危機に対する体制・都市基盤の強化	404	6.4	39.1	12.9	2.5	31.9	7.2
総合的な治水・雨水対策の推進		5.7	32.4	13.9	4.0	36.6	7.4
消防・救急体制の充実		10.4	37.1	6.7	2.2	35.6	7.9
日常生活の安心感の向上		8.4	39.1	13.1	5.7	26.0	7.7
快適で衛生的な生活環境		6.4	32.7	10.9	2.2	41.3	6.4

誰もが安全・安心に日常生活を送ることができる社会を実現するについて、【満足(計)】は「消防・救急体制の充実」と「日常生活の安心感の向上」がいずれも5割弱であった。

③-7 市民が互いに尊重し、支え合う社会を実現する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
地域主体の協働によるまちづくりの推進	404	4.5	26.5	13.4	3.2	44.6	7.9
市民の市政への参画促進		7.4	30.2	11.6	4.7	38.6	7.4
かけがえのない個人の尊重		5.2	26.7	7.9	3.2	49.8	7.2
男女共同参画の推進		3.7	24.3	11.9	4.0	49.5	6.7
多文化共生の推進		5.0	19.1	7.7	1.5	60.6	6.2

市民が互いに尊重し、支え合う社会を実現するについて、【満足(計)】は「市民の市政への参画促進」が4割弱で最も高く、次いで「かけがえのない個人の尊重」が3割強であった。

④政策の柱Ⅳ：「魅力・交流・文化」

④-8 地域資源を守り，活用した賑わいと活力を創出する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
個性豊かな観光と交流の創出	426	8.5	38.3	11.7	4.7	31.2	5.6
MICEの推進による魅力と交流の創出		5.4	20.2	13.8	5.4	50.0	5.2
スポーツを通じた都市の魅力向上・地域活性化		15.7	35.2	10.3	3.5	28.6	6.6
暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進		7.3	32.9	12.2	4.2	38.0	5.4

地域資源を守り，活用した賑わいと活力を創出するについて，【満足(計)】は「スポーツを通じた都市の魅力向上・地域活性化」が約5割で最も高く，次いで「個性豊かな観光と交流の創出」が5割弱であった。

④-9 移住定住・関係人口の増加による持続可能な地域社会を構築する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
都市ブランド戦略の推進	426	10.3	33.1	14.8	5.4	31.0	5.4
移住・定住支援の充実		4.7	18.3	9.6	3.3	58.5	5.6

移住定住・関係人口の増加による持続可能な地域社会を構築するについて，【満足(計)】は「都市ブランド戦略の推進」が4割強で，「移住・定住支援の充実」が2割強であった。

⑤政策の柱Ⅴ：「産業・環境」

⑤-10 地域産業の創造性・発展性を高める

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
地域産業の創造性・発展性の向上	405	3.2	24.9	13.3	4.9	44.2	9.4
商工・サービス業の活力の向上		3.7	23.7	18.3	4.4	40.5	9.4
農林業の生産力・販売力・地域力の向上		2.7	18.8	14.1	5.2	49.4	9.9

地域産業の創造性・発展性を高めるについて，【満足(計)】は「地域産業の創造性・発展性の向上」と「商工・サービス業の活力の向上」がいずれも3割弱であった。

⑤-11 脱炭素で循環型，自然共生社会を実現する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
環境配慮行動の推進	405	5.2	26.7	13.6	3.5	41.2	9.9
脱炭素化の推進		4.4	21.0	18.0	7.9	39.0	9.6
ごみの減量化・資源化と適正処理の推進		9.6	36.3	16.8	6.9	21.7	8.6
自然との共生の推進		4.9	25.4	16.3	6.2	38.5	8.6

脱炭素で循環型，自然共生社会を実現するについて，【満足(計)】は「ごみの減量化・資源化と適正処理の推進」が4割半ばで最も高く，次いで「環境配慮行動の推進」が3割強であった。

⑥政策の柱Ⅵ：「都市空間・交通」

⑥-12 魅力的で持続可能な都市空間を形成する

(%)

取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
地域特性を生かした安全で魅力ある都市空間の形成	404	6.9	38.1	17.1	8.9	24.5	4.5
安心で快適な住まいづくりの促進		4.0	24.3	10.1	5.7	48.3	7.7
空き家・空き地対策の推進		2.7	16.6	15.1	11.1	49.0	5.4
緑豊かで魅力ある都市景観の保全・創出		6.2	40.3	13.6	5.0	29.7	5.2
質の高い上下水道サービスを提供する		30.9	39.6	6.9	4.5	14.1	4.0

魅力的で持続可能な都市空間を形成するについて，【満足(計)】は「質の高い上下水道サービスを提供する」が約7割で最も高く，次いで「緑豊かで魅力ある都市景観の保全・創出」が5割弱であった。

⑥-13 誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークを実現する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
公共交通ネットワークの維持・充実	404	9.4	27.0	24.0	19.1	16.6	4.0
公共交通の利便性向上と利用促進		8.9	31.4	14.6	12.6	28.2	4.2
円滑・快適・安心な道路づくりの推進		6.7	27.7	18.6	11.9	29.2	5.9
「自転車のまち宇都宮」の推進		6.2	24.5	16.1	13.1	36.6	3.5

誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークを実現するについて、【満足(計)】は「公共交通の利便性向上と利用促進」が約4割で最も高く、次いで「公共交通ネットワークの維持・充実」が3割半ばであった。

■各政策の柱を支える行政経営基盤

14 持続可能な公共的サービスの提供体制を確立する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
新たなニーズに対応できる持続可能な行政経営の推進	426	3.8	17.6	12.7	5.6	53.1	7.3
地区行政の推進		9.9	35.7	14.1	7.0	27.9	5.4
行政の組織マネジメント力の向上		4.0	17.6	13.8	5.4	52.6	6.6
財政基盤の確立		10.1	30.0	14.8	4.2	34.7	6.1

持続可能な公共的サービスの提供体制を確立するについて、【満足(計)】は「地区行政の推進」が4割半ばで最も高く、次いで「財政基盤の確立」が約4割であった。

市政に関する世論調査報告書

—第56回 令和5年度—

発行日／令和6年3月

発行／宇都宮市総合政策部広報広聴課

〒320-8540（宇都宮市役所専用番号）

宇都宮市旭1丁目1番5号

電話 028-632-2025